CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

X77n1524

補續高僧傳

明　明河撰

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - No. 1524-A 補續高僧傳序
  - No. 1524-B 續高僧傳序
  - No. 1524-C 補續高僧傳序
  - No. 1524-D 補續高僧傳序
  - 補續高僧傳目次
  - 譯經篇
    - 宋
      - 天息災‧ 法天‧ 施護三師傳
      - 法護‧ 惟淨二師傳
    - 金
      - 蘇陀室利傳(附寶公慧洪)
      - 吽哈囉悉利傳
    - 元
      - 帝師發思八傳
      - 金剛上師傳
      - 佛智三藏傳
      - 必蘭納識理傳
      - 法禎傳
    - 明
      - 西天國師傳(附柔渴巴辣)
      - 具生吉祥大師傳(附底哇答思)
  - 義解篇
    - 宋
      - 四明知禮法師傳(附尚賢)
      - 慈雲懺主遵式傳
      - 長水法師傳
      - 從雅少康傳
      - 本如‧ 子琳二公傳
      - 思悟‧ 慧舟傳
      - 仁岳傳
      - 惟已傳
      - 元淨傳

- 繼忠· 左伸傳
- 從諫· 希最二師傳
- 靈炤傳
- 介然· 能師二公傳
- 處咸· 處謙二師傳
- 慧辯· 思義傳
- 淨梵· 齊玉二師傳
- 從義傳了(睿附)
- 圓明大師演公傳
- 令觀
- 成覺· 慧悟傳
- 晉水法師傳(附誠法師· 義天僧統)
- 有嚴傳
- 智圓
- 中立傳
- 有朋傳
- 宗坦傳
- 道琛傳
- 了然傳(智仙附)
- 如湛傳
- 法久· 睎顏二師傳
- 思炤· 覺先傳
- 宗利傳(若水附)
- 與咸· 圓智二師傳
- 智連傳
- 道因傳(附小因)
- 慧詢傳
- 若訥傳
- 擇卿· 可觀· 有朋三師傳
- 慧定· 子猷二法師傳
- 慧寔傳
- 淨悟· 了宣二師傳
- 善月· 淨惠二師傳
- 宗印傳

- 金
  - 華嚴寂大士傳
  - 墳雲傳
- 元

        - 浦尚法師傳
        - 善良傳
        - 定演傳
        - 栖巖益和尚傳
        - 善入
        - 秦州普覺法師傳
        - 京都崇恩福元講主傳
        - 妙文講主傳
        - 慧印傳
        - 晉安寺幼堂法主傳(附弟金)
        - 五臺普寧弘教大師傳
        - 弘濟法師傳(附示瞽菴)
        - 大用才法師傳
        - 善繼· 我菴二師傳
        - 季蘅若法師傳
        - 善柔傳
    - 明
        - 慧進傳
        - 一如傳(附能義)
        - 大同師傳
        - 華嚴菩薩· 松堂老人傳
        - 士璋法師傳
        - 古庭學法師傳
        - 東溟日法師傳(附智明)
        - 能義傳
        - 清天傳
        - 洪蓮傳
        - 鳳頭祖師傳
        - 萬松千松百松傳
        - 麓亭住法師傳
        - 素庵法師傳(附兀齋· 幻齋二比丘)
        - 月川法師傳
        - 徧融師傳
        - 如幻傳
        - 方念傳
        - 雲棲蓮池宏師傳
- 習禪篇
    - 唐

    - 龜洋· 佛手岩二師傳
    - 瑞龍璋· 黃檗慧傳
    - 雲居簡傳
    - 蜆子和尚傳
    - 惟勁大師傳
    - 鼓山國師傳(從展附)
    - 羅山閑傳
    - 黃龍機· 明招謙傳
    - 太原上座傳
    - 大靜· 小靜傳
    - 烏巨晏禪師傳
- 後梁
    - 普靜覺傳
    - 重雲暉禪師傳
- 後周
    - 大章清豁沖煦傳
- 宋
    - 風穴沼禪師傳
    - 歸宗詮師傳
    - 法燈欽公傳
    - 奉先深· 清凉明傳
    - 洞山稟· 薦福古傳
    - 首山念禪師傳
    - 汾陽昭· 葉縣省· 神鼎諲三禪師傳
    - 谷隱聰· 廣慧璉二師傳
    - 大陽玄傳
    - 慈明圓禪師傳
    - 大愚芝· 法華舉· 瑯琊覺傳
    - 政黃牛傳
    - 懷賢禪師傳
    - 法寶傳
    - 浮山遠公傳
    - 法華隆禪師傳
    - 泉大道· 宗道者傳
    - 福昌善禪師傳
    - 雪竇顯禪師傳
    - 洞山聰· 祥庵主傳
    - 北禪賢禪師傳

- 開先暹禪師傳
- 南安嚴傳
- 洞山寶· 洲潭澄傳
- 志逢禪師傳
- 棲賢湜禪師傳
- 宣州興教坦禪師
- 南安雲封寺圓禪師傳
- 黃檗勝· 昭覺白· 信相顯三師傳
- 報本元禪師傳
- 景福順禪師傳
- 昭慶禪師傳
- 隆慶閑禪師傳
- 子琦(道英附)
- 黃龍心禪師傳
- 天衣懷禪師傳
- 延恩安公傳
- 荊門軍玉泉皓禪師傳
- 福嚴感禪師傳
- 真點胸傳(善侍者)
- 江州歸宗宣禪師(海印)
- 月華山琳公傳(雲達附)
- 福昌信公傳
- 法秀(小秀附)
- 圓照本禪師傳
- 黃檗全禪師傳
- 石頭懷志上座傳
- 法雲杲師傳
- 大通本禪師傳
- 報恩傳
- 廣道者傳
- 佛果勤傳
- 丹霞淳傳
- 守遂傳(慶顯附)
- 自覺傳(禧誧附)
- 小南禪師傳(海評附)
- 利儼傳
- 法一傳(常首座)
- 普交· 有需二師傳

- 五祖自老傳
- 元禮首座普融知藏傳
- 真歇了禪師傳
- 法恭傳(自得暉)
- 德朋禪師傳(附守璋)
- 瞎堂遠禪師傳
- 何山珣禪師傳(附智才)
- 元布衲傳
- 月堂昌禪傳
- 世奇首座傳
- 雪堂行傳
- 文殊導傳(附知昺)
- 虎丘隆禪師傳
- 育王裕禪師傳(附水庵)
- 祖珍傳
- 了璨傳
- 智鑒傳
- 佛慧泉禪師傳
- 法清‧ 法因傳
- 道寧傳
- 守惠傳(布衲‧ 効常)
- 別峰印禪師傳(附慧綽)
- 淨全傳
- 夾山本禪師傳
- 拙叟英傳
- 涂毒笨傳
- 佛照光禪師傳
- 薦福本禪師傳
- 簡堂機傳
- 或菴體傳
- 元枯木傳
- 妙峯善禪師傳
- 妙空智訥禪師傳
- 道謙傳
- 良書記‧ 元菴禪師傳
- 了一傳
- 文爾傳
- 從廓傳(宜意)

- 退谷雲傳(附石橋宣公)
- 笑翁堪公傳
- 松源嶽傳
- 偃溪聞傳
- 藏叟珍公傳
- 如珏傳
- 無準範禪師傳
- 石田薰禪師傳
- 癡絕沖傳
- 景蒙傳
- 斷橋倫禪師傳
- 道升傳
- 智燈傳
- 慧圓上座傳
- 虗舟度傳
- 天奇禪師傳
- 虗堂愚傳

- 金
  - 佛光道悟禪師傳
  - 政言· 了奇二師傳
  - 清涼相公傳
  - 圓性傳
  - 相了傳
  - 法贇傳
  - 義廣傳(道海)
  - 海雲大士傳
- 元
  - 正因傳
  - 元叟端禪師傳
  - 晦機熙禪師傳
  - 水盛禪師傳
  - 一溪如公· 本源達公傳
  - 橫川珙禪師傳
  - 竹泉林禪師傳
  - 一關逵傳
  - 妙源傳
  - 鐵山瓊禪師傳
  - 淨日傳

- 至美傳
- 祖銘傳
- 無見覩傳(光菩薩附)
- 天目斷崖禪師
- 中峰普應國師傳
- 石屋珙禪師傳
- 文述傳
- 日本夢窗國師傳
- 松隱茂師傳
- 竺遠源公傳
- 桐江大公傳
- 千巖長禪師傳
- 無用貴師傳
- 日本古先原公傳
- 福源傳
- 無極導師傳
- 同新傳
- 覺宗傳
- 明孜傳
- 块圠傳
- 元湛傳

- 明
  - 廣慧及禪師傳
  - 玉泉璉禪師傳
  - 月林鏡公傳
  - 復原報公傳
  - 楚石琦禪師傳
  - 靈隱性原明禪師傳
  - 天鏡瀞禪師傳
  - 夢堂噩公傳
  - 泐季泐傳
  - 孤峰德禪師傳
  - 介菴良大師傳
  - 南石文琇禪師傳
  - 白菴金禪師傳
  - 覺原曇禪師傳
  - 一源寧公傳
  - 約之裕公傳

- 金碧峰傳
- 天界孚中信禪師傳
- 清遠渭公傳
- 大千照公傳
- 日本德始傳
- 非幻禪師傳
- 無旨授公傳
- 德隱仁公傳
- 白雲度公傳
- 傑峰愚公傳
- 萬峰蔚禪師傳
- 德馨傳
- 法秀禪師傳
- 西竺來禪師傳
- 如皎傳
- 香嚴澄禪師傳
- 無念傳(附一覺)
- 楚山琦傳
- 古庭傳(附淨倫)
- 翠峰山公傳(附圓月· 明律)
- 毒峰善傳(天淵湛附)
- 法舟濟傳
- 月心寶公傳
- 常潤· 善真二師傳
- 孤月禪師傳
- 石頭回禪師傳
- 無盡燈禪師傳
- 會堂緣師傳
- 雪庭傳
- 天界成禪師傳
- 古淵清公傳
- 真空傳
- 繼萬闍黎傳
- 滿賢傳
- 無明禪師傳
- 雲谷會師傳

◦ 明律篇
  - 宋

        - 柳律師‧ 圓覺律師傳
        - 了興傳
    - 遼
        - 法均(附裕窺)
    - 金
        - 悟敏‧ 悟銖二傳戒大師傳
        - 賈菩薩傳
        - 光教律師法聞傳
        - 清涼信明傳(印寶附)
        - 惠汶律師傳
- 護法篇
    - 宋
        - 維琳傳(天石附)
        - 杭州報恩院慧明傳
        - 長蘆賾禪師傳
        - 宗致傳(附居竭‧ 子照)
        - 寶覺道法師傳
        - 法燈禪師傳
        - 萬松老人傳(附從倫)
    - 元
        - 雲峰高禪師傳
        - 至溫傳
        - 念常傳(附覺岸)
    - 明
        - 呆菴莊公傳(敬菴)
        - 天泉淵公傳
        - 真澧傳
        - 莽會首傳
        - 寬念小師傳
- 感通篇
    - 五代
        - 二蕭師傳
    - 南唐
        - 木平傳
        - 言法華傳
        - 清聳‧ 全了二師傳
        - 鰕子和尚傳(附道嵩)
        - 無門開傳

        - 肇公奘公傳
        - 二顛師傳(附瑪瑙顛)
        - 通慧傳
        - 德聰· 法寧二師傳
        - 僧伽傳
        - 東松僧傳
        - 照伯傳
        - 黑漆光菩薩傳
        - 印肅傳
        - 從登傳
        - 賴僧傳
    - 金
        - 法冲傳
    - 元
        - 無住傳
        - 志誠傳
    - 明
        - 烏斯法王傳(附何清)
        - 鏡中· 廣能二師傳
        - 馬跡和尚· 裘和尚傳
        - 不二傳
        - 別傳老人傳
        - 安岳了悟傳(附露源)
        - 月天傳
- 遺身篇
    - 宋
        - 喻彌陀傳(附淨真)
        - 化僧傳(附吉祥· 慈濟)
        - 咸平府大覺寺法慶禪師傳
    - 元
        - 覺慶· 德林二師傳
    - 明
        - 落魄僧(附雪梅)
        - 祖遇傳
        - 善信· 大雲傳
        - 廣玉· 寧義傳
        - 夜臺· 秋月傳
- 讀誦篇

- 宋
  - 洪準· 遇安二師傳
  - 道光傳
- 元
  - 如一菴傳
  - 性然傳
  - 普明傳

- 興福篇
  - 宋
    - 永公傳
    - 昭覺延美· 永安德元二師傳
    - 體謙傳
    - 空印軾公傳
    - 嶽麓海禪師傳
    - 明大禪傳
  - 元
    - 雪庭裕和尚傳
  - 明
    - 正映傳
    - 徐和尚傳
    - 大智禪師傳
    - 真來佛子傳
    - 無邊傳

- 雜科篇
  - 後周
    - 慧瑱傳
  - 宋
    - 善慧傳
    - 麻衣和尚傳
    - 惠泉傳
    - 杭州興教小壽禪師傳
    - 惟中· 文英傳
    - 二寶月大師傳
    - 崇壽傳
    - 可久傳(附清順)
    - 惟迪禪師傳
    - 智林傳
    - 石塔長老傳

- 志添· 元普傳
- 白雲孔清覺傳
- 銓公傳
- 潛澗闍黎傳
- 參寥子傳(附定諸)
- 惠淵首座傳
- 覺心傳(智永祖紹附)
- 潛菴源師傳
- 空禪師傳
- 圓覺演公傳
- 真寶· 慶預傳
- 老牛智融傳
- 淳藏主傳
- 北磵簡禪師傳
- 鼓山堅· 凝二師傳
- 斯受傳
- 太癡傳
- 有南傳
- 自永傳
- 法慈
- 清音子傳

- 金
  - 大漢僧錄
  - 洪炤傳
- 元
  - 筠高安圓至傳
  - 得喜· 無照· 無碍傳
  - 妙恩傳(附大圭· 契祖· 杰道者)
  - 若芬傳
  - 月江淨公傳
  - 慧明傳
  - 祖英
  - 如玉
  - 拗撓傳
- 明
  - 玄中猷法師傳
  - 南洲溥洽法師傳
  - 木嚴植公傳

- 曉山亮傳
- 德昂傳
- 天淵濬· 季芳聯二公傳
- 示應傳
- 守仁· 德祥二公傳
- 雪菴和尚傳
- 大善國師傳
- 德琮傳
- 息菴觀公傳
- 德然傳(附道安)
- 妙智· 明瑄二師傳
- 啟東白傳
- 啟原傳
- 復見心傳(如筏)
- 如[承/巴]傳
- 天印持公傳
- 了用· 德潮· 無礙三師傳
- 宗林傳(附智淳)
- 德山傳
- 大安傳
- 大闡禪師傳
- 宗道者傳
- 了然關主傳
- 逆川禪師傳(附慧心)
- 吉祥師傳
- 滿起· 真參傳
- 忠敬堂傳
- 明龍傳
- 南嶽豆兒佛傳
- 三藏師傳
- 青牛傳
- 孤月傳
- 寶藏禪師傳
- 天長僧武林比丘傳
- 月潭和尚傳
- 五日頭陀傳(附定林)
- 玉芝聚公傳
- 圓魁傳

        - 圓果傳
    - No. 1524-E 補續高僧傳跋
    - No. 1524-F
    - No. 1524-G 補續高僧傳跋
- 卷目次
    - 1
    - 2
    - 3
    - 4
    - 5
    - 6
    - 7
    - 8
    - 9
    - 10
    - 11
    - 12
    - 13
    - 14
    - 15
    - 16
    - 17
    - 18
    - 19
    - 20
    - 21
    - 22
    - 23
    - 24
    - 25
    - 26
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「 CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示(黑白色系版本則無顏色差別) 。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

No. 1524-A 補續高僧傳序

往時雪浪大師掀翻義學窠臼，位下龍象未易指屈，一雨潤師其白眉也。汰如河公乃潤師高弟，倡明教乘，為時所宗。昨歲飛錫白門，講經報恩禪院，聽法者萬眾。余時野服籃輿，造山舍麈談，恨把臂晚。未幾，歸吳門，余贈以詩，有弟子教成花作雨，維摩歸去舌無鋒之句，不意遂成詩讖。僅數日，遽示疾辭世，聞者莫不泣洟思慕。今年秋，其徒道開持師所著高僧傳屬余為序，且述河公之言曰：此老僧三十年來苦心編纂，為傳衣正法眼藏，須付剞劂，必求吳橋司馬弁其簡端。余惟燈錄自大慧而後，寥寥散見，莫可稽考，豈非禪乘一大闕陷事？河公枯笻所指，遊遍名山古剎，搜剔碑版，攀藤蘿，摹剝蝕，次第彙集。曹學憲能始復出鄴架所藏，傾篋佐之，閱三十春秋，成此一書。自趙宋至昭代四百餘載，不分宗派，凡真正佛子，略已該括，取例寂音之傳，僧寶系以論贊，洵法苑之勝事，亦龍宮之秘錄也。余於禪觀之暇，時涉教乘，每歎逐塊者爭趨一千七百，熱鬧處輒姍教家饒舌，為不及竹篦子一句。嗟乎！外一大事因緣，豈復有玄要？河公炳此慧燈，纘修果位，從前舌翻雨露，手捫日星，一片熱腸，三生了悟，總此一編，嗣續已盡。禪教大旨，毫端放光，令人展卷如親見龍象，踏蹴一切，俗漢鈍器又何能贊一詞耶？道開扃公親受記莂，箕裘勿墜，編輯是書，不啻三轉語之報師恩，而余以蓮社氣誼匪一朝夕，爰告同人，因為梓而行之。

時崇禎辛巳秋杪思仁居士范景文書於白門之餐氷齋

No. 1524-B 續高僧傳序

如來正法眼藏，囑付羅漢僧，或從心地發明，或向耳根叅會，妙觀察智，處處靈通，雖來路稍殊，然入門元一也。余嘗讀高僧傳，慨想久之，既面目之儼存，又神明之玄契，心之所會，手若傳之，眼之所照，足若赴之，明鏡在前，法見全露，先賢之啟我深乎。河公問道四方，研精三學，於是聚高僧於灑窟而為之論，以其生平聲教所流，徧周沙界，自非身心竝徹，手眼兼行者，惡能精博如是哉。扃公持全編來訪余白下，纔開寶藏，徧界光明，然後服河公之神鑑也。大圓鏡智，鑒破古今，其斯文之謂與。

西江黃端伯題

No. 1524-C 補續高僧傳序

吾氏高僧之列十科，猶孔門弟子之推四哲。四哲載記後，既更有弟子；十科立傳後，豈竟無高僧？非無高僧，是無傳高僧之人也，亦弟子中非得馬遷之筆而不能傳。曰：傳者，傳也。貴傳其神，如見故人一披圖，不待問即知為某某。此無他，葢以神遇，不以言得也。噫！一大部僧史，非一大部高僧之面目也哉！古秀高寒之色，凜凜逼人，皆在阿堵中，非具僧繇畫龍點睛之手，虎穴鷹巢叅討之徧，司馬、董狐良史之才，無乃捃拾人唾，入籃是艸，或以乙代甲，或遺大取小，使古人門庭施設、垂手殺活之機，皆莫能辯。宋寧贊傳成後，張無盡、呂夏卿君子輩與寂音尊者從而議之，固不無遺憾焉。吾友高松河公慨嘗向予昭代僧史之缺典，今捨吾黨其誰？於是鍵關東海上三年，以利其器。顧不惜踏破鐵鞋，走齊、魯、燕、趙間，始斷烟殘碣，搜括迨徧，東南名山所未果，緣約與吾分任之。憶甲寅春，於湖上送公為八閩遊，吾亦將振策兩粤，取道臧[(卬-卩)*刂　*可]，以還故山。雞足熊耳間，常見有肉身大士，如盤龍、古亭、勝國，至今猶自定中爪生髮長。他則如念庵、再光、定堂，譬彼幽蘭，多生空谷，雖芳香絕倫，賞識無人，未能悉舉，誓與畢命蒐羅，了此公案。於時也，殘雪載塗，饑烏無色，引領征人，孤思悵結，公其行矣。無何歸來，相見鐵山先楞，師喜有屐齒嚙殘閩地雪，衲頭觸盡浙江雲之句，已不知多少祖師盡被一囊收拾，天下多少老和尚盡被掂觔簸兩，一一秤過來。惜乎此後兩人皆墮講肆窠臼，無暇及此。若夫人之今古，采之得失，列之詮次，尚俟商確，可稱未全之書。嗚呼！公今死矣，其如人亡則難何？吾亦老之，將至裹糧抱杖，能無望路之歎？此書儗庋之高閣，公一生苦心，竟成烏有；將質之海內，則又多所未逮，三復不已，與其無也寧存。遂與毛居士子晉相商而付諸梓，倘見罪於諸方，則吾實亦不得辭其責也矣。幽冥之下，負我良友不少，更復何言？所幸易簀之際，囑累道開，曲盡艱苦，今竟成書，將致告公於常寂光中能讀父書、能成父志者，諸弟子中又其唯道開乎？

後住中峰　讀徹　拜撰

No. 1524-D 補續高僧傳序

補續高僧傳者，吾友汰如法師河公所撰述也。傳列宋、元以逮明世諸高禪，西乃冠以大明。若止為一朝僧史，則不從所紀載之人立號，而從編纂之家受名，亦循贊寧師之義例，不稱續而稱宋之意也。昔吾師紫柏老人，嘗以傳燈未續為慧命一大負，此乃專為習禪一門言也。若不惟遞衍五燈，而又具載十科，則其網羅銓次，更倍費辛勤矣。故吾嘗謂錄傳燈之難，難在具眼而印心；傳高僧之難，

難在多聞而精擇，且又須濟之以手筆也。河公以半世勞勤，廣肆蒐獵，細加紬繹，人貌鬚眉，家傳譜系，觀其草本，無不親自繕錄，幾經勘定，殊非尋常楮墨之役所能髣髴其苦心矣。公既與吾為支、許遊，其高足弟子無門扃，公又與吾有皎然左司之契，因出傳藁，俾相參討，且使題厥首簡。吾觀古之作史者，自崔彥鸞氏始取佛圖澄、鳩摩羅什諸公各為立傳，於是志錄中有可分出為僧家董狐。然自梁皎、唐宣、宋寧三師撰述外，即甘露滅之僧寶傳，亦特止為禪宗作，而於譯經以及唱導雜科等，槩未嘗一置喙也。故自宋以還，萬不可闕斯宏製。況明興，高皇帝乘金輪以御土宇，聖製集中凡為釋氏宣言者，業與日星俱耀，而年垂三百，獨可無一成書以昭法乘乎？宜河公之奮然勒成是傳也。嘗憶禪師有問坡公何姓者，公曰：姓秤，稱天下長老輕重，請以是為作傳者置一史職。又嘗憶裴相國見大安寺壁間畫高僧儀，因曰：真儀可觀，高僧何在？請以是為讀傳者開一觀門。不識扃公肯以吾言舉似其師常寂光中否？

崇禎甲申仲春上澣洗松道者周永年稽首和南纂

補續高僧傳目次

卷第一

序

譯經篇第一

宋天息災法天施護三師　法護惟淨二師

金蘇陀室利(附寶公慧洪)　元帝師斐思八

金剛上師　佛智三藏

必蘭納識理　雪礀法禎

明西天國師(附桑渴巴辣)　具生吉祥大師(附底哇答思)

卷第二

義解篇第二

宋四明知禮法師(附尚賢)　慈雲懺主遵式

長水子璿法師　從雅少康二師

本如子琳二公　思悟慧舟二公

霅川仁岳　亞休惟已

無象元淨　繼忠左伸二師

從諫希最二師　超果靈炤

介然能師二公　處咸處謙二師

慧辯思義二師　淨梵齊玉二師

壽聖從義(附了睿)　圓明大師演公

安養令觀　成覺慧悟二師

晉水淨源(附誠法師義天僧統)　樝菴有嚴
孤山智圓
卷第三
寶雲中立　寶林有朋
青臺宗坦　圓辯道琛
智湧了然(附智仙)　車溪如湛
法久睎顏二師　思炤覺先二師
一相宗利(附若水)　與咸圓智二師
文秀智連　草菴道因(附小因)
月堂慧詢　普炤若訥
擇卿可觀有朋三師　慧定子猷二法師
廣炤慧寔　淨悟了宣二師
善月淨慧二師　元實宗印
金華嚴寂大士　靈山墳雲
卷第四
元浦尚法師　子直善良
崇教定演　栖巖益和尚
秋虛善入　普覺英辯法師
崇恩福元講主德謙　妙文講主
太行慧印　幼堂法主寶嚴(附弟金)
普寧弘教大師了性　同舟法師弘濟(附示瞽菴)
大用法師必才　善繼本無二師
季蘅法師允若　法雲善柔
明止翁慧進　一菴一如(附能義)
一雲大同　正順文才二公
原璞法師士璋
卷第五
古庭法師善學　東溟法師慧日(附智明)
無言能義　潔祖清天
獨芳洪蓮　鳳頭祖師道孚
萬松林千松得百松覺　麓亭法師祖住
素菴法師(附兀齋幻齋二比丘)　月川法師鎮澄
偏融真圓　九峯如幻
清凉方金　雲棲蓮池袾宏
卷第六
習禪篇第三
唐龜洋忠佛手岩二禪師　瑞能璋黃檗慧二禪師
雲居道簡禪師　蜆子和尚

寶聞大師惟勁禪師　鼓山國師神晏(附從展)
羅山道閑禪師　黃龍機明招謙二禪師
太原孚上座　大靜小靜二禪師
烏巨儀晏禪師　梁普靜常覺禪師
重雲智暉禪師　周大章清豁冲煦二禪師
宋風穴延沼禪師　歸宗道詮禪師
法燈泰欽禪師　奉先深清凉明二禪師
洞山稟薦福古二禪師　首山省念禪師
汾陽昭葉縣省神鼎諲三禪師
谷隱聰廣慧璉二禪師
卷第七
大陽警玄禪師　慈明楚圓禪師
大愚芝法華舉瑯琊覺三禪師
黃牛惟政禪師　圓通懷賢禪師
善覺法寶禪師　浮山法遠禪師
法華道隆禪師　泉大道宗道者二公
福昌惟善禪師　雪竇重顯禪師
洞山聰祥庵主二公　北禪智賢禪師
開先善暹禪師　南安巖自巖尊者
洞山寶泐潭澄二禪師　常照志逢禪師
棲賢澄湜禪師
卷第八
宣州興教坦禪師　雲封道圓禪師
黃檗勝昭覺白信相顯三禪師
報本慧元禪師　景禪順禪師
惠濟昭慶禪師　隆慶慶閑禪師
覺照子琦禪師(附道英)　黃龍祖心禪師
天衣義懷禪師　延恩法安禪師
玉泉承皓禪師　福嚴慈感禪師
點胸可真禪師(附善侍者)　皈宗可宣禪師(附超信)
月華山琳公(附雲達)　福州知信禪師
法雲法秀禪師(附小秀)　圓照宗本禪師
卷第九
黃檗道全禪師　石頭懷志上座
法雲杲禪師　大通善本禪師
大洪報恩禪師　希廣道者
佛果克勤禪師　丹霞子淳禪師
淨慈守遂禪師(附慶顯)　淨因自覺禪師(附禧誧)

小南禪師(附海評)　隆慶利儼禪師
萬年法一禪師(附常首座)　普交有需二禪師
五祖表自　元禮首座普融知藏
真歇清了禪師　石牕法恭禪師(附自得暉)
竹筒德明禪師(附守璋)
卷第十
瞎堂慧遠禪師　何山守珣禪師(附慧才)
景元布衲　月堂道昌禪師
世奇首座　雪堂道行禪師
文殊正導禪師(附知昺)　虎丘紹隆禪師
育王端裕禪師(附水菴)　法石祖珍禪師
興國了璨禪師　足菴智鑒禪師
佛慧法泉禪師　法清法因二禪師
開福道寧禪師　守慧禪師(附布衲効常)
別峯寶印禪師(附慧綽)　無用淨全禪師
石霜智本禪師　拙叟進英禪師
塗毒智策禪師　佛照德光禪師
卷第十一
薦福悟本禪師　簡堂行機禪師
或菴師體禪師　枯木祖元禪師
妙峯善禪師　妙空智訥禪師
開善道謙禪師(附宗元)　良書記元菴禪師
炤堂了一禪師　報恩文爾禪師
妙智從廓禪師(附宜意)　退谷義雲禪師(附石橋宣公)
笑翁妙堪禪師　松源崇嶽禪師
偃溪廣聞禪師　藏叟善珍禪師
荊叟如珏禪師　無準師範禪師
石田法薰禪師　痴絕道沖禪師
瑞巖景蒙禪師　斷橋妙倫禪師
鼓山道升禪師　等覺智燈禪師
慧圓上座　虛舟普度禪師
天奇瑞禪師　虛堂智愚禪師
卷第十二
金佛光道悟禪師　政言了奇二禪師
清凉弘相禪師　潭柘圓性禪師
竹林相了禪師　普照法贇禪師
古佛義廣禪師(附道海)　海雲印簡禪師
元霹靂正因禪師　元叟行端禪師

晦機元熙禪師　竺源水盛禪師
一溪如公本源達公　橫川如珙禪師
竹泉法林禪師　一關正逵禪師
定水妙源禪師　銕山瓊禪師
東巖淨日禪師
卷第十三
元石湖至美禪師
無見先覩禪師(附光菩薩)　天目了義禪師
中峰明本禪師　石屋清珙禪師
無作文述禪師　日本夢窓疎石國師
松隱茂禪師　竺遠正源禪師
桐江紹大禪師　千巖元長禪師
無用守貴禪師　日本古先印原禪師
古淵福源禪師　無極導禪師
月泉同新禪師　松溪覺宗禪師
舜田明孜禪師　清谷坱圠禪師
秋江元湛禪師
卷第十四
明廣慧智及禪師　玉泉宗璉禪師
月林鏡禪師　復原福報禪師
楚石梵琦禪師　性原慧明禪師
天鏡元瀞禪師　夢執曇噩禪師
季潭宗泐禪師　孤峰明德禪師
介菴輔良禪師　南石文秀禪師
白菴力金禪師　覺原慧曇禪師
一源永寧禪師　約之崇裕禪師
碧峰寶金禪師　孚中懷信禪師
卷第十五
清遠懷渭禪師　大千慧照禪師
日本無初德初禪師　非幻道永禪師
無旨可授禪師　德隱普仁禪師
白雲智度禪師　傑峯世愚禪師
萬峰時蔚禪師　清隱德馨禪師
般若法秀禪師　西竺本來禪師
性天如皎禪師　香嚴覺澄禪師
無念學禪師(附一覺)　楚山紹琦禪師
古庭善堅禪師(附淨倫)
卷第十六

翠峰德山禪師(附圓月明律)　毒峰季善禪師(附天淵湛)
法舟道濟禪師　月心德寶禪師
常潤善真二禪師　孤月淨澄禪師
石頭自回禪師　無盡祖燈禪師
會堂自緣禪師　梅雪雪庭禪師
天界道成禪師　古淵清禪師
觀音真空禪師　古峰繼萬闍梨
張家橋滿賢禪師　無明慧經禪師
雲谷法會禪師
卷第十七
明律篇第四
宋柳律師圓覺律師　了興禪師
遼法均傳戒大師(附裕窺)　金悟敏悟銖二傳戒大師
賈菩薩廣恩和尚　光教律師法聞
清凉信明大師(附印寶)　慧汶律師
卷第十八
護法篇第五
宋無畏大士維琳(附天石)　報恩慧明
長蘆宗賾　慈覺宗致(附居竭子照)
寶覺永道　傳炤法燈禪師
萬松老人行秀(附從倫)　元雲峰妙高禪師
其玉至溫　梅屋念常(附覺岸)
明呆菴莊禪師(附敬菴)　天泉祖淵
亨渠真澧　南泉慧定(附宗主某)
寬念小師
卷第十九
感通篇第六
五代二蕭　南唐木平
言法華　清聳全了二師
鰕子和尚(附道嵩)　無門慧開
原肇元奘　濟顛明顛(附瑪瑙顛)
通慧　德聰法寧二師
僧伽　東松僧
照伯　黑漆光菩薩法明
普菴印肅　石門從登
賴僧僧慧　金法冲大師
元無住　志誠
明烏斯法王(附何清)　鏡中廣能二師

馬跡和尚裘和尚　不二圓信
別傳老人慧宗　安岳了悟(附靈源)
月天
卷第二十
遺身篇第七
宋喻彌陀思淨(附淨真)　化僧(附吉祥慈濟)
大覺法慶禪師　元覺慶德林二師
明落魄永隆(附雪梅)　法琳洞祖遇
善信大雲二公　廣玉寧義二公
夜臺秋月二公
卷第二十一
讚誦篇第八
宋洪準遇安二師　道光
元一菴如公　寶燈性然
寂照普明
卷第二十二
興福篇第九
宋寶塔永公　昭覺延美永安德元
永嘉體謙　空印軾公
嶽麓智海　明大禪了明
元雪庭裕公　明潔菴正映
徐和尚愷乘　大智真融
真來佛子福登　大博無邊
卷第二十三
雜科篇第十
後周開元慧瑱大德　宣秘大師善慧
麻衣和尚　閣子慧泉
興教小壽禪師　惟中文英二公(附楞嚴道人)
惟簡修廣二大師　崇壽禪師
逸老可久(附清順)　惟迪禪師
寶生院智林　石塔戒長老
志添元普二公　白雲孔清覺
文炤大師銓公　潛澗闍梨處嚴
參寥子道潛(附定諸)　慧淵首座
虛靜覺心(附智永祖紹)　潛菴清源
崇覺空禪師
卷第二十四
宋圓覺宗演　真寶慶預二公

老牛智融　景淳藏主
北磵居簡　鼓山彌堅正凝二師
用堂斯受　太瘤太因
閩僧有南　閩僧自永
長慶法慈大德　清音子
金大漢僧錄　玄明洪照
元筠高安圓至　得喜無照無碍三公
妙恩(附大圭契祖杰道者)　仲石若芬
月江宗淨　華嚴慧明
石室祖英　雙溪布衲如玉
越王臺拗撓
卷第二十五
明玄中猷法師　南洲溥洽法師
木巖植禪師　曉山元亮
伏菴德昂　天淵濬季芳聯二公
寶曇示應　守仁德祥二公
雪菴暨和尚　大善國師
左善世德琮　息菴慧觀
唯菴德然(附道安)　妙智明瑄二師
東白善啟　日本太初啟原
見心來復(附如筏)　蓎菴如[丞/巴]
天印持公　了用德潮無碍三師
大章宗林(附智淳)
卷第二十六
喇麻僧德山　盧岳大安
大闡禪師　宗道者
了然關主　逆川智順禪師(附慧心)
在善世吉祥　滿起真參二公
敬堂法忠　羊山明龍
南嶽豆兒佛　三藏師本融
青融青牛　北人孤月
寶藏能蠲禪師　天長僧武林比丘
月潭和尚　五日頭陀(附定林)
玉芝法聚　應天圓魁
香林圓果上人
跋
補續高僧傳目次(終)
No. 1524

補續高僧傳卷第一

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

譯經篇

宋　天息灾、法天、施護三師傳

天息灾，北天竺迦濕彌羅國人也。太平興國中，與烏填曩國三藏施護至京師。時梵德前後疊來，各獻梵筴，集置甚富。上方銳意翻傳，思欲得西來華梵淹貫、器業隆善者為譯主，詔於太平興國寺西建譯經傳法院以須之。先是，有梵德法天者，中天竺國人，妙解五明，深入三藏。初至蒲津，與通梵學沙門法進譯無量經、七佛讚，守臣表上之。上覽之，大悅曰：勝事成矣。與天息灾、施護同召見，問佛法大意，對揚稱旨，賜紫方袍，並居傳法院。賜師號天息灾明教大師，法天傳教大師，施護顯教大師。令先以所將梵本各譯一經，詔梵學僧法進、常謹、清沼筆受，綴文光祿卿楊說、兵部員外郎張洎、潤文殿直劉素監護，所須受用，悉從官給。三師述譯經儀式上之，且請譯文有與御名、廟諱同者，前代不避，若變文回護，恐妨經旨。詔答：佛經用字，宜從正文，廟諱、御名，不須迴避。未一月，新譯經成，天息灾上聖佛母經、法天上吉祥持世經、施護上如來莊嚴經各一卷。詔兩街選義學沙門百人，詳定經義。時左街僧錄神曜等言：譯場久廢，傳譯至艱。三師即持梵文，先翻梵義，以華文證之，曜眾乃服。上覽新經，示宰臣曰：佛氏之教，有裨政理，普利羣生，達者自悟淵源，愚者妄生誣謗。朕於此道，微識其宗。凡為君正心無私，即自利行，行一善以安天下，即利他行，如梁武捨身為奴。此小乘偏見，非後代所宜法也。車駕幸譯經院，賜坐慰勞，增什物給童子，悉出禁中所藏梵本，令其翻譯。復選梵學沙門為筆受，義學沙門十人為證義。自是每歲誕節，必獻新經，皆召坐賜齋，以經付藏頒行。適西國有進大乘祝藏經，詔法天詳定。天奏：此經是于闐書體，非是梵文。況其中無請問人及聽法眾，前後六十五處，文義不正。帝召天諭曰：使邪偽得行，非所以崇佛教也。宜焚棄此本，以絕後惑。下詔曰：朕方隆教法，用福邦家。其內外諸郡童行，竝與剃度。時新經陸續以進，上如次披覽，謂宰臣曰：天息灾等，玅得翻譯之體。詔除天息灾朝散大夫試光祿卿，法天、施護朝奉大夫試鴻臚卿，法天改名法賢，並月給酥酪錢有差。上親製三藏聖教序以賜之，用冠新譯之首。中云：法師天息灾等，常持四忍，早悟三空。翻貝葉之真詮，續人天之聖教。芳猷

重啟，偶運當時。潤五聲於文章，暢四始于風律。堂堂容止，穆穆輝華。曠劫而昏蟄重明，玄門昭顯；軌範而宏光玅法，淨界騰音。及真宗即位，禮部侍郎陳恕以譯院久費供億為言，上不聽，且製序文，命置先帝序後，從法賢請也。咸平三年八月，天息灾示寂，謚慧辯，勅有司具禮祭葬。次年，法賢亡，謚玄覺，禮視慧辯、施護先逝。三師遭逢聖世，首隆譯場。續獅絃之響，發空谷之音。闡宣之功，無忝前哲矣。

法護、惟淨二師傳

法護，中天竺國人。景德改元，賫梵筴入京，賜紫衣束帛，館於傳法院。時天息灾，法賢相繼遷逝，雖譯事不寢，而司南乏人，僉議非法護不可，遂被詔補其處。仍勅光梵大師惟淨試光祿卿，同預譯經。參政趙安仁等潤文，禮數有加。譯佛吉祥等經二百餘卷，併自太平興國以來所翻，合經律論共成四百十三卷，淨與秘書監揚億編次。又與安仁等編修大藏經錄，凡二十一卷，賜名大中祥符法寶錄，宸裁序文，置于錄首。仁宗即位，淨與翰林學士夏竦進新譯經音義七十卷，淨又進大藏經目錄二袠，賜名天聖釋教錄，凡六千一百九十七卷。南海駐輦國遣使進金葉梵經，詔法護譯之，御製譯經頌為賜。至和元年，勅銀青光祿大夫、試光祿卿、三藏法護，戒德高勝，可特賜六字師號曰普明慈覺傳梵大師。是時，譯場久開，潤文官非位德並隆者，不得參預，如呂夷簡、宋綬，如富弼、文彥博、韓琦，皆以宰臣入選，弘闡之盛，古所未有，況梵本甚富，不容盡翻。夷簡、綬奉詔續修法寶錄，自祥符至景祐，已編成一百六十卷矣。至是，淨上言：西土進經，新舊萬軸，鴻臚之設，有費廩祿，欲乞停罷。中丞孔輔道亦以為言。上出淨疏示之，諭以先朝盛典，不可輒廢。譯雖不停，自是勢亦少緩，不似如前之銳也。至徽宗大觀中，猶有譯經三藏金總持，即擊磬以覺嘉州定僧者，與譯語仁義，筆受宗正，南游江浙，則其譯場冷淡可知矣。護終于嘉祐三年，淨未詳所終。

金　蘇陀室利傳(附寶公，慧洪)

蘇陀室利者，西域中印土那爛陀寺僧也。內閑三藏，外徹五明，能誦雜華經。久慕此土清凉山萬菩薩住處。年八十五，與弟子七人航海而來。七人三還三殞，唯佛陀室利一人隨之。凡六年，方達清凉。每至一臺頂，誦華嚴經十部。禪寂七日，不息不食。每入定，則見紫磨金城，玻璃紺殿，寶蓮香水，珠網交輝，無盡莊嚴，諸天

童子遊戲其中。後於靈鷲寺化去。佛陀收舍利八合，燦爛如珠，持還西土。唐括讚其真曰：似似是是，蘇陀室利。西竺來遊，一百八歲。雪色連腮，碧光溢臂。內蘊真慈，外現可畏。在閔宗朝，連陰不霽。特詔登壇，呪龍落地。赭色伽梨，后妃親製。施內藏財，度僧起寺。人半疑信，佛陀波利。借路重來，五峯遊禮。峩五佛冠，曼殊何異。圓滿月面，色非紅粹。真人蕭生，遙瞻拜跪。(羽士蕭真人技術難問，皆為師伏，稽首為謝，故云云。)

寶公、慧洪者，皆慧性超絕。寶公出磁州武氏，大定初於滏陽造仰山寺，殿宇宏壯，兩柱鏤金龍蟠之，觀者瞠駭。忽有題詩柱上者曰：人道班鳩拙，我道班鳩巧。一根兩根柴，便是家緣了。寶公見之大悟，即入西山結茆以居，終身不出。慧洪字子範，因閱楞嚴一人發真歸元，十方虛空悉皆銷殞，忽悟曰：諸佛心印本無玄玅，今日始為無事人矣。遂造河朔汶禪師所，陳所見，汶可之。臨終有偈云：六十春光有八年，浮雲收盡露青天。臨行踢倒須彌去，後夜山頭月更圓。

吽哈囉悉利傳

吽哈囉悉利，本北印度末光闥國人。住鷄足山，誦諸佛密語。有大神力，能祛疾病，伏猛虎，呼召風雨輒應。皇統與其從父弟三磨耶悉利等七人來至境上，請游清凉山，禮文殊，朝命納之。既游清凉，又游靈巖，禮觀音像，旋繞必千匝而後已。匝必作禮，禮必盡敬無間。日日受稻飯一杯，座有賓客，分與必徧，自食其餘數粒，必結齋。始至濟南，建文殊真容寺，留三磨耶主之。至棣，又建三學寺。大定五年四月，示寂於三學，年六十三。

元　帝師發思八傳

發思八，元世祖尊以為帝師者也。土波國人，族欻氏，生時多瑞應。初，土波有國師禪達囉乞答，具大威神，累葉相傳，其國王世師尊之。凡十七代而至薩師迦哇，即師之伯父也。師從之受業，甫七歲，誦數十萬言，通貫大義。少長，學富五明，研幾三藏。年十五，謁世祖於潛邸，與語大悅，躬率太子以下，從受戒法，尊禮殊異。戊午，師年二十，時道士倡言化胡，憲宗詔師詰之，不能對，邪說遂熄。世祖登極，尊為國師，授玉印，任中原法主，統天下教門。既而西歸，未期月，復迎還。庚午，師年三十一，命製蒙古新字，其字僅千餘，其母凡四十有二，共相關紐而成字者，則有韻關之法，其以二合、三合、四合而成字者，則有語韻之法，而大要則

以諧聲為宗也，皆師獨運摹畫而成。上覽悟大悅，即頒行天下遵用，迄為一代典章，升號曰皇天之下一人之上開教宣文輔治大聖至德普覺真智佑國如意大寶法王西天佛子大元帝師，更賜玉印，統領諸國釋教，旋又西歸。至元十一年，復專使迎還，歲杪抵京，王公以下，皆離城一舍，結香壇淨供，羅拜迎之，所經衢陌，皆結五綵，翼其兩傍，萬眾瞻禮，若一佛出世矣。復為真金皇太子說器世界等彰所知論，詞嚴義偉，三藏沙羅巴譯而行之。未幾，又力辭西歸，上堅留之，不可。庚辰，師年四十二，以至元十七年十一月某日示寂。上聞震悼，懷德無已，乃建大窣堵波于京師，奉藏真身舍利，莊飾無儔。至英宗，詔各路建帝師殿，立碑頌德。其文曰：夫敏者怠於博學，貴者恥于下問，才高而位重，則矜己而驕物，此人之恒也。師以生知之明，為天子師，可謂敏且貴矣。而乃博學無厭，下詢遺老，人有一法，不遠千里而求之，雖硜硜之諒，佼佼之庸，苟有可取，無遺焉。負絕世之材，材莫大焉；處帝師之位，位莫重焉。而乃孜孜于道，循循誘物，惟恐德之不修，道之不弘，未嘗以多能自聖，而有滿盈之色。曠若空谷，靜若深淵，遠若雲霞，重若丘山，豈非至德，其孰能與於此哉！其道之所被，德之所及，猶杲日麗乎天，明無不炤；陽和煦於物，氣無不浹。其高如天，不可階而升也；其大如海，不可航而涉也。以不言而民信，不勸而物從，所過者化，所存者神，匪天縱之將聖，孰能與于此哉！

師侍者曰達益。巴執事師十有三年，出而從，入而侍，聽言論於左右，觀道德於前後，陶熏滋久，鬱成美器。凡大小乘律論及秘密經籍，皆耳於口授，目於手示，得乎理之所歸，行之所趣。師西還，巴以久勞弗克侍，留於洮，洮人化之。武宗踐祚，巴道大弘。初，師在洮曾居古佛寺，至是出所賜大厥宇，將謀老於汶上，而上命屢下，錫金印駝紐，封號弘法普濟三藏大師。以延祐五年化於京師，賜祭葬，謚祐聖國師。

金剛上師傳

膽巴，此云微妙，西番突甘斯旦麻人。幼孤，依季父，聞經聲止啼。年十五六，精通顯密諸部。世祖居潛邸，聞西國有綽理哲瓦道德，遣使迎之。時綽瓦已歿，廓丹大王以師應命。既至，上問曰：師之佛法比叔何如？對曰：吾叔佛法如大海水，吾所得舌點而已。上笑顧左右曰：種性不凡。遂禮以為師，王公以下皆秉戒。師宿具靈心，呪語精密，凡有禱祈感應之疾，如風馳電卷，不可思議。時懷孟大旱，呪之立雨。嘗呪食投龍湫，頃之，奇華異果湧出波面，取以上進。樞密副使月的迷失鎮潮，其妻得奇疾，百方無效，師但

呪數珠以加其身，不知病之去也。元貞間，海都犯西番界，成宗謀於師，呪之而捷，又以呪水起上於垂死。上北狩，師象輿在前，過雲州，語弟子曰：此地有靈怪，上至必有薄警，當以呪勝之。後果風雨暴至，眾咸震懼，伏草中，獨行幄無少挫撓。初，相哥受師戒，繼為帝師門人，為人豪橫自肆，師責而不悛，繇是銜之。逮登相位，懼師讜直，因譖之于上，師遂有潮陽之行。相哥既以罪誅，上患股，召師還京，建師子吼道場七日於內殿而上愈。言及相哥，師以宿業為對。上以國用不足，欲徵稅于僧，師奏曰：昔成吉思皇帝有國之日，疆土未廣，尚免僧徵。今四海混同，萬邦入貢，豈因微利而棄成規？倘蠲其賦，則身安志專，庶可勤修報國。上悅而止其事。乙未，被詔住大護國仁王寺。癸卯夏，示疾，上遣醫候視，師笑曰：色身有限，藥豈能留？但問左右：今何時？曰：日午矣。即斂容端坐而逝。上聞悲悼，賜沉檀眾香，結塔茶毗。火後開視，頂骨不壞，舍利不知其數。建塔仁王寺。西域秘密之教，以大持金剛為始祖，累傳至師，益顯著，故有金剛上師之稱焉。

佛智三藏傳

佛智三藏出積寧氏，昆弟四人，師其季也。總丱之歲，依帝師發思巴薙染為僧，通諸部灌頂之法。世祖受教於帝師，銳意翻譯，師與參譯語，辭致明辯，允愜上意，詔賜大辯廣智法師。論者謂季葉以來，譯場久廢，能者蓋寡，豈意人物凋殘之際，乃見公乎？觀其所譯，可謂能者哉！師之道大闡，河西之人尊之不敢名，至呼其族黨皆曰：此積寧法師家。其為見重如此。時僧司盛設，風紀寖弊，既不能干城遺法，抗禦外侮，反為諸僧勞擾，頹波所激，江南尤甚。朝廷欲選能者正之，僉以必得精識時務如師者始可，詔授師江浙等處釋教總統。既至，削去煩苛，務從寬大，僧眾安之。既而改授福建等處，方正之氣，頗與同列乖忤，師歎曰：天下何事，況教門乎？蓋吾人之庸，自擾之耳。夫設官愈多，則事愈煩，十羊九牧，其誰能堪！遂建言罷之，議者稱其高。師既得請，隨謝事，遁跡壠坻，築室種樹，蓋將終焉。未幾，以光祿大夫起。仁宗為太子時，嘗就師問法，既踐大寶，眷遇益隆，館於慶壽寺，給廩饍，詔師所譯，皆板行之。師幼而穎悟，諸國語言皆不學而能，既長，果能樹立。其為學，誦言觀義，涉其涯，遂厲於深。且好賢愛能，尤能取諸人以為善，談論之際發其端，已得過半之思，故其所有皆以好問而致，是以名勝之流皆樂從之游。延祐元年十月示寂，年五十有六。其始疾也，詔賜中統鈔萬緡，俾佐醫藥。太尉瀋王往眎，疾既歿，又賜幣萬緡以給葬事，遣使驛送其喪歸葬故里云。

必蘭納識理傳

必蘭納識理者，初名只剌瓦彌的理，北庭感本魯國人。幼熟畏兀兒及西天書，長能貫通三藏及諸國語。大德六年，奉旨從帝師受戒於廣寒殿，代帝出家，更賜今名。皇慶中，命翻譯諸梵經典。延祐間，賜銀印，授光祿大夫。是時，諸番朝貢，表牋文字無能識者，皆令必蘭納識理譯進。嘗有以金刻字為表進者，帝遣視之，廷中愕眙，觀所以對。必蘭納識理隨取案上墨汁塗金葉，審其字，命左右執筆，口授表中語及使人名氏與貢物之數，書而上之。明日，有司簡閱，一如所書。眾無不服其博識，而竟莫測其何所從授，或者以為神悟云。後厄于數

法禎傳

法禎，字蒙隱，雪磵其號也。蔣氏，其先曹之定陶人，家世閥閱。宋靖康間，高曾避金兵，徙淮西壽春，因家焉。父德勝，將兵取襄陽有功，封濟陰侯。母魯夫人，嚴而賢。師生岐嶷，齠齔習詩賦聲律，日記數千言。然氣羸疾瘵，每病則瀕死，術者以為非壽者相。父母捨之出家，事退庵無公大講師落髮。十七入講肆，通經論大旨，開官講於建鄴，聲華奪席。尋入京師，告單慶壽太尉駙馬瀋王，日請入府說法。延祐丙辰，被旨即慶壽開堂，移易州之興國。逾年，兩奉詔翻譯菩提行釋論二十七卷，西夏僧慧澄譯語，師筆受綴文，一言三詳，刪治一出於師，所司供給。仍指授畫工，於大內寶雲殿繪高僧像八十八龕，師作八十八傳，金書其上。初，皇慶之開舉場也，蒙古、色目習三場舉業，漸染朱熹之說，謂佛語為誕妄，詔翰林虎承旨、玅三藏與師三人，以張天覺護法論譯為國語以化之。英宗即位，將以大藏經治銅為板，而文多舛誤，徵選天下名僧六十員讐較，師與湛堂、西谷三人為總督，重勘諸師所較，仍新為目錄，旌賞特加。泰定、至順之交，教門有大故，師必預議秉筆。後至元丙子，被兩宮詔旨，主南城大竹林。至正戊子，詔重譯菩提行頌文，陛見于大口行宮，上以漢語呼師號而面諭焉。是年，俗儒王溥、張琅陳言僧道之弊數十條，省部從其說，將行，移文檄師為駁邪論以闢之，其議遂寢。又江西儒學官塗以義上數千言，其大旨欲盡毀天下寺觀，僧道歸俗，財產沒官。師為公牘回省部，折其邪說，乃止。甲午，遷潭柘之龍泉。師開堂出世四十餘年，膺累朝眷顧，凡皇家大會演法，師為巨擘，王公有識大人皆望塵加敬，名聲振寰宇，碑誌文言殆遍海內。性明敏，經書過目成誦，其於性相教義、禪學密乘，與夫孔老百氏、經子史籍，無不該覽。發為文

章，精緻雅健，要為不蹈襲前人，蔚然自出機杼，成一家學，胸襟倜儻無芥蒂。爰自蒞事，雖賞罰公行，未嘗藏怒宿怨。性不猜貳，遇人一言之快，則傾倒肝腑；聞後進之善，欣欣然似出諸己；見不善，亦必苦口規訓。五讀華嚴大疏，兩閱大藏，年逾從心，而自強不息，禪誦益勤。其主潭柘也，力起頹廢，叢林為之一新，施己衣資鈔一萬三千五百餘貫、十方檀施鈔四千四百餘貫，因緣相資，故致有成。且為之儲積年糧，安集雲水，一誠感格，五年中七現祥光。師不之恤，唯以傳佛心宗、唱高和寡為甚，恨師為文不存，稿多散失而未刊。進士葛天麟撰師行，勒之石，未詳所終。

明　西天國師傳(附柔渴巴辣)

智光，字無隱，山東武定州王氏子也。父全，母董氏。幼而聰慧，閱讀輒不忘。十五辭父母出家，尋禮西天迦濕彌羅國板的達薩訶咱釋哩國師，傳天竺聲明記論之旨。洪武己酉，以道廣無涯，未易津測，繇是銳志參訪。遊五臺，感文殊現相。　太祖高皇帝聞其名，召至鍾山，　命譯其師板的達四眾弟子菩薩戒，詞簡理明，眾所推服。丙辰，奉　命訪補陀於江南諸名山，踪跡殆遍。甲子春，與其徒惠辯等奉使西域，過獨木繩橋，至尼巴辣梵天竺國，宣傳　聖化。已而謁麻曷菩提上師，傳金剛鬘壇場四十二會，禮地湧寶塔，西國人敬之。師凡兩往西域，　太宗文皇帝念其往返勞勤，復與論三藏之說，領會深奧，大悅之。乙酉，擢僧錄右闡教。明年，俾迎大寶法王。及還，敷對多所毗贊，賜圖書輿服法供，　詔居西天寺，陞右善世。丁酉，　召至北京，論義稱　旨，俾居崇國寺，賜國師冠。　仁宗昭皇帝嗣位，　錫封號曰圓融玅慧淨覺弘濟輔國光範衍教灌頂廣善大國師，　賜金印冠服，復錫孔雀銷金傘蓋幡幢，及銀鍍金攜鑪盆鑼，供器法樂几案坐床輿馬諸物悉備。　誥曰(云云)。仍廣能仁寺居之。　宣宗章皇帝即位，出內帑刱北京暘臺山大覺寺，俾居之，以佚其老。并　勅禮官度僧百餘人為其徒，恩德至厚，無以加矣。師乃出　累朝所賜金帛，及眾信所施，倩工累石，為塔於寺側，期栖神於他日。　英宗皇帝即位之初，加封師號，　賜玉印、寶冠、金織袈裟、禪衣、時服、棕輿、鞍馬、法器之類。　誥曰(云云)。前後遭遇　列聖，眷待之隆如此。師性行純簡，　朝廷凡命修建大齋，惟誠惟恪。每入對，惟以利濟萬有為說。　仁宗所賜儀仗，出入屏不用。　上知之，遣中貴人問故。對以平生但持經戒，非有汗馬之勞。　寵錫所臨，謹受藏之足矣，用之豈不過耶？　上歎異之，故制詞極其褒重。師於教義，精達深奧。所譯顯密經義，及所傳心經、八支了義、真寔名經、仁王護國

經、大白傘蓋經，並行於世。弟子數千人，各隨其器而引掖之。道望名世者數十人。壽齡既高，智益精敏。有求而問之者，即懇懇開說，不厭不怠。非養之有素，詎能然耶？宣德十年六月十三日示寂。戒其徒，各勉精進。訃聞，　上悼歎之，遣官賜祭。仍　勅有司具葬儀，增廣其塔，并創寺，　賜名西竺。茶毗，得舍利盈掬，瑩潔如珠。既葬，其徒桑渴巴辣，進其遺像。　上親製贊詞，書之曰：託生東齊，習法西竺。立志堅剛，秉戒專篤。行熟毗尼，悟徹般若。證明自然，恬憺蕭洒。事我　祖宗，越歷四朝。使車萬里，有勣有勞。攄瀝精虔，敷陳秘玅。玉音褒揚，日星垂曜。壽康圓寂，智炳幾先。雲消曠海，月皎中天。

桑渴巴辣者，中天竺國人。師在西時，巴辣傾心服事，不去左右，師憐而挈之與東。　太宗推師意，　命為番經廠教授。凡遇　朝廷法事，師必與巴辣偕，或得掌壇，或輔弘宣，發揚秘乘，饒益弘多。而生性剛直，少巽讓，獨盡敬於師，自西抵東，始終無間。正統十一年，于定州上生寺坐脫，壽七十。

具生吉祥大師傳(附底哇答思)

具生吉祥大師。梵名板的達撒哈咱失里。中天竺迦維羅國人。出剎帝利種。初研大小乘藏。尋知語言非究竟法。棄而習定於雪山。十二年得奢摩他證。　國初振錫而東。浮信度繇高昌。所經諸國。王臣畏敬。凡四越寒暑。始達甘肅。入五臺。憩壽安禪林。恒山之人。敬事之如古佛出世。洪武七年。　上聞之。詔住蔣山。皈依者風雨駢集。師道德深厚。容止安詳。一見使人心化。不待接迦陵之音。雖檀施山積。曾不一顧。曰。吾無庸是。悉為悲敬二田。　上嘉歎。賜以詩。有笑談般若生紅蓮之句。偶得足患。艱于步趨。上勅醫治之。終莫能愈。忽一日奏還五臺。　上疑其妄。故許之。師白眾曰。今日五臺之行。有能從我者乎。弟子曰。某從之。師翹患足曰。汝無這一足。安能從我。至午盥沐更衣危坐。弟子知其意。哀號請垂訓。師舉念珠示之。弟子拭涕曰。和尚教我念佛耶。師擲念珠于地。長吁而化。茶毗烟所及處。皆成舍利。綴於松枝者。若貫珠焉。建塔藏於西林庵。有示眾語三卷。并譯八支戒本傳於世。

底哇答思，東印土人。八歲事師為弟子，耐饑寒勞苦，師重之。隨師入中國，謁　上奉天門，賜度牒，　命隨方演教。師沒，答思北游。宣德中，止北京慶壽寺。喜潭柘幽勝，就龍泉之右建庵以居，自是足跡不入城市。答思操履不凡，造詣廣大。化之日，所居之庵現五色光火，浴得舍利甚眾。平生異迹，不能殫紀，亦偉沙門也。

補續高僧傳卷第一

補續高僧傳卷第二

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

義解篇

宋　四明知禮法師傳(附尚賢)

知禮，字約言，四明金氏子。父母禱佛而生，神宇清粹，不與眾倫。出家具戒，從寶雲習教，觀大有解。入與慈雲相結，義同手足。端拱元年，寶雲歸寂，遂繼席弘化，學眾雲委。咸平中，郡大旱，與慈雲同修光明懺祈雨。約三日無應，當然一手供佛，懺未竟，雨已大浹。是年，遣門人如什二子，持十義書、觀心二百問，詣錢塘昭師室。初是光明玄，有廣略二本。景德前，錢塘恩師製發揮記，專解略本，謂十種三法，純談法性，不須更立觀心廣書。有之者，後人擅加耳。師於是作扶宗記，大明廣書，附法觀心之義。謂恩師之廢觀心，是謂有教而無觀。有梵天昭、孤山圓，皆奉先門學，述辯訛以助略書。彼此詰難往返，綿歷七載。乃總結前後，為書二卷，凡十章。因為十義書，又設為二百問以質之。時孤山居昭師座端，觀如什論不已，遽白郡守，以來無公據，發遣令還，不復致答，事乃已。祥符六年，建念佛施戒會，歲視為嘗。且撰融心解，明一心三觀，顯四淨土之旨。天禧改元，謂其徒曰：半偈亡軀，一句投火。聖人之心，為法如是。吾將捐身，以警懈怠。乃與異聞結十同志，修法華懺三載。期滿，將焚身以供妙經。祕書楊大年以常住弘法為請，并諸公交勸，力止之。乃復結十僧，修大悲懺法三載，以酧素願。是年，述消復三用章，對孤山闡義鈔。四年，駙馬李遵勗奏師高行遺身，上嘉歎，賜號法智。且遣內侍至延慶寺，命修法華懺三日，為國祈福。因撰觀音別行玄記、觀經疏、妙宗鈔。天聖改元，天童凝禪師貽書論指要鈔，揀示達磨門下三人得道淺深為不可，師為改之。三年，大弘放生之業。五年，製光明文句記，以迫歸寂，不及終帙。六年元旦，建光明懺七日，為順寂之期。至五日，結跏趺坐，召大眾說法，稱佛號，奄然而逝。壽六十九，夏五十四。露龕二七日，顏貌如生，爪髮俱長。塔於南城崇法院之左。師著述數十種，發明天台一家之旨，無剩義矣。誠為前達之功臣，後學之模範。獨於起信大有悟入，故多所援據。後人扁其堂曰起信，示不忘也。師門學甚夥，而尚賢為之冠。嗣法智，主延慶，道化大行。嘗晨入懺堂，見一虎伏几前。賢直進，展尼師壇于虎背，拜之，寂無所覩。奇哉！則其人為可知矣。

慈雲懺主遵式傳

遵式，字知白，天台寧海葉氏子。母王氏，乞男於觀音，夢大士與明珠吞之而生。稍長，潛往東山，依義全師出家，受具戒，研律學。繼入國清普賢像前，燼一指，誓弘教觀。雍熙元年，見寶雲北面受業。未幾，智解秀出，智者諱日然頂，誓行四三昧。寶雲入寂，師乃返天台，以苦學致疾，至于嘔血，感異夢而愈。既而頂高寸餘，手垂過膝，聲若洪鐘，時年二十八也。眾請居寶雲，講法華、維摩、金光明等經。至道二年，結緇素，專修淨業，作誓生西方記。咸平中，歸天台，主東掖。以徒屬之繁，即西隅益建精舍，率眾修念佛三昧。有白鶴廟，居民甚神之，師與神授戒，改祭為齋。祥符四年，講止觀於景德寺。道經黃巖，有豕奔伏于前，推其來，乃逸於屠肆者，償其直而豢之。赤山寺瀕海而高，先是山顛有異光，中現七層浮屠之形，周山四十里，皆漁人之[竺-二+(一/(尸@邑))]梁。或以語師，師喜其有先兆，遂建塔焉。於是居人感化，不復為漁。時東山結懺，會天大旱，師卓錫石縫，泉即激涌。七年，受杭昭慶請，大弘法化，從化者眾，自是居杭矣。八年，蘇人以郡符迓師于開元建講，緇素畢集，不葷飲者傾市。邑屠酤不售，官監有失課之言，師辭其徒曰：智者遺晉王書，有言六恨，其一謂以法集，動眾妨官，為人所忌。余今德薄，安可久留？遂幡然復杭。刺史薛顏始以靈山命師居之，即隋真觀所營天竺寺也。天禧三年，王欽若撫杭，與師道契，奏錫天竺舊名，復其寺為教。又奏請西湖為放生池，因賜號慈雲。乾興元年，章懿太后以師熏修精進，遣使齎白金，命于山中為國行懺，天台教文于是入藏矣。天聖四年中秋月望之夕，桂子降于殿庭，師取其實播種林下，乃作桂子之詩。九年，講淨名經，忽謂其徒曰：昔在東掖講此經，夢荊溪授我卷，及出室視日已沒，今吾殆終此講乎？因與眾訣，作謝三緣詩，謂謝徒屬，絕賓友，焚筆硯也。隨徙東嶺之草堂。明道元年十月八日示疾，不用醫藥，惟說法勉眾而逝，壽六十九，臘五十。逝之夕，山中人見大星殞於靈鷲峯。越明年仲春四日，奉遐榻葬于寺東月桂峯下。師始出家，郡挍諸生慕師才俊，勉回業儒，為詩答盧積中，有真空是選場，大覺為官位之句，人多誦之。常行三昧，以九十日為期，於行道四隅置鏊熾炭，遇困倦則漬手於鏊，十指惟存其三。崇寧三年，賜號法寶大師。紹興中，又謚懺主禪慧云。

長水法師傳

子璿，秀州人。自落髮誦楞嚴經不輟，從洪敏法師講至動靜二相，了然不生，有省。謂敏曰：敲空擊木，尚落筌蹄；舉目揚眉，已成儗議。去此二途，方契斯旨。敏拊而證之。然欲探禪源，罔知攸往。聞瑯琊覺禪師道重當世，即趨其席。值上堂，遂問曰：清淨本然，云何忽生山河大地？覺憑陵答曰：清淨本然，云何忽生山河大地？師領悟，禮謝曰：願侍巾瓶。覺謂之曰：汝宗不振久矣，宜厲志扶持，報佛恩德，勿以殊宗為介也。師如教。後住長水，眾幾一千，弘賢首教。疏楞嚴經十卷，御史中丞王隨序而行之，紙為之貴，賜號楞嚴大師。嘗示眾曰：道非言象得，禪非儗議知。會意通宗，曾無別致。由是二宗仰之。後跏趺示疾，以兩甕合之，葬於真如院。兀朮入寇發，視指爪繞身，復瘞而去。

從雅少康傳

從雅，錢塘人，賜號法寶。始從海月學，通止觀。乃自謂曰：言青行濁，賢聖所訶。遂入南山天王院，誦法華經至五藏、金剛般若四藏、彌陀經十藏(合五千四十八數為一藏) ，禮舍利塔十遍(合八萬四千拜為一遍) ，禮釋迦三十萬，拜彌陀百萬，拜佛號五千萬聲，禮法華一字三拜者三過。心期淨土，一生坐不背西。憲使無為楊傑為製安樂國讚三十章以美之。其一云：淨土周沙界，何勞獨指西。但能從一入，處處是菩提。師欲廣化世俗，遂於受業淨住寺圖九品三輩，刻其讚于石，觀者皆知感化。一日，無病趺坐而逝。有天樂鳴空，異香入室之瑞。

少康，不知何許人，姓周，賜號廣道禪師。行化至江陵，遇一僧曰：汝緣在睦州。言訖不見，遂至睦州。日乞食城中，得錢，誘小兒誦阿彌陀佛，一聲與一錢，多念多與，未見乏少。後于山顛建道場，念響佛，聲聞數里。每念佛一聲，眾見佛從口出。坐逝之夕，有光燭烏龍山，山色為變白。

本如、子琳二公傳

本如，四明句章人。初依學法智，於千眾中有少俊聲。嘗請益經義，法智曰：為我作知事三年，却向汝道。暨事畢，復以為請。法智厲聲一喝，復呼云：本如。師豁然有悟，為頌曰：處處逢歸路，頭頭復故鄉。本來成現事，何必待思量。法智肯之，曰：向來若為汝說，豈有今日。祥符中，慈雲遷靈山，向法智求可為繼。法智曰：當於眾中自擇之。慈雲閱視至師，乃云：斯人可也。師至承天，大弘法道，歷三十年，眾嘗五六百人。離言顯法，法智用掣電

之機。繼聞求人，慈雲具擇法之眼。教未嘗不為禪也。更有禪而為教，如永明、長水者。後如公百年，則有子琳。琳陞佛智裕公之堂，得言外之旨。故于講演，惟提大意，揭綱宗，不沾泥于名相。使聞者恍然自得，皆知道之在己，不關文字而又不外文字也。雖老禪宿德無不趨下，風聆聲欬皆服其辯而厭其心。大慧杲公醉心焉，嘗謂師曰：時人秖知老姪有教，徑山却許老姪有禪。杲於裕同嗣佛果，故稱師為姪云。仍為師題其真曰：悟得旋陀羅尼三昧，于一切法得大自在，舌端之上海波翻，第一義諦無違背。孝宗乾道元年春，召師問道，上曰：朕欲讀經，以何為要？師曰：金剛、圓覺最為要道。曰：參禪如何？師曰：禪須自悟。曰：以何為功？師曰：澄寂身心，久當自契。上說一日謂門人曰：吾為首座十八年，日課蓮經一部，夢間嘗見普賢，住持以來無復夢見，信知領徒損己，其言有徵。又半載，書偈而化。

思悟、慧舟傳

思悟，錢塘人。侍慈雲最久，深達觀道。嘗以呪水愈人疾，求者如市。當課誦時，身及奉像俱出舍利。天聖三年，慈雲欲以智者教卷求入藏，文穆王公將聞之朝，悟曰：此非嘗事也，小子將助之。乃繪千手大悲像，課呪以誓曰：事果遂，當焚軀為報。會公薨，悟呪益精。明年得旨，師喜甚，積薪為樓，白慈雲求火種。雲于鑪中舉紅炭與之，引手以承，了無難色，即入薪樓。火滅後，袈裟覆體，儼然如生。雲乃加香木行呪，願以焚之，隨燄而化五色舍利無數。慈雲為讚以刻石曰：悟也吾徒，荷法捐軀。其燄赫赫，其樂愉愉。逮火將滅，儼如加趺。逮骨後碎，粲如圓珠。信古應有，今也則無。芳年三十，真哉丈夫。

慧舟，丹丘人。棄家入道，勤行四三昧。天聖初，結同學十人，行大悲行法者三年；結十四人，行普賢行法者又三年。初入期，誓於像前曰：倘此三昧有成，當焚軀以效供養。行法既周回故里，求證于神炤。炤欲全其重願，諭道俗輸香木成大[廾/積]。仲夏晦日，炤囑之曰：法華尊施，爾克修之；梵網明晦，爾克遵之。惟繫心法界，身如火如，則一聚之燼，乃三昧之蘊。喜見精進，以奉淨明真供，唯子行焉。舟奉教致謝，端坐薪塔，火光屬天，了無傾側，舍利晶耀，求者皆如其願。火後，收餘骨瘞之。

仁岳傳

仁岳，雪川姜氏子，自號潛夫。聞法智南湖之化，往依為學。至水月橋，擲笠水中，曰：吾所學不成，不復過此橋。法智器之，居以東廈。白晝焚膏，專事細繹。鄉書至，悉投帳閣，未嘗啟視。因出境分衛，乘舟水行，偃臥舒足，豁然自得，若拓虛空，檣為之折。每請益函丈，擷大屨，關大鑰，眾望風畏之。嘗與十同志修請觀音三昧，因疾有間，宴坐靜室，恍如夢覺。自謂向之所學皆非，乃述三身壽量解以難妙宗。道既不合，遂還浙陽靈山。慈雲攝以法裔四明，乃加十三料簡以斥之。師復上十諫雪謗，往復不已。會昭慶有請，慈雲為詩以送之。學徒從往者半，雲弗之止。既遷石壁，復徙靈芝。時法智已歸寂，師臨眾自詫曰：只因難殺四明師，誰向靈芝敢開口？有仁行人，自永嘉請居淨社，一住十年，大弘法化。以年老還鄉，雪守請主祥符。觀察使劉崇廣為奏命服，樞密使胡宿為請淨覺之號。晚年專修淨業，然三指供佛。持律至嚴，不以事易節。創隱淪堂、休室，以為燕居。治平元年春，謂門人曰：我翌日午刻當行。至其時，說偈安坐而化。塔全身於何山之西。師著述甚富，尤精於楞嚴，故注筆甚勤。有會解十卷、熏聞記五卷、文句三卷，又為說題并懺儀等書。世師家者，可久、靈炤別具

惟已傳

惟已字亞休，邛州蒲頓人，姓仇氏。自童時趨尚高遠，無所嗜好，惟喜佛事，不敕之而自率。父母知其異根也，俾隸大邑靜林僧籍，事仁普為師。落髮受具，入成都講庠，習經論，通曉奧義。七年而還舊居，其所止悉荒落不治，陳屋數間，腐椽破壁，欹斜罅漏，已恬然處其中無厭色。鄉人胡惟岳者，高世之士，與已遊處甚厚，以詩相往來。已嘗以詩見邑宰祕書丞勝喬，喬來謝，見庭廡壞裂，殆不可坐，起倡邑人為修之。已德業日遠，已事外，遇物感興，時亦作詩，其句度夷澹精粹。與人語和軟，未嘗輒迕人。出入縣中六十年，亦未嘗以愛惡置利害于其間。素堅強少疾，狀貌修偉，慈恕溫裕，人無少長，咸願見之。見必拜伏欣喜，丁寧留連，為誨諭慰滿而後去。一日，戒弟子：惡不宜為，善不宜失。語已，攝足趺坐而逝，搖挽莫動，嶷如塑刻。年八十六，治平元年十月也。四眾以真身建蘇塗而扃藏之，使來者觀相起善焉。文與可弔之曰：余往年嘗居郡幕，識師甚熟，後復來權州事，師則已化矣。歸日，枉道過邑，詣師塔下，旋繞瞻禮，悲悼歎息，雖師之面目如生，而師之語言已不聞矣。為銘其塔。

元淨傳

元淨，字無象，杭州於潛徐氏子。生而左肩肉起如袈裟條，八十一日乃沒。十歲出家，十八就學於慈雲，不數年而齒高第。嗣謁明智，嘗於講次聞法感悟，泣下如雨。代述十五年杭守呂溱請住大悲閣，奏賜紫衣辨才之號。嘉祐中中翰沈遘撫杭，以上竺宜講宣，奉師居之。學徒大集，鑿山增室，幾至萬礎。熙寧三年杭守祖無擇坐獄於[橘-矛+隹]李，師以鑄鐘例被追辯，既而得釋還山。又有利山門施資之厚者，倚權以奪之，眾亦隨散。逾年其人以敗聞，朝廷復[田/廾]師，眾復集。趙清獻公與師為方外友，為之贊曰：師去天竺，山空鬼哭。天竺師歸，道場重輝。未幾謝居南山之龍井，其後間一出應南屏，與靈山祖場俯就眾誠耳。皆坐席未暖而還。元祐四年東坡治杭，嘗問師曰：北山如師道行者幾人？師曰：沙門多密行，非可盡識。坡子迨生四歲不能行，請師落髮摩頂，數日即善步。嘉興令陶豕有子得魅疾，師適至秀，豕袖香虔請，因杖策隨至其家。兒病方劇，師趺坐引而問曰：汝居何地而來至此？答曰：會稽之東，卞山之陽，是吾之宅，古木蒼蒼。曰：汝姓誰氏？答曰：吳王山上無人處，幾度臨風學舞腰。曰：汝柳姓乎？乃囅然而笑。師良久呵曰：汝無始以來，迷己逐物，為物所轉，溺于淫邪，流浪千劫，不自解脫，入魔趣中，橫生災害，延及無辜。汝今當知，魔即非魔，魔即法界。我今為汝宣說首楞嚴祕密神呪，汝當諦聽，痛自悔恨，訟既往過愆，返本來清淨。示訖，遂號泣不復有云。自是兒帖然。凡人病患魔祟，師呪水灑之，無不立愈。是皆道德淳厚所致也。將示寂，乃入方圓庵宴坐，謝賓客，止言語飲食。至七日，出偈告眾，即右脇吉祥臥，奄然而逝。時元祐六年九月晦日也，壽八十一。適符條沒之數。塔于本山，東坡命子由為之銘。師講說不間晝夜，嘗曰：鬼神威德不具者，晝不得至。夜中人靜，庶幾能聽。焚指供佛，左三右二。有欲效之者，師止之曰：如我乃可修西方淨業。未嘗須臾廢。或禱大士求放光，光隨現。沙門熙仲對食，視師眉間有光，遽起攬之，得舍利數粒。後人常於師臥處得之。有李生辯而無行，欲從師出家。東坡為之請，未言其名，力拒不許，若先知然。秀州狂僧號回頭，以左道惑眾，宣言欲建大塔，為吳人植福。施者雲委，以師不可欺，憚於入杭，先遣使願以錢十萬供僧。師答曰：承以建塔淨財欲飯僧，教有明文，不許互用。狂人大慙而止。

繼忠、左伸傳

繼忠，字法臣，永嘉丘氏子。父母求嗣佛祠，同夢一僧授以好子，云：螺溪尊者寄汝養之。母娠即厭葷血，幼見佛像必致敬。八歲得

度，即詣南湖依廣智學。勞苦得疾，乃行請觀音三昧，感大士放光，以水灌頂，其疾即愈。既而洞悟教觀，廣智深契之，時令代講。雪竇顯禪師見而歎曰：四明之道為有傳矣。永嘉士庶請居開元東閣，遷妙果慧安，退隱江心。嗣又出主西湖法明，學者驟集。有欲革大其居者，師曰：施者方受其福，吾忍毀之乎？每歲正月上八，於郡中授菩薩戒，行放生事，士庶嘗至數萬人。每誓於眾曰：入吾道場而皈命三寶者，縱未得道，願生生世世不失人身。正見出家，求無上道，行法華光明彌陀觀音三昧，日不虛過。誦呪救疾，神應莫測。每入市，坐者避席，行者避路，舉首加敬，稱為戒師。元豐五年十月八日，沐浴更衣坐脫，人見赤光炤澈空表，鳥雀悲鳴，三日不下。

左伸，臨海人。從東掖神炤授菩薩戒及大乘法要，深有契悟，神炤對眾摩頂與記。自是嚴奉戒律，遇事不易其節。刻西方三聖像，旦夜虔事，誦法華三千四百部、金剛經二萬過。紹聖二年秋，臥疾，命僧唱法華題，增授菩薩戒。尋夢三偉人立於江皐，召己登舟，瞥然西邁。師知往生有期，乃命僧誦阿彌陀經，未徹，即云：我已見佛光矣。遂沐浴更衣，戒左右：勿哭，勿逼吾前稱佛。結印而化。

從諫、希最二師傳

從諫，生處之松陽毛氏。幼見佛經，輒能自誦。父曰：再來人也。十九試法華得度，謁辯才，夙夜聽習。復依南屏於金山，問辯如流。南屏歎曰：吾道由子而行矣。熙寧中，講於明慶，徒眾日蕃，乃遷淨住。元豐初，處人建壽聖，迎居之。越三年，辯才主南屏，自以年老，致師首眾，遂舉以自代。元祐五年，上竺虛席，囑郡守蒲宗孟曰：靈感勝跡，非從諫不可。郡用其說，復為奏賜慈辯之號。大觀二年，辭歸壽聖門學。車溪普明等十人，詣師省候。師曰：諸子遠至，後會無期。老僧不如乘興便行。遂升座說法，書偈而逝。

希最，霅川施氏子。四歲出家，十五傳教觀於廣慈，同門畏愛，號為義虎。治平中，始敷講於嘉禾隆平，繼徙居勝果。有空室祟所棲，師呪土擲之，得片紙書：今被法遣，法力沒，當復來。數日，擊物颺火，變怪百出。師訶之曰：不聞惱法師者，頭破作七分乎？乃為廣說輪轉因緣，眾僧聲呪，為其破障。忽空中轟然，擲朱書云：漢朝烈士沈光，今知悔過謝罪。且云：蒙師法力，當往生它化天矣。自此遂絕。師因淨覺背宗，上十諫書，法智作解謗，淨覺復作雪謗。時法智在疾，不復答。淨覺在靈芝，對眾詫曰：只因難殺四明師，誰向靈芝敢開口？師不甘，乃作評謗以極辯之，其略有

云：近覩雪謗盛製，所謂救生法二身，雪增減二謗者也。然此書一往可觀，再言有失，解謗雖已煥然，雪謗猶自冰執。今據吾祖之格，以評闍黎之謬解。淨覺見之曰：四明之說，其遂行乎？元祐庚午秋坐化，闍維得舍利數百
系曰：慈辯雖教人，每與禪衲遊。嘗問道於大通，通寄以書，發緘睹黑白二圓相，恍然有悟，答偈曰：黑相白相，擔枷過狀。了不了兮，無風起浪。若問究竟事如何，洞庭山在太湖上，慈辯眼光出涯涘矣。由是而知得台宗之真者，不在言說間也。

靈炤傳

靈炤，生蘭溪盧氏。幼失恃怙，向兄求出家。兄難之曰：使藤繫汝俱碎，可從汝意。師忻然入林，取藤成束，置兄前曰：果容入道，用此繫我，俱碎無恨。兄不能奪，遂入寶慧寺，誓去枕席，香燈禮誦。未期月，誦通法華光明。具戒後，往依淨覺於吳興。一家戶牖，無不通達。初主吳山解空，繼遷景德。熙寧中，徙雲間超果。自元豐以來，於每歲春首，結淨業社七日，期預者二萬人。念佛獲驗，不可紀錄。嘗夢三聖儀相，前跪作禮曰：靈炤一生誦大乘經，期生安養，為果願否？觀音指曰：淨土不遠，有願即生。又誦經深夜，忽夢普賢示身，遂造其像，誦經萬部，以嚴淨報。元豐五年冬，臥疾，謂侍者曰：吾安養之期已至。遂面西累足而化。闍維，異香襲人，舍利流迸，結塔院東南隅。

介然、能師二公傳

介然，四明鄞人也。受業於福泉山之延壽明智，居南湖，從其學，悟教觀之旨。元豐初，專志淨業，謂同行曰：念佛三昧，往生要法也。乃然三指，建十六觀堂，中設西方三聖，環以池蓮，功成復然三指，於是修觀之士有所依賴焉。建炎四年，金虜犯明州，寺眾奔散，師獨不去。虜奄至，訶之曰：不畏死邪？師曰：貧道一生願力建此觀堂，今老矣，不忍捨去以求生也。虜酋義之，謂曰：為我歸北地作觀堂，似此規制。遂逼師以行。後人悲思，乃以去日為之忌，遙尊之曰定慧尊者，未詳所終。
能師，嘉禾人。少學能仁，入懺室四十載，六時行道，雖病不廢。唯不食數日，其病自愈。行人之名，遂聞江浙。年既老，讀文如初學。草庵戲之曰：未忘筌耶？師曰：筌何所忘？庵大慚。嘗暑曬衣，歎曰：慷慨丈夫，反同臧獲。於是散去。餘長惟留一弊絮袍，夏則束梁棬間，袒膊入林施蚊。一日逢二虎，以身就之，虎俛首而

去。山神興供一方，嘗與交接。適香積有乏，知事來告，師力拒之。明旦施自至，皆曰：昨夜行人巡門相報，始知山神荷師以往。圓覺慈公有能仁之命，師與文首座然指以請。及其至，晝夜請益，大有開發。未詳所終。

處咸、處謙二師傳

處咸，生天台王氏。七歲入國清，十四受具戒，力學無對。入天封三年，畢閱藏典，謁神炤，深契教旨。為人恭默自遜，神炤託疾，命代宣，眾一聆而心服。初住赤城，崇善李庭芝守台，夢神人曰：公典天台五祖，臺下有龍頭九九，和上宜就見之。諮詢莫喻。有識者謂李曰：天台五祖昔居赤城，今咸師住此，生于丙辰九月九日，其龍頭九九之謂乎？李大愕，即命駕造訪。師為談出世道，深有契會。以寺宇隘陋，謀遷之。李捐金十，就東南地開址，獲銅磬於土中。繼主白蓮。師居山五十年，登門受道者以萬計。元祐元年正月，法鼓擊之不鳴，師曰：吾將行矣。期以晨鐘，時寂然而化。
處謙，生永嘉潘氏處胞三年。九歲出家，謁神炤，大明圓頓之旨，然三指供佛，祈妙悟。未幾，擢居第一座。炤以止觀一帙授之，曰：汝當建大法幢，恨吾不之見耳。後屢主大剎，道化隆振，旨署神悟之號。丞相王安石與一時朝賢競為歌詩，以贊其德。郡大旱，師至龍湫，為龍語，忽大風，黑雲從湫起，驟雨如注。師四十年中，十坐道場，講唱無倦，登門受法者三千人。熙寧乙卯四月，集眾諷普賢行法阿彌陀經，乃曰：吾得無生日用久矣，今以無生而生淨土。遂寂。弟子塔其全身，楊無為為之銘。師與咸同出神炤，人稱神炤之門，二處一身云。

慧辯、思義傳

慧辯，字訥翁，號海月，華亭傅氏子。生而顖異，父母令入普炤出家。初遊學天竺，扣明智之室，盡心於教觀。智將老，命代述八年，遂繼其席。適翰林沈時卿以威猛治杭，見者無不惶慄失據。師與相對，從容如平生。沈異之，任以都僧正。時東坡倅杭，為序以送之。師容止端靖，不蓄長物。盜夜入其棲，脫衣與之，使從支徑去。講授二十五年，學者嘗及千人。晚年倦煩，以六事隨身，歸隱草堂。將順寂，遺言須東坡至方闔龕。四日，東坡至，見其端坐如生，頂尚溫，乃作三偈以哭之曰：欲尋遺蹟強沾裳，本自無生可得忘。今夜生公講堂月，滿庭依舊冷如霜。生死猶如臂屈伸，情鍾我

輩一酸辛。樂天不是蓬萊客，憑仗西方作主人。欲訪浮雲起滅因，無緣却見夢中身。安心好住王文度，此理何須更問人。
思義，字和甫，與海月同出明智之門，難兄弟也。智嘗開幃出十問，師答之皆契旨。及智退居草堂，眾送入室。既散，師猶侍立。智曰：爾適何見？答曰：見。大眾拜而退。智曰：來，吾語汝。汝行當住此山，紹隆大教，後亦來居此室也。未幾，丞相蘇頌帥杭，請居天竺。弘道二十三年，退閑草堂，皆如智記。熙寧四年，賜紫服，號淨慧。元祐三年二月十八日，別眾安坐而逝。大眾誦念久之，忽復語云：侍觀音大士行，見一沙門，金色，長身垂臂，謂我曰：報緣未盡，過七日當遣迎。至二十五日，復跏趺而化。

淨梵、齊玉二師傳

淨梵，嘉禾人，姓簟。母龔氏，夢佛光滿室，遂有娠。及生，因名佛護。十歲出家，嘗念阿彌陀佛。或問：年少何遽爾？師曰：我欲往他方丈求掛搭去。十八受具戒，即依超果湛公。復謁神悟，屢親講說，大契宿心。元祐初，主姑蘇大慈，講三大部十餘過，餘文稱是。稟師戒法者，幾滿城邑。嘗率二十七人修法華三昧，以二十八日為期，如此三會。感普賢大士授戒羯磨，至稱淨梵比丘，則洪聲震響，如撞巨鐘。師禪觀之處，眾嘗見金甲神跪於座前。有時一處行懺，見韋天按視懺堂，行人有遭其點察者，輒障起而退。政和中，太守應公婢為祟所嬈，歌笑不休，請師施戒，即刻神定。信女葛氏請為亡夫施戒，即見夫旋繞師座，稱得解脫。嘗夜居西院，君酷暑，眾不安臥，師方披三衣坐水閣上，忽風雪飛集，凉氣逼人。旦謂眾曰：夏行冬令。眾皆嘆仰，知為神龍翊衛，變熱為凉也。宣和初，郡守賈公敬師高行，補為管內法主。
齊玉者，雪川人，尚書莫公支子也。早親釋學，日記數千言，屢參明師。一日赴僧次，遜辭之。或問其故，答曰：誠不欲五千之利，而喪一日之功。居苕溪寶藏，每于歲終，大興淨業之社。遷橫山，立丈六像，率道俗修行。中夜告眾曰：我輩未念佛時，心隨塵境，作諸不善。犯一吉羅，尚受九百千歲地獄之苦，況犯篇聚重罪乎？今若念佛，則可一念能滅八十一劫生死之罪。況又父母生我，令我出家，理當度脫，以報重恩。今若破戒墜陷，則父母豈不失望？大眾聞之，無不傾誠懺悔，舉身自撲，至損額失聲者。嘗中夜頂像行道，偶一僧失規，責之曰：汝無知，乃畜生耳。已而悔曰：彼雖不肖，罵為畜生，有玷三寶。自是三年，對佛悔過。歲大旱，井竭，師運密禱，夢水出西坡。旦掘之，清流涌出，因名夢泉。二師同建炎元年遷化。

從義傳了（睿附）

從義，溫之平陽人，姓葉氏。十七通經，得度學扶宗，深得教旨。出世屢遷鉅剎，晚主秀之壽聖，大闡宗風。師雖以圓頓為門，而于戒科猶事謹篤，六時三業之間，必使纖悉如法。憲使劉燾記師行業云：端戒清白，不妄遊從，寤寐三觀，躭味著述。過午不食，非法不言，非右脇不臥，非濾水不飲。行步有嘗，坐立如植，未嘗求公卿之知，可謂賢也已矣。秀有士族請師禱疾，師命其徒了睿侍往。及歸，師正色責之曰：汝為純厚，吾故攜汝，往何為俗舍？左顧右盼，睿謝過而已。其處身律物，嚴慎如此。元祐六年春示寂，瘞舍利于錢唐寶藏，謚曰神智。師著作十餘種，數萬言，皆詮釋教義耳。

了睿，秀人。亦有道士思溪王氏，屈睿為亡女呪食。適河冰，船不可渡，乃遣人報，令設座於斛前，即船上遙為呪願。事已，忽一女至船，禮足為謝云：已得超往。因留物為記，忽不見。次日，王君至船，見物驚曰：此亡女入斂時所御也。

圓明大師演公傳

無演，天彭張氏子。幼英烈，不甘處俗。十五棄家，事承天院寶梵大師昭符。符記之曰：此子他日法中龍象也。二十以誦經落髮，受首楞嚴於繼靜。靜歿，卒業于惟鳳文昭，受圓覺肇論于省身，受華嚴法界觀起信論于曉顏，受唯識百法論于延慶。凡此諸師，皆聲名藉藉，師必妙得其家風然後已。又從諸儒講學，於書無所不觀，於文無所不能。趙清獻公挽師登法席，於楞嚴了義，指掌極談，聞者如飲醇酒，無不必醉。既於此經心融形釋，復出入內外篇籍，如風行電激，所向如志。又嘗問道於禪師惟廸、惟勝，師嘿然心許曰：此自在吾術內矣。又作大悲觀音化相宇以崇閣，極天下之拘工珍材，二十餘年乃成。人以為莊嚴之冠，不知師之遊戲也。中年喜葛洪內篇，延異譎士，將以丹石伏物，皆為黃金，或取其金而畔去。師不悔不怒，他日遇之，視之如初。此可以觀其德性也。寶梵既歿，二親又耄期去世，乃南遊曰：吾聞南方大士，有若祖心，有若克文，有若善本，皆命世亞聖大人也，不可不行觀道焉。元符三年三月，道出戎州，憩渝州覺林禪院，不疾而化，僧臘三十有七。其法子奉師遺骨，藏於寶梵塔之西。有志不果，遽厄於數，惜哉！

令觀

令觀，莆田黃氏子。十三出家廣化寺，十八受具，通易、孟子、莊、老諸書。已而撥去，聽講大乘經論。他日讀楞嚴經，駭然大悟曰：世徒傳當年圓覺之圭峰，何知不有今日楞嚴之我耶？未幾，得寺之安養院，折笻坏戶而居之。標尚質素，語終日不妄出身，非有迫致，或竟歲未嘗倚閭閱大藏經。更數返，雖老益力。又天性慈甚，哀病者而急阨窮，呪食放生無不為者。貲不逮，必解衣就質無難色。事佛，朝香夕燈者五十年，不驅蚊，不搔餒蝨，不以匡眾為己任。人或戲之曰：憊乎！觀公奚事爾為？師曰：吾非憊者，正恐坐此得憊耳。其密意警人類如此。忽一日示疾，語其徒曰：有六上人當過我，亟具茗果。眾疑師屬疾語迷謬。既而人有賈像自遠至者，物色之，正六，則傅金羅漢也。是夜沐浴，黎明更衣，敷座與眾別，勉以無負佛祖。語已，抵掌就寂，實元祐三年八月也。住壽九十一，僧臘七十三。居三日，頂猶溫茶毗于寺之北岡，火行，異香收燼，得舌根不壞。其徒塔之夜，有光炯然，自茶毗所屬塔中如往還狀。又三日，現金銀色舍利環五里餘，尺草寸木悉發光曜，麗石相土無不得者而不窮也。旁近居民至取以售用，奇矣，盛哉！則師生平功行存養之實可知矣。

成覺、慧悟傳

成覺，代州張氏子。方學語，能誦金剛般若，父母異之，攜送善住院希公為童子。希公道望赫然，賜號慈懿大師，移住清涼寺。慈懿以師親侍日久，心知為法器，一日謂之曰：古人謂出家為大丈夫，所以為大丈夫有四事：近知識，問正法，思義理，如說修行是也。後生可畏，無以吾老滯守一隅，爾其行乎！由是徧訪師匠，依明教大師最久，故於惟識一宗，洞明底蘊，後大弘其道。時人謂慈懿以知人有子，明教以傳法得人。師嘗示學者曰：學道人持心有三要：曰大，曰專，曰遠。大則佛祖得處，我必得之，不為人天小利所牽；專則惟究一事，不為名相所引；遠則以證為期，死而後已。具此之心，必能至道，務實去華。其言大率如此。年八十而終。

慧悟者，生行唐李氏。其伯每日誦妙蓮華偈，洎終火化，舌根不壞。悟母嘗夢其伯母執蓮華一莖授之，遂有娠。師生，容面端整，舌長覆鼻，音聲宏朗。為五臺真容院僧，戒慧精明，時無有兩。元祐初，詔入內庭，宣闡稱旨，賜紫衣僧正之職，師力辭獲免。崇寧改元，復被詔赴京，固以老病辭，至使者往返乃行。次佛道店，謂使者曰：既逢佛道，吾將歸矣，為吾謝天子。言訖，仡然而化。

晉水法師傳(附誠法師、義天僧統)

淨源，字伯長，楊氏子。生而敏慧，依東京報慈寺海達大師得度，奮志參尋。初受華嚴于五臺承遷，次見橫海明覃，後謁長水璿法師，盡得華嚴奧旨。四方宿學推為義龍，聲譽籍甚。開法泉之清凉、蘇之觀音、杭之祥符、湖之寶閣、秀之善住，屢坐大道場，闡揚圓頓極旨。左丞蒲公守杭，尊其道，以慧因院易禪為教，請師居之，道風大振。師筆力遒勁，合華嚴證聖、正元二疏為一，以便觀覽。製華嚴、楞嚴、圓覺三懺法，及作法華集義通要十四卷，又疏解仁王般若等經。

義天者，高麗國王第四子，辭榮出家，封祐世僧統。元祐初入中國，上表乞傳賢首教，歸朝弘揚。敕有司舉可授法者，以誠法師對。

誠法師者，住東京覺嚴寺，講華嚴經，歷席既久，學者依以揚聲。其為人純至，少緣飾，高行遠識，近世講人莫有居其右者。上表舉師自代曰：臣雖刻意講學，識趣淺漏，特以年運已往，妄為學者所推。今異國名僧航海問道，宜得高識博聞者為之師。竊見杭州慧因院僧淨源，精練教乘，旁通外學，舉以自代，實允公議。上可其奏，遣朝奉郎楊億館伴至慧因受法，諸剎迎餞如行人禮。初，華嚴疏鈔久已散墜，義天持至咨決，遂得復全。義天業就還國，留金書華嚴三譯本一百八十卷于慧因，師乃建閣奉安之。時稱師為華嚴中興之祖，師之道遂大行海外矣。元祐三年冬示寂，茶毗獲舍利無數，塔於院西北，壽七十有八。義天念法乳，遣侍僧壽介等過海致祭焉。師先世泉之晉水人，故學者稱晉水法師。

有嚴傳

有嚴，台之臨海胡氏子。母將孕，號痛頓什。其兄沙門宗本曰：是必有異。若生男，當出家。母聞，合掌以許。既而痛止，果生男。六歲從師，十四受具戒。閱壽禪師心賦，若有所悟，即往東山謁神炤。於一心三觀之道、法華三昧之行，莫不神解而躬行之。嘗讀止觀至不思議境，曰：萬法惟一心，心外無一法。心法不可得，是名妙三千。初主無相慧，因法真自赤城遷東掖，舉師以代。嘗謂：去佛久遠，人迷自性。凡宣演之際，必近指一心，使之易領。聞者皆能有入。紹聖中，郡請主東掖。師曰：智者年未五十，已散徒眾。吾老矣，可堪此耶？卒不赴。隱居故山東峰，廬于樝木之傍，因自號樝菴。一鉢無長物，躬拾薪汲水，食唯三白。二十年中，專事淨業，以安養為故鄉。作懷淨土詩八章，辭情凄切，人多樂誦。母病目，師對觀音想日精摩尼手，母即夢神擎日當前，覺而目明。師於三昧中多獲瑞應，不可枚舉。建中靖國元年定中，見天神告曰：師

淨業成矣。又夢池中生大蓮華，天樂四列，乃作餞歸淨土之詩。越七日，趺坐而化。以陶器塔於菴北，有光在塔如月形，三夕乃沒。

智圓

智圓，字無外，錢塘徐氏子。學語即知孝悌。稍長，嘗析木濡水，就石書字，列花卉若綿蕝，戲為講訓之狀。父母異之，令入空門受具戒。二十一，聞奉先清公傳天台三觀之道，負笈造焉。二年而清亡，遂往居西湖之孤山，杜門樂道，自號潛夫。與林處士逋為鄰友，雅善病，又號病夫。師嘗嘆荊溪歿後，微言墜地，曰：吾何人也？于是著十疏以通經，述諸鈔以釋疏，翼贊弘宣，其功偉矣。師雪骨冰心，傲然物外，視人間之世，如纖塵過目，了不關懷。時王欽若撫錢唐，慈雲遣使邀師同往迓之。師笑語使人曰：為我致意慈雲，錢唐且駐却一僧。聞者嘆服。於講道之外，以詩文自娛。有襍述五十卷，題曰閒居編。以乾興元年二月十七日，自作祭文挽詞。越二日示寂，年僅四十有七也。預戒門人曰：吾歿後，無厚葬以罪我，無建塔以誣我，無謁有位求銘以虐美我，但用陶器二合而瘞，立石志名字年月而已。及亡，門人如所戒，斂以陶器，斲所居巖以藏之，不屋而壇。後十五年，積兩山頹，門人開視陶器，肉身不壞，爪髮俱長，脣微開露，齒若珂玉。乃更襲新衣，屑眾香散其上，而重瘞之。崇寧三年，賜謚法慧大師。

補續高僧傳卷第三

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

義解篇

宋　中立傳

中立，鄞之陳氏子。母夢日輪入懷，遂有娠。夜不三浴，則啼號不止。九歲出家，受經一誦，永憶不忘。治平中，試經開封得度，依神智於南湖渡。神智開幃設問，答者二百人，無出師右。及神智謝事，乃俾師為繼。元祐初，高麗僧統問道中國，甫濟岸，遇師升堂，歎曰：果有人焉。遂以師禮見。師令門徒介然，始作十六觀室，以延淨業之士。已而辭去，曰：吾年六十，當再來。即退處東湖之隱學。數年，郡太守王公勉主寶雲，一新棟宇，於伽藍神腹得願文云：後百年，當有肉身菩薩重興此地。聞者異之。後退隱白雲菴，日宣止觀，至不思議，歎曰：吾道至此極矣，有不思議境，則有不思議心。乃作不思議辯正，又作止觀裂網、指歸釋疑。文慧正師亡，郡請再主延慶，果符六十再來之言。嘗升座說法，慈霪無盡。下座問侍者曰：吾適道何語？侍者答以所聞。師曰：吾覺身心同太虛空，殊不知語之所出也。政和五年四月示寂。師講三大部，淨名、光明數十過，誦法華踰萬部。與人除病、却鬼、救灾旱，不能畢記其驗。於孔老之書，無不徧讀。其對儒士講說，則反質之曰：此道在孔聖如何？在詩書如何？儒士不知對，則援引委辯之曰：無乃若是乎？聞者心服。師在永嘉，扶宗謂曰：吾嘗見摩利支韋馱於夢中求護法。他日幸於南湖，懺堂置其位。及師主席，乃立像自師始。陳瑩中嘗贊師曰：嚴奉木叉，堅持淨慮。以身為舌，說百億事。師謚號明智。

有朋傳

有朋，泉州南安蔣氏子。丱歲試經中選，落髮歷講肆，為寶林宗巳門學士，有聲。每疑禪宗直指之說，故多與禪衲遊。一日謁開元琦禪師，足未及閫，心忽領悟。琦出逆問曰：座主來此何為？答曰：不敢貴耳賤目。琦曰：老老大大，何必如是？答曰：自是者不長。琦曰：朝看華嚴，夜讀般若即不問，如何是當今一句？答曰：日輪正當午。琦曰：閑言語更道來。答曰：平生仗忠信，今日任風波。然雖如是，秖如和尚恁麼道，有甚交涉？須要新戒草鞋穿。琦曰：

這裏且放你過。忽遇達磨問著：如何道？朋便喝。琦曰：這座主今日見老僧氣衝牛斗。朋曰：再犯不容。琦拊掌大笑。朋以利生非細事，諸方挽之皆不就。東林總禪師貽書云：頓棄糟醨，已云無味。方知日月，別是一天。非惟碧眼胡人不虛徂東，抑亦吾家宗派見其渺漫矣。或又勸進云：豈謂自高，未諧前請。雖獨善之風可尚，而接物之理未聞。朋不從。以宣和六年跏趺而逝。

下有朋，金華人，此泉州人，化時亦不同。下乾道年，此宣和年，傳燈稱講師，恐相混，預筆於此。

宗坦傳

宗坦，襄陽黎城人。出家於延祥院，事道恭為師。圓具後，遍遊講肆，通經論，為時所稱。於圓覺十六觀等經，皆具疏釋。由是五十年，以圓頓作門，夜禪晝講，開發良多。晚年駐錫襄陽，專修淨土。時說淨土觀門，曉示里俗，聽者如雲。又於唐州青臺閉關習觀，日益勤至，三業四儀，未嘗暫忘。大都師之化人，人之從師化，皆視力行，非徒言說耳。政和四年四月二十七日，忽佛現夢中，告曰：淨土已成，餘緣秖有六日，無自怠。次日不豫，猶唱警策。至五月初四日，聲鐘告眾曰：勝緣在邇，惟憑時刻，幸大眾念佛助往。俄而雷鳴，白雲覆庵，作兜羅綿狀，寂然而逝，異香三日始歇。

道琛傳

道琛，溫之樂清彭氏子。母夢紫氣縈身而生。年十八，具戒學教於息庵，微言妙旨，一聞便領。歸鄉弘法，適高宗幸永嘉，有旨以林靈素故居為資福院，丞相呂頤浩以師應詔。凡前後三坐道場，化緣不衰。於禪定中見四明垂示，行法華懺，感普賢放光，自是慧辯益進。一日講至六羅漢義，學者請說，斥之曰：小乘法相，說之何益？當為說經王義。聯翩三日，一語無重。以紹興二十三年示寂，說偈曰：唯心淨土，本無迷悟。一念不生，即入初住。諡曰圓辯。師高德碩行，與雪竇大圓、育王諶二禪師為道交。二老深敬之，實有以動之，不徒辯說而已。師居山匱糧，嘗以僧伽梨質米於市，夜見流先煜煜，送還光乃已。苦無水，指工鑿之，泉隨鑿涌。樂清江岸每以頹倒為患，咸謂鬼物所釁。師為神授戒，後遂凝然無恙。其將主南湖也，門人清順夢延慶諸祖來謁，侍者持位圖於傍，而缺第八。順指問之，對曰：汝師將補其處。及後居南湖，果第八世。噫，豈偶然哉！

了然傳(智仙附)

了然台，臨海薛氏子，處胎十三月而生。十六具戒，從安國惠師學教，觀得要領。嘗夢坐盤石，泛大海，望大士坐山上竹林間。師正立說百偈以讚，覺憶其半，自是頓發辯才。侍安國遷白蓮，未幾去謁明智，凡有所論，皆首肯之。因舉住廣嚴，師曰：吾不當負所得。卒為安國嗣。居山二十四年，學者嘗五六百人。紹興戊午，寧海建大會，有使者持牒來曰：兜率天請師說法。師曰：此間法會未終。使曰：符不可緩，當先其次者。即毀師名而去。辛酉五月，夢兩龍戲空中，一化為神人，袖出書曰：師七日當行。師唯唯。既寤，集眾說法，且曰：因念佛力，得歸極樂，吾徒勉之。即沐浴更衣，與眾同誦阿彌陀經，至西方世界而逝。眾聞天樂騰空，祥光四燭。葬東岡，錫號智湧。師平生多異跡，郡祈雨於玉溪，眾苦路險，師呪龍使移之。是夜風雨大作，旦見潭在所指夷坦處。
與師同叅安國，有曰智仙者，亦精心靜業。臨終，眾聞佛聲沸天，天樂盈耳，可謂難兄弟也。

如湛傳

如湛生，永嘉焦氏。幼年試經得度，力研教乘，往依車溪卿公。時眾已多，無所容，惟小室如斗，安之不以為隘。劇暑埋大甕，實以寒泉，與四友背甕環坐，以挹其爽。如此數載，眾戲目小室為五瘟堂。後叅慧覺，晝夜潛心，盡得教觀之妙。初主車溪壽聖講，餘課法華一部，佛號二萬聲。有求為知事者，以非器不見用，憾之。夜懷刃入室，則見官客滿座。次夜復入，則昏黑失路。又往，才入室，見十數人皆同師形，其人媿恐而遁。平時少睡，夏月坐草莽中，口誦法華，袒身施蚊。門人謂師年高，宜息苦行。師曰：翾飛之類，安得妙乘？所冀啖我血，聞我經，以此為緣耳。後人因表其處為餧蚊臺。晚歲謝事，居閒一小菴，日熏淨業。紹興庚申，端坐念佛而逝。闍維，得五色舍利。

法久、睎顏二師傳

法久，生餘姚邵氏。久遊教苑，後咨心要於徑山大慧禪師。嘗令師舉境觀之旨，每見稱賞，因謂之曰：教苑人稀，宜勉力弘傳，以光祖道。既而慈溪盧氏以圓湛致請，學眾四集。紹興十三年，郡命居清修，泉清石潔，人境俱勝。嘗患後生單寮多弊，乃闢眾堂，作連床鋪褥，如禪林之規，以身率先，眾莫敢怠。說法機辯，有大慧之

風。有不能領者，謂師談禪。寺左曰獅子巖，創堂名曰無畏，日住其中，誦法華、楞嚴等七經，十九年不輟，無疾而化。師在徑山時，有王侍御女早喪，每附語，令請高僧誦法華超薦。大慧命師往，方升座演經，侍御忽有感悟，是夜亡。女夢於父曰：承法師講經力，已得生處矣。侍御因作一乘感應記。嗣師法者曰：
睎顏，字聖徒，奉化人。教鸞禪府無不咨詢，三教百家無不綜練。無畏亡，自撰塔銘文以寄得法之意。師志氣剛正，廣眾畏服，且文藻高妙，後進愛慕，自是名播天下。不惑之前，所寓必居記室；知命之後，所至必踞座端。諸方屢舉出世，皆固辭不就。嘗步菜畦，見墾掘殺傷之多，遂不復茹蔬，惟買海苔三百六十觔，日取一觔供粥飯。晚歲自省文字，餘習無補於道，乃住桃源厲氏菴，專志念佛，一坐十年，精進不懈。謂友人張漢卿曰：淨土之道，豈有一法可得？珍臺寶網、迦陵頻伽，此吾佛方便誘掖之法耳。但於修中不見一法，則寂光上品無證而證。師隱居之日，有司以免丁追，識者誚之曰：天下豈有讀萬卷書為高士行，猶欲以丁錢責之耶？主司聞之，事遂已。

思炤、覺先傳

思炤，出錢塘楊氏。幼聽法華經，有契入，刺血書之，專修念佛三昧。築小庵曰德雲，後連小門，為觀落日之所。每夕過午，即起念佛，三十年如一日。於宣和元年，忽夢佛來迎。七日後，端坐屈指，作印而化。師平生於誦禮一門，最為勤懇。淨土七經，一字一禮。華嚴、首楞嚴、金光明無量壽、普賢行法遺教、梵網無量義等經皆然。惟法華十過，總得二百七十卷。誦法華千部，無量壽佛經五藏，阿彌陀經十藏云。
覺先，四明陳氏子，號澄炤。七歲受經，一讀成誦。後住奉化之寶林。會奉旱，邑請講金光明，終卷而雨三日。因勉邑人建光明幢，誦經萬部，為邑境之護。次住延慶，道大弘。久之，復歸寶林，築室曰妙蓮，亦誦萬部，持佛號四十八藏，摘經疏名言以資觀行，目曰心要。紹興十六年正月說法，安坐而逝，塔於寢室之側。它日，有夜聞誦經聲，迹所自出塔中。後月堂居南湖，謂師於延慶有傳持之功，而塔在草莽，乃令遷之祖壠。及開土，見拴索不朽，骨若青銅。

宗利傳(若水附)

宗利，會稽高氏子。七歲受業於天華，夢往靈芝謁大智律師受戒法，智呼宗利名，口吐白珠令吞之。又嘗於淨定中神遊淨土道場，晚還天華，建無量壽佛閣接待雲水。天旱，詣日鑄山帝舜祠祈雨，感龍現金色身，雨甘沾足。建炎末，入道味山，題所居曰一相庵。會稽道俗請師主繫念，至第三夜繪像，頂珠放光大如箕。紹興十四年正月晦，告弟子曰：佛來迎我也。遂書頌曰：吾年九十頭已白，世上應無百年客。一相道人歸去來，金臺坐斷乾坤窄。擲筆而逝。若水者，三衢人，課密有神功。祖忌將臨，戒庖人備芽笋，庖以非時笑之。至日暮，師嘆盂水後圃，夜聞爆烈聲，詰旦視之，笋戢戢布地矣。且能以呪水救疾，全活者夥，不知所終。

與咸、圓智二師傳

與咸，字虛中，黃巖張氏子。住上竺。持戒修身，時稱第一。然以淨土為歸。常曰：佛國在十萬億剎外，而提封不越方寸。若克循觀道，則往彼非遙也。後遷赤城。嘗於法輪寺施戒，當請聖師眾。覩寶光下燭，有梵僧立空表。禪宴之餘，常諷空品。至本性空寂，則入定數日。至死生無際，則大慟不已。其體法真切若此。一日萬年一禪師來訪，見床上小冊記。回買嘗住物，一錢不遺。嘆曰：我於道無媿，行不及師。郡太守入山，見池中紅蓮。問曰：既是白蓮，因甚却開紅華。師曰：山中并喜君侯至，任是無情亦改容。又指看經羅漢曰：既是無學，如何看經。師撫羅漢背云：何不祇對。其慧才辯妙又如此。隆興元年圓寂。茶毗獲五色舍利無筭。所著有菩薩戒疏。師精於易，因名以卦，別號澤山叟。

圓智生，林氏，亦黃巖人。傳天台教觀，居東山十有四年，兩剎千眾推為前列。然篤於律科，每半月必行布薩。或曰：圓頓之宗何必如是？師曰：圓家事理一念具足，豈撥事求理耶？吾於嘗時未嘗不以波羅提木叉為師，扶律談常正在今日。紹興間被旨主上竺，灾燼之餘僅存大士殿。有裒金為造門廊者，曆家言主星不利，師曰：佛與天星同一造化，苟寶坊輪奐，吾亡何憾？未幾果微恙，夢仙人飲以天液，所患隨愈。夏旱，詔師講經於明慶，席散而雨洽。嘗抵寺莊，聞用牲祭土地，曰：何可違佛禁耶？即為神說戒，易以素饌。後示疾書偈，坐亡。好事者以夢徵師為天台五百羅漢之一，云其或然耶？

智連傳

智連，字文秀，四明人。年十八受具戒，古貌修幹，有長松野鶴之態。後智涌頓悟圓旨，出世歷住五剎，皆兵燬之餘，化瓦礫為金碧，出於顧指。時圓辯重興延慶，未就而逝。師適訪宏智，同登千佛閣。智曰：聞四明談空中有相，是否？師曰：然。智以手指云：太虛本無一物。師指山川樓閣曰：此諸物象復是何物？智大服其言，即薦於郡。領事十年，講無虛日，而眾宇畢成。太師史真隱佚老於鄉，每過從問法要。真隱曰：師於禪律亦貫通耶？師曰：氷泮雪消，固一水耳。又問：華嚴、般若似太支離。師曰：支離所以為簡易也。真隱肅然服。郡帥丞相沈公屈居僧職，以老病辭。公手札勸之曰：師行業清修，力荷宗教，自宜表正一方，紀綱諸剎。幸勿固辭，自潔其志。師即領命，諸方服其清整。一日感疾，謂侍人曰：一切無礙人，一道出生死。復撫掌大笑曰：我自幸生此，鐘鳴吾逝矣。時隆興元年十一月十八日，火浴得舍利葬焉。論者謂師亡日如知所歸，遂儗史彌遠為師後身云。

道因傳(附小因)

道，因號草庵，四明薛氏，視法智座下粲法師為叔祖。其孕也，母夢粲披幃而入，寤而生明，發而訃至，咸知其為後身云。掌有圓相，掬之如環，足下奇文，雙魚宛示。十七具戒，坐夏南湖，有問以教義者，徐為釋之，正與文合，識者知其宿習。明智居寶雲，往學焉，已而教庠禪室，無不足也。因讀指要鈔，深有悟入，自謂存則人，亡則書，遂直嗣四明，治台者以是少之。出世屢移講席，晚主延慶，以乾道三年念佛說偈而化，葬全身於祖塋。師道貌嚴毅，辭辯如瀉，有嬰其鋒者，謂登龍門。薛清卿澄者，師俗姪也，贊師有云：於道最高，裂衣冠而罔恤；有疑不決，械囹圄以須爭。師可想而見也。嘗居城南草庵，因以自號。學師盡得其旨者，曰：法因以與師同名，時稱為小因。主廣壽三十年，晝夜講演，未嘗一至檀門。每施者至，輒竦媿自嘆曰：比丘之法，丐食活命。我何人哉，坐奪勤苦之利。却而還之，不得已受其少分。所居弊漏，將新之，曰：此軀尚無常，何事外物為。一日集講，侍者報眾赴請未回，師曰：虛空諸天正欲聞法，何必眾集。即擊鼓升座。紹熙四年示疾，于定中有所見，謂左右曰：吾覩法華道場，與平時所見異甚，吾將行矣。稱佛端坐而化，痊於寺東。

慧詢傳

慧詢，字謀道，號月堂。其先永嘉陳氏，寓居四明昌國之朐山，母夢異僧而娠。八歲出家祖印院，初授法華數遍，即能成誦。嘗歸省，祖母諭之曰：汝已去家，當學吾州忠佛子。初謁南湖澄炤，以卓立稱。至東掖，有忌之者，群譟之。師曰：佛法大義，有疑即問，何必見嫉。即往依圓辯，聞性惡即具之旨，名體不轉之妙，一家圓頓，深有悟入。紹興末，出主法昌，遷淨名普和。嘗持鉢海岸，遇盜，師正色曰：汝輩所欲者財耳。盡與之，因諭以善惡業報，盜為感動歸物，悔過而去。淨名無徒，每對海山為鬼神講維摩經，屢感神應。乾道五年，遷主南湖，負笈之士自遠而至，幾莫能容。丞相魏[木*巳]與師為道契，嘗問世間相常住之旨，師曰：得非以四時代謝為疑乎？曰：然。師曰：窮過去，極未來，雖有代謝，而此理常住。淳熙六年冬，忽告眾示疾，慰問者群至。見門學則勉其進德，士官則囑其護法，聞者悚然趺坐，泊然而化。眾以歷代窆全身，唯剃髮以酬師志。逾月，視其髮，舍利可掬。師坐必端直，行不傍視，雖靜處密室，必披袈裟講說，不事著述，學者多於聽次筆記之。禪課有常，未嘗以事廢制。學者未二十夏，不許出世，躁進之風為之一戢。

系曰：月堂傳道，直欲追配古人，非徒塞責。每曰：以語之相似而證其言，以資之善記而駕其說，皆非所以說法也。惟自悟心宗而宣演之，庶得祖師之傳。吾求悟門，切勿自畫。習台人大病處數語，道盡月堂知本矣。

若訥傳

若訥，字希言，嘉興孫氏子。初依竹庵，次謁證悟於赤城，命首眾座下。暨悟化，遂嗣師道，道大弘。乾道三年，孝宗幸上竺，展敬大士，師接候稱旨，授右街僧錄。因詔於山中建十六觀堂，仍倣其制，作堂於大內。即詔師領徒五十人，於四月八日入內觀堂，修金光護國法。上問曰：佛法固妙，安得如許經卷？師曰：有本者如是。上然之，進左街僧錄。九年召對，選慝殿，問大士歷代靈迹及法華經旨。上曰：最初得師發明此事，遂以圓覺悟得法門。譬如著棋，勝負既分，不但并去綦子，綦盤亦須一時并去。師曰：并去者亦不可得。上曰：宗說俱通，其師之謂。有詔令講圓覺，至此虛妄心若無六塵處，師曰：心本無形，因塵有相。塵滅心滅，真心湛然。上手書其語以賜。又問金剛之義，答皆稱旨。上曰：朕日讀此經，今更命眾合誦三萬卷。乃降劄云：平昔以來所食禽魚之類，傷害為多。今仗般若為除此過，庶使群生俱承解脫。時沂王尚幼，上召師入禁中，為王說法摩頂。因以疾乞閒，上曰：且賜地築室，更

數年彼此作閒人，水邊石上共說無生。淳熙十一年，退處興福，特授兩街都僧錄。時光宗在東宮，書歸隱之扁賜之，仍製贊以稱其德。及上退養重華宮，召注金剛經。肩輿登殿，止宿殿廬。注成以進，上披覽益有省發。紹興二年十月旦，謂侍人曰：吾宗通法華，宜以此終。乃集眾修法華懺，取道具進兩宮，端坐而化，壽八十二。塔於正寢，賜宗教廣慈法師普炤之塔。

擇卿、可觀、有朋三師傳

擇卿，天台人。天資聰敏，博學強記。受教於上竺慈辯，嘗曰：四明旨意吾已得之，惟起教觀信之未及，然不敢不信也。初主車溪壽聖，未嘗屈節豪貴，徒眾三百施者自至。年三十後即廢卷禪坐，每遇講演但令侍者日供講帙，辯說如流，聽者說服。慧解、曇應領徒至車溪，值說無量義經，聞之謂同行曰：此師言有典刑，足堪問道。即求依止。有不循規者悅眾以聞，詢其名，指言有朋可觀，師置勿問。觀字宜翁，華亭戚氏子。年十六具戒，聞車溪聲振江浙，負笈從之。一日聞舉唱云：般若寂寥。忽有悟入，如服一杯降氣湯。師聞而心服。玉慧覺有橫山，命師偕行，讀指要至若不謂實，鐵床非苦、變易非遷，歎曰：語言文字皆糠粃耳。建炎初主嘉禾壽聖，遷當湖憩藏，居閱世堂，為楞嚴補注。霅以祥苻延閱二載，以疾返當湖南林，一室蕭然人不堪之，乃曰：松風山月，此我無盡衣鉢也。乾道七年，丞相魏[木*巳]出鎮姑蘇，請主北禪。入門適當九日，指座云：胸中一寸灰已冷，頭上千莖雪未消。老步只宜平地去，不知何事又登高。魏公擊節不已。次以皇子魏王命主延慶，時已八十九歲，行李寂寥，人所歎服。不二載，仍歸當湖，自題其像曰：維摩詰不壞於身，而隨一相。老竹菴壞與不壞，初無欠長。到處江山風月，不是這個伎倆。淳熙九年二月，無疾而逝。師五住當湖，皆退隱於竹菴，因以自號。大慧杲嘗過之，對語終日，歎之曰：教海老龍也。師見齋房安像，即誡之曰：汝起居無禮，說無益語。少時焚香之敬，不補終日媟嫚之罪。其謹慎微細如此。朋，金華人，自號牧菴。一家教文，背誦幾半，盡得車溪之道。主僊潭，徙能仁，講道日盛。晚主延慶，於方丈扁一室曰六經堂，中設一几，而初無文字。士大夫怪其誕，眾至寺，欲屈之。師令侍者先語之曰：諸賢欲何相見？若賓禮，則對坐商略。若請益，則侍立發問。若索難，則客先伸三問。咸曰：乞從賓禮。及對語，援引不已，乃知六經在胸中也。每臨講，不預觀文。嘗曰：我七番講止觀，於正修中未嘗道著一字。又曰：大部中欲作一難，如片帋大亦不成。所謂文字性離皆解脫也。或問：十境十乘方成觀法，荊溪何

云不待觀境方名修觀？師曰：向伊道攝事成理了也。又問：圓頓教中為立陰否？師高聲一喝云：陰入重擔掌自現前，何更問立不立？且御眾厲而簡。左右或欲師白堂整眾者，師曰：吾所以不數數告眾者，是有意也。不見道頻雷天失威？乾道四年十二月，坐青玉軒集眾念佛，端坐而逝，稟法弟子甚眾。師自博強記，不畜科策，嘗謂同學竹菴曰：天下只一個半座主，老兄秖半個。問：何為半個？師曰：不合多幾個紙策也。在僊潭日，竹菴來訪為上講，師讀大科竟，即收帙曰：宗師在座，不敢文文。其對尊宿之禮尚謙如此。二師為學時，車溪夜坐方丈，聞廊廡有天樂聲，遣人跡之，聲出師房，車溪附壁隙窺之，見二師於燈前相戲，舉手作無聲樂，車溪益奇之，故臨終以法道相寄。

觀塔在德藏西北隅，為築城所夷。知縣謝良弼夢一紫衣老僧謂曰：我竹菴也，以塔累公。謝尋訪果得塔，因為繕治，復立石表之。

慧定、子猷二法師傳

慧定法師，字寧道，姓王氏，世為紹興山陰人。幼歲從錢清保安院子堯道人得度，出遊四方。從道隆師會景，從三師授華嚴義，盡得其說。至超然自得，出入古今，不妄隨，不苟異，三師葢莫能屈也。眾請住戒珠省院，未幾棄去。時大慧杲說法阿育王山，師慨然往造其居，所聞葢廣，學者宗之。起住妙相，徙觀音，復還省院，皆蕭然小剎，羹藜飯豆，人不堪其枯槁。然著書不少輟，若金剛經解、法界觀圖、會三歸一章、莊嶽論，皆盛行於世。以淳熙八年十二月二十四日焚香說偈示滅，年六十八，葬於錢清。

子猷法師，字修仲，晚自號笑雲老人，出陳氏，亦山陰人。七歲為童子，十二祝髮受具。習華嚴經論於廣福院，擇交得其學。又遊錢唐，見會因院師。會博盡所疑，二師皆自以為勿迨。遂還山陰，說法於城東妙相院。僅二十年，學者嘗百餘人。師厭其近城市，思居山林，乃捨眾遯於梅山上方。學者不肯散去，而院隘不能容，相與言於府，願延師還妙相。於是法席加盛於昔，所著書大行於世。院亦益葺，號為壯剎。大慧杲過而異之，為留偈壁間。然師竟棄去，學者猶不捨。又說法者三，最後住姜山。閱三年，喟然歎曰：老矣，將安歸耶？亟橐書歸梅市，結菴以老。淳熙十六年八月二十有六日，忽命舟遍別平日所往來者。明日晨起說法，遂坐逝，壽六十有九。又三日火化，得舍利，五色粲然。弟子即菴之西建塔，奉靈骨及舍利以葬。師宏材博學，高行達識，卓然出一世之表。雖華嚴其宗，而南之天台，北之慈恩，少林之心法，南山之律部，莫不窮

探歷討，取其妙以佐吾說。至於百家之書，無所不讀。聞名儒賢士，雖在千里之遠，必往交焉。篤行義，勵風操，嚴取與，一得喪。接物簡而峻，不屈於富貴。有以供施及門者，苟禮不足，雖累百金，輒拒不取。於虖賢哉！

慧寔傳

慧寔，號廣炤，真定某氏子。生而慈順，七八歲，母使炊食，見釜中有聚蟻，即輟炊。習舉子業，有聲於鄉黨。一日屬文，搆思不得，因出行散于野，偶遇異僧，以出世法啟之，遂大感悟。從師落髮，游教庠，習經論，晝夜無倦，講論節行，迥出流輩。燕趙宋衛間，法化大行。嘗語人曰：學佛法人，必須認真作去。苟不認真，即世間法且無成，況出生死乎？或曰：出生死必繇破執，認真得無近執乎？師曰：認真正為破執，子以近執不認真，縱情放逸，是執無時而破，生死無時而出。且器界身心，皆是我法二執，直經衡緯，堅固交織，即使認真作去，二三十年苦工，猶恐擺脫不下，況不認真乎？如子所云，正是貪戀塵勞，如來說為可憐憫者。
神宗皇帝聞師高行，賜金襴衣。師曰：無以易吾壞色伽黎，然聖命不可違也。頂受，終其身不御。元豐元年，居覺山，年七十八。自利利人之功，不以老自隳，為之益力。後集講，據座而化。閱月，顏貌如生，髭髮更長，身無長物，名有餘香。臨終，又脫然如此，誠為教海老龍，不可多得也。

淨悟、了宣二師傳

淨悟，字機先生，樂清李氏。十九具戒，教庠禪窟，無不縱觀。志氣高卓，少有許與。每自誨曰：折鐺煮飯，偃息中林，借虛空口，對萬象說，余亦何愧。至若所學不充，因人成事，執散行帋上語，聚百十雛道人，大廈廣居，貪前方丈，吾弗為也。師始於飛泉興棟宇中親講誨，晚年一專淨業。及屬疾，大書示眾曰：求醫問藥，撓吾化也。吾將默觀其變。明旦，危坐而蛻。時開禧丁卯九月也。闍維，耳與齒儼然無壞。塔於寺西麓。北澗簡公為之銘曰：是為豁菴聰說總持兩種不壞之藏，道德所重，雖隱而彰。吾知夫異代而同心者，墮泪於鴈山之陽。
了宣，四明人。修法華三昧，前後二十七期，過午不食，未嘗違日晷。與同修善榮為心友，每閱經有疑，必造榮室決之。一日，默坐甚久，榮曰：今日何為？師曰：歸期已近，道義難忘，不覺如此。請君專心進道，當於淨土重會。榮笑曰：正欲見君作略。師自此示

疾。將終，請眾諷彌陀經，稱佛號，遽起端坐，書偈云：性相情忘，一三無寄。息風不行，摩訶悉利。即合掌瞑目而去，嘉泰元年也。後三年，榮亦趺坐脫去，人謂赴師之約云。

善月、淨惠二師傳

善月，字光遠，定海方氏子。其母夢月而娠，出家，因命名焉。十五具戒，叅月堂，深得教義。堂歿，復依草菴。所居古柏獨秀，因自號柏庭太師。史真隱請居月波，學士來奔，廩食不足。真隱曰：師為道延眾，欲食來取，予不嗇也。嗣主南湖。師御眾有法，十三年不易節，緇素以是信之。師被詔旨，前後兩住上竺，又授左街僧錄。人皆以坡仙師去忽復來，鳥語山容開之句為之賀，師淡如不知也。端平三年，得目眚，請老歸東菴。將入寂，顧左右曰：人患無實德為後世稱，若但崇虛譽，我則不暇。千載之下，謂吾為柏庭叟，則吾枯骨為無愧。幸勿為請謚，以淤我素業。言已，累足而化。壽九十三，得夏七十八。師著甚富，大約發明一家之旨，殊為有功於教門者。

淨惠號月菴者，亦見月堂、柏庭之同門也。庭以南湖移上竺，師次補其處。庭樂育人才之餘，後生尚文辭，好異議，主者稍不厭眾心，必羣起而譁逐之。師至，以沉毅御物，特成規嚴，人望風不敢犯，俗為之革。居丈室，未嘗扃，請益者雖入夜不距。行兩廡，聞讀誦聲，必忻然就之。嘉定元年九月，集大眾諷觀經，趺坐榻上，奄然就蛻。師平生不喜外書，每臨講，見疏記援引，則止而不讀，謂其徒曰：此外書也，宜自觀之。每預公舉，或非其人，輒面斥諸山曰：所謂講院者，以務傳持耳，今此人能任此責乎？卒不許，其嚴正如此。

宗印傳

宗印，字元實，鹽官人，竹菴之神足也。解悟有骨氣，凡諸祖格言，必誦滿千遍。入南湖修長懺，周氏延以庵居。以租量非法，勸革之，歲減五百斛。往謁象田圓悟演，演反質西來意，師答曰：有屈無叫處。演肯之。智者忌辰夜，炷香殿爐，悲泣失聲。演感其意，以厚禮送歸南湖。次首眾於資教，從空虛堂之延也。堂著宗極論，扶智涌事理，各立一性之旨。師設九難，宗極為之義負。通守蘇玭領師之法，請居正覺。時颶風大作，拔木飄瓦，諸屋盡壞，僅存藏殿，師守死不去。玭召還，要師偕行，曰：蓋西還相與弘贊。居東二十四年，至是復還浙右，講止觀於上竺。主者以得人為忌，

去隱雷峰毛氏菴，問道者沓至。歷遷德藏、圓通、超果、北禪。道德之譽既行，土木之績亦就。海空英辭靈山，舉以自代，詔可之。召對便殿，問佛法大旨，語簡理明。上大悅，錫號慧慶法師。後行化至松江，謂其徒曰：吾化緣畢此。即右脇安庠而寂，時嘉定六年十二月八日也。藏龕慈雲塔傍。師之衣，準律五辛剛制，道力純至，幽明俱感。且格邪拯滯，除瘵息癘，一有祈叩，無不得愈。常謂講者須備三法：肅威儀以臨大眾，提大綱以盡文義，具宗眼以示境觀。備此三者，始無媿宣說也。

金　華嚴寂大士傳

惠寂，姓王氏，西河人也。為童子時，白其父求出家，父以一子故難之。及長，於佛書無不讀，授華嚴法界觀於汾州天寧寶和尚。父歿，乃祝髮居壽聖，時年已五十有一矣。崇寧改元，始以恩例得僧服，俄賜紫，遂主信公講席，學子日盈其門。避兵南來，居汝州之普炤，又遷南陽之鄂城。師以華嚴為業，手抄全經，日誦四帙為定課。既客居，徒眾解散，獨處土室中而不廢講說。有問之者，云：吾為龍天說耳。龕前有樹，既枯而華，隨采隨生，人以為道念堅實之感。正大丙戌九月五日夜，說世界成就品。明日，以揭示眾，告以寂滅之意，且曰：何從而來？何從而去？於是右脇而化，壽七十有九。會葬萬人，所得舍利及他靈異甚眾。起塔於普炤華嚴廣陽之大聖、舞陽之弘教。元遺山銘之云：彼上人者，言外之傳。于華嚴海，為大法船。一龕宴居，幽祇滿前。曾是枯株，秀穎鬱然。靈塔相望，有光燭天。鈴音演法，普為大千。葢寔錄也。

墳雲傳

法雲，住南陽之靈山。往在鄉里時，以棄家為佛子。遭歲饑，乃為父母輓車，就食千里。母下世，廬墓旁三年，號哭無時，父歿亦然，山之人謂之墳雲。元光二年冬夜中，有僧詣師，求講法界觀。天明且出門，見菴旁近雨雪皆成花，大如杯盌狀。居民聞之，老幼畢集，其在塼瓦上者皆持去。文士為賦詩道其事。又山之東，水泉不給，講學者患之。一日，寺西巖石間出一泉，甘美異嘗，用之無竭。師臨海人，姓劉氏。七歲不茹葷，十一出家于洪洞，二十五具戒，受義學于廣化，學禪于韶山。來南陽，主崇勝之觀音院。住靈山，起報恩寺。以正大三年，壽六十四，示疾而化。劉鄧州光父，師鄉曲也，知師為詳，請元遺山銘其塔云：世之桑門，以割愛為本，至視其骨肉如路人。今師孝其親乃如此，然則學佛者亦何必皆

棄人而逃之，然後為出家耶？予為劉不妄許可者，乃為之銘。僧雲之來晉臨汾，六年居廬哭親墳。地泉醴沸天花紛，孝聲如香世普薰。何以表之？今有文

補續高僧傳卷第三

補續高僧傳卷第四

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

解義篇

元　浦尚法師傳

浦尚，字希古，檇李人。母夢僧乘白馬入門而娠。七歲，母授以孝經，一過即成誦弗忘。好佛書。十二歲，見紫微山惠力海公，白父母願從受業，許之，祝髮為沙彌。既長，聞景巖福公住崇德之菅樂，因往叅焉，晝夜究華嚴觀。公悅其穎悟，曰：異日樹教東南者，必尚也。及侍公于杭之高麗，代公教授，眾心賓服，僉舉為都講。天曆戊辰，領宣政院劄，住菅樂。菅樂自福公去，寺廢已久，師葺而新之，學徒不遠千里而至，至無所容重紀。至元四年，遷皋亭之崇先，益闡其祕，名聞于朝，有旨賜號慈峰妙辯大師。閱七年，退處禦溪別峰蘭若。至正十年，行省丞相尊其道，遣使延之高麗，特授御製金襴袈裟。及張士誠據姑蘇，累聘不應。疾亟，起索筆書偈曰：七十三年住世，只為佛祖出氣。今朝打個散場，驚得虛空落地。擲筆而逝，二十二年秋九月也。荼毗，會者二萬餘人，舍利千餘顆，顱骨、舌本、牙齒、念珠不壞。焚地三夕，有光射天，人以為師淳行之符云。師狀偉器宏，勇于進道，口轉佛名不輟。客至，劇談抵暮無倦色。探深抉祕，非得于語言文字之淺漏者，得師法傳持名世者，不下數十人。學古海住崇先，滋澤翁住西湖，妙心二十最著。師晚年自號雜華道人，宗華嚴，志不忘也。

善良傳

善良，字子直，號月溪，定海朱氏子。始祝髮淨居，習律湖心。游杭之大雄，師頑空覺公，言與覺合，俾守講席。菅喟然歎曰：教文浩瀚，要領難窺，如瘖獲吐，如瞽獲覩，捨我而誰？于是銳精述言，條焉不紊，示焉指掌，曰：教觀撮要。學台者便之。後游淨慈，訪禮禪師，示以叩辯，禪語雜出，瞬息聽瑩，意師泥名相為可惑。師乃徐曰：三觀之旨，不外乎是。禮謝曰：其歸振爾宗。集慶寺成，朝命選主席，主上竺者任可否。師預是選，講太涅槃經，聽者雲臻。師懸辯提機，整暢得理。然卒師頑空，上竺不能強也。主禪惠擇陽報國藥，師治平戶履日接，別為堂以處，篝燈星列。既又以輿論領延慶。至元二十六年，寺延燬，芟舍草葺，講論彌不輟。

大德元年入寂，僧臘六十，年七十有九。清容居士桱，居邇南湖，游起信堂，見誦聲接几席，取其書讀之，茫不能解。泰寓曹先生謂之曰：取子直約說讀之，斯解矣。後師來南湖，桱謁之，覩其容和以莊，其說坦以明，始悟曰：曹先生語不虛矣。

定演傳

定演，三河王子氏，具宿根。兒時，人教之佛經，應聲成誦。為崇國隆安和尚弟子，研精圓頓教旨，隆安付以傳明之任。總統清慧寂照大師，志公師兄也，贊師出世，授之麈尾，勗之曰：正法不可以無傳，人天眷眷，望有所歸。師唯唯而已。即入五臺，居上方寺，探藏海，尤注意於毗尼，淨水香光，人不得窺其室。及隆安順世，崇國席虛，眾懇補處，學徒大集，日以雜華為講課，訓釋孜孜，曾無厭斁憚煩意。世祖聞而嘉之，賜號佛性圓融崇教大師。至元丁亥，別賜地大都，乃與門人協力興建，化塊礫為寶坊，幻蒿萊為金界，凡叢林所宜有，以次成之，故崇福有南北寺焉。時昊天宿德雄辯大師授師遼道宗刺血金書戒本，徒萬餘眾咸稽首座下，秉受持犯之說。師自蒞席以來，顯受皇眷，所得賜予，及淨檀施奉，凡至歲六月十九日，盡出以飯僧，誦經設供，徹底一空而後已。祝曰：願國家平安，眾生受福，某無與焉。年七十四，無疾而化。上聞，特旨有司賻喪。舊制，近郭禁火化，師即城西淨土院茶毗，或以為言，上曰：演非常人，近庸何傷？獲舍利百餘顆，圓潔如珠，塔于魯郭之野。越二年，仁宗御宇，其大弟子請於朝曰：先師入涅槃，遺骨舍利，既奉以塔，以先師道行，承列聖寵遇甚厚，非著之文字，無以示永久，在廷之臣，孰宜為之銘？惟陛下擇焉。仁宗命翰林趙孟頫為文，謂師戒行嚴潔，如淨琉璃然，其登大壇，臨廣眾，洪音下被，則如大將誓眾，無不惕然仰受，非道成德備，其孰能至于斯乎？

栖巖益和尚傳

栖巖益和尚，鄭州劉氏子也。方在娠，其母夢適野而得金印，野有人曰：亟以獻佛，無留也。即望見塔廟甚盛，因懷印以往。既寤而師生，父母異之。甫齠，俾出依鎮陽天寧朏公。父母南歸，以幼復攜從焉。十五六，衣褐北征，學於燕中寶集寺，又學華嚴圓頓教于真定淨公，學唯識于大梁孝嚴溫公。歲月逾滋，心義洞了。溫每豎義，鳴鼓升堂，義鋒四起，師惟豎一指。當其所至，霧解氷銷，莫不捲舌低眉以就聽位。尋退修壁觀於明月山。大比丘全公輩謂：今

塵剎俱空，法無所住，燈昏夜永，孰測迷津？乃共即山中請師出世。師感受其言，出居許州大洪濟寺，開唯識宗旨，購疏記三十餘部，凡一千三百餘卷。師以次敷宣，義聲振遠近，傾耳位下者恒千餘人，自河以南願學者皆趍焉。其始至也，殘屋與僧各不四五，既而敝者新，無者有，莊嚴殊甚，如天宮殿。信度檀田，出入衍溢，皆師德化所致。師戒律精嚴，終身壞衣粗食，然四指以煉心。講唯識四十餘年，凡三十餘周。河洛之間設席以待者，遑遑如不及。上之王公貴人，下之樵兒牧叟，無不敬禮信向。四方欲究窮了義者，皆以師為歸。亦孰知師所謂了義者，不徒在言說間也。賜號佛性圓明普炤大師。以延祐二年四月示寂，年七十有三，僧臘五十有五。全身塔於城南。

善入

善，入傅姓，世居定海。大蓬因法師見而異之。淳祐十一年，從半山彬公受具戒，游諸方，辨解究詣。客東掖山，著教家四書，據會執約，不以文字溺泥，指畫勤懇，從者樂其易簡。初佛光法師居上竺，提其徒悉使出門下。于時有善良者，與師相講習，各植立不肯和附。師與良議曰：吾師大蓬，兄能嗣之，願再拜以伺。良後嗣圓覺頑空，而師卒能昌。大蓬始典謁南明，後首教坐，主赭山東皋。世忠其說，以角立為大病，支離為末流，泛不溢詞，約不厓絕，禪人士子咸傾仰之。興仆復侵，安眾靡懈。至大中，詔宣政院慎採選，勿阿意貪倖。集議者曰：南湖缺席，捨師孰能？遂以昔日所傳授者，深省密啟，空假破建，一性明靜，而互議交毀，訖忘於言。大蓬果有聞于世，崇本擔志，師于是有成焉。大者如是，其見于修植，施于人事，不復著也。錫號慧觀弘教法師，而自號曰秋虛。延祐中示寂，為僧六十三期，年七十有八。師訥若不能言，聆其坐講，則汪洋罔極，秉行潔清，癯容儼修，粹然古德，有足興起焉。

秦州普覺法師傳

英辯，姓趙氏。七歲從師具戒，二十五依柏林潭公習教，為慈恩宗主，所至以傳持為務。師為性真純，如美玉含璞，雖不加雕繪，而人自愛重之。至於悍卒武夫，亦能敬其人，謂無佛之世，足為佛也。每得錢弊，悉以刱佛祠，食守道之侶，故君子高其風，而從化者眾。年六十有八，以延祐元年六月，終於景福寺。煥異景于易簀之夕，標奇跡於火葬之餘，塔於普覺寺之後。

京都崇恩福元講主傳

德謙，寧州定平楊氏子。幼從僧讀佛書，稍長用游秦洛汴汝，諮訪先德，學芯蓊之道，髮於是乎落矣。遂逾河而北，謁見諸大法師。所聞凡六經四論一律，皆辭宏旨奧，窮三藏之蘊。而諸老竝以識法解義，馳聲四遠。師皆親熏而炙之，躋其堂而嗜其胾。故年未逾立，已有盛名於時。後至京師，受華嚴圓頓之宗於萬安壇主揀公之門。揀以師博學多能，甚器重之。初以詔居萬寧寺，遷大崇恩。兩住大剎，前後一紀。道德簡于宸衷，流聲溢于海隅。未甞以寵遇顯榮，為之志而改其素。甞語人曰：畦衣之士，抗塵世表。苟不媿於朝聞夕死可矣，尚何慕於外哉。自是屏絕人事，括囊一室，以樂其道。延祐四年正月，終於隱所。世壽五十一，僧臘四十三。宰臣以聞，敕有司備儀衛，集京畿諸寺，旛蓋鼓樂以送之。火後獲舍利，建塔於城南。

妙文講主傳

妙文，蔚州孫氏子。九歲為僧，十有八畦服游學，跋涉雲朔燕趙之墟。具戒抵京師，依大德明公，學圓頓之道，盡得其旨。陸沉于眾中，積年三十有二，以眾勸請之殷，乃始赤服升猊，就傳弘之列。其涵養冲挹，無欲速成名，不躁進求達，類如此。住持薊之雲泉，勤儉節用，老者懷其德，少者嚴其教，故眾睦而寺治。比再稔，廩有餘粟，歲荒以賑飢民，薊人稱焉。世祖聞其道，召見之，顧謂侍臣曰：福德僧也。詔居寶集。時禪學寖微，教乘益盛，性相二宗，皆以大乘竝驅海內。相學之流，囿於名數，滯於殊途，蔽情執之見，惑圓頓之旨。師獨大弘方等，振起圓機，使守株于文字者，有以盪滌情塵，融通寂炤。是以龍象蹴踏，競附一乘之駕。年逾八十，倦於勤，以院事任諸弟子，退居逸老，一專念佛三昧。延祐六年坐脫，年八十三。告終之日，誡眾高唱佛名，遽起加趺，結三昧印，泊然寂矣。

慧印傳

慧印，關西張氏子。自幼信佛乘，出家後從河東普救月公學圓覺了義，又從河南白馬寺大慧國師學華嚴圓極之教，後學唯識論于栖岩益公，二十二受大戒。有葛氏者設百僧會，師為第一座，宣說法已，作獅吼聲。既而又從秀公講四分律，從心崖和公學因明等論，又從大通駿公講華嚴疏。于二十年間游戲教海，無不叩之門，無不

窮之理。出世獨為栖岩燒香，葢以唯識為歸也。後入太行山修唯心識定，七年得根塵虛靜。至治二年英宗游臺，拉師與俱至南頂，命師祈嘉瑞。師即禪定，帝見白光如水彌滿空際，大士御圓相現光中，喜甚，因命太子諸貴人從師受菩薩戒。敕賜司徒一品，師固辭乃止。至元三年示寂，閱世六十有七。

晉安寺幼堂法主傳(附弟金)

寶嚴字士威，幼堂其號也，成紀康氏子。少以邁往之氣不樂俗，與其弟金薙染，從師求出世之道。每逢名德啟講，必往叅聽。嘗謂：學而不思，思而不學，君子所憂。雖通其說而不通其宗，是學而不思也，豈稱達者哉。況文字之學，守株象迹，惑於多岐，焉能涉同歸之海□，圓頓之奧乎。聽其說固辯矣，觀其所得則未也。於是既問而學之，以博其趣，而益致其思焉。是其所以造詣，葢得之繫表，故其講說深有宗通理味。後嗣真覺國師傳賢首宗教，以師承既高，見解益明。其方寸之地，湛如止水，瑩如明鏡。雖以天資之高，而聽器之美，抑亦師友玉琢蘭薰而致。及真覺以詔居大白馬，師與金從焉。又從至臺山。真覺歿，詔以師繼其位。後以太后詔居大普安寺。以至治二年七月圓寂，年五十有一，葬東封谷。金亦有高行，前居佑國，後遷普安，皆補師處也。事師猶父，始終無間然，難矣。

五臺普寧弘教大師傳

了性，號大林，姓武氏。少好學，聰睿之性殆天授之，禮耆德安公為師而落髮焉。既登具，歷諸講庠，探頤經論，遇真覺圓師，啟悟初心。而周游南北幾萬里，窮覽幽勝，所至必諮訪其人，詢至道之要。其所師而學者，如柏林潭公、關輔懷公、南陽茲公，皆以義學著稱。及歸，復見真覺於壠坻，愈見墻仞之高、堂室之奧，乃曰：佛法司南，其在茲乎？真覺歿，北游燕薊，晦迹魏闕之下，悠然如處江海之上，與世若相忘焉。然以懷璧之美，被褐而莫掩，名既喧於眾口，聲遂聞于九重。會萬寧初落，詔師居之。至大中大后，刱寺臺山曰普寧，以茲擅天下之勝、住持之寄，非海內碩望莫能勝之，故以命師。師居十有餘年而歿。師為人剛毅，頗負氣節，不能俯仰隨世，雖居官寺，未嘗一至城府造權貴之門。或謂師少和氣，師曰：予以一介芯蓎，天子不以人之微處之大寺，惟竭誠匪懈，圖以報國而已，夫何求哉？必有臧倉毀孔之言，葢亦營營青蠅止于棘樊耳。顧予命之不遭，道之不行，納履而去之，何往而不得於道

乎？時國家尊寵西僧，其徒甚盛，出入騎從，擬迹王公。其人赤毳袈冠，岸然而自居。諸名德輩莫不為之致禮，或磬折而前，摳衣接足，丐其按頂，謂之攝受。師獨長揖而已。或謂師傲，師曰：吾敢慢於人耶？吾聞君子愛人以禮，何可苟屈其節而巽于床，自取卑辱乎？且吾於道何求于彼？彼以其勢自大而倨，吾苟為之屈，非諂則佞也。焉有君子而為佞諂之行哉？識者壯師之氣，以謂如佛印元公之遇高麗王子，可謂識大體而得乎禮矣。歿時至治元年九月，塔舍利于竹林之墟。

弘濟法師傳(附示瞽菴)

弘濟，字同舟，一字天岸，餘姚姚氏子。投同里寶積寺舜田滿公出家。滿公，師之從父也。師駿發絕倫，或授法華經，輒能記憶。年十六，受度為大僧。持四分律，頃步之間，不敢違越繩尺。已而歎曰：戒固不可緩，精教乘以資行解，其又可後乎？於是往鄞，依半山全公，讀天台之書。久之，悉通其說。嘗修法華金光明淨土期懺，聚精會神，存誠不一。髣髴於觀定中覩尊者，畀以犀角如意。自是談辯日增，河懸泉涌，而了無留礙。未幾，泰定改元，開法于萬壽圓覺寺。浙河左右傑偉之士，奔走其室，惟恐後之。議者謂倡佛海之道以播芳猷，實自師始。

示瞽菴脫白於一山元公，一山度四弟子，取法華開示悟入為名。師當第二，名顯示，號瞽菴，出台之寧海盧氏之子。古貌長身，寡言笑，清儉自持。一榻二十年，瀟然如在逆旅。習教觀，從師於萬壽。師見其天資峻利，有一瀉千里之勢，乃曰：子蓋從吾師游乎？他日大顯南嶽一宗，吾於子有望矣。示遂事佛海。至正初，出世隆壽教寺，大唱台衡為海內名浮屠，寔師啟之也。鹽官海岸崩，民朝夕揣惴，恐為魚鼈。行省脫驩公憂之甚，請師親履其地，建水陸大會七晝夜。師冥心觀想，取海沙祝之，帥其徒徧擲其處。凡足跡所及，岸為弗崩，人咸異之。天曆改元，陞主顯慈、集慶二寺，皆杭之名剎，師處之泊然。至正七年，師八十矣。錢塘諸名山以耆舊凋謝，唯師一人，巋然如魯靈光。又以大普福起之，師堅臥不應。門人進曰：和尚自為計固善矣，其如斯道何？師強赴之。居亡何，竟拂衣旋故丘，開鏡清閣而深蟄焉。因覽諸家所註首楞嚴繁簡失當，方將折衷其說為之疏解，俄疾作召至，四眾以唯心淨土惓惓為勉，其中或未解師意，師厲聲曰：死生難，死生難。遽索觚書偈而寂，壽八十六，臘七一十。寂後七日，法屬以陶器奉蛻質葬于里之峨眉山松花塢，師之所自卜 也。師梵貌魁碩，言吐清麗，諸書一過目終身不忘。平生以流通教法為第一義，苟有召者未嘗不應，屢感天雨

華之祥。然于佛乘文事俱不偏廢，出處語默則未始離乎止觀。所著書有四教儀紀、正天岸外集竝行于世。示瞽菴壽六十九而化，則入我　明矣。二師孜孜為教，其弘闡開化一本山家，諸師之論罔敢違越，可謂知尊者翼道之功，而號善繼善述者矣。

大用才法師傳

必才，字大用，台臨海屈氏子。父哲，明大經，為科目之儒。母趙氏，嗜善崇佛惟謹。師生甫能言，輒記孝經一卷。七歲善屬句，脫口而就，諧協有思致。祝髮受具戒，出游武林，謁湛堂澄公。公見其顏貌峻拔，出語皆中肯綮，即以法器期之。時潤玉岡為第一座，師折節事之，雖流金之暑、折膠之寒，足不踰戶限者十年。凡台家部味之玄、教觀之要，一經指授，意釋心融，無不臻其閫奧。玉岡歎曰：此子非靈山會上業已習之，烏能至此哉！玉岡出主海鹽德勝，師分座焉。暨玉岡遷演福宣政院，請師繼其教席。當是時，湛堂聲稱喧播中外，眾意師必願與之子。及升座，瓣香嗣玉岡，君子謂其知義。至正二年，遷杭之興福。未幾，陞主演福。丞相康里公屢至香幣，咨決心要。寺久圮，師為次第新之，建萬佛閣，其崇以尺許一百三十有奇。師之為人，凝重簡默，觀行精勵，孜孜修進，無斯須懈怠。每夏終制解，同業者皆囊衣自便，師獨掩關謝客，益加磨淬，人不堪其清苦，而處之忻忻也。一日，忽覺頭目岑然，即謂眾曰：吾緣盡矣。乃危坐西向，稱彌陀佛號，盡一晝夜。因告眾曰：汝等勿謂修持無驗，吾淨土緣熟，三昧現前矣。即索浴更衣，為書別相識，合掌而逝。闍維，有五色光自龕中發火，火餘，舌如紅蓮，齒如珂貝，舍利如菽者滿地。萬眾競取，一時俱盡，後至者穴地尺餘亦得之。塔干寺之南，閱世六十有八，坐五十六夏。具菴玘公謂師以恢涵之量，邁遠之識，于空壞劫中建成住之効，而或有可齊者。至于發性具之微，肆辨說之雄，燦真燈于既昏，膠慧和于將墜，此豈力之所能為哉？斯言得之。

善繼、我菴二師傳

善繼，字絕宗。母夢神授以白蓮而生。初習舉子業，番然曰：此身虛幻，終從變滅。即因文字取穹爵，如石火電光，轉盼即空。誰有智者而躬此耶？乃棄去。問法於湛堂澄公，得其旨。修法華懺，多獲感應。一時英俊執經輪下，無不虛往而寔歸。及還華，徑于池深木寒處，修十六觀，一志安養。後刻期坐化，闍維舍利纍然如砌。

本無，字我菴，台之黃巖人。從淨慈方山落髮，依寂照於中天竺，掌綱維。有舅氏，老教庠也，挽使更宗。師欣然就見澄公於演福，力研教部，曰：苟弘道利生，在彼猶在此，庸何傷？寂照惜其去，作偈寄之云：從教入禪今古有，從禪入教古今無。一心三觀門雖別，水滿千江月自孤。出世為澄公嗣，仍爇一香報寂炤，不以跡異而二其心。寂炤示寂時，師在四明延慶，遺書囑其力弘大蘇宗趣，無他言也。師接書，為設祭，拈香云：妙喜五傳最光燄，寂炤一代甘露門。等閑觸著肝腦裂，氷霜忽作陽春溫。我思打失鼻孔日，患何氣息今猶存？天風北來歲云暮，掣電討甚空中痕？繼住集慶寺，無住上天竺，剎竿相望，皆自澄公一燈分炤云。

季蘅若法師傳

允若，字季蘅，自號浮休子，族相里氏，越人也，代為簪纓。師生有絕塵之趣，初為童子，給侍雲門元上人，十五圓具為大僧。至虎林，謁恢大山于興福，自是習天台教。湛堂澄公主南天竺，師與焉。聲入心通，知解日至，湛堂甚器之。既出世淨聖矣，湛堂念之弗置，招之徠歸，請居第一座，攝眾千餘人，持規峻整，經其指示，多所悟入。泰定中，行宣政院，請主興化。當是時，倡道杭之南北兩山者，若天岸濟、我菴無、玉庭罕，與師皆有重望，人稱為佛海會中四天王。居亡何，退居雲門，視榮名利養，恬不屑意，翱翔岩壑間。時同斷江恩師、休耕逸師，臨風笑咏，不知夕陽之在樹，君子又目之為雲門三高。師前後凡四座道場，教雨所及，如甘露醍醐，飲者心泰。然終以雲門為歸，築深居精舍，以法華觀慧三昧為暮年淨行。會天下大亂，于戈紛擾，法師與之遇，脇以白刃，毅然不為屈，辭色俱厲，因遇害，白乳溢出於地。壽八十，臘六十有五。兵退，闍維之，獲舍利如菽者無算，瘞于雲門山之麓。師風度簡遠，暮年神氣完固，劉伯溫稱其詩文古雅峻潔而有奇風，故一時名公卿咸傾倒焉。師素履之美，雖不獲考終命，而定業所制，在古賢聖或未免，初無傷乎道德之崇高也。

善柔傳

善柔董氏，德興之永興人。七歲事永安廣行大師，默誦金剛、楞嚴諸經。二十入華嚴圓頓法門，領廣嚴傳戒大師戒法。去滋味，絕華好，日課金光明經一部，禮佛百拜。深惟靜念，孤征獨詣，人莫能津測淺深。憲宗聞其名，賜號弘教通理大師，命主清涼大會於臺山。釋教都總統寶集壇主秀公慕其德，聘攝華嚴講席于京師。又傳

菩薩戒于佛子山及蔚羅、黃樓諸剎。自是門人加進，法道半天下矣。師解悟深遠，勇於為善，遑遑如不及。經之闕者，勒而補之；寺之廢者，撤而新之。甃圮橋，完壞路，為之不一而足。其于身也，蔬食飲水，敝衲容身而已。論者謂師淵然若虛，退然若藏，蕭條靜深，無所願乎其外。至於誘引慈濟，則孳孳捐捐，如抱漏甕沃焦釜。得其法者，莫不飽滿慰喜，若涉萬里而還其家。師之道，其可得而思耶？晚年住持奉聖州法雲蘭若，遂終焉。壽七十有二，僧臘三十有八。塔于寺之旁。

明　慧進傳

慧進，字棲巖，號止翁，山西霍州靈石人，姓宋氏。生于元至正乙未。年幼稚，諳習佛語。甫九歲，遭兵失恃怙，編荊孝養祖父母。祖父母復沒於草莽，志慕出家，禮邑元大雲寺漸公，落髮執經。緜　洪武新恩得度，入汴依古峯，究通華嚴宗旨，傍達唯識、百法諸論，意解心融，眾所欽服，遂得法主之稱。　太宗皇帝知之，遣中官馳驛召至南京，備問楞嚴大義，應對稱　旨，賜紫衣，命住天界寺，選俊秀僧徒從學。更　命于靈谷率高僧篹修三藏法數。及隨　駕之北京，居海印寺，被　詔領袖天下僧眾，於大明門外修普度大齋。越月，演說三聚淨戒，利益幽顯，其斛頂旛竿竝放異光。　賜璽書金襴衣，陞左覺義，總督海內文學、儒士、高僧，於海印經館較大藏經。因奏刊行藏教，以輔治化，當述諸序，昭示遐遠。　上從之，親製經序十三篇，佛菩薩贊跋十二篇。　召至香殿，賜坐，賜梵相釋迦、刻絲觀音、水晶數珠、七佛之偈，　諭曰：依是修行，陞左闡教。而先後遭遇凡十七載。　洪熙改元，仁宗皇帝淘汰教職，唯師獨膺嘉獎。　勑曰：佛氏以能仁為教，化導愚類，以陰翊皇度，利安庶品。總教事者，必在得人，不以輕授。爾左闡教慧進，究明宗旨，嚴潔戒行，簡授茲任，修習彌勤。朕用爾嘉，錫之勑命。爾其益懋精進，振乃宗風，以稱朕命。欽哉。　宣德紀元，　宣宗皇帝待以國老，　賜毗盧冠、織金磨衲。　詔於內翰，因多官并僧眾對寫金字華嚴、般若、寶積、涅槃四大部經，尚饍供饌。飲竣事，灌頂淨覺大國師奏請隆善開講楞嚴會解，聽受緇素萬餘指。年彌高，德彌邵，耳目清明，顏貌奇古，性直而儉。道舊榮國恭靖姚公、國師譯主光公、講經隱峯琮公、獨芳蓮公、月庭朗公、手度高弟左闡教兼大興隆住山廣通、萬佛住山廣辯、雞鳴住山廣載、戒壇宗師廣嚴、學徒左善世廣議、右覺義廣銘，承　旨講經道深，餘不盡舉。而其世壽八十有二，僧臘七十有三，於正統元年閏六月示寂于慶壽丈室。訃聞，上遣禮部諭祭，茶

毗于阜城，舍利靈骨立塔於渾河之西，　勑賜萬佛山之原，以褒異焉。

一如傳(附能義)

一如，字一菴，既老，別號退翁，上虞孫氏子也。年十三，辭父母，隸長慶為僧。從具菴玘公於吳山寶奎寺，礪志所業，祁寒盛暑不少懈。一義之未徹，一疑之未釋，必究竟乃已。攻苦[擊-手+口]淡，逾久逾篤，遂深造閫奧。　洪武十八年出世，住松江崇慶，進住蘇之北禪，緇素歸化者日眾。二十七年，南洲洽公掌僧錄司，兼主大報恩寺，延師為都講。時清理釋教，庶務叢脞，洽公酬應上下，而講演不廢，蓋資於師為多。二十八年，住杭州天竺靈山寺。三十一年，住上竺，益以振宗啟後為己任，而從學者益眾。　永樂初，退處大報恩寺，以法華如來奧旨所寓，非學者所易入，乃集眾說為之註。太子少師姚公為序之，且稱如公兩浙一人。　上嘗覽之，獎諭再三，加以厚賚。十二年，被召纂修大藏經，而師總其事，授僧錄司右覺義，既陞右闡教。　洪熙元年三月，示寂於京師海印寺，春秋七十有四，坐六十一夏。闍維，舌本不壞，塔而藏焉。

能義者，四明人，與如同時，道望亦相等埒，皆為僧錄司官，受知于　皇上。楊東里序如塔云：吾行四方，所遇其人，器識論議，偉然出乎眾人，而汲汲以修廢舉墜，光大師門為任者，亦不少矣。則豈獨昔之時為然？或而求夫淵然其存，泊然其行，望之如無能，即之而有味者，蓋在昔已不多得，亦何獨於今也？　太宗皇帝臨御，四方之名高僧皆嘗入覲，而　聖心所重者，獨四明之能義，會稽之一如。噫！是豈偶然哉？又云：二師恂恂溫恭，言若不出口，如深於法華，義深於楞嚴。

大同師傳

大同，一雲其字，號別峯，越之上虞王氏子，世推簪纓之族。父有樵，母陳氏，妊師已十月。父見龐眉僧振錫而行，問僧來自何所，曰：崑崙山也。竟排闥而入，父急追之，寂然無有也。暨出，聞房中兒啼聲，笑曰：兒豈向來浮屠也？幼極俊爽，覽諸載籍，輒會其玄奧。父授以辭章之訣，握筆翩翩，輒有可觀，遂以纘承家學屬之。母獨嘆曰：是子般若種也，可俾其纏繞塵勞乎？命捨家入會稽崇勝寺，從僧貴游。已而鬀落，受菩薩戒。會春谷講經景德，師復往依之，獲受五教儀、玄談二書。又謁懷古肇師，受四種法界觀。

懷古、春谷皆南山大弟子，深於華嚴之學者也。師天分既高，又加精進之功，凡清涼一家疏章，悉攝其會通而領其樞要，義趣消融，智光發現，識者心服之。春谷陞主寶林華嚴教院，召師謂曰：子學精且博矣，恐滯於心胸以成粗執，曷從事思惟，修以剗滌之乎？師即出錢塘，見佛智熙禪師於慧日峯下，舊所記憶者一切棄絕，唯存孤明，耿耿自炤。如是者閱六暑寒，佛智嘉其有成，欲縻以上職，不聽而去。俄上天目山，禮普應本禪師。普應見已，期之如佛智。師將久留，普應曰：賢首之宗日遠而日微矣，子之器量足以張大之，毋久淹乎此也。為贊清涼像而遣之。師喜曰：吾今始知萬法皆本一心，不識孰為禪那而孰為教乘，內外自此空矣。亟還寶林見春谷，且告之故。春谷曰：可矣。乃命之司賓，尋陞上座。當時相從者皆宏偉之龍象，師為分講雜華、玄門、會要、統宗，必極其所言。宋故官徐天祐、王易簡聞之，相與崇獎莫置，聲光煥著，五尺童子皆能知其名。郡守范侯某憐春谷僧臘已高，風之使讓其席，師毅然不答。侯設伊蒲供延師，親與之語，師曰：有是哉！所貴乎道者，在明師弟子之分，垂訓後人。苟乘其耄而攘其位，豈人之所為乎？明公縱愛我厚，名義不可犯也。侯不覺離席，把師臂曰：別峯誠非常人也。元延祐初，始用薦者出世蕭山淨土寺。師自念圭峯以來，累葉相承，其間或絕或續，繫執法者之賢否，遂發弘誓，力持大法，晨講夕演，雖至於勞勩，弗敢少懈。天曆初，朝廷新設廣教都總管府，遴選名山主僧一歸至公，陞師住景德重紀。至元中，行宣政院，遷主嘉禾之東塔，師不赴。時宰臣領院事，乃改寶林。寶林，清涼肄業之地，人咸為師榮。師固守謙退，遲回不上，州牧邑尹、山林友社交疏延請，亦不允。至第二疏，始投袂而起，倣終南山草堂故事，建高齋，闢幽舍，招徠俊乂，浙水東西莫不擔簦躡屩，爭集輪下。師竭忱開授，比景德為尤勤，法席之盛，不減東山。時至正初，順帝御宣文閣，近臣有以師之道行聞者，帝嘉之，特賜金襴伽黎衣。帝師大寶法王，亦俾以六字師號。隱然作鎮江南，宗門恒倚之為重。狀元忠介公泰不華守越，病旱無以禳，僉謂非師不可。師為爇香臂上以請，雨即澍。師蒞事一紀餘，以疾固辭，堅臥崇福菴中。而時事日棘，師因退處瞻博迦室，年垂乃八十矣。　皇明御極，四海更化，設無遮大會於鍾山，名浮屠咸應詔集　闕下。入見於武樓，獨免師拜跽之禮，命善世院護視之。次日復　召，賜食禁中。及還，復有白金之賜。洪武二年冬十二月得疾，久不瘳，口占辭眾語，端坐而蛻，寔三年春三月十日也。世壽八十一，僧臘六十五。越七日，遵治命就城南竹山準法闍維，收餘燼瘞焉。其嗣法分布列剎者，則妙心大衍、臬亭善現、高麗若蘭、景德仁靜、姜山明善、延壽師顗、南塔國琛、福城大慧、景福性

澄、妙相道俔、法雲道悅、小寶□日益、淨土梵翱也。師神宇超邁，伏犀插腦，長身而玉立，美談吐。遇王公貴人輕重教門者，發論兗兗弗休。其挺己衛道，理或不直，雖斧鑕在前，不少挫其氣。中歲稍涉魔事，至中之以危，法師不顧，下帷卻掃，日味華嚴，其人一旦自斃。然其游心文翰，賓接賢公卿，燕饗贙遺，唯恐不盡其意。永康胡公長孺、吳興趙文敏公孟頫、巴西鄧文肅公文原、長沙歐陽文公玄、烏傷黃文獻公溍、武威余忠宜公闕，咸樂與師交，函詩往來無虛歲。晚歲與安陽韓莊節公性、李著作孝光，唱酬於水光山色間，尤極其情趣。扶植他宗，無塵毛猜忌。聞其賢也，斂衽不暇。斷江恩師，少林學也，薦之主天衣。天岸濟師，台衡教也，挽之尸圓通。至於甄別人品，摩厲後進，三宗屢得其人。古林茂師之主保寧，馭下過嚴，楚僧無賴者數人，將愬之於公府。師偶遇於旅邸，設豐食食之，從容謂曰：吾雖不識古林，聞其為禪林名德，子等將不利之，君子以為何如人？不如且已，否則恐罹大咎也。眾沉吟良久，稽首列拜而去，事遂寢。師性至孝，自恨蚤喪父，養母純至。及亡，春秋祭禮無闕，且請名臣書父母，羣行樹碑於墓。生平無躁進意，高麗瀋王遣參軍洪淪施大藏經於二浙，淪自負通內外典，不復下人。入越見師，茫然如有失，力言於王，邀公游燕都，將振拔之。過吳，辭以疾而還。持律甚嚴，不敢違越。撫世酬物，終始如一，不以久近為礙而散其誠。逮革代之後，囊無一錢，唯存書史五千卷，盡散其徒之能文者。著述頗多，未脫稿，輒為人持去。其外集曰天柱稿錄，師自製詩文曰寶林編額，聚古今人為寺所作者也。嗚呼，賢首之宗不振久矣，凜乎若九鼎一絲之懸，師獨能撐支震耀，使孤宗植立于十餘傳之後凡五十年，非賢者其能致是乎？

華嚴菩薩松堂老人傳

正順，蔚州高氏子。初為臺山壽寧用公行童。圓具後，結廬深樹間，屏絕諸緣，唯讀華嚴經，數滿千部。常入華嚴觀。一夕入觀，聞空中聲曰：和吞山水，少會風雲。從是有契入覺。行住坐臥，了無一物為障礙，無一念為起滅。身心蕩然，與法界合。為人演說，言如湧泉，皆契法界深義。因於嶺頭建大閣，閣下為海水，出大蓮華。華上坐毗盧遮那佛滿月像。每對佛入觀，五七日方起。故人以華嚴菩薩稱之，而不敢名。成宗聞師名，三召不起。就授五路總攝之職，固辭不受。臨終謂眾曰：無盡剎海，不離當處。妄情未瞥，悟入無時。門人法忍曰：未審師今向甚麼處去？師喚忍闍黎，忍喏。師云：虛空剖出一莖骨。言訖，恬然而化。是日靈几上有龍

瑞，五彩飛光燭庭宇，移時乃歇。停三日，化火自焚。門人拾舍利，建塔藏之。

松堂名文才，字仲華，隴西楊氏子。少孤，事母以孝聞。博學能文，作慧燈集、釋賢首疏，又著懸談詳略五卷、肇論略疏三卷，皆內據佛經，外援儒老，曲盡弘揚之妙。嘗菴居松間，人稱松堂老人。一日出菴不歸，弟子跡而得之松間，師冥然擡目曰：吾方安逸，汝何遽至？弟子曰：師坐已三日矣。既而成宗特旨建大萬聖祐國寺于臺山，為師闡道之所。演化數年，大德中示寂，荼毗獲舍利百餘顆。聞於朝，詔沙門問之。有法洪者對曰：和氣之浹，蒸為菌芝，精誠所至，其理或然。故萇弘死忠，其血成碧，況道與神會，頤養之至者乎？夫朽敗之餘，標異於煙滅灰飛之際，豈非行業堅白，神氣凝結者歟？上嘉其論，敕為塔藏本寺，封邽國公。

士璋法師傳

士璋，字原璞，海寧王氏子。伏犀貫頂，目光外射。自幼即決去葷羶弗御，即御輒嘔逆不能勝。日取天竺典習讀之，識者曰：此釋子種也。十九始除鬚髮，尋稟持犯之說於某師。時我菴法師自四明延慶遷主武林上天竺，令譽隆洽。師將擔簽趨之，感異夢，師以為得法徵，心自喜。及見我菴，如舊相識，凡天台大小部書以次環授之。師志慮專一，饑則親釜鬻以事烹餈，一飽而止，寒暑晝夜若不知也。我菴之三吳，俾師遷丈室之西，以便飲食。逮遷，見白煙一抹起其寢所，則自爨猶故也。我菴陰鑑其勤，以遠大期之。我菴之門人曰：天心瑩素，高亢不服。人亦歆師之行，約共燈火，磨切詰難，極於毫絲。餘子皆望風而畏，稱為雙璧。元至正十三年，江南行宣政院命主州之棲真寺。棲真與南天竺演福鄰，古稱教海，而大用才公、絕宗繼公二大長者皆在焉。師猶以學之未足，時往叩其所未至。凡部味教觀之奧，偏圓本跡之微，疇昔有疑而未徹者，二老無不條分縷析以喻之。師彈指歎曰：佛法教藏渺如煙海，固非獨善偏長所能究也。移主旌德教寺，法化大行。洪武初，以集慶虛席，請師唱揚接引如旌德時，有過無弗及焉。未幾示寂。師所著書多未脫稿，詩文有別錄數卷。

補續高僧傳卷第四

補續高僧傳卷第五

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

義解篇

明　古庭學法師傳

善學，自號古庭生，儒家馬氏。傳華嚴之教於寶覺法師簡公，凡清凉大疏鈔及圓覺、楞嚴、起信諸部，皆能融會甚深微妙之旨。遐邇嗜學之子，斂衽遡瞻，不翅卿雲德星，以獲一見為快。雖老師宿學，亦推之為人，望別傳教。公無言。宣公前後主報恩之席，皆欲攝受師為弟子。師笑曰：吾得法於寶覺，忍背之乎？力拒不聽，賦曹溪水四章以見志。尋還東林隱居，掌教者尊師之道，不容肥遯自逸，強主陽山之大慈。師植心平易，不屑沉溺專家，以殊戶異軌為高，理之所在，輒翻然從之。每升堂示眾曰：吾宗法界還源，非徒事于空言，能於禪定而獲證入者，乃為有得耳。既而又曰：吾早通法華，雖累入法華三昧，然長水璿問道於琅琊覺，又從靈光敏傳賢首教。露光，天台之人也。古人為法乃爾，吾徒可專守一門乎？君子美其至公無我，一掃近代互相矛盾之陋。　皇明龍興，師將大弘賢首之教，以續物慧命，雖當儉歲，躬分衛以食眾，士民踵集，方思有所建置。院僧以官賦違期，當徙虔州，有司知師專任講道，欲與辯析之，師曰：吾為主僧，法當坐，敢累他人耶？遂毅然請行。或讓師為迂，師曰：宿業已定，不可追也。行抵池陽馬當山，示疾而化，洪武庚戌四月也，春秋六十有四。師形貌庳瘠，退然有不勝衣，戒檢精嚴，護持三業，唯恐有所染污。獨居屋漏，法衣不離體，三藏諸文未嘗釋手，雖盎無斗儲，處之裕如。謙恭自牧，豎子來見，亦無墮容。勤於誘掖，有不領解者，方便比喻，至于反覆數四，必俟其心悟始罷云。見諸著述者，咸有可觀，法華問答若干篇、法華隨品贊三十篇、辯正教門關鍵錄若干卷，及詩文竝行于世。宋文憲公曰：濂於諸宗之文，頗嘗習讀，每病台衡、賢首二家不能相通，欲和會而融貫之，恨鮮有可言斯事者，不知世上乃復有師乎？于是發不及見之歎，其為賢者追慕如此。

東溟日法師傳(附智明)

慧日，號東溟，天台赤城人。軀榦修偉，眉長三寸，目光射人。嘗從柏子庭和尚習教，解悟甚深，有戒行，人師法之。洪武初，以有

道徵，　上御奉天殿引見。時丞相御史大夫暨百僚咸在，而僧伽魚貫而上。師年最高，白眉朱顏，其班前列。　上親問勞之，顧眾而言曰：邇來學佛者，唯飽食優游，沉霾歲月。如金剛、楞伽諸經，皆攝心之要典，何不研窮某義？苟有不通，質諸白眉法師可也。自後數召見，從容問道，字而不名。及建鍾山法會，請師敦說戒法，聞者開懌。既而辭歸杭，居上天竺，一志安養，冥心合道，不襍餘念。洪武十二年七月朔，夢青蓮華生方池中，華色敷腴，清芬襲人。既寤，召弟子妙修曰：此生淨土之祥也，吾將行矣。至四日，趺坐書頌，合爪而寂。閱世八十九，僧臘七十。師居常面嚴冷，片言不妄發。對王公大臣，未嘗出一軟媚語。至於誘進後學，溫然如春陽云。
智明，字月溪，杭湯鎮楊氏子。從南山圓炤才法師受學。後於城東結菴，杜絕諸緣，一心蓮業。戒行孤潔，甚為緇白皈從。年七十二，書偈而化。

能義傳

能義，字無言，別號損菴，四明象山高氏子。穎悟聰敏，年十三出家智門寺，精行業。稍長，見復原報公於徑山，公默識之，授以楞嚴，講誦通貫。旋主藏于雪竇，恍然有得，作偈有：掃空文字五千卷，流出胸襟一盞天。復原深嘉許之。洪武中，住餘杭普寧，歸剎竿而皈四眾。久而退席，隱居徑山之蒙堂。永樂丙戌，　太宗皇帝命僧錄司遴選精通楞嚴經旨者，以師應　詔。師為說以進，　上覽之，心甚契合。乙未，纂修永樂大典，命師總釋典之綱，極承　眷顧。既而靈谷定巖戒公延師為上座，模範後學。定巖示寂，靈谷席虛，　仁宗皇帝在青宮，儗師補其處，令入朝。　上見師道容，喜甚，除僧錄左覺義，賜錦衣一襲、貉裘煖帽靴襪并鈔二百錠，遣中官送回南京，於鍾山第一禪林舉唱宗乘，緇素悅服。未幾，復入朝，陞左講經，寓慶壽寺。疾作，上聞，賜醫藥，中使相望于道，集眾說偈曰：已住閻浮七十年，　皇恩如海浩無邊。如今撒手西歸也，萬里無雲月正圓。擲筆而逝。　上覽偈為之感歎，　賜諭祭，命工部作龕，茶毗于平則門外。上有五色雲現，拾骨得舍利數十顆，弟子請回鍾山。　仁宗踐位，復遣祭，命以靈骨舍利歸徑山，建塔於寂炤祖壠之傍。師梵貌清整，人見而意消。善韻語，應制和　御韻送大寶法王有云：有時論到無言處，心融神會堯眉開。頗為人傳誦云。

清天傳

一清天者，江右廬陵人也，別號潔祖，為歐陽族。自幼穎悟，深厭塵俗，依多寶正宗忠公受業焉。宣德改元，右街雲海法師為落髮，入大天界，見弘慈普應禪師，命侍香，掌藏鑰，進第一座。正統初，得古剎廢址于都城西山之麓，慨然有興復之志。緇是罄鬻衣資，募眾緣，度工庀材，雖片瓦隻椽，皆自手之。事聞于　上，賜額弘慶禪寺。師為開山第一代，即今黑塔是也。師拔萃超羣，卓然如孤鶴之在鷄羣。初主水月，次遷南通法至，既又開山弘慶。自此道風浩蕩，朝野知名。丙寅，右街、善世兩菴宗師薦師于春官，大宗伯胡公及諸鉅卿名公莫不推賞，遂有雙徑之行。覺山馮寧印施華嚴大經，并函繡幡金臺。諸檀如沈福誠、杜弘真輩，皆欣然發心，鑄銕佛三軀及諸供具，隨師而往。以明年丁卯入院，遠近欽仰，罔不嘉獎勸助。師所履之事，大有逕庭。翰林張公益謂師根性堅利，志力勤篤，遂能因師之教，悟玄義于襍華，視師之行，絕三業于滿分，葢寔錄也。

洪蓮傳

洪蓮，字獨芳，山西太原吳氏子。賦性嚴敏，孩提時已若成人。出家饒益寺，二十具戒。見休雲蒙印可，授以信衣。入天龍洞，結足刺十指血，書寫五大部經。又于名仙洞立曼怛囉座，設燄口食，賑濟幽類者三年。　晉王聞之，延致問道，奉衣饌請住鴻祐寺，自是聲德遐播。永樂中，奉　旨箋註大明三藏法數，較勘藏經。又　命入香殿，與進法主問答楞嚴大旨。又　命於海印寺較寫三藏。前後從事，皆得　聖心。繼承　仁、宣二廟恩眷，除僧錄司右講經。正統七年，轉左講經。以年老，上謝事之請，遂免師朝參，職事如故。至景泰七年七月四日，端坐書偈而逝。　上聞悲悼，命禮官致祭，贈淨梵翊教禪師。壽九十一，僧臘七十一。茶毗得舍利百顆，　勑歸西山萬佛寺造塔安厝。師資貌魁特，襟度豁如，議論磊落，一出于正。解行兼全，以身任道，故得列聖禮遇殷至。景泰四年，日本僧入貢。其僧本國大禪伯也，少所與可，獨服膺于師。偕來者各有所問，言人人殊。師應答如流，皆得所請，歎未曾有而退。其辯才服人又如此。聊述應跡，粗槩以備傳。其潛德密行，與證悟所及，可想見于語言之外也。

鳳頭祖師傳

道孚，字信庵，江浦劉氏子。善習表於兒戲，利根發于童心。七歲入學堂，先生授以書，不肯讀，讀又不肯竟，曰：此書非我所喜，

先生亦非我師。乃依靈谷慶叟為弟子，落髮衣緇，昕夕禮觀音，發聰智，通唯識、涅槃諸大乘經論，羣言所涉，一覽無遺，精旨妙義，囊括而川注，滔滔然莫能窺其涯涘。復禮天童觀翁，時觀公道望高天下，　宣廟在潛，每承顧問。宣德歲丙午，召至京師，館於慶壽丈室，師執侍惟謹。　上嘉之，賜西服茜衣，師牢讓不服。尋游江浙，受滿分戒，入五臺，覩聖相攝身光中，奇幻百出，轉念之頃，倏忽不見，歎曰：古人所云：一翳在眼，空華亂墜。因自號知幻子。　英廟聞師名，召見大悅，呼為鳳頭和尚，蓋以師頭前銳起也。尋授僧錄講經，未幾告退，結茆于山中，扁曰松樾。屏息諸緣，不妄交接，唯苦心真寔之士得以相依，餐服遐異，悠然自適，若將終身焉。先是，司禮阮公簡得京西馬鞍山廢寺，欲興之，思得大知識主宗風，與議非師不可，修詞致懇，至于再四，不許。後掘地獲斷碑，阮持碑泣請曰：碑雖不完，猶可讀，惟師寓目焉。師讀之，始知此寺乃遼普賢大師所建，四眾受戒之所。師喟然曰：釋迦如來三千餘年遺教幾乎泯絕，吾為佛弟子，詎忍視其廢而不興耶？乃幡然而起。於是鏟荒夷險，鬱起層搆，散己貲以鳩工，擇幹僧以董役，匠成于心，受規於手，日不笠而雨不屐，趨風望景者翼如而至。百年癈剎復興於頃刻，廊廡龍象煥然一新。始末具載大學士楊公士奇所譔碑記。黔寧昭靖王復以宣武門府第施為梵剎，　賜額承恩，為師往來憩息之處。師善書，筆法遒健，嘗於文華殿大書扁額，　上俛案視之，稱善。贈之詩，有高僧書法勝中書之句。又嘗施食於內庭，開法于秘殿，　上皆親御視聞，無不擊節歎賞。當是時，耆舊凋喪，獨師法聞四方，學子趨參唯恐或後，僧中之傑出者一人而已。以是奇德妙行足以駕苦海之慈航，躋迷途于覺岸也。景泰丙子夏六月十日，集眾升堂，說偈曰：昔本不生，今亦不滅。雲散長空，碧天皓月。遂端坐而逝。計聞，　上震悼，遣宮諭祭，命公侯以下咸從弔臨。茶毗獲舍利，建塔于寺之南原。世壽五十有五，僧臘四十有九年。度弟子數萬，得戒四眾百億，門弟子千餘輩，皆縛禪秉律，闡化一方。著述有定制、戒本、戒牒并偈頌詩章若干卷，傳于叢林。胡忠安公熒稱師學之博，行之修，功之盛，能光大法門云。

萬松千松百松傳

慧林字萬松，杭之仁和人。生稟異質，稍長躭玩佛書，授以世典，棄佛觀。父母察其志如是，遂捨為法輪寺僧。見諸僧所習卑鄙，師不樂，愀然歎曰：此豈可了生死大事耶？雅聞天目平舒老人道行，往依之。一日宴坐林間，聞猿鳥聲，豁然有悟。是時伏牛空幻叟寓

廣德禪林，乃詣叟自陳所見，遂嗣空幻之門。歷游諸方，歸杭隱徑山，絕跡於城府。師持身約，守律嚴，素通三藏，尤精於法華、圓覺、楞嚴等諸經。善于開誘，析義宣旨，如慈父母之訓其子，必至領解而後已。道日益崇，修日益起，而四方從學者日益以眾。嘉靖丁巳，忽謂眾曰：時至矣。絕穀，日啜澗水數杯者月餘而化，得年七十有六。

明得，號月亭，以紹萬松禪師法，又號千松，烏程周氏子。幼歧嶷不凡，嘗隨父赴西資佛會，指畫像問曰：是非僧耶？父曰：然。遂求出家，依慶善庵祝髮。初習瑜伽佛事，知非而棄之。謁海百川，求出世法，機不契。遍參名宿，備歷艱辛，益發憤厲志。詣武林上竺，哀籲大士，求值明師。乃遇萬松於中竺，問以來意，以禮普門對。萬松豎一指曰：汝去見了觀音來。師方下，頓有所省，再拜求了生死之訣。萬松授以攝心念佛法，因留侍左右，朝夕參承凡十載。一日閱楞嚴，至清淨本然，云何忽生山河大地？豁然契入。又入徑山，結茆凌霄峰絕頂，獨坐三年。四方禪侶接踵而來，師隨機響應，無不迎刃而解。遷傳衣菴，講楞嚴。既游天台，彼中緇素邪正淆混，師為講華嚴等經，化外道以千計。講甫畢，堂內寶花遍生，今扁為湧蓮堂云。比歸，司寇韞庵吳公時為杭守，延師演法於靈隱。僉憲東溟管君以天池請，儀部觀頤沈君延主圓證寺，五臺陸公復延講華嚴於秀水之東禪。師樂其雅僻，乃相與葺法雲堂以居，遂為師示寂之所矣。師為人修榦玉立，性度高簡，伉直以道自重。遇公卿未嘗降禮，作卑諂態。羣小或憎詬之，百折不回。保護正法，毅然不為身謀。其寓天池日，有豪貴挾妓游僧寮，師會眾逐之，無所顧憚。世方崇事真武，師以彼不過玄武之神主治一隅耳，何至奔走天下若狂也？我薄伽梵為天人師，何不易彼事此耶？往往改像設而更廟貌。性喜汲引後學，而視外道如讐。同衣有過，譏彈不少借，以故招忌者之口。非有諸縉紳為之金湯，幾不免矣。以萬曆十六年歸寂，壽僅五十有八。師與五臺公有法喜深緣，而為銘王村之塔曰：惟師以苦行得見地，以強毅任永法。余獲交師三十年，所受教益非一期。晚年相與修東林故事，而師先化去，誰為余作蓮邦指南車耶？塔後遷於徑山。

真覺，號百松，蘇之崑山人，姓王氏，已蓄妻矣。偶逐方僧游杭，遂入鍋子山祝髮。居月餘，往吳門受具戒，其時議鋒已不可當。未幾，謁千松於湖州聽講位下，以敏出，為聽眾所抑。首座道元憐之，為言于千松，錄置下座。後出世，遂為千松拈香而嗣焉。嘉靖甲子，受天台之請，遠近嚮風，趨赴如不及。所講楞嚴若干座、法華若干座、妙宗鈔若干座，惟法華玄義一座而已。所得檀施，輒緣手盡。真寔居士云：妙峰師梵相奇古，身不踰中人，而言論風采如

大火輪，不可攖觸。於是江南有二法師，師與東禪月亭得師。師出東禪之門，東禪不專賢首，而師獨精天台，遂有同異。然其妙辯縱橫，凌厲千眾，俱東南無畏光明幢也。

麓亭住法師傳

祖住，字幻依，麓亭其別號也。生丹徒楊氏，沉密不貪世緣。十七從剃染，十九領具戒，通曉諸經大義。走少室依大章，入伏牛依高安，凡經十二夏。次至都下謁松、秀二師，至南京謁無極老人為西堂。犍槌之暇，即入作務，晝夜不休。尋演華嚴鈔於京口萬壽寺，緇白聽者日以千數，老人率其徒觀焉。既而謂眾曰：吾殆不如也。雖然，有不如我者一。吾嚮者彼上人為我西堂，今西堂有彼上人者否？自是道價鬱跂，叢林傾挹。師智崇禮卑，如常不輕，提獎唱誘，孜孜不倦。前後登法座者以十指數，能使所至立成寶坊。然而三衣之外，一衲周身，韲粥僅延，猶存五觀。其諸襯施，不以掛眼。且奉律精嚴，纖過無犯。以萬曆之甲申入吳山之蓮華峰，登支道林講座，山林隱秀，有終焉意。未幾遷化，茶毗斂靈骨，塔於本山。

素庵法師傳(附兀齋、幻齋二比丘)

素庵法師，諱某，生於襄陽鍾氏。壯歲棄儒，遍訪知識。至南陽留山寺，禮泯庵休公落髮。瓢然一鉢，歷伏牛、清凉受具。依秀法師習經論，凡十一載，精其業。南禮普陀，過白下。白下名流，針芥自合。以攝山講席留師，道聲大振。師亦樂茲山幽窅，遂誅茆築室，棲遲十年。一日，扶杖將行，留偈淨業堂云：自入棲霞已十年，東修西補未曾閒。掀翻瓦礫成禪院，除剪荊榛作菜園。每煉蔬羹供海眾，恒宜大教繼先賢。如斯弗為兒孫業，留與同袍萬古傳。其氣韻可想矣。已而為眾復留。師身長幾七尺，頭顱方直，面目有光，隆顙豐頤，音聲如鐘。生平履踐如氷雪，隨所酧應，春溫日旭，人自意消。說法直截簡易，不為峻語，而格頑導愚，遠近欽悅。凡講華嚴大鈔、法華、楞嚴諸大乘經論各若干座。以萬曆癸巳十一月十三日後夜，端坐念佛而逝。三日中夜，火滿山若列炬。閱世七十五，法臘五十。師生平瑞跡甚多，初至攝山演華嚴，至入法界品塔，放五色光。又一日講法華，至寶塔品，見空中光相儼然，汪司馬道昆為作銘記。司馬公兩舉無遮大會於新安焦山，見異人數十曹伏師前，以脫苦謝，司馬親見之。丙戌大饑，僧眾絕食，而蕪陰郝氏裹百斛米至，初登殿禮佛，驚謂曰：是夢中教我賑米佛也。

辛卯冬，講法華於婁東之淮雲，至地湧品，毫光繚繞法座下，經久不散。應蕪湖講期度江，風浪大作，師呪觀音力，應聲寂然。其他毛舉，未易悉數。

兀齋、幻齋二比丘，俱出襄陰鍾氏，為同祖兄弟，同師素庵法師，稱高足。兀齋名如慧，法師與慧在俗父子也。母汪腹之時，師已入留山矣。慧生三歷不語，一日父歸省其祖，一見喜曰：我父子同出家去。家人異之。五歲失母，養於伯母江，即幻齋之母也。慧幼習世典，通大意，會法師集講京師，因來省，遂祝髮座下，時十三歲。初聽楞嚴，至徵心辯，見會五陰三科處，愕然自失，乃登壇受具。晝夜六時，除聽講外，即跏趺習定，兀然如槁木者三年，同學呼為兀齋。一日定中見大光明，身等虛空，自是掩關不語，妙悟益發，內外典籍寓目，即了無滯義矣。

幻齋，名如念，為人溫厚老成，嗜學經論如渴。二人同心執侍，如阿難、難陀，以故栖霞法席為江南最。二公俱善達觀老人，觀方佩南宗心印，勘辯諸方，而二公與之出入議論，時蒙許可，其人可知矣。丙戌十一月初七日，慧忻然謂弟子曰：我願畢，將去矣。遂七日不食，而精神挺然。至十三日，端坐將逝，弟子請曰：着甚麼衣好？曰：不干他。遂逝。其夕，觀師在京之潭柘，夢慧掉臂西行而無侶，呼之不答。訃至，方驗其異。又三年戊子十一月十三日，慧方大祥，而念忽歎曰：我更十日逝矣。至期果逝，與慧同塔龍化庵。後慧世壽四十四，僧臘三十二；念世壽三十八，僧臘二十五。方今叢林衰替，二公俱精進光明幢，使不奪其年，庶幾為大法棟梁。而竟為報緣所局，未終下壽，遂棄人天，傷哉！

月川法師傳

鎮澄，字月川，別號空印，金臺宛平李氏子。幼聰慧弗羣，十五禮西山廣應寺引公為師，得度為沙彌，登壇受具。時一江澧西峰深守庵中諸大法師弘教於大都，師親依輪下，參窮性相宗旨，靡不該練，尤醉心華嚴圓頓法門，如是者十餘年。復從小山、笑巖二老究西來密意，殊有會焉。自是聲光動遠近，後學仰而歸之。妙峰舉無遮會于五臺，師首其眾。罷會，居紫霞蘭若，面迫冷壁者三年。適塔院主人請修清凉傳，隨以法席延致四方學士大集，至室無所容。尋與友人雪峰創獅子窟，建萬佛琉璃塔，遂成一大叢林，日遶數千指，演大華嚴。寒巖氷雪中，儼然金剛窟對談也。時　兩宮興福尤注意臺山，聞師雅重之，特　賜龍藏。尋延師入京，館于千佛、慈因二寺，講大乘諸經，　賜賚隆厚。奉　旨馳驛還山，開古竹林居之，有終焉意。復修古南臺。南臺、竹林皆文殊現身處，久廢，得

師而復興，聖賢之蹟隱顯在人也。師自是疲於津梁，謝遣諸弟子，默然兀坐，一切無預於懷。眾固請說法，師曰：學者以究心為要，多說何為？爾曹勉之，吾將行矣。中夜端坐而逝，時萬曆丁巳六月也。師安重寡言笑，律身至嚴，御眾甚寬。說法三十餘年，處廣，眾若無人。不受飲食，雖天厨薦至，而粗糲自如。居恒專注理觀，安坐如山，物莫之動。度生衛法之心，至老彌篤。故出師之門者，皆凝厚之士，諸方取法焉。其於講演，提綱挈要，時出新義。北方法席之盛，稽之前輩，無出師右者。著述有楞嚴正觀、金剛正眼、般若照真論、因明起信攝論、永嘉集諸解，皆盛行于世。

徧融師傳

真圓，字大方，徧融其別號也，蜀之營山人，姓鮮氏。幼業儒，身長七尺餘，音吐洪亮。年將立，感生死無常，遂捨家入雲華山，禮可和尚為師，落髮受具。一鉢東下，至洪州，葺馬祖庵居之。復捨庵入京師，徧游講席，深入華嚴法界，心念口演，不離此經。復東鉢入匡山，值歲凶，鬻薪度日。採薪遇有材堅寔可為器杖者，輒削成襍薪中賣之，不論價，隨得錢米無多少，一以供眾，為之不避風雨寒暑，如是二十餘年。庵居獅子巖，地幽僻，多魑倀，常橫一棒坐巖口，行脚僧來，輒棒之出，竟無契其機者。前後四入京師，初住龍華寺，聽通公講法，次住柏林閱藏，又移世剎海，接待雲水。最後　慈聖太后建千佛叢林，請師居之，陳文端、趙文肅二公為護持，道望赫然。嘗在杲日寺講華嚴經，有狂僧觸太宰下獄，詞連師，因併逮師下獄。兩獄卒甚苦患師，置師于棬，師不勝苦，口稱大方廣佛華嚴經，鐵栓檀棬，轟然盡裂，獄卒駭異感化，因不復為獄卒。師在獄時，送供入獄者甚眾，然必獄眾均沾精好，一如始受，否即力却，終不獨入口。獄眾以此感動，相率皈依，圜扉之中，佛聲浩浩矣。師在獄凡三閱月，文肅公疏請得免。師念苦緣當百日，今未滿，且不能捨，獄眾堅不肯出。比出，隱穀積山，塊然獨坐，見人不起，亦不舉手。會中貴楊某奉　慈聖命，請居世剎海，　賜內帑、紫衣、寶旛、龍藏。時江陵方柄國，嘗詣師，侍者屢促，師迎不應。江陵至榻前，始徐起執其手曰：公來何為？曰：來問佛法。師曰：盡心佐理　朝廷，此真佛法，舍此俱為戲論耳。張默然。張又嘗偕文肅謁師，問：如何是文殊智？曰：不隨心外境。如何是普賢行？曰：調理一切心。師性耿直，高聲硬語，聞者凜然，不能為豪貴人溫愞，此亦其槩也。初，師法軀修偉，而不甚肥大，自住剎海，日漸豐碩，至須人扶掖始得行。隆冬沍寒，日必數浴，居恒危坐，默持法界觀，或誦華嚴無停晷。甲申九月，師命

梓人造龕，促其期曰：宜速成，緩無及也。前三日，孤雁集方丈，師撫之點頭曰：爾來乎？葢雁去而師滅。師原無疾，獨覺氣力漸微弱，至重九日，尚坐繩床，聽誦晚課，聞願生西方句，泊然而化。世壽七十九，僧臘五十，全身瘞德勝門外普同塔。

如幻傳

如幻，閩人也，林氏子。少為儒，以事忤督學使者，拂衣而出。之廬山，從徧融和尚落髮。時徧融晦迹眾中，為常住斫柴，幻亦斫柴。後徧融之京為國師，幻從之。京名起諸公卿間，籍甚。後散去，之姑蘇、南海、楚、蘄、黃間，所到說法，從之者如雲。萬曆己卯，來九峯講涅槃經，楚藩臬大夫往詢之。時弟子有私賣田數畝為常住者，以所置券請印於當道。幻聞之曰：非我法也。一夜遁去，諸弟子莫知所之。當道聞之，益重幻為人。生平無嗜好，人有所施，輒以施人。每行，手持一鉢，肩擔一袈裟，赤脚麻鞋，不厭艱苦。與人言：佛法滾滾，如大海水不可竭。又善談名理、皇極經、世性理諸書，一生不見喜怒之色。復來九峯講楞嚴，郭祭酒正域從之問道，言甚相得。後入廬山講法華經。一日，端坐示疾，弟子請偈，幻曰：浮生本無偈，癡人迷夢踪。虛空無面目，面目問虛空。弟子曰：靈骨可更之蘄乎？幻曰：愛重娑婆苦，無情極樂仙。何須懷舊影，寂照滿三千。言畢而逝，時年五十九。

方念傳

方念，號清凉，古唐楊氏子。剃染從師，頗習文義。後捨之，入少林，謁幻休。幻休提大事因緣激發之，曉夕體究，至寢食俱忘。一日，至五乳峯前，忽有得，呈偈曰：五乳峯前，好箇消息。大小石頭，塊塊著地。幻休可之。尋入京，依暹、禮二師，探性相宗旨，曰：差別智不可不明也。自是肆游諸方，所見非一人，所修非一行。喫水齋，刺血書華嚴經，斷三日食，或斷七日。岩間枯坐，六時課誦，行大悲呪、穢跡呪，日各千遍。跽閱雜華，放施食，喫麩糠，吞菜，閉關禁足。凡一切苦行，人所頗蹙者，師甘之如飴。然亦不廢講演，結冬度夏，從人渴仰，引進作佛事耳。萬曆丁亥，在古華嚴石城，精厲過分，忽雙目失明，思惟曰：幻身非有，病從何來？身心一時放下，硬坐七日而復見。隨至秀州天寧，飯僧十萬八千。過越中，寓廣濟蘭若。有澄上座者，拜侍為弟子。禪者仰峯從杭來，夢師踞法座，放頂光，普蔭越地。其後澄上座法道大行越中，斯其兆也。又行化入吳，於天池開火場煉魔。回秀州，修福城

東塔。復遊江西，歷雲居、匡廬，將入五臺，而越中緇白念德之深，力挽之歸，後竟莫知所終。其在越，獨眷眷于寶林道場，焉知非清凉國師後身？又焉知後日不復卓錫也？

雲棲蓮池宏師傳

蓮池袾宏，字佛慧，仁和沈氏子。父號明齋，母周氏。師生而穎異，試屢冠諸生，於科第猶掇之也。顧志在出世，几案間輟書生死事，大以自警。一日，閱慧燈集，失手碎茶甌，有省。乃視妻子為髑臭布衫，于世相一筆盡勾。作歌寄意，棄而專事佛，雖學使者力挽之，不回也。從蜀師性天剃度，乞昭慶無塵玉律師受具，即單瓢隻杖遊諸方。北遊五臺，感文殊放光。至伏牛，坐煉囈語，忽現舊習。入京師，參徧融、笑巖二大老，皆有開發。經東昌府，忽有省，作偈曰：二十年前事可疑，三千里外遇何奇。焚香擲戟渾如夢，魔佛空爭是與非。時以母服未闋，懷木主以遊，每食必供，居必奉。至金陵瓦官寺，病劇，幾為主者舁就茶毗。病間歸，得古雲棲寺舊址，結茅默坐，懸鐺煑糜。曾絕糧七日，倚壁危坐而已。胸掛鐵牌，題曰鐵若開花，方與人說。久之，檀越爭為構室，漸成叢林，清規肅然，為諸方道場冠。而師始啟口說法，弟子日進六時觀念，中夜警策，慈顏溫諭，無異花開見佛矣。師以精嚴律制為第一行，著沙彌要略，具戒便蒙梵網經疏以發明之。又從參究念佛得力，遂開淨土一門，著彌陀疏鈔，融會事理，指歸唯心。又以高峯語錄最極精銳，乃并匡山、永明及古德機緣中喫緊語彙一編，名曰禪關策進，以示參究之訣。自是道風大播，朝野歸心。若大司馬宋公應昌、太宰陸公光祖、宮諭張公元忭、大司成馮公夢禎、陶公望齡，并一時諸縉紳先生，次第及門問道者以百計，靡不心折，盡入陶鑄觀。興浦菴偈所謂：一朝踏破香巖鉢，雙報　君恩與佛恩。始知東昌之悟真戴角虎，不但稱理而談已也。師持論嚴正，詰解精微。監司守相下車，就語侃侃，略無少屈。諸賢豪候參者無加禮，皆忘形屈勢。至則空其所有，非精誠感物，何能至是哉？侍御左公宗郢問：念佛得悟否？師曰：返聞聞自性，性成無上道。又何疑返念念自性耶？仁和令樊公問：心雜亂，如何得靜？師曰：置之一處，無事不辦。坐中一士曰：專格一物，是置之一處，辦得何事？師曰：論格物，只當依朱子豁然貫通去，何事不辦得？或問：師何不貴前知？師云：譬如兩人觀琵琶記，一人不曾經見，一人曾見而預道之。畢竟同觀終場，能增減一齣否？侍郎王公宗沐問：夜來老鼠唧唧，說盡一部華嚴經。師云：猫兒突出時如何？王無語。師代云：走却法師，留下講案。又書頌云：老鼠唧唧，華嚴歷歷。奇哉

王侍郎，却被畜生惑。猫兒突出畫堂前，床頭說法無消息。無消息，大方廣佛華嚴經。世主妙嚴品第一。師直擯曲說，語無回互，而世所宗天主寔義，又期立論破之。淨慈僧性蓮，請師講圓覺經，聽者日數萬指。大釜日炊兩度，眾猶不給。募贖寺前萬工池，植蓮放生，因盟朝士修天聖故事者二紀。後師八十誕辰，又增拓之。合城中上方、長壽兩池，皆為放生設。著放生文行於世，海內多尊奉之。　孝定慈聖皇太后崇重三寶，偶見師放生文，甚嘉歎，遣內侍賫紫袈裟，齋資往供，問法要。師拜受，以偈答之。師極意悲幽冥苦趣，自習燄口，時親設放。嘗有見師座上現如來相者，觀力之使然也。師天性朴實簡淡，無緣飾虛懷，應物貌溫粹，胸無崖岸，而守若嚴城。畫叢林日用，量施利厚薄，因果覈，罪福明，雖粒米莖菜，未嘗虛費。五十年中，不設化主，養老病，供眾僧。海內衲子，擔簦負笈而至者，肩摩轂擊，食指日以千計。稍有盈餘，輒散施諸山。庫無儲蓄，別有供師者，咸納之以為衣藥。貧病施，略無虛日。簡私記，近七載中，實用五千餘金。師生平惜福，嘗著三十二條自箴。垂老，躬自浣濯，出溺器，終身衣布素。一麻布幃，乃丁母艱時物，今尚存，他可知已。師以平等大悲，攝化一時，非佛言不言，非佛行不行，非佛事不作。佛囑末世護持正法者，依四安樂行，師實以之。憨公云：歷觀從上諸祖，單提正令，未必盡修萬行。若夫即萬行以彰一心，即塵勞而見佛性者，古今除永明，唯師一人而已。先儒稱寂音為僧中班、馬，予則謂師為法門之周、孔也。萬曆乙卯六月，入城別諸弟子，首及宋守一等，遍及故舊，但曰：吾將他往矣。人皆莫測。還山，具茶湯設供，與眾話別云：此處吾不住，將他往。眾罔知。七月朔晚，入堂坐，囑大眾曰：我言眾不聽，我如風中燭，燈盡油乾矣。次夜，入丈室，示微疾，瞑目無語。弟子圍繞，師復開目云：大眾老實念佛，毋揑怪，毋壞我規矩。眾問：誰可主叢林？師曰：解行雙全者。又問目前，師曰：姑依戒次。言訖，面西念佛，端然而逝。師生於嘉靖乙未，世壽八十一，僧臘五十。師自卜　寺左嶺下，遂全身塔於此。其先耦湯氏，亦後師祝髮建孝義菴，為女叢林主，先一載而化，亦塔於寺外之右山。師得度弟子，廣孝等為最初上首。其及門受戒得度者，不下數千計，而在家無與焉。縉紳士君子及門者，亦以千計，而私淑者無與焉。其所著述，除經疏外，有戒疏、事義問辯、疏鈔事義、楞嚴摸象記、遺教節要、水陸儀文、竹牕隨筆、二筆、三筆、四十八問答、淨土疑辨、往生集、崇行錄、名僧輯略、正訛集、自知錄、雲棲紀事、山房雜錄等二十餘種行世。

補續高僧傳卷第五

補續高僧傳卷第六

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

唐　龜洋、佛手岩二師傳

龜洋禪師慧忠，泉之仙遊陳氏子也。九歲出家，具戒後杖錫觀方。謁草菴，問：何方來？師曰：六眸峰。菴曰：還見六眸否？師曰：患非重瞳。菴然之。留草菴十年，旋回故山。屬唐武宗廢教，及宣宗詔興之。師曰：仙去者未必受籙，佛去者未必須僧。遂過中不食，不宇而禪，迹不出山者三十餘年。述三偈以自見曰：雪後始知松栢操，雲收方見濟河分。不因世主教還俗，那辨雞羣與鶴羣。多年塵土謾騰騰，雖著方袍未是僧。今日修行依善慧，滿頭留髮候然燈。形儀雖變道常存，混俗心源亦不昏。試讀善財巡禮偈，當時豈例是沙門。常謂門弟子：眾生不能解脫者，情累爾。悟道易，明道難。夫明之為言，信也。如禁蛇，人信其藥呪力，以蛇綰弄，揣懷袖中無難。未知者怖駭棄去，但諦見自心，情見便破。今千疑萬慮不得用，是未見自心也。一日，忽索香焚罷，安坐而化。全身葬於無了禪師塔之東隅二百步，目為東塔。後數年，塔忽坼裂，主塔者將發視之，夜寂中見無了曰：不必更發也。今為沈、陳二真身。沈，無了姓，見馬祖。

佛手岩行因者，閩門人，未詳姓氏。少習儒，捨俗出家，遂雲遊。首謁鹿門真公，言下有省。尋抵江淮，登廬山。山北有岩如五指，下石窟可三丈餘，師宴處其中，因號佛手岩和尚。不度弟子，有鄰菴僧為供侍。常有異鹿、錦囊烏，馴遶其側。江南李主三詔不起，堅請就棲賢開法。不逾月，仍潛歸岩室。寂音為之贊曰：淮山深處，容我卓錫。樹下經行，岩間宴寂。六十餘年，脇不至席。天子三詔，掉頭不應。知不可致，南向加敬。山搖海驚，天空地迥。後代兒孫，則反於是。如乳中蟲，貪著世味。我尋其跡，為隕涕淚。師後下禪床，行數步，屹立而化。岩頂有松一株，同日枯瘁。壽七十餘。岩之陰，骨塔存焉。(二師皆曹山嫡孫。)

瑞龍璋、黃檗慧傳

瑞龍禪師幼璋，唐相國夏侯孜猶子也。大中初，伯父司空出鎮廣陵，師方七歲，游慧照寺，聞誦妙法蓮華經，於是跪伯父前求出

家。伯父難之，師因不飲食，不得已許之。依慧遠禪師剃髮，又十年受具足戒。年二十五，游方至高安，見白水，又謁署山二大老，皆器許焉。咸通十三年，見騰騰和尚者於江陵，騰騰囑曰：汝往天台尋靜而居，遇安即止。已而又見憨憨和尚者，憨拊之曰：汝却後四十年，有巾子山下菩薩王於江南，於時我法乃昌。遂去至天台山，於靜安鄉建福唐院，已符騰騰之言。又住隱龍院。中和四年，浙東飢疫，師於溫、台、明三郡收瘞遺骸數千，時謂悲增大士。乾寧時，雪峰嘗見之，以樓櫚拂子授師而去。天祐三年，錢尚父遣使童建齎衣服香藥入山致請，至府署，志德大師館於功臣院，日夕問道，辭還山。尚父不可，乃建瑞龍寺於城中以延之，禪者雲趨而集。又契憨憨之語，嘗謂門弟子曰：老僧頃年游歷江外、嶺南、荊湖，但有知識叢林，無不參問來。蓋為今日與諸人聚會，各要知箇去處。然諸方終無異說，只教諸人歇却狂心，休從他覓。但隨方任真，亦無真可任；隨時受用，亦無時可用。設垂慈苦口，且不可呼晝作夜；更饒善巧，終不能指東為西。說或能爾，自是神通作怪，非干我事。若學語之流，不省己知非，直欲向空裏採花、波中取月，還著得心力否？汝今日各自退思，忽然肯去，始知瑞龍老漢事不獲已，迂迴大甚，還肯麼？天成二年丁亥四月，師從尚父乞墳，尚父笑曰：師便爾乎？遣陸仁璋者，擇地西關建塔。塔畢，師往辭，尚父囑以護法邮民。還，安坐而化。閱世八十有七，坐七十夏。詔改天台隱龍為隱跡云。

黃檗山慧禪師，洛陽人也。少出家，業小經論學。因增受菩薩戒，嘆曰：大士攝律儀，與吾本受聲聞戒，俱止持作犯也。然篇聚增減，支本通別，制意且殊。既微細難防，攝善中未嘗行於少分，況饒益有情乎？且世間泡幻，身命何可留戀哉？遂置講課，欲捐身水中飼鱗甲。念已將行，偶二禪者接之款話，謂：南方頗多知識，師何滯一隅也？師從此回意參尋。屬關津嚴緊，乃謂守吏曰：吾非翫山水，誓求祖道。他日必不忘恩。守者察其志，遂不苛留。且曰：師既為法忘軀，回時願無吝所聞。師欣謝，直造疏山。時仁和尚坐法堂受參。師先顧大眾，然後致問曰：剎那便去時如何？疏山曰：囯塞虛空，汝作麼生去？師曰：囯塞虛空，不如不去。疏山便休。師下堂，參第一座。座曰：適觀座主對和尚語，甚奇特。師曰：此乃率爾，寔自偶然。敢望慈悲開示。座曰：一剎那間，還有擬議否？師言下頓省。禮謝退茶堂，悲喜交盈。如是三日，尋住黃檗山，聚眾開法。後終本山。今塔中全身如生。

雲居簡傳

禪師道簡，其先范陽人，史失其氏。天姿粹美，閑靜寡言。童子剃髮，受滿分戒，徧遊叢席，造雲居謁膺禪師。膺與語連三日，大奇之，戒令刻苦事眾。遂躬操井臼，司樵爨，徧掌寺務，不妨商略古今，眾莫有知者。以臘高為堂中第一座。先是，高安洞山有神靈甚，膺公往三峰時受服役。既來雲居，神亦從至，舍于枯樹下。樹茂，號安樂樹神。屬膺將順寂，主事僧白曰：和尚即不諱，誰可繼者？曰：堂中簡。主事僧意不在簡，謂令揀選可當說法者，僉曰：第二座可。然且攝禮先請簡，簡豈敢當也？既申請，簡無所辭讓，即自持道具入方丈，攝眾演法自如，主事僧大沮。師知之，一夕遁去，安樂樹神號泣。詰旦，眾追至麥莊，悔過迎歸，聞空中連呼曰：和尚來也！僧問：如何是和尚家風？曰：隨處得自在。問：維摩豈不是金粟如來？曰：是。曰：為甚麼却在釋迦會下聽法？曰：他不爭人我。問：如何是朱頂王菩薩？曰：問這赤頭漢作麼？問：橫身蓋覆時如何？曰：還蓋得麼？問：蛇子什麼吞却蛇？師曰：在理何傷？問：諸佛道不得處，和尚還道得麼？曰：汝道什麼處道不得？問：路逢猛虎時如何？曰：千人萬人不逢，偏汝便逢。問：獨宿孤峰時如何？曰：閑著七間堂，誰教汝孤峰獨宿？問：古人云：若欲保任此事，直須向高高山頂立，深深海裏行。意旨如何？曰：高峰深海，迥絕孤危，似汝閨閣中軟暖麼？又問：叢林多好論尊貴邊事如何？曰：要汝知大唐天子不會書斷，會麼？簡契悟精深，履踐明驗，而對機應物，度越凡量，天下宗之。壽八十餘，無疾而化。廬州帥張崇為建塔本山。

系曰：有同安丕禪師者，與師同為膺公嫡嗣，難兄弟也。丕之嗣曰同安志，志之嗣曰梁山緣觀。自丕自觀皆失考，生緣不及傳，觀之子則為大陽玄矣。別具膺公，見宋傳。

蜆子和尚傳

蜆子和尚，不知何許人也。事跡頗異，居無定所。自印心於洞山，混俗閩川。不畜道具，不循律儀。冬夏唯披一衲，逐日沿江岸採掇鰕蜆，以充其腹。暮即宿東山白馬廟紙錢中，居民目為蜆子和尚。華嚴靜禪師聞之，欲決真假，先潛入紙錢中。深夜師歸，嚴把住曰：如何是祖師西來意？師遽答曰：神前酒臺盤。嚴放手曰：不虛與我同根生。嚴後赴莊宗詔入長安，師亦先至。每日歌唱自拍，或乃佯狂泥雪，去來俱無踪跡。後不知所終。靜出洞山，故曰同根生耳。

惟勁大師傳

寶聞大師惟勁，福州人也。素持苦行，不衣繒纊，惟壞衲度寒暑，時謂頭陀焉。初參雪峰，深入淵奧。復問法玄沙之席，心印符會。一日，謂鑒上座曰：聞汝註楞嚴經，是否？曰：不敢。師曰：二文殊如何註？曰：請師鑒。師乃揚袂而去。唐光化中，入南岳，住三生藏。藏中有鏡燈一座，華嚴第三祖賢首大師所製也。師覩之，頓悟廣大法界，重重帝網之門，佛佛羅光之像。因歎曰：此先哲奇功，非具不思議善權之智，何以創焉？乃著五字頌五章，覽者悟理事相融。後終南嶽。師著述有寶林傳四卷，紀貞元後禪門繼踵源流。又製七言覺地頌，廣明諸教緣起。又著南岳高僧傳，皆流傳於世云。

鼓山國師傳(從展附)

鼓山國師神晏，大梁人也，姓李氏。幼惡葷羶，樂聞鐘梵。年十二時，有白氣數道騰于所居屋壁，師即揮毫書壁曰：白道從茲速改張，休來顯現作妖祥。定祛邪行歸真見，必得超凡入聖鄉。題罷，氣即隨滅。年甫志學，遘疾甚亟，夢神人與藥，覺而頓愈。明年，又夢梵僧告云：出家時至矣。遂依衛州白鹿山道規禪師披削，嵩嶽受具，謂同學曰：古德云：白四羯磨後，全體戒定慧。豈準繩而可拘也？於是杖錫遍叩禪關，但記語言，存乎知解。及造雪嶺，朗然符契。一日，參雪峰，峰知其緣熟，忽起搦住曰：是什麼？師釋然了悟，亦忘其了心，惟舉手搖曳而已。雪峰曰：子作道理耶？師曰：何道理之有？雪峰審其懸解，撫而印之。暨雪峰歸寂，閩帥於府城左二十里開鼓山，創禪宮，請揚宗教，曰：今為諸仁者刺頭，入諸聖化門裏，斗藪不出，所以向仁者道：教排不到，祖不西來，三世諸佛不能唱，十二分教載不起。凡聖攝不得，古今傳不得，忽爾是个漢，未通个消息。向他恁麼道，被他驀口摑，還怪得他麼？雖然如此，也不得亂摑。鼓山尋常道：更有一人不跨石門，須有不跨石門句。作麼生是不跨石門句？鼓山自住三十餘年，五湖四海來者向高山頂上看山玩水，未見一人快利通得，如今還有人通得也不昧。兄弟珍重！乃有偈示眾曰：直下猶難會，尋言轉更賒。若論佛與祖，特地隔天涯。閩帥禮重，常詢法要焉。

保福禪師從展。福州人也。生陳氏。年十五禮雪峰為受業師。十八本州大中寺具戒。游吳楚間。後歸執侍雪峰。一日忽召曰：還會麼。師欲近前。峰以杖拄之。師當下知歸。又常以古今因緣詢長慶稜和尚。稜深許之。梁貞明四年丁丑。漳州刺史王公欽承道風。創保福院迎請居之。師曰：上座行脚事作麼生不會。會取好。莫傍家取人處分。若是久在叢林。粗委些子遠近。可以隨處任真。後學未

知次序。山僧不惜口業向汝道。塵劫來事只在如今。還會麼。問：因言辯急時如何？師曰：因甚麼言。僧低頭良久。師曰：擊電之機徒勞佇思。問：欲達無生路。應須識本源。如何是本源。師良久。却問侍者。適來僧問甚麼。其僧再舉。師乃喝出曰：我不患聾。師因僧侍立問曰：汝得恁麼麤心。僧曰：甚麼是某甲麤心處。師拈一塊土度與僧曰：拋向門前著。僧拋却來曰：甚處某甲麤心。師曰：我見築著磕著道汝麤心。師住保福僅一紀。學眾不下七百。其接機利物不可備錄。唐天成三年戊子。示有微疾。僧入丈室問訊。師曰：吾與汝相識年深。有何方術相救。僧曰：方術甚有。聞說和尚不解忌口。又謂眾曰：吾旬日來氣力困劣。別無他。只是時至。僧問：時既至矣。師去即是。住即是。師曰：道道。曰：怎麼即某甲不敢造次。師曰：失錢遭罪。言訖而寂。

系曰：予登鼓山，覽國師遺跡，至喝水巖，風景凄楚。相傳師嘗宴坐於此，溪水喧聒，師喝之，水為倒流遠去，至今猶然。國師高風，千載可想見矣。保福機語，如嚴霜急颸，亦足摧殺。但君子不欲多上人，陳老師那應便築受降城耶？

羅山閑傳

羅山道閑禪師，長溪陳氏子。出家龜山，年滿受具，徧歷諸方。嘗謁石霜，問：去住不寧時如何？霜曰：直須盡却。師不契，乃參巖頭，亦如前問。頭曰：從他去住，管他作麼？師于是服膺。閩帥飲其法味，請居羅山，號法寶禪師。僧辭保福，福問：甚處去？曰：禮拜羅山。福曰：汝向羅山道，保福秋間上府朝覲大王，置四十箇問頭，問：和尚忽若一句不相當，莫言不道。僧舉似師，師呵呵大笑曰：陳老師自入福建，道洪塘橋下一寨，未曾見有箇毛頭星現。汝與我向從展道，陳老師無許多問頭，祇有一口劒，一劒下有分身意，有出身路不明，便須成末。僧迴舉似福，福曰：我當時也祇是謔伊。至秋入府，師特為辦茶筵請福，福不赴，却向僧曰：我中間曾有謔語，恐和尚問著。僧歸舉似，師曰：汝向他道，猛虎終不食伏肉。僧又去，福遂來。臨遷化，上堂集眾，良久展左手，主事罔測，乃令東邊師僧退後。又展右手，令西邊師僧退後。乃曰：欲報佛恩，無過流通大教。歸去也，珍重！言訖，莞爾而寂。

系曰：巖頭門下得法者，傳燈現錄六人，而二彥一閑最著。僧統僅傳瑞岩彥，而玄泉彥與閑師不載。予故表之，使知黃龍、明招二公所自出也。

黃龍機、明招謙傳

黃龍山誨機禪師。清河張氏子。初參巖頭。問：如何是祖師西來意。頭曰：你還解救糍麼。曰：解。頭曰：且救糍去。後到玄泉又問。泉拈起一莖皂角曰：會麼。師不會。泉放下作洗衣勢。師便禮拜曰：信知佛法無別。泉曰：見甚道理。師曰：某甲問巖頭。頭曰：你解救糍麼。救糍也祇是解粘。和尚提起皂角亦是解粘。所以道無別。泉呵呵大笑。師遂有省。唐天祐中游化至此山。節帥施俸建宇。奏賜紫衣師號。大張法席。師將順世。有僧問：百年後鉢囊子何人將去。師曰：一任將去。曰：裏面事如何。師曰：線綻方知。曰：何人得。師曰：海燕雷聲即向汝道。言訖告寂。先是呂岩真人洞賓。京川人。唐末三舉不第。偶於長安酒肆遇鍾離權。授以延命術。自爾人莫之究。嘗遊廬山歸宗，書鐘樓壁曰：一日清閑自在身，六神和合報平安。丹田有寶休尋道，對境無心莫問禪。未幾，道經黃龍山，覩紫雲成蓋，疑有異人，乃入謁。值師擊鼓升堂，師見，意必呂公也，欲誘而進，厲聲曰：座旁有竊法者。呂毅然出，問：一粒粟中藏世界，半升鐺內煮山川。此意如何？師指曰：這守尸鬼。呂曰：爭奈囊有長生不死藥。師曰：饒君八萬劫，終是落空亡。呂薄訝，飛劒脅之，不能入，遂再拜求指歸。師詰曰：半升鐺內煮山川即不問，如何是一粒粟中藏世界？呂言下頓契，作偈曰：棄却瓢囊摵碎琴，如今不戀汞中金。自從一見黃龍後，始覺從前錯用心。師囑令加護。

明招德謙禪師受羅山印記，靡滯于一隅，激揚玄旨，諸老宿畏其敏捷，後學鮮敢當者。嘗到昭慶，指壁畫問僧：那箇是甚麼神？曰：護法善神。師曰：會昌沙汰時何處去來？僧無對。師令問演侍者，演曰：汝甚劫中遭此難來？僧回舉似師，師曰：直饒演上座他後聚一千眾，有甚用處？僧禮拜，請別語，師曰：甚麼處去也？次到坦長老處，坦曰：夫參學，一人所在亦須到，半人所在亦須到。師便問：一人所在即不問，作麼生是半人所在？坦無對。後令小師問師，師曰：汝欲識半人所在，祇是弄泥團漢。清上座舉仰山插鍬話問師：古人意在叉手處？插鍬處？師召清，清應話，師曰：還夢見仰山麼？清曰：不要上座下語，祇要商量。師曰：若要商量，堂頭自有一千五百人老師在。又到雙岩，巖請喫茶次，曰：某甲致一問，若道得，便捨院與闍黎住；若道不得，即不捨院。遂舉金剛經云：一切諸佛及諸佛阿耨多羅三藐三菩提法，皆從此經出。且道此經是何人說？師曰：說與不說，拈向這邊著。祇如和尚決定喚甚麼作此經？巖無對。師曰：一切賢聖皆以無為法而有差別，祇如差別是過不是過？若是過，一切賢聖皆是過；若不是過，決定喚甚麼作差別？巖亦無語。師曰：噫！雪峰道底。師訪保寧，中路相遇，便問：兄是道伴中人。乃點鼻頭曰：這箇礙塞我不徹，與我拈却少時

得麼？寧曰：和尚有來多少時？師曰：噫！洎賺我踏破一緉草鞋。便回。國泰代曰：非但某甲，諸佛亦不奈何。師曰：因甚麼以己方人？師在婺州智者寺居第一座，尋嘗不受淨水，主事嗔曰：上座不識觸淨，為甚麼不受淨水？師跳下床，提起淨瓶曰：這箇是觸是淨？事無語，師乃撲破。師有師叔在廨院患甚，附書來問曰：某甲有此大病，如今正受疼痛，一切處安置伊不得，還有人救得麼？師乃復曰：頂門上中此金剛箭，透過那邊去也。有一僧曾在師法席，辭去住菴一年，後來禮拜曰：古人道：三日不相見，莫作舊時看。師乃露胸問曰：汝道我有多少蓋膽毛？僧無對。師却問：汝什麼時離菴？曰：今朝。師曰：來時折脚鐺子分付與阿誰？僧又無語，師乃喝出。師住明招山四十載，語句流布四方，將欲遷化，上堂告眾囑付。其夜展足問侍者曰：昔釋迦如來展開雙足，放百寶光明，汝道吾今放多少？侍者曰：昔日鶴林，今日和尚。師以手拂眉曰：莫辜負麼？說偈曰：驀刀叢裏逞全威，汝等應當善護持，火裏鐵牛生犢子，臨岐誰解湊吾機？偈畢安坐，寂然長往，今塔院存焉。

系曰：常言學仙須骨，學佛須緣，洞賓蓋有骨有緣者耳。然非黃龍手段斬截，恐此漢未易壓倒。明招悟入沒量，如鄧天君下視草木皆焦，所謂但知盡法，不顧無民。由是知巖頭門日孤冷弗振，不得如象骨老子法澤綿長矣。

太原上座傳

太原孚上座初在揚州光孝寺講涅槃經，有禪者阻雪，因往聽講，至三因佛性、三德法身，廣談法身妙理，禪者失笑。師講罷，請禪者喫茶，白曰：某甲素志狹劣，依文解義，適蒙見笑，且望見教。禪者曰：寔笑座主不識法身。師曰：如此解說，何處不是？曰：請座主更說一遍。師曰：法身之理，猶若太虛，豎窮三際，橫亘十方，彌綸八極，包括二儀，隨緣赴感，靡不周徧。曰：不道座主說不是，祇是說得法身量邊事，寔未識法身在。師曰：既如是，禪德當為我說。曰：座主還信否？師曰：焉敢不信？曰：座主試輟講旬日，掩關端坐，收心攝念，善惡諸緣，一時放却。師一依所教，從初夜至五更，聞鼓角聲，忽然契悟，便去叩門。禪者曰：誰？師曰：某甲。禪者咄曰：教汝傳持大教，代佛說法，夜來為甚醉酒臥街？師曰：禪德自來講經，將生身父母鼻孔扭捏，今已去，更不敢如是。禪者曰：且去，來日相見。師遂罷講，徧歷諸方，名聞宇內。嘗游浙中，登徑山法會。一日，于大佛殿前，有僧問：上座曾到五臺否？曰：到。見文殊否？曰：見。甚處見？曰：徑山佛殿前見。其僧後適閩川，舉似雪峰。峰曰：何不令入嶺來？師聞，趨裝

而往。初至峰廨院憩錫，因分柑子與僧。長慶問：甚處將來？師曰：自嶺外。曰：遠涉不易擔負得來。師曰：柑子！柑子！次日上山，雪峰聞，乃集眾。師到法堂上，顧視雪峰，便下看知事。明日，却上禮拜曰：某甲昨日觸忤和尚。峰曰：知是般事。便休。峰一日見師，乃指日示之。師搖手而出。峰曰：汝不肯我耶？師曰：和尚搖頭，某甲擺尾。甚麼處是不肯？峰曰：到處也須諱却。一日，眾僧晚參，峰在中庭臥。師曰：五州管內，祇有這老和尚較些子。峰便起去。峰嘗問師：見說臨濟有三句，是否？師曰：是。曰：作麼生是第一句？師舉目視之。峰曰：此猶是第二句，如何是第一句？師叉手而退。自是雪峰深器之，室中印解，師資道契，更不他游，而掌浴焉。一日，玄沙上，問訊雪峰。峰曰：此間有箇老鼠子，今在浴室裏。沙曰：待與和尚勘過。言訖，到浴室，遇師打水。沙曰：相看上座。師曰：已相見了。沙曰：甚劫中相見？師曰：瞌睡作麼？沙却入方丈，白峰曰：已勘破了。峰曰：作麼生勘伊？沙舉前話。峰曰：汝著賊也！鼓山問師：父母未生時，鼻孔在甚麼處？師曰：老兄先道。山曰：如今生也，汝道在甚麼處？師不肯，山却問：作麼生？師曰：將手中扇子來。山與扇子，再徵前話，師搖扇不對，山罔測，乃毆師一拳。鼓山赴大王請，雪峰門送，同至法堂，乃曰：一隻聖箭直射九重城裏去也。師曰：是伊未在。曰：渠是徹底人。師曰：若不信，待某甲去勘過。遂趁至中路，便問：師兄甚處去？山曰：九重城裏。師曰：忽遇三軍圍繞時如何？山曰：他家自有通霄路。師曰：恁麼則離宮失殿去也。山曰：何處不稱尊？師拂袖便回。峰問：如何？師曰：好隻聖箭，中路折却了也。遂舉前話，峰乃曰：奴渠語在。師曰：這老凍膿猶有鄉情在。師在庫前立，有問：如何是觸目菩提？師踢狗子作聲走，僧無對，師曰：小狗子不消一踢。保福簽瓜次，師至，福曰：道得與汝瓜喫。師曰：把將來。福度與一片，師接得便去。師不出世，諸方目為太原孚上座。後歸維揚，陳尚書留供養。一日，謂尚書曰：來日講一遍大涅槃經，報答尚書。書至期，致齋茶畢，師遂陞座，良久，揮尺一下，曰：如是我聞。乃召尚書，書應諾，師曰：一時佛在。便乃脫去。

大靜、小靜傳

國清寺師靜上座，始遇玄沙和尚示眾云：汝諸人但能一生如喪考妣，吾保汝究得徹去。師乃躡前語問曰：只如教中不得以所知心測度如來無上知見，又作麼生？玄沙曰：汝道究得徹底，所知心還測度得及否？師從此信入。後居天台，三十餘載不下山。博綜三學，

操行孤立。禪寂之餘，常閱龍藏，遐邇欽重，時謂大靜上座。嘗有人問曰：弟子每當夜坐，心念紛飛，未明攝伏之方，願垂明誨。師答曰：汝將紛飛心以究紛飛處。究之無處，則紛飛之念何存？返究究心，則能究之心安在？又能照之智本空，所緣之境亦寂。寂非寂者，無能寂之人；照非照者，無所照之境。境智俱寂，心慮安然。外不尋枝，內不住定。二途俱泯，一性怡然。此乃還源要道也。師因覩教中幻義，乃述一偈問諸學流。偈曰：若道法皆如幻有，造諸過惡應無咎。云何所作業不忘，而藉佛慈興接誘？時有小靜上座答曰：幻人興幻幻輪圍，幻業能招幻所治。不了幻生諸幻苦，覺知如幻幻無為。二靜上座並終本山，今國清寺遺蹤在焉。

烏巨晏禪師傳

烏巨山儀晏禪師，吳興許氏子。於唐乾符三年將誕之夕，異香滿室，紅光如晝。光啟中，隨父鎮信安，強為娶，師不願，遂歷諸方，機契鏡清。歸省父母，乃於郭南刱別舍，以遂師志。舍旁陳司徒廟有凜禪師像，師往瞻禮，失其所之。後郡守展祀祠下，見師入定，廟後叢竹間蟻蠹其衣，敗葉沒脞，或者云：是許鎮將子也。自此三昧或出或入。子湖訥禪師未知師，造問曰：子所住定，蓋少乘定耳。時方啜茶，師呈起橐曰：是大是小？訥駭然。尋謁栝倉唐山德嚴禪師，嚴問：汝何姓？曰：姓許。嚴曰：誰許汝？曰：不別。嚴嘿識之，遂與剃染。嘗令摘桃，浹旬不歸，往尋，見師攀桃倚石，泊然在定，嚴鳴指出之。開運中，游江郎巖，覩石龕，謂弟子慧興曰：予入定此山，汝當壘石塞門，勿以吾為念。興如所戒。明年，興意師長往，啟龕視之。師素髮披肩，胸臆尚煖，徐自定起，了無異容。復回烏巨。侍郎慎公鎮信安，馥師之道，命義學僧守榮詰其定相。師不與之辯，榮意輕之。時信安人競圖師像而尊事，皆獲舍利。榮因愧服，禮像謝愆，亦獲舍利。歎曰：此後不敢以淺解測度矣。錢忠懿王感師見夢，遣使圖像至。適王患目疾，展像作禮，如夢所見。隨雨舍利，目疾頓瘳。因錫號開明，及述偈讚，寶器供具千計。端拱初，太宗皇帝聞師定力，詔本州加禮，津發赴闕。師力辭。僧再至，諭旨特令肩輿入對便殿，命坐賜茗，咨問禪定。奏對簡盡，深契上旨。丐歸，復詔入對，得請還山，送車塞途。淳化元年示寂，壽一百十五，臘五十七。闍維，白光屬天，舍利五色。邦人以骨塑像，至今州郡雨暘禱之，如嚮斯答。

梁　普靜覺傳

普靜院常覺禪師，陳留人也，生李氏。幼習儒，絕無干祿意。志樂山水，頗務游觀。至廬山歸宗，適弘章禪師開法，乃言下有省，固求出家。未幾，章將順寂，命師前撫之曰：汝於大法有緣，後濟度無量。吾呼吸間人耳，不能遂汝志。即以披剃事囑之門人，章乃寂。師至梁乾化二年落髮，明年納戒於東林甘露壇。尋游五臺，抵上都干麗景門外，獨居二年。有比鄰張生者，清信士也，屈師供養，偶搰焉。其家至深夜，與妻竊窺之，見師體遍滿榻中，頭足俱出榻外。生大驚，及令奴婢視之如常。生倍加信敬，曰：弟子夫婦偕老，願割宅前區，以裨丈室，可乎？師欣然受之。後唐天成三年，遂成大院，賜額曰普靜。師以時機淺昧，難任極旨，苟啟之非器，謗讟由生，未若不言之為愈。于是每月三八日，隨緣行施，僧俗受惠者以萬計。嘗謂諸徒曰：但得慧門無壅，則福何滯哉？一日，給事中陶穀入院，見師所為，因問曰：經云：離一切相，即名諸佛。今目前紛然，如何離得？師曰：給事見箇甚麼？陶欣然仰重。自是王公大人屢薦章服師號，皆却不受。以開寶四年冬，右脇而化。

梁　重雲暉禪師傳

重雲禪師智暉，生咸秦高氏。總角時，即好游佛寺，喜動顏色，自誓出家。年二十，受滿足戒，印心于白水仁禪師。因愛中灘山水，刱屋居之，號溫室院，日以施水給藥為事。有比丘患白癩，眾惡之，師引歸，日夕與摩洗。久之，忽神光異香煥發，失僧所在，視瘡痂皆異香也。梁開平中，思故山，乃還終南圭峰。于是翛然深往，獨步岩石，徘徊顧望，忽見磨納數珠，銅瓶樓笠在石壁間，觸之即壞，宛如常寢處。遂恍然曰：此吾前身道具也。因就其處建寺以酧。昔因方薙草，有祥雲出眾峰間，遂名重雲，虎豹引去。有龍湫，險惡不可犯，師夷之為路，龍亦去之。後唐明宗聞而嘉歎，賜額曰長興。住持四十餘年，接引後學，老而無倦。節度使王彥超微時，嘗從暉游，願為沙門。暉曰：汝世緣深，當為吾家垣墻。彥超後果鎮永興，于是益敬師。周顯德三年夏，詣別彥超，囑以山門事。初秋，體尚無恙，忽說偈曰：我有一間舍，父母為修蓋。住來八十年，近來覺損壞。早擬移他處，事涉有憎愛。待他摧毀時，彼此無相礙。乃加趺而化。閱世八十有四，臘六十四，塔於本山。

周　大章清豁沖煦傳

大章山契如菴主，福州永泰人。素蘊孤操，志探祖道。預玄沙之室，頴悟幽旨。玄沙記曰：子禪已逸格，則他後要一人侍立也無？師自此不務集徒，不畜童侍，隱於小界山。刳大朽杉，處其中，容身而已。凡游僧至，皆隨扣而應。有問：生死到來，如何迴避？師曰：符到奉行。曰：然則被生死拘將去也。師曰：阿哪哪。清豁、沖煦聞師名，造之。值師採粟，豁問曰：道者如菴主在何所？師曰：從何處來？曰：山下來。師曰：因何得到這裏？曰：這裏是何處所？師揖曰：那下喫茶去。二公方省是師，遂至菴。夜覩豺虎奔至菴前，自然馴擾。豁有詩曰：行不等閒行，誰知去住情。一餐猶未飽，萬戶勿聊生。非道應難伏，空拳莫與爭。龍吟雲起處，閑嘯兩三聲。二公尋于大章山創菴，請師居之。兩處孤坐，垂五十二載而化。豁亦永泰人，少聰敏，鼓山國師與落髮。初謁大章，後參睡龍。龍一日問曰：豁闍黎見何尊宿來，還悟也未？曰：清豁常訪大章，得箇信處。睡龍于是上堂集大眾，召曰：清豁闍黎出，對眾燒香說悟處，老僧與汝證明。師乃拈香曰：香已拈了，悟即不悟。睡龍大悅而許之。僧問：家貧遭劫時如何？師曰：不能盡底去。曰：為甚麼不盡底去？曰：賊是家親，是家親為甚翻成家賊？師曰：內既無應，外不能為。忽然捉敗，功歸何所？師曰：賞亦未曾聞。曰：恁麼即勞而無功也。曰：功不無成，但不處。為何不處？師曰：不見道，太平本是將軍定，未許將軍見太平。師後將順世，忽捨眾入山，乃遺偈曰：世人休說路行難，鳥道羊腸只尺間。珍重苧溪溪畔水，汝歸滄海我歸山。即往貴湖卓庵。未幾，謂門人曰：吾滅後，將遺骸施諸蟲螘，勿置墳塔。言訖，入湖頭山，坐磐石，儼然而化。門人稟遺命，延留七日，竟無蟲螘侵食。遂就闍維，散于林野。

煦，福州人，生和氏。幼不染葷血，剃度于鼓山，得法受記。年始二十四，即開法洪州豐城。道聲藉藉，時稱小長老。周顯德中，江南國主延住光睦。久之，移廬山。開先後居淨德，並聚徒說法。開寶八年圓寂。三師章嗣玄沙，豁嗣睡龍，煦嗣鼓山，皆雪峰嫡孫。

宋　風穴沼禪師傳

風穴延沼禪師，餘杭劉氏子。少魁礨，有英氣。于書無所不窺，然無經世意。初祝髮業教義，久乃歸禪。發跡于鏡清忞公，鍼芥不投。乃北游湘沔，遇守廓上座，南院侍者也。乃密探南院宗旨，忻然赴之。初見不禮拜，便問曰：入門須辯主，端的請師分。院以左手拊膝，師便喝。院右手拊膝，師亦喝。院曰：左邊一拍且止，右邊一拍作麼生？師曰：瞎。院擬拈拄杖，師曰：作甚麼？奪拄杖打

著老和尚，莫言不道。院倚拄杖曰：三十年住持，今日被黃面浙子上門羅織。師曰：和尚大似持鉢不得，詐言不飢。院曰：子到此間乎？師曰：是何言與？院曰：好問汝。師曰：也不得放過。便禮拜。南院喜，賜坐命茶。因問：所與游者何人？對曰：襄州與廓侍者同夏。院曰：親見作家來。始敘師資禮。依止六年，辭去。至汝水，住風穴廢寺。日乞村落，夜燃松脂。單丁者七年，而後學徒麕至。開法嗣南院，法席冠天下。傳法者，首山念公與廣慧真也。一日，上堂曰：若立一塵，家國興盛，野老顰顙。不立一塵，家國喪亡，野老安帖。于此明得，閻黎無分，全是老僧。于此不明，老僧即是閻黎。閻黎與老僧，能悟天下人，能瞎天下人。欲識閻黎麼？拊左膝曰：這裏是。欲識老僧麼？拊右膝曰：這裏是。其辯才無礙如此。以宋開寶六年癸酉八月旦日，登座說偈。至十五日，加趺而化。閱世七十有八，坐五十九夏。

系曰：廓侍者以三喝犄忤老華嚴，時師為維那，上方丈問訊，嚴曰：汝來適守廓，不應當眾扭捏，老僧須痛與一頓趁出。師曰：趁他遲了也。他是臨濟下兒孫，本分如此。師舉似廓，廓曰：汝何必勸止？我未問前早要棒喫，得我話行，如今搭却我話也。穴曰：雖然，已聞天下矣。廓公四楞塌地，師壁立萬仞，老華嚴一矮人看場耳，臨濟宗所以不可攀仰湊泊也。

歸宗詮師傳

禪師名道詮，生劉氏，吉州安福人也。童子棄家，事思禪師。思為剃落，受具足戒。後聞長沙慧輪禪師，思一見之。時馬氏竊據荊楚，與建康接壤。詮年二十餘，結友冒險造焉。會馬氏滅，劉言有其地，以王逵代劉言領其事。逵見詮輩，疑為諜者，捕縛欲投江中，詮怡然無怖。逵異之，以問輪曰：此道人視死如見鼻端，何種人乃能爾？輪曰：彼蓋為法忘軀之人，聞老僧虛名，故來決擇耳。逵釋之加敬，詮傲然而去。依延壽十年，輪歿，詮還廬山。乾德初，庵于東南牛首峰下。開寶五年，洪帥林仁肇請住九峰，賜大沙門。尋屬江南國絕，僧徒例試經業，師之眾並習禪觀。乃述一偈聞于州牧曰：比擬忘言合太虛，免教和氣有親疎。誰知道德全無用，今日為僧貴識書。州牧閱之，與僚佐議曰：旃檀林中必無雜樹，惟師一院特免試。太平興國九年，南康牧張南金請居歸宗。雍熙二年十一月二十八日中夜，辭眾而化。

法燈欽公傳

泰欽，字法燈，魏府人也。辯才無礙，入法眼之室。雖解悟逸格，未為人知。性忽略，不事事。嘗自清涼遣化維揚，不奉戒律，過時未歸，一眾傳以為笑。法眼遣偈往呼之。既歸，使為眾燒浴。一日，法眼問大眾曰：虎項下金鈴，何人解得？對者皆不契。欽適自外至，法眼理前語問之。欽謂大眾：何不道繫者解得？於是人人改觀。法眼曰：汝輩這回笑渠不得也。出世初，住洪州雙林，次遷上藍護國院。未幾，李國主請住清凉道場，乃曰：山僧本擬深藏山谷，遣日過生。緣清凉老人有不了底公案，所以出來為他了却。若有人問，便說似伊。時一僧出問，欽曳杖擊之。僧曰：我有何過？欽曰：祖禰不了，殃及兒孫。國主從容問曰：先師有何不了公案？欽曰：現分析者。國主駭之。開寶七年六月，示疾，告眾曰：老僧住持將逾一紀，每承國王助發，至於檀越、道侶、主事、小僧，皆赤心為我，默而難言。或披麻帶布，甚違吾道。我之遺骸，但于南山大智藏和尚左右乞一墳塚，升沈皎然，不淪化也。又示眾曰：但識口，必無咎。縱有咎，因汝有。珍重！二十四日，安坐而逝。

奉先深、清凉明傳

奉先深、清凉智明二禪師者，亦雲門嗣也。二師同游方時，聞僧問法眼：如何是色？眼豎起拂子，或曰：雞冠花。或曰：貼肉汗衫。二人特往請益，問曰：承聞和尚有三種色語，是否？眼曰：是。深曰：鷂子過新羅。便歸眾。時李主在座下，不肯，乃白法眼曰：寡人來日致茶筵，請二人重新問話。明日茶罷，備綵一箱，劒一口，謂二深曰：上座若問話得是，奉賞雜綵一箱。若問不是，祇賜一劒。法眼陞座，深復出問：今日奉敕問話，師還許也無？眼曰：許。曰：鷂子過新羅。捧綵便行，大眾一時散去。時法燈作維那，乃鳴鍾集眾，僧堂前勘深。眾集，燈問：承聞二上座久在雲門，有甚奇特因緣？舉一兩則來商量看。深曰：古人道：白鷺下田千點雪，黃鶯上樹一枝花。維那作麼生商量？燈擬議，深打一座具，便歸眾。深同明和尚到淮河，見人牽網，有魚從網透出。深曰：明兄俊哉！一似箇衲僧相似。明曰：雖然如此，爭如當初不撞入網羅好？深曰：明兄你欠悟在。明至中夜方省。二師並出世金陵，深于奉先，明于清凉，皆江南主虔請也。蓮華祥庵主，深之嗣。西峰豁公，明之嗣。別具。

洞山稟、薦福古傳

洞山清稟，泉州仙游人，生李氏。幼禮中峰院鴻謐為師。年十六，福州太平寺受戒。初詣南岳，參惟勁頭陀，未染指。及抵韶陽，禮祖塔，回造雲門。門問曰：今日離什麼處？曰：慧林。門舉拄杖曰：慧林大師恁麼去，汝見麼？曰：深領此問。門顧左右，微笑而已。師自此入室印悟，乃之金陵，國主李氏請居光睦。未幾，復命入澄心堂，集諸方要語。經十稔，迎住洞山。

薦福承古，西州人，不知誰氏子。少為書生，博學有聲。及壯，以鄉選至禮部，議論不合，有司怒，裂其冠，從山水中來。客潭州了山，見敬玄禪師，斷髮從之游。已，謁南岳雅公。雅，洞山子，知見甚高，容以入室。後游廬山，經歐峰，愛宏覺塔院閑寂，求居之。清規凜然，過者肅恭，時叢林號古塔主。初說法于芝山，嗣雲門。景祐初，范文正公仲淹守饒，迎住薦福。示眾曰：夫出家者，為無為法。無為法中，無利益，無功德。近來出家人，貪著福慧，與道全乖。若為福慧，須至明心；若要達道，無汝用心處。所以常勸諸人，莫學佛法，但自休心。利根者，畫時解脫；鈍根者，或三五年，遠不過十年。若不悟去，老僧與汝墮拔舌地獄。

系曰：師去雲門近百年，覽語而悟，遂嗣之不疑。時雲門子孫方盛，無敢異詞者，蓋所得真耳。不知傳燈何以不錄師耶？

首山念禪師傳

首山省念禪師，萊州狄□子。幼棄家，得度於南禪寺。為人簡重，有精識。嘗誦法華經，眾目為念法華。晚于風穴會中充知客，隨眾作止，無所參扣。然終疑教外有別傳之妙，不言也。風穴每念大仰，讖臨濟法道有遇風則止之語，懼身當之，注意于念。一日，陞座曰：世尊以青蓮華目顧迦葉，正當是時，且道箇甚麼？若言不說而說，又成埋沒先聖。語未卒，念便下去。侍者進曰：念法華無言而去，何也？穴曰：渠會也。明日，念與真園頭同上問訊。穴問真曰：如何是世尊不說說？對曰：鶺鴒樹頭鳴。穴曰：汝作許多癡福何用？因問師，師曰：動容揚古路，不墮悄然機。穴謂真曰：看渠下語。穴一日又陞座，顧視大眾，師便下去。穴即歸方丈，自是聲名重諸方。一日，白兆：楚和上至汝州宣化。穴令師往傳語。纔相見，提起坐具，便問：展即是，不展即是？兆曰：自家看取。師便喝。兆曰：我曾親近知識來，未嘗輒敢如此造次。師曰：草賊大敗。兆曰：來日若見風穴，待一一舉似。師曰：一任一任，不得忘却。師乃先還，舉似穴。穴曰：今日又被汝收下一員草賊也。師曰：好手不張名。兆次日見穴，舉前話。穴曰：非但昨日，今日和贓捉敗。師後開法，首山為第一世。登其門者，皆叢林精練衲子。

然天下稱法席之冠，必指首山。嘗謂眾曰：佛法無多子，只是汝輩自信不及。若能自信，千聖出頭來，無奈汝何。何故如此？為向汝面前，無開口處。祇為汝自信不及，向外馳求，所以到這裏。假如便是釋迦佛，也與汝三十棒。然雖如是，初機後學，憑箇什麼道理？且問汝輩，還得與麼也未？良久曰：若得與麼，方名無事。僧問：臨濟喝，德山棒，未審明什麼邊事？師曰：汝試道看。僧便喝。師曰：瞎。僧又喝。師曰：這瞎漢，只管亂喝作麼？僧禮拜，師打之。因曰：諸上座，不得胡喝亂喝。尋常向汝道，賓則始終賓，主則始終主。賓無二賓，主無二主。若有二賓二主，即是兩箇瞎漢。所以我若立，汝須坐。我若坐，汝須立。坐則共汝坐，立則共汝立。雖然如是，也須著眼始得。師道被天下，移寶安山廣教院。眾不過四十輩，老於寶應。淳化三年十二月四日，留僧過歲。作偈曰：吾今年邁六十七，老病相依且過日。今年記取來年事，來年記著今朝日。至明年是月是日，陞座辭眾曰：白銀世界金色身，情與無情共一真。明暗盡時都不照，日輪午後示全身。言訖安坐，日將昳而逝。荼毗得五色舍利，塔于首山。
系曰：當大仰為讖時，溈山固問之，仰良久曰：將此身心奉塵剎，是則名為報佛恩。即有越俎代庖之意，故首山即大仰後身無疑也。伸脚在縮脚裏，又何怪溈仰之後寥寥哉？

汾陽昭、葉縣省、神鼎諲三禪師傳

汾州太子院善昭禪師，生太原俞氏。器識沈邃，少緣飾，具大智。少失恃怙，既孤苦，雅不喜世俗，遂祝髮受具杖策。飄然所至，不稍停覽。乃曰：從上先德行脚，正以聖心未通，驅馳決擇耳，不緣山水也。歷參七十一員知識，最後至首山，問：百丈卷席，意旨如何？山曰：龍袖拂開全體現。進曰：師意如何？曰：象王行處絕狐踪。于是大悟，拜起曰：萬古碧潭空界月，再三撈摝始應知。有問者曰：見何道理，便爾自肯？曰：正是我放身命處。自是陸沈襄沔間，每為郡守以名剎力致，前後八請，堅臥不起。及首山歿，西河道俗協心削牘，遣沙門契聰請師住汾州太子院。師時方閉關，聰排闥入，讓以大義曰：佛法大事，靖退小節。風穴懼應讖，憂宗旨墜滅。幸有先師，先師棄世。汝有力荷擔如來大法者，今何時欲安眠哉？師起，握聰手曰：非公不聞此語。趨辦嚴，吾行矣。既至，燕坐一榻，足不越閫者三十年。天下仰曰汾陽而不敢名。一日上堂，謂眾曰：汾陽門下有西河師子，當門踞坐。但有來者，即便咬殺。有何方便入得此門，見得此人？若見此人者，堪與祖佛為師。不見此人，盡是立地死漢。如今還有人入得麼？快須入取，免負平生。

不是龍門客，切忌遭點額。那箇是龍門客，一齊點下。舉起拄杖曰：速退，速退。珍重。并汾地苦寒，師罷夜參。有異僧振錫至，謁師曰：會中有大士六人，奈何不說法？言訖，升空而去。師密記以偈曰：胡僧金錫光，請法到汾陽。六人成大器，勸請為敷揚。時楚圓守芝號上首，叢林知名。龍德府尹李侯與師有舊，虛承天致之，使三反不赴。使者受罰，復至曰：必欲得師俱往，不然有死而已。師笑曰：老病業已不出院，借往當先後之，何必俱耶？使者曰：師諾，則先後唯所擇。昭令設饌，且俶裝曰：吾先行矣。停箸而化。有侍者出眾曰：和尚到處，某甲即到。亦立化歸。

省禪師住葉縣廣教院，冀州賈氏子也。弱冠依易州保壽院出家。受具後，游方參首山。山一日舉竹篦問曰：喚作竹篦即觸，不喚作竹篦即背。喚作甚麼？師掣得擲地上曰：是甚麼？山曰：瞎。師于言下豁然頓悟。浮山遠公，其得法子也。

洪諲者，生扈氏，襄水人。自受首山印記，隱衡岳三生藏。有湘陰男子來游，即師室，見師氣貌閑靜，一鉢掛壁，莫能親疎，愛之忘去，謂曰：師寧甘長客于人，亦欲住山乎？家神鼎下，鄰寺乃吾世植福之地，久無住持者，可俱往。師笑曰：喏。乃以己馬馱師還，十年始成叢席，一朽床為說法，座甘枯淡無倫比。僧契嵩，少時游焉，師坐堂上受其展，指庭下兩小甕，詫曰：汝來。乃其時寺始有醬食矣。明日，將粥一力挾筐取物，投僧鉢中。嵩睨上下，有即咀嚼者，有置之自若者。嵩袖之下堂，出以觀，皆碎餅餌。問諸耆老，曰：此寺自來不煑粥，脫有檀越，請應供。諲次第撥僧赴之，祝令攜乾殘者歸納庫下，碎焙之，均而分俵，以當麵也。堂頭言：汝來。適丁其時，良然。嵩大驚止。此已見諲老平生爾。他具燈錄。

系曰：頌古自汾陽始。觀其頌布毛公案曰：侍者初心慕勝緣，辭師擬去學參禪。鳥窠知是根機熟，吹毛當下獲心安。與胡僧金錫光偈，看他吐露，終是作家真寔宗。師一拈一舉，皆從性中流出，殊不以攢華疊錦為貴也。

谷隱聰、廣慧璉二師傳

禪師諱蘊聰，廣州張氏子。初參百丈，恒不契。乃見首山，問：勞人親到寶山，空手回時如何？山曰：家家門前火把子。言下大悟。呈偈曰：我今二十七，訪道曾尋覓。今朝喜得逢，要且不相識。後住襄州谷隱山，諸方稱谷隱聰云。達觀穎者，其克家子也。別具傳。

元璉禪師，泉州陳氏子，褊顱廣顙，瞻視凝遠，望見令人意消。參首山，山問：近離何處？璉曰：漢上。山豎起拳曰：漢上還有這個麼？曰：這是甚麼盌鳴聲？山曰：瞎。璉曰：恰是。拍一拍便出。他日又見於火把子話下，大悟云：某甲不疑天下老和尚舌頭也。後出世汝州廣慧院華嚴隆為嗣法。上首楊龜山大年亦出師位，下有寄內翰李公書，敘師承本末云：

系曰：首山一把火，前燒谷隱，後燒廣、慧二老，故得出頭光燄。又有二智嵩：一住三交，一住銕佛，亦首山門下皎皎者也，不及傳。

補續高僧傳卷第六

補續高僧傳卷第七

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

宋　大陽玄傳

大陽禪師警玄，江夏張氏子也。其先蓋金陵人，仲父為沙門，號智通，住金陵崇孝寺，師往依之。年十九為大僧，聽圓覺即能辯屈講者，講者歎曰：是齒少而識卓如此，我所有何足益之？通知之，使令游方。初謁梁山觀禪師，問：如何是無相道場？山指壁間觀音像曰：此是吳處士畫。師擬進語，山急索曰：此是有相，如何是無相者？於是悟旨於言下，拜起而侍。山曰：何不道取一句子？師曰：道即不辭，恐上紙墨。山笑曰：他日此語上碑去在。師獻偈呈解，山稱以為洞上之宗可倚，師亦自負，儕輩莫敢攀，一時聲名藉甚。山歿，出山至大陽謁堅禪師，堅欣然讓法席，使主之，退處偏室，咸平庚子歲也。師神觀奇偉，有威重，從兒稚中即日一食，自以先德付受之重，足不逾限、脇不至席者五十年。浮山遠公居眾時，嘗參師於大陽。師以臘高無可繼法之人，一日喟然謂遠曰：洞上一宗如懸絲欲斷，惟汝興之。遠曰：有平侍者在。師以手指胸云：平此處不佳。又捏拇指叉中示之云：伊向去當死於此。於是以皮履布裰付遠，囑令求人。以天聖五年七月十六日陞座辭眾。又三日作偈寄王曙侍郎，偈曰：吾年八十五，修因至於此。問我歸何處，頂相終難覩。擲筆而化。遺囑云：瘞全身十年無難，當為大陽山打供入塔。後果為平侍所戕，平亦坐是返俗，流浪無依，為虎所食。師言驗矣。遠受大命得青華嚴，轉付履裰，嗣師法焉。

慈明圓禪師傳

石霜楚圓禪師號慈明，汾陽嫡嗣也。生全州李氏。少為書生，年二十二出家。母有賢行，使游方。師連眉秀目，頎然豐碩。然忽繩墨所至，為老宿呵以為少叢林。師柴崖而笑曰：龍象蹴踏，非驢所堪。嘗橐骨董箱，以竹杖荷之。游湘沔間，聞汾陽道望，遂與大愚、谷泉、瑯琊造焉。陽顧而默器之，經二年未許入室。每見必罵詬，或毀詆諸方，所訓皆流俗鄙事。一夕訴曰：自至法席已再夏，不蒙指示，但增世俗塵勞。念歲月飄忽，已事不明。語未卒，陽熟視罵曰：是惡知識，敢裨販我。怒舉杖逐之。師擬伸救，陽掩師

口，乃大悟曰：乃知臨濟道出常情。服役七年，辭去依唐明嵩公。嵩指會楊大年，因大年復會李都尉。二公恨見之晚，館於齋中，日夕質疑智證，以為法友。久之辭還河東，省唐明李公。遣二僧訊師，師於書尾畫雙足，寫來僧名以寄之。李作偈曰：黑毫千里餘，金榔示雙趺。人天渾莫測，珍重赤鬚胡。師以母老南歸，至筠州，首眾於洞山，時聰禪師居焉。先是汾陽謂師曰：我遍參雲門兒孫，特以未見聰為恨。故師依止三年，乃游仰山。大年以書抵宜春太守黃宗旦，使請師出世。守虛南原致師，師不赴。旋特謁候守，願行。守問其故，師曰：始為讓，今偶欲之耳。守大賢之。住三年，棄去省母，以白金為壽。母投金于地，罵曰：汝少行脚負布橐去，今安得此物？吾望汝濟我，反置我地獄耶？師色不怍，徐收之。辭去，謁神鼎諲公。鼎首山高弟，望尊一時，衲子非人類精奇，無敢登其門者。住山三十年，門弟子氣吞諸方。師髮長不剪，弊衣楚音，通謁稱法姪，一眾大笑。鼎遣童子問：長老誰之嗣？師仰視屋曰：親見汾陽來。鼎杖而出，顧見頎然，問曰：汾州有西河師子，是否？師指其後絕叫曰：屋倒矣。童子返走，鼎回顧相矍鑠。師地坐，脫隻履而視之。鼎老忘所問，又失師所在。師徐起整衣行，且語曰：見面不如聞名。遂去。鼎遣人追之，不可，歎曰：汾陽乃有此兒耶？師自是名重叢林。適道吾虛席，郡移書欲得大禪伯領之，鼎以師應召。法令嚴整，亡身為法者集焉。師之大機大用不可思議，傳者謂師以事事無礙行心，凡聖不能測，可為知言矣。水庵謂尤侍郎延之曰：昔大愚、慈明、谷泉等結伴參汾陽，河東苦寒，眾人憚之，惟慈明曉夕不憚。夜坐欲睡，則引錐自刺，歎曰：古人為生死事大，不食不寢。我何人哉？乃縱荒逸，生無益於時，死無聞於後，是自棄也。及辭歸，汾陽歎曰：楚圓今去，吾道東矣。次住福嚴，又移興化。嘗室中插劍一口，以草鞂一對、水一盆置在劒邊。擬議者，師曰：喪身失命了也。便喝出，無有一人契者。其他玄言妙語，提唱宗乘，探旨者麻粟出焉。而黃龍南、楊岐會二人最為上首，能世其家。以某年正月五日示寂。前是李都尉遣使邀師曰：海內法友，唯師與楊大年耳。大年棄我而先，僕年來頓覺衰落，忍死以一見公。仍以書抵潭帥，敦遣之。師惻然，與侍者舟而東下。舟中作偈曰：長江行不盡，帝里到何時？既得凉風便，休將櫂棹施。至京，與李公會。月餘而李公歿。臨終畫一圓相，又作偈獻師。偈曰：世界無依，山河匪礙。大海微塵，須彌納芥。拈起幞頭，解下腰帶。若覓死生，問取皮袋。師曰：如何是本來佛性？公曰：今日熱如昨日。隨聲便問：師臨行一句作麼生？師曰：本來無質礙，隨處任方圓。公曰：晚來困倦，更不答話。師曰：無佛處作佛。公于是泊然而逝。仁宗皇帝尤留神空宗，聞李公化，與師問

答，嘉歎久之。師哭之慟，臨壙而別。有旨賜官舟南還，中途謂侍者曰：我忽得風痺疾。視之，口吻已喎斜。侍者以足頓地曰：當奈何？平生呵佛罵祖，今乃爾。師曰：無憂，為汝正之。以手整之如故，曰：而今而後，不鈍置汝。逾年而化。李公子銘誌其行于興化，全身塔于石霜。

系曰：達人出世，以開物成務為心，非自衒也。方師之受南原也，戢天際想于眉睫間，聊試吾道動靜何如。觀其初不赴，後自請行，進退躊躇，意可知矣。覺範云：慈明道起臨濟於將仆，而平昔廓落乃如此。微神鼎，則亦谷泉流也。雖然，狂奴故態，特師之寓言耳，真面目豈無知音者哉？然神鼎固長者難及也。

大愚芝、法華舉、瑯琊覺傳

禪師名守芝，太原王氏子。少棄家於潞州承天寺。試法華，得度為大僧。講金剛般若，名滿三河。時汾陽禪望大振，竊疑之，往觀焉。同參者慈明、瑯琊等數人，服誠陽室，遂受印可。南游，住高安大愚。上堂，嘗舉汾陽十智同真話曰：先師云：要識是非面目，現在也大省力。後生晚學，刺頭向言句裡貪著義味，如驢舐尿處棒打不回。蓋為不廣求知識，徧歷門風，多是得一言半句便點頭嚥唾，道已了辦。上座大有未穩當處在。上堂，大眾集定，乃曰：現成公案也是打揲不辦。便下座。慈明有善侍者，號稱明眼。聞師之風，自石霜至大愚。入室，師趯出履一隻，善退身而立。師俯取履，善輒踏倒。師起面壁，以手點津，連畫其壁三，善瞠立其後。師旋轉，以履打至法堂。善曰：與麼為人，瞎却一城人眼在。會中有僧日誦金剛經一百遍，師令侍者喚至，問曰：聞汝日誦金剛經一百遍，是否？曰：不敢。師曰：汝曾究經意否？汝但日誦一遍，參究佛意。若一句下悟去，如飲海水一滴，便知百川之味。僧如教。一日，誦至應如是知，如是見，如是信解，不生法相處，遂以白師。師遽指牀前狗子云：狗子聲？僧無語。師便打出，作偈曰：砂裏無油事可哀，翠岩嚼飯餵嬰孩。一朝好惡知端的，始覺從前滿面灰。稱者謂師作偈絕精峭，此蓋其一斑云。嘉祐初示寂，塔於西山。雲峰悅公，師之真子，別有傳。

法華舉禪師，汾陽嗣也。初住龍舒法華寺，後移居白雲海會焉。為人精嚴諒直，飽參汾陽，特稱之。一錫出并汾，所至披靡。謁公安遠公，逗青松黃葉之機；于福昌善處，逞琢句調琴之辯。又謁延壽賢、大愚芝公、夾山真、首座慈明、棲賢諶、雪竇顯、五祖戒公、瑯琊覺、西湖西峰庵主。主，明招位下傑出者也。有偈云：絕頂西峰路，峻機誰敢當？超然凡聖外，瞥隔兩重光。師至，問曰：如何

是兩重光？曰：月從東出，日向西沒。師曰：庵主未見明招時如何？曰：滿盞油難盡。進曰：見後如何？曰：多心易得乾。師機辯如雷砰電射，不可把玩，諸方畏服，號舉道者。上堂：釋迦不出世，達麼不西來？佛法徧天下，談玄口不開。至哉斯言！達古今一貫也。嘗曰：僧家以寂住為本，豈可觀州獵縣，看山門景致過時耶？覺範稱之，如薛仁貴著白袍，西平王著錦帽，真勇于道者也。年七十餘始歿，塔于海會。

瑯琊山慧覺禪師者，西洛人也。父為衡陽太守，死于官。師扶櫬歸洛，過澧陽藥山古剎，宛若夙居，由此出家。後得法於汾陽，住滁水，高揭剎竿，與雪竇顯公同時唱道，時號二甘露門。上堂：奇哉十方佛，元是眼中花；欲識眼中花，元是十方佛；欲識十方佛，不是眼中花；欲識眼中花，不是十方佛。于此明得，過在十方佛；于此未明，聲聞起舞，獨覺臨粧。珍重！師福相端嚴，所至成益。嘗往蘇州看范希文，因受信施及千餘緡，遂遣人陰計在城諸寺僧數，皆密送錢，同日為眾檀設齋，其即預辭范公。是日侵早發船，逮天明，眾知已去，有追至常州得見者，受法利而還。靈源稱之曰：觀此老一舉，使姑蘇道俗悉起信心，增深道種。師法嗣數輩，長水璿講師其一也，具義解；中泉、大道三公同參也，見列感通中。

系曰：三公皆為西河師子兒，而舉公跳躑，故慳于嗣。夫為善知識，如霧露在人，當使時時有潤。瑯琊、蘇州之舉，須瑯琊始得，囂囂者不得效顰。

政黃牛傳

惟政，秀州華亭黃氏子。幼從錢塘資聖院本如肄業，且將校藝，有司如使禱觀音求陰相，師謝曰：豈忍獨私於己哉？郡人朱紹安聞而嘉歎，欲啟帑度之，師慨然曰：古之度人以清機密旨，今反是，去古遠矣。吾墮三寶數，當有其時。已遇祥符覃恩，得諧素志，獨擁毳袍且弊，同列慢之，師曰：佛乎佛乎，儀相云乎哉？僧乎僧乎，盛服云乎哉？後有願輸奉歲時用度，俾繼如之院務，亦復謝曰：聞托鉢乞食，未聞安坐以享；聞歷謁諸祖，未聞廢學自任。況我齒茂氣完，正在筋力為禮，非從事屋廬之秋也。於是提策東引，學三觀于天台，復旋徑山，咨單傳旨于老宿惟素。素董臨安功臣山淨土院，師輔相之，久而繼其席。然為人高簡，律身精嚴，名卿巨公多所推尊。時蔣侍郎堂守錢塘，與師為方外友，師每謁之，則跨一黃牛，以軍持掛角上，市人爭觀之，師自若也。至郡庭始下牛，笑談終日。一日蔣公留師曰：適有過客，明日府中當有會，吾師固奉律，為我少留一日，因[款-士+止]清話。師諾之。明日，使人要

之，留一偈而去矣，曰：昨日曾將今日期，出門倚杖又思惟。為僧只合居巖谷，國土筵中甚不宜。坐客皆歎其標致。又作山中偈曰：橋上山萬重，橋下水千里。惟有白鷺鷥，見我常來此。平生製作三十卷，曰錦涇集。且工書，筆法勝絕，秦少游見必收畜之。師冬不擁爐，以荻花作毬，納足其中，客至共之，清論無窮，秀氣逼人。夏秋好翫月，盤膝大盆中，浮水上，自旋其盆，吟笑達旦，以為常。九峰韶禪師嘗客於院，將臥，師挽之曰：月色如此，勞生擾擾，對者幾人？韶唯唯而已。久之，呼童子使熱炙，韶方饑，意作藥石，既乃橘皮湯一杯，韶笑曰：無乃太清乎？或問曰：師以禪師名而不談禪，何也？師曰：徒費言語。吾嬾，寧假曲折，但煩萬象敷演耳。言語有間，造物無盡藏也。皇祐元年孟夏八日，語眾曰：夫動以對靜，未始有極。吾一動歷年六十有四，今靜矣，然動靜本何有哉？遂泊然而逝。

禪客尋常入舊都，黃牛角上掛瓶盂。有時帶雪穿雲去，便好和雲畫作圖。此蔣侍郎贈師詩也。師自有詩曰：貌古形疎倚杖藜，分明畫出須菩提。解空不許離聲色，似聽孤猿月下啼。二作佳韶勝致，正相對會，一時禪悅之盛，可想見也。

懷賢禪師傳

金山龍游寺圓通禪師，諱懷賢，字潛道，溫州永嘉何氏子。在襁褓中，能合掌僧坐。四歲，從嗣仁社主出家受戒。有講席，輒往聽，盡得其學。及長，歎曰：說食能飽人乎？別社主去，遍參。最後見達觀，穎于潤之。因聖初，師從瑞新禪師遊頗久，具知宗門承襲賓主之說，自謂無以復加。比至達觀會中，聞所開示，類皆世緣俗諦，非談諧嵬瑣，則罵詈不已，心竊陋之。乃潛詣丈室，請白曰：為人天師，當只說法，奈何預以世間事？且僧有過，斥去則已，何足追罵至累日乎？觀頷而不答，師因此省悟。初開法于太平隱靜，嗣主金山。金山當孔道，客至無虛日，師頗厭之。熙寧元年，遂謝事，隱于金牛山。山去丹陽數十里，人跡罕至。庭養猨鶴、孔雀、鸚鵡、白鷴，皆就掌取食，號五客，各為一詩贈之。士大夫欲相見者，就山中訪焉。廬山之圓通、明州之雪竇，相次堅懇，各住一年。雪竇至，前後二十年間，三請乃赴。其行由海道，遇大風，漂至慈溪東岸，舟破，從者多人皆散走，師獨安坐水中不動。以元豐五年九月甲午，示滅于金牛，壽六十七，臘六十三。弟子覺澄等塔全身于西隴。淮海秦少游觀為師狀曰：師操行卓越，而遇人有恩意。雖對賓客，未嘗與眾異饌。夜輒從眾僧寢于堂中，不入丈室。雅性樂施，所得金錢繒帛，率緣手盡。又多才藝，工於詩，字畫有

法。閒居絕口，不掛事事，雖交至錯出，處之晏然，無不集者。當時賢士大夫聞其風，皆傾意願與之游。始用參知政事高公若訥奏，賜紫方袍；又用節度使李公端愿奏，賜號圓通大師。凡十被請，從之者四，皆天下名山巨剎。道化方行，輒託事隱去，州郡雖欲挽而留之，不可得也。弟子五十有五人。所著詩、頌、文集凡五卷，又撰次其自少至老出處之跡一篇，號稱耄典記，以自見云。

法寶傳

法寶，姓王氏，遂州小溪人。事興聖院從簡為僧，學法四方，所見如泉山之□、黃檗之南、雲居之寶、禾山之才，世所謂大善知識者，皆歷問焉。平居常宴坐，計晝夜之分，寢才十二三，臥必右脇，未嘗解衣，如是者終其身。師三游洛陽，始至洛，人不知其為禪；再至，知其為禪者矣；三至，又知其為禪而不徒為禪者矣。其應世之密用，觀機之善巧，則莫得而擬議。洛中賢士夫從師游者甚眾，未必盡知師之道，但愛其行高而氣和，言簡而理盡耳。太師文潞公表其行，賜紫方袍。三至洛，常寓於善覺院，眾為合力營搆。其徒十餘人，皆嘗與師同學，又有信士棄其孥奔走服事者。師既居善覺，參問者益廣，或勸推所餘以為人，師曰：已未為，何暇為人？懷道應物垂五十年，所以言論風旨不大傳於世者，蓋其沖挹自晦如此。韓侍郎維曰：始予見師於河橋，師未嘗不言也，予問之不能已。數年，予守潁昌，迎館之府舍，師未嘗言也，予雖欲問，不知所問矣。嗚呼！道不可以不刳心焉。既示疾，遍作書別所往來之人，奄然而寂，年六十有九，時元豐六年九月也。藏骨龍門菩提院之上方。

浮山遠公傳

禪師名法遠，鄭圃田人也，出於王氏。十九出家，先謁汾州，得一盼相印。復參葉縣省公，與天衣懷同往葉縣住持，枯淡嚴密，諸方畏之。師至，值雪寒，縣喝罵驅逐，至以將水潑眾僧，衣履皆濕，怒而散去，唯師與懷自若，整衣敷具，復坐如故。縣到，呵曰：汝更不去，待我打耶？師近前不審，云：某數千里而來，參叩和尚，為明大事，豈以杓水潑之？便去。縣笑，因而遂留。相依數年，萬方挫折，師始終一如，所謂真金烈火，愈鍛而愈明，縣始以衣法付之。開堂日，拈香曰：汝海枯木上生花，別迎春色。蓋指葉縣也。師與王質待制論道，畫一圓相，問曰：一不得匹馬單鎗，二不得衣錦還鄉，鵲不得喜，鴉不得殃，速道！速道！王罔措，師曰：勘破

了也。師暮年休會聖岩，敘佛祖奧義，作九帶啟廸學者，與因棊說法一事，莫不家喻戶曉。師玉骨插額，目光外射，狀如王孫，凜然可畏。雅自稱柴石老人，歿時已七十餘。范文正公銘其塔曰：嗚呼遠公，釋子之雄。禪林甘澤，法海真龍。壽齡有限，慧命無窮。寒岩瘞骨，千載清風。師平生貴尚真實參證，痛抑浮辯，嘗謂道吾真公曰：學未至道，衒耀見聞，馳騁機解，以口舌辯利相勝者，猶如廁屋塗汙丹艧，秖增其臭耳。得法弟子道臻者，繼大覺璉住淨因，法道大弘於京師。當英、神、啟三朝，數入宮說法，恩遇隆渥。為人渠渠靜退，似不能言者。奉身至約，一布裙二十年不易，用五幅纔掩脛，不多為叢褶，曰：徒費耳。無所嗜好，嘗雪方丈之西壁，命文與可掃墨竹，謂人曰：吾使游人見之，心目清凉，此君蓋替我說法也。元祐八年歿。

法華隆禪師傳

道隆禪師，未詳里族。初參石門徹和尚，問曰：古者道，但得隨處安閒，自然合他古轍。雖有此語，疑心未歇時如何？門曰：知有乃可隨處安閒，如人在州縣住，或聞或見，千奇百怪，他總將作尋常。不知有而安閒，如人在村落住，有少聲色，則驚怪傳說。師於言下有省，門盡授其洞上宗旨。及出世，乃嗣廣慧。或問曰：禪師親見石門，如何却嗣廣慧？師曰：我初見廣慧，渠方欲剃髮，使我擎橛子來。因曰：道者，我有橛子詩，聽取。詩曰：放下便平穩，我時便肯伊。因敘在石門所得，慧曰：石門所示，如百味珍饈，只是飽人不得。後來有一炷香，不欲兩頭三緒為伊燒却。師至和初游京，客景德寺，日縱觀都市，歸常二鼓。一夕不得入，臥于門下。仁宗夢至景德寺門，見龍蟠地，驚覺。中夜遣中使視之，乃一僧熟睡已，再鼾，撼之始覺。問名字，歸奏。帝聞道隆，乃喜曰：吉徵也。明日召至便殿，問宗旨。師奏對詳允，帝大說。有旨館于大相國寺燒朱院，由是道化大振。嘗與大覺璉公說法化成殿，機鋒迅辯。帝大悅，侍衛皆山呼，或偈頌酬答，或留宿禁中，禮遇隆厚，賜號應制明悟禪師。師因奏疏舉璉自代，帝覽表不允。有旨於曹門外建精舍延師，師額華嚴禪院。有僧頌璉公詩，上問佛偈曰：有節非于竹，三星偃月宮。一人居日下，弗與眾人同。師曰：諸佛說心，為破心相。璉作此偈，虛空釘橛也。乃曰：虛空釘鐵橛，平地起骨堆。莫將閑學解，安著佛階梯。又見達觀頴禪師戲作偈曰：解答諸方語，能吟五字詩。二般俱好藝，只是見錢遲。師曰：佛法却成戲論，後生無識，遽相效學，不可長也。但曰：二般雖雜道，也勝別施為。有僧曰：洞山寶公譏五祖戒禪師行藏落人疑似，其至洞

山，乃上堂說偈曰：嗟見世聱訛，言清行濁多。若無閻老子，誰人奈你何。師曰：寶麤行不遜，賣師取名，不可取也。曹谿曰：真實修道人，不見世間過。來說他人短，自短先在我。寶暴其師之失，教誰檢點。凡沙門釋子，寂默為要。華嚴論曰：唯寂唯默，是心造如來之樣。不著不戀，是路入法界之轍。寶賣洞山薑，鋤雙峰地，已為道人取笑也。師為人寬厚不矜伐，以真慈普敬行心。歿時年八十餘，盛暑安坐七日，手足柔和，全身建塔於寺之東。

系曰：夫寺門鼾睡，僧入天子夢，夢其為龍，不為所惡，復尊寵之，至宿留禁中，非師道洽天下，烏能及此？京師禪法由是大弘，併見仁宗識洞高遠，若遇庸君，師其不為齏粉乎？予故表而出之。

泉大道、宗道者傳

谷泉。泉，南人也。少聰敏，性耐垢汙，大言不遜，流俗憎之。去為沙門，撥置戒律，任心而行，眼蓋衲子，所至叢林輒刪去，泉不以介意。造汾陽，陽奇之，密受記莂。南歸，放浪湘中，數來往道吾訪慈明。道吾有湫，毒龍所蟄，墮葉觸波，必雷雨連日，過者不敢喘。與慈明暮歸，時秋暑，捉其衣曰：可同浴。慈明掣肘徑去，於是泉解衣躍入，霹靂隨至，腥風吹雨，林木震搖，慈明蹲草中，意泉死矣。須臾晴霽，忽引頸出波間曰：囚。後住南嶽懶瓚岩，又移住芭蕉。將復移保真，大書芭蕉壁曰：予此芭蕉菴，幽占堆雲處，般般異境未暇數，先看矮松三四樹。寒來燒枯杉，饑飡大紫芋，而今棄之去，不知誰來住。住保真，夜地坐祝融峰下，有大蟒盤繞之，泉解衣帶縛其腰。明日，杖策尋之，衣帶[聯-耳+糸]松枝上，蓋松妖也。嘗過衡山縣，見屠者斫肉立其旁，作可憐態，指其肉，又指其口，屠問曰：汝啞耶？即肯首。屠憐之，割巨臠置鉢中，泉喜出望外，感謝而去，一市大笑，而泉自若。以杖荷大酒瓢，往來山中，人問：瓢中何物？曰：大道漿也。作偈曰：我又誰管你天？誰管你地？著箇破紙襖，一味工打睡。一任金烏東上，玉兔西墜。榮辱何預我，興亡不相關。一條柱杖一葫蘆，間走南山與北山。畜一奴，名調古。日令拾薪汲澗，或呼對坐岩石間。贈之以偈曰：我有山童名調古，不誦經，不禮祖。解般楒柮禦冬寒，隨分衣裳破不補。會栽蔬，能種芋，千山萬山去無懼。阿呵呵，有甚討處？倚遇上座來參，問：菴主在麼？泉曰：誰？曰：行脚僧。曰：作甚麼？曰：禮拜菴主。曰：恰值菴主不在。曰：你噇？泉曰：向道不在，說甚麼你我？拽棒趁出。次日來，又趁出。一日又來，泉攔胷扭住曰：我這裡虎狼縱橫，尿牀鬼子三回兩度來討甚麼？曰：人言菴主親見汾陽來。泉解衣抖擻曰：你道我見汾陽來有多少奇

特？再訪慈明，作偈寄之曰：相別而今又半年，不知誰共對談禪。一般秀色湘山裡，汝自匡徒我自眠。慈明笑而已。乃令南公更謁泉。泉與語，驚曰：五州管內乃有此匾頭道人耶？嘉祐中，男子冷清妖言誅。泉坐清曾經由菴中，決杖配郴州牢城。盛暑，負土經通衢，弛擔說偈曰：今朝六月六，谷泉被氣[祝/土]。不是上天堂，便是入地獄。言訖微笑，泊然蟬蛻。闍維，舍利不可勝數。郴人塔而祠焉。

宗道者，不知何許人也。往來舒、蘄間，多留於投子。性嗜酒，無日不醉，村民愛敬之，每餉以醇醪。居一日，方入浴，聞有尋宗者，度其必送榼至，裸而出，得酒徑去。人皆大笑，而宗傲然不怍。嘗散衣下山，有逆而問者曰：如何是道者家風？對曰：袈裟裹草鞂。意旨如何？曰：赤脚下桐城。陳退夫初赴省闈，過宗，戲問曰：瓘此行欲作狀元，得否？宗熟視曰：無時即得。莫測其言也。而退夫果以第三名上第，時彥作魁，方悟無時之語。宗見雪竇而逸放自如，言法華之流也。

福昌善禪師傳

惟善，不知何許人。住荊南福昌寺，嗣明教寬禪師。為人敬嚴，祕重法道。初住持時，屋廬十餘間，殘僧數輩。師晨香夕燈，陞座說法，如臨千眾。禪林受用所宜有者，咸修備之。客至，肅然加敬。十餘年而衲子方集，至百許人。師見來者，必勘驗之。有僧自號映達摩，纔入方丈，提起坐具曰：展即徧周法界，不展即賓主不分。展即是？不展即是？師曰：汝平地喫交了也。映曰：明眼尊宿，果然有在。師便打。映曰：奪柱杖打倒和尚，莫言不道。師曰：棺木裏瞠眼漢，且坐喫茶。茶罷，映前白曰：適來容易觸忤和尚。師曰：兩重公案喝出。又問僧：近離何處？曰：承天。曰：不涉途程，道將一句來。僧喝之，師便打。僧以坐具作撼勢，師笑曰：喪車後掉藥囊。又問：俗士年多少？曰：四十四。師曰：添一減一是多少？其人無對。師自代云：適來猶記得。又問僧：何處來？曰：德山。曰：武陵溪畔，道將一句來。僧無語。乃自代曰：水到渠成。師機鋒峻不可嬰，諸方畏服，法席追還。雲門之風南禪師嘗曰：我與翠岩悅在福昌時，適病寒，服藥出汗。悅從禪侶徧借被，咸無焉。有紙衾者，皆以衰老亦可數。悅太息曰：善公本色作家也。

雪竇顯禪師傳

雪竇禪師名重顯，字隱之，遂州李氏子。幼精銳，抗志塵表，依普安詵上人出家受具，遍歷講筵，游刃經論，問辯風馳，同學斂氣不敢伸，棄而歸禪，出蜀入楚。嘗典客大陽，與客論趙州宗旨，客曰：法眼禪師昔解后覺銕觜於金陵。覺，趙州侍者也，號稱明眼。問曰：趙州柏樹子因緣記得麼？覺曰：無此語，莫謗先師。法眼拊手曰：真自師子窟中來。覺公言：無此語，法眼肯之。其旨安在？師曰：宗門抑揚，那有規轍乎？時有苦行名韓大伯者，貌寒，寢侍其傍，輒匿笑而去。客退，師數之曰：我偶客語耳，乃敢慢笑，笑何事？對曰：笑知客眼未正，擇法不明。師曰：有說乎？對以偈曰：一兔橫身當古路，蒼鷹纔見便生擒；後來獵犬無靈性，空向枯椿舊處尋。師陰異之，結以為友。師盛年工翰墨，作為法句，追慕禪月休公，有詩云：紅芍藥邊方舞蝶，碧梧桐裡正啼鶯；離亭不折依依柳，況有春山送又迎。嘗依棲賢湜公，機不合，作師子峰詩而去。與齊岳者為侶，同謁五祖戒師。休於山莊前遣岳先往，機語不契，師亦竟不見。遂南游，謁智門祚禪師。祚者，香林遠公嫡子，雲門之孫也。知見高，學者莫能覩其機。師俊邁，智門愛之。一日伸問曰：不起一念，云何有過？智門召師，師近前，智門以拂子驀口打，擬開口隨又打，師豁然開悟。依止五年，盡得其道。師與學士曾公會厚善，相值淮上。問師何之，曰：將遊錢塘，絕西興，登天台鴈蕩。曾公曰：靈隱天下勝處，珊禪師吾故人。以書薦師。師至靈隱三年，陸沉眾中。俄曾公奉使浙西，訪師靈隱，無識者。時堂中僧千餘，使吏撿牀曆物色求之，乃至。曾公問向所附書，師袖納之曰：公意勤，然行脚人非督郵也。曾公大笑，珊公以是奇之。師出世初，住吳江翠峰，後遷明州雪竇。曾公守越時，敦請也。上堂云：春山疊亂青，春水漾虛碧。寥寥天地間，獨立望何極。便下座。却顧謂侍者曰：適來有人看方丈否？曰：有。師曰：作賊人心虛。師舉揚宗教三十餘年，海內奇衲子爭赴之。暮年悲學者尋流失源，作為道日損偈曰：三分光陰二早過，靈臺一點不揩磨。貪生逐日區區去，喚不回頭爭奈何。又書壁文戒進後學，其略曰：身如行廁，利稱軟賊。百年非久，三界無安。可惜寸陰，當求解脫。讀者鼻為之酸。師一日偶經行，植杖于林下，眾衲環之，忽問曰：有問雲門：樹凋葉落時如何？曰：體露金風。雲門答：這僧耶？為解說耶？有宗上座出眾對曰：待老漢有悟處即說。師熟視，驚曰：非韓大伯乎？曰：老漢瞥地也。於是令撾鼓。眾集，師曰：大眾，今日雪竇宗上座乃是昔日大陽韓大伯，具大知見，晦迹韜光，欲得發揚宗風，幸願特升此座。宗遂升座。僧問：寶劒未出匣時如何？曰：神光射斗牛。又問：出匣後如何？曰：千兵易得，一將難求。僧退，宗乃曰：寶劒未出匣，神光射斗牛。千兵容易得，一將實難

求。便下座，一眾大驚。宗即承天宗禪師也。師一日游山，四顧周覽，謂侍者：何日復來此？侍者哀乞遺偈，師曰：平生惟患語之多矣。翌日，出杖履衣盂，散及徒眾，乃曰：七月七日復相見耳。至期，盥沐攝衣，北首而逝。閱世七十三，坐五十夏。塔全身于寺之西塢，賜號明覺禪師。

系曰：雲門一宗，得雪竇而中興，不然亦撲撲矣。師器宇凝重，即袖中一書，三年仍還本人，便足氣壓千古。家聲浩浩，子孫繩繩，豈偶然哉？

洞山聰、祥庵主傳

洞山曉聰禪師，韶州曲江人，生杜氏，見文殊應天真和尚。初游廬山，莫有知者。時雲居法席最盛，師作燈頭，聞僧眾談泗州僧伽近於揚州出現，有設問者曰：既是泗州大聖，為何向揚州出現？師曰：君子愛財，取之以道。一眾大笑。後僧舉似蓮華祥庵主，主大驚曰：雲門兒孫猶在。遙望雲居拜之，師名遂重叢林。次依洞山詮禪師為首座。及詮遷棲賢，以師囑檀那及其眾，眾從之。請于州，州從之。以大中祥符三年，師出世洞山。上堂曰：祖師西來，特唱此事，自是上座不薦。所以從門入者，不是家珍。認影迷頭，豈非大錯？既是祖師西來，特唱此事，又何必更對眾叨叨？珍重！師見僧來有所問，輒瞋目視之曰：我擊虎術，汝不會去。一日，自荷柴登山，僧逆之，問曰：山上住，為何山下擔柴？師曰：山上也要柴燒。示眾曰：一大藏教是箇之字，祖師西來是右字，如何是正義？良久，曰：天晴蓋却屋，趁閒打却禾。輸納王租了，鼓腹自高歌。師於山之東北手植松，可萬松。凡植一株，坐誦金剛經一卷，自稱栽松比丘，嶺名金剛嶺。或問：嶺在此，金剛在何處？師指曰：此一株松是老僧親栽。汾陽嘗謂慈明曰：雲門下兒孫我已遍參，獨以未見聰為恨，汝當見之。故慈明雖已罷參，猶獲覩顏色而聞餘論矣。師一曰不安，上堂辭眾，述透法身頌曰：參禪學道莫茫茫，問透法身北斗藏。余今老倒厊羸甚，見人無力得商量。復曰：法席當令自寶住持。言卒而化。闍維，得舍利，塔于金剛嶺。先是，比部郎中許公式出守南昌，過蓮華峰，聞祥公曰：聰道者在江西，試尋訪之，此僧人天眼目也。許既至，聞師住山家風，作詩寄之，有夜坐連雲石，春栽帶雨松之句。將訪之，師已逝矣。

祥公，奉先深禪師嗣也。知見甚高，氣壓諸方。臨終上堂，舉拄杖問眾曰：汝道古佛到這裡，為何不肯住？眾莫有對者。乃自曰：為他途路不得力。復曰：如何得力去？橫拄杖肩上曰：榔栗檀擔不顧

人，直入千峰萬峰去。言訖而化。師與文殊真弟兄行也。聰嗣文殊，視祥則為姪。聰得法弟子曰雲居舜，曰明教嵩。祥嗣寂焉。

宋　北禪賢禪師傳

智賢禪師嗣福嚴雅公，雲門四世孫也。開法于衡州之北禪。歲夜小參，曰：年窮臘盡，無可與諸人分歲。老僧烹一頭露地白牛，炊土田米飯，煮菜羹，燒榾柮火，與大眾圍爐唱歸田樂。何故？免得倚他門戶傍他牆，致使時人喚作郎。下座。時維那從後大呼曰：縣有吏至。師反顧，問其所以。那云：道和尚宰牛不納皮角。師笑擲暖帽於地，那便拾去。師跳下禪床，攔胷擒住，叫曰：賊！賊！那將帽覆師頂，曰：天寒，且還和尚。那便出去。時法昌為侍者，師顧謂曰：這公案作麼生？昌曰：近日城中紙貴，一狀領過。法昌名倚遇，師嗣也。別具。師又有嗣曰紹銑，具興福中。

開先暹禪師傳

開先善暹禪師，臨江軍人，操行清苦，智識明達。遠禪師在德山，師往依之。一日，遠升堂，顧視大眾云：獅子頻呻，象王回顧。師忽有省，入室陳解。遠云：子作麼生會？師回顧曰：後園驢喫草。遠然之。自此機辯迅捷，禪林目曰：海上橫行暹道者。又參雪竇顯，顯愛其俊逸，留座下數年，欲舉住明州金鵝。師聞之，書二偈於壁而去，曰：不是無心繼祖燈，道慚未廁嶺南能；三更月下離巖竇，眷眷無言戀碧層。三十餘年四海間，尋師擇友未嘗閒；今朝得到無心地，却被無心趁出山。後住開先，嗣德山遠禪師，却通雪竇書。山前婆子見專使來，問云：暹首座出世，為誰燒香？專使云：德山遠和尚。婆子遂罵云：雪竇抖擻尿腸說禪，為汝得恁麼辜負恩德？開堂日，上首白槌罷，師曰：千聖出來，也祇是稽首讚歎，諸代祖師提挈不起。是故，始從迦葉迄至山僧，二千餘年，月燭慧燈，星排道樹，人天普照，凡聖齊榮。且道承甚麼人恩力？老胡也祇道：明星出現時，我與大地有情同時成道。如是，則彼既丈夫，我亦爾，孰為不可？良由諸人不肯承當，自生退屈，所以便推排一箇半箇先達出來，遞相開發，祇是與諸人作證明。今日人天會上，莫有久游赤水、夙在荊山、懷袖有珍、頂門有眼、到處踐踏覺場底衲僧麼？却請為新出世長老作箇證明，還有麼？師住開先凡十八年，而化於本山。嫡嗣雲居元，也別具

南安嚴傳

南安巖自嚴尊者，生鄭氏，泉州同安人。年十一出家為童子，十七為大僧。遊方至廬陵，謁西峰老宿豁公。豁，雲門之孫也。師依止五年，盡得其法。自是神異不測，世傳定光佛化身。懷仁江有蛟害人，師臨渡說偈戒之，蛟引去。未幾，擁沙漲塞，潭遂為洲。梅州黃楊峽乏水，師以杖擿之，遂湧。父老以為神來聚觀，師遯去。所至遇旱澇，書偈投之，無不如願。武平南黃石岩多蛇虎，師止住，蛇虎可使令。師凡示人必以偈，偈尾必題四字曰：贈之以中世，奠能測四遠。敬事師如神明，家畫其像，飲食必祭。鄰寺僧死，師不知法，當告官，便自焚之。吏追捕，坐庭中問狀，不答。索紙作偈曰：雲外野僧死，雲外野僧燒。二法無差互，菩提路不遙。字畫險勁，如擘窠大篆。吏大怒，以為狂且慢已，去僧伽黎曝日中。既得釋，因以布巾幪首，而衣白服。師恨所說法，聽者疑信各半，因不語。六年，巖寺當輸布，民歲代之。師不忍，置書布束中求免。吏得之愈怒，追問亦不答，以為妖。焚其布帽，火盡而帽益明鮮。乃索紙作偈曰：一切慈忍力，皆吾心所生。王官苦拘束，佛法不流行。自後稍發語。後遊南康槃古山。先是，西竺波利尊者經始讖曰：却後當有白衣菩薩來興此山。師住三年，成叢林，乃還南安。江南眠槎為行舟礙，師舟過焉，摩挲之曰：去！去！莫與人為害。槎一夕蕩除。有僧自惠州來，曰：河源有巨舟著沙，萬牛挽不可動。願得以載磚，建塔於南海，為眾生福田。師曰：此陰府之物，然付汝偈取之。偈曰：天零灞水生，陰府船王移。莫立沙中久，納福蔭菩提。僧即舟唱偈，而舟為動，萬眾讙呼。至五羊，有巨商從借以載，僧許之。方解纜，俄風作，失舟所在。有沙彌無多聞性，而事即謹愿。師憐之，作偈使誦，久當聰明。偈曰：大智發於心，於心何處尋？成就一切義，無古亦無今。於是世間文字語言，一覽誦念，無所遺忘。偈語章句，援筆立就。師異蹟甚著，所屬狀以聞，詔佳之。宰相王欽若、大參張安仁以下皆贈詩，師未嘗視，置承塵上而已。淳化乙卯正月六日，集眾曰：吾此日生，今正是時。遂右脇而化。謚定光圓應禪師。系曰：至人聚于心者靈，發于言者驗。寂音謂師偈語皆稱性之句，非智識所到之地。良然！良然！才涉思惟，便是鬼家活計。自尚滿身霧露，安能使物不迷耶？

洞山寶、泐潭澄傳

自寶，廬州合肥人，姓吳氏。生有奇相，弱齡歸普寧院，已抱出群之見。聞五祖戒公匠石宗門，造之，置水投鍼，理存默識，遂入室傳法焉。祖病，令行者往庫司取生薑煎藥。寶方主庫事，叱之。行者白祖，祖令將錢回買，乃與之。後往洞山，聰公知其為人，特加

器重。臨歿，遺言令繼其席。郡守又以書託祖，舉所知者主洞山。祖云：無如買生薑漢。住未幾，戶外屨滿矣。叢林殷足，委積常餘百萬。黃檗山饘粥不繼，寶移杖總之，黃檗為之豐。直院祖君無擇、部憲程君師孟，並著好賢樂善之名。祖既挽寶主歸宗，程復以雲居致寶，前後凡四住名剎。在歸宗時，一日扶杖出門，見喝道來，問：甚官？吏云：縣尉。令避路，寶側立道左，馬至前，跪不行。寶曰：畜生却識人。尉知是寶，再拜而去。住雲居時，一夜，山神肩輿輿寶繞寺，行寶云：擡你爺，擡你娘，擡上方丈去。神直擡上方丈。寶為人精嚴，護持戒法。初行脚時，宿旅店，為娼女所窘，與同寢榻，寶危坐終夜。明發，娼女索錢，與之出門，燒被而去。娼女以實告其父母，遂請歸，置齋以謝，謂真佛子也。然好名事邊幅，故所至必選名僧自隨，為其羽翼。寶實得法于五祖，祖暮年棄眾造焉，寶以其行藏落人疑似，弗為禮，且說偈譏之，祖遂造大愚。一日，於僧堂前倚拄杖談笑而化。寶雖有盛名，叢林亦以是少之。師在洞山，嘗自甓壽藏後二十餘年，遂終于歸宗，壽七十七，僧臘五十一。示寂十八日，全身入塔，至和元年也。余襄公靖為之銘曰：彼上人者，叢林獨步。激揚宗旨，慈心廣度。言發其機，俾之自悟。人得其要，直趨覺路。橫杖而來，捨筏而去。吁嗟妙圓，人天仰慕。妙圓，師賜號也。

懷澄禪師，不知何許人，與寶同出于五祖之門。出世洪州泐潭，諸方呼為泐潭澄。黃龍南公依之最久。然雲門法道至師小變，故雲峰悅公方之藥，汞銀鍛則流去。大覺連和尚其嗣也，所謂青出于藍者別具。

系曰：一洞山也，詮去授聰，聰嗣文殊；聰死授寶，寶嗣五祖。要見拄持續佛慧命非細事，故古人舉授唯大公，弗容一毫私念于其間。不然，詮、聰工老，豈少法嗣哉？中峰國師與定叟書云：古人於法嗣嫡傳，所以深明宗係者，大法源委不可誣也。世漓俗薄，奉金請拂，以院易嗣者有之，某嘗痛心于此。寶亦雲門子孫之傑出者，惜大德為一眚所掩。燈錄謂寶生娼室，無姓氏，未之考耳。

宋　志逢禪師傳

志逢，餘杭人也。生而惡葷，膚體香潔。出家于臨安之東山朗瞻院，通貫三學。嘗夢升須彌山，覩三佛列坐。初釋迦，次彌勒，皆禮其足。惟不識第三佛，但仰視而已。時釋迦示之曰：此是補處彌勒師子月佛。師方作禮，覺後因閱大藏經，乃符所夢。遊方，見韶國師于天台，契悟。一日入普賢殿中宴坐，倏有一神人跪膝于前。師問：汝其誰乎？曰：護戒神也。師曰：吾患有夙愆未珍，汝知之

乎？曰：師有何愆，唯一小過耳。凡折鉢水亦施主物，師嘗傾棄之，非所宜也。言訖而隱。師自此洗鉢水盡飲之，積久因致脾疾，十年始愈。吳越國王嚮師道風，召賜紫衣師號，命住功臣院。開寶初，忠懿王建普門精舍，請師為開山，舉揚宗要。開寶四年，師固辭解院，願棲老林泉。時大將凌超於五雲山創院，奉師為終老之所。五雲多虎，師每攜大扇，乞錢買肉飼虎，虎輒馴伏。日暮還山，虎迎之，騎以歸。故世稱伏虎禪師，一號大扇和尚。雍熙二年示寂，壽七十七，塔曰寶峰。常照

宋　棲賢湜禪師傳

澄湜禪師，建寧人，嗣百丈恒和尚。恒嗣法眼，師為眼嫡孫。性高簡，律身精嚴，動不違法度。暮年三終藏經，以坐閱為未敬，則立誦行披之。黃龍南禪師初游方，年方少，從之屢年，故其平生所為多取法焉。嘗曰：棲賢和尚定從天人中來，叢林標表也。雪竇顯嘗自淮山來依之，見師少接納，遂蠹苴不合，乃作獅子峰詩而去，曰：踞地盤空勢未休，爪牙安肯混常流？天教生在千峰上，不得雲擎也出頭。師住棲賢，以門庭峻嚴，故參徒不盛。一日晚參，眾集，師曰：早晨不與諸人相見，今晚不可無言。便下座，其斬截如此。

系曰：百丈恒和尚五字三上堂，曰喫茶、曰珍重、曰歇，所謂百丈有三訣，喫茶、珍重、歇也。湜師作略如此，真有乃父風，就中些子一滴不遺，由此可觀師弟子傳受源脉也。

補續高僧傳卷第七

補續高僧傳卷第八

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

宋　宣州興教坦禪師

坦禪師，溫州牛氏子。業打銀，因淬礪瓶器有省，即出家參琅琊覺公，機語頓契。天衣懷住興教，師為第一座。及天衣受他請，欲聞州，乞師繼住。時刁景純學士守宛陵，恐刁涉外議，乃於觀音前祝曰：若坦首座道眼明白，堪任住持，願示夢於刁學士。刁是夜夢牛在興教法座上，衣凌晨辭州，刁舉所夢，衣大笑。刁問其故，衣曰：坦首座姓牛，又屬牛。刁就座出帖請之，師受請升座。有雪竇化主省宗出問：諸佛未出世，人人鼻孔遼天。出世後為何杳無消息？師曰：雞足峯前風悄然。宗曰：未在更道。師曰：大雪滿長安。宗曰：誰人知此意，令我憶南泉。拂袖歸眾。師曰：新興教今日失利。便歸方丈，令人請宗至，謂曰：適來錯祇對一轉語，人天眾前何不禮拜葢覆却？宗曰：大丈夫膝下有黃金，爭肯禮拜無眼長老？師曰：我別有語在。宗乃理前語，至未在更道處，師曰：我有三十棒寄你打雪竇。宗乃禮拜。

南安雲封寺圓禪師傳

道圓，南雄人也。性純至，少游方，雖飽參，未大通透。聞南禪師居黃檗積翠菴，往依之。一日燕坐下板，聞兩僧舉百丈野狐因緣，一僧曰：只如不昧因果，也未脫得野狐身。一僧應聲曰：便是不落因果，亦何曾墮野狐身耶？圓悚然異其語，不覺身起上菴，頭過澗，忽大悟。見南公敘其事，未終，涕交頤。南公令就侍者榻熟睡，忽起作偈曰：不落不昧，僧俗本無忌諱。丈夫氣宇如王，爭受囊藏被葢。一條椰栗任縱橫，野狐跳入金毛隊。南公大笑久之。又作風幡偈曰：不是風兮不是幡，白雲依舊覆青山。年來老大渾無力，偷得忙中些子閒。雲菴老人常手疏此二偈，大稱賞之，謂其機鋒不減英邵武。後出世住大庾雲封寺，莫知所終。

黃檗勝、昭覺白、信相顯三師傳

惟勝，潼川羅氏子。得法於黃龍南公，然未見公時已大悟，特就印之而已。時黃檗席久虛，瑞州太守委黃龍擇主法。黃龍撾鼓集眾，垂語曰：鐘樓上念讚，牀脚下種菜。道得者住黃檗。眾寂然。勝出眾曰：猛虎當路坐。黃龍大悅，遂以應命。道風大震，名播海內。白，梓州飛烏人，姓支氏。父謙，聞道嵩山。道者以死生為戲，白衣而梵行。嘗云：吾根鈍不得入圓頓，願有子續慧命足矣。自少聞父誨，諦聽沉思，有如夙習。一日過溪，忽有省，遂往峩眉山落髮。父子相依游講，通性相宗經論。去之南遊，首謁太平俊公於澧州。俊謂：真吾法子。付以說法大衣，白遜謝。聞黃檗道，望造焉。三年未印可，操事益勤。一日勝擡頭儗有言，白咄曰：這老漢。勝大笑肯之。元豐末，南康郡王邀勝詣輦下，白侍行。會太學生上書訟博士者，語連勝，有旨放歸蜀。門人星散，白獨負巾鉢以從。既至，居昭覺，法筵之盛猶黃檗也。勝將化，成都帥以繼席主化為問。師曰：無如白者。白開法遵南方規範，一洗律居之弊。不超性海是理事縛，不透聲輪是語言縛。白上堂語也。諸方傳誦，靡然向風。朝散郎馮敢、奉議郎段玘、天台山隱者宋放、唐安文士祖思昱，皆摳衣執弟子禮。元祐末，白水寺僧正闕，丞相蔡京時帥蜀，命白往。白不樂，遂併昭覺辭之，歸舊剎說法。久之示疾，頌曰：風高月冷，水遠天長。出門無影，四面八方。怡然而寂，顯遂嗣其法。顯，潼川王氏子。少舉進士，有聲。嘗掬溪水為戲，至夜思之，見水泠然盈室，欲汲不可，而塵境自空。悟曰：吾世網裂矣。往依白得度，隨眾咨參。一日，白問：高高峯頂立，深深海底行。子如何會？顯於言下頓悟曰：釘殺腳跟也。白舉起拂子，顯一笑而出。服勤七祀，南游見五祖演和尚，久處侍寮，澈法底蘊，四十餘年始還。時白尚無恙，舉應長松，遷保福信相。太常卿蘇元老序其語錄云：頃者，吾蜀但以講席律壇為無等等法，未知祖道之高。晚得真覺勝禪師，自黃檗闡化成都昭覺寺。初會易之廣大變動、周流六虛者，又原道之微妙混成、先天地生者，遂言曰：吾法函蓋乾坤不為大，銷殞虛空不為難。當體現成，隨用立具。西南緇素驟聞者，多瞪瞢不入，久各憮然，莫不失喜落涕，恨遭遇之晚。勝禪師既歿，紹禪師繼之，其法猶勝禪師也(紹即白)，而化度加眾。紹禪師既歿，顯禪師繼之，其法猶紹禪師也，而緣合加盛。前住長松，今居保福，皈依之侶未可計，濟拔之功未有艾也。嗚呼！釋迦別傳，迦葉親授，西天祖師所護念，中華耆宿所承襲，遐哉邈矣！不圖今日及吾身親見之。然師奧句微言，某未敢窺測，聊舉大略，曉吾黨新發意者，蘄與交臂作舞，同趁師門云。蓋其為時賢致歎如此。

明河曰：顯出蜀，得東山磨淬最久，始臻源奧。及出世，獨為紹覺燒香，議者謂其以小技溷掩道望，以故情謬紊師承，叢林目為顯牛子云。

報本元禪師傳

慧元，潮州倪氏子。十九為大僧，遍歷叢席，於黃龍三關語下悟入，住安吉報本院。為人孤硬有風度，威儀端重，危坐終日。南禪師門弟子能縱跡其行藏者，惟元而已。元初開法，法嗣書至，南公視其名曰：吾偶忘此僧。謂專使曰：書未欲開，可令親來見。專使反命，元即腰包而來。至豫章，聞南公化去，因留歎息。適晦堂老人出城相會，與語奇之，曰：恨老師不及見耳。元道化東吳，歸之者如雲。嘗自乞食，舟還遇盜，舟人絕叫，白刃交錯於前。元安坐自若，徐曰：所有盡以奉施，人命不可害也。盜既去，達旦人來，意師死矣，而顏色不亂，神氣如常。其臨死生禍福，能脫然無累如此。自說法來，一榻蕭然，長坐不臥，三十餘年如一日。化後，塔全身于峴山。

景福順禪師傳

順公，西蜀人。有遠識，為人勤劬，叢林後進皆母德之。得法於老黃龍。初出蜀，與圓通訥偕行，已又與大覺璉游甚久。有讚其像者曰：與訥偕行，與璉偕處。得法于南，為南長子。然緣薄，所居皆遠方小剎，學者過其門莫能識。師亦超然自樂，視世境如飛埃過目。壽八十餘，坐脫於香城山，顏貌如生。平生與潘延之善，將終，使人要之敘別。延之至，師已去矣。其示眾多為偈，皆德言也。有偈曰：夏日人人把扇搖，冬來以炭滿爐燒。若能於此全知曉，塵劫無明當下消。又作趙州勘婆偈曰：趙州問路，婆子答云。直與去麼，皆言勘破。老婆婆子，無你雪處。又作黃龍三關頌曰：長江雲散水滔滔，忽爾狂風浪便高。不識漁家玄妙意，偏於浪裏颭風濤。又曰：南海波斯入大唐，有人別寶便商量。或時遇賤或時貴，日到西峰影漸長。又曰：黃龍老和尚，有箇生緣語。山僧承嗣伊，今日為君舉。為君舉，猫兒偏解捉老鼠。

昭慶禪師傳

烏江惠濟院禪師，名昭慶，字顯之，泉州林氏子。少跅弛任氣，為巨賈，往來海中十數年，資用甚饒。一日，盡所有財物，屬同產使

養其親。徒手入漳州開元寺，出家受具戒，鄉人異之。居無何，謂其曹曰：出家兒當尋師訪道，求脫生死，若匏繫一方土偶人耳。遂過嶺，遍參知識。後見黃龍南公，示以三關語，漫不省，因服役左右。久之，盡得其道，因嗣焉。出世凡三坐道場：高郵之乾明、烏江之惠濟、廣陵之建隆。惟惠濟僻在深山中，地有湯泉，人跡罕至，心樂居之。乾明建隆，[此/白]為檀越士大夫所強，遯去不獲，非其好也。師所得法，廣大微妙，又學術無不通達。其為人說法，或以經論，或以老莊，或卜 筮，或方藥，乃至一切種種俗諦事，隨其根器，示大方便，不獨守古人言句。自唐以來，禪家盛行于世，惟雲門、臨濟兩宗。是時雲門苗裔，分據大剎，相望淮浙上。臨濟之後，自江以北，惟一師人。故雲門之徒，或不以師為然。師聞而笑曰：此吾所以為臨濟兒孫也。師晚歲多病，謝住持事，寓止高郵醴泉。法嗣處安會中，以元祐四年八月十六日，說偈遷化。廣陵檀越奉靈骨歸，建隆起塔。士大夫中執弟子禮者，如龍圖閣直學士孫覺莘老、烏江會承議郎閻木求仁等。然為役之久，緣契最深者，無如秦少游。觀時在京，遙為銘其塔。

隆慶閑禪師傳

慶閑，福州古田卓氏子。母夢胡僧授以明珠，吞之而娠。及生，白光炤室。幼不近酒葷。年十一，事建州昇山圓長老。十七，削髮受具。二十，辭師遠游，見諸大老，最後印心黃龍南公。公每歎曰：祖師之道不墜于地，在斯人也。公在世，學者已歸之。公既寂，一時尊宿無出其右者。熙寧間，廬陵太守張公鑑請居隆慶。未期年，鐘陵太守王公韶請居龍泉。不逾年，以病求去。廬陵道俗以其捨龍泉也，舟載而歸，居隆慶西堂，事之益篤。師性純至，無所嗜好。貌豐碩，寡言語。所至獨處，罕與人接。有即者，一舉手而去。初，師之在黃檗也，與翠岩順公竝事南公為父，機無所讓。順訴于南公曰：閑輕易且語，未辯觸淨。南公曰：法如是，以情求閑，乃成是非，其可哉？元豐四年三月七日，告眾將入滅，說偈曰：露質浮世，奄質浮滅。五十三歲，六七八月。南嶽天台，松風磵雪。珍重知音，紅爐優鉢。泊然坐逝，神色不變。手足和柔，髮剃復出。眾願留事全身長老利，儼遵遺命。闍維，薪盡火滅，跏趺不散，益以油薪乃化。是日，雲起風作，飛瓦折木，煙氣所至，草木砂礫之間皆得舍利如金色，碎之如砂。細民拾而鬻之，數日不絕，計所獲幾數斛。蘇子由欲為作記而疑其事，方臥疴，夢有訶者曰：此何疑哉？疑即病矣。子由夢中作數百言，甚雋偉，醒而續成之，病亦隨

愈。銘略曰：稽首三界尊，閑師不止此。憫世狹劣故，聊示小者爾。知言哉！

子琦(道英附)

子琦，泉州許氏子。試經得度，精楞嚴、圓覺。棄之游江淮，謁翠岩真禪師，問佛法大意，真唾地曰：這一滴落在何處？師捫膺曰：學人今日脾病。真為解頤。辭參積翠南公，盡得其道，相與商搉古今。適大雪，南公指謂師曰：斯可以一致帚否？師曰：不能。然則天霽日出，雲物解駁，豈復有哉？知有之人，於一切言句如破竹，雖百節當迎刃而解，詎容聲於儗議乎？一日，南公遣僧逆問三關語，師厲聲曰：你理會久遠時事作麼？南公益奇之，於是名著叢席。南公歿，四祖演禪師命分座，室中垂語曰：一人有口，道不得姓字為誰？後傳至東林總禪師，歎曰：琦首座如銕山萬仞，卒難逗他語脉。未幾，以開元為禪林，請師為第一世，賜號覺照大師。道英，俗姓胡，師邑子也。有聞於師而嗣焉。見地穩密，說法無蹊徑，直躋最上中下之機，少能遘會者。嘗作偈云：南北東西住險巇，古巖寒桂冷依依。無人到我經行地，明月清風擬付誰？又云：每把葫蘆椀放欹，從教天下浪猜疑。秋風擺落園林後，始信寒松格不卑。

黃龍心禪師傳

祖心，南雄始興鄔氏子。少為書生有聲，年十九而目盲，父母許以出家輒復見物，乃往依龍山寺惠全。明年試經業，獨獻詩，試官奇之，遂以合格聞。繼住受業院，不奉戒律，且逢橫逆，棄之。謁雲峯，悅公難其孤，硬告行。峯曰：必往依黃檗。南公居黃檗四年，知有而機不發，又辭而上雲峯。會峯謝世，因就止石霜，無所參決。後閱傳燈，至僧問：如何是多福一叢竹(云云)，此時頓覺親見二師。往歸黃檗，方展坐具，南公曰：子入吾室矣。師踊躍自喜，即應曰：大事本來如是，和尚何用教人看話下語，百計搜尋？南公曰：若不令汝如此究尋到無用心處，自見自肯，吾即埋沒汝也。往見翠巖真，真與語，大奇之。又見泐潭月，月以經論精義入神聞諸方，同列笑之，以為下喬入幽。師曰：彼以有得之得護前遮後，我以無字之學朝宗百川。初，南公使分座，公遷化，師繼其席，凡十有二年，法道大振。然性真率，不樂從事，五求解去，乃得謝事閑居，學者益親。謝景溫師直守潭虐大為，以致三辭不往，又囑江西轉運判官彭汝礪。器資請所以不赴長沙之意，願見謝公，不願領大

為也。馬祖、百丈以前無住持事，道人相尋於空山寂寞之濵而已。其後雖有住持，王臣尊禮如天人師。今則掛名官府，若編戶民，直遣五伯追呼之耳，豈可復為？師直聞之，不敢以院事屈，願一見之。至長沙，師直願受法訓，為舉其綱，師直聞所未聞。後一至京師，尋還廬岳，適器資守九江，問曰：人臨命終時，有旨決乎？曰：有。曰：願聞其說。曰：待器資死即說。器資起增敬曰：此事須是和尚始得。葢於四方公卿，合則千里應之，不合則數舍不往。南公道貌德威，極難親附，雖老於叢林者，見之汗下。師直造前，意甚閑暇，終日語笑，師資相忘。四十年間，士大夫聞其風而開發者甚眾。惟其善巧無方，普慈不間，人未見者或慢謗，承顏接詞，無不服膺。臘既高，益移菴深入棧，絕學者又二十餘年。以元符三年冬歿，閱世七十有六，坐五十有五夏。賜號寶覺，葬於南公塔之東，號雙塔云。

天衣懷禪師傳

義懷，溫州樂清陳氏子，世以漁為業。母夢星隕屋除，其光照戶而娠。及生，尤多吉祥。兒稚，父命坐船尾串魚，師不忍，投魚江中。父怒笞詬，甘受之。長游京師，依景德寺試經得度。師清癯，行步遲緩，眾中望見如鶴在雞羣。言法華遇師市中，拊師背曰：臨濟德山去。初謁金鑾善，次謁葉縣省，皆不契。謁明覺於翠峯，師當營炊，因汲澗折擔悟旨，覺印可之。辭去，久無耗。有僧自淮上來，曰：懷出世銕佛矣。峯使誦提唱之語，曰：譬如雁過長空，影沉寒水，雁無遺踪之意，水無留影之心。覺激賞，以為類己，先使慰撫之，乃敢通門人之禮，諸方服其精識。自銕佛至天衣，凡五遷法席，所至必幻出樓觀說法，縱橫馳騁，人難遘仰。廬山舜老夫疑之，後聞其語，歎云：真善知識也。晚以疾居池州杉山菴，弟子智才住杭之佛日山。仰歸養，侍劑藥。才如姑蘇未還，師促歸，至門，師已別眾。才問：卵塔已成，如何是畢竟事？師舉拳示之，遂就寢，推枕而寂。閱世七十二，坐夏四十六，塔全身佛日山。崇寧中，賜謚振宗禪師。

延恩安公傳

法安，臨川許氏子。幼謝父母，師事承天長老慕閑。年二十誦經，通授僧服，則無守家傳鉢之心。求師問道，不見山川寒暑。初依雪竇顯，顯歿，依天衣，懷蒙印可。棲法席數年，同參皆推上之，法雲秀尤與之友善。年三十有七，慨然以莊嚴佛土為己任。初居黃山

如意院，破屋壞垣，無蔽風雨，師力新之。未十年，大廈崇成，如天宮下降，衲子歸，遂為叢席，乃復謝去。至南昌某縣，又興延恩。始至，草屋數楹，敗床不簀，師處之超然。縣尹裴士章欲合豪右為師一新之，師曰：檀法本以度人，今不發心而強之，是名作業，非佛事也。固止之，亦居十年。凡安眾之地，冬燠而夏凉，鐘魚而粥，鐘魚而飯，來者息焉。師所歷，足跡萬里，一鉢蕭然，孳孳以接物利生為務，因緣乖合，一付之度外。其居延恩也，人視之不堪其憂。是時法雲秀公有眾千百，說法如雲雨，所居世界莊嚴，可以為兄弟接羽翼而天飛也。以書招師，師發書一笑而已。以元豐甲子歲七月示疾，化于延恩寢室，閱世六十有一，坐四十有一。夏，營塔於後山，距寺百步葬焉。靈源清禪師語黃山谷曰：我初發心，實在延恩。安公告戒策勵，如父母師友，中心以謂凡住山者，法如是爾。及游諸方，罕遇如安公者，以是提耳之誨，不忘於心。若安公名稱利養，實不能與天下衲師爭衡，然此自不滿安公之一笑。山谷因為銘塔云：

荊門軍玉泉皓禪師傳

承皓，眉州丹稜王氏子。依大力院出家。登具後，游方見北塔，發明心要。元豐間，首眾僧于谷隱，望聳諸方。張無盡奉使京西南路，就謁之，問曰：師得法何人？曰：北塔廣和尚。曰：與伊相契，可得聞乎？師曰：只為伊不肯與人說破。無盡善其言，致開法于郢州大陽。是時谷隱主者私為之喜曰：吾首座出世矣。盛集緇素，以為歆艷。師升座曰：承皓在谷隱十年，不曾飲谷隱一滴水，嚼谷隱一粒米。汝若不會，來大陽為汝說破。攜拄杖下座，傲然而去。于是先入院，後見州郡官，責之曰：長老得何指揮入院？師曰：某山林人，誰知郡縣禮數？乃拽杖而去。無盡以書抵郢守云：皓有道之士，不可以世禮責，當加禮請之。守如其言。師不得已，復來。尋遷玉泉，示眾曰：一夜雨滂烹，打倒葡萄棚。知事頭首，行者　人力，拄底拄，撐底撐，撐撐拄拄到天明，依舊可憐生。自謂此頌法身向上事。如傅大士云：空手把鋤頭。洞山云：五臺山上雲蒸飯。只頌得法身邊事。然為人超放，未易以凡聖議。嘗製犢鼻裩，書歷代祖師名字而服之，乃曰：唯有文殊、普賢較些子。書於帶上，故叢林目為皓布裩。有鄉僧効為之，師見而詬曰：汝具何道理，敢以為戲事耶？嘔血無及。僧尋於鹿門如所言而逝。蘇長公抵荊南，聞師機鋒不可觸，擬抑之，即微服求見。師問：尊官高姓？曰：姓秤，乃秤天下長老底秤。師震喝一聲曰：且道重多少？公無對，于是尊禮之。冬至示眾云：晷運推移，布裩赫赤。莫怪不洗，

無來換替。一僧入室，適狗子在室中，師叱之，狗便出去。師曰：狗却會，你却不會。將示寂，門人圍繞，師笑曰：吾年八十一，老死舁尸出。兒郎齊著力，一年三百六十日。言畢而逝。師法嗣有曰文慶者，住林溪興教，聞秀圓通住棲賢，棄眾訪之。慶貌寢，人不啟眼。秀遣督割稻石橋莊，既辭去，有識者曰：慶出世湘鄉十餘年，皓和尚嗣也。秀遣人追謝之，且迎以還山。慶曰：竢稻人困乃還。秀心奇之，稱于眾，舉以自代。住棲賢二十年而終。

福嚴感禪師傳

慈感，潼川杜氏子。面目嚴冷孤硬，秀出叢林，時謂感鐵面。首眾僧於江州承天，時佛印元禪師將遷居蘄州，斗方譽於郡守，欲使嗣續之，召語其事。感曰：某念不及此和尚，終欲推出為眾粥飯主人，共成叢席，不敢忘德。然若使嗣法，則某自有師矣。佛印心服，業已言之，因成就，不敢復易，遂開法為黃龍子，名重一時。居常懸包倚杖於方丈，不為宿夕計，郡將以下皆信敬。有太守新下車，以事臨之，感笑作偈投郡庭，不揖而去。偈曰：院是大宋國裏院，州是大宋國裏州。州中有院不容住，何妨一鉢五湖遊。太守使人追之，已渡江矣。後住南岳福嚴，終於所居而塔焉。

真點胸傳(善侍者)

可真，福州人也。參慈明，用功尅苦，每以手指點胸，諸方目為真點胸。喜談說，英氣逸羣。同善侍者坐夏金鑾，善乃慈明高第，真自負親見慈明，天下無可意者。善與語，知其未徹，笑之。一日山行，舉論鋒發，善拈瓦礫一片，置盤石上，曰：若於此下得一轉語，許爾親見老師。真左右視，擬對，善叱曰：佇思停機，識情未透，何曾夢見在？真愧悚，即還石霜。慈明見之，訶曰：本色行脚人，必知時節，有何急事，解夏未久，早已至此？真泣曰：被善兄毒心，終礙塞人，故來見和尚。明遽問：如何是佛法大意？對曰：無雲生嶺上，有月落波心。明瞋目喝曰：頭白齒豁，猶作如此見解，如何脫離生死？真不敢仰視，淚交頤。久之，進曰：不知如何是佛法大意？明曰：無雲生嶺上，有月落波心。因於言下大悟。自是機辯迅捷，叢林憚之。出世住翠巖，常拈魯祖面壁因緣問學士，少有契者。自作偈曰：坐斷千山與萬山，勸人除却是非難。池陽近日無消息，果中當年不自觀。嘗云：天下佛法如一隻船，大寧寬師兄坐頭南褊，頭在其中，可真把梢。去東也由我，去西也由我。長老政公亦慈明之嗣，性善講說，從之者多尚義學。真一日見政，則

以手摳其衣，露兩脛，緩步而過。政怪問之，真曰：前廊後架皆是葛藤，恐絆倒耳。政為大笑，乃曰：真兄，爾我同參，何得見人便罵我？真熟視曰：我豈罵汝？吾畜一喙，准備罵佛罵祖，汝何預哉？其剛勁不可屈如此。將入滅，示疾甚苦，席藁於地，轉側不少休。詰侍者垂泣曰：平生呵佛罵祖，今何為乃爾？真呵之曰：汝猶作此見解耶？即起趺坐，命燒香，煙起而化。善公還七閩，慈明有秤鎚落井之讖。自鳳林遷資福，則碌碌無聞焉。以故言句罕傳於世，惜哉！

宋　江州歸宗宣禪師(海印)

可宜，漢州人也。壯為僧，即出峽依琅琊覺公。一語忽投，羣疑頓息。琅琊可之。未幾，令分座。淨空居士郭功甫過門，問道與厚。及師領歸宗時，功甫任南昌尉。俄南康守恚師不為禮，以事臨之。師作書寄功甫云：某世緣尚有六年未盡，今無奈逼抑何。欲託生君家，望君相照。乃化去。功甫得書，驚喜盈懷。中夜，其妻夢間見師入其寢，失聲曰：此不是和尚來處。功甫撼而問之，妻答所見。呼燈取書示之，遂娠。及生，乃名宣老。期年，記問如昔。逮三歲，白雲端和尚過其家，功甫喚出相見。望見，便呼師姪。端云：與和尚相別幾年？屈指云：四年也。端云：在何處相別？云：白蓮莊。端云：以何為驗？曰：爺爺媽媽，明日請和尚齋。適門外推車聲，端云：門外何聲？乃作推車勢。端曰：過後如何？曰：平地一條溝。果六周無疾而化。

超信，字海印，桂府人也。亦琅琊之嗣，住蘇州定慧寺。倡道多年，望重一時。年八十餘，平日受朱防禦家供養，屢至其宅。一日，朱問曰：和尚後世能來弟子家託生否？師微笑頷之。及歸寺，得疾，數日而化。其日，朱家生一女子。圓照本禪師時住瑞光，聞其事，往訪之。方出，月抱出，見而一笑。圓照喚云：海印，你錯了也！女子哭數聲，化去。有百丈野狐頌并老僧詩，盛為叢林傳誦。瑩仲溫謂信為明眼宗匠云。

月華山琳公傳(雲達附)

琳公，曲江都渚人，姓鄧氏。少學儒，能談王伯大略。已而學佛，誦經得度，以詩自雄。往來江淮間，博覽廣記，推為文章僧。徐而知非，一掃前習。參寶師於洞山，一見已，心大器之。久之，遂付心印。因南還，結菴於舊山之白蓮。學者聞其名，自遠至者無算。州以眾狀請出世，師遁大洞中累月，眾求不已，得之，黽勉從赴。

自是縉紳緇素途經江澨，無不艤舟造室。師高論自嘉，致人人有得而返。四方衲子奔走於路，一言之下達心要，為人師者數十人。晚年避喧，退居西堂，諸方因稱西堂琳公。寶林山為六祖道場，詔擇名德，錫殊名，命服以居之。漕臺以為舉，固辭不行。乃即菴自甓壽藏，曰：吾歸骨於此矣。地舊為月華山，招提朗弘法處也。朗歿，眾散，寺亦隨廢。至師復大興，僉謂後身。余襄公靖銘其藏曰：湛然性相本無為，涉于形器有持隳。他年幻質此於歸，嘗言無佛良遣有。知雲達，桂州陽朔人。嘗曰：生本無物，何有本鄉？悟在于心，豈須戲論？南游洞山，寶禪師授以大乘之要，竟不出世。隱於羅浮山之黃龍洞，自得而已。

福昌信公傳

知信，生福州閩縣蕭氏。蕭氏以捕魚為業，兒時隨父漁於江，所得輒棄之，且觸事疎通，無憂恚疑懼，撫會而言，或非人意所及。年十二去家，持頭陀行甚苦，山行遇虎，祝之曰：使我得披如來衣作世間眼者，當不害我。虎妥尾而去。年二十有六，以誦經應格，得僧服。平居與眾勞侶共一手作，所游非一師，所行非一行。最後入夾山遵之室，師資相合，如石投水，莫之逆也。師之接人，不為驚濤險崖、關鎖閉距，然非相應者，終不得其門而入。在夾山任直歲典座餘十年，葧杉松滿山，水陸不耕者皆為田。住禪昌寺二十一年，其初草衣木食，寢食破屋數間，未幾廣廈不知寒暑，齋供數百人，師隨事莊嚴，不懈如一日。或勸師安用苦色身以狗事緣，宴居養道可矣，師曰：一切賢聖出生入死，成就無邊眾生，行願不滿，不名滿足菩提，我何人也？為之益力。元祐三年閏十二月示疾，問日早晚，曰：午矣。起坐而逝，五十九歲也，葬於福昌善禪師之左。有語錄，黃山谷書其後行之。

法秀(小秀附)

法秀秦州隴城人生辛氏其母夢老僧求託宿曰吾麥積山僧也覺而有娠先是麥積山有僧忘其名日誦法華經與應乾寺魯和尚者善嘗欲從魯遊方魯老之既去緒語曰他日當尋我竹鋪坡前鐵強嶺下俄有兒生其所魯聞之往觀焉兒為一笑三歲願隨魯歸遂冐魯姓十九通經為大僧天骨峻拔軒昂萬僧中凜然如畫講大經章分句析旁穿直貫機鋒不可觸聲著京洛倚圭峯鈔以詮量眾義然恨圭峯學禪唯敬北京元華嚴然恨元非講曰教盡佛意則如元公者不應非教禪非佛意則如圭峯者不應學禪然吾不信世尊教外別以法私大迦葉乃罷講南遊謂同學曰吾將窮其窟穴摟取

其種類抹殺之以報佛恩乃已耳初至隨州護國讀淨果禪師碑始疑之然猶怫然不平及至無為謁懷禪師見其貌寒危坐涕垂沾衣頗易之懷因收涕問座主講何經對曰華嚴又問華嚴以何為宗曰法界為宗曰法界以何為宗曰心為宗又問心以何為宗師不能對懷曰毫釐有差天地懸隔師退自失悚然乃敬服願留日夕受法懷公自池入吳師皆從之十年初開法於淮四面山杖笠之外包具而已衲子追逐不厭饑寒師哀祖道不振叢林凋落慨然以身任之移住棲賢有年蔣山元公歿舒王以禮致師嗣其席。師至山，王先後謁，而師方理叢林事，不時見。王以為慢己，遂不合棄去，住真州長蘆，眾千人。有全椒長老至，登座，眾目笑之，無出問者。於是師出拜，趨問：如何是法秀自己？全椒笑曰：秀銕面，乃不識自己乎？師曰：當局者迷。然一眾服其荷法心也。冀國大長公主造法雲寺，仍詔師為開山。神宗皇帝遣中使降香并磨衲，仍傳聖語，表朕親至之禮，士大夫日夕問道。時司馬溫公方登庸，以吾法太盛，方經營之。師曰：相公聰明，人類英傑，非因佛法不能，爾遽妄願力乎？溫公不以介意。元祐五年八月臥疾，詔翰林醫官視之，請候脉。師仰視曰：汝何為者也？吾有疾，當死耳。求活之，是以生為可戀也。平生之死，夢三者無所揀。揮去之，呼侍者更衣安坐，說偈三句而化。閱世六十有四，坐四十五夏。李公麟伯時工畫馬，不減韓幹。師呵之曰：汝士大夫以畫名，矧又畫馬，期人誇以為得妙，入馬腹中亦足懼。伯時由是絕筆。師勸畫觀音像以贖其過。黃魯直作艷語，人爭傳之。師呵之曰：翰墨之妙，甘施於此乎？魯直笑曰：又當置我馬腹中邪？師曰：汝以艷語動天下人婬心，不止馬腹，正恐生泥犁中耳。駙馬都尉王詵晉卿候師，師方饌客，晉卿為掃墨竹於西軒以遲之。師來，未及揖，顧見不懌。晉卿去，即漫之

懷秀者，與師同依懷公最久，俱稱飽參，有時名，故叢林稱為小秀，葢以師為大秀也。小秀聞南禪師三關語，欲往見之，師曰：吾不疑矣。小秀乃獨行，久而有契證，因嗣南公。聞師住棲賢，寄以偈曰：七百高僧戰法場，盧公一偈盡歸降。無人截斷黃梅路，剛被迢迢過九江。師笑而置之。小秀，弋陽應氏子，家世業儒，出世大溈，唱黃龍之道，有三關頌，盛為叢林傳云。

圓照本禪師傳

宗本，常州管氏子。性質少緣，飾貌豐碩，言無枝葉。年十九，師事蘇州承天永安道昇禪師，弊衣垢面，操井臼，典炊爨，以供大眾。夜則入室參道，昇勞之，對曰：若捨一法，不名滿足菩提，實欲此生身證，其敢言勞？昇陰奇之。又十年，剃髮受具，服勤三

年，乃辭昇游方。初至池州，謁懷禪師，言下契悟，眾未有知者。嘗為侍者，喜寢，鼻息齁齁，聞者厭之。言于懷，懷笑曰：此子吾家精進幢也，汝輩他日當依賴之，無多談。眾乃驚。及懷公徙住越之天衣、常之薦福，皆從之。治平初，懷公退居吳江之壽聖，部使者李公復圭過懷公，夜語曰：瑞光法席虛，願得有道衲子主之。懷指本曰：無踰此道人耳。既至瑞光，眾大集，至五百人。杭州太守陳公襄以淨慈懇請之，曰：借師三年，為此邦植福，不敢久占 。學者倍於瑞光。既而蘇人以萬壽、龍華二剎請擇居之，迎者千餘人，曰：始借我師三年，今九載矣。欲奪以歸。杭守使縣尉持卒徒護之，不得奪。元豐五年，以道場付其門人善本，而居瑞峯菴。蘇人聞之，謀奪之益急，懼力不勝，未敢發也。時待制曾公孝序適在蘇，葢嘗問道于師者，因謁之菴中，具舟江津。既辭去，師送之登舟，語笑中載而歸，以慰蘇人之思。於是歸師穹窿山福臻院，時年六十三矣。未幾，神宗皇帝闢相國寺六十四院為八禪二律，驛召師主慧林。既至，召對延和殿。山呼罷，登殿賜坐，即就坐，盤足跏趺，侍衛驚相顧，師自若也。上問：受業何寺？對曰：承天、永安。茶至，舉盞長吸，又蕩撼之。上喜其真，喻曰：禪宗方興，宜善開導。既退，上目送之，謂左右曰：真福慧僧也。及上元日，車駕幸相國，止師，眾無出迎。師奉承睿奬，闡揚佛事，都邑四方，人以大信。神宗登遐，召師入福寧殿說法，左右以師為先帝所禮敬，見之嗚咽不勝。元祐元年，以老求歸，朝廷從其請，勑任便雲游，所至不得抑令住持。因欣然升座，辭眾曰：本是無家客，那堪任便游？順風加槹，棹船子下揚州。既出都城，王公貴人送者車騎相屬，師誨之曰：歲月不可把玩，老病不與人期，唯勤修勿怠，是真相為。聞者莫不感涕。晚居靈巖，其嗣法傳道者不可勝紀。元符二年十二月甲子，將入滅，沐浴而臥，門弟子環擁請曰：和尚道徧天下，今日不可無偈，幸強起安坐。師熟視曰：癡子，我尋常尚嫺作偈，今日特地圖箇甚麼？尋常要臥便臥，不可今日特地坐也。遂酣臥，若熟睡，撼之已去矣。弟子塔全身于靈巖山，閱世八十，夏五十有二。

補續高僧傳卷第八

補續高僧傳卷第九

吳門華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

宋　黃檗全禪師傳

道全，洛陽王氏子也。生不食葷血，父母使事其舅廣愛演公得度。二十具戒，游彭城，歷壽春，受華嚴清涼說於誠法師，朝授師說，夕能為其徒講。彭城有隱士董君，識師非凡人也，勸游南方，問無上道。師乃棄所學，渡江，首從甘露禪師，茫無所見。復從棲賢秀禪師，秀勇於誨人，示以道機，迷悶不能入，深自悔恨，至啗惡食、飲惡水以自礪，凡七年。秀游高安，事真淨文禪師，五年而悟，告文曰：吾一槌打透無底藏，一切珍寶皆吾有。文可之。自是言語偈頌，發如湧泉。高安太守請住石臺，清涼已徙黃檗。師為人直而淳信，不飾外事。元豐六年，師得疾甚苦，從醫於市。時眉山蘇轍謫高安，師謂之曰：君靜而惠，可以學道。且云：吾病，夙業也，殆不復起矣。君念道，異時相見，毋相忘也。病小愈，遠居山中。次年冬，轍移績溪，將行，意師必來別，師竟以病不出。十二月乙丑，與眾訣，趺坐而化。體香軟，停十五日，荼毗得舍利，光潔無數。年四十九，臘三十，葬斷際塔之右，轍為銘焉。

石頭懷志上座傳

懷志上座，婺州吳氏子。年十四，事智慧院寶俔為師，試所習落髮。性夷簡，飽經論，東吳學者尊事之。嘗對客曰：吾欲會天台、賢首、惟識三宗之義，衷為一書，以息影跡之諍。適有禪者居坐末，曰：賢首宗祖師為誰？志曰：杜順和尚。禪者曰：順有法身頌曰：懷州牛喫禾，益州馬腹脹。天下覓醫人，灸猪左膊上。此義合歸天台、唯識二宗何義耶？志不能對。禪者曰：何不游方去？志於是罷講，南詢至澗山。時雲菴和尚在焉，從之游甚久。去游湘上，菴於石頭雲溪二十餘年，氣韻閑淡，遇客多不言。侍者問之，志曰：彼朝貴人多知多語，我粥飯僧見之，自然口吻遲鈍。作偈曰：萬機休罷付癡憨，踪跡時容野鹿參。不脫麻衣拳作枕，幾生夢在綠蘿菴。或問：住山何味？答曰：山中住，獨掩柴門無別趣。三箇柴頭品字煨，不用揮毫文彩露。崇寧改元，志年六十二矣，曳杖造龍安，人莫之留。一日，問侍僧曰：日何時？曰：夕矣。遂笑曰：夢

境相逢，我睡已覺。汝但莫負叢林，即是報佛恩德。言訖，泊然而逝。收骨塔於乳峯下。

法雲杲師傳

佛照杲禪師自妙年遊方，謁圓通璣公，命首眾秉拂，機遲而訥，眾笑之，有赧色。次日，僧堂點茶，見茶瓢墮地跳躍，乃得應機三昧。後依真淨因，讀祖偈，豁然大悟，謂人曰：我於紹聖三年十一月二十一日悟得方寸禪，出世住歸宗，尋被詔居淨因。杲以力參深到，語不入時，凡示眾，嘗舉：老僧熙寧八年文帳在鳳翔府供申，當年崩了華山四十里，壓倒八十村人家，汝輩後生茄子、瓠子幾時知得？或詰曰：寶華座上何一向談說世諦？杲曰：癡人，佛性豈有二耶？師在歸宗時，一夜脩敬罷，坐僧堂地爐邊，忽見二僧入堂，一人龐眉雪頂，一人少年，皆丰姿頎然，師心喜，自謂：我座下有如此僧。須臾，二人出堂，師怪而尾之，見入佛殿中，師亦隨入，燈影熒煌，爐中尚有火，師炷香禮佛，二僧復出，仍襲其後，至佛殿前，因失所在，自念忘却香匣在殿，回取之，見殿門扃鑰，遂喚直殿行者開門入，時見爐中香煙未散，匣在寶塔上，莫諭其故。蓋杲行道精誠，冥通無礙，誠有不可思議者。

大通本禪師傳

善本族董氏，漢仲舒之後也。其先家大康仲舒村。大父琪，父溫，皆官於潁，遂為潁人。母無子，禱白衣大士，誓曰：得子必以事佛。即蔬食，俄娠。及生，骨相秀異，方晬而孤。母育於叔祖玠之家。既長，博學，操履清修。母亡，哀毀過禮，無仕宦意。氣剛不屈，沉嘿白眼公卿。嘉祐八年，至京師地藏院，試通經得度。習毗尼、隨喜、雜華。夜夢見童子如世所畫，善財合掌導而南。既覺，曰：諸佛菩薩加被我矣，其欲我南詢乎？時圓照道振吳中，造焉。照一見，知為法器，特顧之。服勤五年，盡得其要。其整頓提撕之綱，研練差別之智，縱橫卷舒，度越前規。一時流輩無出其右，圓照倚之以大其家。元豐七年，遍遊，居浮山太守岩。出世，住婺州雙林，移錢塘淨慈，繼圓照後，法席冠江浙，時號大小本云。上聞其名，有詔住上都法雲寺，賜號大通禪師。師玉立孤峻，未嘗以言狗物，以色假人，王公貴人施捨填門，而精粗與眾共。住八年，請於朝，願歸老西湖，詔可。遂東還，菴龍山崇德，杜門却掃，與世相忘，天下願見不可得。師臨眾三十年未嘗笑，及閑居時抵掌笑語，問其故，曰：不莊敬何以率眾？吾昔為叢林故強行之，非性實

然也。所至見佛菩薩行立之像，不敢坐伊蒲塞，饌以魚胾名者不食，其真誠敬事、防心離過類如此。大觀三年十二月甲子，屈三指謂左右曰：止有三日。已而果歿，有異禽翔鳴于庭而去，塔全身于上方。閱世七十五，坐四十五夏。

報恩傳

報恩，衛之黎陽人。族劉，世以武進家。喜事佛，母牛氏禱子於佛，夢佛指阿羅漢[田/廾]之而娠。既生，有殊相。未冠，舉方略，擢上第，調官北都。喟然歎曰：是何足了此生？請於朝，欲謝簪纓，求出世法。上詰其故，對曰：臣祖死王事，思報厚恩。惟有薰修之功，庶資冥福。神宗歎異，親灑宸翰，賜名報恩(俗名欽憲)。就北都福壽寺祝髮受具，游歷諸方。聞投子青禪師之道，而往依焉。青識其法器。一日凌晨入室，青問：天明也未？師曰：明矣。曰：明則捲簾。師從之，頓爾開悟，心地洞然。亟以所得白青，青韙之，留付巾匜，頗有年數。逮青順世，丞相韓公縝尹河南，延住嵩山少林。席未煖，詔改隨州大洪山律寺為禪，命師居之。時大洪基搆甚大，而蕪廢久。師闢荊榛蓬藋為像設堂皇，化豺狼狐狸為鐘魚梵唄。更定禪儀，大新軌範。由是大洪精舍，壯觀天下禪林。崇寧二年，有詔命住東京法雲，從駙馬都尉張公請也。師志尚閑遠，閱歲懇還林澤。朝廷重違其請，許之。徑詣嵩山，旋趨大陽。屬大洪虛席，守臣乞奏還師于舊。固辭弗獲，復坐道場。凡前日之未遑者，咸成就焉。師勤于誨勵，學者輻湊，幾五百人。既振宗風，而戒律嚴甚。終身敝衣，略不加飾。雖賜紫方袍，卒盤辟不敢當。故權貴欲以師號言者，皆無復措意矣。政和改元，坐化，塔于南塔。師異時欲築室退居之所也。壽五十四，坐夏三十二。弟子嗣法出世者一十三人。有語錄三卷，集曹洞宗派錄、受菩提心戒文、落髮受戒儀文，皆行於世。丞相張無盡於師深相契信，嘗以書問三教大要。師答曰：西域外道宗多途，要其會歸，不出有無四見。謂有見、無見、亦有亦無見、非有非無見也。蓋不即一心為道，則道非我有，故名外道。不即諸法是心，則法隨見異，故名邪見。如謂之有，有即有無。如謂之無，無則無有。有無則有見競生，無有則無見斯起。若亦有亦無見，非有非無見，猶是也。夫不能離諸見，則無以明自心。無以明自心，則不能知正道。故經云：言詞所說法，小智妄分別。不能了自心，云何知正道。又曰：有見則為垢，此則未為見。遠離于諸見，如是乃見佛。以此論之，邪正異途，正由見悟殊致故也。故清凉以老莊計道法自然，能生萬物。易謂太極生兩儀，一陰一陽之謂道。以自然太極為因，一陰一陽為道。能生萬

物，則是邪因。計一為虛無，則是無因。嘗試論之，夫三界唯心，萬緣一致。心生故法生，心滅故法滅。推而廣之，彌綸萬有而非有；統而會之，究竟寂滅而非無。非無亦非非無，非有亦非非有。四執既亡，百非斯遣。自然因緣，皆為戲論；虛無真實，但是假名。至若謂太極陰陽，能生萬物。常無常有，斯為眾妙之門；陰陽不測，是謂無方之神。雖聖人示悟多端，然既異一心，寧非四見？若虛無為道，道則是無；若自然太極陰陽為道，道則是有。常無常有，則是亦無亦有；陰陽不測，則是非有非無。先儒以妙萬物為神，則非物；物物，則亦是無。故西天諸大論師，皆以心外有法為外道，萬法惟心為正宗。葢以心為宗，則諸見自亡。言雖或異，未足以為異也。心外有法，則諸見競生。言雖或同，未足以為同也。儒家聖人，非不知之，乃存而不論耳。西天外道，皆大權菩薩，示化度人，橫生諸見，曲盡異端，以明佛法，是謂正道，是謂聖人。順逆皆宗，非思議所能知矣。故古人有言：緣昔真宗未至，孔子且以繫心。今知理有所歸，不應猶執權教。然知權之為權，未必知權也；知權之為實，斯知權矣。是亦周、孔、老、莊設教立言本意，一大事因緣所成始成終也。然則三教一心，同途異轍。究竟道宗，本無言說。非維摩大士，孰能知此？

廣道者傳

希廣天資純至，脫略世故。游方日，謁雲葢智和尚，問：興化打克賓意旨如何？智下禪床，展兩手吐舌示之。師打一坐具，智曰：此是風力所轉。又問石霜琳，琳曰：汝意如何？師亦打一坐具，琳曰：好一坐具，祇是不知落處。又問真淨，亦如前，淨曰：他打你也打。師於言下大悟開法。瑞州九峯，衲子宗仰。有戒上座者，善醫術，分衛而歸，請師說法。戒出致問曰：如何是九峯境？答曰：滔滔雙澗水，落落九重山。進曰：如何是境中人？答曰：長者自長，短者自短。進曰：人境已蒙師指示，向上宗乘事如何？答曰：喫得棒也未？戒作禮而退。師顧問侍者曰：適來陞座為何事？對曰：戒藥王啟請。師曰：金毛獅子子，出窟便咆哮。且道金毛師子子是阿誰？良久云：即是今晨戒藥王。即下座。晚依同門友深公于寶峯。雪夜，深與師擁爐談久，潛使人撤其臥具。及就寢，置而不問。須臾熟睡，鼻息如雷。其忘物忘我如此。逸人李商老寄以詩曰：已透雲菴向上關，熏爐茗椀且開顏。頭顱無意掃殘雪，毳衲從來著壞山。瘦節直疑青嶂立，道心長色白鷗閑。歸來天末一回首，疑在孤峯烟靄間。師高風逸韻，可想而見矣。妙喜亦嘗與游從，言其大槩。是智叢林以道者目之，真名稱厥實也。

佛果勤傳

克勤彭州崇寧駱氏子世宗儒師生犀顱月面骨相不凡從師受書日記千餘言偶過妙寂院見佛書讀之三復悵然如獲舊物曰：吾殆過去沙門也。始棄家祝髮從文照通講說又從敏行授楞嚴俄得病瀕死歎曰：諸佛涅槃正路不在文句中欲以聲求色見如釜羹投鼠矢污之吾知其無以死矣。遂棄去見真覺勝公勝方剃臂出血指示師曰：此曹溪一滴也。師矍然於時大知識名稱遠聞者相望持一鉢徒步出蜀意所欲往靡不至焉。首謁玉泉皓金鑾信又見大溈喆晦堂心東林總僉指為法器而晦堂獨深加賞識最後見五祖演禪師盡展機用祖皆不諾乃謂祖強移換人出不遜語忿然而去祖曰：待一頓熱病打時方思我在。到金山染傷寒困極平日見處無得力者追繹祖言乃自誓云：我病稍間即歸五祖。病既愈還山祖見之喜命執侍方半月會部使者謁祖問佛法大意師從旁竊聽忽有省遽出見鷄飛上欄干鼓翅而鳴即大悟袖香入室通所得祖曰：佛祖大事非小根劣器所能造汝既如是吾助汝喜。因徧謂山中耆老曰：我侍者參得禪也。嘗伐一巨木祖固止之不聽祖怒奮挺而起師立不動祖投所持挺笑而去自是遇物無疑。崇寧中省親還蜀諸老相謂曰：道西行矣。時同門佛鑒、慧勤亦知名，眾遂目師為川勤，別之成都。師郭知章請開法六祖，更昭覺，凡八年，復出峽南游。時張無盡寓荊南，自以手提古佛，席卷諸方，見師恍然自失，留居碧岩院，傾心事之。(傳燈錄云：張寓荊南，以道學自居，少見推許。師艤舟謁之，劇談華嚴旨要曰：華嚴現量境界，理事全真，初無假法。所以即一而萬，了萬為一。一復一，萬復萬，浩然莫窮。心佛眾生，三無差別。卷舒自在，無礙圓融。此雖極則，終是無風匝匝之波。公于是不覺促榻。師遂問曰：到此與祖師西來意為同為別？公曰：同矣。師曰：沒交涉。公色愠。師曰：不見雲門道：山河大地無絲毫過患，猶是轉句。直得不見一色，始是半提。更須知有向上全提時節。彼德山、臨濟非乎？公乃首肯。翌日，復舉事法界，理法界，至理專無礙法界。師又問：此可說禪乎？公曰：正好說禪也。師笑曰：不然，正在法界量裏。蓋法界量未滅，若到事事無礙法界，法界量滅，始好說禪。如何是佛？乾屎橛。如何是佛？麻三斤。是故真淨偈曰：事事無礙，如意自在。手把猪頭，口誦淨戒。趁出淫坊，未還酒債。十字街頭，解開布袋。公曰：美哉！論豈易得聞？于是執師禮，留居碧岩。)復徙長沙道林。太保樞密鄧子常上師德行，賜紫服，師號佛果。政和中，移延康蔣山，東南學者赴之如歸。至無地可容，名聞京師。被詔住天寧萬壽，召見，褒寵甚渥。建炎初，宰相李伯紀奏住金山。高宗至維揚，入對，賜名圓悟禪師，改雲居。久之，復領昭覺。紹興五年八月己酉，微恙，留偈示眾，擲筆而逝。荼毗，舌齒不壞，舍利五色無數。閱世七十有三，坐夏五十有五。塔於昭覺之側，謚真覺禪師。師清淨無作，不入諸相。示方便門，提引未悟，一聽其語，莫

不愀然感動，有泣下者。故住天寧時，一時王公貴人、道德材智文學之士，日造其室，車轍滿戶外，雖毗耶聽法，不能過也。度弟子五百人，嗣法得眼領袖諸方者百餘人。方據大叢林，匡眾說法，為後學標表，可謂盛矣。師自得法後，聲名藉甚，繇嶽麓徙蔣山，行成德備，每得天神訶護。過金山時，賊趙萬據鎮江，擁兵數百，操戰艦乘風欲度，忽反風，雲霧晦冥，連晝夜不得度，乃止。比赴雲居，道長廬，賊張遇奄至，盡劫所有，師衣鉢獨存。又嘗斂上方賜物，置一篋中。寓儀真，師飭其徒往省，答曰：儀真連夕大火，尚何求？師笑曰：汝第往。既至官寺，民櫚鞠為瓦礫，而師篋封識如新。嘗寓公安天寧，天堂長老覺公夢一女子再拜而進曰：乞我東堂為人天說法。信宿而碧巖疏至，女子即碧岩護法神也。安樂山神據雲居方丈，諸耆宿皆徙避別室，師寘一榻，臥起如平時。師福慧兩足，行解通脫，斷取世界，如掌中菴摩勒果。是區區者何足言，然為世人傳聞讚歎，故不得略也。

丹霞淳傳

子淳，劒州梓潼賈氏子，依縣之大安寺為童子。年二十七，祝髮受具，禮道凝上人為師，通貫教乘，練達藝學。至大陽，訪芙蓉老人，叩以大事，芙蓉目師偉器，示之曰：古人謂空刼已前承當，佛未出世體會，汝但退步就己，萬不失一，安用多言？師言下大悟。侍芙蓉有年，芙蓉舉立僧學識威儀為眾標表，芙蓉深器重之，以為洞上孤宗，斯人可托，自是名起叢林。崇寧間，王公信玉按刑京右，聞師名德，請住南陽丹霞山，道聲益著。師說法直捷警悟，位下多賢哲士，如了、如悟、如預，後皆為天人師。但道熟世疎，能為左右周旋，使師得一意安唱，不至闕陷者，預也。久之，以疾退居唐州大乘西菴。隨州太守向公復以洪山保壽為迫，不得已應之，遂終於保壽。師性孤潔，氣和而貌剛，心慈而言厲，自髫齔立志，至老不渝，以忘機為化本，以離識為宗通，故能妙唱五位，橫壓諸方，可謂丈夫矣。塔在洪山南。

守遂傳(慶顯附)

守遂。遂寧蓬溪章氏子。幼不茹葷酒，不好弄事。南麓院自慶上人為童子，二十七得度南游。初抵玉泉見勤禪師，勤深器之，命副院事。歲餘走大洪謁恩禪師，上方丈纔展坐具，忽一小蟲飛墮于地，遽引手拂之，豁然大悟。恩肯之，俾總院事，說法一本於恩。政和戊戌賜號淨慈，隨州袁公灼奏師道德堪表率叢林也。俄遷水南，靖

康丁未退止德安[山*廣]山之延福院。時海內大亂，江淮盜起，所在戒嚴。安守李公濟慮師所居荒遠，命移錫入城，建化城菴居之。賊圍城久，每攻輒不利，乃曰：城中有異人。遂引去。鎮撫陳規聞而歎曰：異人誰歟？必吾淨嚴師也。紹興乙卯宣撫司命居大洪，學子望山而歸，極一時之盛。師亦誨人無倦，至丁卯三月示疾而化。師天質溫靖，與物無忤，且奉戒謹，終身不服縑纊，不執財寶，不近玩好。士大夫以為貺，隨得隨施。慈至蚤虱，不忍棄地，納之衣中。

慶顯，蜀廣安王氏子。誦寶公十二時歌有省。嘗參佛性，又見宏智，皆有啟發。而瓣香所表，信于人天，獨歸淨嚴。葢以淨嚴鍵楗穩密，所得獨深也。顯性恬淡，于世念泊然無所起。其視榮名貴勢，等太虛浮雲，倏焉起滅，不足當一盼。一時名公鉅卿，皆忘勢交之。京西帥漕列道行于朝，當道下省帖，起住大洪，賜號覺照慧空佛智明悟大師。大洪一席恩遂顯，三世的承道望不少衰，可以觀其家風矣。

自覺傳（禧誧附）

自覺，青州王氏子。幼以儒業見知于司馬溫公，然事高尚，無意功名。落髮從芙蓉楷公游，履踐精密，契悟超絕。出世住裕州大乘山普嚴寺。始至，闢僧房為海會室，振大法音。遠近緇白，見聞攝受，自堂序庭廡，皆易新之。使來觀者，如入廊廟，雖未覩羽儀，悉生恭謹；如聞簫韶，雖不知音，亦有樂意。故躭道腴，味禪悅，自拔于般若之門者多矣。寺碑謂：覺，長安人。有操行，斷緣捨俗，師事大長老道楷，究竟大事，得骨與髓。士大夫聞其言，翛然有遺世意，一時知識無出覺右者。崇寧間，詔居淨因，聲光益弘。一日，示眾曰：祖師西來，特唱此事。自是諸人不肯委悉，向外馳求，投赤水以尋珠，詣荊山而覓玉。殊不知從門入者，不是家珍；認影迷頭，豈非大錯？直得宗門提唱，體寂無依，異念不生，古今無間。森羅萬象，觸目家風；鳥道遼空，不妨舉步。金鷄報曉，丹鳳翱翔；玉樹花開，枯枝結子。祇有大陽門下，日日三秋；明月堂前，時時九夏。要會麼？無影樹垂寒澗月，海潮東注斗西移。

禧、誧亦得楷道。初住韶山，補天寧，復遷丹霞。將化，召主事分楮囊為四，眾僧、童行、常住、津送各一。既而曰：丹霞有箇公案，從來推倒扶起。今朝普示諸人，且道是箇甚底？顧視左右曰：會麼？對曰：不會。師曰：偉哉！大丈夫不會末後句。遂就寢，右脇而化。

小南禪師傳(海評附)

系南汀州張氏子。參祐禪師于潭之道林，獲印可。隨遷羅漢，掌堂司，即分座接納。及祐移雲居，以師繼席，學者翕然歸之。准世系，以黃龍是大父，名同而道望逼亞，故叢林目為小南，葢尊黃龍為老南云。洪覺範謂小南禪師道眼明白，未為人知時，嘗至東林，照覺鳴鐘集眾，出迎於清溪之上，其徒大驚，自是名日益著。將示寂，陞座告眾曰：羅漢今日倒騎鐵馬，逆上須彌，踏破虛空，不留朕迹。乃歸方丈，跏趺而逝。師以傳道為志，閱七寒暑，住世四十有五。白雖所蘊未伸，暐然名見當時，垂稱後世，雲居可謂有子矣。

參友海評，所與師同受業者也。將出游，同院僧夢二大蛇，一角黑，各長數丈，遶院三匝，騰躍而去。黎明，師與評別眾游方，夢者撫背囑之曰：二子善自愛，他日法門龍象也。評嗣廣鑑瑛，住開先，與師相隣，俱得名叢林間，號廬山二龍云。

利儼傳

利儼，黃龍南嗣也。有天悟，為黃龍所重。開法廬陵之隆慶，禪衲宗之。機鋒所至，猶太阿孟勞，剸犀徹札，無留行者。時黃龍弟子如東林總、晦堂心、羅漢祐、洞山文，皆各闡化一方，師獨後出。有問黃龍：安視儼？龍曰：其視以我。葢密契如此。師倡道自熙寧乙卯至元祐辛未十有七年，其法語之傳者絕少，皆自痛剪苛掃，不啻卷雲收潦焉。故其法化之廣，不得與諸山齒，致後世幾不知有師名也。惜哉！

法一傳(常首座)

法一，字貫道，太師襄陽郡王李公用和之玄孫也。世居開封祥符，其母見老僧入夢而生。比成童，一切嬉弄皆不顧。十七，試太學為諸生，被服詩書，岸然自負。從其翁仕淮南，欲任以官，不從。將棄家事長蘆賾公，翁難之，母曰：此夙世沙門，勿奪其志。未幾，賾歿，禮靈岩通照，愿公得度登具。依之十年，無所入，益刻苦奮厲。時圓悟住蔣山，以大法炬許之。悟奉詔住京師天寧，師侍行。會靖康之亂，悟還蜀，間關走謁艸堂清公于疎山，一語頓明大法。紹興七年，泉守寶文劉子羽迎住延福院；丞相張公浚帥福唐，徙住壽山；尚書梁公汝嘉守四明，又挽居雪竇。于是公卿大夫想見風采，爭先邀迎，惟恐弗及。天台萬年寺在山谷窮處，其徒闢茸，有

司奏改為禪，率選名緇眾所信服者為領袖。師遂又徙萬年，間復一應長蘆，而歸萬年觀音院。浹日，示微疾，說偈入龕而逝，壽七十五也。師生於戚里，長於華屋，而性與道合，不假師授，一念幡然，超塵勞而臍覺岸，為世大知識，豈不謂豪傑歟？

法堂首座，開封人，丞相薛居正之裔。宣和七年，依長沙益陽華嚴元軾下髮，遍游叢林，于首楞嚴經深入義海。自湖湘至萬年，謁雲巢、雪巢，一師別號也。有契，命掌牋翰，後首眾報恩。室中唯一矮榻，餘無長物。一日，忽語人曰：一月後不復留此。至期，往方丈謁飯。將曉，書漁父詞於室門，就榻收足而逝。詞曰：此事楞嚴常露有，梅花雪月交光處。一笑寥寥空萬古，風颭語，迥然銀漢橫天宇。蝶夢南華方栩栩，班班誰跨豐干虎？而今忘却來時路，江山暮，天涯目送鴻飛去。

普交、有需二師傳

普交，慶元畢氏子。幼穎悟，未冠得度，往南屏聽台教。偶為人所窮詰，遂發憤改服游方。造泐潭乾公，足纔及門，公即呵之。擬問，公曳杖逐出。一日，忽呼師至丈室，曰：我有古人公案，要爾商量。擬進語，公隨喝之。師頓悟，乃大笑。公下禪床，執師手曰：汝會佛法耶？師喝而拓開，公大笑。于是名聞四馳。後歸桑梓，留天童，掩關却掃者八年。寺偶虛席，郡僚命師開法，恐其遁去，預遣吏候於道，不得辭。師說法簡要，凡見僧來，必叱曰：榔栗未擔時，為汝說了也。既而曰：且道說箇甚麼？又曰：何不休歇去？執拄杖逐之。其機敏如此。

有需者，生莆田陳氏，亦得法於乾公，隱何巖南湖，懇田自食，學者漸至，隨時開導之。部使者陳覺民聞其名，以禮延至福州鼓山，繼住雪峯，有二會語為時傳誦。師接物應緣，皆人所強，不得已就之，非所願也。後辭眾，結艸菴于石門，作歌見志，其詞曰：吾結艸菴蔡溪側，四顧峯巒皆峭壁，石門千仞鎖天津，來者欲登那措足？住此菴中是何緣？不詩不頌亦不禪，饑來苦菜和根煮，疊石為床困即眠。日照諸峯因驀驀，負暄孤坐情何適？馴伏珍禽趁不飛，猿猱捫我衣中虱。閑搓瘦節六七尺，山行野步扶危力，披雲入艸不辭勢，逢人打破脩行窟。或停松，或坐石，靜聽溪泉漱鳴玉，源深洞邃來不休，聲聲奏盡無生曲。雜羽流商誰辯的？五音六律徒敲擊，有時乘興上高峯，大笑狂歌天地窄。初，陳聘君易在京師謁乾公，問：乃鄉里尊宿，何人可親？公曰：子歸見需足矣。至是，與師偕隱石門，樂道終身焉。

五祖自老傳

表自，懷安人也。依五祖演和尚最久，未有省。時圓悟分座接納，師親炙焉。悟曰：公久於老師法席，何須來探水？脫有未至，舉我品評可也。師乃舉德山小參話，悟高喚曰：吾以不堪為公師，觀公如是，則有餘矣。遂令再舉。至今夜不答話處，悟驀以手掩師口曰：但恁麼看。師不勝憤，趨出，以坐具槭地曰：那裏有因緣，只教人看一句。于是朋輩競勉，未幾有省。悟私告五祖曰：渠只得一橛，大法未明在。須臾鍛鍊，必為法器。居無何，五祖宣言：請自立僧。實欲激其遠到。師聞之，深有所待。一日上堂，以目顧師曰：莫妄想。便下座。師氣不平，趨瑯琊啟公法社。久之，圓悟往撫存，遂于言下大徹，乃同歸。五祖方命立僧，圓悟即還蜀。演既委順郡守，以師繼席焉。拈香云：若為今成都昭覺勤禪師去，我於此時如得其髓，為何不為？他不見道：魚因水有，子由母親。自是衲子四至不可遏。師牓侍者門曰：東山有三句道得，即挂搭。衲子皆披靡。有一僧擔坐具，徑造丈室曰：某甲道不得，祇要挂搭。師大喜，呼維那於明牕下安排。師奇言妙旨，傳播諸方，諸方尊之曰自老。惜法嗣不昌，僅一龍華高，而道聲亦不振。或以圓悟於師有卵翼功，而師掩之所致云。

元禮首座普融知藏傳

元禮首座，閩人也，受業於焦山。初參演和尚於舒之太平，凡入室必謂曰：衲僧家明取緇素好。經二年始發明已見，詣方丈，演頷之。演遷，五祖以禮俱往，命分座，不就。時佛眼年方十七，有疑不能決，演曰：禮却會得。因就禮請教焉。後佛眼出世，禮尚無恙，聞其所舉，嘗曰：遠兄名不虛得。禮崇寧間復至五祖，或問：五祖遷他向何處去？禮云：有眼無耳朵，六月火邊坐。曰：意旨如何？禮云：家貧猶自可，路貧愁殺人。復有問：金剛經云：一切善法。如何是善法？禮起行曰：上是天，下是地，中間坐的坐，立的立，喚甚麼作善法？其機敏如此。終老于四明之瑞嚴。
禮同鄉普融者至五祖，祖舉倩女離魂話問之，有契，呈偈云：二女合為一媳婦，機輪截斷難回互，從來往返絕踪由，行人莫問來時路。後凡遇僧來謁，則操閩音誦俚語曰：書頭教娘勤作息，書尾教娘莫瞌睡，且道中間說甚？僧擬議，即推出。嘗掌藏鑰，諸方稱融智藏云。

真歇了禪師傳

清了，號真歇，蜀左綿安昌雍氏子。兒時抱入寺，見佛喜動顏色。十一歲，依聖果清俊道人出家。又七年，試法華得度。登講場，習經論，能會大意。尋棄而力禪，傲然挾拄杖以行。途次，道俗遮留，皆掉首不顧，曰：鵾鵬時節，可艸艸耶？出川，徑造丹霞淳禪師。霞問：如何是空劫已前自己？師擬進語，霞與一掌，師豁然開悟。翊日，霞為上堂，當眾詰其證詣，猶珠影隨，如谷響答，葢洞徹源底也。後游五臺，之京師，浮汴抵長蘆，謁祖照。祖照座下，龍象萬指，其中多英俊。師至，一語投機，延為侍者。未幾，舉首座分座說法，一眾大驚。宣和二年，照以病退院，法座無主。夜夢人告曰：代師者，蜀僧也。既寤，疑之曰：佛果耶？佛眼耶？竟虛席二年。及經制使陳公至，儗補處，乃首座也。即受請登座，為淳和尚燒香。照病中歎曰：夢固云爾，吾求之遠也。照遷化，師執喪盡禮。時江潮損田，秋虛無穫，眾遂絕糧。師躬行乞食，施者聞而風至，供億山積，不知所從。日撾鼓陞堂，誨人無倦，大扇宗風。建炎二年退院，絕錢塘，過梅岑，禮大士蹟。海濱漁戶七百餘家，聞師至，皆毀網棄所業，其化物如此。天台守三以國清致，不赴，而赴雪峯。既被旨遷明之育王，又遷溫之龍翔、興慶二院，乞就閑，不許。移住臨安徑山，留五年，病歸長蘆。慈寧太后還自金，建崇先顯孝寺于皐亭之麓，詔師為開山第一世，以疾辭，不可。辭遂入院，冒暑而行，患益甚，猶陞座說法。太后親臨，垂箔傾聽，出內帑修水陸大會。師疾弗瘳，中使絡繹候問，師從容稱謝。須臾，呼首座曰：吾今行矣。于是瞑目跏趺而逝。慈寧宮降香賜祭，卜寺西桃花塢，建塔以瘞全身。送者萬人，痛心隕涕，皆有祖花彫零，禪林寒瘁之歎。敕謚悟空禪師靜照之塔。師儀相頎長，眉目疎秀，神宇靜深，量容機活。道無前而遜無後，有無外而虛無中，故人從其化，不自知也。珪竹菴初住雁宕，能仁法緣未熟，師時在江心，特過江迎歸方丈，大展九拜，以誘溫人，由是翕然歸敬。任大法，不以門戶封溝，誠為祖域英標，僧林傑出也。

明河曰：真歇拜竹菴，與照覺迎羅漢，但知弘道，不知為我。古人道德忠厚之至，此風絕響矣。

法恭傳(自得暉)

法恭，自號石牕叟，奉化林氏子。其母感胡僧入夢而生，落髮受具戒，習南山律於湖心寺。聞天童宏智名，往從問道。兄事暉自得，晝夕危坐。一日坐殿廡間，偶聞僧語，入耳清徹，豁然開悟，流汗浹體。宏智詰以所得非謬，命居侍職。既而遍參諸識，見閑萬年。萬年試為問，師掩耳出艸堂，清公不許蹔到。入室，師直造前，奪

拂子擲地上而出，一眾駭異。黃龍忠置界方槌拂于香案上，勘驗學者。師謂其侍者曰：和尚此一絡索作何用？少頃，一一拈起，問：過一機不來，莫言不道。侍者白忠，乃撤去。三年復歸天童，主藏鑰，為第一座，分座說法。宏智所舉宗要，師不為苟合，智愛而畏之。紹興二十三年，光孝虛席，越帥移書宏智，求一本色人補處，智以師應命。會應天塔壞，或請捨去，師曰：非我尚誰為耶？塔成始行，遷能仁。隆興改元，侍郎趙公守四明，迎主報恩。虜燼之餘，前人興造所未備者，皆成之。軒敞宏大，遂為一城蘭若之冠。乾道六年，退居小溪之彰聖。明年，榮陽郡王起住瑞岩，闢舍宇以安眾，開山田以足食，建傑閣奉圓通大士，輪奐甚美。大參范公請移雪竇，自得暉歸自淨慈，遂以雪竇還之，復居瑞岩。淳熙八年八月，示微疾，戒弟子：毋以藥石累我，我將行矣。以書招自得來，相見如平時，付以後事。作書遺別諸士大夫并常往來者。遲明升座，說偈而逝，壽八十，臘五十九。師天姿挺特，持律甚嚴。累主大剎，起居寢食率與眾共，不務緣飾，無他嗜好。峭直骨鯁，不借人以辭色。有道者力加提引，慧而狂者必叱之。臨安淨慈空席力請，乃航海以避命。皇子魏王作牧，每加禮敬，欲訪師山間，辭曰：路遠而險，徒勞耳。葢其嚴冷類此。

慧暉，字自得，會稽張氏子。甫二十，叩真歇於長蘆，微有所證。旋里謁宏智，智舉當明中有暗，不以暗相遇；當暗中有明，不以明相覩問之，語不契。初夜坐起，往聖僧前燒香，而宏智適至，忽見頓明前話。次日入室，智可之，許為室中真子。紹興丁巳，開法普陀，徙萬壽及吉祥雪竇。淳熙三年，補淨慈。七年，退歸雪竇而化。丞相魏公嘗曰：自得如深雲中片石，石牖則空門御史也。諸方以為名言。

德朋禪師傳(附守璋)

德朋，鹽官顧氏子。初為邑名僧守璋弟子，服勤數載，以紹興十八年入徑山禮真歇了禪師。夜宿山下，歇夢雙月入寺，詰朝舉以白眾。適師至，歇心異之，相與問答，機鋒峻密，若久于參請者。遂入室，朝夕體究，凡四經寒暑。一日，因觀為溜，以杵通竹節有聲，豁然開悟，歇可之，諸方號為竹筒和尚。及歇被旨住皐亭崇先顯孝，師侍往。歇既化，遂奉旨繼宣法化，時二十三年也。自是前後兩詔入慈寧殿，陞座說法，大悅聖心，賜法衣，歲給牒度徒一人給侍。師以璋年老無養，請謝院事歸省，許之。未兩年，復得旨住崇先。乾道三年，無疾而逝。有澹堂竹筒語錄行世。

璋，姓王氏。天資介特，七歲試經得度。戒行精潔，工于詩，號文慧禪師。有柿園集。嘗作晚春句曰：艸深煙景重，林茂夕陽微。不雨花猶落，無風絮自飛。紹興二年，高宗幸圓覺寺，親灑宸翰，書此一絕云。

補續高僧傳卷第九

補續高僧傳卷第十

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

宋　瞎堂遠禪師傳

慧遠，號瞎堂，眉山金流鎮彭氏子。年十三，隸藥師院為僧，聽習經論。棄而依靈巖徽公，微有省發。會圓悟領昭覺，師即之聞。舉龐居士問馬祖不與萬法為侶因緣，師大悟，仆於眾。眾掖之，師乃曰：吾夢覺矣。自是機鋒峻發，眾目為鐵舌遠。圓悟順寂，師東下，屢遷名剎。繇虎丘奉詔住皐亭、崇光。時孝宗留心空宗，召師入對選德殿。或入內觀堂見，必延坐進茶，稱師而不名，禮數視諸師有加。上曰：前日睡中，忽聞鐘聲，遂覺。未知夢與覺如何？師曰：夢覺無殊，覺心不動。上曰：夢幻既非，且鐘聲從何處起？師曰：從陛下問處起。上曰：然則畢竟如何免得生死？師曰：不悟大乘，終不能免。曰：如何得悟？師曰：本有之性，磨之歲月，自然得悟。曰：悟後如何？師曰：悟後始知今日問答皆非。曰：一切處不是後如何？師曰：脫體現前，更無可見之相。上首肯之，賜號佛海禪師。一日，車駕幸其室，室掛行道影，上指問師曰：此是水墨空塵，而真者安在？師叉手近前曰：春氣和暖，恭惟聖躬萬福。上大笑，因書贊焉。師一身繫法門之望，奇言妙句傳播諸方，學者雲奔川委，視師所在為歸，正如一佛出世。乙未秋，示眾曰：淳熙二年閏季秋九月旦，鬧處莫出頭，冷地着眼看。明暗不相干，彼此分一半。一種作貴人，教誰賣柴炭？向汝道：不可毀，不可讚，體若虛空沒涯岸。相喚相呼歸去來，上元定是正月半。都下喧傳而疑之。至期，諸王卿相皆至，師陞座說法，遂入方丈扃閉。師舊蓄一猿，頗馴狎，因衣之，命曰猿行者。久之，眾窺窓隙，聲息並無，惟見猿持卷侍側。亟入，師已逝矣。猿書，乃辭世偈也。偈曰：拗折秤鎚，掀翻露布。突出機光，鵝飛不度。留七日，顏色不變。塔全身於寺之烏峯。

何山珣禪師傳(附智才)

守珣，號佛燈，安吉施氏子。初參廣鑑瑛禪師不契，遂造太平，隨眾咨請，邈無所入。乃封衾自誓曰：不徹不展此。於是岌立宵晝，如喪考妣。逾七七日，忽佛鑑上堂曰：森羅及萬象，一法之所印。

師聞頓悟。鑑曰：可惜一顆明珠，被這風顛漢拾得也。因舉靈雲悟桃語詰之，了無疑滯。拜起呈偈曰：終日看天不舉頭，桃花爛熳始擡眸。饒君更有遮天網，透得牢關即便休。入眾厲聲曰：這回珣上座穩睡去也。圓悟聞之，疑其未然，乃曰：須我勘過始得。令人召至，拉與游山。偶到一水潭，忽推師入水，遽問曰：牛頭未見四祖時如何？隨聲應曰：潭深魚聚。曰：見後如何？曰：樹高招風。曰：見與未見時如何？曰：伸脚在縮脚裏。悟大稱賞之。師出世，凡四坐道場，聲光赫奕。後歿于天寧。將化，謂雙槐居士鄭績曰：十月八日是佛鑑先師忌辰，吾將至矣，乞還鄞南。四日，鄭公遣弟僧道如訊之，師曰：汝來正其時也。吾雖與佛鑑同條生，不與同條死。明早為我覓一隻小船子來，高五尺足矣。越三日，鷄鳴，端坐如平時。侍者請偈，師曰：不曾作得。言訖而逝。火浴，舌根不壞。郡人陳師顏寶函藏於家，痊骨於普應院之側。師法貌清整，舉揚宗旨，綽有祖父之風。有時謂眾曰：兄弟如有省悟處，不拘時節，請來露個消息。忽雪夜，一僧叩方丈門，師喚入，震威喝曰：雪深夜半，求訣疑情，何為威儀不具？僧顧眎衣裓，師喝出。機鋒嚴峻類如此。其住何山也？因歲旱，郡守請禱於師，師勉從，為升座，怒目瞪天，罵曰：阿誰教爾強為天雨？應聲而至，人呼為珣罵天。

智才，舒州人，與師同姓同門，亦高行衲子。住嶽麓，遷龍牙三十年，以清苦蒞眾，為人所歸，終於雲溪。

元布衲傳

景元，號此庵，永嘉楠溪張氏子。年十八，依靈希拱圓具。後習台教，棄謁圓悟於鐘阜。因僧讀死心小參語云：既迷須得個悟，既悟須識悟中迷。迷中悟，迷悟雙忘，却從無迷悟處建立一切法。師聞而疑，即趨佛殿，以手托開門扉，豁然大徹。既而執侍，機辨逸發。圓悟操蜀音，目為聱頭侍者，遂自題肖像付之曰：生平只說聱頭禪，撞著聱頭如銕壁。脫却羅籠截脚跟，大地撮來墨漆黑。晚年轉復沒刁刀，奮金剛椎碎窠窟。他時要識圓悟面，一為渠儂併拈出。圓悟歸蜀，師還浙東，鏟彩埋光，不求聞達。括蒼守耿公延禧嘗問道於圓悟，因閱其語錄，至像贊，得師之為人，乃致開法南明山，遣使物色。至台之報恩，獲於眾寮，迫其受命。方丈古公乃靈源高弟，聞其提唱，亦深駭異。住南明幾二年，厭迎送。一日示眾，舉感銕面頌畢，師曰：是則是，忒殺露風骨。吾有頌曰：休休休，夕陽西去水東流。唯有仰高雲勢遠，摶風九萬過南州。將化，

召應庵華　與訣，示訓如常時，俄握拳而逝。茶毗得五色舍利，齒舌右拳無少損。塔於劉阮洞前，年五十三。

月堂昌禪傳

道昌，號月堂，湖州寶溪吳氏子。得法于雪峰慧和尚。所至以行道為己任，不發化主，不事登謁。每歲食指，隨常住所得用之。衲子有志充化導者，多却之。有以佛令比丘持鉢資養為言者，師曰：我佛在日猶可，恐今為之，必有好利者而至於自鬻也。徑山、淨慈、育王，皆師說法處，而曲高和寡，法嗣無聞。或謂：和尚行道經年，門下未聞有弟子，得不辜妙湛乎？師不對。他日再言之，師曰：子不聞昔人種瓜而愛甚者，盛夏之日方中而灌之，瓜不旋踵而淤敗。何也？其愛之非不勤，然灌之不以時，適所以敗之也。諸方老宿提挈衲子，不觀其道業內充，才器宏遠，止欲速其為人。逮審其道德則淫汙，察其言行則乖戾，謂其公正則邪佞，得非愛之過其分乎？是正猶日中之灌瓜。予深恐識者笑，故不為也。後有同鄉僧名悟者，稱得師道，住杭之五雲山，略展規模，然亦終不振。師每念叢林下衰，綱紀大壞，皆繇為師者不統之以道，故使在下者得以非義乘之。玩習既久，遂謂當然，不知其悖。故師行事發言，終其身不妄。蓋於時事深感于中，為後學法有不得不然者耳。名聞于朝，賜號曰佛行。後無疾而化。

世奇首座傳

世奇首座，成都人也。遍依師席，造龍門燕坐，瞌睡間群蛙忽鳴，誤聽為淨髮板聲，亟趨往，有曉之者曰：蛙鳴非板也。奇恍然，詣丈室剖露，佛眼曰：豈不見羅睺羅？奇遽止曰：和尚不必舉，待去自看。未幾有省，乃占 偈曰：夢中聞板響，覺後蝦蟆啼，蝦蟆與扳響，山嶽一時齊。繇是益加參究，洞臻玄奧。佛眼屢舉分座，奇固辭曰：此非細事也，如金鎞刮膜，脫有差則破睛矣。願生生居學地而自煅煉。佛眼美以偈曰：有道只因頻退步，謙和元自慣回光，不知已在青雲上，猶更將身入眾藏。其謙抑自守如此。暮年，學者力請，不容辭，說偈曰：諸法空故我心空，我心空故諸法同，諸法我心無別體，祇在而今一念中。且道是那一念？眾罔措，喝一喝而終。

雪堂行傳

道行。號雪堂，處州葉氏子，依泗州普炤英公得度。既參佛眼，一日聞舉玄沙築着脚指話，遂大悟。出世住南明薦福烏巨，所至道聲弘宣、龍象景附，極一時法道之尊，時稱龍門法幢、高庵雪堂禪，不至二老之門則非禪也。師慈仁忠恕、尊賢敬能，戲笑俚言罕出于口，無峻阻、不暴怒，至於去就之際極為介潔。住烏巨時，衲子有獻銕鏡者，師曰：溪流清泚，毛髮可鑑，蓄此何為？謝却之。應庵住明果，師未嘗一日不過從，間有竊議者，師曰：華姪為人難得，予因重之，數往何傷？師雖見道龍門，而持身行事之間實得之家教，嘗謂弟子云：予弱冠之年見獨居士，言中無主不立、外不正不行，此語宜終身踐之，聖賢事業備矣。予佩其語，在家修行、出家學道，以至率身臨眾，如衡石之定重輕、規矩之成方圓，捨此則事事失準矣。一日示疾，門弟子教授汪喬年至省候，以後事委之，示以偈曰：識則識自本心，見則見自本性，識得本心本性，正是宗門大病。注曰：爛泥中有刺，莫道不疑好。黎明，沐浴更服，跏趺而逝。闍維，五色舍利煙所至處纍然，齒舌不壞，瘞而奉之。

文殊導傳(附知昺)

正導生徐氏，年三十得度。詣成都習唯識，自以為至。同舍詰之曰：三界唯心，萬法唯識。今目前萬象摐然，心識安在？師茫然不知對。遂出關，周流江淮，抵舒之太平。聞佛鑿夜參，舉趙州栢樹子話，至覺銕嘴云：先師無此語，莫謗先師好。因大疑。提撕既久，一夕豁然，即趨丈室儗敘所悟。鑑見來便閉門，師曰：和尚莫謾某甲。鑑云：十方無壁落，何不入門來？師以拳擉破窻紙，鑑即開門搦住云：道！道！師以兩手捧鑑頭，作口啐而出。遂呈偈，鑑深然之。每對客稱賞，命分座接納。襄守請開法天寧，未幾擢大別之文殊。適宣和詔下，改僧為德士。師上堂曰：祖意西來事，今朝特地新。昔為比丘相，今作老君形。鶴氅披銀褐，頭包蕉葉巾。林泉無事客，兩度受君恩。所以道：欲識佛性義，當觀時節因緣。且道即今是甚麼時節？毗盧遮那頂戴寶冠，為顯真中有俗；文殊老叟身披鶴氅，且要俛順時宜。一人既爾，眾人亦然。大家成立叢林，喜得群仙聚會。共酌迷仙酎，同唱步虛詞。或看靈寶度人經，或說長生不死藥。琴彈月下，指端發太古之音；碁布軒前，妙著出神機之外。進一步便到大羅天上，退一步却入九幽城中。秖如不進不退一句又作麼生道？直饒羽化三清路，終是輪迴一幻身。二年九月，復僧上堂曰：不掛田衣著羽衣，老君形相頗相宜。一年半內閑思想，大底興衰各有時。我佛如來預讖法之有難，教中明載，無不委知。較量年代，正在于茲。魔得其便，惑亂正宗。僧改俗形，佛更

名字。妄生邪解，刪削經文。鐃鈸停音，鉢盂添足。多般矯詐，欺罔聖君。賴我皇帝陛下聖德聖明，不忘付囑，不廢其教。特賜宸章，頒行天下。仍許僧尼重新披削。實謂寒灰再燄，枯木重[廾/宋]。不離俗形而作僧形，不出魔界而入佛界。重鳴法鼓，再整頹綱。迷仙酎變為甘露瓊漿，步虛詞翻作還鄉曲子。放下銀木簡，拈起尼師壇。昨朝稽首擎拳，今日和南不審。祇改舊時相，不改舊時人。敢問大眾，舊時人是一個是兩個？良久曰：秋風也解嫌狼籍，吹盡當年道教灰。建炎三年春，示眾舉臨濟入滅因緣。師曰：正法眼藏瞎驢滅，臨濟何曾有是說。今古之人皆妄傳，不信但看後三月。至閏三月，鍾相叛於澧陽。賊勢既盛，弟子欲舉師南奔。師不可曰：學道所以了生死，何避之有？賊至，師曰：速見殺以快汝心。賊舉槊殘之，血皆白乳。賊駭，引席覆之而去。張無垢跋其法語曰：夫愛生惡死，人之常情。惟至人悟其本不生，雖生而無所愛。達其未嘗滅，雖死而無所畏。故能臨死生禍患之際，而不移其所守。師其人乎？以師道德節義，足以教化叢林，垂範後世。師名正導，眉州丹稜人。

南華有曰知昺者，亦見佛鑑。初行脚，離鄉未久，聞受業。一夕，遺火悉為煨燼。昺得書，擲之於地，乃曰：徒亂人意耳。為人嚴冷，諸方謂之昺銕面云。

虎丘隆禪師傳

紹隆，和州含山人。九歲，謝父母去家，依縣之佛慧院。又六歲，削髮受具。又五歲，而束包曳杖，飄然有四方之志。首謁長蘆淨炤禪師，參叩之間，景響有得。因閱圓悟語錄，撫卷歎曰：想酢生液，雖未能澆腹沃胃，要且使人慶快，第恨未親聆謦欬耳。至寶峯，謁湛堂，叩死心於黃龍。死心機鋒橫出，諸方吞燄，非上上根莫能當，而於師獨器重稱賞，眾皆側目。將趨夾山，見圓悟，道龍牙，遇泐潭乾公之法子密公，相與甚厚。每研推古今，至投合處，抵掌軒渠，或若佯狂，議者謂今之溈仰寒拾也。及見圓悟，圓悟移道林，師從焉。一日入室，圓悟引教云：見見之時，見非是見，見猶離見，見不能及。舉拳曰：還見麼？曰：見。圓悟曰：頭上安頭。師於此有省。圓悟叱曰：見個甚麼？曰：竹密不妨流水過。圓悟肯之。自是與圓悟形影上下又二十年，斧搜鑿索，盡得其秘。或疑師道貌甚憔，問圓悟曰：隆藏主柔易若此，何能為哉？圓悟曰：瞌睡虎耳。後歸邑，住城西開聖。建炎之擾，盜起淮上，乃南渡，結廬銅峰之下。適彰教虗席，郡守李尚書光延師居之，四年而遷虎丘。時圓悟以亂離歸蜀，曩之輻湊川奔，一時後進望山而趨。師每

登座，從實吐露，一味平等，隨根所應，皆愜其欲。故圓悟之道，復大振於東南。居三年，感微疾，白眾曰：當以第一座宗達承院事。大書伽陀曰：無法可說，是名說法。所以佛法無有剩語。珍重！擲筆坐逝。紹興六年丙辰五月也。住世六十，坐四十五夏。塔全身于山之陽。

曹洞氏之老秀公鎮虎丘明年，始以官命并西庵墟之，徙其棟瓦椽桷，完寺壞屋。於是虎丘隆禪師之塔破而復新，藩級崇宏，奧閾冥深，戶容庭貌，煒煥赫奕，觀瞻聳悅，如教復振。論者多秀公之義，頌聲不期而作焉。惟禪師之道，於臨濟氏為正胤的受。當教統之季，群宗遺支微絕不嗣，獨禪師眾胄曼衍天下，百年之間，以道德表茲山居。禪師之居者，父子弟昆後先之踵相接也。然皆熟視其祖，凜然欲壓于頹簷仆壁之下，莫肯引手持一瓦一木扶其風雨寒暑。而秀公異氏也，獨知尊教基，飭祠宇，致孝乎非己之祖，豈惟善善之公足以滅黨私而矯薄俗？彼為人後而遺其先者，視公之為宜何如也？明河曰：師見圓悟後，以二親垂白，居褒禪山，侍養者數年。住虎丘，追憶白雲端立祖堂故事，乃曰：為人之後，不能躬行遺訓，於義安乎？遂圖像奉安之。此二事，一載山誌，一出傳燈。見師隆本之厚，因讀天隱修塔文，深感於中，何後嗣之不然也？故附其文於傳末，示戒將來。且知秀公有作用人，恨無從考始末，可惜！

育王裕禪師傳(附水庵)

端裕，出錢氏，吳越王裔也。六世祖守會稽，因家焉。師生而秀異，十四駈烏於大善寺，十八得度受具。往依淨慈一禪師，聞僧擊露柱，曰：爾何不說禪？師忽微省。歷謁龍門遠、甘露卓、泐潭祥，皆以穎邁見推。晚見圓悟於鍾阜，一日悟問：誰知正法眼藏向者瞎驢邊滅却，且道即今是滅不滅？對曰：請和尚合取口好。悟曰：此猶未出常情。師儗對，悟擊之，師頓去所滯。侍悟居天寧，命掌記室，尋分座，道聲藹著。出世屢住大道場，如丹霞、虎丘、萬壽、保寧及閩中玄沙、壽山、西禪、平江，道俗請庵於西華，有終焉之志。俄被旨補靈隱，慈寧皇太后請說法，賜金襴衣師號，乞歸西華，未許，且下育王之命。師蒞眾，色必凜然，寢食不背眾，唱道無倦。將化，弟子請遺訓，師曰：盡此心意，以道相資。語絕而逝。火後目睛齒舌不壞，其地發光，終夕得舍利者無數，踰月不絕。黃冠羅肇常平日問道於師，適外歸，獨無所獲。道念勤切，方與客食，咀噍間若有物，吐哺則舍利也，大如菽，色若琥珀。好事

者持去，遂再拜於闍維所，聞香匳有聲，亟開，所獲如前而差紅潤。門人奉遺骨于鄭峯西華，謚大悟禪師。

師一號水庵，師得法弟子也。師住持衲子務齊整，唯水庵賦性冲澹，奉身至薄，昂然在稠人中，曾不屑慮，師亦不甚強之。師沒，水庵道大弘，經歷四郡，住持八院，所至兢兢業業，以行道建立為心。淳熙五年，退西湖淨慈，有偈云：六年灑掃皇都寺，瓦礫飜成釋梵宮。今日功成歸去也，杖頭八面起清風。士庶遮留不止，終於秀之天寧。

東陽縣志云：水庵馬姓，十六出家，從法雲善遵為師受具。過錢塘昭慶，遇異人相之曰：此僧中龍也。笠雪鞋花，歷參禪宿。乾道七年，自寶林住淨慈九年。浴佛日，入內觀堂，投老嘉禾報恩，為終焉計。未幾示疾，作書別郡官，端坐而逝。荼毗得五色舍利，齒拳不壞。辭世偈曰：平生要用便用，死蛇偏解活弄。一拳打破虛空，佛祖難窺罅縫。有語錄若干卷，大司成高文虎序之。

祖珍傳

祖珍，興化林氏子。母陳氏，夢胡僧遺以明珠，因問：僧從何來？應曰：余姓黃，名涅槃。覺而有娠，生具奇相，通身毛長二寸。詐嘗詣鼓山謁鑒淳禪師，一見而奇之，曰：此金毛獅子，真法器也。偶出化，僧供至黃石。有朱姓者，夜夢黃涅槃登門，遲明，乃師至。朱大喜，施錢五百緡，禮而還之。尋參佛心禪師於東山，佛心移鼓嶠，請師作首座。眾皆驚愕相顧，曰：珍獅子平日不會開口，縱胸中有佛法，如何舉揚？是夜，首座秉拂，隨機應答，叩擊不窮，自是禪譽大播。佛心去，遂嗣位焉。又遷泉之法石，示眾曰：尋牛須訪跡，學道貴無心。跡在牛還在，無心道易尋。豎起拂子，曰：這個是跡，牛在甚麼處？又云：若論此事，如人喫飯，飽則便休；若也不飽，必有思食之心；若也過飽，又有傷心之患。到此如何得恰好去？良久，云：且歸巖下宿，同看月明時。師開示語，切實警醒，淺機劣解，鮮能遘副。師平生廉省，竭盡囊底，造七佛石塔於法石三門之外。畢工之日，即升堂別眾而去，隱於夾嶺之白水巖。巖傍居者皆曰：昔有道者嘗言：四十年後，當有肉身菩薩來興此山。師來適四十年，相與出力一新。巖居漕使傳自得游于禪，獨加敬於師，嘗曰：法石和尚，今之古佛，不可不皈依也。將化，說偈曰：生本無生，死本無死。生死二途，了無彼此。荼毗舍利不可勝數，人爭取之，其餘瘞于法石。傳銘其塔石，且序其語錄行之。

明河曰：唐末有沙門文矩，一名涅槃，姓黃，隱囊山高巖下，趺坐不食，行則二虎隨之，或騎之出入，出言成讖，後無不驗。或云辟支佛應身也，故其所居曰辟支巖。巖有小竅，時透異香，其異跡甚多，不可枚舉，閩人皆能言之。

了璨傳

了璨，泉南羅氏子。入蔣山懃公之室，得大知見，發無碍辯。住漳州淨眾，遷太平興國，學士宗之。師持身律己，人無間然。說法蹊徑，勁捷朗達，直躋上乘。作字吟詩，皆得游戲三昧，而師未嘗措意也。重九日，為眾上堂云：重陽九日菊花新，一句明明亘古今。楊廣輦駝無覓處，夜來足跡在松陰。大丞相李公嘗訪師于棲雲，問道愜心，與結看經社。門人集師語成書，栟櫚居士鄧肅敘之曰：大平堂頭璨公從，蔣山何嘗得兔角？住太平，本自亡立錐。據師子座，作師子吼，未嘗為人世說毫釐法。四方學者皆腦門點地，拾其殘膏而襲藏之。嘻！此特其土苴耳，豈其真哉？雖然，土苴之外，何者為真？一視而空，頭頭皆是。有語亦可，無語亦可。雷聲淵嘿，本自同時。門人弟子若因此以有悟，則謦欬動息皆西來意；若守此以求師，則拈花微笑已是剩法。悟之者，天地一指；守之者，毫釐千里。反以問師，了無語焉。嗚呼！師豈止具眼看經而已耶？

智鑒傳

智鑒，滁之全椒人，生吳氏。自兒時已喜佛書，每以白紙為經，跏趺端坐誦之，聲琅琅動人。母嘗與洗手瘍，戲問：是甚麼手？對曰：佛手。視母大笑。俄二親俱喪，依長蘆真歇了出家，厲精脇不至席者數年。時大休珏公為首座，指為法器，從道法師領戒入象山之鄭行山，縛茆而居。山當海岸孤絕處，多妖怪，師吊影其間，百怪不能惑。地高無水，禱曰：吾辦道來此，神其惠我泉。因鋤小坎，移時而水溢。食不繼，啖松栢以療飢。嘗深夜打坐，聞庵後巖石震響如鬬擊，旦起視之，有巨石飛墜，越庵而立於門，並庵大木無不摧拉，而庵獨無恙。一日，有巨蟒入庵，矯首怒視。越數日，復旋繞於牀，師不顧而去。變怪百出，師舉不為動，徐亦帖然。一夕，深定中豁然開悟，身心世界洞如琉璃，自念云：威音王已前無師自證，威音王已後無師自證者，皆天魔外道。遂下山見延壽然曰：日來肚大無物可餐，庵小無床可臥，若能與食，展庵則住，不然則去。然與師反覆問答，不能屈，因叩其所得，呈一頌，然喜曰：鑒公徹也。復航海見大休於岳林，試其機辯無碍，歎曰：佛祖

不奈爾何！因為行乞，擔二布囊，隨得即受，備歷艱勤，人所不堪。翠山宗白頭謂師曰：為眾竭力，不無其勞。師云：須知有不勞者。宗曰：尊貴位中收不得時如何？師云：觸處相逢不相識。宗曰：猶是途中賓主，如何是主中主？師云：丙丁吹滅火。宗以手掩師口，師拂其袖。宗遷雪竇，挽師偕行，荷負眾事。時法堂新飾，命師普說，宗竊聽，歎曰：吾生有耳，未嘗聞也。出世為大休燒香，前後六坐道場，皆王公大人推引。紹熙二年謝事，止于雪竇之東庵。明年七月示恙，戒弟子曰：吾行矣，送終須務簡約，勿素服哀慟。言訖而逝。閱世八十八，坐夏五十三，塔全身于山之左。師天資朴厚，見地穩密，操履苦硬，至死不少變。具大辯才，浩瀚無際，叩之滾滾無倦。受施山積，悉為公費，故六主廢剎積逋動數千緡，不過期月而百務一新。目其所榻，則丈室蕭然懸磬也。加以精誠所感，禱雨暘，救疾苦，其應如響。神祠烹宰，輒為易以素饌，有藏其鬚髮而得舍利者。此皆世俗所創見，師不欲人言之，以為非此道之極致，使其有之，皆亦師之餘也。師道聲震海內，而跡曾不越四明之境，故自號足庵云。

佛慧泉禪師傳

法泉，隨州時氏子。住持蔣山寺，經營辛苦，以成就叢林。與蘇東坡為方外友。坡舟行至金陵，阻風江滸，師迎之至寺。坡云：如何是智海之燈？師隨以偈答之曰：指出明明是甚麼？舉頭鷂子新羅過。從來這碗最稀奇，會問燈人能幾箇？坡欣然以詩答之：今日江頭天色惡，砲車雲起風欲作。獨望鍾山喚寶公，林間白塔如孤鶴。寶公骨冷嗔不聞，却有老泉來喚人。電眸虎齒霹靂舌，為予吹散千峯雲。南來萬里亦何事？一酌曹溪知水味。他年若畫蔣山圖，仍作泉公喚居士。師住衢之南禪，趙清獻公抃日親之，師未嘗容措一詞。後典青州，宴坐聞雷而悟。臨薨，遺師書曰：非師平日警誨，至此必不得力矣。師悼以偈曰：仕也邦為瑞，歸歟世作程。人間金粟去，天上玉樓成。慧劍無纖缺，水壺徹底清。春風潑水路，孤月照雲明。師晚年奉詔住大相國智海禪寺，因問眾曰：赴智海，留蔣山，去就孰是？眾皆無對。師索筆書偈云：心是心非徒儗議，得皮得髓謾商量。臨行珍重諸禪侶，門外千山正夕陽。書畢而逝。

法清、法因傳

法清，嚴陵人也。貌頎碩而言清亮，多見耆宿。所至嘿嘿，不衒耀知見，觸之則發，人無識之者。嘗於池之天寧，以伽梨蒙首而坐。

適侍郎曾開入寺，見而問曰：上座仙鄉何處？曰：嚴州。曰：與此間是同是別？師拽伽梨下地，揖曰：官人曾到嚴州否？曾罔措。師曰：待官人到嚴州時，却向官人道。既而游徑山，佛日請為座元。師辭曰：一千七百大眾皆是英傑，安敢行立其前耶？堅不允。佛日曰：只如舉一不得舉二，放過一著落在第二，意作麼生？師曰：惺惺底惺惺，懵懂底懵懂。佛日曰：如何做徑山首座不得？遂與眾送歸寮。後開法隆興之九仙，嗣慧日雅和尚。雅和尚復有嗣曰法因者，平江人。年二十四進具，游方見雅于東林，詰以靈雲見桃因緣。儗對，雅搖手曰：不是，不是。忽有省，呈偈曰：巖上桃花開，花從何處來？靈雲才一見，回首舞三臺。雅曰：子所見雖已入微，更著鞭當明大法。遂承教。居盧阜三十年，不與世接，叢林尊之曰庵主。建炎中盜起，順流東歸。邑人結庵奉之，問道者繼踵。嘗謂眾曰：汝等飽持定力，無憂晨炊而事干求也。晚年放浪自若，稱五松散人。

道寧傳

道寧，歙溪汪氏子。壯為道者，於崇果寺執浴。一日將濯足，偶誦金剛經，至於此章句能生信心，以此為實，遂忘所知。忽垂足沸湯中，發明己見。後祝髮蔣山，徧歷叢林，參諸名宿。晚至白蓮，聞五祖演禪師小參，舉忠國師古佛淨瓶、趙州狗子無佛性話，頓徹法源。大觀中，潭帥席公震請主開福，衲子景從。師行門卓立，名實相副，說法無蹊徑，簡要直捷，使聞者人人自得，有古尊宿之風。政和三年將化，示眾曰：吾紫磨之身，今日即有，明日即無。若道吾入涅槃，非吾弟子；道吾不入涅槃，亦非吾弟子。於此檢點得出，便知開福落處。其或未然，開福與麼來，滿世無相識。水月與空華，誰堅復誰實？住院經五年，都盧如頃刻。瑞雲散盡春風生，失却文殊遇彌勒。言畢而逝。

守惠傳(布衲、効常)

守惠，興化陳氏子，七佛旻禪師之高足也。住江州圓通院，遷潭之大溈山。師行門精密，于物無忤。法輪所至，龍象傾赴。政和中，前後三入內廷說法。徽宗聞之，喜動顏色，賜六字師號曰冲虛密印通慧。法門焜燿，極當時之盛。故陳瑩中作旻禪師語錄序，獨云慧禪師能世其學，而不及其他也。

有布衲者，將住台之天寧，辭師以行。師謂之曰：至人應世，妙契圓常，廣真炤而不與物忤，發靈機而頓起事外，高低普應，動靜自

全，對之不知其所來，隨之罔測其所往。觀師所云，則布衲之為人，概可見矣。
師又有族子曰効常者，侍師最久，待人接物，笑容滿面，衲子雲從，目為常歡喜。太尉劉綺特敬之，書尺往復，呼為歡喜禪師。受安撫霍蠡請，自公安三聖移住大溈，說法一本於師，從其道者甚眾。或云布衲乃師之弟，觀其提耳之言，頗有家庭之意。師於中秋夜示眾云：山僧生來百拙，開口都無一說。今夜指空畫空，咲倒清風明月。遂告寂數日，神色不變，凜然如生。

別峰印禪師傳(附慧綽)

別峰禪師名寶印，字坦叔，生為龍游李氏子，世居峨嵋之麓。少而奇警，然不喜在家，乃從德山院清遠道人得度。自成童時，已博通六經及百家之說，至是復從華嚴、起信諸名宿窮源探賾，不高出同學不止。時密印禪師民公說法於中峰道場，乃挈一笠往從之。一日，密印舉僧問巖頭：起滅不停時如何？頭叱曰：是誰起滅？師豁然大悟，自是鋒不可觸，密印恨相得之晚。會圓悟自南歸成都，昭覺乃遣師往省，因隨眾入室。圓悟舉從上諸聖以何法接人，師舉起拳，圓悟曰：此是老僧用者，孰為從上諸聖用者？師即揮拳，圓悟亦舉拳，相交大笑而罷。圓悟歎異之，曰：是子他日必類我。師留昭覺三年，密印猶在，中峰以堂中第一座致師，師辭，密印大怒曰：我以法得人，人不我傳，尚何以說法為？欲棄眾去。眾皇恐，亟趨昭覺，羅拜懇請，圓悟亦助之請，始行。道望日隆，學者爭歸之，雖圓悟、密印不能揜也。久之南游，歷見諸大禪老，最後扣妙喜於徑山，為師獨掃一室，堂中皆大驚。妙喜南遷，師亦西歸，始住臨邛鳳皇山，舉香嗣密印。道既盛行，築都不會庵，松竹幽邃。暇日名勝畢集，聞師一言，皆自謂意消。稍或間濶，輒相語曰：吾輩鄙吝萌矣。其道德服人如此。俄復下硤，挾金陵應庵華方住蔣山，館師於上方，白留守張公燾，舉以代己。師聞，即日發去。會陳丞相俊卿來為金陵，以保寧延師，俄徙京口金山，學者傾諸方。金山自兵亂後，雖屢葺莫能成，至是始復大興，如承平時而有加焉。異時居此山，鮮踰三年者，師獨安坐。十五夏，魏惠憲王牧四明虛雪竇，來請住四年，樂其山林，有終老之意，而名益重。被勅住徑山，淳熙七年五月也。七月至行在所，壽皇降中使召入禁中，以老病足蹇，賜肩輿於東華門內，賜食於觀堂，引對於選德殿，賜坐，勞問良渥。師目舉古宿云：透得見聞覺知，受用見聞覺知，不墮見聞覺知。上悅，畢其說，乃退。後十餘日，又命開堂於靈隱山中，使齎賜御香，恩禮備至。十年二月，上製圓覺經註，遣使馳

賜，且命作序。師老，益厭住持事。門人懼其遠游不返，相與築庵於山北，俟其歸。光宗在東宮，書別峰二大字榜之。十五年冬，奏乞養疾於別峰，得請。明年，光宗受內禪，取向取賜宸翰，識以御寶，復賜焉。紹熙元年冬十一月，忽往見嗣住山智策，告別。策問行日，師曰：水到渠成。歸取幅紙，大書曰：十二月七日夜鷄鳴時。如期而化。奉蛻質返寺之法堂，留七日，顏色精明，鬚髮皆長，頂溫如沃湯。是月十四日，葬於別峰之西岡，壽八十有二，臘六十有四。得法弟子實繁，指不能一二屈。有慧綽者，山陰陸氏子，當以蔭得官，辭之。從師祝髮，得記莂，遯跡巖岫，終身不出。師既示寂，上為勅有司，定謚曰慈辯，塔曰智光，菴曰別峰，極方外之寵。師說法數十年，所至門人集為語錄。晚際遇壽皇，被宸翰咨詢法要，皆對使者具奏，別具行世，此不悉著。

淨全傳

淨全，越州諸暨人，姓翁氏，世業農。少與父兄躬耕，凡至林壑泉石間，必宴坐忘歸，人異之。甫冠即出家，師授以經典，略無所解，乃幡然入徑山謁妙喜。喜問：汝有何能？曰：能打坐。又問：打坐何為？曰：若問何為，直是無下口處。喜奇之。師生長田家，朴野而無緣飾，目不知書，人呼為翁木大。一日集眾采椒，師與焉。同輩戲之云：汝試作一摘椒頌如何？師即應聲云：含烟帶露已經秋，顆顆通紅氣味周。突出眼睛開口笑，這回不戀舊枝頭。眾大驚，自是刮目。有檀越以一度僧牒施妙喜，命給度一人。喜令侍者十輩各探籌卜其分緣，師得之。九人者不平，更相誶語，果命復探之，師再獲。若是三探三得之，遂祝髮受戒。拙庵光居靈隱，俾典賓。混源密主淨慈，命分半座。師志在晦藏，無應世念，然天資夙成，不假師授。雖不識一丁，而吐辭發語，形為偈頌，老師宿學所不能及。尚書尤公袤、寶文王公厚之、丞相錢公象祖，皆與師為方外交。嘗自贊曰：匙挑不上箇村夫，文墨胸中一點無。曾把虛空揣出骨，惡聲贏得蒲江湖。因自號無用。累典大剎，最後住四明之天童。開禧三年示寂，世壽七十一，僧臘四十五。窆全身于寺之西。

混源密嗣晦庵光，光嗣妙喜，則密乃師之姪行，而不以分座為嫌。要之，古人闡化揚道，肝腸是務，不拘拘于形迹間，故可貴也。

夾山本禪師傳

智本筠，高安郭氏子。生五歲，大饑，有貴客過門，見其氣骨，留萬錢與其父母，欲携去。祖母劉適從旁舍歸，顧見怒曰：兒生之夕，吾夢天雨華，吾家吉兆也。寧饑死，不以與人。推錢還之。既長，大遊報恩寺，聞僧說出家因緣，願為門弟子。劉氏喜曰：此吾志也。年十九，試經為僧。明年，受具足戒，即往游方。時雲居舜老夫開先暹道者，法席冠於廬山，師往來二老之間。久之，聞法華端禪師者，深為法窟，氣壓叢林。師往謁之，遂留十年，名聲遠聞。舒州太守李公端臣請說法於龍門，辭去之日，端領眾送之。師馬逸而先，顧端曰：當仁不讓。端笑謂大眾曰：國清才子貴，家富小兒驕。其父子法喜遊戲多類此。未幾，解院還廬山。時曾丞相由翰林學士出領長沙，以禮延居南岳之法輪，學者爭宗向之。遷居南臺，又遷道林，遷雲益，遷石霜，凡十三年，道大顯著，勸請皆一時名公卿。師既老矣，而湖北運使陳公舉必欲以夾山致師，師亦不辭，忻然曳杖而去。人登問之，師曰：係情去留，豈道人事？湖南、湖北真一夢境耳，何優劣避就之耶？以大觀元年上元夕，沐浴更衣，端坐終于夾山，閱世七十有三，僧臘五十有二。闍維，齒骨數珠不壞，葬於樂普庵之西。師性真率，不事事，膽氣蓋於流輩。作為偈語，肆筆而成，亦一時禪林之秀者。

拙叟英傳

進英字拙叟，吉州太和羅氏子也。幼孤，母憐之。性慧敏，齠齔中日誦千餘言，通詩禮大義。與群兒嬉游，侮玩之氣出其上。親舊愛敬之，使著縫掖為書生，輒病至與死鄰。母許以出家，尋愈，遂為僧洞隆童子。年十八，試所習得度，受具戒，即欲經行諸方，以觀道報劬勞之德。其母有難色，於是庵於母室之外，名曰精進。士大夫喜其為人，賦詩為贈，極稱道之。母歿，心喪三年，修白業為冥福，即游淮海，所至少留，當時號明眼尊宿，徧謁之。晚見雲庵，聞貶剝諸方，以黃檗接臨濟、雲門接洞山機緣為入道之要，擿其疑處以啟問，師恍然大悟，如桶底脫。佛印禪師，叢林號大宗匠，有盛名，慎許可，獨以師為俊彥。師有爽氣，喜暴所長以激後學，三十年一節不移，故佛印呼為鐵喙。初開法長沙之開福，十年之間，殿閣崇成。尋棄之，翩然游五臺，徧覽聖蹟。乃南還，庵梁山，天下衲子益追崇之。政和甲午，衡陽道俗迎住花藥之天寧，勸請皆一時名公卿。師以教外別傳之宗授上根，以漚和般若化道俗，老益康強，精進不替。嘗中夜禮佛，作息飲食，不肯與眾背。叢林信其誠，民人化其教。宣和三年冬，謝事，復庵梁山。越明年臘月，示

疾蟬蛻。其激揚大事，游泳語言，有三錄行世：曰報慈，曰鴈峰，曰游臺。

涂毒笨傳

智笨，天台陳氏子，自號涂毒巖主。英敏穎異，風骨巉巉，有出塵之姿。年十六，祝髮習經律，理詣昭徹，迥出流輩。十九，造國清謁寂室，光灑然有省。寂室許之，謂老於叢林者，不能過也。育王、無示、萬壽、大圓，皆一時大名德，無不肯可。大圓曰：策上人可謂不耘而秀，不扶而直者。辭去，大圓門送之，拊師背曰：寶所在近，此城非實。師頷之。往豫章謁典牛，道由雲居，風雪塞路，坐閱四十二日。午初，板聲鏗然，豁爾大悟。典牛印之曰：嶄然超出佛祖，他日起家，一麟足矣。使真淨而在，見子亦當下拜。典牛機辯峻峭，莫有嬰其鋒者。師與之平章今古，泉湧風駛，聞者為之齰愕別。典牛庵淮西烏崖之下，及大圓移大溈，請居第一座。嘗上方丈問訊，見大圓，俛首不語。師問曰：何瞀悶乃爾？大圓曰：期子濟濟多眾，如雪峰、溈山之流，而談天者謂子無後，子意如何？師曰：參學唯恐無本，苟有本，對泥像說法，亦高出諸方。大圓歎曰：吾子器識過人，玄酒太羹，非常流所能知味也。東歸，又分座於國清此庵。元方住護國，謂師曰：公來歸三峰，景元即收卷波瀾矣。出世住黃巖普澤，為典牛燒香，歷應台之太平、吉之祥苻、越之等慈及大能仁，所至道價興行。旋自護國華藏來住徑山，而師已老矣。力行祖道，眾至千餘。將化，召門人囑後事，仍曰：爾輩盍以文祭我？師整襟危坐而聽，至尚饗，為之盱衡一笑。越二日，泊然而逝，世壽七十六，坐六十夏。門人塔全身于東岡之麓。師性剛簡，居處語嘿肅如也。尤不喜泛交，善則慕之，否則雖親暱亦絕不與通。說法度人，光明俊偉，傾動一時。望師而歸者，雲湧濤奔，希獲一親謦欬，以為至幸。誠末世津梁，不可多得也。

佛照光禪師傳

德光，臨江彭氏子。彭氏故舊族，母袁夢異僧入室，驚窘而娠。既生，其祖曰：吾家世積德，此子必光吾門。因是命名。九歲，值寇擾，辟地于袁之木平寺。有妙應大師伯華善相，曰：是子伏犀貫頂，出家必作法門梁棟。俄失恃怙，歸伯氏。年二十一，聞人誦金剛經有省，自伯母曰：適聞誦經，身心歡喜，世間萬事，真如幻夢，兒願出家。即散家貲，與其族詣光化院足庵老宿薙落。足庵携之入閩，語師曰：是行為子擇所依，東禪月庵果公具衲僧眼，子依

之時，復有吾足矣。見月庵，機語相契。是時老宿多集閩中，如妙湛、佛心、圓覺，望重叢林，師無不參叩，徧歷五十餘員善知識。最後見大惠於育王，為舉竹篦話，師擬對，痛棒隨之，遂大悟，從前所得為之氷釋。惠曰：爾這回始徹也。說偈以頂相付之。隨過蔣山，謁應庵，庵稱賞不已，謂人曰：光兄插翅虎，吾當避之。乾道丁亥，住台之鴻福，徙光孝，台守李侍郎浩延之也。孝宗雅聞師名，淳熙三年，被旨住靈隱。入對選德殿，問佛法大意，曰：朕心佛心，是同是別？對曰：直下無第二人。曰：如是則佛即是心，心即是佛耶？對曰：成一切性即心，離一切相即佛。又問：釋迦雪山六年所成何事？對曰：將謂陛下忘却。上悅，賜號佛照禪師。自是召見無虛歲，至留內觀堂五宿而出，恩遇異常。紹熙改元，孝宗御重華宮稱壽皇，而徑山命下，師力辭。壽皇曰：欲頻相見耳，何以辭為？慶元初請老，許歸育王。師之在內觀堂也，上時乘小輦過堂，至則促席而坐，或曳袂而行，歡如平生。宣賜金玉器用繒綵計緡三萬餘，及王臣長者所施，悉以置育王贍眾之田。國史陸游詳記其事，自創數椽曰東庵，掩關自娛以休世焉。以嘉泰癸亥三月告眾曰：吾世緣將盡。未幾，問左右曰：今日月半耶？對曰：然。即索紙作遺書，與平昔所厚者集眾敘別，皆法門之旨要，無半語及他事。索浴更衣，大書云：八十三年彌天罪過。末後殷勤盡情說破，泊然而逝。弟子塔全身于庵後，僧臘六十。謚普慧宗覺大禪師，塔曰圓鑑。

明河曰：南渡後，宗師唯妙喜老子得人為多。開堂說法，顯然為天人師者，不下數十人，然皆不數傳，寂寂矣。能使道脉長永，枝葉繁茂，不忝師門，傳受唯師一人而已。古稱妙喜能大圓悟之門，愚謂妙喜之得師，猶圓悟之得妙喜。續燈舉妙喜之嗣，契悟廣大者九人，師不與焉，已失其鑑。至謂弟子之超卓者又蚤世，不使久開法，俾法嗣廣布，然則師豈非超卓而夭者耶？噫！所謂瞋目而不見泰山也。

補續高僧傳卷第十

補續高僧傳卷第十一

明吳門華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

宋　薦福本禪師傳

悟，本江州人也。自江西雲門參侍妙喜，至泉南小溪。于時英俊畢集，受印可者多矣。師私謂其棄己，欲發去。妙喜知而語之曰：汝但專意參究，如有所得，不待開口，吾已識也。既而有聞師入室者，故謂師曰：本侍者參禪許多年，逐日只道得箇不會。師詬之曰：這小鬼，你未生時，我已三度霍山廟裏退牙了，好教你知。繇茲益銳志提狗子無佛性話。一夕將三鼓，倚殿柱昏寐間，不覺無字出口吻間，忽爾頓悟。後三日，妙喜自郡城歸，師趨丈室，足纔越閫，未及吐詞。妙喜曰：本鬍子這回方是徹頭也。因過尋，同參謙公於建陽菴中。謙舉保寧頌五通仙人因緣曰：無量劫來曾未悟，如何不動到其中。莫言佛法無多子，最苦瞿曇那一通。謙復曰：我愛他如何不動到其中，既是不動如何，則看他古人得了，等閑拈出來，自然抓著人癢處。師曰：因甚却道最苦瞿曇那一通？謙曰：你未生時，吾已三度霍山廟裏退牙了也。於是相顧大笑。其友朋琢磨之益，葢如印圈契，為之無差。至於會心鞿然，可使後世想望風采。師住博山，規模立而法道弘。時雪堂行和尚住薦福，有僧自福州來，雪堂問：沿路見好長老否？僧云：近過信州，博山住持本和尚雖不曾拜識，好長老也。雪堂曰：安得知其為好？僧云：入寺路逕開闢，廊廡修整，殿堂香燈不絕，晨昏鐘鼓分明，二時粥飯精潔，僧行見人有禮，以此知其為好長老。雪堂笑曰：本固賢矣，然爾亦具眼。直以斯言達於郡守吳公傅朋曰：遮僧持論頗類范延齡薦張希顏事，而閣下之賢不減張忠定公。老僧年邁，乞請本以代，庶為林下盛事。吳公大喜，師即日遷薦福。雪堂嗣龍門遠公，師叔行也。

簡堂機傳

行機，號簡堂，台州楊氏子。風姿挺特，才壓儒林。年二十五，棄妻孥學出世法。晚見此菴，密有契證。入番陽筦山，單丁住十七年。嘗值隆冬，雨雪連作，饘粥不繼，師如不聞見。有頌云：地爐無火客囊空，雪似楊花落歲窮。拾得斷麻穿壞衲，不知身在寂寥

中。每謂人曰：某猶未穩在，住山豈吾事耶？一日，偶看斫樹倒地，忽大悟，平昔礙膺之物泮然氷釋。未幾，有江州圓通之命，乃曰：吾道將行。即欣然曳杖而去，登座說法云：圓通不開生藥舖，單單只賣死猫頭。不知那箇無思算，喫著通身冷汗流。緇白驚異，法席因茲大振。自圓通移國清，退居景星巖，與給事吳芾為方外友。淳熙五年，自景星赴隱靜，吳和淵明詩十三篇送其行，深致戀戀之情，冀師早歸同逸老也。師清明夷坦，衲子稍有詿誤，蔽護保惜，以成其德。嘗言：人誰無過，在改之為美。住筦山日，常下山，聞路傍哀泣聲，師惻然詢之，一家寒疾，僅亡兩口，貧無斂具，特就市貸棺葬之，鄉人感歎不已。侍郎李椿年謂士大夫曰：吾鄉機老，有道衲子也。加以慈惠及物，筦山安能久處乎？平生以道自適，不急榮名。赴圓通請，隨身唯拄杖草履而已，見者色莊意解。九江守林叔達目之曰：此佛法中津梁也。其去就真得前輩體格，故歿之日，雖走使致力，為之涕下。

或菴體傳

師體號或菴，台州羅氏子。初參此菴元布衲於天台護國，因舉龐馬選佛頌至第三句，此菴喝之，師大悟，遂匿跡深山中。丞相錢象先慕其為人，致以天封，勉令出世。師搖手曰：我不解懸羊頭賣狗肉也。即宵遁去。乾道初，瞎堂住國清，因見師圓通像贊，驚喜曰：不謂此菴有此兒。遍索之，得之江心，於稠人中請為第一座。及瞎堂遷虎丘，師訪焉。平江道俗請住覺報，覺報舊名老壽菴。師曰：先師囑我他日逢老壽止，今若合符契。遂欣然應命。入院小參，曰：道常然而不渝，事有弊而必變。昔江西南嶽諸祖，各稽古為訓，考其當否，持以中道，務合人心，以悟為則。所以素風泠然，逮今未泯。若約衲僧門下，言前薦得，屈我宗風；句下分明，沉埋佛祖。然雖如是，行到水窮處，坐看雲起時。緜是緇素喜所未聞，歸者如市。淳熙六年，移焦山。將化，示微恙，手書附硯一隻，別郡守侍郎曾。逮至中夜，說偈畢脫去，年七十二也。曾公以偈悼之曰：翩翩隻履逐西風，一物渾無布袋中。留下陶泓將底用，老夫無筆制虛空。曾亦知言者矣。師荷法以身為教，不專於言。常曰：叢林保於衲子，衲子保於道德。又曰：得一身之榮，不如得一世之名；得一世之名，不如得一賢衲子。使後學有師，叢林有主。嗚呼！天下之至私者，無如此身。遠得一步身，近得一步道。故師二保三得之說，誠絕世名言，願終身誦之不敢忘也。

元枯木傳

祖元，七閩林氏子。初謁雪峯頂、佛心才，皆已契機。後參妙喜於海上洋嶼菴，風骨清癯，危坐終日。妙喜目為元枯木，以剔燈有悟，妙喜贈之以偈。洋嶼發明大事者十三人，師其一也。居連江福嚴菴，食指猥眾，日不暇給。菴有伽藍，土偶甚夥，師揭偈於祠曉之曰：小菴小舍小叢林，土地何須八九人？若解輪番來打供，免後碎作一堆塵。是夕，神致夢於山前檀越，願如所戒。及出世鴈山，能仁示徒偈曰：鴈山枯木實頭禪，不在尖新句語邊。背手忽然摸得着，長鯨吞月浪滔天。瑩仲溫曰：師在當時朋伍中最號癡鈍，及其遯跡，神亦遵從，以至應緣，徒尤趨慕。葢自般若殊勝中來，豈有他哉？

妙峯善禪師傳

妙峯善禪師劉氏子，世居彭城，後徙吳興。年十三落髮，其師教以經論，一覽輒了大意，久而棄之。時佛炤唱道鄧山，師往參焉。于風幡話下悟旨，佛炤可以偈曰：今日與君通一線，斬釘截鐵起吾宗。自是辯慧泉湧，然不以是自足。入武康，廬妙高峯，壁坐十年，身隱而名彰，學者尊之曰妙峯禪師。出世於台之慧因、鴻福、萬年諸剎，退居皐亭劉寺者又十餘年。其徒推迫不已，復領明之瑞巖、蘇之萬壽、常之華藏，次至靈隱。靈隱密邇于闕，輪蹄湊集，師掩戶若不聞，一無所將迎。公卿貴人或見之，寒溫而已。會天童虛席，時鄭清之秉鈞軸，謂非師莫宜居，因勉師行。師答曰：老僧年耄矣，尚夜行不休乎？鄭公高之。師善於誘掖後進，未嘗厲聲色，然一經指授，無不心融神化，充然有得。相傳師住靈隱時，夜坐方丈，為四鬼舁出入。此與洞山寶事相類，得道人時或有是，不欲章異以惑修，故諱而不言。中峯所謂當時賴遇妙峯若王老師，又作修行無力會也。將示寂，澡身趺坐，書偈云：來也如是，去也如是，來去一如，清風萬里。遂逝。

妙空智訥禪師傳

智訥，姓夏氏，秀之崇德人。母夢一婦人，著黃衣，寘一兒盆中，舉而授之，因娠，生而穎秀。甫四歲，事其兄慈相上人道孜，十四得度。器質不凡，追營香火，練習戒律，已如成人。久之悟，歎曰：吾修無上道，而求之文句中，是刻舟也。即舍去，學禪於桐川之天寧。一日度磵，有文書出流水中，攬取視之，乃心經也。讀之，五蘊皆空，恍然若有契于心者。走姑蘇瑞光，見淨照信公，公一見喜曰：宿世沙門也。未幾，淨炤徙住真州長蘆，會學去來，率

數百人。師學成行尊，齒其高第。淮人敬愛之，曰：有如訥公而不坐道場，可乎？延住天寧禪寺，賜妙空大師。儀真當二江、三吳舟車之會，檀施大集，鼎新一剎，幾至萬礎。建炎初，住靈隱。慈聖獻皇后車駕臨幸，詔師升坐說法，賜號佛海。明年，金人陷錢塘，師被執。大酋解師縛，置一榻，尊事之。比去，飭十騎送還。咸安王韓世忠表請平江靈巖為功德院，薦先福，命師主之。已去復留，凡五更。住持前後二十餘年，最後被詔住徑山。紹興二十七年，師持鉢詣秀州。華亭縣人朱飛卿者，聞師名，具蒲饌，卜 日馳書以請。師以十一月二十六日至其家，據坐說法，緇素咸會。有僧出膜拜，問生死根本，師酬對，語未卒，舉拂扣床，一擊而逝。道俗奔赴，空巷相登，贊歎作禮，如佛滅度。其徒具舟載歸山中，則已有治命矣。七日而斂，舉體如生，葬於寺之白雲菴，壽八十，僧臘六十七。師儀狀奇龐，容止端默，雖行出世間法，而以營塔廟、修齋供、作佛事，金帛之施，歲一出之，橐中無[酉-二+干]蓄。在儀真時，州民王氏婦病沒，後配孟氏又病。一日其姑誦經佛室中，聞扣壁聲，問之，曰：王氏也。我有遺橐簪珥之屬，盡歸孟氏，可斥賣一二，請天寧訥公說法，使我解脫，舍汝家而去。孟氏亦復無恙。家人即日馳告師，師至，王氏憑附一女子立師側，說法竟，懽踴躍跪謝。後數日現夢曰：我已則受後身矣。而孟氏病良已。徐師書其事為記。在靈巖時，平江大姓胡氏設大齋，耆宿皆會。前一夕夢人告曰：詰朝有騎赤馬衣黃褐而至者，辟支佛也。黎明物色求之，而師裘馬如夢，胡氏舉室迎拜，一坐盡驚。靈岩寺據絕頂，而井飲不給，葢數百年矣。師擇地庀工，伐石鑿井，出泉清甘，人不病汲，今號佛海泉云。儀真天寧僧伽一塔，高數百尺，并大輪藏，壯麗甲于淮海，皆師所為。孫尚書覿過而歎曰：公材智不下澄觀，時方多故，而隱於浮屠中，可惜也。其後五住靈巖，築一室于方丈西偏，孫登訪，題曰五至，留詩而別。暨師沒，復銘其塔，致哀慕焉。

道謙傳

道謙，建州游氏子。家世業儒，幼聰慧，讀書輒成誦。早失恃怙，歎曰：為人子者，不及甘旨之養，當從浮屠氏學出世法，以報罔極。遂落髮謁佛，果無所省。發後，隨妙喜菴居泉南。及喜領徑山，師亦侍行。未幾，令師往長沙，通紫巖居士張公書。師自以參禪二十年，無入頭處，更作此行，決定荒廢，意欲無行。友人宗元者叱曰：不可在路便參禪不得也。去！吾與汝俱往。師不得已而行，在路泣語元曰：我一生參禪，殊無得力處，今又途路奔波，如何得相應去？元告之曰：你但將諸方參得底、悟得底、圓悟妙喜為

你說得底，都不要理會。途中可替事，我盡替你，只有五件事替你不得，你須自家支當。師曰：五件者何事？願聞其要。元曰：著衣喫飯，屙屎放尿，駝箇死尸路上行。師於言下領旨，不覺手舞足蹈。元曰：你此回方可通書，宜前進，吾先歸矣。師見張公，張公喜甚，書自信二字為贈，師笑而受之。回徑山，妙喜見而喜曰：建州子，你這回別也。後還里，住開善，聲光大震。將化，侍者請偈，師笑曰：萬法本空，三界非有，死生於何處安著？忍為駭俗態乎？師行峻而氣和，接物優容，不言自化，亦宗門之傑出者也。

宗元，亦建州人。依妙喜最久，分坐說法。張公帥三山虐數院，迎之不就。歸里結茆，號眾妙園。垂語云：這一些子，恰如撞著殺人漢相似。你若不殺了他，他便殺了你。未詳所終。

良書記、元菴禪師傳

處良書記，字遂翁，會稽山陰劉氏子。九歲以童子得度，十三歲游諸方，僅勝衣笠，路人為之驚歎。初為妙喜侍者，又從卍菴顏公為書記，英邁玉立。游二師間，皆受記莂餘事。能文詞，善筆札，諸方翕稱良書記。然亦以議論皦核，不少假借，不為諸方所容，顧獨陸陸眾中。嘗居秀州法喜院，舉香為卍菴嗣，蕭然數僧，食財半菽。再歲，退廬會稽海上。適太常尤公守臨海，起師領紫囊。復以縣大夫不樂，棄去。久之，領崑山薦嚴資福寺，遂以疾逝，淳熙十四年六月戊寅也。遺言藏骨廬山智林寺。寺，卍菴與師所同建也。

元菴真慈者，潼州李氏子。初依成都正法出家具戒，嗣游講肆，聽圓覺至四大各離，今者妄身當在何處？畢竟無體，實同幻化，因而有省，作頌曰：一顆明珠，在我這裏。撥著動著，放光動地。歸以呈其師，其師詰之，師曰：雖百千萬億公案，不出此頌也。其師以為不遜，乃叱去。因南游至廬山圓通，時卍菴為西堂，為眾入室，舉：僧問雲門：撥塵見佛時如何？門云：佛亦是塵。師隨聲便喝，以手指胸曰：佛亦是塵。復頌曰：撥塵見佛，佛亦是塵。問了答了，直下翻身。勸君更盡一杯酒，西出陽關無故人。又頌塵塵三昧曰：鉢裏飯，桶裏水，別寶崑崙坐潭底。一塵塵上走須彌，明眼波斯笑彈指。笑彈指，珊瑚枝上清風起。卍菴深肯之。

了一傳

了一，號炤堂，奉化徐氏子。方童幼時，遇羣兒嬉戲，隅坐傍不語，聞梵唄則躍起，喜動顏色。其父曰：兒如此，當令事佛。年十四，祝髮大雲寺。十六，受經數萬言，習窮晝夜不息。已乃歎曰：

如來最上乘，無挾而徑造者也，事糟粕何庸。即入京，從相國寺妙湛慧公游，數年盡其學為高弟。復下汴絕淮，經吳中，浮浙上天台，入雪峯，徧見諸耆宿，表裏洞然，中無疑者。會妙湛來蒞黃檗，師自雪峯至，學成行尊，眾推為上首。師姿相奇龐，寡言笑，危坐一榻，淵然如古井氷。有來叩者，雲湧泉落，愈出而愈無窮。性介特，務自闊遠，不交人事。將詣雪峯，朝議大夫曾恬與師厚善，屬師致書抵福帥大資張公守。師意其為已，納笥中弗出。久之，石泉虛席，公曰：黃檗上首，故自強。即日移書，遣騎迎師。師謝不願，使者至五反而後受。他日，公過師，師出恬書，且致不即發之意。公喜曰：韞櫝之珍，深藏而不市，吾與師賓主無媿矣。居三歲，改蒞聖泉。會左丞葉夢得來守福，曰：黃檗古道場，今世名緇孰逾一公者？飭使者具書幣以迎。師至，闔境緇素奔走出迎，懽呼踴躍，聲振山谷。葢師自石泉出世，更三大剎，積十五年，演唱真乘，啟悟後學，人人向道，以師為歸。已而後將至，稍通餉謝，易置諸禪。師一夕捨去，歸臥雪峯故廬。泉南守葉庭珪，樂道之士也，延之雲門，再遷法石。庭珪代還，師亦反西湖雪峯菴，即妙湛所栖。閉門終日，人莫見其面，若將終焉。俄被旨住徑山，紹興二十四年也。徑山無一壠之地可耕，而學眾數千指師入據丈室，檀施大集，不求而辦。山有芝巖方丈遺址，師嘗指其處謂其徒曰：吾將築室居焉。初不省所謂。明年三月，示微疾，退處明月堂，唱篋中衣，供佛飯僧。翼日黎明，索筆書伽陀，趺坐而逝，壽六十四，僧臘五十，即芝巖塔其全身，乃喻築室所云以此。

文爾傳

文爾，福州長溪人，姓李氏。十一辭親出家，十六為僧，十七受戒，十八裹足游禪。會參月菴果公，無所入，忘寢與食，瘡疥徧體，抱膝危坐。每聞五更鐘聲，輒駭汗曰：又過一日矣。後因觸物有省，入為侍者。數年，游廬陵，為眾迫，請住吉水清凉院，徙興國之梵山、寧都之桃林。紹興二十一年，郡守李子揚初至，嚴峭寡與，獨有契於師，迎住報恩。報恩望剎，棟宇久隳，法席不振，贛民貲少嗇施，師接以誠慤，咸竭其力，堂搆像設，次第一新，叢林成矣。會齊述嬰城叛，緇素宵潰，師曰：我去，寺必墟。止不動。閱百二十日，賊欲屢縱火加害，師隨機解免，舍匿士庶千計，皆賴以全。居十年，引疾求去，遂移慶雲，地僻而用足，異時主者自殖而已。師至，改造三門，規創殿宇，理事兼舉，老而彌篤。一日，與門人行西圃，指尋丈曰：此存以待我。未幾，坐亡，實乾道二年冬也，報齡四十六，坐三十一夏。門人葬師所示之地，丞相周必大

為石上之文，謂師住報恩時，妙喜杲公與無垢張公同時北歸，士大夫日往參請，師初無言說，妙喜獨謂無垢是人所得端，實不可忽也。予聞斯語，然後知師故以鈍為利者，自是益思與之游，而宦牒推移會合之日殊少。去冬，師有過予意，方報有書，而師沒矣，其為時賢歆慕如此。

從廓傳（宜意）

從廓，福之長溪林氏子。幼穎悟，不妄言笑，羣兒強以聚嬉，泊焉如弗聞。喜聞出世法，年十五祝髮受具戒。時閩中多有道之士，悉往從之游，見佛心才才稱之。又見嬾菴需公為侍者，復依大圓璞。璞，妙喜之高弟，門風孤峻，始齟齬久之，豁然有得。服勤數載，大圓撫之以為類己，然以未識妙喜為恨，不憚重趼見於衡之回鴈峯下，深加器重。留三年告歸，送之以偈，又以書屬璞曰：廓佳衲子，可為成就，使異日為吾家種草。紹興丙子，妙喜被旨住育王，復來依焉。妙喜移徑山，璞繼其席，眾踰千數，師為第一座。制師丞相沈公以廬山請出世，妙喜方名冠天下，無不願出其門以取重。開堂日，乃以瓣香嗣大圓，諸方以此益高之。已而育王虛位，尚書韓公邀妙喜請舉以自代，而無如師也。禪衲大集，育王為海內名道場，以祖孫三人世濟宣闡，遂為叢林美譚。師才具素高，以其暇日興土木之工，皆極其壯麗。增庾入數千斛，施者委金帛。創為長生局五所，百須皆備，月施金錢飯僧以萬計。又造金塔以奉舍利，此特其餘事爾。孝宗即位之十五年，詔舍利寶塔詣行在所，師侍行。既至，命入禁中觀堂安奉。上御素膳，焚香瞻禮，親覩殊勝。遂召師對碧琳堂，問：舍利從何發現？奏曰：從陛下聖心發現。上大悅，親書妙勝之殿，賜師妙智禪師號。仍度僧五員，頒鈔萬緡，眷賚優渥，前所未有。日本國王閱師偈語，自言有所發明。至遜國以從道，歲修弟子禮，辭幣甚恭。且送良材建舍利殿，器用精妙，莊嚴無比。丞相史公帥七閩，以鼓山趣其歸，滎陽郡王力挽無行。魏王出鎮，一見風儀，目為僧中龍。又聞其機辯峻發，肅然加敬。師晚以衣囊立菴於烏石山，名以笑月，為終焉計。有偈云：三峯斂却閑雲，大海冷涵秋月。庚子季春，拂衣歸菴，杜門不與世接。俄示微恙，說偈而逝，年六十二，臘四十七。葬於菴之寢室。師家法嚴甚，學眾以師語萃為巨編。師見而呵之曰：汝輩隨語生解，去道益遠。固不許。沒後，乃始得百之一二刊之。弟子百餘人。
有宜意者，得法最的。住平江開元，方鳴道有聲，而遽即世，吾黨惜之。

退谷雲傳(附石橋宣公)

義雲禪師，福州閩清黃氏子。幼入家塾，成童入鄉，較穎異有聲。因讀論語、中庸，有所悟入。後聞山堂淳禪師說法，遂自斷出家，徧游江湖。至吳，見鐵菴一大禪為侍者，鐵菴重之。時佛炤倡道靈隱，師往依焉。及佛照移育王，師從其行，歷十年為第一座。佛炤聞其說法，歎曰：此子提唱，宛如雪堂行和尚，吾鉢袋有所付矣。遂出住香山。居五年，徙台州光孝，又徙鎮江甘露。會平江虎丘萬壽皆欲延師，師聞萬壽頗廢，即欣然就之。淮南轉運使虞公儔又以長蘆來招，師與虞公有雅，故又從之。會育王虛席，朝命師補其處。時佛炤方居東菴，父子日相從，發明臨濟正宗，學者雲集。會有魔事，師即捨眾退居香山，葢將終焉，而朝命又起。師說法淨慈，恩光赫奕，都邑聳動。一日，領眾持鉢畿邑，是夕寺災，無遺宇。比師歸，獨三門巋然在瓦礫中。師不動容，曰：成壞相尋，亦豈有常？今日之壞，安知不為四眾作福之地哉？天子聞之，出內庫金以賜，自重臣貴戚以下，傾橐輦金，惟恐居後。未期年，廣殿邃廡，崇閎傑閣，葢愈于前日矣。於是上為親御翰墨，書慧日閣三大字賜之。開禧二年五月，示微疾，作偈別眾而寂。壽五十八，臘三十五。住山十九載，徒輩奉全身塔于寺之東北隅。

石橋宣禪師。蜀嘉定許氏子。參佛炤得法，住徑山。創化城於雙溪之上，接待雲錫師，獲知丞相。魯國一時名士大夫翕然宗仰，幾與退谷並驅爭先，但福緣小遜耳。示寂，塔於化城之後。

笑翁堪公傳

妙堪，號笑翁，慈溪毛氏子。廣顙平頂，骨氣清豪。從野菴道欽受學，以廣記多聞稱。後一力參究，依息菴觀於金山，又走靈隱見松源，皆不契。時無用居天童，徑造其室。用問曰：行脚僧游山？僧曰：行脚僧。用曰：如何是行脚事？提坐具便搥。用曰：此僧敢來這裏持虎鬚？俾參堂。一日，用舉狗子無佛性話，纔凝開口，用以竹篦劈口打，應聲呈偈曰：大塗毒鼓，轟天震地。轉腦回頭，橫屍萬里。用頷之，俾侍香，尋命分座出世。凡十坐道場，皆海內名剎。三被詔旨，并諸名公卿推挽，不得已而後就也。雖荷禪宗重寄，而不以其道自封。其於佛淺深之說，無不融了；世出世法，無不兼弘。常曰：於心有取舍，識情未盡；見法有彼此，智眼未明。天台舊無律宗，居報恩也，與大卿齊公議合十寺為大剎，築戒壇，命負毗尼學者倡開遮持犯之法，風勵新學，台始行。南山宗也，居靈隱山門，逼近屠沽，堪撤其廬。揭關飛來峯外，以限喧寂，曰：

不可使旃陀羅氣薰穢三寶也。荊湖總臣以國乏用，奏僧道得以出貲買紫衣師號，俾領住持。聞之歎曰：苟如是，則千金之子皆可主法，我道危矣。因抗疏，且致書秉鈞軸者，其議遂寢。詔徙天童，力辭，東歸翠巖，築室奉先世香火。育王虛席，有旨起師，再辭，不許。乃奉詔表章大覺，祖述妙喜，秩然有序。未幾，復下天童之命，大參趙公請主淨慈，皆固辭謝之。俄示疾，書遺表，作寺丞張公書。通守永嘉曹公來問疾，從容敘世契。移頃，書偈曰：業鏡高懸，七十二年。一搥擊碎，大道坦然。置筆泊然而逝。

松源嶽傳

崇嶽，號松源，處州龍泉吳氏子。幼不好弄，稍長，慕出世法。二十三，棄家，衣掃塔服，受五戒。首造靈石妙公，繼見大慧杲禪師於徑山。久之，大慧陞堂，稱蔣山應菴華公為人徑捷。師聞之，不待旦而行。既至，入室未契，退，愈自奮勵。中夜，自舉狗子無佛性話，豁然有得。以扣應菴，菴舉：世尊有密語，迦葉不覆藏。師云：鈍置和尚。菴厲聲一喝。自是朝夕咨請，菴大喜，以為法器，說偈勸使祝髮，棟梁吾道。隆興二年，師始得度於臨安西湖白蓮精舍。自是徧歷江浙諸大老之門，罕當其意。乃浮海入閩，見木菴永公。木菴舉：有句無句，如藤倚樹。師云：裂破。木菴云：瑯琊道：好一堆爛柴鼓？師云：矢上加尖。如是應酬數反，木菴云：老兄下語，老僧不過如此，秖是未在。他日拂柄在手，為人不得，驗人不得。師云：為人者，使博地凡夫一超入聖域，固難矣；至於驗人，打向面前過，不待開口，已知渠骨髓，何難之有？木菴舉手云：明明向汝道：開口不在舌頭上。後自知。逾年，見密菴於衢之西山，隨問即答，密菴微笑曰：黃楊禪爾。師切于明道，至忘寢食。密菴移住蔣山，華藏、徑山皆從之。一日，密菴入室次，問傍僧：不是心，不是佛，不是物。師侍側，豁然大悟，乃云：今日方知木菴道：開口不在舌頭上。自是機辯縱橫，鋒不可觸。木菴遷靈隱，遂命師為第一座。旋出世於平江澄炤，為密菴嗣。遷江陰之光孝、無為之冶父、饒之薦福、平江之虎丘，皆天下名山，惟冶父最寂寞，又以火廢。師一臨之，四方名衲踵至，棟宇亦大興，人謂師能使所居山大。慶元丁巳，被旨住靈隱。居六年，道盛行，得法者眾，法席為一時冠。而師有棲隱之志，即上章乞罷住持事，上察其誠，許之。退居東菴，俄屬微疾，猶不少廢唱道。忽垂一則語以驗學者曰：有力量人為甚麼擡脚不起，開口不在舌頭上？又貽書諸嗣法，囑令傳持大法，因書偈曰：來無所來，去無所去，瞥轉玄關，

佛祖罔措。跏趺而寂，實嘉泰二年八月四日也，得年七十有一，坐夏四十。徒輩奉全身塔於北高峯之原。

偃溪聞傳

廣聞，閩之侯官林氏子。家世業儒，疎眉秀目，哆口豐頤。從季父智隆於宛陵光孝，十八得度受具。初見鐵牛印、少室睦、無際派，追隨甚久。聞浙翁唱道天童，袖香謁之。初見機道齟齬，翁移徑山，師踵至。翁笑迎曰：汝來耶？一夕坐簷間，聞更三轉入室，曳履而蹶，如夢忽醒。翌朝造翁室，翁舉趙州洗鉢盂話，師將啟吻，翁遽止之。平生疑情，當下氷釋。紹定戊子，四明制閫胡公以小淨慈致之。歷住香山、萬壽、雪竇、育王、淨慈、靈隱、徑塢八山。所至革弊支傾，廣容徒眾，道化大行。有云：十字街頭石幢子，無你遮護處。一聲江上侍郎來，無你迴避處。衲僧家早出暮入，脚前脚後，也須仔細。忽然築著磕著淨慈拄杖，別有分付。又云：一升三合，拄杖頭邊。萬水千山，草鞋跟底。未言先領，誰家竈裏無煙。撩起便行，是處井中有水。莫道空來又空去，許多途路不相孤。洗發精醒，可謂善說法要矣。景定四年，壽七十五而化。師法嗣頗眾，而獨雲峯高止、泓鑑二公能振起師道云。

藏叟珍公傳

善珍，字藏叟，泉之南安呂氏子。年十三落髮，十六游方至杭，受具足戒。謁妙峯善公于靈隱，入室悟旨。後出住里之光孝，升承天，繼遷安吉之思溪、圓覺、福之雪峯，復以朝命移四明之育王、臨安之徑山。上堂：靈雲見桃花悟去，玄沙道：敢保老兄未徹。香嚴聞擊竹悟去，仰山道：祖師禪未會。禪和十箇五雙道：我此一門全無肯路。示：未知靈雲、香嚴在，要知二大老磨醉我落花天，借他絃歌裏。又據室云：這裏便是問訊燒香了，來老僧身邊玄地底所在麼？呆子！你自鈍置猶可，莫來鈍置老僧。師法語無拘滯，大率類此。門人貌師真請題，揮云：叅禪無悟，識字有數。眼三角似燕山愁胡，面百摺如趙婆呷醋。一著高出諸方，敢道飯是米做。生於紹興甲寅，逝于嘉定丁丑，年八十有三。六住大剎，接納良多，而入室得髓者，唯元叟端公一人而已。端之後，法脉繩繩，至我　明尚有振起作師吼者。師之道，源遠流長可知矣。

如珏傳

如珏，字荊叟，婺州人。圓悟五世孫，癡鈍之子。初見癡鈍室中，僧問：如何是佛？癡鈍命師下語，師答：爛冬爪。即呈頌曰：如何是佛爛冬瓜？咬著氷霜透齒牙。根蒂雖然無窖子，一年一度一開花。癡鈍笑而可之。後知遇穆陵。端平中，有詔自育王陞住徑山。始開堂，乃述銘以諭眾曰：幻身夢宅，空中物色。前際無窮，後際寧克？出此沒彼，升沉疲極。未免三輪，何時休息？貪戀世間，因緣成質。從生至老，一無所得。根本無明，因茲被惑。光陰可惜，剎那不測。今生空過，來世窒塞。從迷至迷，皆因六賊。六道往還，三界匍匐。早訪明師，親覲高德。決擇身心，去其荊棘。世自浮沉，眾緣豈逼？研窮法理，以悟為則。心境俱捐，莫記莫憶。六根夷然，行住嘿嘿。一心不生，萬法俱息。結夏，謂眾曰：我此一宗，正令全提。如暴風卒雨，鼓蕩無前；石火電光，追奔不及。舉意即迷源，擡眸已蹉過。不是目前法，莫生種種心。縱汝三種互修，剋期取證，第一頭、第三首，萬拄千掙，轉見氣急。殊不知髑髏未具，己眼先明，囫地一聲，千了百當。然雖如此，親證者萬無一二，錯會者數有河沙。師見地高朗，不多讓古人，然福德因緣不無少遜。或云：師功用比圓悟益弘。或亦未之思耳。

無準範禪師傳

師範，梓潼雍氏子。九歲依陰平山道欽出家，經書過目成誦。紹熙五年冬登具戒。明年成都坐夏，遇老宿名堯者，範請益坐禪之法。堯曰：禪是何物？坐是何人？範受其語，晝夜體究。一日如廁，提前話有省，遂出蜀謁佛炤於育王。炤問：何處人？曰：劒州人。炤曰：將得劒來否？範隨聲便喝。炤笑曰：這烏頭子亂做。範嬾剃髮長，故佛炤室中嘗以烏頭子呼之。久之，欲觀台雁，拉石溪月公同往。至瑞巖，時雲巢領住持事，留分座。忽夜夢偉衣冠者持把茅見授。翼日，明州清凉專使至，師受請入院，見所設伽藍神茅，其姓衣冠與所夢無異云。上堂，遂為破菴拈香，以示法切，得旨深也。嗣遷焦山雪竇，被旨移育王，住徑山最久。雖兩丁火厄，而旋復舊觀號，法席全盛。理宗嘗召師入慈明殿，陞座說法。上親御垂聽，大悅，賜佛鑑禪師號併金襴僧伽黎。淳祐戊申秋，築室明月池上，榜曰退耕。乞老於朝，而舊疾適作。三月旦，升堂別眾。至十五日，區畫後事，親遺表及遺書十數封，言笑如平時。其徒以遺偈為請，乃執筆疾書云：來時空索索，去亦赤條條。更要問端的，天台有石橋。移項而逝。

石田薰禪師傳

法薰，號石田，眉公彭氏子也。生而慧敏，三四歲時，見僧即喜。年十六，從丹稜石龍山法寶院智明出家。二十二，薙髮受具戒。游方至石霜，禮雷遷塔，述偈曰：一念慈容元不隔，何須特地肆乖張。平高就下婆心切，惱得雷公一夜忙。薰名因是大著。聞吳門穹窿破菴先禪師道望，遂往依焉。一見知為法器，室中舉世尊拈華，迦葉微笑。薰云：焦磚打著連底凍，赤眼撞著火柴頭。破菴陰奇之，每於日用語默，故起其疑。薰於是決志依栖，隨時咨詢，與無準範日相激勵。後見松源岳、肯堂充、遯菴演，咸謂其從作家爐韛中來，自不同也。初住蘇州之高峯，次遷楓橋。鍾山虛席，亦補其處。寶慶初，遷淨慈。端平二年，遷靈隱。淳祐甲辰三月望，示徒云：但得本，莫愁末。喚甚麼作本？喚甚麼作末？松栢千年青，不入時人意。牡丹一日紅，滿城公子醉。山僧恁麼道，若有不肯底，是我同參弟子。繪像求贊，有云：末後一句，分付廚山。眾訝之。明日，示疾而逝。

癡絕沖傳

道沖，自號癡絕，武信長江荀氏子。母郭氏，嘗夢經山木瓜樹下，其實纍纍，取而食之，占者謂當產奇士。已而師生，豐上短下，資稟過人。長應進士舉不利，受釋氏舉於梓州妙應院，落髮游成都，習經論有聲。紹熙壬子出峽，回旋荊楚間。時松源倡道於饒之薦福，徑造其廬，適歲饑不受。會曹源生公以雲居首座出世妙果，許師入室，俾侍香，老拳痛棒不少貸。至是平生知見絕無影響，然終以未見松源為闕然。及松源遷靈隱，師曰：尚餘窮相一雙手，要向諸方癢處爬。至杭，松源門庭高峻，八閱月不得入，每囁嚅欲自言，屢呵斥不容近。一日有告之松源者，松源曰：我已八字打開，自是他當面蹉過。師聞此語，口耳俱喪，始知侍曹源時嘻戲怒罵，無非善呵方便。既而曹源順寂，遍歷諸老之門。踰二十年，出世秀州之光孝、金陵之蔣山、福州之鼓山雪峯。嘉熙戊戌，有旨住太白名山。兩育王住持未得人，因師之至，又強之兼領。師往來兩山間，四方學者從之如歸教。聞京師詔下，移靈隱。追念密菴松源舊游，方思所以振起祖風，而魔事出於意料所不及，難以口舌爭，遽動歸老故山之志，伐鼓亟去。雖京兆尹節齋趙公致書力挽，堂帖有虎丘之命，昇師虛齋趙公以蔣山起之，俱莫能回其意。戊申春，育王散席，諸大老落落如晨星，惟師為叢林尊宿，眾舉于朝，日夜俟師之出，亦固辭乃已。又有欲挽之為法華開山，懇祈再三不得請，而勑牒住徑山之命繼至，師謂：先諾固不可違，君命豈應引避？乃以九月至法華，踰月登雙徑，人神響應，懽聲如雷。師說法簡直明

爽，不落窠臼，嘗云：盡乾坤大地無絲毫許大，汝諸人橫擔拄杖繞四天下行脚，道我無處不到、無事不知，且道西天那爛陀寺戒賢論師今日說甚麼法？又云：有一人一念頓證墮在佛數，有一人累劫闡提不願成佛，且道那箇合受人天供養？良久，云：蝶穿芳徑雙眉濕，蜂掠殘花兩股肥。詞旨高詣之如此。俄染疾，自冬涉春，形體雖羸，陞堂提唱，精明如平時。忽手書龕記并遺書十數封，且曰：無準忌在十八，吾以十五即行，不得辦香修供矣。侍僧駭其言，亟以遺偈請，師笑曰：末後一句無可商量，只要箇人直下承當。寂然移頃而逝，壽八十二。師能誠無偽，表裏如一。待人恕而立己嚴，應世圓而領眾肅。住山三十年，所至以激揚宗風為己任，以道法未得其傳為己憂。平居簡淡沉嘿，若不能言。及坐籌室勘驗衲子，機鋒一觸，猶雷奔電掣，海立江翻，皆茫然莫知湊泊。誓不輕以詞色假人，重誤來學。晚年無他好，多留意字法。於小楷最得三昧，往往端嚴凝重類其人。僧俗歸敬，求法語偈贊無虛日。雖祁寒盛暑，揮染不倦。士大夫多樂從之游，而尤為名公鉅卿所推重。以至教名宣傳海外，有具書禮犯鯨波而來問法者。其道德有以服人，一至於此。方在天童育王時，被旨開堂靈隱。束擔將戒行，而隣峯疾之者，教言欲嗾羣不逞梗於中道。左右聞之，奉以告。師曰：吾平日以誠實接人，將何以加我？略不為之動，彼亦終於無所施而止。雙徑、冷泉、太白、雪峯為海內甲剎，萌欲速之念者，挾奧援，矜智巧，曆階而上，力可以通神。師則不然，短褐布衣，終其身不為勢利所動。故其進不由介紹，其退心常泰然。真法門之梁棟，後學之標準也。

景蒙傳

景蒙邵氏，溫之平陽人。族姓甚眾，多以儒顯。師英達開爽，幼聞鐘梵則喜。年十三，從惠安淨覺大師惟梵著僧伽，黎明習天台教觀。自以名相之學不足了大事，去游國清，又參育王佛智裕公。公問鄉里，對曰：永嘉。曰：還識永嘉大師否？未及答，批頰而出。至於再，兀然如癡，寢食不安者累月。行道次，忽聞鐘聲而悟，即造室中。公復理前問，師曰：即日伏惟和尚尊體起居萬福。隨問向上事，師儗對被逐。次日再上，公方發問，師抗聲云：老漢今日敗闕也。一拍而出。公笑曰：雋哉！因省母歸里，龍翔心聞一見深器之，問曰：言無展事，語不投機。承言者喪，滯句者迷。試向言詮不及處通箇消息。師以左手畫一圓相，聞以拂子擊左，師又畫以右手；聞擊右，又畫於中；以兩手托呈，聞以拂子當中畫兩畫。師禮拜而立，聞大笑云：三十年揀苗苗，今日得此烏喙。遂令執侍盡揭

底蘊，尋歸鹿園。如在菴賢、雪菴瑾、咦菴鑑、全菴存、筠谷達、還菴淳，會下皆一時名流，唯師妙齡傑出。心聞以谷名師菴，且為之銘，蒙侍者之名日高矣。又嘗謁臨安顯寧志公，志門風壁立，學者望崖，獨謂師曰：先世遺風餘烈若未墜者，尚在汝躬，吾且拭目觀之。初住智門，遷瑞巖，皆史魏公浩推轂也。魏公在永嘉時，與心聞為方外交，罷相里居，夢如平生。旁有僧曰景蒙，貌古神清，談笑久之。覺而叩天童朴曰：僧名頗異，有斯人否？朴曰：是方為堂中第一座。招之，恍如夢所見。與論出世法，了辯如響。問其師，則心聞也。大異之，遂為延譽而住智門。及瑞岩虛席，復以師應命。師孤高絕俗，弱不勝衣，而嚴冷峻峭，不可挹酌。既坐道場，搥拂所加，龍象蹴踏，長靈之道光焉。智門、瑞巖皆承頹毀之餘，人以為不可復興矣。師從容規畫，會不踰時，而輪奐一新，壯麗反過其舊。具大材智，尋常不以毫末自見，因事而顯，無不歎服。韜養之深，從可知矣。

斷橋倫禪師傳

妙倫，天台黃巖徐氏子。母劉，夢月而娠。年十八，依永嘉廣慈院落髮。見谷源道於瑞巖，聞麻三斤語，發疑。徧叩諸方，機語未契。自謂：吾口訥耳聵，何能究此？不若務實修行，日以誦經為業。因閱楞伽于雲居，見山堂至蚊蟲螻蟻，無有言說而能辦事，頓然有省，曰：趙州栢樹子話可煞直捷。然不以語人，徑走雪竇，見無準範禪師。無準詰之，連下語三十轉，不契。哀懇曰：可無方便乎？無範以真淨頌答之，竦然良久，聞板聲通身汗下，於是始脫焉無碍矣。準移育王，雙徑皆以師從，俾分座。尋出世祇園，遷瑞岩國清。至淨慈，說法簡直，具格外機。上識者得之，而劣器不能湊泊。有時上堂，舉達觀潁禪師示眾云：七佛是性隸，萬法是心奴。且道主人翁在何處？自喝云：七佛以下出頭。又自諾云：各自祇候。云：喚七佛為性隸，指萬法是心奴。達觀自謂有出身路，及乎自喝自諾，又是奴隸邊事。主人翁何曾夢見在？大眾要見麼？拂子一拂，云：曉來一陣春風動，開遍園林一樣花。舉揚超醒，大略如此。將終，與眾入室罷，索筆作詩，辭諸山及魏國公。公饋藥，不受。又使人問曰：師生天台，因甚死淨慈？答曰：日出東方夜落西。遂嗒焉而逝。或云：初參無範，範問：從何處來？答曰：天台。範曰：還見石橋麼？答曰：我一脚踏斷也。自是叢林稱師為斷橋倫。公云：

道升傳

道升，建安吳氏子。生有肉如環，在其左乳。及出家，肉環始隱。天資聰慧，十九披削浩然，有游參志。父早世，事母以孝聞。母沒，遂至長樂，見佛智裕公，入其室，言下頓悟。自是機鋒迅發，人不敢嬰。佛智移靈隱，師為首座。還里，結菴於大王峯下，名曰寒巖。未幾，泉守延以名剎，學者雲集。會行計口法，拂衣而還，作懶散歌以見志。李敦老帥閩，問諸山佛智之嗣傑出者，僉以師對，遂住支提山。鄧成材帥豫章，以師志在山林，自泉之承天延置黃龍。後帥未知師，師欲去。適潭帥張安國以石霜來招，師兩謝之。行次西山，而沈持要自漕遷帥閩。師退，院牒極力挽留，以泐潭處之。寺新被焚，師來，施予輻輳，棟宇煥然。以年高，懇還建安。俄史丞相帥福，命師主鼓山。師持身以法，蒞眾精嚴。每見法門下衰，僧雛奔競，為之憂戚。嘗謂人曰：叢林荒寒，人物委靡，此事將如馬鞭節漸尖去矣。凡六住大剎，皆宰官士夫推擁逼迫，不得已應之。而舉揚唱導，修飭頹毀，日新月異，終不以非所志而曠所務。若師者，誠為以佛法自任者。結夏後，一日，忽問侍僧：今日何日？曰：十六日。又問：是何日辰？曰：辛卯。即入室坐脫，壽六十九。停三日，神色如生，葬於香爐峯下。

智燈傳

智燈，婺州金華人，號祖印，得法于道吾法真。為人精敏有德量，道俗擁之出世。年始立也，而匡宗植道之志，隱然尊宿。自居說法三十年，從者如雲，退老等覺寺坐逝。有語錄一卷，鄒正言浩序之曰：余項在中陶，嘗與李濤師淵論天下之名僧。師淵語余曰：吾所見祖師者，有道者也。蚤以機緣為世導師，晚乃退居都城之等覺。望其容貌，如秋際木；聽其解說，如夜半潮。始竊以為未始出吾宗，而終也如一葦大海，惕惕環視，莫見畔岸。後數年，復見師淵于都城，問其所謂祖印者，而將訪焉，則曰：寂滅久矣。出其所集語錄二卷示余，余然後知師淵異時之言，尚其可以言者。祖印名字不列傳燈，始末不載傳記，幸有正言數行在耳。然則正言知言，葢繇師淵知己，與祖印生氣千古。噫！古德埋沒者多矣。

慧圓上座傳

慧圓上座，開封酸棗于氏子。世業農，出家建福寺。性椎魯，然執勤不懈，得度出游。聞南方禪道甚盛，乃詣江州東林寺，寺眾藐忽之。一日，問朋輩曰：如何是禪？眾戲之曰：往問能鳴者，乃蟬也。圓不悟其旨，遂面壁深思，至於骨立。後數月，出行殿庭，忽

足顛而仆，了然開悟。乃謂一行者曰：吾不習筆硯，欲作一頌，須汝書之壁間。行者笑而許之。偈曰：這一交，這一交，萬兩黃金也合消。頭上笠，腰下包，清風明月杖頭挑。即日離東林。總禪師見偈，大驚曰：衲子參究若此，善不可加。令人跡其所往，竟無知者。

虛舟度傳

普度，字虛舟，維揚江都史氏子。稍長，雖習世書，絕無處俗意。母識其志，俾依郡之天寧出家。畢將軍與語，大奇之，曰：此兒短小精悍，音吐如鐘，他日法中向上爪牙也。携歸武林，禮東堂院祖信為受業師。執侍五年，奮志參方。初見鐵牛印於靈隱，已而江東西、河南北悉徧歷焉。時無礙通唱道饒州薦福，師決志叩請。其遷福嚴、華藏，亦與之俱。入室次，通問：不與萬法為侶者是甚麼人？師曰：金香爐下鐵崑崙。通曰：將謂這矮子有長處，見解只如此。師曲躬作禮曰：謝和尚證明。若天童晦巖光、大慈石巖璉、虎丘石室廸，皆一見器異，留與法務。淳祐初，制府趙信菴以金陵半山請出世，遷潤之金山、潭之鹿苑、撫之疎山、蘇之承天。景定間，賈太傅奏補中天竺，復請旨陞靈隱。至元丁丑，被命住徑山。師說法直捷簡要，肩荷法門，老而無倦。嘗云：萬法是心光，諸緣惟性曉。本無迷悟人，只要今日了。又云：既無迷悟人，了箇甚麼？無人契其機者。其住徑山，值火餘，志圖興復，將有緒。俄示恙，索筆大書曰：八十二年，駕無底船。踏翻歸去，明月一天。遂寂。

天奇禪師傳

天奇瑞公，南昌鍾陵人也。父江堂，母徐氏。師隨父經商潁州，年將二十，忽發心至荊門州，從無說能和尚出家，令看萬法歸一。後於佛炤處遇道翼首座，苦口提携，晝夜逼拶。一日，偶聽廊下人相語，翼便打，師曰：吾不曾瞌睡。翼曰：你不曾瞌睡，耳聽那裏？又二僧裁裙量度，師纔經眼看，翼便打，云：你那眼也不得停住，話頭焉得著實？自是功夫益切，五年不得棉花上身，二年無裏衣，冬夏一領破衲，藍縷不堪，歷從諸禪老決擇。靜東暉公示大慧患疽因緣次，于中竺楚山、雪峯處各有悟人。最後至南京高峯寺，見寶峯瑄和尚，方始瞥地，遂留過冬。未幾告辭，峯授以法衣、毛拂，偈曰：濟山棒喝如輕觸，殺活從茲手眼親；聖解凡情俱坐斷，曇花猶放一枝新。師出世開堂，得人為多，有語錄曰梵絕集行世。

莞絕集開示等語，警切痛快，不失本色鉗搥。頌古則末矣，至聯芳機緣，一人之名，綴以一偈，師下一問，人致一答，動成卷帙。高處不出青州萬松格套，下者已入義學常情，自覺無謂。師初行脚時，路逢一僧，謂師貪作偈頌。彼一時也，入籃是菜，詎可兼收？編集者失眼，致掩全璧之光，惜哉！

虛堂愚傳

智愚，字虛堂，四明人。具戒游參，見運菴顏公，言下了旨。出世歷住十剎，化道風行。咸淳末，被詔住徑山。室中設三轉語，勘驗學人，鮮有覩其機者。曰：己眼未明底，因甚將虛空作布袴著？曰：畫地為牢，因甚透這箇不過？曰：入海算沙底，因甚向鍼鋒頭上翹足？又云：虛堂初無門戶與人近傍，亦不置之於無何有之鄉。只要諸人如鐵入土，與土俱化，然後可以發越。其如運糞入者，吾末如之何。一日，舉松源師臨濟示寂，告眾云：久參兄弟，正路上行者，有只不能用黑豆法。臨濟之道，將泯絕無聞。傷哉！拈云：鷲峯老大似倚杖騎馬，雖無僵臥之患，未免傍觀者醜。師先在淨慈，入院日，問答絕。忽天使踵門傳旨，問：趙州因甚八十行脚？虛堂因甚八十住山？師即舉趙州行脚到臨濟話，頌曰：趙州八十方行脚，虛堂八十再住山。別有一機恢佛祖，九重城裏動龍顏。使以頌回奏，上大悅，特賜米五百石、絹一百縑，開堂安眾。後示寂，塔于直嶺下，曰天然。先是，高麗國王請師於彼國說法。八載還山，問法弟子隨侍千指。至我　明嘉靖間，高麗尚遣法嗣來此掃塔，云：彼國法道甚盛焉。

補續高僧傳卷第十一

補續高僧傳卷第十二

明吳門華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

金　佛光道悟禪師傳

道悟，俗寇氏，陝右蘭州人。生而有齒，年十六求出家，父母不聽，乃不食數日，許之祝髮。後二年，自臨洮歸彎子店宿，夜夢梵僧喚覺，適聞馬嘶，豁然大悟。歸家喜不自勝，吟唱云：見也羅，見也羅，徧虛空，只一箇。告其母曰：我拾得一物。其母於囊橐中尋索不見，問是何物，師曰：我自無始以來，不見了底物。其母不省。他日欲游諸方，鄉人送者求頌，有水流須到海，鶴出白雲頭之句。至熊耳，果遇白雲海公。先是人問海何不擇法嗣，海亦作頌，有芝蘭秀發，獨出西秦之語。比師之至，夜聞空中人言：來日接郭相公。黎明，海呼僧行，令持香花接我關西弟子。寺乃唐郭子儀建，今渠自來住持也。既至，一言相契，徑付衣盂。寺前嘗有剽而殺人者來告急，師呼眾擒之，曰：即汝是賊。尋得其巢穴，賊眾請命，師示其要，言而釋之。路不拾遺者數十年，人以此益信師前身汾陽王也。大定二十四年，白雲既沒，師開堂出世。初鄭之普照，次三鄉之竹閣菴，時著白衣，跨牛橫笛，游於洛川，人莫之測。嘗謂人曰：道我是凡，向聖位裏去；道我是聖，向凡位裏去；道我不是聖、不是凡，才向毗盧頂上有些行履處。泰和五年，結夏於臨洮之大勢寺，開圓覺經，升座曰：此席止講得一半去在。至五月十二日晚參，翌日早盥漱畢，呼侍者曰：我病也，尋藥去。侍者足未及門，師已臥逝。方丈上有五色雲如寶蓋，中有紅光如日者三。春秋五十有五，僧臘三十有九。

政言、了奇二師傳

政言，許州長社人，姓王氏。九歲事資福院淨良長老為師，執役且十年，辭良游教庠。時浩公僧錄居南京，講唯識論，言往謁之，決擇性相，造理深至。浩公心醉焉，因命代演，聲稱隆起。講座方倚為重，遂改趨而縛禪，坐靜於嵩山龍潭，又即汝州紫雲峯結茆，未有所入。聞慈照禪師唱道香山，乃往投之。慈照舉金剛云：如來者，即諸法如義。汝如何會？因忽有省，曰：諸緣不壞兮性無滅，雲散長空兮天皎月。慈照可之，言終不自肯。走中都見廣慧，廣慧

命掌記室。久之，始帖然出世，住仰天山，遷益都義安院，暨鄭州之普照、河南之法雲，與天潭柘之龍泉，皆駐化之地。所至法音弘流，霑被如響。其舉揚宗旨，脫落窠臼，如鶻起長空，駿騰平野，奔逸絕塵，難為覿附。製頌古、拈古各百篇，金剛經證道歌有注，金臺有錄，真心有說，皆行於世。且能以游戲餘力崇飾伽藍，具有成績可考。又異乎枯槁寂莫，置事物於度外為禪者也。老於潁濱之釣臺，以大定乙巳年入寂。

了奇，白霤富庶人，姓潘氏。十六試經得度，業華嚴，窮玄洞奧，歷參知識。後於廣慧言下知歸，廬柘水西溪之上，破納蔬食，滅跡絕累十餘年。為諸貴強主竹林，學徒雲萃，展鉢敷坐，數盈五千。大定十九年，無病右脇而化，世壽五十一。茶毗舍利五色者無算，而建塔焉。滹陽中虛翁銘之曰：師應緣而來善，萬物初未形。緣盡而去了，不為死生縈。游戲如幻，絕去來之妄情。妙無所住，乃師之令行。嗚呼，是為之銘。

清涼相公傳

弘相，號西溪，出沂水王氏。初棄家為佛子，事祖照上人，以通經得僧服。乃恣讀內外書，凡十年，多所究觀。聞虛明亨公住普照，道價重一時，盡棄所學而學焉。虛明知其不凡，欣然納之。又十年，乃佩其印出世，住鄭州之大覺、嵩山之少林、沂州之普照，最後住清涼。師勤於按納，有諮決之者，為之徵詰開示，傾囷倒廩，無復餘地。故雖退居謝事，而學者益親之。為人欵曲周密，而疾惡太甚，人有不合理者，必赤數之，怫然之氣不能自掩。平居教學者曰：禪道微矣，非專一而靜，則決不可入。世間學解，謾費日力耳。及自為詩，并言語動作，一切以寓之，至食息頃不能忘。元遺山好問與師同游蘭若峯，道中談避寇時事。師以為凡出身以對世，能外生死，然後能有所立。生死雖大事，視之要如翻覆手，然則坎止流行，無不可者。此須從靜功中來，念念不置，境當自熟耳。時小雪後，路峻而石滑，師已老，力不能自持，足一跌，翻折而墜。同行者失聲而莫能救，直下數十尺，僅礙大樹而止。遺山驚問，師神色自若，徐云：學禪四十年，脚跟乃為石頭取勘。聞者皆大笑，因共歎境熟之言，果其日用事而不妄也。年六十四而寂。所著文集三：曰歸樂，曰退休，曰清涼。并語錄一卷，傳諸方。

圓性傳

圓性，順州懷柔侯氏子。自王父以上，皆隱晦無悶。父琦，母杜氏，夢異僧授以神珠而娠。迄誕，室有光。童時斷葷血，舉止端肅。九歲請于父母，願為僧，許之。依都城奉福寺振公為師。十五受滿分戒，習唯識起信論。有叩之者，答之如響。義精旨妙，皆出入意表。久之嘆曰：是法非思量分別之所能解，果在言乎。天德初，佛日禪師入汴，師袖香謁之。佛日嘿識其器而施錐劄，師益自剋鍊。不四旬，恍然有入，佛日肯之。及佛日赴遼陽之請，師侍行抵惠安，舉為立僧，指示切要，一眾欽服。後以皇后教旨，住韓州功德院。未幾捨去，渡大河，歷齊魯。時昭禪師居越峯，將造訪之。是夕昭坐室中，見一大神偉服立於前，白曰：廣慧大士來也，當除舘以待。詰旦，昭整眾延佇，食時師至矣。眾大駭，昭虛心盡敬，以所見告焉，師笑而已。浮汴而洛，抵關右，所至老師宿學皆為師下。天德初，被旨主竹林。明年，徙惠安。明肅皇后遣中使奉以磨衲衣并金帛諸物，佐開堂之費。久之，竹林舊眾念法乳不已，僉曰：吾師也，惠安安得擁留權巧以歸之？時海陵領留鑰，嚮師道風，賜廣慧通理之號，洎紫方袍、栴檀寶塔、大士像，竟符越峯神告之語。大定間，遷潭柘，將大有營建。或以寺久廢，規模宏大，懼難克集，請少損之。師曰：吾心計已定，第恐不誠爾。不十年而潭柘落成，視舊有加焉。其始工也，鑿山之際，有巨石崩墜，轟聲如雷，眾駭避，師恬弗為顧，石至師而止，不遠尋尺，若有神禦之者。其在竹林時，竹林實遼長主賜第，制侔宮闕，雖為梵剎，而臺門尚存。師謂非僧居所宜，亟命撤去，得故甎百萬，為方丈基甃，仍以其餘即故基為俗室，而鼎新其門。凡所成，務傳永久，盡竭衣盂所不惜。律身持物，凡可以久行益後者，皆著之令典，使傳將來，用志之精專如此。以大定十五年六月化于潭柘，世壽七十二，僧臘五十七。

明河曰：此傳取諸塔石，石文乃金永定節使楊邦基譔，謂佛果自西蜀來汴，以心印傳佛日，佛日傳廣慧，為南岳下十七世，則佛日為妙喜無疑矣。及後云師侍佛日赴遼陽，又云數從佛日入禁中說法，考時校處，又似非妙喜，茫然不知佛日為何人。若果妙喜，何年譜、傳燈不載此事？年譜但云：女直之肆驕，取禪師十數，師為首選，虜酋壯傳不少屈，由是一眾獲免其行。得無師實行如楊所云，而後返作譜者為之諱也耶？抑佛日非妙喜，佛果下別有一佛日耶？楊文定有所據，必有一人當之。大都妙喜始終如青天白日，不容隱諱，筆此以俟高明考訂。

相了傳

相了，義州宋氏子。生有奇瑞，兒時行必直視，坐必跏趺。一日，聞祖父誦賦至秦皇漢武不死何歸，亟問：死歸何處？祖異之，語其父曰：此子非塵俗中人，可令出家。遂從師落髮游，講通華嚴、圓覺等經，機思明敏，闡發精當，頗為同學宗仰。因讀圓覺至修多羅教如標月指處，忽爾動疑曰：經既為標，月何所在？吾將問之諸方知識也。乃腰包見清安月公，又訪咸平定公，復走綿州謁大明誘公，皆不契。誘公曰：汝緣不在此，懿州崇福超公，汝師也，必為子發其奧。遽謁超公，公一見，處以首職，雖殷眾務而究研益力，至寢食都廢。一日，因居士請益超公俱胝一指公案，師立座隅，忽問曰：俱胝一指頭禪受用不盡，未審和尚禪有多少？公與一喝，師于喝下領旨，身心脫空，如處瑠璃寶月間，快爽不自勝。呈偈云：窺破浮雲月色寒，偶然頓歇髑髏乾。通身光透威音外，普應羣機作大緣。公為彈指印之。未幾，公以老而退，師受命補其處。遷松林，徙惠安，又移潭柘，轉主竹林。師性恬退，雖屢踞大剎，皆迫于不得已。松林、潭柘至棄眾而逃，人物色得之，擁而去，師竟不得自主也。居恒自歎古人藏身無跡，己不能如之為進道之累。且稟性貞純，慈不忤物，平生未嘗略起嗔恚，縱遇呵毀而容色不易。所至唯信緣甘分，不務營飾，非理道之要。行之有益于性命身心者，勿自處，亦勿以處人，此皆昭著可言者。如其潛德密行，殆非人所能知之。以泰和三年書偈，危坐而化，壽七十，臘六十二。荼毗，有百千蝴蝶自烈燄中飛出，化祥雲五色，現于空界，牙齒不壞，附遺骨而瘞于龍泉古寺。

法贇傳

法贇，兗州侯氏子。幼事嵫陽明首座為師。大定間，以誦經通得僧服，從事義理之學。根性穎利，同學者少所及。游參叩詰，洞見深秘。告山明和尚、靈岩才師，皆授以印記。尋領眾主告山，闡抉幽微。方世路清夷，禪林軌則未改，師道風藹然，為諸方所重。移兗州普照倅。路公宣叔潛心內乘，與師為法喜淘汰之游。師登座，宣叔朝服頂禮。法重身尊，哲勝傾下。然師沉嘿自守，不以文字言語驚流俗，為門戶計。住持不務修營，學者繁盛，動則蜂擁，迄無顯受灌頂者。其不輕許與如此。師有弟子曰汴公者，嗣法于亨虛明。亭亭直上，不為震雲凌雨之所摧偃。當龍興禁蕩之餘，破屋數椽，殘僧三四輩，灌園自給，不肯輕旁時貴之門。或贈之詩云：道大宜高謇，禪枯耐寂寥。蓋頭茅一把，繞腹篾三條。風味可想而見。其孤峻自拔，必有所從來，其自師乎？後汴歸自南哀。敘曰：汴落髮事師五六年，始避兵而南。比歸，師去世已久。師生于正隆初，而

歿于興定之末，年過六十。但以喪亂之後，時事凋殘，師之行事，無從考按。至於卒葬時日，亦不能知者，特汴未南渡時事耳。元好問據此以銘師塔。

義廣傳(道海)

義廣，汶陽人，生范氏。范氏故顯族，師自童稚，酷好讀釋氏書。年二十，竟削染，禮嵩山戒壇院威公為師而受具焉。厲志游參西之丹霞，質法于志禪師，眼光一瞬，鍼芥相投。志欲顯然付授，師知之而逃。嘗語人曰：由定發慧，必用毗尼為之室宇；去凡即聖，必以三昧為之軌道。苟學之未博，業之未精，其能至此乎？故一意精修，不以知見自滿。過方城寶泉山，為善士所擁，結茆以奉之，曰古佛堂。居數年，遂成大叢席，即今之普濟寺是也。師深入禪定，而以淨土為行，首戴華嚴、涅槃經，遶佛必五百匝，作禮必五百拜，持佛名日數萬遍，至夜儼然而坐，率以為常。如此者二十年，老而彌篤。或請為眾開堂演無上乘，師笑而不答。尋以老退居白蓮堂，以院事付道海。

道海恬退有至行，叅彰德淵公，頗有發明。師以方便致之，使不能辭也。海遂升座，為四眾說法，遠近傾皈。師喜，以付託得人。大安二年，說三偈，坐脫。海盡心後事。葬之日，送者五萬人，哀響震激。師戒守清潔，人無貴賤老少，一接之以慈。平生行業，所可紀錄者甚夥。師道價隆重，梁、鄭人宗之若一。佛出世時，歸戒壇定省。威公尚無恙，師奉侍克勤，事無巨細，皆親執之，不異為沙彌時。即此一節，亦人所難能。海之能下師，實師有所感之云。

海雲大士傳

印簡，山西之嵐谷寧遠人，姓宋氏，微子之後，生於金之泰和壬戌年。人品恢偉，童幼神悟。七歲，父授以孝經開宗明義章，乃曰：開者何宗？明者何義？父驚異，知非塵勞中人。携見傅戒顏公，顏欲觀其根器，授以草菴歌，至壞與不壞主元在，師問曰：主在何處？顏曰：何主？師曰：離壞不壞者。曰：此客也。師曰：主甓？顏沉吟而已。尋禮中觀沼公為師。十一，預恩納具。有洪彥上座問曰：于今受大戒了，緣何作小僧？師曰：緣僧小，故戒說大也。試問上座：戒老耶？小耶？曰：我身則老。語未終，師大聲曰：休生分別。一日，上座教僧去師背上拍一下，待回首，乃竪指示之。僧如教，拍師背，師便竪一指，座太奇之。師年十二，中觀聽師參問，誨之曰：汝所欲文字語言耳，向去皆止之，唯身心若槁木死

灰。今時及盡，功用純熟，悟解真實，大死一場，休有餘氣。到那時節，瞥然自肯，方與吾相見。師謹受教。一日，扶中觀行，觀曰：法燈禪師道：看他家事忙，且道承誰力？汝作麼生會？師將中觀手一掣，觀曰：這野狐精。師曰：喏，喏。師年十三，時成吉思皇帝征伐天下，師在寧遠，於城陷之際，稠人中俾師斂髻，師告曰：若從國儀，則失僧相也。遂獲如故。師年十八，元兵復取嵐城，四眾逃難解散，師獨侍中觀曰：吾年迫桑榆，汝方富有春秋，今此玉石俱焚，奚益？子可以去矣。師泣曰：因果無差，死生有命，安可離師求脫免乎？縱或得脫，亦非人子之心也。觀察師誠確，囑師曰：子向去朔漠，有大因緣，吾與子俱北渡矣。明日城降，元帥史天澤見師氣宇，問曰：爾何人？曰：我沙門也。史曰：食肉否？曰：何肉？史曰：人肉。師曰：人非獸也，虎豹尚不相食，況人乎？曰：今日兵刃之下，能無傷乎？師曰：必仗其外護者。史喜甚。又元帥李七哥問曰：爾既為僧，禪耶？教耶？師曰：禪教乃僧之羽翼也，如國之用人，必須文武兼濟。李曰：然則必也從何而住？師曰：二俱不住。李曰：爾何人也？師曰：佛師。復曰：吾師亦在於此。二公見師年幼，無所畏懼，應對不凡，即與往見中觀。聞觀教誨切至，乃大喜曰：有是父，必有是子也。相與禮觀為師，與師結金石之契。于是國王大加恩賜，延居興安香泉院，署中觀慈雲正覺大禪師，師寂照英悟大師，所需皆官給。及中觀示寂，師為乞食看塔。一夜，聞空中有聲召師名，師瞥然有省，乃遷居三峯道院。復問，人告曰：大事將成，行矣，無滯於此。黎明杖策之。燕過松鋪，值雨宿岩下，因擊火大悟，自捫面曰：今日始知眉橫鼻直，信道天下老和上不寐語。先是中觀垂寂，師問曰：某甲當依何人了此大事？觀曰：慶八十去。師既入燕，至大慶壽寺，乃省觀語，徑謁中和老人璋公。中和先一夕夢一異僧，策杖徑趍方丈，踞師子座。次日師至，中和笑曰：此子乃夜來所夢者。師問曰：某甲不來而來，作麼生相見？中和曰：叅須實參，悟須實悟，莫打野[打-丁+埋]。師曰：某甲因擊火迸散，乃知眉橫鼻直。和曰：我此處別。師曰：如何？和曰：牙是一口骨，耳是兩片皮。師曰：將謂別有？和曰：錯。師喝曰：草賊大敗。和休去。次日，和復舉臨濟兩堂首座齊下喝因緣，師竪拳一拍，當時丈堂震動，遂受中和印記出世。屢坐大道場，皆太師國王及諸重臣之命。師室中嘗以四無依語勘學者，無一當對揚者。一日廊中逢數僧，連問不契，皆被打。問最後一僧：汝那裏去？僧云：覓和上去。師云：覓他作麼？僧云：待痛與一頓。師云：將甚麼來打？僧四顧云：不將棒來。師連打四下云：這掠虛漢。眾皆走。師召云：諸上座。眾回首，師云：是甚麼？丁酉正月，加師先天鎮國大士之號。己亥冬，

命主大慶壽寺。壬寅，護必烈大王請師赴帳下，問佛法大意。王大悅，從師受菩提心戒。因奏曰：我釋迦氏之法，於廟堂之論，在王法正論品，理固昭然，非難非易，恐王者不能盡行也。又宜求天下大賢碩儒，問以古今治亂興亡之事，當有所聞也。王大悅，錫以珠襖、金錦無縫大衣，奉以師禮。將別王，王問：佛法此去，如何受持？師曰：信心難生，善根難發。今已發生，務須護持，專一不忘。不見三寶有過，恒念百姓不安。善撫綏，明賞罰，執政無私，任賢納諫，一切時中嘗行方便，皆佛法也。師既行，有一惡少肆言謗法，王按之，將加法焉。專使白師，師回啟云：明鏡當臺，妍媸自現；神鋒在掌，賞罰無私。若以正念現前，邪見外魔，殺之可矣。然王者當以仁恕為心乃可。王益敬焉。尋奉命統僧，賜白金萬兩，即昊天寺建大會，為國祈福。蒙哥皇帝即位，顧遇隆渥。丙夏辰，旭威烈王奉以金柱杖、金縷袈裟，求法語開示。七月，師會諸耆舊，錄所長物見數，令主後事。丁巳夏，說偈畢，師云：汝等少喧，吾欲偃息。侍僧急呼主事人至，師吉祥泊然而逝矣。世壽五十六，荼毗獲舍利無算。護必烈王為建塔於大慶壽寺之側，謚佛日圓明大師，望臨濟為十六世。

元　正因傳

正因，杭仁和金浦人，姓俞氏。宋嘉定六年生。出胎，紫胞瓊質，如蓮華捧足狀，頷下黑子出數毫盈寸。童年能先事而知，凡事不學自解。年十五，為人已疾，禦菑輒驗。從季父守常出家於殊勝寺，精修苦學，脇不至席者三年。每懽局於聞見，儗出游參請。時笑翁堪禪師道價傾動叢林，師往育王禮焉，翁始陽拒之，命坐下板。閱月，一夕聞霹靂聲，忽通身汗流，快爽如脫殼，拊掌大笑曰：如是，如是。亟入見翁，翁肯之，俾侍左右，因自號曰霹靂。初主徽州黃山之祥符，宋秀王諸孫蚤所賞識。治精藍霅水上，延之，或又以建康之保寧請，皆不就。尋以父喪歸金浦，迎母入寺中，以孝養終其天年。師受知穆陵最深，賜師號紫衣。宗藩戚畹，下逮閭巷信善，靡不皈依，以為真佛子也。杭既歸元，民生理未定，師為粥食餓者，日以千計。每歲佛懽喜日，設無遮會，普資冥福。世祖尋訪江南人物，御史中丞崔某言：杭州殊勝寺，因長老有異德，聘不能致。詔侍臣強起，至京引見，說法稱旨，退就集賢院，錫賚優厚。越五年，告老還山，宣授圓明通應禪師，詔公卿大夫名師宿德，設祖道都門外送之，以榮其歸。師在京時，當丁亥秋潦，饑民視昨逾甚，杭父老盼盼然，覬師言還而未得請，飛書勉其徒，悉出衣鉢之資，為續艱食，賴全活者甚眾。既還山，進諸弟子，語之曰：吾老

矣，山門營葺缺如，傾囊側囷非所靳，將鳩工度料，其相與亟圖之。眾翕樂以聽，各盡其力，不數年，殊勝為之煥然。未幾，示疾，勉弟子以道，曰：吾二十七日去矣。至期，端坐而寂，塔全身於後圃，世壽八十五，僧臘六十一。

元叟端禪師傳

行端，字元叟，族臨海何氏，世為儒家。年十一，從叔父茂上人得度於餘杭化城院。氣識淵邃，慨然以道自任。參藏叟老禪師于徑山，得旨。次至淨慈石林鞏公，處以記室。大德庚子，出世湖之資福，名聞京國，特旨賜慧文正辯禪師。行中書平章張公舉師住中天竺，復遷靈隱。有旨設水陸齋於金山，命師說法。竣事入覲，奏對稱旨，加賜佛日普炤之號。南歸，即退廬于良渚之西菴。至治壬戌，三宗四眾相率白於行宣政院，請師補徑山，仍闔奏請降璽書護持。師至是凡三被金襴之賜，人以為榮，而師漠如也。主徑山席三十年，足不越閫，道隆德重，諸方仰之。間作詩文，清絕古雅。林石田前輩居吳山，閉門無接，于師特敬慕之。嘗贈師以詩，有能吟天寶句，不廢嶺南禪之句。石田知師以詩，猶知見重，況知師以道者乎？先虎岩住徑山時，師為第一座。每聞巖法座上舉云：度宗為北兵攻急，命道士設大醮，奏章天廷，問國家重事。高公伏章，久不得報。既竣事，問故。高公云：為定徑山四十八代住持，天門不開，故得報遲也。巖舉此，謂住持非苟，然至於四十八代住持，尚預定之天庭。師聞，頗心非之。及師繼席，適當其次。至正辛巳示寂，窆全身於寂炤院，八十八歲也。

晦機熙禪師傳

元熙，字晦機，豫章唐氏子，世業儒。西山明覺院明公乃師族叔父，聚宗族子弟教世典。師與兄元齡俱習進士業，元齡既登第，師遂從明公祝髮焉。將游方，其母私具白金為裝，師謂財足以喪志，善言辭之，不持一錢以行。聞物初觀禪師闡化玉几，往依之。初與語，驚異，留侍左右。久之，謁東叟穎於南屏，命掌記。至元間，總統楊璉真珈奉旨取育王舍利，親詣師求記述舍利始末，因招以俱。師稚不欲行，善言辭曰：我有老母，兵後存亡不可知。遂歸江西。則元齡先以臨江通制，從文丞相起兵死，獨母在堂，師奉之以孝聞。元貞二年，始出世百丈。居十二載，法席振興。至大初，應淨慈請，入寺日，行省官屬俯伏致迎，師發揚宗旨，四方英衲一時輻輳。結制日，為眾上堂，以手作結布袋勢，云：南山今日結布袋

口了也，汝等諸人各各於中身心安居，平等性智。忽有箇衝開碧落、撞倒須彌底，莫道結子不堅密。良久，云：縵天網子百千重。說法脫略窠臼類如此。居七載，遷徑山，已而杖策歸南屏。百丈、大仰之徒聞師退閒，爭來迎致，師辭不獲已，遂返仰山。又三年而終，壽八十二，葬於金雞石下。其弟子在杭者，分爪髮塔于淨慈西隱。師嗣物初，初嗣北磵，磵則佛照之子。法脉淵源有自，故師身後之思，在學人為益深也。

水盛禪師傳

水盛，字竺源，自號無住翁，饒之樂平范氏子。十七依羅山院嘗公，嘗使從儒者學。而師每習禪定，且針指出血書金剛經。嘗呵之，師云：學儒可敵生死耶？從度走謁月庭忠公於蔣山，端坐一室，以三百六十骨節、八萬四千毫竅及山河大地咸攝入一念，始覺變易。繼凝定，雙瞳與合為一，汙從眥流，亦不知所楚。後三四日，見色聞聲漸搖撼不動，遂發願云：吾此生不能作佛，當入無間地獄也。傍觀者為之吐舌。俄過匡廬，止東林，復奮云：今夕必就蒲茵上死爾。即正襟趺坐，加精進力。夜參半，至極切孤危之際，捐命一躍，不覺如出荊棘之叢，所履之地忽爾平沉，而秋空素月連娟獨炤。返觀自身，湛湛澄澄，唯一念不忘耳。洎歸羅山，方全體頓現。偶閱妙喜明心見性非桑門事之辭，又復致疑。越五載，會孤舟濟公於蔣山，有所言不契，復往無為見無能教。公舉濟言質之，無能云：為汝不解故也。師忽大省，盡脫去玄妙知解。歷觀從前所悟，皆夢中爾。無能撫其背而記之云：爾後當大弘吾宗也。師辭去，東游四明、天童，已而歸息浮梁。既隱于南巢，巢民柳氏割山地建蘭若以棲師。地當五峯之下，舊有龍潭五所，聞師至，悉乘風雷徙去。天曆己巳，遣官以聘，起師主西湖之妙果。師弘闡宗旨，震撼四方，學徒一集，至有不遠萬里而來者。時已行役僧之令，師引退返南巢，故隱而嚮慕者愈眾。宗藩宣讓王累遣使者致師，師以老病固辭。淮西廉訪使斡公王倫徒、監察御史常公道夫尤極趍仰。集賢學士傅公立、月灣先生吳公存與師為世外交甚篤，月灣至有晚始聞道之歎。師常矚學徒云：凡剃髮染衣，當洞諸佛心宗，行解相應，以正悟之境靈靈自炤，歲久月深，具大無畏，如透水月華，萬浪千波觸之不散，方不被生死陰魔所惑。此師生平實證實悟者，故亦用是以誨人也。師制行峻絕，有壁立萬仞之意。廣信祝蕃遠嘗云：番陽竺源，吳中斷崖，其人類孤峯懸崖，可仰望而不可攀躋。人稱之為實錄。至正丁亥夏四月，召四眾戒飭之，引紙膝上書偈，端坐而逝。將葬，是夜有光如匹練，自天際下燭，交相通貫。未

幾，散布五峯之頂，復合於塔中，彌三夕乃止。巢之居民凡數十里聚觀，駭異之。世壽七十有二，僧臘五十又三。

一溪如公、本源達公傳

自如，閩人也。元兵下江南，師年少為游兵所掠，至臨安棄之而去。富民胡氏收養之，令伴其子弟讀書鄉塾。凡遇講書，輒凝神靜聽，嘿識無所遺忘。胡氏目之而喜，因子之。既長，命隸里中無相寺為僧，叅雲峯高公於徑山，得旨。師戒檢精嚴，法服應器不離體。初住浙江萬壽寺，後有大家黃氏重師道行，常供以伊蒲塞饌。一日請歸其家，進供愈勤，乃開私帑示所藏，金玉爛然，欲師一動其心。師顧而笑，師謂左右曰：彼黃氏以帑中寶示我，欲誘我死去為其子耳，殊不知我視此為糞土。古人墮此轍者何限，非但為其子，為其牛馬者有之。我自是其疎黃氏矣。天曆初，中天竺笑隱訴公奉詔開山大龍翔寺，因舉代住中天者三人，御筆點師名宣政院，具蔬敦請，化時靈異極多。

善達，字本源，仙居柴氏子。早年與及菴信公行脚，有高志，眼盖諸方。謁雪巖于大仰，隨眾無所咨請。後登雙徑，入雲峯之室。久之，蒙印可。師骨氣超然，律身行己，老而彌篤。保寧、淨慈、徑山三剎，皆海內大道場，師以次臨之。整叢林，御大眾，皆有成績可紀。丈室蕭然，圓蒲之外，一物烏有。夜則孤燭炷香，安坐至旦，率以為常。又體所稟與人異，遇嚴寒則衣絺綌，大熱則衣縕絮。以餘資建大圓院於東路半山，為雲侶食息小憩之地。一日，會眾敘平生行脚事畢，嗒焉長逝。二師同出雲峯之門，皆有奇骨，真難兄弟也。

橫川珙禪師傳

如珙，字子璞，永嘉林處士。娶宗正寺丞康公丕祖之女，舉三子，師其季也。生於宋嘉定壬午。處士以師孩孤狷潔，不肉食，難養於俗。其季父有為禪沙門者，名正則，年十五，從其祝髮預戒，後即行參訪。初從石田於靈隱，及癡絕至，猶留從之，然終疑礙無入。聞天目禮禪師太白眾盛，往投以疑，目訝其可受，為舉南山筆笋、東海烏賊，師儗對，目隨掌之，因忽有省，遂留給侍。國清斷橋，明眼謹肯，可求藏主得師，橋遷淨慈，為第一座。橋嘗言：第一座有行解，可師表。宰相乃以師領鴈山靈岩禪寺說法，嗣天目。師疾宗唱之濫，古響瘖鬱，於可不可、白黑無所諱，為提拈贊示，必崖聳標立，務特起以映於古，不少牽避於俗好惡，其辯強自勝若此。

然與人語，囁吻促刺不敢出，視之，巽愿人也。其蓄眾慈以誠，不為銜勒威控之術，或面諍抗倔不遜，旁聽皆憤，師終無所罰，更收拭進，使之不以忤己為銜。人始嫌其不威，久而懷之，舉遷能仁。丙子之亂，乃歸放牧寮，辭病閉臥不應外。至元二十年，忽有旨授師育王廣利禪寺，師愕眙謂非己，疑拒累月乃受。葢有奏於上者而不以告，其遷能仁亦然。自公選道廢，位以求得，惟師皆自至，時論榮之。師既引宗據祖，屏遏今學，年漸歲炙，以取慕信。當教法衰殘，諸老師物故，學者無所往，皆聚於師，故季年聲實喧震，傾撼天下。然師未嘗以望譽怙挾，慢略細故，雖瓦埏木植，羹菹辛醎碎屑之間，即眾所資仰，必盡其慮力，咸有跡可觀述。凡六年乃退。前退之歲，為藏穴寺側，曰：此菴將沒。造曰：吾旦日行矣。歸坐，書所以訣眾者而化，年六十八，至元二十六年三月也。師朴外少飾，中凝不雜，能持坦坦，不變於怒喜怨愛。晚居能仁，育王道益光，師亦懼於無傳，講誘孜孜，未有厭位却眾嗜閑意。或迫而欲之，則忻然避脫，棄比毛秕，不以進退順通懷蠆芥。弟子稟遺誡，窆全身于塔，師自預為塔銘及訣眾語，與所說法有錄，高安釋圓至序而行焉。

竹泉林禪師傳

法林，別號了幻台，寧海黃氏子。依太虛同公出家，看睦州語有省。參元叟於中竺，洞徹底蘊。東嶼在淨慈，招分半座，談說聳震，有古大老之風。竺原在浮山，得師提唱語，稱譽不置。尋美以偈，有五百眾中居上首，妙解堪作天人師之句。居蒙堂，不出戶者九年。行省脫歡公請主萬素，遷中竺。至元四年，主靈隱，順帝錫以金襴法衣。時寂炤在徑山，父子同時唱道，五山人以為盛事，大能翔席。虛行院致幣焉，師固辭。使者往返不已，師避于會稽山中。行院知不可強，仍請領靈隱。無何，退居了幻菴。至正十五年春，感疾，集諸徒敘平生本末，且誡之曰：佛法下衰，無甚於今，宜各努力，吾世緣止於斯矣。書偈曰：七十二年，虛空打橛。末後一句，不說不說。奄然而化。龕留十日，顏色不變。窆全身於松源塔西。塔前古桂，當春吐花，清香滿路，見者歎異。侍講學士黃晉卿目見其事，書塔銘中。

一關逵傳

正逵，字一關，番陽方氏子。初參晦機，語已逸格絕塵，機首肯，處以明窓。自是禪講諸老競以書聘，欲令出門下，逵不從。時端元

叟說法徑山，人尊之為當代妙喜，乃往從之。纔入門，叟厲聲一喝，若聞雷霆，黏縛盡脫，遽作禮，叟曰：汝果何所見耶？問答數轉，皆愜叟意，顧左右曰：是般若位中人也。遂錄為子，歸侍司，遷掌記。後出世金陵之崇，因帝師廉其賢，授以佛日普炤之號。

徑山新志云：逵見宋濂傳，而宋文集實無有。且帝師贈號同琦、楚石，楚石亦元叟之嗣。大都元叟法嗣滿天下，必有逵無疑。但不知新志據何書也，姑錄之以備考。

妙源傳

妙源，越州象山陳氏子。秉具觀方，遇緣而省，見僧流逐物遺道，憂之形于色，乃曰：不耐塵勞，心曷絲制？願習賤事以調伏之。寓本州天寧寺，歲大饑，赤足踵化以資眾。其師虛堂愚公不肯，下宰相吳潛。潛怒，繫之獄，辱之。師奉之惟謹，有疑而問，隨問而解，久之廓然。虛堂彈指曰：源乎！汝今太平矣。虛堂住徑山，春秋已老，俾師首眾學子林立寮下，與之析微闡妙，甚得虛堂心。虛堂曰：是可不一出為人乎？力贊主平江薦嚴，內外事不一廢。舉鼓山國清，辭不就。就泉州水陸院，治若薦嚴，而人益信慕之，愀然曰：吾寧久于是？携錫以歸。知者又議定水，曰：源公行堅望高，使力請，必不讓。以素所往來者通意，乃欣然而來，道聲益宏。或以儒釋異同為問，師曰：同感物而動，漢儒失之。繇是有不同焉。儒以治人為學，佛以治心為學。治人治心，其跡有異，而其道未始不同。人或過于侈，師誡之曰：祿損則福益，盍慎諸而已。布衣鐵服，終日尸坐，語徹機迅，奔電絕壑，不可遏制。稍斂戢，則瞬息在几席間。禪人仰之，士人宗之。精於詩，然不肯表襮。舊築在越之雲頂，將終，願解定水以歸，且命毋建塔，毋火化，以任其壞。其徒弗忍，卒瘞之。至元十八年也，世壽七十有五。

鐵山瓊禪師傳

瓊禪師脫胎，便知有佛法。十八，辭親事佛。二十二，圓頂被佛衣，造石霜學祥菴主，觀鼻端白，身心清淨。俄有僧自雪巖來，道欽禪師風範，即日腰包而[遄-而+王]。巖教單提無字，師依而行之。至第四夜，通身汗流，清快不可言。嗣見高峯妙公，始得工夫成片。後謁蒙山，山問：參禪到何地是畢工處？不能對。屢入室下語，只道欠在。一日，見三祖信心銘云：歸根得旨，隨照失宗。忽有省，舉似山，山云：又剝一層了也。大都箇事如剝珠相似，愈剝愈明淨，剝一剝勝他幾生功夫也。雖然，但下語猶只是欠在。一

日，定中忽觸着欠字，身心豁然，徹骨徹髓，如積雪卒然開霽，忍俊不住，跳下禪床，擒住山云：我欠少箇甚麼？山打三掌，師禮拜，山云：且喜數年一着子，今日方了。後住南嶽鐵山，為雪岩燒香曰：師不負我，實我負師。葢以離師太早，今日方見師用處也。師以出世為人非細事，孤峯、草菴磅礴一世，故法道不盛。或云師道行三韓，中峯本公所謂無端將戒、定、慧三學徧作漫天網子，向萬里鯨濤之東攔空一撒，直得高麗國僧俗二眾沸騰上下，奔趨往還。無極導公，師剃度弟子，別有傳。師之狀，短髮被額，顧聳而頤削，面色如菜。有普說一篇，詞義剴切，真末世光明幢，孤風壁立，不在古人後也。

淨日傳

淨日，號東巖，俗居南康之都昌，姓寥氏。幼絕葷，蔬果自持。十五祈親，祝髮廬山之香林。鮐背長身，圓相傑耀。訪道仰山、石霜，遂入浙叩癡絕。越二夏不契，登徑山見無準，準大許之。後謁西巖惠於天童。惠，無準大弟子也。其提示一秉于準，危機敏鋒，迎拒莫覩，風止水息，渙然帖順。遂密契其旨，卒服從之，俾守藏室。後開先無文，璨屈為第一座。璨亦禪俊出者，繇是譽聞益彰。宋景定中，江東帥汪立信慎許可，推以主圓通，繼領東林。至元壬辰，遷育王。未幾，歸隱雪竇。大德庚子，僉議主天童。師之行峻潔以完，語溫氣和，眾益得以親納其徒，俾明徹復性，不侈於言，解其蔓惑。處于世，若無所施為，遐邇嚮慕，緣福無踵而至，而於天童功最著。久居東林，他俗警，眾民爭繪以祝。故其興天童，廬山之民奉貲以助尤夥。生宋嘉定十四年辛巳，終至大元年戊申，年八十有八，臘七十有一。將示寂，戒弟子書韻語以示曰：天為葢兮地為函，吾奚為乎塔與菴？灰吾骨兮山河，言已矣兮勿鑱。越二日，沐浴端坐而逝。就化，齒根不壞，藏于西巖之清風塢。

補續高僧傳卷第十二

補續高僧傳卷第十三

明吳郡華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

元　至美傳

至美，石湖其號也，金陵畢氏子。生而穎粹，無經世意。出家崇目院，宋咸淳間得度，登戒品。脫略世故，銳志參訪，如玉澗瑩、雲峰高、月坡明，為海內大宗匠，皆預其席，稱上首。日與飽參多士，講磨奮厲於天風寒籟間，期厭初心乃已。最後見無文傳公於淨慈傳公，力行古道，典刑具存，龍象交馳，叢林蔚若。師傾心事之，盡揭源底。至元丁亥，都總統移文起師主吳之雙塔，瓣香為無文供報所自也。未幾，遷嘉禾之三塔寺。時三塔久廢，師訓之暇，篤以興廢補敝、植僵起仆為懷。鼎建養蒙堂，以處方來名勝。土木繁興，中外輪奐。寺產素瘠，增置腴田五百餘畝，以裕齋鉢。立長生庫，取月息為眾朔望祝聖焚修資。印贖大藏經文，雕補千佛聖像。寺之闕文，至師大備焉。築室東偏，扁曰幻修，計若將終焉者。既被旨住平江之靈巖，又遷鄱陽之永福、四明之育王。至順辛未，復以杭之淨慈起。所至孳孳，以弘道建立為己任，弗少懈。一日，召徒訓後事，囑幻修更為四禪名實稱者處之。默坐至夜午，泊然而逝，壽七十有四。議者謂師操履嚴簡，出處端詳，原始要終，而無間然，誠實錄也。

祖銘傳

祖銘，字古鼎，奉化應氏子。幼穎悟，不近葷食。稍長，學通百氏書，而尤嗜佛典。年十八，厭處塵俗，從金峨錫公學出世法。二十五得度，受具戒。出遊諸方，首依竺西坦公掌記室。復走閩浙，多所參訪，莫有契者。時元叟在靈隱，師往謁焉。一語之下，遂坦然無疑滯。久之，臻其閫奧，一時德譽藹著。所與交遊，皆雅望之士，去留為叢林重輕。而師愈謙抑自持，有以輿從為相迎者，悉謝絕之，唯杖履而已。順帝元統元年，師五十有四，始自徑山出住昌國之隆教。學者不憚步險，爭願趨往座下。後八年，遷普陀。浙東都元帥完者都公威震海上，而於師至，禮甚恭。日本商航數奉國命，盛賫金幣來聘，師每避去。未幾，遷中天竺。至正七年，還主徑山。師在中竺時，有童子仇姓者，從師荷包笠，夜宿蘇之承天

寺。見空中有一寶鼎，左右翼衛皆天神，若有所告曰：天帝以此鼎還賜徑山。詰旦，以事質其僧，曰：此必古鼎師還遷徑山也。因與之俱來，為求給役。俄而徑山命下，聞者異之。朝廷以師法席之盛，錫號慧性文敏宏學普濟禪師。十一年，潁豪亂作，師治妙明庵於放生池上，曰：吾將老於是。十七年，杭再受兵，師退而庵居。又數月，苗獠焚掠徑山，丞相達識帖木邇延師入雲居庵，暇則詣師問道，請禮彌篤。一日，請看經次，師惟默坐。公問：長老何不看經？師云：尋行數墨為看經耶？公無語。師翻經云：老僧看經，看經去也。公以手覆經云：請與說破。師云：伊尹、周公阿誰做？公遂領悟。已而示微疾，更衣危坐，致書丞相，囑以外護佛法之意。俄而指語其徒曰：觀世音、金臺至矣，吾平生兼修之功有驗也。乃大書偈曰：生死純真，太虛純滿。七十九年，搖籃繩斷。書已，擲筆而逝。留七日，顏貌如生。行院概郡府官僚，設俎奠於道。茶毗，舌根數珠不壞，得五色光舍利無算。建塔於徑山及隆教、普陀、青山。有四會語錄暨外集若干卷傳於世。師意度直率，不為緣飾。居處物用，清苦淡泊。晨興盥頮，以至浣濯，未嘗役童僕。自幼至耆年，未嘗少休。修淨業，禮觀音像，日必千拜。而於大法，洞徹玄微，開示直截，踔厲縱橫，應變無窮。雖門庭峻拔，若不可少殺。隨其夙器，慈悲誘掖，成就為多。至於文學，迺師之世業。里中袁文清公桷、金華胡公長孺、黃公溍、蜀郡虞文靖公集、長沙歐陽公玄，咸稱慕之。見諸文字者，舉可徵已。

無見覩傳(光菩薩附)

先覩，字無見，姓葉氏。世為天台仙居顯族，生於宋咸淳間。資性秀潁，幼絕腥醲。嗜讀書，過目成誦。父母素期以儒業成家。會沙門東洲善公者，過而識之，曰：此法器，宜無滯鄉里。父母諾之。從古田垕和尚薙染，即事徧參。見藏室珍公於天封方山，寶公於瑞岩西庵，而往來二公間。雖有所契，未臻其極。遂築室華頂峰，精苦自勵。一日作務次，渙然發省，平生凝滯，當下冰釋。乃走西庵呈所解，山以偈印之。辭還華頂，山不能留也。華頂高寒幽僻，人莫能久處。惟師一坐四十年，足未嘗輒越戶限。于方丈中，搆娑羅軒，開導學者。夢堂噩公序曰：至元大德間，無見覩禪師，以方山寶公之道唱東南。於是天下英俊之儔，高潔之侶，雄豪魁傑之倫，聞其風而神馳，覿其跡而心服，莫不襆肩[尸@憍]足，忍飢渴，冒寒暑，形駢影屬，以趨座下。禪師則呴之喻之，又從而呵怒之；憑之凌之，又從而撫矜之。飛而上，吾矰繳之；走而下，吾網罟之。吾惟其得而已，於弋椓之勤奚恤？金之鍛也器成，木之斲也材就，

宜其棄榮華而甘淡泊，黜聰明而返醇樸，靡然而就弟子之列，莫之牴牾也。以元元統甲戌五月望日，遺書謝道侶，說偈跏趺而逝。闍維，白乳如注，舍利凝積成五彩，瘞於寺之西偏，錫號真覺，塔曰寂光。門人輩集其法語、偈頓等成一卷，金華黃溍為序，刻而行之。師操行卓絕，邈在霄漢，下視塵凡，故及門皆切實生死之士。正傳之外，有曰光菩薩者，亦奇人，有回石頭之風。遍謁尊宿於師，言下了徹，伴影華頂，不復他之。年七十三，無疾而逝。本匠工以雕塑至光，人稱光菩薩云。

天目斷崖禪師

了義，德清人，俗姓楊，母張氏。宋景定癸亥舉。師六歲始能言，從其母誦法華經，人世事懵無所知，姿貌凝然，志若有所待。年十七，有僧遇之，舉高峰上堂語，師矍然起立，謂僧曰：能引我往見之乎？母具裝遣之行。見高峰於天目獅子巖之死關，以童子給侍左右，乃令提萬法歸一，一歸何處，因名之曰從一。他日，室中舉牛過窗櫺話，師擬開口，峰隨痛棒之，不覺墮於崖下。同學明通捫蘿接磴以救之，則已出半山，無所苦也。謂通曰：我機緣不在此，往江西見欽公去也。通曰：汝負老漢棒矣。即與還山之西禪庵，自誓曰：我七日不證則決去。端直堅壁，忘廢寢食，夜則攀樹露立達旦，未及所期，豁然大悟，馳至死關，呼曰：老和尚今日謾我不得。呈頌曰：大地山河一片雪，太陽一出便無蹤，自此不疑諸佛祖，更無南北與西東。明日，峰上堂云：我漫天網子打鳳羅龍，不曾遇得一蝦蟆，今日有蟭螟蟲撞入，三十年後向孤峰絕頂揚聲大叫去在。自此呵勵同學，言不少遜，乃曰：盡大地有一人發真歸源，我皆知之。峰歎其俊快。久參者媿焉，幾有命如懸絲之慮。遂歸德清，其母為賣簪珥，同入武康，上栢山，結茅以居。人見其混俗，罔測其意。峰召之還山，峰曰：大有人道你[掐-臼+也]泥帶水。師曰：兩眼對兩眼。峰為落髮受具，改名了義。元貞乙未，高峰示寂，師亦韜晦。或游禪林，居下板，孤峭嚴峻，不假借人辭色。或嬉笑怒罵，粗言穢語，人所不堪。或不因勸請，隨機開導，聲如奔雷。自是王公貴人爭相迎奉，布施充斥，視之漠如。以泰定三年歸坐祖山，學士大集，示眾曰：除却語默動靜，道將一句來。又曰：一息不來，向何處安身立命？答者皆不契。觀師就席之意，勉狥眾望，多非得已也。至順中，仁宗聞師道行，詔命宣政院使賫香入山宣問，敕有司加護。元統二年，賜號佛慧圓明正覺普度禪師。璽書未至山，而師化矣。前一日，召眾云：汝等克念先宗，弘揚大法，

念報佛恩，勿生懈怠。旦起，眾聞空中雷聲隱隱，師已跏趺就逝。世壽七十二，僧臘四十九。藏全身於獅子巖之後。

中峰普應國師傳

師諱明本，俗姓孫，錢塘人。母娠師時，夢無門開道者寄燈籠其家而生師。師生，至性不好弄，而好歌梵唄，結趺坐。髫鬌讀論、孟，未終卷，母喪輟學。年十五，輒然臂持戒，誓向空寂。久之，閱傳燈錄，有疑，志在參決，遂登死關見妙公。妙髮長不薙，衣弊不易，孤峭嚴冷，未嘗一啟齒而笑，亦未嘗為其徒剃落，獨見師即驩然欲為祝髮，蓋亦已知為大器焉。久之，誦金剛經，恍若開解者。師自謂識量疏通，於義趣無不融貫，然非性也。已薙染，給侍死關，入天目，於東南諸山最高寒，廩粟屋材，微飛輓則莫能至其上。師晝服力役，夜事禪定，十年脅膚不沾席。後於妙言下機旨洞契，妙以其克肖，書偈付之，師益自晦，未嘗以師道自任也。然而玉在山，珠在淵，其光氣自不可掩，況審之以咨決，重之以記剳哉！至元間，松江瞿霆□施田建寺於蓮花峰，號大覺正等禪寺。妙將遷化，以寺屬師，師辭。師每謂：住者必無上大道，其力可以開明人天；夙植福緣，其力可以蔭結徒眾；明智通變，其力可以酬酢事宜。故凡住持，道為之體，而緣與智為之用。有其體而缺其用，則化權不周，事儀不備，猶之可也。使無其體而徒倚其用，則雖處眾而眾歸，制事而事宜，亦不足言矣。況三者併缺，而冒焉尸之者，其於因果，能無懼乎？當五山缺主席，宰執大臣致書幣，屢以為請，師皆力辭。至於窮厓孤洲，草栖浪宿，屏遁其跡而避之。然四方學者，北殫龍漠，南踰六詔，西連身毒，東極搏桑，裹糧躡[尸@憍]，萬里奔走，而輻輳赴師者，殆無虛日。南詔僧玄鑒，素明教觀，辨博英發，如曰：吾聞大唐有禪宗，使審是耶，吾將從學。設或未當，吾將易其宗旨，而俾趨教觀。繇其國來，一聞師言，即悟昔非，洞發源底，方圖歸以倡其道，而沒於中吳。鑒之徒畫師像歸國，像出，神光燭天，南詔遂宗禪，奉師為禪宗第一祖。至治三年春三日，山木稼，其徒之老異之。秋八月甲子，師遂入寂，即山之西岡，塔其全身。未逝前一日，遣別其外護并法屬，一一皆師手書。是日白虹貫山，師世壽六十一，僧臘三十七矣。師所至，四眾傾慕，香茗金幣，拜禮供養，悉成寶坊。而師一衲一簞，未嘗屬目。人念其豐肌，暑月腠腐，奉葛衣以裨袢者，師一不以近體，他可知已。雖屢辭名山以自放，於山林江海，解縢屩，脫袍笠，在處結茆以居，一皆名曰幻住。蒲團禪板，晝作夜參，規程條章，井井森列，儀榘慎嚴，如臨千眾。至於激揚提唱，機用翕爚，

嬰之者膽喪，聞之者意消。每謂其教傳佛心宗，單提直指，惡有所謂微妙授受，惡有所謂言語依解哉。故於教法，欲救其弊，砭其病，皆以身先之。師之于物，洪纖高下，緩急後先，拒之不遺，接之不携。人雖見其發于悲願，而不知其一以誠，而匪事夫空言也。當世公卿大夫，如徐君威卿、鄭君鵬南、趙君子昂，一聞師之道，固已知敬，及親炙言容，無不歛慕終其身。江浙丞相脫驩公，最號嚴重，讀師之書，斂衽望拜。高麗瀋王，以天屬懿親，萬里函香拜禮，起謂左右曰：某閱人多矣，未有如師福德最勝者。獲師開示，涕泣感發。師躬已以究其道，豈有毫髮涉世意哉。然而其名不行而彰，其道不言而信，自非行戒相應，聲寔一致，永久益章而弗昧，亦何以致此哉。

石屋珙禪師傳

清珙，字石屋，蘇州常熟人，俗姓溫。母劉氏，生之夕有異光。及長，依崇福永惟出家，二十祝髮，越三年受具。走天目見高峰和尚，峰問：汝為何來？師曰：欲求大法。峯曰：大法豈易求邪？須然指香可也。師曰：某今日親見和尚。峰嘿器之，授以萬法歸一之語，三年罔所得。辭他行，峰曰：溫有瞎驢，淮有及庵，宜往見之。乃見及庵，庵問：何來？曰：天目。曰：有何指示？師曰：萬法歸一。庵曰：汝作麼生會？師無語，庵曰：此是死句，什麼害熱病底教汝與麼？師拜求指示，庵曰：有佛處不得住，無佛處急走過，意旨如何？師答：不契。庵曰：這箇亦是死句。師不覺汗下。後入室，庵再理前語詰之，師答：上馬見路。庵呵曰：在此六年，猶作這箇見解。師發憤去，途中忽舉首見風亭，豁然有省，回語庵曰：有佛處不得住也是死句，無佛處急走過也是死句，某今日會得活句了也。庵曰：汝作麼生會？師曰：清明時節雨初晴，黃鶯枝上分明語。庵頷之。久乃辭去，庵送之門，囑曰：已後與汝同龕。俄而庵遷湖之道場，師再參，命典藏鑰。庵常與眾言曰：此子乃法海中透網金鱗也。一眾刮目。後入霞霧山，卓庵名曰天湖。躬自薪蔬，吟咏自得，有終焉之志。既而當湖福源虛席致懇，師堅臥不起。或讓之曰：夫沙門者，當以弘法為重任。閒居獨善，何足言哉！遂幡然而行。龍象歸之，雲湧濤奔，唯恐或後。未幾，復還天湖。至正間，朝廷聞師名，降香幣以旌耆德。皇后錫金磨衲衣，人以為榮，師澹如也。至正壬辰秋七月二十有一日，示微疾，中夜與眾訣。其徒請問後事，索筆書曰：青山不着臭尸骸，死了何須掘土埋。顧我也無三昧火，光前絕後一堆柴。擲筆而逝。闍維，舍利五色，璨然無數。其徒收靈骨合及庵舍利，塔于天湖之原，示不忘同

龕之語。世壽八十有一，僧臘五十有四。弟子愚太古者，高麗國人。師說偈印可，有金鱗上直鉤之句。後歸王，尊之以為國師。數道師德，王甚渴仰。及師化，表達朝廷，詔謚佛慈慧照禪師。移文江浙，請淨慈平山林公入天湖，取師舍利之半，館伴歸國，建塔供養。師有上堂法語、山居偈頌、緝本盛行于世。

文述傳

文述，字無作，明之慈溪人。自幼不御不潔，讀書吾伊，入口輒成誦。既長，從師受五經，縱觀子史百家之書。閱佛書，忽心融神會，恍然如素習。即日白父母，願出家度生死。落髮于東溪牧公，得戒于大用諶公，參歷至徑山元叟端公，亟稱賞之，以為有道之器。過淨慈，謁海東嶼，亦見器許，然俱無所解悟。遂杖策入天童，見怪石奇禪師，與語契合。奇欲倚之以大其家，即令入室侍書。其後砥平石主是山，又掌藏鑰。諸山法侶遂籍籍聞師聲譽，咸願禮迎，宣演大法。會鳳躍山等慈法席虛行，宣政院起師主之。俄遷大梅之護聖。二剎皆衰陋，叢林儀範多廢缺。師至，申以約束，人人自律。至其為眾說法，則脫略窠臼，撥去枝葉，使聽者渙然無疑。名緇奇衲風靡而至，師之名益聞。帝師錫以覺智圓明之號。歸老於福昌，闢一軒於寺之左，扁曰舒嘯。湖海名德，若斷江、月江、商隱、夢堂諸公，皆迎致其中，修供養。縉紳之賢者，亦時時過從，為方外友。如柳道傳、黃晉卿、危太樸、李季和，尤號知己。年近七旬，益畏煩襍，退居花嶼湖。當白蓮盛開，月色娟好，趺坐一小艇，泛湖水中，清絕如須菩提，可畫也。居恒必蚤起，禮拜誦持，雖祁寒溽暑不懈。臨眾甚嚴，接賓朋則津然喜見眉目，抵掌笑語，滾滾不能休。有以為問者，師曰：成就後學，不可不肅客以歡來，故不然也。三山文海郁公，以一鉢行四方，每視其去留為重輕。然獨從師遊湖上，欽重愛戀，久而忘去。蓋閱世愈多，而情之所及者愈淡。乃更求深山密林，浩然長往，使人投笻頓足，以想見其風裁。皇慶二年九月，示疾終。

日本夢窗國師傳

智曜，更名疎石，字夢窗，姓源氏，勢州人，宇多天王九世孫。九歲出家，羣書一覽輒能記。暨長，繪死屍九變之相，獨坐觀想，慨然有求道志。一夜，夢遊中國疎山、石頭二剎，一龐眉僧持達磨像授之曰：爾善事之。寤而歎曰：洞明吾本心者，其唯禪觀乎。遂更名疎石。謁無隱範公，又見一山寧公，不甚契。後求指決于高峰

日，公於言下有省。因夕坐久，偶作倚壁勢，身忽仆去，豁然大悟。平生礙膺之物，冰解雪融，心眼爛然如月，佛祖玄機一時爍破。高峰囑其護持，且出其然無學元公手書一通[田/廾]之，以寓相傳付授之意。師志在烟霞出世，非所願聘致，皆力辭之。甲州之龍山庵、五臺山之吸江庵，與夫泊船庵、退耕庵、兜率內苑，皆師避隱之所。或慕迫之不已，至逃入海嶼以避之。春秋五十一。國主後醍醐天王強起師主南禪，入見引坐。師言所志求退，王曰：吾心非有他，欲朝夕問道耳。及王妃薨，強師再入南禪，請宣說大戒，執弟予禮彌謹，賜國師之號。王即世，太倉天王復從師受戒，願為弟子。敷宣之際，有二星降於庭，光如白日。兩宮國母請師於仙洞受五戒，廷議重師名德，復強師入天龍，錫師號正覺心宗。普濟遺以手書，其略曰：道振三朝，名飛四海。主天龍席，再轉法輪。秉佛祖權，數摧魔壘。國中以為榮。後化于兜率內院，世壽七十九，僧臘六十。弟子奉全身塔于院之後，送者黑白二萬餘人，皆哀慟不勝分。存日所翦爪髮，瘞於雲居，髮中累累生舍利云。師儀觀高朗，慧學淵深，凡所蒞止，如見一佛出世，香花供養，惟恐或後，故管領源公賴之。嘗與人言曰：我從先人聽國師劇談佛法，頗達真乘，遂能死生如一，臨事不懾，而先人竟死於忠。吾亦知委身以事君者，皆國師化導之力。然則師之道，非特究明心學，實足增其世教之重。且其抗志高明，視榮名利養，澹若無物，唯欲棲身林泉。雖屢典大剎，皆迫於王命而起，世稱大善知識，非師孰能當之？

宋文憲曰：宋南渡後，傳達磨氏之宗于日本者，自千光禪師榮西始。厥後無學元公以佛鑑範公之子，附海舶東游，大振厥宗。高峰纂而承之，師為高峰之遺胤。

松隱茂師傳

松隱茂禪師，字實庵，明奉化鄭氏子。自幼喜趺坐，十六依傳法寺希顏出家，使司米鹽細務。師歎曰：離家為求道，苟羈縶于此，何異狗苟蠅營者耶？乃潛行大江之西，見南澗泉公。師晝夜繫念，無須臾間斷。一夕，松月下炤，起步簷隙間，聞泉聲有觸，遽往白之泉公。泉公曰：此間尋常施設，不足發子大機大用，盍往見古林茂公乎？師即擔簦啟行。既至，古林問曰：爾來欲何為？師曰：正為生死事大，特來求出離爾。林曰：子明知四大五蘊是生死本根，何緣入此革囊耶？師擬議欲答，林以杖擊之，師豁然有所悟入。自是機辯峻絕，縱橫自如。林深器之，命居第一座。至正壬午，宣政院命長瑞雲之清涼，學徒奔湊，機鋒相加，如兔走鶻落，瞬目輒失。有沙門至，問對未竟，以手拍地而笑，師曰：滯貨何煩拈出耶？沙

門噓一聲，師厲聲喝之，沙門有省而去。住清凉十五年，時退隱東堂，影不出山，凝塵滿席。元明良公，師法姪也，迎歸天童之此軒。一旦示微疾，左右請書偈，師舉手指心曰：我此中廓然，何偈之為？端坐憑几，握右手為拳，以額枕之而逝，世壽八十五，臘七十。引龕行茶毗法，火方舉，忽有物飄洒晴空中，似雪非雪，霏微繽紛，盤旋烈燄之上，至火滅乃已，蓋天華云。火後，舍利如珠璣者頗眾。宋文憲序曰：濂聞方策所載，靈僧示滅，多有天華之祥。或者謂大乘境界，去來無迹，奚以神異為事？殊不知末習澆漓，人懷厭怠，苟無以聳動瞻視，何以表真悟而啟正信哉？示現微權，固與諸法實相同一揆，有如師者，其事蓋無讓於古云。

竺遠源公傳

正源，字竺遠，姓歐陽，南康人也。生之夕，梵僧見夢於其母。具戒後，參虛谷陵公。公以龍潭滅紙炬語問之，師對以焦石可破層冰。公曰：破後奚為？應之曰：探索乃知。公詰曰：所知者何事？方思對其語，公遽舉杖擊之，師悚然默喻。由是智開識融，外內無礙，而人歸之矣。出世凡五主巨剎，皆方鎮大臣遣使者所邀致。位尊而不以為榮，德盛而守之以謙。居道場，增室廬之未備；主徑山，掩亂兵之遺骼。在靈隱，樓閣皆為煨燼，惟師所居獨存，類有神以相之者。以元至正二十一年六月示寂，壽七十又三。塔全身于徑山，弟子分瘞爪髮于道場，舍利叢然乎其間。

桐江大公傳

紹大，吳氏子，世居嚴之桐江，故因以為號。師神觀孤潔，不樂處塵壒中，一觸世氛，唯恐有以涴之。具戒後，上雙徑謁大辨陵公，公道價傾東南，見師甚喜，授以心印。師退自計曰：如來大法，其止如斯而已乎？遽辭去，遍歷叢席，諸尊宿告之者不異徑山時，慨然曰：吾今而後知法之無異味也。乃歸見公，公俾給侍左右，師益加奮勵，脇不沾席者數載，朝叩夕咨，所以悟疑辨惑者無一髮遺憾，遂得自在無畏。尋以心法既明，而世出世智不可不竟，每夜敷席於地，映像前長明燈讀之，一大藏全文閱之至三過，皆通其旨趣，師之志猶未已。儒家言及老氏諸書，亦擇取而嚅嚌之，自是內外之學兩無所媿矣。出世凡三坐道場，學子翕集座下，甚至無席受之，能正容悟物，人見之意消。有求文句者，操筆立書，貫穿經論，而以第一義為歸。間遊戲翰墨，發為聲詩，冲和簡遠，有唐人遺風。至於有所建造，甃石運甓，躬任其勞，以為眾倡。手未嘗捉

金帛，悉屬之知因果者，或尤之，則曰：吾知主法而已。嘗患滯下疾，拭淨不忍用廁紙，摘菽葉充之。生平不畜長物，所服布袍，或十餘年不易報身。七十有四而化，維那發遺篋，欲行唱衣故事，唯紙衾一具而已，大笑而去。其刻苦蓋人之所不能堪，非見解正、力量弘，豈易致是哉？

千巖長禪師傳

元長，字無明，一號千巖，越之蕭山董氏子。七歲，經書過目成誦，出入蹈炬循囊，有若成人。年既長，從授經。師學法華經，指義而問，師弗能答。受具戒於靈芝寺。會行丞相府飯僧，師隨眾入中峰。本公在座，見師即呼問曰：汝日用何如？對曰：唯念佛爾。公曰：佛今何在？師方儗議，公厲聲喝之。師遂作禮求指示，公以無字授之，遂縛禪于靈隱山中。後又隨順世緣，將十載矣。一旦，喟然歎曰：生平志氣充塞乾坤，乃今作甕中醯雞耶？即復入靈隱山危坐，脇不沾席者三年。因往望亭，聞雀聲有省，亟見本公。公復斥之，師憤然來歸。夜將寂，忽鼠翻食猫之器，墮地有聲，遂大悟，如蟬蛻汙濁之中，浮遊玄間，上天下地，一時清朗。被衣待旦，復往質於公。公問曰：趕州何故云無？對曰：鼠餐猫飯。公曰：未也。對曰：飯器破矣。公曰：破後云何？對曰：築碎方甓。公乃微笑，祝令護持，時節若至，其理自彰。師既受付囑，乃隱天龍之東庵，耽悅禪味，不與外緣。有二蛇日來，環遶座下，師為說皈戒，蛇矯首低昂，作拜勢而去，自是聲光日顯。笑隱方主中竺，力薦起之，丞相脫歡亦遣使迫師出世，皆不聽。無何，諸山爭相勸請，師度不為時所容，杖錫踰濤江而東，至烏傷之伏龍山，誓曰：山若有水，吾將止焉。俄山泉溢出，作白乳色，師遂依大樹以居，實泰定丁卯冬十月也。久之，鄉民翕然宗之。邑大姓二樓君為之創，因舊號建大伽藍，重樓傑閣，端門廣術，輝映林谷。內而齊、魯、燕、趙、秦、隴、閩、蜀，外而日本、三韓、八番、羅甸、交趾、琉球，莫不奔赴膜拜，咨決心學，至有求道之切，斷臂師前，以見志者。朝廷三遣重臣，降名香以寵嘉之。江淮雄藩，若宣讓王，則下令加護其教；若鎮南王，則親書寺額，賜僧伽黎衣及師號。帝師亦再降旨，俾勢家無有所侵陵，并錫大禪師之號。資政院又為啟于東朝，命朝臣製師號，并金襴法衣以賜焉。師疎眉秀目，豐頤美髯，才思英發，頃刻千偈，包含無量妙義，得其片言，皆珍惜寶護惟謹。論者謂師踐履真實，談辨迅利，或無媿于智覺云。至正丁酉，師年七十有四，示微疾，會眾書偈云：平生饒舌，今日敗闕，一句轟天，正法眼滅。遂投筆而逝。弟子輩用陶器函蓋，奉全

身瘞于青松庵。宋文憲銘之，其序曰：濂初往伏龍山見師，師吐言如奔雷，時濂方尚氣，頗欲屈之，相與詰難數千言，不契而退。越二年，又往見焉，師問曰：聞君閱盡一大藏教，有諸？濂曰：然。曰：耳閱乎？抑目觀也？曰：亦目觀爾。曰：使目之能觀者，君謂誰耶？濂揚眉向之，於是相視一笑。自是厥後，知師之道超出有無，實非凡情之可窺測，因締為方外交，垂三十年。其激揚義諦，往來尺牘之在篋衍者，墨尚濕也。雖纏于世相，不能有所證入，而相知最深，銘非濂為而孰宜？其為名賢追慕之如此。

無用貴師傳

守貴，字無用，別號水庵，婺之甄氏子。其家業於耕樵，每使之行饁田間，師志弗樂，乃同鄉童子從師學詩書。年十八，入里之康侯山為僧，所事叢脞，師又弗樂，棄之往浙水西，日以問道為事。適千巖長公縛禪于龍華，往拜之，授以向上一機，冥參默究，恍若有所契。龍華與天龍院鄰，天龍沙門平大道務起廢之，挽千巖主之。及千巖走烏傷，復與之俱。山有廢剎曰聖壽，千巖新之，命師領其徒。至正丙戌，還天龍，復往參中峰本公、斷崖義公、梁山寬公，其反覆叩答，不異見千巖時。既而退居嘉興，建庵為逸老計。忽一夜，夢大道來別曰：吾已棄人間世矣。師大驚，急拏舟往視之，大道果告寂，因名所居庵為應夢。師自是復主天龍。天龍素無恒產，募齋民二千家，每臨食時，輒取一小甌聚之養四眾。凡大道未竟之業，師殫志畢慮，為造僧室與演法堂，堂上為閣，以安吳越錢氏所造大悲尊像。又買並寺之地以為蔬畦，而寺制所有者，小大咸飾，隱然如大伽藍矣。辛丑八月，作偈一首，副以高麗淨瓶，寄別行省丞相達識公。明日沐浴，索筆書頌曰：一蝸舁殼，內外穢惡。撒手便行，虛空振鐸。天龍一指今猶昨。擲筆而化，世壽七十有二。丞相加歎，遣官為具後事，奉全身塔於西岡。師平生不畜長物，寒暑唯一布衣，戒行甚峻，常落一齒，左右櫝藏之，中生舍利，五色燁然，日見增長云。

日本古先原公傳

印原，字古先，相州藤氏子。藤為國中貴族，師生有異徵，垂髫時輒刻木為佛陀像，持以印空，人異之。十三剃髮受具戒，徧歷諸師戶庭，咸無所證入，乃嘅然歎曰：中夏乃佛法淵藪，盍往求之乎？于是絕鯨波之險，奮然南游。初參無見頂公於天台華頂，公語之曰：汝緣不在此，中峰本公現說法杭之天目山，爐韝正赤，此真汝

導師，宜急行。師即蓬累而出，往見中峰。中峰一見，遽命給侍左右，屢呈見解，輒遭呵斥，退而涕泣，至于飲食皆廢。中峰憐其誠懇，乃謂之曰：此心包羅萬象，迷則生死，悟則涅槃。生死之迷固是未易驅斥，涅槃之悟猶是入眼金塵。當知般若如大火聚，近之則焦頭爛額，唯存不退轉一念，生與同生、死與同死，自然與道相符。脫使未悟之際，千釋迦、萬慈氏傾出四大海水入汝耳根，總是虛妄塵勞，皆非究竟之事也。師聞，遍身汗下，益厲精猛。積之之久，忽有所省，現前境界一白無際，中峰印之。復見諸大老，皆無異詞。會清拙澄公將入日本，建立法幢，師送至四明。澄公曰：子能同歸，以輔成我乎？師曰：雲水之蹤，無住無心，何不可之有？即攝衣升舟。其後澄公能化行於遐邇者，皆師之力也。然瓣香酹法乳，的歸之中峰。師化大行，專以流通大法，建立梵宮為事。若丹州之願勝，津州之保壽，江州之普門，信州之盛典，房州之天寧，皆鬱然成大蘭若。而建長之西，復創廣德庵，命其徒守之。如慧林、等持、真如、萬壽、淨智，皆師受請弘化之剎，勞績之見不與焉。年度比丘千餘人，非所度而受法稱弟子者不與焉。師臨眾端嚴，見者若未易親。及聞其誨者，溫若春陽，莫不悅服而去。人有來求法語偈頌者，濡毫之頃，翩翩數百言，曾不經意，皆契合真如。師不自以為是也，取語錄并外集投火中，曰：吾祖不立文字，留此糟粕何為？門人欲畫師像，預索贊語。師作一圓相，題其上曰：妙相圓明，如如不動。觸處相逢，是何面孔？其方便為人皆類此。甲寅春正月，坐化于長壽院。

福源傳

福源，字古淵，賜號佛性普明大禪師。師生太原李氏，李氏故舊族，歷唐、宋，以儒業為顯官。祖奉訓大夫、知南陽令珪，舉二子：長德英，登進士；次威大將軍珍明，師父也。母蘇氏，長齋奉佛，誦金剛觀音經，為日課不少怠。一夕，夢老僧捧僧伽黎付之，覺而有娠。生時多祥瑞，父母愛之，授書不讀，而以栗麥子紀念觀音。父怒撻之，師泣告曰：兒願學佛，不願選官也。父益怒，驅使辱之，復閉之空室，絕其食，庶有回心。師執志愈堅，父母不得已，攜送妙覺院，禮朗公為師而披剃焉。受具，習大乘經論。興定中，元兵南下，師潛遯山谷間，食樹皮草根，得不死，恨至道未聞。事定後，走真定西牛，見廓樂老人，一公機語相入，一公五坐道場，師為侍者。後見圓明照公，照一日舉僧問雲門啐啄之機，門云：響。問師：汝如何會？對曰：今日痛領和尚一問。曰：意旨如何？對曰：一聲齊和處，千古意分明。照化，師復見一公，公曰：

源侍者，汝來也，親切處道一句看。師進前曰：即日恭惟和尚尊候萬福。曰：如何是佛法大意？對曰：滿口牙是骨，耳朵兩片皮。公作色曰：何曾見圓明來？師問：如何是佛法大意？公喝之。師擬議，公便打曰：滿口牙是骨，耳朵兩片皮。師忽省作禮，一公印之以偈。出世凡三，主大剎于潭柘最久，不動聲色而起振頹廢，聲價重諸方。師具智慧力，開折攝門，不避強禦，魔闡必挫，善類必植，故能開田居山，整洪規，敦後學，繼古德之風。太師國王錫海雲宗師摩衲大衣，海雲以授師，師瓣香寔歸廓樂，不以海雲厚己而異其志。海雲嘗謂人曰：源公天性真淳，有節義，特立世表，人不得而親疎之，堂堂乎了事本色人也。以至元某年坐化，塔於潭柘。其與萬松老人多和炤公諸耆宿唱酬此事，問答機衡，師語尤為逸格。既大興潭柘，功成而弗居，退處東庵，若不知者，其巽退如是。然性孤硬，諸方以源鐵橛稱之。

無極導師傳

無極導禪師者，吳興趙氏子，宋宗室也。母計氏，素慕佛乘。咸淳四年十月將誕，夢白光盈室者三夕。師之生，未嘗啼哭。元兵下江南，居民逃散，母攜之，匿苫中。游兵俘母去，父求之，遇害。某氏憐其孤兒，育於家。稍長，常語人曰：誰無父母？吾父死，將奈何？母被俘而北，吾願畢此生以求見。不然，何以生於天地間耶？啼泣誓於觀音大士，日暮必二千拜，期以見母。凡藝事苟可款曲近人者，雖至汙賤，甘為之。遂隱於刀鑷，以行走十寒暑，至河間之樂壽縣。有老翁示其處，葢貴宦家，見母而不能辯。師乃稱己乳名，與內外族媚抱持慟哭，哀動路人。母曰：吾不幸至此，朝夕禱天乞歸。此雖富貴，從汝歸，死足矣。然居此久，容徐圖之。踰年，言於官，而後奉母以南。因請曰：母子相離二十有三年，幸而見母，皆佛菩薩力。乃製竹輿，坐母其上，負戴以行，十步則輟而拜，至普陀洛伽山而返。猶以未足以報親，報親莫如入道，遂從銕山瓊禪師落髮，咨叩玄要，深坐崖庵。晝則以菅，夜則霜露凝寒，豺虎交前，弗顧也。及庵信公說法道場，山侍母進謁，益奪烈堅忍，脇不傅席。過杭之淨慈，值無有元公與語，器之。偶泛湖，聞漁歌，脫然有省，走證元公。公隔窗語師曰：此間無爾棲迹處。師拂衣去。尋築慈照庵於弁山之陽，母以念佛三昧終於庵。既葬，一夕，空中有白衣人語曰：緣在宜興。乃得玉峰，於萬山之中建寂炤禪院，又於邑東北作中隱院，接雲水往來者，宜興之人翕然宗之。以至順三年正月六日，無疾趺坐而化，世壽六十五，僧臘三十。闍維，舍利無算，分塔于寂炤、中隱二處。左丞危素為之銘曰：建炎

渡江乘六龍，維城布護多其宗。吳興近輔友徐隆，熊羆奄至迅如風。孤兒父母迍苦中，父死母俘兒莫從。天地遠，河山重，呱呱夜哭天蒙蒙。歸依大士極嚴恭，隱身刀鑷冀母逢。十年瀛州覩音容，迎歸苕霅歡聲同。一朝剪髮辭樊籠，禪林叩擊師瓊公。欸聆漁歌萬念空，前後際斷無初終。西游荊溪隱玉峰，寂而能炤真圓通。巖巖兩塔樹柏松，史氏著銘示無窮。

同新傳

同新，字仲益，別號月泉，燕都房山郭氏子。從鞍山堅公祝髮，能以苦行事眾，日執役，夜讀經，聰慧頓發。欲尋諸方，向同行訴參訪之意，同行雜笑之，師不勝憤，書偈於壁而去，曰：氣宇衝霄大丈夫，尋常溝瀆豈能拘？手提三尺吹毛劒，直取驪龍頷下珠。謁清安方公，公問：欲行千里，一步為初，如何是最初一步？師叉手進前，公曰：果是脚根不點地。師拂袖便出。復見大明曇公，杖拂之下，多所資發，終以礙膺，未盡思還。清安方公固無恙，示以惡粹鉗槌，又三年，方始豁然晦迹。未久，耆宿擁而歸鞍山，海雲簡禪師寔為之首，林泉倫公為引座度衣，一音纔舉，萬眾驩呼。大元皇帝御宇，帝師發斯八，命師主濟南靈巖寺。時雲水四集，師毋德之不，無賢愚之別，繇是口語紛然，師引退歸鞍山，眾遮留不可。師每念兵火薦經，藏教殘闕，學士無從獲覩其完，于是厚損衣鉢，并倡愜同志，自走江南購求之。載罹寒暑，跋涉艱難，始獲全文而歸。遠近奔赴，皆得見聞隨喜，不翅白馬西來也。山東東西道提刑耶律公相訪，以祖道迎往濟南觀音院結夏。師疾作矣，呼侍僧示以法要，說偈云：咄憨皮袋，兀底相殃。伎倆不解，思想全忘。來無所從，去亦無方。六鑿空空，四達皇皇。且道這箇還有質礙也無？良久，云：撒手便行，雲天茫茫。偈畢，儼然而逝。世壽六十有六，僧臘四十有五。師性豪邁，道眼清明，接運有機變，長韻語，善談論，麈尾一揚，傾座聳聽，終日而無厭也。且滑稽辯給，人不敢以輕率觸，有雪竇持之風。茶毗時，送者萬人，香花彩幡，塞路不可行。非道化入人之深，烏能至是？誠一代英傑衲子也。

覺宗傳

覺宗，字道玄，別號松溪，扶風南氏子。世業儒，母陳氏，奉佛彌謹。每歲首，嘗過法門寺飯僧。一日晝寢，夢法門坦公授己玉像，高僅寸許，己接而吞之，遂娠。陳氏告其夫，夫遣人過寺候之，坦公適其日化去。因相誓曰：若得一子，必令出家事佛。誕之日，室

有光，空鳴梵音，聞者驚異。既成童，絕葷茹，無戲弄，喜於靜處跏趺。父母以師不忘宿因，將行其誓。會蒙古兵入境，父子不能相保，師被執入武川，給侍軍主太傅公，淳謹異他侍。太傅公奇之，許令出家。乃詣姚川青山寺林法師處剃度，因泣下曰：吾父母安在？兒今已出家矣。不三年，通諸經，從武川英公聽華嚴疏。五年，揭其底蘊，游神華藏海中，縱橫得妙，座下龍象無出師右者，繇是名稱遠聞。自以說食不可期飽，走見聖因。聖因，老禪匠也，問曰：聞子情華嚴，何不開講度生？來此何為？師曰：生死事大。因曰：自從識得曹溪路，了知生死不相關。子如何會？師擬議，因喝之。師出，因召云：上座！師回首，因曰：分明認取。師領其旨。次日，上方丈曰：昨日蒙和尚一喝，某甲有箇見處。因曰：試舉看。師拂袖便出，因笑而可之。憲宗元年，磬山令遺書聖因，求主靈山法席者。因曰：無如覺宗。遂以師應命，行之以偈曰：十載志如鐵，玄關皆透徹。跳出荊棘林，踏破澄潭月。好向孤峰頂上行，靈光獨耀無時節。師升堂說法，十餘年間，眾至數千，增飾佛宇，金碧之輝，炤映泉石，叢林所宜，有無不畢備。靈山復大振，與諸鉅剎齒。至元四年，潭柘龍泉住持文公退隱西堂，師補其處，法席視靈山為尤盛。師道貌修整，臨眾儼然，人望之生畏敬心。然門庭孤峻，不以一言之合、一機之契便爾許可，必潛觀嘿審，了然無疑於心，然後首一肯，故衲子望崖而退者居多。以至元某年坐蛻，塔于潭柘。

明孜傳

明孜，字舜田，浙之黃巖人。童幼讀書，記性絕人，內典過目，輒神解心領。往仙居三學寺，禮雪山景公落髮。聞天童坦禪師道望，詣之，一見問曰：達磨不東來，二祖不西往，其意云何？師應聲曰：金不博金，水不洗水。坦曰：此子機鋒敏絕，宗門令器也。因遍參耆碩，若古林茂公、竺原道公、東州永公、元叟端公、東嶼海公，尤器重之。時日溪泳公居天寧，拉掌三藏，相與激揚宗旨，聲譽益著。泰定初，始領陀，如天台之淨惠、仙居之廣度、處州之連山，皆師敷座處。尋謝院，歸隱鴈山，為登高臨深久計。而丞相別怯里不花強起王天寧，辭不獲，乃笑曰：出處隨緣爾。遂行。先是寺毀于火，師至，升堂集眾，揚言曰：吾徒赤手，尚能有所建立，況茲寺力猶可為乎。於是眾志堅一，施財以資經始。曾不踰年，而穹殿突堂，重門修廡，凡樓閣庫藏之製，靡不雄偉壯麗，內外秩然。行院上師行，錫金襴衣、佛智普慧之號。師法輪初軔時，每為三學諸宿所牽，曰：此吾師受經地，其可使為他山重乎。如斯至

再，累歷望剎說法。時眾林立捧擁，氣肅如秋。閑則詩文自娛而已。嘗即中峰下闢室以居，松下畜一鶴，自號鶴松主人。每朝夕瀹茗款客，引鶴起舞，顧影踾躚，翛然自得，外慮不入于心。忽一日鶴死，賦詩悼之。不踰年，師亦厭世矣。師生赤城黃巖之野，赫然名動東南。生能被恩寵於朝，死能使公卿貴人奔走歎惜。非其卓行高識有以異乎人者，其何以致是。

坱圠傳

坱圠子，姓蔣，號清谷，不知何許人。年二十五，涉獵經史，言辭簡遂，髽首垢面，動靜不羈。至正初，抵松江，坐大古圜室，已則歷市廛[狂-王+羊]狂，人呼為風子。一夕，叩府人沈蒲團門，家人拒之不肯去，且告之曰：將蒲團來坐我。沈異之，擲一蒲團，導詣蔬圃草蓬中宴坐。沈徐瞎啟之，有所省，發輒委俗，傾身服役為弟子。緜是人多崇尚，爭施與，因以其地為庵，即所號為扁。乃融然一室，足不踰閫者三年。嘗有問者曰：近思錄定，然後始有光明，是金丹否？答曰：賢且去味中庸。又嘗手詩示沈云：萬紫千紅總是春，何須饒舌問東君。啞人得夢向誰說，豎起空拳指白雲。又云：不偏不倚立于中，不著西邊不著東。超出東西南北外，一毫頭上釣蒼龍。一日，進沈曰：吾乘化盡矣，若等勉之。言絕而蛻。

元湛傳

元湛，號秋江，不知何許人。操守端靖，久從禪者遊，有所發明，行息無定。一日，杖錫至松巖，愛其山水深秀，不忍去，乃趺坐石上，荊棘圍繞，風露凄苦。是夜，有二虎環其左右，若相衛護者。湛命之伏，虎皆伏，湛以手枕虎背熟睡，遲明虎去，如是者屢夕。山民聞之，以為神，即其處翬阿蘭若奉之。湛不交世事，不應檀齋，雖皈依者踵繼，開道之外，不雜塵俗，一語漠如也。將化，別眾就龕，說偈曰：洗浴著衣生祭了，跏趺宴坐入龕藏。花開鐵樹泥牛吼，一月長輝天地光。又謂其眾曰：後十五年，寺當火，啟吾龕，則火可止。至期果然，眾匍匐開龕，見其神色如生，爪髮皆長，復封固瘞之。或云：湛得法寶，方山斷橋倫禪師之法孫也。
補續高僧傳卷第十三

補續高僧傳卷第十四

明吳門華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

明　廣慧及禪師傳

智及，字以中，蘇之吳縣顧氏子。入海雲院，祝髮受具戒。聞賢首家講法界觀，往聽之。未及終章，莞爾笑曰：一真法界，圓同太虛。但涉言辭，即成賸法。遂走建業，謁廣智於龍翔。微露文彩，廣智賞異之。尤為閩國王清獻公所敬。有同袍嶼上人者，訶之曰：子才俊爽若此，不思荷負大法，甘作詩騷奴僕乎？無盡燈偈所謂黃葉飄飄者，不知作何見解？師舌禁不能答。即歸海雲，胸中如礙巨石。踰月，忽見秋葉吹墜於庭，豁然有省，喜不自勝。乃走徑山，見元叟。叟勘辯之，師應對無滯。遂命執侍，遷主藏室。至正壬午，行院舉師出世昌國隆教，轉普慈。未幾，行省達識公延主淨慈。兵燹之餘，艱窘危厲，人所不能堪。師運量有方，軌範峻整，綽有承平遺風。遷主雙徑。　皇明龍興，詔有道碩僧集天界，師居首焉。以病不及召對，　賜還穹窿山，即海雲也。戊午八月，忽示微疾。至九月四日，書偈而逝。其徒以遺骨藏山之陰，分爪髮歸徑山，於無等才公塔左瘞焉。閱世六十八，臘五十一。師長深山立，昂然如孤松在壑。威令嚴肅，其下無敢方命，故所至百廢具興。然處事達變，接引後進，又如春風時雨之及物，使人不自知。元帝師以為賢，錫師六字，師號曰明辯正宗廣慧云。

玉泉璉禪師傳

宗璉，合州石照人，董氏子。幼時有僧過其家，目師爽異，指燈試問之曰：燈照汝，汝照燈耶？師曰：燈亦不照我，我亦不炤燈，中間無一物，兩處見功能。僧訝之，勉令參訪，歷叢席。後于月菴果公言下知歸，開法于玉泉，扁其室曰窮谷。劉錡鎮荊南，造訪，問其命名之義，師曰：心盡曰窮，性凝曰谷，隨響應聲，不疾而速。其應對機辯類如此，不減皓公也。嘗云：此事不在有言，不在無言，不礙有言，不礙無言。古人垂一言半句，正如國家兵器，不得已而用之，橫說豎說，秖要控人入處，其實不在章句上。今時不能一逕徹證根源，秖以語言文字而為至道，一句來一句去，喚作禪道，正似鄭州出曹門。從上宗師會中，往往真箇以行脚為事者，纔

有疑處，便對眾決擇，祇一句下見地明白，造佛祖直指不傳之宗，與諸有情盡未來際同得同證，猶未是泊頭處，豈是空開唇皮、胡言漢語來(云云) ？如此開示，亦剴切條明，能作人之氣。未詳師所終。

月林鏡公傳

月林鏡公，杭人也。少穎異，稺齡出家剃染，專意淨業。間叩名碩，俾參本來人，久之有省。偈曰：本來人，本來人，無胸無頭作麼尋？驀然揪着箇鼻孔，試勘元來是白丁。碩見睨視曰：可是。師與一摑，繇是名振一時。出世住徑山，當第八十代也。進士張公寧疏詞曰：宓以舞鳳飛龍，五結青蓮于天目；靈雞馴兔，一鑑光徹于祖師。地既白靈，天其有待。恭惟新命徑山堂上大和尚鏡公月林禪師，瑞芝三秀，古柏十圍，得正度於無傳，嗣妙法於東嶼。頃者五百間，清風淨掃，人望方歸；邇來三千年，優鉢猛開，王氣猶在。起龍暝於下界，興象教於中衰。丞相開選佛場，和尚悟出世法，乘流而行，遇徑而止。命當年國一，亦起於崑山；容首度坡仙，重游於方丈。凡吾方外之友，盡讚僧中此郎。師住徑塢，行止雖失傳，然想見其人，致時賢詠歎如此，是必有大過人者。不然，堂堂海內名山，天龍瞻仰之位，豈空乏者所能承當耶？正德乙卯歸寂，年八十六，塔凌霄峰之東崖。

復原報公傳

福報，字復原，台之臨海人，姓方氏。稟父母命，往杭之梁渚崇福院出家。時石湖美公主淨慈一見器之，為祝髮。徑山元叟端禪師門庭嚴峻，師以己事未明，往咨決之。叟問：近離何處？曰：淨慈。叟云：來何為？曰：久慕和尚道風，特來禮拜。叟云：趙州見南泉作麼生？曰：頭頂天，脚踏地。叟云：見後如何？曰：饑來喫飯睡來眠。叟云：何處學得這虗頭來？曰：今日親見和尚。叟頷之，命居侍司，升掌藏鑰。久之，出世慈溪之廬山、越州之東山、四明之智門。　洪武初，被有道徵，與徑塢以中及上竺日章俱赴京，館天界。屢入　內庭，應對稱　旨。留三年，賜還智門，菴於寺東，扁曰海印，為終焉之計。俄徑山虗席，強師補其處。說法云：舉一不得舉二，放過一着落在第二。古人恁麼說話，正是抱贓叫屈。東山即不然，舉二不得舉一，放過一著落在第七。到這裏，須知有向上一路始得。如何是向上一路？良久，云：莫種寒巖異草青，坐却白雲總不妙。前住山象原，經始佛殿，未就而終。師力完之，其費則

出於姑蘇葛德潤氏。忽一日，得疾甚革，侍者請偈。師叱曰：吾世壽尚有三年。已而果然。及化之日，拍手曰：阿呵呵！大眾是甚麼看取？竟寂，年八十四。窆全身於寂炤之右岡。

楚石琦禪師傳

梵琦，楚石其字也，小字曇耀，明州象山人，姓朱氏。父杲，母張氏。張夢日墜懷而生師，方在襁褓中，有神僧摩其頂曰：此佛日也，他時能炤燭昏衢乎？人因名之為曇耀云。年七歲，靈性穎發，讀書即了大義。或問：所嗜何言？即應聲曰：君子喻於義。至於屬句倣書，皆度越餘子，遠近號為奇童。九歲，棄俗入永祚，受經於訥翁謨師。尋依晉翁詢師於湖之崇恩。詢師，師之從族祖也。趙魏公見師器之，為鬻僧牒，得薙染為沙門。繼往杭之昭慶，受具足戒，年已十有六矣。詢師遷住道場，師為侍者。居亡何，命司藏室閱首楞嚴經，至緣見因明，暗成無見處，恍然有省。歷覽羣書，不假師授，文句自通。然膠於名相，未能釋去纏縛。聞元叟端公倡道雙徑，師往問云：言發非聲，色前不物，其意何如？元叟就以師語詰之，師方擬議欲答，元叟叱之使出。自是羣疑塞胸，如填鉅石。會英宗詔粉黃金為泥書大藏經，有司以師善書，選上燕都。一夕，聞西城樓鼓動，汗如雨下，拊几笑曰：徑山鼻孔，今日入吾手矣。因成一偈，有拾得紅爐一點雪，却是黃河六月冰之句。翩然南旋，再入雙徑。元叟見師氣貌充然，謂曰：西來密意，喜子得之矣。遽處以第一座，且言妙喜大法盡在於師。有來參叩者，多令師辨決之。元泰定中，行宣政院稔師之名，命出世。海鹽之福臻，遂升主永祚。永祚，師受經之地，為創大寶閣，範銅鑄賢劫千佛，而毗盧遮那及文殊師利、普賢千手眼觀音諸像並寘其中。復造塔婆七級，崇二百四十餘尺。功垂就，勢偏將壓，師禱之，夜乃大風雨。居氓聞鬼神相語曰：天寧塔偏，亟往救之。遲明，塔正如初。遷杭之報國，轉嘉興之本覺，更搆萬佛閣九楹間，宏偉壯麗，儼如天宮下移人世。帝師嘉其行業，賜以佛日普炤慧辯禪師之號。佛日頗符昔日神僧之言，識者異焉。會報恩光孝虛席，僉謂報恩一郡巨剎，非師莫能居之。師勉徇眾請而往，尋退隱永祚，築西齋為終焉之計。至正癸卯，州大夫強師主其寺事。時塔燬於兵，師重成之。景瓚為鑄寶壺冠于顛，感天花異香之祥，師舉景瓚為代，復歸老於西齋。入我　明洪武元年，　詔江南大浮屠十餘人於蔣山禪寺作大法會，師實預其列，升座說法，以聳人天龍鬼之聽，　上大悅。二年春，復如之，錫宴文樓下，親承　顧問。暨還，出內府白金以賜。三年之秋，　上以神鬼情狀幽微難測，意遺經當有明文妙柬，僧中通三藏

之說者問焉。師以夢堂噩公、行中仁公對，同館於大天界寺，　上命儀曹勞之。既而援據經論成書，將入朝敷奏，師忽示微疾。越四日，趣左右具浴更衣，索筆書偈曰：真性圓明，本無生滅。木馬夜鳴，西方日出。書畢，謂夢堂曰：師兄，我將去矣。夢堂曰：子去何之？師曰：西方爾。夢堂曰：西方有佛，東方無佛耶？師厲聲一喝，泊然而化。時禁火葬，禮部以聞，　上特命從其教。荼毗之餘，齒牙舌根數珠咸不壞，設利粘綴遺骨，纍纍然如珠。弟子奉骨及諸不壞者歸海鹽，建塔於天寧永祚禪寺葬焉。世壽七十五，僧臘六十三。其說法機用，則見於六會語；其游戲翰墨，則見於和天台三聖及永明壽、陶潛、林逋諸作。別有淨土詩、慈氏上生偈、北游、鳳山、西齋三集，通合若干卷，並傳於世。師為人形軀短小，而神觀精朗，舉明正法，滂沛演迤，有不知其所窮。凡所涖之處，黑白嚮慕，如水歸壑，一彈指間，湧殿飛樓，上插雲際，未嘗見師有作。君子謂師縱橫自如，應物無迹，山川出雲，雷蟠電掣，神功收斂，寂寞無聲。繇是內而燕、齊、秦、楚，外而日本、高麗，咨決心要，奔走座下，得師片言，裝潢襲藏，不翅拱璧。師可謂無愧妙喜諸孫者矣。

靈隱性原明禪師傳

慧明，字性原，別號幻隱，台之黃巖項氏子。母陳氏，七歲患疽幾死，置牀上忽不見。已而求得之，問其故，曰：頃睡中有四童子舁至此，識者知師為天神所祐矣。既長，不甘處俗，往依溫之寶冠東山魯公出家。謁竺元道公於仙居紫籜山，咨問心要，不大省發。去叅徑山元叟，叟問：東嶺來？西嶺來？指草鞋對曰：此是三文錢買得。叟曰：未在，更道。師曰：某甲只如此，和尚如何？叟曰：念汝遠來，放汝三十棒。師乃悟其旨。久之，遂罄底蘊，執侍掌藏鑰。未幾，出世鄴之五峰，遷金峨。　洪武五年，與泐季潭同奉詔入京。季潭被　旨住天界，延師居第一座，提綱舉要，得表率叢林體。俄而補金山。十一年，升住靈隱，學徒坌集，宗道大振。師始至，經畫大雄殿，僅一載而落成，巍然山峙。嘗室中垂語曰：蓮華峰被蜉蝣食却半邊，為何不知？又云：冷泉亭吞却壑雷亭即不問，南高峰與北高峰闢額是第幾機？罕有契之者。住靈隱十周寒暑，無何寺火，無孑遺逮捕。或勸師早自為計，師不顧，怡然詣有司。未鞫，即廡下說偈，端坐而逝，壽六十九也。

天鏡瀞禪師傳

元瀞，字天鏡，別號樸隱，越之會稽人。父倪機，母嚴氏。師初以童子出家，領昭慶濡律師戒，嶷然有遠志。韓莊節公性教之為文，伸紙引墨，思源源不可遏，公深加歎賞。既而從天岸濟法師習天台教，盡得其學。台宗諸老競以書聘之，欲令出門下，師不從。元叟端公說法雙徑，人尊之為當代妙喜，師往從之。入門，叟厲聲一喝，師若聞雷霆聲，黏縛盡脫。遽稽首作禮，復問答三四轉，皆愜叟意，遂錄為子，使掌記室。久之，游建業，謁全悟訢公於大龍翔寺。全悟門風高峻，不輕許可，見師特甚稱之。繼往臨川，謁虞文靖公集，虞公尤稱之，留九十日而還。他若黃文獻公溍、蒙古忠介公泰不華、翰林學士危公素，其同辭稱師，無異於虞公，名聞行宣政院。元至正十六年，請師出世會稽長慶寺，陞天衣萬壽禪寺。四方問道者聞風來歸，師以氣衰，倦於將迎，營精舍一區而歸老焉，即山陰和塔是也。我　太祖龍興，師與鍾山法會之選，與東溟目公、碧峰金公特被召入　內庭，從容問道，　賜食而退。已而辭歸和塔，若將終身焉。未幾，靈隱虛席，諸山交致疏幣，延師主之。師不得已而赴，未及期年而崇德之禍作矣。師入院甫浹日，寺之左右序言曰：寺政實繁，乏都寺僧司之。師曰：若等盍選其人乎？眾咸曰：有德現者稱多才，昔掌崇德莊田，能闢其萊蕪以食四眾。倘以功舉，誰曰不然？師諾之。先是，勤舊有聞，歆現之獲田利，率無賴比丘請於前主僧代之。及現之被選也，大懼，發其奸私，走崇德縣列現過失，縣令丞寘不問。適健令至，上其事刑部。刑部訊鞫既得實，以師為寺長，失於簡察，法當緣坐，移符逮師。或謂師曰：此三年前事爾，況師實不知，且不識聞，宜自辯訴可也。師笑曰：定業其可逃乎？至部，部主吏問曰：現之犯禁，爾知之乎？曰：知之。曰：既知之，當書責款以上。師即操觚如吏言。尚書暨侍郎覽之大驚，咸曰：師當今名德也，惡宜有是？洊審之，務得其情。師了無異辭，于是皆謫陝西為民。聞亦大悔，且泣曰：聞草芥耳，豈意上累師德，蚤知至此，雖萬死不為也。師弗顧。行至寶應，謂從者曰：吾四體稍異常時，報身殆將盡乎！夜宿寧國寺，寺住持故師舊識，相見甚懽。師女弟之夫陳義安宦移鳳陽，以道經寺中，師悅曰：吾遺骸有所托矣。是夕共飯，猶備言遷謫之故，不見有憊色。明旦，忽端坐合爪，連稱無量壽佛之名，泊然而逝，實洪武十一年正月十九日也。義安等為其龕斂以俟。師之季父至道盡然傷心，遣其法孫梵譯走寶應，携骨而還，骨間舍利叢布如珠。縣大夫及薦紳之流來觀，皆歎息而去。其徒結窀於和塔祖壠之側瘞焉，壽六十七，臘五十三。三會語有錄二卷，詩文曰樸園集。師容貌魁偉，襟懷煦然如春，世間機穽押闔之術，不識為何物。性尚風義，斷江恩公與師締忘年交。斷江卒，師為刊布詩集，復請虞公銘

其塔。三主名山，起費補壞，具有成績。其敷闡大論，發揮先哲釋門，每於師是賴，千百人中不能一二見焉。竟以無罪謫死，苟不歸之於定業，將誰尤哉！

夢堂噩公傳

曇噩，字無夢，自號酉菴，慈溪王氏子。祖申舉進士於宋，父祿任於元，母周夫人。師生六歲而喪父，夫人命從鄉校師游，氣岸高騫，有一日千里之意。無書不探，學文於胡長孺，藻思濬發，縱橫逆順，隨意之所欲言，聲名頓出諸老生上。已而心有所感，歎曰：攻書修辭，此世間相爾，曷若求出世法乎？遂別夫人，走長蘆，禮雪庭傳公，薙髮為僧，春秋二十有三矣。具戒後，游心於教，復棄教而即禪。及雪庭遷靈隱，師往侍焉。雪庭示寂，元叟端公來補其處。元叟風規嚴峻，非宿學之士，莫敢闖其門。師直前咨叩，了無畏懼，機鋒交觸，情想路絕，自一轉至于六七，語愈朗烈，元叟欣然頷之。延佑初，詔建水陸大會於金山，名浮屠賢士大夫畢集，師佐元叟敷陳法要，及與羣公辯論，義趣英發，莫不推敬。鎮南王聞之，延至廣陵，尊禮備至，彌年方遣重紀。至元五年，浙東帥閫合府公邑令，請師出世慶元之保聖，再遷慈溪之開壽，三轉於國清。師所至，皆以荷擔大法為己任，煅煉學徒，孳孳如不及，多有開悟之者。瑞龍院易甲乙住持為禪剎，師為開山，院因賴以增重，直與名伽藍相齊。海上颶風發，驟雨如注，層樓修廊俱仆，師所居亦就壓，人意師蘧粉矣，亟撤其覆索之。一鉅木橫搘榻上，師危坐其下，若神物為之護者。師凡四坐道場，去留信緣，皆略無凝滯，不久引退。叢林慕其名德之高，每闢室以居之。師教戒諸徒曰：吾與爾等研究空宗，當外形骸，忘寢食，以消累劫宿習，然後心地光明耳。自是日唯一食，終夜凝坐，以達於旦。　洪武二年，就有道徵館於天界寺。既奏對，　上憫其年耄，放令還山。越四年，無疾而終，年八十有九矣。遺言云：三界空華，如風捲烟。六塵幻影，如湯澆雪。亘古亘今，唯一性獨存。吾之幻軀，今將入滅。滅後闍維，煅骨為塵，不可建塔以累後世。師修身廣顙，昂然如鶴峙雞羣，文思泉湧。有持卷軸求詩文者，積如束筍。當風日晴美，從容就席，縱筆疾揮，須臾皆盡。長短精粗，無不合作。袁文清公嘗指師謂人曰：此阿羅漢中人也。觀其為文，駸駸逼古作者。渡江以來，諸賢蹈襲蘇、李，以雄快直致為誇，相帥成風，積弊幾二百年。不意山林枯槁之士，乃能自奮至於斯也。翰林學士張公翥曰：噩師儀觀偉而重，戒行嚴而潔，文章簡而古。禪海尊宿，今一人耳。其為縉紳所推許類若此。師平生著作甚富，悉不存稿。晚年重

修歷代高僧傳，筆力遒勁，識者謂有得於太史遷。日本國王雖僻在東夷，亦慕師道行，屢發疏迎致之，師堅不往。王與左右謀，欲劫以歸。浙江宣慰使完者都藏之，獲免。自是厥後，凡遇師手蹟，必重購之而去，且詫其能放異光云。其為海外所欽重如此。

泐季泐傳

宗泐，台之臨海人，字季潭，別號全室。八歲從訴笑隱學佛，十四薙落，二十受具。洪武四年住徑山。　太祖高皇帝徵江南有道浮屠，師應召稱　旨，命住天界。　上丕建廣薦法會於蔣山太平興國寺，宿齋室，却葷肉不御者一月。服皮弁，搢玉珪，上殿面大雄氏，行拜獻禮者三。　詔集幽爽引入殿，致三佛之禮，　命師陞座說法。　上臨幸，賜膳無虛日。每和其詩，稱為泐翁。十年冬，詔師箋釋心經、金剛、楞伽三經，製讚佛樂章。丁巳奉使西域，還朝授右街善世，因命育髮。將授以儒職，師姑奉命。至髮長，　上召而官之。師再辭求免，願終釋門。　上嘉歎從之，賜免官說以旌其志。相城道衍負奇志，搖膝高吟，傍若無人。師每正色責之曰：此豈釋子語耶？學士宋公濂嘗讚師像曰：笑隱之子，晦機之孫。具大福德，足以荷擔佛法；證大智慧，足以攝伏魔軍。悟四喝二玄於彈指，合千經萬論於一門。向上關如塗毒鼓，撾之必死；殺活機類金剛劒，觸之則奔。屢鎮名山，教孚遐邇；　詔陞京剎，名溢朝紳。夙受記於靈山之會，今簡知於　萬乘之尊。雲漢昭回，　天章錫和於全帙；寵恩優渥，　玉音召對於紫宸。屹中流之砥柱，轉大地之法輪。信為十方禪林之領袖，而與古德同道同倫者耶！後追治胡惟庸黨，及師著做散僧，執役建寺。徐察其非辜，取還，復領右善世。居無何，以老賜歸槎峰。渡江，示寂于江浦之石佛寺。師博通古今，凡經書過目輒成誦。善為詞章，有全室集行於世。國初高僧，師與復見心齊名。見心疎放，師謹密，故其得禍為尤輕。噫！亦幸耳。

孤峰德禪師傳

明德，號孤峰，明之昌國朱氏子。其父有成，母黃氏。父與普陀山僧玠公交。玠聞雞聲入道，凡說法必鼓翅為雞號。玠亡已久，母夢玠來託宿，覺而有娠，歷十四月而生。不好戲弄，每跏趺端坐。十七為大僧，慨然有求道之志。首謁竺西坦公於天童，復見晦機熙公於淨慈。二老首肯之，而師弗自是也。繇是益自策厲，以必證為期。抵雙林，見明極俊公。一見之頃，塤篪協應，命司藏鑰。會日

本遣使迎明極為國師，師送至海濱。而竺田霖公亦自雪竇至，見師氣貌不凡，延歸山中，以第一座處之。自是羣疑頓釋，且邀仲芳倫公結菴於桃花塢，相與激揚。暇則翻閱華嚴經，足不踰戶限者凡五載，名稱日聞。竺田歎曰：人天眼目，儼然猶在。行宣政院請住松江之東禪然香，以嗣竺田，不忘所證也。再遷集慶之保寧，一坐十五夏。煅煉來學，曲盡善巧。有餘力則為之興廢補壞，細大不遺，令譽益彰。一時名薦紳莫不願與師交。三遷湖之道場。閱二年，會淨慈虛席，行省丞相康里公固迎師主之。當元季，戎馬紛紜，國事已不可為矣。逮入　聖朝，師以耄年謝歸道場竹林菴。一日示微疾，戒其徒勿令四眾衣麻哭泣，索觚書偈而逝，壽七十九也。荼毗，頂骨不壞，舍利累累出灰燼中。塔于東岡，學士宋景濂為之銘。

介菴良大師傳

輔良，字用貞，介菴其號。蘇州吳縣范氏子，文正公之十葉孫也。年十五，依迎福院薙染圓具。時笑隱住集慶之龍翔，法道宣振。師往見之，問答之際，棒喝兼施，凡情頓喪。他日，笑隱拈語詰之，師發言愈厲。笑隱哂曰：得則得矣，奈第二義何？師弗懈，益虔。久之，乃契入雲空川流，了無留礙。笑隱曰：乃知吾不爾欺。出世秀之資，聖越之天章，移杭之中天竺。時海內大亂，兵燹相仍，南北兩山諸剎，皆化為烈焰。靈隱古稱絕勝覺場，凉烟白草，凄迷于夕照之間，過者為之興歎。康里公為浙行省丞相，妙揀名僧能任起廢者，莫師為宜，懇命居之。師既至，剪剔荊叢，葺茅為廬，以棲四方學者。雖當凋零之秋，開示徒眾，語尤激切。其言有曰：達磨一宗，陵夷殆盡。汝等用力，如救頭然可也。然百千法門，無量妙義，於一毫端可以周知。如知之，變大地為黃金，受之當無所讓。否則，遺素餐之愧矣。歲月流電，向上之事，汝等急自進修。參學之士，多有因其語而入者。化緣既周，手疏衣貲，入公帑，散交游。顧謂左右曰：翌日巳時，吾逝矣。及期，澡浴坐而寂。師性簡直，雖面折人過，而胸中無留物。與人交，無少長，一以誠相遇。所造偈詞，初不經意，而語出渾成，有若宿搆。舉揚大法，不務緣飾，而西來之旨自明。復以淨土觀門，若海舟航，時兼修之，未嘗少怠。其所見蓋卓然云。

南石文琇禪師傳

南石文琇禪師，儒釋兼修，宗說俱妙，負超卓之才，懷奇偉之氣。行中仁公住靈巖，得和尚，猶慈明之得黃龍也。後和尚出世，瓣香嗣公，不忘所自。初住蘇之普門，次靈巖，三遷主萬壽。未幾，退隱吳淞之上，日與山翁野老說無義語為樂，而大忘人世也。逮我　明　聖天子即位，　詔天下儒釋道流深通文義者纂脩　大典，和尚應　詔而起，留京三年。書完，值　國家建報恩大齋會，和尚預焉。居無何，杭之住持缺席，僧錄曰公舉非南石和尚不可，于是欣然遂行。南州溥洽贈以詩云：緇袍如水赴瑤京，愛子相過雙眼明。豈有文章追李杜，敢言傳習到台衡。青燈夜雨寒牕約，黃葉秋風故國情。見說生公還聚石，扁舟早繫闔閭城。　洪武十一年，　皇上以萬機之暇，愍念吾徒為佛弟子者鮮能精通教典、深究禪學，得頒　睿旨，俾習般若心經、金剛楞伽，晝則講演，夜則坐禪，務期曉達。師因說七偈以贊，初首云：　聖皇親受靈山記，手執金輪御萬方。　詔諭僧徒令講習，叢林頓覺有輝光。末首云：窮通教典與參禪，是大因緣非小緣。幸遇　聖君能注意，吾徒何事不加鞭。有普門、靈巖、徑山語錄及佛祖贊一卷行世，後未攷所終。

白菴金禪師傳

力金，字西白，吳郡姚氏子。七歲穎悟異常，一日請於母曰：兒患世相起滅不常，將求出世間法可乎？母曰：出家甚苦，爾年幼豈能堪之？曰：兒心樂之，自無苦也。請之不已，母知其志不可奪，俾依吳縣寶積院道原衍法師。後見古鼎銘公于徑山，悟人甚深，聲光燁燁起叢林間。至正丁酉出世，住蘇之瑞光。會嘉興天寧寺災，郡守貳咸以非師不足起其廢，具幣遣使力迎致之。師至未久，儼如兜率天宮下現人世，經過者無不瞻禮贊歎。帝師大寶法王賢師之行，授師以徽號。師自幼喪父，唯有母存，乃去城一舍築孤雲菴以奉養焉。或議之，師喻之曰：爾不見編蒲陳尊宿乎？何言之易易也。洪武改元，有　旨起師住持大天界寺。萬機之暇，時召入內庭，奏對多稱　旨。葢師精通西竺典及東魯諸書，其與薦紳談論霏霏如吐玉屑，故咸樂與之游。四年，命師總持鍾山法會，凡儀制規式皆堪傳永久。尋以母年耄，舉徑山泐公自代，復還菴居。五年冬，　詔復建會如。四年，　大駕臨幸，詔師闡揚第一義諦，自公侯以至庶僚環而聽之，靡不悅服。一日，忽示弟子曰：吾有夙因未了，必當酧之，汝等勿以世相遇我。未幾，示微疾，謝去，醫飲藥食委順而化，荼毗舍利無算，觀者競取之而去。師神觀秀偉，智辯縱橫，以宗教為己任，不畜私財，得財施輒舉以給貧者，誠法門之偉人也。

覺原曇禪師傳

慧曇，字覺原，天台人。依越之法果寺。時廣智笑隱訢公說法中天竺，師造焉，備陳求道之切。廣智斥曰：從外入者，決非家珍。道在自己，豈向人求耶？師退，凝然獨坐一室，久之無所入。廣智一日舉百丈野狐話，師大悟曰：佛法落我手矣。廣智曰：爾見何道理，敢爾大言？師展雙手曰：不直一文錢。廣智頷之。丙申，王師定建業，師謁　上於轅門。　上見師氣貌異甞，歎曰：此福德僧也。命主蔣山太平興國禪寺。時當儉歲，師化食以給其眾，無闕乏者。山下田人多欲隸軍籍，師懼寺田蕪廢，請於　上而歸之。山之林木為樵所剪伐，師又陳奏。　上封一劒授師曰：敢有伐木者斬。山木賴以全。踰年丁酉，改龍翔為天界，　詔師主之。每設廣薦法會，師必升座，舉宣法要。　車駕親帥羣臣幸臨，恩數優渥。遠邇學徒聞風奔赴，堂筵至無所容。先是，僧堂寮庫，有司權以貯戎器，久而不歸。　上見焉，亟命出之。洪武元年，開善世院，秩視從二品。特授師演梵善世利國崇教大禪師，住持大天界寺，統諸山釋教事。降　誥命，俾服紫方袍。章逢之士以釋氏為世蠹，請滅除之。　上以其章示師，師曰：孔子以佛為西方聖人，以此知真儒不必非釋，非釋必非真儒也。　上亦以佛陰翊王度，却不聽。庚戌夏，奉使西域。辛亥秋，至省合剌國，布宣　天子威德。其國王喜甚，館于佛山寺，待以師禮。一日，呼左右謂曰：予不能復命矣。跏趺端坐，夜參半，問云：日將出否？曰：未也。已而復問，至於四三，曰：日出矣。恬然而逝。其日葢丙子云。踰五日，顏貌如生。王大敬歎，斲香為棺，聚香代薪，築壇而茶毗之。師廣顙豐頤，平頂大耳，面作紅玉色，耳白如珂雪，目光爛爛射人。學者見之，不威而懾；及即之也，盎然而春溫。其遇禪徒，隨機而應，未甞務為奇巧，聞者自然有所悟入。雖位隆望重，恒處之若寒素，無毫髮自矜意。為人寡言笑，喜怒任真，不能以貴賤異其顏色。然毗翊宗教，無一息敢忘。廣廈細旃之間，從容　召對，據經持論，每罄竭蘊蓄。松園之復，釋道私租之免，皆師之所請也。

一源寧公傳

永寧一源字也。自號虗幻子。淮東通州朱氏子。朱氏故宦族。六歲入鄉校。能了經籍大義。九歲離俗。依族姻模上人於利和寺。河南王童奇其幼而器之。屬僧司給牒度為沙門。自是蓬累出游。歷見諸禪老無所契。于焦子山精修禪定。稍涉睡昏。則戴沙運甓懸板坐空。如是者五年。至淮西太湖山。求證於無用寬公。公門庭嚴峻。

師方入戶。厲聲叱出之。師作禮於戶外。合爪而立。久之乃許。入見問曰：何處人。師曰：通州。曰：淮海近日盈虛若何。曰：沃日滔天不存涓滴。曰：不著槽道。曰：請和尚道。公便喝。師退就禪室。徹夜不寐。一旦聞公舉雲門一念不起語。聲未絕有省。公命舉偈。偈罷振威一喝。師曰：喝作麼。公曰：東瓜山前吞匾擔。捉住清風剝了皮。師不覺通身汗下曰：今日方知和尚用處。執侍三年。因以斷崖義所贊己像。親署一花書授師曰：汝緣在浙。逢龍即住。遇池便居。延祐中往廣德。縛茅於大洞中居之。無何宜興之龍池。請師建立禪居。師以名符懸記。欣然赴之。結屋數十間。命曰禹門興化菴。山顛有龍池。龍出每大水。民甚苦之。師召龍受三皈戒。龍不復出。師居之久。復厭其未幽窅也。擇絕巘作室以居。至壁立如削處。斲木為棧。鉤環連鎖。棲板於空中。足不越戶限者二年。師以退隱為心。間迫於不得已。勉一出焉。俄以疾歸龍池。至正壬午，江南行宣政院命師主大華藏寺，師舉龍門膺代之。明年，復命補天童，師堅以疾辭。宋文憲謂師得法之後，固拳拳以庶人為急，及主大剎，屢退養龍池，雖天童實廁五山，亦搖首弗顧。其高風峻節，如祥麟威鳳，可望而不可即，何其賢耶！至正戊子，有旨趣入說法於龍光殿，上悅，賜金襴法衣、玉環師號。尋奉旨函香至五臺，感祥光五道之瑞，陛辭南還。道趣維揚，鎮南王率嬪妃等延師入宮，稟受大戒，遣司馬護還龍池。入我　明洪武己酉夏六月，示微疾，屬弟子裁紙製內外衣，曰：吾將逝矣。或以藥劑進，麾去之。自興化菴移龕至絕巘所居，昧爽，師起沐浴，服紙衣，索筆書偈云：七十八年守拙，明明一場敗闕。泥牛海底翻身，六月炎天飛雪。書畢，側臥而化。荼毗，現五色光，齒牙舌輪及所持數珠皆不壞，舍利無算。烟至中林，亦纍纍然生，人競折枝取之。淘汰灰土，獲者亦眾。門人等分餘骨與不壞者五處，建塔焉。師氣貌雄偉，身長七尺有餘，吐音洪亮。其接物也，不以貴賤異其心，所至無不傾向。若中書右丞相朵兒只、江淛行省左丞相別不花、趙文敏公孟頫、馮內翰子振，尤所賓禮者也。四民來獻薝蔔幣衣履者，肩摩而袂接，既無虛日，師受之，即以施人，曾無毫髮係吝。其自處，則布袍糲食，沛然若有餘。凡發為文偈，了不經意，引紙行墨，而空義自彰。有四會語錄行世。

約之裕公傳

崇裕，字約之，毗陵陳氏子。其母感龐眉僧入夢而生，生而體弱，十日而九疾。父母以夢故，冀徼靈釋氏愈之，命為沙彌。尋受具為大僧，鞠明究曛，唯以觀心為務。見元叟端公，又見佛慧義公，淬

礪益力，雖金牆鐵壁，必欲拓開乃已。二公亦期師有立，所以警發者甚至。師急於求證，復走中天竺山，參廣智訢公，留侍十餘年，盡得其道。御史中丞張公起巖問廣智云：選佛場僧伽如此之多，其有弗悖般若者乎？廣智云：戒律精嚴，言行不相背馳，唯崇裕一人。自受度以來，脅不沾席三十年矣。張公深加獎歎。師之聲光自是日起，叢林中始出世太平，南禪黑白翕然宗之。一日，令圬人塓壁，壁中隆然如有物，抉之，獲悉達太子像，乃佛牙所刻成。師召工傅以黃金，金迸裂，舍利從中涌出，雕小香殿奉之，亦師道法精誠所感而致也。尋遷九江圓通。宋之初，有神僧道濟德公將示寂，累青石為塔，語其徒曰：此塔若紅，即吾再來。暨圓機旻公來鎮法席，塔果紅色，人異之。公人號為古佛，其臨終復爾懸記，有三百年之後大興佛事之讖。師入院之夕，眾僧夢公至，而其塔燁然有光者彌月，人尤異之，謂自旻公至師正踰三百之數，其能動物葢不徒然也。寺當蓋毀之後，師大興土木，幻出天宮。榮國公火你赤以朝之重臣總戎江西，申弟子之禮。暨我　太祖興隆釋教，開善世院，命大浮屠統之，諸方以師名上聞，移主阿育王山廣利禪寺。尋被旨與鍾山法會，而師居其首。召至便殿，問佛法大意，師以偈獻。　上覽之大悅，因命師書天界寺額，賜食　上前。師或假寐，鼻息微有聲，鄰坐引裾覺之，　上歎曰：此老人無機心，誠善知識也。師容貌魁梧，日用之間服粗食糲，一出於天性，無所勉強。每欲撾鼓而退，為眾所擁留而止。生於大德甲辰，未詳所終。三會語各有錄行世。

金碧峰傳

寶金，號碧峰，乾州永壽石氏子。生多祥異，六歲依雲寂溫公為弟子，剃落具戒。游講肆，窮性相之學，四辯飛馳，聞者聳聽。既而歎曰：三藏之文，標月指也。遂棄所學習禪，入蜀晉雲山中，參如海真公。公示以道要，師大起疑情，寢食為廢。入峨眉山，誓不復粒食，日採松柏啖之，脇不沾席者三年。自是入定，或累月不起。嘗趺坐大樹下，溪水橫逸，人意師已溺死。越七日水退，競往視之，師燕坐如平時，唯衣濕耳。一日聞伐木聲，通身汗下如雨，笑曰：妙喜大悟十有八，小悟無算，豈欺我哉？未生前之事，吾今日方知其真耳。急往求證於公，反覆相辯話甚力，至於拽傾禪榻而出。公曰：是則是矣，翼日重勘之。至期，公於地上畫一圓相，師以袖拂去之。公復畫一圓相，師於中增一畫，又拂去之。公再畫如前，師又增一畫成十字，又拂去之。公視之不語，復畫如前，師於十字加四隅成卍文，又拂去之。公乃總畫三十員相，師一一具答。

公曰：汝今方知佛法宏勝如此也。百餘年間，參學有悟者，世豈無之？能明大機用者，寧復幾人？無用和尚謂：座下當出三虎一彪，爾其彪耶？然緣在朔方，當大弘吾道也。無用葢公之師云。先是師在定中，見一山甚秀麗，重樓傑閣，金碧絢爛，諸佛五十二菩薩行道其中。有招師者曰：此五臺山秘魔巖也。爾前身修道其中，靈骨猶在，何乃忘之？既寤，遂游五臺山。道逢蓬首女子，身被五綵弊衣，赤足徐行，一黑獒隨其後。師問曰：子何之？曰：入山中爾。曰：將何為？曰：一切不為。良久乃沒。叩之同行者，皆弗之見，或謂為文殊化身云。師乃就山建靈鷲菴，四方聞之，不遠千里負餱糧來獻者，日繽紛也。師悉儲之以食，游學之僧多至千餘人，雖丁歲大儉，亦不拒也。至正戊子冬，順帝遣使者召至燕都，慰勞甚至。天竺僧指空久留燕，相傳能前知，號為三百歲，人敬之如神。師往與叩擊，空瞪視不答。及出，空歎曰：此真有道者也。夕大雪，有紅光自師室中起，上接霄漢。帝驚歎，賜以金紋伽黎衣，遣歸。明年復召見，命建壇祈雨，輒應。賜寂炤圓明之號，賜予一以賑饑乏。詔主海印禪寺，師力辭。名香法衣之賜，殆無虛日。自丞相而下，以至武夫悍將，無不以為依皈。已而懇求還山。洪武戊申，我　太祖即位于建業。明年己酉，燕都平。又明年庚戌，　詔師至南京，見　上於奉天殿，且曰：　朕聞師名久，以中州苦寒，特延師居南方爾。遂留於大天界寺。時　召入，問佛法及鬼神情狀，奏對稱　旨。又二年辛亥冬十月朔，　上將設普濟佛會于鍾山，　命高行僧十人涖其事，而師與焉。賜伊蒲饌于崇禧寺，　大駕幸臨，移時方還。明年壬子春正月既望，諸沙門方畢集，　上服皮弁服，親行獻佛之禮。夜將半，　敕師於圜悟關施摩陀伽斛法食，竣事，　寵賚優渥。夏五月，悉鬻衣盂之貲作佛事，七日，乃示微疾。　上知之，親御翰墨，賜詩十二韻，有玄關盡悟，已成正覺之言。　天光昭回，人皆以為榮。時疾已革，不能詣　闕謝。至六月四日，沐浴更衣，與四眾言別，正襟危坐，目將瞑，弟子請曰：和尚逝則逝矣，不留一言，何以暴白于後世耶？師曰：三藏法寶尚為故紙，吾言欲何為？夷然而逝，世壽六十五，僧臘五十又九。後三日，奉龕荼毗於聚寶山，傾城出送香幣，積如丘陵。或恐不得與執紼之列，露宿以俟之。及至火滅，獲五色舍利，齒舌數珠皆不壞，紛然爭取，灰土為盡。師體貌豐偉端重，寡言笑，福慧雙足，所至化之。故其在山也，捧足頂禮者，項背相望；其應供而出也，持香花、擊梵樂而迎者，在在如是，不啻生佛出現。其行事多可書，弟子散之四方，無以會其同，略述其槩如此。師有弟子智通，燕人也，秀發穎異。初為全真道士，知非，遂落髮從師，聞奧

旨，隱大乘山。永樂間，　詔至都，住大天界，後亦危坐而化。為人端謹神悟，有乃父之風焉。

天界孚中信禪師傳

懷信，字孚中，姓姜氏，明之奉化人。初從延慶半巖全公習教旨，義聲籍甚。久之，歎曰：教相繁多，浩如烟海算沙，徒自困耳，奚益？因改轍而力禪，參承諸名宿下，語多枘鑿弗合，不勝憤悱。時竺西坦公遷主明之天童，師奔質所疑。竺西一見，知為法器，厲色待之，不與交一語。師疑愈熾，自是依止不忍去，得豁然焉。天曆間，住補怛洛迦山，遷大龍翔集慶寺。龍翔，元文宗潛邸也。及至踐祚，建佛剎于其地，棟宇之麗甲天下。未幾，毀於火，曇芳忠公新之，功未竟而化。師乃出衣盂之私，補前未備，不日而集成功。雖以名德領鉅剎，不效飾車輿、盛徒御以自誇衒，始終一鉢，蕭然而已。會元政大亂，戎馬紛紜，寺事艱窘日甚，師處之裕如，不以屑意。一旦晨興，索蘭湯沐浴，更衣趺坐，謂左右曰：吾將歸矣，汝等當以荷法自期，勵精進行可也。言畢而瞑。侍者撼且呼曰：和尚去則去矣，寧不留片言以示人乎？師叱之而復瞑。侍者呼不已，師握筆書曰：平生為人戾氣，七十八年漏洩。今朝撒手便行，萬里晴空片雪。書畢而寂，時丁酉八月某日也。茶毗于聚寶山前，舍利如菽如蒜，五色燦爛，雖烟所及處，亦纍纍然生。貯以寶瓶，光發瓶外。師賦性恬冲，喜溢顏間，生平未嘗以聲色忤人，人有犯之者，頷首而已。然進脩極勤，自壯至髦，默誦法華經一部，雖暑爍金，寒折膠，無一日闕者。屢感蓮花香滿院，芬郁異嘗，非世間者可比。當　大明兵下金陵，僧徒風雨散去，師獨結跏宴坐，目不四顧，執兵者滿前，無不擲杖而拜。　上嘗親幸寺中，聽師說法，嘉師言行純慤，特為改龍翔為大天界。告終前一日，　上統兵駐江陰沙洲。上晝寢，夢師服褐色禪袍來見。　上還，聞遷化衣與夢中正同，大悅，　詔出內府帛泉助其喪事，且命卜　葬。舉龕之夕，　上親致奠，送出都門之外。師說有五會語錄行世。

補續高僧傳卷第十四

補續高僧傳卷第十五

吳門華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

明　清遠渭公傳

懷渭，字清遠，晚自號竹菴，南昌魏氏子，實全悟俗姓之甥，法門之嗣子也。生時多異徵，誦書攻文，不待師授而知解日勝。全悟喜之甚，亟挽致座下，不數年其學大進。一日，全悟警勵諸徒，眾未有對，師直前肆言，如俊鶻橫秋，目無留行。全悟叱之，眾為駭愕，師氣不少沮。如是詰難至於二三，全悟莞爾而笑曰：汝可入吾室矣。全悟瀕沒，呼而告之曰：吾據師位四十餘年，接人非不夥，能弘大慧之道使不墜者，唯汝與宗泐爾。汝其勉哉！全悟既示寂，師肆為汗漫游。虞文靖公集、歐陽文公玄雅重師文行，僉曰：是無忝於舅氏也。師道德形諸篇翰，不知己者初以文字相歆慕，師笑曰：佛法與世法不相違背，故以餘力及之，將光潤其宗教爾。苟用此相夸，豈知我哉？師出世，四坐道場，為法求人，無少退轉。住淨慈，則入　聖朝矣。鍾山之會，名德咸集。師一至京師，遂退居錢塘之良渚。問道者接踵而至，不翅住山。時洪武八年十二月。四大若有所惱，召弟子屬以後事，怡然而逝。壽五十九，火化不壞者三。師法語有四會錄，詩文有集。善草隸書，又善鼓琴。同袍以無益諷之，師笑曰：非爾所知，是亦般若所寓也。師軀分短小，神宇超朗。終身持誦金剛般若經，未嘗虛日。生平守道弗變。元至正末，避地匡廬。悍兵來索金帛，師瞋目訶之曰：浮屠烏有是物邪。兵怒，拔劒欲殺之。師引頸就劒，兵歎息而去。師偉行甚眾，舉此可例推也。師住淨慈行化，有陳媼者，預夢神僧臨其門。及師至，稽首作禮，願為尼。師舉大法以開導之，恍然有所悟入。師行未百步，而婦竟與家人別，坐脫而去。非師化道入人之深，何能及此。噫，亦異事也。

大千照公傳

慧照，字大千，永嘉麻氏子。童年駿利異嘗，聞人誦習契經，合爪諦聽。長老良公度為弟子，稟持犯於處之天寧，蟬脫萬緣，力究大事。首謁晦機熙公於淨慈。一日閱員淨語，至頭陀石擲筆峰處，默識懸解，流汗浹背。即腰包走謁東嶼海公于蘇之薦嚴，反覆辨勘

之。師如宜僚擲丸，飛舞空中。東嶼甚嘉之，遂留執侍左右。師以為心法既通，不閱修多羅藏，無以闡揚正教，聳人天之聽，乃主藏室。及東嶼遷淨慈，師分座表儀四眾。天曆戊辰，出世樂清之明慶。升座示眾曰：佛法欲得現前，莫存知解。縛禪看教，未免皆為障礙。何如一物不立，而起居自在乎？所以德山之棒，臨濟之喝，亦有甚不得已爾。聞者說懌而去。至正乙未，遷四明之寶陀。尋宣政院署師主育王。師憫大法陵夷，孳孳誘掖，不遺餘力。嘗垂三關語，以驗學者。其一曰：山中猛虎，以肉為命，何故不食其子？其二曰：虛空無向背，何緣有南北東西？其三曰：飲乳等四大海水，積骨如毗富羅山，何者是汝最初父母？此第三關，最為峻切，惜未有契其機者。居九年，退于妙喜泉上，築室曰夢菴，因自號夢世叟。掩關獨處，凝塵滿席，弗顧也。一日，召門弟子曰：吾將西歸矣。屬後事於住持約之裕公，沐浴更衣書偈，怡然而逝，時洪武癸丑十月也，壽八十五，臘七十。茶毗，齒睛數珠不壞，舍利五色爛然者無算。師三坐道場，有語錄若干卷。師智度冲深，機神坦邁，晝則凝坐，夜則兼修淨業。真積力久，至于三際不住，覺觀湛然，非言辭之可儗議。且服用儉約，不如恒僧，雖不與時俗低昂，賢士大夫知其誠實，不事矯飾，多傾心為外護。其遇學徒，一以真率，或以事忤之，而聲色不變動。出語質朴，不尚葩藻，而指意超言外。嗟夫！禪宗至宋季而敝，膠滯局促，無以振拔精明，使直趨覺路。橫川璜公當斯時，密授天目法印，持降魔杵，樹真正幢，升堂入室者，不翅受靈山付囑，佛法號為中興。橫川之同門有石林者，奮興實角立東西，共斡化機，西來之道，於斯為盛。師葢石林之諸孫也，故其死生之際，光明盛大有如此者，豈無自而然哉！

日本德始傳

德始，字無初，日東信州神氏子。幼聰穎不好弄，遇羣兒嬉戲輒避匿引去，見僧則喜動顏色。從州之天寧大比丘一公祝髮為沙彌。逮長，詣山城諸剎，既進具坐，探羣書通大意，已而歎曰：昔吾鄉覺阿上人慧解精絕，善大小乘，一旦捨所學附商舶抵中土，謁靈隱遠禪師，得法東歸，國人景仰，尊之為禪祖。予晚生末學，尚何敢高攀逸駕而望其後塵，然詎可堅守一隅而卒無聞耶？因請于其王，得隨國使宣聞溪詣　闕朝貢，館於天界寺。久之，聞溪得　旨還國，師偕數輩願留華夏參訪求法，　許之。首謁全室泐公，機語契合，為掌內記。未幾，泐公有西域之行，師失所依怙，聞古幽都山川之勝，意其必有異人居之，拉友遊觀及足跡殆遍，尋憩慶壽，若有所待焉。越明年洪武壬戌，獨菴衍公來蒞寺事，以師為法門猶子，延

致丈室，相與激揚臨濟宗旨，意甚相得。二十三年庚午，師告去，緇素遮留之不可，遂西踰棧道巡禮峨眉。時　蜀獻王之國成都，嘉師遠來，邀至咨問禪要，禮遇勤厚。歲丙子，被　命出世無為之大隋，瓣香為全室嗣。繼遷飛赴，道望彌隆，衲子坌集，室無所容。一住七年，法席幾于全盛。永樂初，獨菴繇左善世正衣冠，進階太子少師。念師遠在西蜀，寓書招之。既至，迎歸其第，昕夕論道。六年春，應聘董平坡之席，居再歲，即謝事。十年壬辰，將闢靜室為佚老計，遇　太宗皇帝特旨[田/廾]領龍泉寺，師欽承　明命，蚤夜孜孜，以繕修興復為先務。凡棟宇蠹弊者，伐美材以易之；堦陊頹圮者，購堅甓以完之。丹堊之麗，塗墍之新，比舊有加焉。先是，　獻王與師備買山之貲，師不自有，乃命工以漆布附土，偶肖西方三聖之像，金珠彩色，為之莊嚴，曲盡其妙。又嘗以達官富室所施服玩之具，貿錢數萬緡，造千臂大悲像三軀，授淨信者敬事之。其平昔尤喜賑邮貧困，薄於奉己，厚於待人，以故四坐道場，囊無餘蓄，楮衾瓦鉢，聊以自隨。斯皆師之狥緣誘物，權巧方便耳。若夫高提祖印，勘辯方來，全體大用，迥出乎言象之表者，微上根利器，或未易窺測焉。後端坐書偈，示寂于退處之金剛室。茶毗，獲舍利百餘顆，晶熒圓潔，塔焉。時宣德四年九月也。

非幻禪師傳

道永，字無涯，非幻其號，信安浮石鄉吳氏子。初娠，父夢明果長老肩輿至門，誕之夕復然，因名之曰原僧。信嚮堅定，初識字，日課金剛經一卷。父以宿因，俾入烏石山從傑峰愚公為僧。初入門，峰問：何處來？師答云：虛空無向背。峰隨指寺鐘俾作頌，即口占偈云：百鍊鑪中滾出來，虛空元不惹塵埃。如今掛在人頭上，撞著洪音遍九垓。時年十二，峰大器之，即令祝髮居座下，躬服勞勤弗懈。積久，凝滯漸盡，游刃肯綮，所向無礙，遂受印可。永樂丁亥初，　太宗文皇帝有事於長陵，廷臣有言師精於地理學者，徵至入對，稱　旨意，大加宴賚，即授欽天監五官靈臺郎，賜七品服，俾蒞其事。事畢，將大用之，師懇求願復為僧，遂擢僧錄司右闡教，住南京碧峰寺。未幾，俾住持靈谷寺，　恩遇益隆。庚子閏正月二十八日示寂，時　朝廷方于靈谷建大齋，禮官董其事甚嚴，師獨若不經意。其徒怪問之，師笑曰：自家有一大事甚緊，無暇他及。至是，沐浴更衣，敷坐榻上，二僧捧紙至前，把筆大書偈云：生死悠悠絕世緣，蒙　恩永樂太平年。這回撒手歸空去，雪霽雲消月正圓。投筆而逝。同官啟聞，有命停龕方丈。十又三日，再遣官致祭，顏面如生。茶毗之夕，祥烟彌布，舍利充滿。師說法簡易剴

切，從而歸之者如水就下，至不可遏。連主大剎，率能興墜起廢，至機鋒觸發，往往屈其行輩，聲聞遠邇，亦宗門之巨擘云。

無旨授公傳

可授，字無旨，一號休菴，台臨海李氏子。初教而後禪，親見獨孤明公為虎巖伏老嫡孫。出世凡四坐道場，皆不出乎台境。諸方將倚之以為重，競來敷致，師漠然若不聞。作休菴于西塢，日修淨土法門、念佛三昧，且曰：此即禪定之功也，惡可強分同異哉？　國朝洪武六年，杭中天竺以府侯之命起師，師勉應之。行至錢塘江濱，淨慈諸勤舊相與謀曰：此大善知識，胡可失也？帥眾邀于道，擁居其位。師屢却之，不聽，色頹然不怡。時當歲儉，問道者如雲，糗糧方患不繼，而施者踵至。居二載而退，歸臥竹院，忽示微疾，端坐西向，召左右謂曰：吾將逝矣。或請偈，曰：吾宗本無言說。乃合爪連稱佛號，至聲漸微而寂。閱世六十九，僧臘五十。龕留七日，顏貌不變。闍維，齒牙貫珠，不壞舍利，光色晶瑩，如金銀水精者，徧滿於地，塔而藏焉。師儀觀雄碩，識見夐卓，其於榮名利養，視之如無物。出專法席，皆迫於不得已。會　朝廷設善世院，總統天下釋教事，或勸師求檄以主名山，師笑而不答。然其所蒞之處，不以恬退而不加之意，必革其敝習，新其規制，使可貽于悠久。五會語多肆口而說，曾不經思。平居遇物成味，率出人意表，戒其徒勿以示人。至於尊賢尚德，推己及物，有非人之所及，誠末世大法幢也。

德隱仁公傳

普仁，字德隱，蘭溪趙氏子。趙故名宦家。師生有出塵之思，博極羣書，參了然義。公于智者，機鋒奮觸，當仁無讓，聲稱籍籍。起叢林間，掌記室於東陽輝公，分座說法于南楚悅公、古鼎銘公、月江印公，無弗咨叩，相與辯詰無虛日。徵以宗門機緣，大而沙界，小而毫芒，無不收攝激揚。正法之餘，旁及辭章者，唯覺隱誠公、笑隱訢公為最密。元至正乙未，部使者挽師出世金華之西峰。時天下大亂，師知事不可為，鳴鼓而退。及王師聚婺州，　駕幸智者，見其山川深秀，而法席尚虛，特　詔師住持，不聽。韶之南華，不遠三千里，致州侯之命，不從。杭之中竺，其請如南華，又加勤焉。師惠然欲往，郡守鍾某惜其行，從容問師曰：佛法有重輕耶？曰：否。曰：佛法既無重輕，師位寧有崇卑耶？師一笑而止。久之，起應淨慈，道聲洪震。方以興壞起廢為己任，而秘書事起矣。

有誣智者寺僧購名畫以歸者，事下刑曹。刑曹以師舊主，智者當知其是非，逮而質焉。事將白，忽示微疾于京師寓舍，屈指計曰：此八月八日最良，吾將逝矣。至期，整衣端坐而化。閱世六十有四，僧臘五十。師風指孤峭，不樂與非類狎。逢學行之士，輒敬之如賓。師縱無儲石儲，亦必久留不厭。故薦紳服其偉度，樂與過從。善談論，終日不倦。玉貫珠聯，纚纚絕可聽。尤能汲引後進，隨資誘掖，克底于成。有三會語錄、山居詩一百首傳世。

白雲度公傳

智度，號白雲，處之麗水吳氏子。年十五，慨然有出塵志，父母峻拒之，師不火食者累日，若將滅性焉。父母無奈何，使歸禪智寺，禮空中假公剃髮具戒，即寺側楞伽菴深習禪定，每趺坐達旦不寐，如是者數年。已而歎曰：六合之大，如此頹然，滯一室可乎？遂出游七閩，徧歷諸山，無有契其意者。旋浙見靈石芝公于淨慈，又登天目參斷崖義公，談鋒銛利，人莫之敢攖。時無見覩公說法天台華頂峰，大振圓悟之道，師往拜之，一見刳心焉。服勤數載，盡揭底蘊，無見囑之曰：昔南嶽十五出家，受大鑒記莂，後得馬祖授之以心法，針芥相投，豈在多言耶？勿掉三寸舌誑人，須真正見解著于行履，方為報佛之深恩耳。師佩伏之，弗敢忘。又走長沙見無方普公，走雲居見小隱大公，皆無異辭。既而旋福林，與毒種曇、成山欽二公互相策勵，如恐失之。後從御史中丞章公溢之請，出世龍泉之普慈，眾至八百人。移茅山，遷武峰，從者恒如初。國初吳元年，隱禪智之岑樓。洪武己酉，　詔起天下名僧敷宣大法，師與焉。初力辭，戍將強起之。適師至，而會事解嚴，遂還杭。杭人奉師居虎跑，又入華頂。未幾，示微疾，浩然有歸志。四眾堅留之，師曰：葉落歸根，吾所願也。遂回福林。五日，忽沐浴易衣，索筆書偈云：無世可辭，有眾可別。太虛空中，何必釘橛。擲筆而逝。壽六十七，臘五十二。闍維，得五色舍利，塔於院之西。師靜謐寡言，機用莫測。臨眾無切督之威、嚴厲之色，唯以實相示人。所至之處，人皆欽慕，如見古德。或持香花供養，或繪像事之，不可以數計。見客無懈容，無蔓辭。有問則言，無則終日澄坐。所作偈語，不許人錄，故今無傳者。

傑峰愚公傳

世愚，號傑峰，衢之西安余氏子。初從孤嶽嵩公供灑掃之役，已而為大僧，謁古崖純公、石門剛公，涕淚悲泣，祈以求端用力之要。

二公欣然語之，師佩受其言，不分明暗，兀坐如枯株，時年二十五矣。踏濤江而西，見諸大老如布衲雍公、斷崖義公、中峰本公，師一一咨叩，下語不契，中心瞀亂，遂止南屏山中，三年不踰戶限。聞止巖成公倡道大慈山，亟往謁焉。巖示以南泉三不是語，師聞而益疑，仍還南屏，類氣絕之人，行坐寢食不狥覺知。一夕，聞鄰席僧唱證道歌，至不除妄想不求真，豁然如釋重負，舉目洞照，不見一物留礙，喜躍不自勝，疾走見止巖。會止巖游姑蘇，趨天池，求證於元翁信公，仍歸止巖。止巖喝曰：何處見神見鬼？師曰：今日捉了賊也。曰：賊在何處？師便喝，巖竪起竹篦，命師指名，師便掀倒禪牀。巖曰：爾欲來捋虎鬚耶？師作禮，巖連打三下，囑曰：善自護持，他日說法度人，續佛慧命。至順二年，歸西安，住烏石山，澄居攝念，影不出山者一十六載，聲光日振，緇素之士坌集座下，恒至二三千指，至無所容。既而遷廣德之石溪興龍寺，嚮化之盛不下烏石。時烏石之眾如子失母，力迎其還。適郡境新建佛剎者四：曰古望、曰龍眼、曰寶蓋、曰普潤，皆延師開山為第一祖。師起應之，無不感慕而奮迅。　國朝洪武三年，郡守戍將舉水陸大會，僉謂非師不足拯拔幽滯，師勉強成行。竣事而反示微疾，召門弟子勉以精進入道，書偈擲筆而逝。越七日，奉全身藏于烏石慈雲塔院，壽七十，臘五十。得法弟子十餘人，無涯永公最著。師道價傾四方，非惟禪林奔湊，而公卿大夫若太尉高公納麟、兵部尚書黃公德昭、浙江行省左丞老老、江東廉訪副使伯顏不花，或函香致敬，或馳書問道，或上謁親領玄要，得其片言隻字，寶之不翅南金，師之施可謂博矣。使其正席名山，則惠利所被宜益廣，今乃僅止於斯，有識者恒傷之。

萬峰蔚禪師傳

時蔚，字萬峰，溫州樂清金氏子。生而室有光，母懼欲弗舉，其姑保而育之。襁抱中見僧，輒微笑作合掌態。年十一，讀法華有省，入杭受具戒。謁止巖禪老於虎跑，俾參南泉三不是，迷悶無所入。抵明州，達蓬山，卓菴佛跡，古址力究，至忘寢食。一日，聞寺主宗律師舉溈山踢倒淨瓶話，忽大悟，偈曰：顛顛倒倒老南泉，累我功夫却半年。當下若能親薦得，如何不進劈胸拳？走虎跑呈悟，復之華頂謁無見，求決擇。見深肯之，囑曰：爾年小，且居山去。蔚仍還達蓬，單丁十歷寒暑。時千巖長禪師住伏龍山，道望昭著，蔚提包謁之，相見如舊識，慧辯風馳，如天馬行空，不可控馭。巖亦極盡鉗槌之妙，知其已徹，顧謂昭首座曰：蔚山主頗有衲僧氣象，煩請歸堂。尋為第一座。一日，巖陞堂，舉：無風荷葉動，一定有

魚行。語未畢，蔚出眾，震聲一喝，拂袖便行。巖示以偈，有一喝西江水逆流之句。既而別巖，住靜嵩山。又一紀，巖前後為手書招之者三，所以愛重期待者甚厚。比至，使分座說法，遂付以法衣，囑云：汝緣在浙西，可往化導，吾道有寄矣。蔚奉命入吳，凡三築精藍，卒之玄墓鄧蔚山中，斬蒙冪結菴居之。久之，四眾歸向，乃搆為大伽藍，額曰聖恩，奔赴者日甚一日，至不能容。蔚隨機演說，俾人人滿意，故人益慕而信之。於洪武十四年正月二十九日坐化，閱世七十有九，僧臘六十。停龕十三日，肢體溫軟，香潔如平時，門人奉全身瘞於菴之西崗。師貌古神清，髭鬚疎朗，寡緣飾，千巖稱其純粹質樸，有古人風。談道三十餘年，吳人無少長咸知敬慕，有繪像而事之者。平生未嘗讀書，惟以深悟自得，其形諸語默者，俱能刊落浮華而一踐乎其寔。門人請留法語，蔚曰：從上佛祖諸所言說，句句朝宗，言言見諦，略不肯聽從，況吾言乎？悉付火燼，門人竊而錄其少許以傳。蔚未化前數日，大眾普集，或以得法承嗣為問，示偈曰：慈悲無念，華開果熟，因地分明，慧寶致囑。葢記無念學翠峰華、榮果林、寶藏持四公也，於中學公顯受衣法後出世，開導之盛無媿于蔚。況受知　太祖高皇帝，龍章寵錫，雲漢昭回，法脉淵源不絕，蔚所付得人矣。

德馨傳

德馨，義烏方氏子。幼有超俗志，依千巖長公為弟子，執侍十五年，恂恂然若闇于機者。聞法要，每嘿識心通。一旦，喟然歎曰：日月如跳丸，人命如春霜朝露，而久安於此，吾其為井蛙乎？乃躡蹻出游吳越間，歷抵大尊宿，求切究，若端元、叟訢、笑隱、忠曇芳，咸嘖嘖期許。又見瑱頑石于石溪，瑱問：何處來？對曰：伏龍。又問：何名？對曰：德馨。曰：有字乎？曰：無。瑱云：詎不聞乎？斯是陋室，惟吾德馨，其字曰蘭室可也。師欣然作禮云：謝和尚命字。拂衣徑出。瑱云：好箇師僧，只恁麼去。乃反伏龍，依長公，卒其業將一紀。長囑之曰：汝平實地上人，擔負大事，吾將爾望，宜善自護。以至正壬辰，杖錫過金華，至城西止焉。其地有泉，曰君子泉，乃宋劉嶠隱處。岡巒迴合，林樾幽鬱，將結茅以居。地主曹仁卿即割以奉，緇白景向，金穀之施不求而至。不數年，遂成精舍，其規制一如大伽藍，榜曰清隱。歲無一畝之入，而凡供養之需沛然有餘，諸方參德來視如歸。會聖壽缺席，僉議非師莫宜補其處，爭相攙勸，不從，則白於郡府強起之，　國朝辛丑歲也。婺人瞻戀莫能已，曰：吾師聖壽何有焉？乃相率迓之。明年，復歸清隱。又十年，洪武壬子冬始化。師履行誠實，不事緣飾，凡

接學者未嘗一言語相以為教，以身為教者居多。蘇公平仲歸自南京，往往聞師名縉紳間，因就謁之，延坐室中移時，起居外無一辭請，曰：嘗聞長公見客，口如懸河，剎那頃數千言。師其大弟子，顧嘿然如此，將不言以餂我耶？抑執德不同，作佛事亦異也？師曰：昔吾師未嘗不言而未嘗言，今吾未嘗言而未嘗不言，道無隱顯，焉有語嘿乎？蘇深服之，以為有道之言。

法秀禪師傳

法秀禪師，不知何許人，見左春坊鄒濟所作般若禪院記中，想見其人，故當時高德，惜無從考始末。記稱江寧天王山有佛龕曰般若，在京都城南九十里，山形勢若蓮花，二水環拱于其間，峰巒秀麗，泉清木盛，堪為阿蘭若地。元大德中，法秀禪師棲禪於此，師得法於千巖長禪師，戒行孤峻，嘗居婺之聖壽，為第一座，道播諸方，禪衲雲集。至正甲午，　太祖高皇帝渡江，聞師名，單騎入山，與語相契，時遣繆總制者送供。久之，師游廬阜，莫知所之，境遂蓁蕪。洪武二十年歲丁卯，　上記憶其事，　詔工部右侍郎黃立恭選一辦道僧，即舊地重新創立，因諭之曰：我渡江來，曾謁法秀禪師，其僧有見識，立菴正在蓮葯上，賜名般若禪院。立恭乃舉僧紹義引見，受命而去。遠近聞　上意所嚮，莫不隨喜，輸財助力，未幾而成叢席，即今之般若寺也。

明河曰：圖記列千巖，法嗣唯萬峰，蔚松隱然耳，安知復有秀哉？如秀者，顯隱之際，猶神龍不可得而繫羈，能使我　聖祖僅一見之，不及再見。至念其人，不忘其處，誠足傳持師道，將超然跨蔚而上之天際真人，宜乎　聖祖謂其有見識也。故予不能盡無疑于圖記之所見，而於圖記之所未見，寓想增歎之深，不特秀公一人而已。

西竺來禪師傳

本來禪師，西竺其號也，生撫州崇仁裴氏。七歲出俗，十三謁一峰寧公，付以禪觀之法。嘗一定七日，偶聞人讀清淨經，豁然有省，頌云：幾年外走喪真魂，今日相逢迥不同；身伴金毛石獅子，回頭吞却鐵崑崙。似一峰，峰用本色鉗鎚痛與錐劄，示以偈曰：青山疊疊雨濛濛，獅子金毛撥不通；我也自知時未至，十回放箭九回空。項峰示寂，師於定中與峰相見，作轉語數十，打破水碗，遂出定而垂淚噓歎。因往金山見慈舟濟禪師，方得決了，遂嗣焉。舟以深居巖穴為囑，師奉以周旋。越後，　寧藩聞師道邁，以禮三請，師不

赴，且欲深隱。　寧藩恐竟失師，因進書問道要，師拈方便語示之，　藩信受，奉八字師號以尊顯之，從茲道譽徧寰區矣。乃走盱江黎川，隱壽昌禪院，學者踵集。復入閩之杉關，趨赴有加，葢以雷聲雖遠，聞者自震，雖欲痛晦埋踪，不可得也。眾至無所容，主事措置土木工甫畢，師焚香趺坐，索筆書偈云：這个老乞兒，教化何時了？顛顛倒倒任隨流，是聖是凡人不曉。咄！來來來，去去去，海湛空澄，風清月皎。擲筆，泊然就逝。閱世六十八，僧臘五十五，時永樂壬寅十月八日也。

如皎傳

如皎，字性天，四明周氏子。七歲患腸癰，醫剝生蟾蜍以治，師見惕然曰：物我皆命，奈何害之？奪而縱去。父母奇之曰：必佛種也。乃命出家，禮正菴中公為師而落髮焉。隨侍正菴入京，參同菴簡禪師于天界，典藏鑰，究楞嚴，晝夜講讀不輟，過勞得咳血疾。同菴謝世，值正菴主饒之景德，師侍行，舊疾亟增，欲還天界養病。正菴曰：吾方賴汝匡輔，若去，我獨處此無益也。遂退席偕還。疾愈，聞古拙俊公居繁昌，乃函香而往。古拙命參無字話，復還天界，立誓不出山，禁語千日。永樂丁亥，會古拙奉　詔旨天界山居終老，師幸親炙。一夕夜靜，推簾見月，驀然有省，歎曰：元來得如此也。翌日見古拙，入門不作禮，震威一喝。古拙曰：皎上人今日冷灰豆爆，莫是貧人得寶耶？師曰：寶即不得，得即非寶。曰：憑何如此？師即趨前問訊，退位叉手立。古拙曰：父母未生前畢竟如何？師屹然一默良久。古拙曰：還我向上句。語未絕，師以衫袖蒙首，趨出呈偈云：午夜推簾月一彎，輕輕踏破上頭關。不須向外從他覓，只麼怡怡展笑顏。古拙閱之，以掌撫師背曰：此正是持不語底人也。述伽陀為之助喜，遂歸侍正菴。俄正菴示寂，乃飄然度嶺至西坑，築菴居之。影不出山者二十年，坐死關千日。宣德壬子，武林請主虎跑，不應。祖堂幽棲復固請之，不獲已，一出據猊提唱，學徒雲集。將終，集弟子曰：文章佛法空中色，名利身心柳上烟。惟有死生真大事，殷勤了辦莫遷延。復問云：死生既大，汝等且道如何了辦？眾不能對。徐云：我今無暇為君說，聽取松風澗水聲。言訖而逝，壽七十。徒眾奉全身塔於菴之左隴。師儀狀魁偉，性格清奇，度量含弘，戒簡堅峻，口不言人過失。徒眾越度者，惟以冰顏示之，待其自化。有犯之者，怡然不與較。兼涉外典，平日漫成偈語，無非祖意。以示人光明顯赫，近古耆宿，難與為比也。

香嚴澄禪師傳

覺澄，山後蔚州人。十歲不茹葷，從雲中天暉[日/亠/水]公落髮，痛絕人事。閱大藏，越五寒暑乃周。後因提無字話，有省。道譽隆起，鉅卿名公交薦之。住南陽香嚴寺，大為人所歸。逾年棄去，上西蜀，游江南，受大戒於杭之戒壇。還登太岡山，訪月溪和尚。又入投子，禮楚山琦禪師，遂獲印記。俄而別去，養靜固始之南山，星霜頻易。又往五臺，禮文殊，請光瑞，得如所祈，密有感悟。還鄘城，逢天界首座清寧，請居高座寺。寺後即雨花臺，梁雲光法師講法華天雨花處。師遐繼芳躅，善於開導。鍵閉山居十餘載，足不躡城市，而聞風者從化。有藥師科儀、雨花集行世。成化癸巳八月九日，端坐夷然而化。少息，眾皆凄泣。又徐開目曰：不須如是。復瞑目長往。

無念傳(附一覺)

無念學公，德安陳氏子。九歲出家，禮無極和尚為師。東游姑蘇，見萬峰蔚禪師，一喝下領旨。萬峰出法衣，說偈送之歸寶林寺。道聲藹著，遠近翕然宗之。寶林當四會之衝，天兵征陳友諒，寺燬，緇流盡散，唯學一人守之。荒墟蔓棘，弔影數年。暨我　聖祖削平僭偽，奄有四海，偃革崇文，聿興吾教，學有復創之志焉。於是善信雲集，向化風從。不三四年，寶林金碧掩映，如化樂天宮矣。洪武十五年，　孝慈皇后陟天楚藩，建大會，集千僧於洪山，學在焉。王見而異之，遂留邸舘，建九峰寺居之。學具福德相，行慈悲行，人見之意消，故有不言而化者。是能倡大緣，舉大剎，皆一呼而應，成之之易，如掇之也。當道者薦於朝，　聖祖召見便殿，命坐，應對稱　上意，禮遇隆渥。欲留主京剎，固辭弗受，厚賜遣中官送還。二十九年，再遣中官奉　御製懷僧詩文一軸、松花實各一器至山，諭慰彌至。　勑曰：前者僧無念，戒行精於皎月，定慧穩若巍山。暫來一見，去此嘗懷。懷之不已，遣人就見。特以松實供之，兼以詩勞之(云云)。又賜僧無念九歲出家詩，學皆如韻和之以上。　上覽之大悅，自是深信吾道，頗亦省刑寬法矣。永樂四年示寂，閱世八十有一，塔全身於九峰獅子巖之陽。

一覺祝髮精修，嘗刺血書雜華經八十一卷。善吟咏，有寒泓稿。與太子正字桂彥良游甚厚。一日，彥良侍　上文華殿，　上問：爾在鄉里與誰游？對曰：有僧覺性原嘗與游，有詩贈之。因誦詩，　上稱善，即　賜和，命考工監丞徐瑛書之，寄贈一覺焉。

無念受知　天子，見禮親王，極一時之盛，全以實行感動，至一覺則以桂重也。然一覺固有所以取重於桂者，儒尊士行，僧貴德業，我　聖祖敬德慕道之心，世出世間一揆，深得靈山付囑之意。即師號一節，在宋元時何其紛紛也，至我　朝卷跡一掃，故歷代帝王護法尊僧，非不及則過之，唯我聖祖為體道得中云。

楚山琦傳

紹琦，字楚山，唐安雷氏子。生自不凡，慎動止，寡言笑。九歲出家，從玄極和尚學禪。後獲印于東普無際禪師。正統六年，再參東普。普問：子數年住何處？曰：我所住處，廓然無定。普曰：有何所得？曰：本自無失，何得之有？普曰：莫不是學得來者？曰：一法不有，學自何來？普曰：汝落空耶？曰：我尚非我，誰落誰空？普曰：克家須是破家兒。至晚，復召入，詰之曰：汝將平昔次第發明處告我。師悉具以對。普曰：還我無字意來。師偈答曰：這僧問處偏多事，趙老何曾涉所思。信口一言都吐露，翻成特地使人疑。普曰：如何是汝不疑處？曰：青山綠水，燕語鶯啼。歷歷分明，更疑何事？普曰：未在，更道。曰：頭頂虛空，脚踏實地。普召弟子鳴鐘集眾，取袈裟拂子授之。師容止莊重，雖宴居如對清眾。具擇法眼，勘驗學者，百不失一。門徒數十人，唯寶山金者，深入堂奧。讀師語錄，直捷簡明，不在古人下也。

古庭傳(附淨倫)

善堅，姓丁氏。永樂甲午，生於滇城南郭。其夜紅光異香，充盈戶室。十歲，入五華寺，禮宗上人為師，易名善賢。十九，參柏巖禪伯，自是習坐不輟。巖異之，勉持觀音名號。宣德二年，巡按御史張公善相，謂諸老宿曰：此子非凡間人，三十後當佩祖印，諸德宜善視之。庚戌，走金陵，謁無隱道和尚，示師萬法歸一話。力究數年，偶閱圓覺經，至身心俱幻，劃然自釋，云：離此身心，誰當其幻？目前境物，非我之留。死去生來，安可息也？乙卯，抵貴州擁蘿山，因入蜀，脇不至席者數年，遂大悟。正統間，無際奉　詔住隆恩，師袖香見之，獲印記，付信衣拂子，更號古庭。天順間，住浮山，從化者眾。師之玄言妙行，不獲悉紀。觀師所著閒閒歌，則知其槩矣。歌曰：君不見，我閒處，我閒閒處閒閒餘，疊嶂重巒鎖碧居。松頭每夜銀蟾暉，放出清光炤我閨。望高巔，見遠水，千山萬山何已矣？環烟四絕境空如，坐臥翛吾心自主。閒中閒，誰理會？山中更有深深地，雨過山青色更佳，滿巖烟霧多蒼翠。禪欲

參，道欲學，不學不參惟快活，絕無人事與相關，雅有鳥猿聲聒聒。這閒翁，何所據？年來日去誰相似？聰明知解沒些兒，破衲蒙頭惟一味。君不知，我閒趣，萬論千經徒指註，世尊良久落人機，見影追風猶累墜。不無無，何有有？一見明星顛倒走，鍊牛日午過秦川，木馬追風夜半吼。間自在，身幾幾？百年之事一彈指，富貴功名總屬空，古今多少皆如此。眾生心，諸佛性，生生死死何時定？老胡掘地陷人坑，似與鉢盂安把柄。閒中閒，說向人，但得心安莫慮貧，眼空四海無相識，唯見依依嶺畔松。閒散誕，忒蹉跎，未嘗開口念摩訶，總是閒情閒不過，大平無事且閒歌。又有山雲水石集盛行於世。暮年返滇，建歸化禪林。以弘治六年癸丑七月二十日遷化，肉身如生，四眾龕而奉之。

淨倫，號大巍，師門人中之皎皎者。鍼芥投於浮山，道化被於南服。黃慎軒太史煇極其歎美，謂古庭、大巍皆宗門開士，有遠錄公之遺風焉。

嘗以詩寓道山居，吟云：無事山房門不開，土堦春雨綠生苔。此心將謂無人委，幽鳥一聲何處來？

補續高僧傳卷第十五

補續高僧傳卷第十六

吳門華山寺沙門　明河　撰

習禪篇

明　翠峰山公傳(附圓月、明律)

德山，號翠峰，關陝西夏人。幼質朴，深慕禪悅。年三十始出俗，從靈南牛首寺海公為弟子，束戒縛禪，日積月磨，漸有契會。海公就化，師得以自便，因遍參叢席，足跡殆半天下。雖歷諸禪老鉗椎，而碍膺之物終未脫然。偶遇古峰上人，憫師為道之勤，勸見寶月潭公。潭公為時大禪伯，聲光顯著，一見相契，遂示以法要，且曰：子期心固遠，然終欠一番徹骨在。必過此一番，死中發活，始可面目向人，出言吐氣，皆有著落。不然，徒使伎倆了沒交涉也。師聞忽醒，即日辭去，入伏牛山，傍崖結茆，日食麩糠草根，不知身為何物。如是六年，而豁然融貫，瓣香為潭公嗣，不忘所本也。自是遠近奔赴，法席大張，相從者動以千計。以眾盛故魔起，浮言　上聞，天威震怒，眾皆為師危之。或勸師暫避，不從，安坐丈室，略無懼色，而卒亦無他。此在都門吉祥寺時事也。既而捨眾歸伏牛，而眾終不捨師，故伏牛之眾視吉祥為尤盛。說法三十餘年，度人不可稱記。一旦，謂眾曰：歸歟！歸歟！吾北人，歸化首丘，吾之願也。遂還京，居延壽。延壽在吉祥東，師所創也。未幾而寂，年八十有一。弟子奉全身瘞於寺普同塔之後。師梵貌頎偉，觀視凝定，喜怒不形于色，有容人之德。學子不諭其意，師諄諄為教，必使達之而後已。持身甚約，所蓄無長物，得檀施，輒緣手盡以廣二田，若於己無與焉者。有為師贊者曰：有風斯清，有月斯明。猗歟翠峰，玉振金聲。師實錄，當之無愧。

圓月，字印空，姓熊，京師人。入翠峰之室，栖伏牛山。久之有得，性光顯露。闢道場開法，學子麕至，聲聞　九重。被　命於慶善戒壇，為受戒者宗師。

明律，字三空，姓龔氏，順天人。亦嘗有聞於翠峰者。翠峰在伏牛，律結茅玉皇垛中，修念佛三昧。開龍興寺，率眾煉魔。晚住杭州虎跑寺，甘淡務實，於時無兩。萬曆乙卯入滅。

毒峰善傳(天淵湛附)

季善祖，鳳陽人，隨任生於廣東之雷陽。父姓吳，母鍾氏。稚小以佛事為兒戲，十七出家。初投源明和尚，明示以無字公案，囑云：須發大願，以自護持。師便發願：若生死不了，大事未明，遺棄修行，貪著名利，死墮阿鼻地獄，受苦無量。正統八年，入閩參無際，閉關力究。關中不設臥牀，安一橛，誓不倒身，以悟為則。昏沉來，因去橛立，誓不坐，不近墻壁，遼空徑行。一朝聞鐘聲，忽悟，說偈云：沉沉寂寂絕施為，觸著無端吼似雷。動地一聲消息盡，髑髏粉碎夢初回。見蒙隱、楚山二老，又見月溪，溪印可之。天順庚辰，趙氏建西湖三塔寺，請師開山，繼興天目昭明，繼興吳山寶蓮，繼興南山甘露。成化庚子，掩關石屋寺。壬寅，慈雲嶺有寺曰天真，僧宗綱請師興建，事竣，即掩關杜人事。師一生苦功，無與倫比，雖得相應，而勒持彌督，涵養淘汰，至老無替，有四十餘年秖掩關之句。示寂後，真身覆以缸龕，藏天真石洞中。門人輯師言論行實，為三會語錄云。

福湛，號天淵，楚人也。居蓬溪智林，亦以勤苦入道，獲印於月溪。後開堂弘化，大為楚蜀學禪者所歸。有法語二卷，曰天淵錄。七十七歲而化。倒騎鐵馬吼西風，明月清風一樣同。師偈也。月溪之門，自不乏人語。孤硬之風，二師為最。

法舟濟傳

道濟，字法舟，張氏子。生[橘-矛+隹]李思賢里。少爽拔，未嘗入鄉較，而義辯宿成，為里中所異。年十八，忽猛省，白父母求出俗，勿許。遂日夜坐，不事生產。又三年，潛入天寧寺為行者。時默堂宣禪師受月舟和尚法印，歸自繁昌。法筵龍象，蹌蹌濟濟。師服勤之餘，多所諮訪。久之，詣東禪依昂公薙染。昂法叔吉菴祚禪師者，默堂子也。知見精確，而道行清苦。師折節事之。古德入道因緣，朝夕參叩，以為不至古人休歇田地不止。偶行廊廡間，聞佛殿磬聲，豁然契悟。尋趨方丈，菴望見笑曰：子著賊也。師曰：賊已收下。曰：贓在甚處？師振坐具曰：狼籍，狼籍。曰：這掠虛漢，狼籍箇甚麼？師一喝歸眾。菴喜，印可之。繼謁古印、雲峰諸師，日益深奧。自是應機演化，雷動電激。章縫緇素諸乞言者，憧憧然水陸並湊，無虛日矣。嘉靖初，眾請出世於金陵安隱寺。上堂，舉拂子召大眾云：見麼？又擊拂子云：聞麼？既是舉起便見，擊着便聞，妙真如藏，非思非議，應用靈靈，奇哉奇哉！汝諸人自不丈夫，顧乃傍人門戶，求知求見，韜晦家珍，甘為寒乞，將謂諸聖別有奇特也。廣額屠兒颺下屠刀，便云：我是千佛一數，豈有曲折作知見耶？丈夫子何不恁麼便擔荷去？其指法徑要，大都類此。

性恬靜，未嘗誤干謁，隨緣遷轉，前後二十餘所，解包之後，不更出門戶。處大眾，折大疑無碍之辭，波騰雲湧，夜以繼日，曾不少倦。而燕間之日，泊然危坐，若不解語者，此其大凡也。師心精泯合，時靈感通，以至呪移井石，錫出山泉，說法則蛙入晨牕，入定則神來夜室。自避倭之後，任真而放，雅同流俗，嬉笑怒罵，縱橫自調，而人不能測矣。庚申秋，寢疾且革，或勸起坐說偈，師曰：此皆文飾，非吾事也。以手搖曳而逝，年七十四，臘五十二。荼毗後，塔其骨於別室中。所說法語偈頌等若干言，門人正雨輩集而梓行。

月心寶公傳

德寶，字月心，金臺錦衣衛族。父吳公，母丁氏。舉師於正德壬申，年既冠，偶過講肆，聞法師講華嚴大疏，至十地品初地菩薩捨國城妻子頭目髓腦處，發憤歎曰：千古猶今，同一幻夢。富貴功名，縱得奚益？遂投廣慧院能長老出家。既祝髮具戒，知有向上事，不自便休，必期真悟，即腰包行脚。一時老宿號稱明眼者，罔不蒙參而戶謁。指點功夫，揩磨見地，造詣日益深密。後因寶峰指見關于嶺和尚，入室次，連下語數十轉，皆不契，師心路俱絕。一日，因洗菜水邊，忽一莖墮水，隨水圓轉，捉之不著。忽有省，喜甚，提籃歸。見嶺立簷下，問師：是甚麼？曰：一籃菜。嶺曰：何不別道一句？師曰：請和尚別問來。嶺復詰以靈雲桃花、趙州柏子，皆隨問而答。復問玄沙不肯話，師隨聲便喝，拂袖而出。次早入室，問訊侍立頃，嶺顧視傍僧曰：汝等欲解作活計，這上座便是活樣子也。師即震喝而出。後復同爽菴參襄西大覺圓和尚。覺門庭孤峻，自辦粥飯，始許掛搭。親炙四五月，語言無滯。覺曰：若以今時諸方子，當絕類為不可測人。今則不然，老僧將你爛熟底一則因緣問你：外道問佛，不問有言，不問無言。世尊良久，外道便大悟佛旨。且既不涉有無，良久亦是閒名。正恁麼時，外道大悟箇甚麼？師儗答，覺急以手掩師口曰：止！止！猶更掛齒在。師豁然頓省，乃曰：可謂東土衲僧不如西天外道。自是名震海內，海內禪子皆奔走座下矣。師隨緣開化，靡定所居。有語錄四卷，曰笑巖集。笑巖，師別號也。鄧定宇曰笑巖。上堂：棒喝縱橫矣，卒無一人承當。即笑巖不失利，安在為時雨而化？無亦婆子心切歟？晚年屏居京師柳巷，幾至結舌亡鋒。而具真實為生死心者，亦不惜為一見。如師者，固末世之光明幢也。以萬曆辛巳正月示寂，閱世七十，僧臘四十有九。塔全身於城西之北門。

常潤、善真二師傳

常潤，字大千，號幻休，江西進賢黃氏子。幼失二親，從父出游，遂入佛牛山出家。學攝心浮泛，不得力，誓遍參。南詢萬松林公於徑山，折而入都，聽松、秀二法師講楞嚴，至圓明了知處，忽有省。復謁大方蓮公，最後入少林，參宗主小山書。公言機相合如函蓋，究進之力，日益精勇。一日，舉洞山過水頌請益，公詰之曰：既不是渠，畢竟是何人？師于言下霍然，以偈答曰：若要識此人，有箇真消息。無相滿虛空，有形沒踪跡。曾為佛祖師，嘗作乾坤則。龜毛拂上清風生，兔角杖頭明月出。公囑令加護，未幾辭去。公授之偈，以少室相累，師謝未遑。及公歸寂，大眾迎師于都門，三辭不獲已，乃赴。座下士百七人，聞所未聞，得未曾有，咸謂寶鏡重光，先堂頭付託得人矣。嘗遊五臺，講法華於壽明寺，眾見白光繞座。偶行路次一精舍，眾沙門羅拜，稱祖師云：昨夢伽藍神掃門，旦日祖師過此，今師適來。師笑曰：祖師過去久矣。師居堂頭位且久，卓然有古人之風。大司馬汪公道昆謂師魁然修碩，容止莊嚴，其嚮應如洪鐘，其普度如廣筏，其砥波流如山立，其隨機而顯化如珠走盤。至其稟獨覺，覺羣迷，日孳孳然以道自任(云云)，信非虛語也。以萬曆乙酉歲四月示寂。大宗伯陸公樹聲文其石以頌德：

善真，字實相，南昌人，姓熊氏。參幻休而未盡幻休，人疑為不及休，或以為過休者也。幼業儒而不安於儒，每以三教誰尊問人，人以佛對。遂棄儒往廬山，禮湛堂和尚祝髮，雅志參訪。初游閩之武夷，聽默菴禪師提唱公案，竟月無入，乃以己臆下視諸方，既而悔之。游楚興國州，建一寺，葺清規，安眾其中。太守任公奉事惟謹，道望翕然。甫及期，捨去入少林，謁休和尚參機緣，往返不薦，曰：且作長行粥飯僧。雖然，此老真吾師也。故其後所游至，皆稱少林焉。自是行蹤益遠，遍歷吳、楚、滇、蜀，禮南華之塔，訪雞足之衣。天台雲、峨眉雪，皆師杖間物耳。抵贛州，疾作，命在呼吸，兀坐不睡。其徒明空進曰：師曾講觀法如指掌，今何以臨渴掘井？請放開養疾為正。師首肯。疾愈，囑徒曰：父子上山，各自努力。因入頂山獨棲，以薑葉為衣，野菜為食。適於雪夜負薪，霍然有省。住三年，入終南雲霧山，居九石坪。人云：此坪不開久矣，曾有六七人入坪採木，死於虎。師不為意，捫蘿剪棘，露坐七晝夜，稍開一徑，於坪建一室，名蘿月山房，修靜其中，雖絕粒經旬，處之夷然自得也。時休和尚已化，聞之，為位拜哭，歎曰：先師一把椅子可惜。或曰：師得無有餘念乎？師曰：此處安容念？為祖庭所繫，不為人耳。未幾，入秦，遊太白山、靈山，將之華山講

道德、南華二經，為士大夫延回漢南講首楞嚴，仍入蜀廣元縣漢王山靜居，頓成叢林。已應雪峰、寧羌二講，未久，門人請還漢王山，乃以萬曆戊戌五月示寂。遺言有樂志論、一行三昧說及淨土應驗、山房夜話、詩偈雜作傳於世。紫柏尊者曰：真禪師持行高潔，與余意氣相期，惜不得與之雅遊，僅於峨嵋一交臂而失之。曾投一偈，冀續後緣，而今則已矣。世之君子，試讀其樂志諸篇，可想而見也。師住峨嵋臥雲臺時，達師曾過訪之，故及之云。

孤月禪師傳

淨澄，燕京西河張氏子。生時偶二僧至門，厥父喜，即請安名。僧曰：此兒非常，應名清正。未幾，父母相繼亡，師決志出家。行至雙城子，路逢僧，求落髮。詢其來緣，乃初立名僧也。遂就金河寺剃落。其師令習經業，師不悅，示以念佛法門。未周歲，其師死。偶遇五臺善公，易名曰淨澄。即走古華嚴鍊磨，日夜逼拶。忽疑滯頓開，如釋重負。求證於廣恩月溪老人。溪轉數語，師汗下不能對。因俾參，無字。久之，獲印可，付以拂子手卷。南游濟河，舟沒，所有俱失，身附浮木獲免。自思所得未愜，即誓曰：此行若不大悟而還者，有如河。自此提參益切。入蜀飛雪山，獨居弔影三年。一日造飯，遂定去。覺時飯生白醭，靜中嘗聞百里外人聲。久着地打坐，足為冷濕所乘，忽不能起。幸得人荷，至後山調息始愈。一日坐木上，正爾湛寂，忽聞爆竹聲，豁然心空，自是方得一切時中洞然明妙。請印於圓覺法鑑和尚，又造廣福雲谷老人。谷見其一向孤迥迥底，即問曰：你却似個死人，我且問你，大死底人却活時如何？師曰：眉毛眼上橫，鼻孔大頭垂。又問：如何是無字意？師曰：風行草偃，水到渠成。又問：大地平沉，虛空粉碎，汝向甚麼處安身立命？師曰：雲消山嶽露，日出海天青。谷肯之。天順改元，還清涼，道聲遠播。代藩請詣內掖問道，感光明炤徹內外。王大悅，因就華嚴谷建寺，請額曰普濟，奉師開法。其中有清涼語錄行世。嘗作山居詩云：甘貧林下思悠悠，竹榻橫眠枕石頭。格外生涯隨分足，都緣胸次一無求。又云：自住丹崖綠水傍，了無榮辱與閒忙。老僧不會還源旨，一住山青葉又黃。復坐脫於本寺。

石頭回禪師傳

自回，東川合州人。世為石工，雖不識字，志慕空宗。為僧於景德寺，精戒謹言，求人口授法華。日取崖石，手不釋鎚鑿，而誦經不輟。南堂靜禪師見而愍之，令罷誦，一意看趙州勘婆因緣，師念念

不去心。久之，因鑿石，石稍堅，盡力一槌，瞥見火光，遂大悟。說偈曰：用盡功夫，渾無巴鼻。火光迸散，元在這裏。南堂可之，為石工，而又因石悟，諸方稱石頭和尚。有頌云：石頭和尚，咬嚼不入。打破虛空，露些子跡。既而歸釣魚山，建護國禪林，大開爐韛，從化者眾。著草菴歌警世，其末云：老僧不知輪甲子，一葉落知天下秋。後自甃石二十四片為龕，自入掩門而逝。又有回禪師者，婺州人，育王諶和尚嗣也。住南澗西巖，新行經界法，回芟去茶窠，植松柏。人訴於有司，追之甚峻。回曰：少待，吾行也。即剃頭沐浴，陞堂辭眾曰：使命追呼不暫停，爭如長往事分明。從前有箇無生曲，且喜今朝調已成。瞑目而化，有司遂寢其事。

無盡燈禪師傳

祖燈，無盡其字也。族王氏，四明人。父好謙，嘗寫華嚴經，五色舍利見於筆端。師年方幼，歎曰：般若之驗，一至於斯邪！即求出家，依郡之天寧東白明公，秉戒於開元奎律師。已而日溪泳公來代明公說法，命掌綱維，司藏鑰。日溪升堂，師出問曰：生死事大，無常迅速，乞賜指示。溪曰：十二時中，密密參究，忽然觸著，却來再問。師抗聲曰：無常迅速，生死事大。語未終，溪便喝，師遽禮拜。溪曰：見何道理，便爾作禮？師曰：開口即錯。溪領之。服勤數載，復出參名德，以驗其所證。時中峰本公在天目，方山瑤公居淨慈，無見覩公住華頂，斗巖芳公主景星，師皆與之辨詰，其所印蓋不異日溪云。師得道已，思韜晦而護持之，乃入天台，上雲峰，縛草為廬，宴坐其間，虎狼蛇豕交跡於戶外，師攝伏之，不能加害。日與其徒修苦行以自給，冬一裘，夏一葛，朝夕飯一盂，影不出山者逾五十春秋，人多化之。有以土田為布施者，師辭曰：先佛以乞食為事，吾焉用此為？然天性尤孝謹，迎母童氏養山中，年九十四而終。眾以非沙門行讓之，師曰：世尊尚升忉利天為母說經，我何人斯，敢忘所自哉！　洪武己酉春，示微疾。二月八日夜將半，顧左右曰：天向明乎。對曰：未也。或曰：和尚正當此際何如。師破顏微笑曰：昔古德坐疾，有問者云：還有不病者乎。古德云：有。又問云：何物是不病者。古德云：阿爺阿爺。師舉此良久，又曰：如此喚做病得否。眾無言，師曰：色身無嘗早求證悟。侍者執紙乞偈，師曰：無偈便不可死耶。乃書曰：生滅與去來，本是如來藏。拶倒五須彌，廓然無背向。擲筆端坐而逝，壽七十八，臘五十七。火化，異香襲人，所獲舍利不可勝計。塔於峰之左原。大河衛鎮撫林君性宗嘗從師游，師勉以忠孝，迄能為國宣勞，為時顯人。恐師之行不白於叢林，請宋太史景濂文宣師行業，其略云：

嗚呼，若禪師者，可謂能守道而弗遷者矣。古之僧伽多寄跡巖穴，友烟霞而侶泉石，至有踵步不與塵俗接者，治內之功純，務外之意絕也。風教日偷，學者始不知自立，榮名利養之念日交蝕於心胸，奔競干請無所不至，是以來有識者之訕侮，可勝歎哉。禪師一鉢自將，策厲學徒於寂寞之濵，雖施者填委，振起頹廢，重樓傑閣彈指現前，亦未嘗見其有為。震黃鍾於瓦釜雷鳴之際，翔靈鳳於眾禽紛翥之時，謂為禪師矯弊之功，非耶。

會堂緣師傳

自緣，號會堂，姓陳氏，台之臨海人。父某，以詩書為業，人稱為石泉處士。母某氏，感奇夢而生師，氣骨不凡，翛然有出塵之趣。初為四明白雪寺觀公弟子。十七，薙髮受具戒，即以縛禪為事。還台，謁天寧日溪泳公。泳公一見，輒加獎予。泳遷淨慈，師從行，咨決心要知解。且日至，漸息羣念，期造於無念。時處士君春秋高，師欲盡覲省之禮，復還台。道經寧海，日已暮，悲風號林莽間。師遑遑急走，欲求憩泊之地，竟不可得。夜行三里所，乃逢逆旅。主人破屋一間，不能蔽風雨。師竟夕不寐。明發，指天自誓曰：所不能建菴廬以延旦過者，有如日。闃闃中有妙相古寺，兩廡蕭然，不留一物。師往還視，喜曰：是足以遂吾志矣。白於主僧，假西偏糞除蕪蔵，具牀几，設衾褥，下至庖廚溷湢之屬，罔不整潔。吳、楚、閩、浙之士，肩摩袂接而至者如歸，皆得歇息安飽而去。其費一出師之經畫。先是，縣東有桃源橋，跨廣度河上，故有圓通閣，歲久將壓。縣人李斯民撤而新之，邀致師為主。師遂遷至其處，遇過客如初。師猶以為未足，儉衣削食，建華嚴寶閣，月集善士閱華嚴經。橋之南，復築彌陀閣，像淨土十六觀相。覽者觀相興行，啟發極樂正因，閣道行空，朱甍耀日，儼然如化人天宮矣。事聞於朝，授師金襴法衣，及錫佛心普濟之號，仍俾報恩寺額以寵異之。師既受命，復自念曰：上之恩侈矣，顧塵居雜遝，無以稱清淨宏偉之觀。爰擇地縣北五里，而近大橋之陽，林樾蒼潤，蔚為神靈之壤。新建報恩院一區，晨夕帥其徒以祝釐報上為務。繇是兩地之間，鐘魚互答，有若東西家焉。元季政亂，海上兵動，烽火漲天，三閣與寺皆鞠為茂草之場。師蘟然傷心，又以興復為己任，持鉢行化聚落中，隨其地建華嚴傳經之會，演說因果，屠沽為之易業，於是施者四集。師仍于桃源夾河兩隄，悉甃以石，建傑閣三楹，間命工塼佛、菩薩、天神諸像。畢工未久，而師厭世矣。師一旦早作，無疾如平時，索浴更衣，屬諸弟子以見性為急，且曰：吾明日將逝。至期，呼筆書偈，怡然委順。時　國朝洪武戊申三月某

日，世壽五十九，僧臘四十二。龕留七日，顏貌如生，荼毗得舍利無算。其徒即寺西北偏塔而藏之，宋景濂為之銘，從學子方孝孺請也。

雪庭傳

雪庭某公，自號梅雪隱人，杭仁和人。父桂姓徵名，母徐氏，昆仲三人，師最少。以景泰丙子生，毀齒喪父，患痘風，雙目短視羞明，抱疾弗瘳。夢中感金神教使出家，母兄不允。年十五，雖慕道求師，不得正眼。成化癸巳，聞四川休休翁寓郡城仙靈寺，往叩之，一見契合，始落髮受無字公案，日夜研究，猶滯沉寂之境。座元勉以看教，因閱楞嚴至一毛端上現寶王剎有疑。乙巳，寓江陰乾明寺，忽覩萬佛閣金碧崢嶸於眉宇間，偶會得毛端現剎之句，始知幻寄兩間如夢如旅。又明年，因詠黃鸝，有作者云：此句法未得意在言外之趣。繇此茅塞泮然，衝口道云：多情自信惜春光，飛入園林錦繡鄉。記得小牕驚我夢，滿庭紅杏帶斜陽。後因除夕聞鐘，大悟曰：圓響心非聞，大千同一炤。抹過上頭關，更不存玄妙。乙卯，休休翁應湖南淨慈請，師復依附，日逐尋究，乃蒙印可。所著有請益、警進、拈古、頌古、擬寒山、和永明詩偈等凡二十卷，號幻寄集。夫幻即寄之跡，寄乃幻之跡。幻起寄亡，全寄是幻；幻逐寄生，全幻是寄。翳目生華，山河大地；華翳不生，空真實際。幻之寄之，誠哉兒戲！師自語也。

天界成禪師傳

道成，字鷲峰，別號雪軒，居薊北之雲州。出家受具戒，結三人為友。雲游至山東之青州居士窑中，刻苦究參，脇不沾席者三逾寒暑。一日，忽見一老人自外而來，儀貌甚古，謂師曰：汝三人苦學如此，他日必作法門梁棟。言已，忽不見。繇是愈厲精苦。久之，聞濟南秋江潔公大弘曹洞宗旨，遂往見之。潔問：何處來？師曰：青州。曰：帶得青州布衫來否？師曰：呈似和尚了也。曰：如何是布衫下事？師曰：千年桃核裏，元是舊時仁。潔肯之，曰：是汝本有之事，善自護持。他曰弘吾道，惜吾不及見矣。後出世，住萊州大澤山。每說法，聽者千餘人。　洪武壬戌，　詔天下設僧司，揀名德以居之。師首膺其選，授青州都綱。　高皇帝聞其賢，召為僧錄司右講經。命考試天下僧人，稱　旨，賜金襴衣。　命住持天界，懇辭，　上不允，賜詩留之。及　太宗文皇帝嗣位，命師宣諭日本。陛辭，　賜金鉢、錫杖等物。既至，宣示　朝廷恩威，闡揚

佛祖宗旨。自其國王而下，莫不俯伏向化。明年師還，而國人入貢稱謝者即至。　上大悅，陞師左善世。復率天下僧，于鍾山修設大會。師承　旨說法，聽者數萬人。是日有瑞應。　上聞之悅，御製感應詩三章　賜師。累賜金帛，作大毗盧閣於寺後。　皇上北狩，數師入覲，賜賚甚厚。　仁宗在春宮時，有忌師之寵者，搆詞間之。及御極，遂謫師海南。　宣宗嗣位，首遣官召師還京。且　敕禮部：左善世到，須別見。師至，入見便殿，慰勞甚至。　賜綵段若干疋、鈔萬緡，仍　命掌僧錄司事。無何，入疏乞歸南京天界之西菴以終老。　上從之，賜白金楮幣及[鎌-兼+(畏-田+廾)]金佛。敕兵部給驛舟，命中官護送。逾三歲，辛亥十二月八日，微疾端坐而逝。闍維，得堅固子無算於灰燼中。　上遣官諭祭，賜塔所。師身長七尺，廣顙豐頤，脩然出人之表。歷事　四朝五十餘年，三坐道場，四會說法。有語錄行於世。

古淵清公傳

清公者，不知何許人。重興南京永寧寺，以清苦自勵，親執勞役，寒暑無厭倦心。　天子嘉其勤，授以左覺義，以尸祝釐。雖處榮遇，而苦節彌堅，一室蕭然，朝夕稱佛名號，拜禮求速超脫。忽所事大士像放白光，縈縈如絲縷，盤旋於室，至夜如秉燭。復夢大士謂曰：爾以精心懇禱，宜即參訪，了心為上。師拜受之，即掩關於弘濟寺，提無字話，心念相依，脇不沾席者三年。忽一念不生，三世際斷，經三日夜，見大千世界光若琉璃，聞遠雞唱，乃起說偈曰：喔喔金雞報曉時，不因他響詎能知？三千世界渾如雪，井底泥蛇舞柘枝。他日以偈呈善世古林香公，公喝曰：多嘴漢！明日特為師上堂，纔竪起拂子，師隨奪之。自是得無碍機，人不敢嬰其鋒。且言人吉凶，無不懸應。自奉極淡薄，每有金帛之供，視之漠然，悉付掌住為公。眾須一心，懇懇為人，惟恐不及。凡於法門無益之事，毫髮不經念慮。所以興永寧莫大之功，舉之如掇，實自道行中來，非緣報偶然也。

真空傳

真空，泉南人。六歲時，墮井得不死，遂出家。既長，游關洛，歷終南、衡嶽，遇師授，漸解悟。嘉靖己未，入羅浮，憩止永福寺，寄食一僧，為之紉針補衲。時當暮春，游寺人甚盛，空置盂嘿坐，或投之錢。時在樹間，或佛燈下宴坐，入定已，則隨眾作務，人莫之知也。龍塘公讀書寺中，見其色潤肌清，神光孤卓，亟叩之，乃

知其深於禪也。龍塘問曰：力務如此，能無苦乎？空曰：米未熟，腰石何辭？吾今黃梅一行者耳。曰：然則汝他日成六祖耶？空曰：成則今成，何待他日？我自成我，何必六祖？浴佛日，寺僧敷高座，請空說法，空亦不辭，徑登坐，發揮奧義，語音清亮，傾聽數百人，無不稱善。龍塘驚問之，答曰：偶然耳，成亦宿因也。無何，出五羊，少參徐公迎至廨舍請法。過廣孝寺，徙觀音山歸，從者日以千計，緣震一時，僉謂曹溪再來也。一日齋會，命弟子置木龕，龕成，辭眾入坐，眾驚哀，爭執卷請偈。龍塘聞而趨至，復出龕，溫敘如平生。既而復入，命閉龕視之，已長往。諸檀越思之，立祠觀音山，奉香火云。

繼萬闍黎傳

繼萬。號古峰，建福寺僧。嘉靖十七年，入京受戒。祖母、繼母前後死。廬墓六年，春秋七十有九而歿。其間閉關者四，計三十餘年。太史李少莊贈以詩，有云：篆烟雲自結，簾影晝長閒。其高靜可想。有僧問：聶公道號甚麼？曰：古峰。又問：如何是古峰景？答曰：乾坤長不老，今古獨能存。僧又問：法名？曰：繼萬。曰：何不繼一？答云：萬即是一，一即是萬。觀其應對機辨，似亦非槁然枯坐者云。聶公，蓋其姓也。

滿賢傳

滿賢，其先江西星子人，姓錢氏。自幼穎悟，異嘗具戒。後參訪知識，得所契證。以因緣未偶，不得弘宣助化，諸方惜之。其所依祝髮則為大淵，其所從入室則為大安，其相與同參交證則為月心融、天然諸老。其所游履，初則廬嶽之黃巖，既為蓮華峰之普濟，歷白下、武林諸勝剎間，孤峰閒市靡不經練，而卒老于秀州之張家橋。師蚤歲出家，即知有向上事。初舉石邊水泠，花裏風香之句，末自瞥然。久之，於熱病中打脫桶底，通身汗流。自是掃除建立，任意縱橫。嘗束茅葢頂，草食茵衣，坐風宿雪，艱苦偏至者累年。人高其行，而卒不以著相誇修作功德。行佛事，孜孜無倦。又嘗機鋒時起，意語俱捐，漚為沙界，電拂聖賢。人企其宗，而終不以恣情越簡稱圓融。放而不流，用而無作。年六十五，以萬曆戊戌歲化於張家橋。周海門為銘其塔云。

無明禪師傳

慧經，號無明，撫州崇仁裴氏子。形儀蒼古，天性澹然無所好。九歲入鄉校，忽然若無意於人間世者。十七遂棄筆硯，慨然有求道志。偶入居士舍，見案頭金剛經，閱之輒終卷，忻然若獲故物。繇是斷葷酒，決定出家，依廬山忠禪師執侍三年。凡聞所教，不違如愚。因閱傳燈，見僧問興善：如何是道？善曰：大好山。師罔措，疑情頓發。後於峨眉住靜，因推石而悟，始落髮受具，住山二十四年。時邑之寶方，宋寶禪師故剎也，師居之，實萬曆甲午歲，師年四十有七矣。有僧問師曰：長老住此，曾見何人？師曰：從未行脚僧。師豈以一隅而小天下乎？師善其言，遂棄寺而參方，足跡遍南北。紫柏尊者深器重之，一時法門大老相與酧酢，無不推譽。最後見五臺瑞峰和尚，契證底蘊，開法於壽昌，衲子麕至。壽昌實西竺來公所創，師與來同鄉同姓，人以師為來後身云。師之住壽昌也，不扳外援，不發化主，安道信緣。年迨七十，尚混勞侶，率眾開田，必先出後歸，四十年如一日，歲入可供三百眾，故生平佛法未離鑊頭邊也。雖邊幅不修，而形儀端肅，嚴霜煦日，不怒而威，未嘗輕意許可一人。故海內高其風，並無一言的據，借為口實者，其慎密如此。丁巳臘月，師自田中歸，語眾曰：吾自此不復砌石矣。手書遍辭遠近道侶，勉以叩己真參。至次年正月十有七日，端坐而逝。荼毗，心與頂骨牙齒不壞，於本寺建塔藏之。師生於嘉靖戊申，世壽七十一，僧臘五十有奇。憨山清謂師峻節孤風，誠足以起末俗，至其精進忍力，當求之於古人。雖影不出山，而聲光遠及，豈非尸居而龍現，淵嘿而雷聲者耶？

雲谷會師傳

法會，雲谷其號也，嘉善懷氏子。二十受具，修天台小止觀。往郡之天寧，問所修何如於法舟濟公，公曰：夫學以悟心為主，止觀之要，不離身心氣息，何能脫然？子之所修，流於下乘矣。因示以旨要，師力究之。一日受食，食盡而不知碗忽墮地，猛然有省，恍如夢覺，公與印可。自是韜晦叢林，陸沉賤役。閱鐔津集，見明教嵩護法深心，制行立願，欲少似之，頂戴禮誦，至終夕不寐。入京，寓天界毗盧閣下，精進行道。嘗入定數日不起，三年人無知者。復愛栖霞幽深，結菴於千佛嶺下，始為陸五臺公見知。時栖霞久廢，陸公矢興復之願，請師住持。師舉嵩山善公應命，移居山最深處，曰天開巖，弔影如初。一時宰官居士，因陸公開導，多造巖參請。師一見，即問日用事，無論貴賤僧俗，入室略無寒溫，必展蒲團於地，令其端坐返觀，甚至終日竟夜無一語。臨別，必叮嚀曰：人命無嘗無空。過日再見，必問別後用心何如，故荒唐者茫無以應，即

欲見亦不敢近。以慈愈切而規益重，雖無門庭施設，使見者望崖不寒而慄。然師一以等心相攝，從來接人，軟語低聲，一味平懷，未嘗有辭色。時士大夫歸依者日益眾，又不能入山願請見者，師以化導為心，亦就見。歲一往來城中，至必主回光寺，每至則在家二眾歸之，如遶華座。師一視如幻化人，曾無一念分別心，故親近者如嬰兒之傍慈母也。出城多至普德，臞鶴悅公實出其教。師愍禪道絕響，於嘉靖丙寅冬，乃集五十三人，結坐禪期于天界。學人請問直捷用心處，師曰：舉不顧，即差互；擬思量，何劫悟？又曰：古人道：終日喫飯，不嚼粒米；終日行路，不踏穿地；終日穿衣，不掛寸絲。如是用心，方有少分相應。有宰官問：如何是祖師意？師曰：有水皆含月，無山不帶雲。曰：莫更有奇特否？師曰：不得將龜作鱉。師護法心深，不輕初學，不慢毀戒。僧有不律，亦不棄之，委曲引誘進於善。或有干法紀者，師聞不待求而往救，必懇懇當事，乃曰：佛法付囑王臣為外護，唯在仰體佛心，辱僧即辱佛也。聞者莫不改容釋然，必至解脫而後已。然竟罔聞於其人，聽者亦未嘗以多事為煩，久久皆知出于無緣慈也。了凡袁公未第時，參師於山中，對坐三晝夜不瞑目。師問曰：公何無妄念？公曰：我推我命，無科第子嗣分，故安心委命，無他妄想耳。師曰：我將以公為豪傑，乃一凡夫耳。聖人云：命繇自作，福繇已求。造化豈能拘人耶？於是委示以改過積德、唯心立命之旨。公依教奉行，竟登進士，有子嗣。憨師為小師時，侍師彌謹。一日請曰：說者謂某甲壽不長，奈何？師曰：壽夭乃生死法，參禪乃了生死法。若一念不生，則鬼神覷不破，造化何能拘之耶？第患不明道眼耳。憨師將北行，師誡之曰：古人行脚，單為提明己躬下事。爾當思他日何以見父母師友，慎毋虛費草鞋錢也。其善誘掖人類如此。歲壬申，嘉禾吏部尚書默泉吳公、刑部尚書澹泉鄭公、太僕五臺陸公與弟雲臺同迎師歸故山。諸公時時入室問道，每見必炷香請益，執弟子禮。紫柏師同平泉陸公、思菴徐公謁師，叩華嚴宗旨。師發揮法界圓融之妙，皆歎未曾有。當江南禪道草昧之時，出入多口之地，始終無一議之者，則師操行可知已。師居鄉三年，所蒙化者千萬計。一夕，四鄉之人見師菴中發火，及明視之，師已寂然而逝矣。時萬曆乙亥正月也。世壽七十五，僧臘五十餘。葬於大雲寺右。

補續高僧傳卷第十六

補續高僧傳卷第十七

吳門華山寺沙門　明河　撰

明律篇

宋　柳律師、圓覺律師傳

柳律師者，是蓋持律而苦行者也。蜀開縣大覺寺有柳律師行碑剝落，其剝落未盡者，猶可摹而為言。師名法本，臨江鄉人，自幼神秀穎異，父母惟師一子，尤愛重之。甫七歲，舉動如成人。一日，忽告父母曰：兒久處塵寰，俗緣未釋，今欲棄僧為僧，願二親莫以兒為念。父母苦止之，繼之以泣，師乃絕粒不食。父母懼，姑從之，遂削髮入山，絕跡不踵家門，勤修苦行，日夕不輟。年及十五，經律論藏無不該覽，遠近咸瞻禮之。常處厚與師為方外交，時就請教。年九十九，一日告眾曰：緣業殆盡，吾將西歸，汝輩宜自勉。端坐而化。

圓覺律師德明者，住金陵能仁寺，際遇太宗，召見，賜紫衣并御容及羅漢像以歸，律聲振江以南，求法人望之而歸。真宗嗣位，復贈以詩章，有精勤演律達真風，釋子南禪道少同之句。二師道行，在當時必表表一方，竟爾失傳，僅於斷鐫殘刻間得其名，不得言其詳也，惜哉！

了興傳

了興，平陽萬全鄉人，宋氏子。髫年棄俗具戒，後歷參諸方，有聞於荊溪尋公。遵戒律，務勤勇，頗多異迹。每[言*奉]誦經，有虎伏案下而聽，或猿獻果，鳥送花。會官築垂楊埭，祭用牛，牛銜刀奔至師所，逐者踵至。師解袈裟付之曰：第條拆散置，埭址可固，勿用牛也。已而果然。牛放山中，時院將興塔，師謂牛曰：汝能為我鍊泥乎？牛俛首受役。塔成七日而牛死。師曰：牛已生善道矣。天禧改元，師坐逝。偈曰：不願生天及淨國，祇明心地本圓常。毗盧妙性非來去，耀古騰今遍十方。經七日，目光炯然如生。

遼　法均(附裕窺)

法均，族里失詳，蘭茁潛幽，珠英秘潤，人莫之知。唯京西紫金寺非辱律師異之，收為童子，究律學，謹持犯，得性自然，非矯揉

也。雖行在毗尼，而志尚禪悅，尋師求指決者十餘年，封被危坐，切甚頭然，似有發明者。清寧中，被徵較定諸家章抄，或有豔之，謀為代者，師力求退，與息貪競，時議多之。道聲遐震，授紫方袍師號。久之，歸隱馬鞍山，遠邇把其清風。咸雍間，上以金臺僧務繁劇，須才德並茂者錄其事，僉以非師不可，命亟下，雖欲退辭，不可得也。當是戒壇肇闢，來集如雲，師為大和尚，儼臨萬眾，雖遐荒絕域，冒險輕生，自萬里而來，冀一瞻慈範，一領音教，如獲至寶而還，似有神物告語而然者。遼主渴思一見，上待以師禮，后妃以下皆展接足之敬，特旨授崇祿大夫守司空，并傳戒大師之號，寵以詩章，有行高峰頂松千尺，戒淨天心月一輪之句，其見重如此。後屢應巨剎，一以弘戒為事。所至之處，士女塞涂，皆罷市輟耕，忘饑與渴，遞求瞻禮之弗暇，一如利欲之相誘。總計前後領戒稱弟子者，至五百萬餘，飯僧之數稱是。其餘因聞而施，觸目之為，籌草木不盡義，孳孳焉嘗若弗逮，惟恐人之知也。勞而感疾，雖食飲罕御，而進力靡懈。曉示學眾，諄諄以務戒為言。以大康元年三月四日，怡然別眾而逝。世壽五十五，僧臘三十九。訃聞，遼主悼歎，命太嘗卿楊溫嶠董後事。七眾哀號，如失恃怙。荼毗，收靈骨塔於方丈之右。或弔之以詞曰：出薊門兮西觀，目巖岫兮巑岏。伊萬庳兮參差，何獨尊兮馬鞍。非以其下兮舊有人耶？神燈發燄兮古玉絕瑕。傳佛戒兮警聾聵，提金剛兮懾魔外。高闢度門兮遠邇雲奔，利見龍德兮來儀帝閽。師子一吼兮天騶去豆，上下交孚兮如鳥破觳。梵音晝宣兮宸章夕吟，歎師德無既兮懸懸千古之心。師即世，繼其道者曰裕窺。裕窺，不知何處人，守德嚴戒，有師之風。遼主嘉之，仍襲傳戒大師，賜崇祿大夫、簡較太尉、提點天慶寺，并賜御製菩提心戒本，命開戒壇，說戒一如師在日。年七十而化。窺性退讓，每事不欲上人，勸人完慈，止殺漁者，焚網更業數十家。奏罷獵地，置義倉，備凶歲者數處。方說戒時，有食魚者，肉上現光氣，其人懼而茹素。嘗過黑栅野，有童子牧牛，牛見窺至，跪而迎之，其主即以其牛并童子為奉。中年亦預僧務，僧以事至，窺先好語誘掖，終於無訟，其人辭謝，仍以念珠一串付之。歉歲嘗抵紫金寺，賑飢人饘粥，或告爨下乏水，窺以杖擿地，掘尺餘，得甘注，暨終事取足，窺既去，水亦隨竭。此窺跡之概爾。窺如是，師可勿詳而悉矣。

金　悟敏、悟銖二傳戒大師傳

悟敏，臨潢孫氏子。幼聰警，十四著掃塔衣事佛。時普賢大師以有道徵，見而奇之，錄為弟子，携之入京。貌重言謙，洒掃應對，甚

得其職，王公大人為加賞識。受經於師，宏軸巨卷，他人讀之，浹旬僅能周，敏一日而畢。洎普賢示寂，從法兄裕景習業，通唯識論，對眾析義，辯若湧泉，宿學碩德，無不歎息，以為不可及。敏未嘗以是自多，遠近爭挽說法，不顧而去。謁通理策公，又見寂炤，感公密受指迪，所資益深，黜聰明墮肢體者，又十年而後出世。禪以自悅，戒以攝人，普賢為戒壇宗師第一世。普賢傳窺，窺沒而傳敏，為第三世，錫紫服師號，所度之眾，不減於乃祖若父。復得悟銖而傳焉，繩繩不絕，律座益尊。皇統元年入寂，壽八十五，夏六十五。敏天資渾厚，不事雕琢，護戒如珠，微細無越，且尚賢務施，至老無倦。主大道場凡二十二處，稟戒者逮五百萬，靜定之外，課誦行持，皆有常數。或疑以道雜，敏笑曰：八萬法門，皆吾心之用，何雜之有？既化茶毗，烟凝成雲，五色相映，舍利若小珠，倏一倏多，或相倍蓰，人爭取而寶之。異哉！是亦戒光之驗爾。

悟銖，字子平，臨潢何氏子。父椿，保信軍節度使，有令名。椿五子，銖當第三。娠時，母不御肉味。既誕，過中不乳。七歲學詩、書，聰慧過人。年十五，懇出家，父母不許，遂不食。或諭其父母曰：宦達雖人世美事，乃或德不稱其位，福不加乎民，徒貪饕貴富於隙駒之間，違真失性，何益於身心？從其志可。因禮白霤太尉傳戒大師，執弟子之役，受具戒。通諸經論，精旨妙義，出老師宿學上。復見佛覺禪師於龍泉萬笏山，自是宗說無礙。化行平、灤、涿、易間，開圓覺、楞嚴二十餘席，人趣奉法音，如佛在世。皇統間，授中都右街僧錄，賜號文悟大師。尋告退，歸鞍山，大興土木，了前人未竟之業。於殿西北隅作涅槃堂，曰：吾蛻於是。以金亮貞元二年入寂，戒傳於圓拱。銖平生多異跡，宿村寺，適洪水發，餘屋盡壞，獨坐室屹然。當升壇說戒，空中現五色霞，霞中列蓮華無數，坐處隱然有光，迫近則無。尤留心唯識，每發願上生，曰：慈尊一生補處，吾欲從之細窮法相耳。闍維，舍利盈掬，徒眾建窣堵波藏焉。

賈菩薩傳

廣恩和尚，順德路洺水賈氏子。元初祝髮為開元寺僧，其師亦知識，訓督頗嚴。師至性過人，安納淒緊，不見色詞小異，勤勤汲汲，唯恐不得師心。及受具為大僧，振錫遠游，參見名山老宿，精進勇猛，所過有去後之思。且戒行嚴謹，少言語，慎舉動，三業肅然，六時如一。時兵馬大元帥路通鎮臨清，信向佛乘，建淨土寺，請師居之。人無貴賤遠近，爭致檀貲，金碧輝煥，如天成地涌。以

師道風有素，所歸翕然，故不待號召而至，策勉而成也。一日，元帥願聞淨土之說，師曰：心體自淨，雜用濁之，用若能一，是名著體。體即淨心，心外無二，土淨心淨，其理無二。通聞歎服曰：可謂要言不煩。表聞於朝，賜號護國興理大師賈法宗大菩薩。

光教律師法聞傳

法聞，陝西嚴氏子，楚莊王之裔，以謚為姓，避漢諱，嚴代莊也。師七歲事禪德輝公，十有五薙染，二十受具戒。游汴、汝、河、洛間甚久，從大德溫公學法華、般若、唯識、因明及四分律。溫以師任重道遠，託以弘傳之寄，因對佛灼肌然指，庸表克誠。又刺血書經，隱臺山，不踰閾者六年。讀大藏經五千卷，三過，行業大進。帝師聞師說法，顧謂其徒曰：孰謂漢地乃有此人耶！未幾，輝致書勗以兼善，無忘鄉梓，師遂抗錫而西。既至，耆老驩呼曰：吾鄉之人，得所師而承教矣。尋以安西王命，居城南之義善寺，唐初神僧杜順示迹地也，道大振。天子聞之，被徵，詔居大原教寺，授榮祿大夫、大司徒，遷普慶蘭若，加開府儀同三司、大司徒，銀章一品，賜遼世金書戒本。王公大臣皆仰止高風，猶景星鳳凰，無不從師受教者。延祐四年三月，跏趺而逝。以聞，上惻然，賜幣數萬緡以葬，詔大臣護喪，有司備儀衛旌蓋送之。世壽五十八，僧臘四十三。

清涼信明傳(印寶附)

信明，字真覺，五臺清涼疃高氏子。依本山清涼寺正洪長老削染。年十四，業講有聲。二十四，受大戒述論，弘贊戒章。又著盂蘭等鈔，發義精朗，甚為時輩傳誦。加以行門自嚴，誦戒讀經，殊無少怠。元主召見，法沁宸衷，賜號興國大師，授僧統之職。勉應之，非所願也。後從慶壽海雲和尚咨決心要，頗有省發。然不以得所解而廢所行，益自督厲。戒光高顯，于時無兩。自貴戚以下至士庶人，從師受菩薩戒者甚夥，化風被河朔矣。六十九示寂，獲舍利無數。正覺寺有遺行碑存焉。
榆次有印寶者，亦戒行僧也。四方多請住持，弗應。七十歲坐亡，火化，烈燄中有金光透出，舍利如雨，眼舌不壞。後有人見於黃蘆嶺騎白驢而行。

惠汶律師傳

惠汶，歸德之偃武人也。驅烏之歲，依耆宿釭公為童侍。二十，從大德溫公受菩薩戒，嗣法壇主恩公。既而行業日隆，道益著，從學者益眾。佛制：凡為苾芻，雖大節不虧，而細行必謹，非法不眼，非時不食，居處動作，皆有軌則，所以戒昏墮而防逸德也。師守護嚴謹，雞鳴而興，坐以待旦，乾乾終日，惟佛是念。雖道行旅宿，三衣一鉢，必與身俱。制行甚高，而無矯飾之節；操存雖固，而無詭激之跡。是以而言人莫不信，動而人莫不敬。兩河之間，三監舊邑，從化者蓋以萬數。緇素相率而求戒法者，憧憧接迹於途，承一訓言，無不懽心感戴。說法數十餘年，升壇授戒四十餘會，大臣接以師敬之禮。至順三年示寂，年七十有三。

補續高僧傳卷第十七

補續高僧傳卷第十八

吳門華山寺沙門　明河　撰

護法篇

宋　維琳傳(天石附)

維琳，武康沈氏子約之後也。好學能詩。熙寧中，東坡倅杭，請住徑山。繼登慧淵公法席，叢林蔚然，眾心歸附。久之，憚煩退靜，於邑之銅山結菴，名無畏，自號無畏大士。建中靖國初，東坡自儋耳還至毗陵，以疾告老。師往問慰，坡答之以詩。始師之居銅山也，院有松合抱，縣大夫將取以治廨。師知之，命削皮題詩其上曰：大夫去作棟梁材，無復清陰護綠苔。只恐夜深明月下，悞他千里鶴飛來。尉至，讀其詩乃止。宣和元年，師既老，朝廷崇右道教，詔僧為德士，皆頂冠，師獨不受命。縣遣使諭之，師即集其徒說偈，趺坐而逝。眾以二缶覆其軀，瘞山後。

天石者，福州侯官水西石松寺僧也。紹與十年，栽松三本於石上，自刻石云：一與寺門作名實，二與山林作標致，三與游人作陰涼。題詩云：偃蓋覆巖石，歲寒傲霜雪。深根蟠茯苓，千古飽風月。寺初名石嵩，後名石松者，以此。天石亦可想見也。

杭州報恩院慧明傳

慧明，蔣氏子也。幼歲出家，三學精練。過臨川謁法眼，豁然有省。回鄞水菴，居大梅山。吳越部內禪學雖盛，而以玄沙正宗築之閫外，師欲整而導之。一日有禪者至菴，師問曰：近離何處？對曰：成都。曰：上座離成都到此山，則成都少上座，此間剩上座。剩則心外有法，少則心法不周。說得道理即住。禪客莫能對。又遷止天台白沙菴。有彥明道人者，俊辯自負，來謁師。師問曰：從上先德有悟者否？對曰：有之。曰：一人發真歸源，十方虛空悉皆銷殞。舉手指曰：只今天台山嶷然，知何得銷殞去？明張目直視遽去。錢忠懿王延請問法，命住崇資院，盛談玄沙法眼宗旨。自是他宗泛學皆寂然賓服矣。一日忠懿王為法集大會諸山，師問諸老宿曰：雪峰塔銘云：夫從緣而有者，始終而成壞。非從緣而有者，歷劫而長堅。堅之與壞即且止，雪峰只今在何處？老宿不能對。王大說，署圓通普炤禪師。

長蘆賾禪師傳

宗賾，襄陽孫氏子。父早亡，母携還舅氏家鞠養。長成習儒業，志節高邁，學問宏博。年二十九，幡然曰：吾出家矣。遂往真州長蘆，從秀圓通落髮，學最上乘。未幾，秀去而夫繼。師得旨於夫，遂為夫嗣，而紹長蘆之席一法窟。父子接踵弘闡者三世，雲門之道大震，江淮之間幾無別響。師上堂曰：金屑雖貴，落眼成翳。金屑既除，眼在甚處？拈拄杖曰：還見麼？擊香卓曰：還聞麼？靠却拄杖曰：眼耳若通隨處足，水聲山色自悠悠。啟示明切如此。師性孝，於方丈側別為小室，安其母於中，勸母剪髮持念阿彌陀佛號。自製勸孝文，曲盡哀懇。師雖承傳南宗頓旨，而實以淨土自歸。至感普賢、普慧二大士夢求入社，其精誠可知矣。其母臨終，果念佛吉祥而逝。始卒數十年間，以安養一門，攝化緇白。從化臨終，正念如其母者，蓋不知幾何人。師持勤匡道，一念得自天性。以言難及遠，往往託筆墨以致心焉。其勸供養，則曰：若無有限之心，則受無窮之福。其勸坐禪，則曰：一切善惡，都莫思量。念起即覺，覺之即失。久久忘緣，自成一片。又曰：道高魔盛，逆順萬端。但能正念現前，一切不能留碍。其警游談，則曰：既乖福業，無益道心。如此游言，並傷實德。其警撥無，則曰：麤解法師，不通教眼。虛頭禪客，不貴行門。此偏枯之罪也。又曰：宗說兼通，若杲日麗虛空之界。心身俱靜，如琉璃含寶月之光。可謂蓬生蔴中，不扶自直。眾流入海，總號天池。其言意至味，一臠可以知全鼎矣。未詳所終。

宗致傳(附居竭、子照)

宗致者，臨濟十一世之玄孫，而泐潭準禪師之嫡嗣也。住持東山，立身行道，大為時所宗仰。以智慧無礙之心，為功德莊嚴之事。洪覺範慈觀閣記云：師骨面嚴冷，英氣逸羣，以荷擔雲菴法道為己任。說法有辯慧，護教有便行。卑叢林，以宗旨爭溝封，以語言爭是非，紛然諸方，方熾未艾。名為走道，其實走名射利，裨販無所不至，而正宗微矣。欲棄之而弗忍，欲導之而弗從，於是為室于方丈之東，名曰慈航，又自名其號曰慈覺。猶以為未也，建閣於大門，名曰慈觀。

蜀僧居竭者，傾長財一百五十萬以助成之。竭平生自奉甚約，所得檀信之施，毛累寸，積四十年之藏，一旦舉以施之，人以為難。

南晉僧子照者，有實行自然之智，如人信手斫，方圓皆中繩墨。慈覺使總院事，事無巨細談笑，而辦閣經營，照實董其事。垢面龜

手，不憚霜雪，伐山相材，運土拾礫，與蒼頭短髮進退，凡半年而落成。竭以財施，而慈覺之志乃克成。師弟子之於宗，皆無所媿，賢矣哉！

寶覺道法師傳

永道，順昌毛氏子也。出家，宗唯識、百法二論，又受西天總持三藏密法，及傳圓頓戒法於元照師，咸得其要。政和中，賜椹衣，主左街香積院，賜號寶覺大師。林靈素以左道罔上，宣和初，詔改僧為德士，服冠巾，天下從之無敢後。師獨毅然抗詔，上書曰：自古佛法，未嘗不與國運同為盛衰。魏太武崔浩滅佛法，未三四年，浩竟赤族，文成大興之。周武衛元嵩滅佛法，不五六年，元嵩貶死，隋文帝大興之。唐武宗趙歸真、李德裕滅佛法，不一年，歸真誅，德裕竄死，宣宗大興之。我國家太祖、太宗，列聖相承，譯經試僧，大興佛法，成憲具在，雖萬世可守也。陛下何忍一旦用姦人之言，為驚世之舉？陛下不思太武見弒於閹人之手乎？周武為鐵獄之囚乎？唐武受奪壽去位之報乎？此皆前監可觀者，陛下何為蹈惡君之禍，而違祖宗之法乎？書奏，上大怒，命下，黥流道州。蔡京從容為上言曰：天下佛像，非諸僧自為之，皆子為其父，臣為其君，以祈福報恩耳。今大毀之，適足以動人心，恐非社稷之利也。上意為之少回。未幾，靈素事敗，放歸，賜死於道。復教師量移近郡，尋得旨放回，敕住昭先禪院，賜名法道，以旌護法。師之謫道州也，郡守僚屬皆先夢佛像荷枷入城，既而師至，皆善待之。時軍民多病，師呪水飲之，無不愈者，求者益多，乃為沼於營中以呪之。師既還，道人如失恃怙。及二帝北狩，康王即位，東京留守宗澤承制命師住左街天清寺，補宣教郎、總管司參謀軍事，為國行法，護佑軍旅。師往淮、潁，勸化豪右，出糧助國，軍賴以濟。後奉詔隨駕，陪議軍國事，上欲加以冠冕，師力辭，詔加圓通法濟大師。一日，上從容謂師曰：上皇為妖人所惑，毀師形服，朕為師去此黥涅。師對曰：上皇御墨，不忍毀除。上笑曰：此僧到老倔強。乃敕住廬山太平禪寺。故事，道場僧左道右，崇、觀以來，遂易舊制。師不能平，詣朝廷論辯，卒獲改正。紹興五年大旱，詔師入內祈雨，結壇作法，以四金瓶各盛鮮鯽，噀水默祝，遣四急足投諸江，使未回而雨已洽。上大悅，賜金鉢。上以國用不足，敕天下僧道納清閒錢，師致書於省部，極論其非，傷大體而阻善化，言雖不行，勢亦少戢。紹興十七年秋，說偈端坐而化。闍維，舍利無數，塔於九山九里松

法燈禪師傳

法燈，字傳炤，成都華陽王氏子。自幼時則能論氣節，工翰墨逸羣，不受世緣控勒。年二十三，剃落於承天院，受具足戒。即當首楞嚴講，耆年皆卑下之。其師圓明大師棄講出蜀，師侍行至恭州而歿。師扶護歸葬成都，辭塔而去。下荊江，歷淮山，北抵漢沔，徧謁諸老。所至少留，機語不契，振策即行。登大洪，謁楷禪師，遂服膺戾止。承顏接詞，商略古今，應機妙密，當仁不讓。大觀初，楷公應詔而西，三年坐不受師名敕牒，縫掖其衣，謫緇州。師跰足隨之，緇之道俗高其義。太守李公擴虐太平興國禪院以居之，於是洞上宗風盛於京東。政和元年，楷公得釋，東遁海濱千餘里太湖中而止，草衣澗飲，若將終焉。師猶往從之，楷以手揶揄曰：雲巖路絕，責在汝躬，行矣。師識其意，再拜而還。七年解院事，西歸京師，名聞天子。俄詔住襄陽鹿門政和禪寺。師謝恩罷，退飯丞相第。堂吏抱牘至，白曰：江州東林寺當改為觀，從道士所請。師避席曰：廬山冠世絕境，東林又其勝處。世為僧居，如春湖白鷗，自然相宜。今黃冠其中，絕境其厄會乎？丞相大以為然。東林之獲存，師之力也。既至漢上，郡將諷諸山辦金帛，詣京師作千道齋。師笑曰：童牙事佛，有死無二。苟非風狂失心，輒以十方檀施之物，千里媚道士耶？郡將愧其言而止。然天下叢林聞而壯之。鹿門瀕漢江，斷岸千尺，寺甞艱於水。師坐巖石下，念曰：吾欲叢林此地，為皇朝植福，而泉不能贍眾，山靈其亦知之乎？師以杖擿草根，俄眾泉奮發，一眾大驚。山中之人目之曰燈公泉。師初依夾山齡禪師，齡道孤化，而無嗣之者。僧惟顯得其旨，隱於南岳。師以書抵長沙，使者迎出，以居龍安禪寺。聞者服其公，貴其行。初，慧定禪師自覺革律為禪，開剏未半而逝。蝗藏蜂聚，故窠遺垤十猶七，師為一新之。長廡廣廈，萬礎盤崖，椎拂之下五千指。十年之間，宗風大振。人徒見其婆娑勃窣，若游戲然，不知其至剛峭激也。篤信所學，雖威武貴勢，不敢干以非義。性喜施，不計有無，傾困倒廩，以走人之急。靖康二年春，金人復入寇，兩宮圍閉。師驚悸不言，謝遣學徒，杜門面壁而已。弟子曰：朝廷軍旅之事，何預林下人，而師獨憂念之深乎？師熟視，徐曰：河潤九里，漸洳者三百步；木仆千仞，蹂踐者一寸草。豈有中原失守，而林下之人得寧逸耶？五月十三日，中夜安坐，戒門弟子，皆宗門大事，不及其私，泊然而逝。檢其所蓄，道具之外，書畫數軸而已。閱世五十有三，坐夏三十。塔全身於山口別墅慧定塔之東。

萬松老人傳(附從倫)

行秀，號萬松，河內人，族蔡氏。自幼不凡，超然有出世志。屢白父母，求出家。父母初難之，然知終不可以世相奪，因携送邢州淨土寺，禮贊允公為師落髮焉。具戒後，決力參究，即擔囊抵燕，栖憩潭柘。過慶壽，叩勝默老人。老人曰：學此道如鍛金，滓穢不盡，精真不顯。觀君眉宇間，大有物在。此物非一番寒徹，不能放下。子後自見，不在老僧多言也。師益厲精猛，至寢食俱忘。後至磁州，參雲巖滿公，遂於言下大悟，曰：得恁麼近。始知勝默為人處，婆心切，落草深也。依雪巖二年，盡其底蘊，付僧伽黎，勉以流通大法。自是兩河三晉之人，皆飲師名，法門隱然，倚以為重。明昌中，章宗請入內庭說法，親奉錦綺大衣，腋而升座。自后妃以下，皆從師受法，羅拜位下，各施珍愛。建普度會，數日之內，祥瑞疊見，道猷遠聞。承安改元，特詔住仰山棲隱寺。寺先為世宗所建，奉玄冥顗公為開山。顗公故金國大禪老，給田度僧，雖極一時之盛，然未大弘法音。師登座一宣，萬指傾聽。以洞上孤冷不振之宗，一旦得師而起之，扶頹繼絕，功不在青華嚴下也。次遷寶集、萬壽，又移席報恩，連住鉅剎，道化不少衰。晚年退居從容菴，幽林多暇，評唱宏智百頌。又著請益錄，踵碧巖之後塵，開寶鏡之重垢，甚有補於宗門，學者至今傳習。師天資敏利，於百家之學，無不淹通。三閱大藏，首尾熟貫，雖座主老於繙檢者，不敢以汗漫欺。李屏山居士著論弘宗，人稱使摩詰棗柏再出無以加。然以日叩函丈，受師啟發者居多，則師於法門樹立宏矣。後無疾而終，年八十一。

林泉老人從倫者，師弟子也。住大都報恩寺，著空谷傳聲、虛堂習聽二書，評唱投子青、丹霞淳二公頌古。其自序有云：以無說之說而說其說，使不聞之聞而聞乎聞。論者謂倫公非有意於言，蓋道之所在，不得已而言之也。

元　雲峰高禪師傳

妙高，字雲峰，福之長溪人。家世業儒，母夢嬰兒坐蓮華心，手捧得之，覺而生師，因名夢池。神采秀澈，嗜書力學，尤醉心內典，汲汲以入道為請。父母以夢故，不奪其志，俾從雲夢澤公受具戒，銳意求道。首參癡絕冲，冲曰：此兒語纚纚有緒，吾宗瑚璉也。次見無準範，範猶器愛，擬以侍職處，師嘆曰：懷安敗名。遂去之育王，見偃溪掌藏鑰。一日，溪舉：譬如牛過窻櫺，頭角四蹄俱過，因甚尾巴過不得？師劃然有省，答：鯨吞海水盡，露出珊瑚枝。溪可之。尋住南興大蘆，遂為偃溪嫡嗣。遷保安，江陰勸忠、霅川何山、雲衲、四來三堂皆溢。朝命升蔣山。德祐乙亥，寺被兵，軍士

有迫師求金者，師曰：此但有寺有僧，無金與汝。偶以刀儗師頸盪磨之，師曰：欲殺即殺，吾頭非汝礪刀石。軍士感動，擲刃去，寺得無恙。至元庚辰，遷徑山，山經回祿，草創纔什一，師悉力興建，纔還舊觀。明年己丑正月復火，剎那而燼，寺眾大駭，師喟然曰：吾宿生負此山，吾償之勿憂，憂諸人不解狗子無佛性耳。眾為悚然，遂竭力再營，至壬辰十月落成，為屋千楹，計工百萬。師雖治土木，而晨夕唱道，雲衲奔湊，瓶錫几几，宴若無事。甫十年間，兩建鉅剎，如探諸懷，功亦偉矣。時教徒肆毀禪宗，上將信之，諸禪老縮項無聲，師聞之歎曰：此宗門大事，吾當忍死以爭之。遂拉一二同列趨京，有旨大集禪教兩門廷辯。上問：禪以何為宗？師奏：淨智妙圓，體本空寂，非見聞覺知思慮分別所能到。宣問再三，師循源泝流，緣詞會理，約二千餘言，如瀉泉鳴籟，以答宸衷。上大悅，自是使講徒不復有言於禪，而當世之主遂深信於禪，皆師回天之力也。陛辭南還，以癸巳六月十七日書偈而逝，閱世七十有五，臘五十有九，塔於寺西之居頂菴。

至溫傳

至溫，字其玉，號全一，生邢州郝氏。幼聰敏異，嘗六歲見寂照和尚，照曰：汝其為釋氏乎？師心許之。會照避亂去，隱遼西，乃禮照弟子辯菴訥而祝髮焉。無還富公開法萬壽，涖眾甚嚴，師不以為忤，與十僧同往佐之。尋為萬松侍者，以才氣過人，稍不容於眾。然博記多聞，百家之言罔不該涉。又善草書，有顛、素之遺法，凡萬松偈頌法語，一聞輒了之，遂得法焉。嘗使代應對，談鋒不可犯。太保劉文貞公長師一歲，少時相好也，薦師可大用。世祖召見，與語大悅，將授以官，辭曰：天下佛法流通，僧之願，富貴非所望也。慰而遣之。世祖征雲南還，文貞為言，錫師號曰佛國普安大禪師，總攝諸路僧事，刻印以賜。師銳意衛教，凡僧之田廬見侵於豪富及他教者，皆力歸之，馳驛四出，周於所履，必獲其志乃已。或勸之少憩，弗懈也。憲宗末年，僧道士各為違言以相傾，上命聚訟於和林，剖決真偽。師從少林諸師辯之，道士義墮。自是法教大興，僧徒賴之，師遂納印辭職。每歲賜金，輒緣手盡世味，泊如也。以至元丁卯終於桓州之天宮寺。當盛暑，儀形如生，異香馥郁。停三日，火浴之，心舌牙齒不壞。人掊其地，深數尺，皆得舍利云。世壽五十一，僧臘四十。

念常傳(附覺岸)

念常，號梅屋，華亭黃氏子。母楊，夢僧龐眉雪髮，稱大長老，託宿焉，因而娠。至元壬午三月十有二日誕於夜，神光燭室，異香襲人，逾日不散。既長，喜焚香孤坐，風骨秀異。年十二，懇求出家，父母鍾愛之，誘以世務，終莫奪其志，遂舍之。元貞乙未，江淮總統所授以文憑，薙髮受具，遍游江浙大叢林，博究羣經。宿師碩德以禮為羅延之，皆捲謙弗就。至大戊申，佛智晦機和尚自江西百丈遷杭之淨慈，師往參承，於言下有省，俾掌記室，服勤七年。延祐乙卯，佛智遷徑山，師職後版表率。明年，朝廷差官理治教門，承遴選住嘉興祥符。至治癸亥，乘驛赴京，得以觀光三都之勝，覽燕金遺墟，入五臺禮曼殊，出入金門討論墳典，如司徒雲麓洪公、別峰印公，自帝師以下皆尊而愛之。自京而回，主姑蘇萬壽法席。師精通內義，外博羣書，乃取佛祖住世之本末，傳授之源流，及夫時君世主之所尊尚，王臣將相之所護持，參異同，考訛正，運弘護之心，秉至公之筆，緝而成書，謂之佛祖歷代通載，凡二十有二卷。翰林道園虞公序其首，慨僧史無續而失傳，譏志磐書事之無法，蓋深有取於師言也。寶洲上人謂師此述理明事實，出入經典，考五宗傳，殊有補於名教。於是即普覺文房采摭內外典籍成編，題曰稽古略，與師並行於世，詳略各得其宜也。

寶洲名覺岸，吳興吳氏子。從獨孤明禪師落髮受具，與師同參晦機。後開法於松江南禪，講楞嚴至七徵心，忽淨瓶水騰湧注於懷，聽眾驚愕。師笑曰：此偶然耳。

明　呆菴莊公傳(敬菴)

呆菴莊禪師，台州人也。住持徑山，學者雲合，說法酌機，迅若奔雷。有呆菴語錄，湮沒無傳，記籍但載其答儒一編，意深而遠，語宏以肆，轟轟然誠宗門之偉人也。或以儒釋內外之辯，問者曰：昔宋儒晦翁曰：釋所謂心上做工夫，本不是。程子曰：釋氏之學，於敬以直內則有之矣，義以方外則未之有也。故滯固者入於枯槁，疏通者歸於恣肆，此佛教所以隘也。吾儒則不然，率性而已。斯理也，聖人於易備言之。二翁之說何如？師曰：不然。教有內外不同，故造理有淺深之異。求之於內，心性是也；求之於外，學解是也。故心通則萬法俱融，着相則目前自昧。嗚呼！外求之失，斯為甚矣。今儒學之弊，浮華者固以辭章為事，純實者亦不過以文義為宗，其實心學則皆罔然也。宋之真儒深知其病，又知吾心工夫為有本，是當教本抑末，以斥其言語文字之非可也，而復以心上工夫不是，何自為矛盾歟？本既不是，何謂却勝儒者乎？此其不能窮心學之理，於吾佛之道深自惑亂而不能取決也。觀伊川之言亦然。夫既

愍吾道為有內無外矣，果能以道為本，得本何憂於末哉？繼言枯稿恣肆，又愍吾道之隘，是未見其大者矣。既曰佛有覺之理為敬以直內，復言要之亦不是，皆反覆自惑之言耳，豈真知此理者哉？若率性之說，亦不出吾心上工夫，必取證於易。易乃心上之妙理，先儒不明本心之體，遂不明良知良能之所自出，謂有氣而後有知，乃推性命之源於氣，推性為氣中之理，以性循理為道，故隨事隨物以明理。不知天地人物形氣皆生於覺性之中，而吾之本心妙明徧照已在思慮未發之時，若有得於此，即時中之義也。失此不能少存於內，徒追求於事物之末，謂之義以方外，豈有是哉？取證於易者，易言至神至聖，皆指不可測不可知之地，故不疾而速，不行而至。又以無思無為無感通之本，則易所證固非外矣。夫了悟之地非學解所能到，悟則謂之內，解則謂之外，則內教外教所以不同也。儒者專用力於外，凡知解所不及者不復窮究，故不知允執厥中之道，天理流行之處皆在思慮不起、物欲淨盡之時，踐履雖專，終不入聖人之域矣。葢因疑佛氏之迹為無父無君，遂不究盡其說，使孔聖之道不明，乃成毀佛之過也。惜哉！師將化，忽云：難難，二八嬌娘上高山，老僧扶不得。言訖而寂。

敬菴莊公，亦台人。自幼智慧不凡，祝髮廣慈，祝輕世薄塵，遍參有悟入。永樂間，住徑山，奉詔修大典。寓天界三年，姚廣孝等諸公交章舉住持，固辭還徑山。其嘉言善行，惜不得盡傳。呆菴嘗云：敬菴嘗主越中二剎，既來龍河，全室翁以二座處之。退休一室，以風節自持，良可尚也。一日，含笑而化，塔於水嶺小池之上。

天泉淵公傳

祖淵，字天泉，雨菴其號也。廬陵楊氏之子，生有異質。永樂癸未，具戒於青原山。上金陵，謁幻居戒公，多所啟發，號入室弟子，嘗對眾稱之。師不以小得自滿，然臂香篤志求道，至廢寢食者五年，始得微悟。若開雲霧，行虛空，無所留閡。遂振錫觀方，遍禮祖塔。所至叢林畏敬之，聲稱隱然起同輩間。壬寅還天界，刺血書雜華經。宣德改元，住山闡教。月山公嘉其行，延置座端，為龍象表率。尋為僧錄司舉，住雪峰。未幾，天童虛席，移師居之。百廢具興，化道大行。甲寅，被　召入京，命為左覺義。時　勅建大功德寺成，住持難其人，命師兼之。僧眾聞之，皆樂從，展鉢如雲。　上悅，賜田四百餘頃以贍焉。師念禪、講、教三宗，名不可不正，奏以大功德、大慈恩、大隆善三寺為之。繇是三宗弟子，各有依歸，傳道受業，而綱緒始無紊亂矣。又以天下寺多廢，繇學徒

未廣，於嘗度正額外，增其數五之一。一時受度者，如川滙雲，委其徒之繁昌，廢剎多緜是而興。陞右善世，發　上所賜物，建大剎於江寧之鳳翔山，　賜額曰普寧禪寺。萬善戒壇成，命師為傳戒宗師。天下學者聞師戒，皆知所守，而行不離道。寺左道北山阻溝水泥淖，往來者苦之。師同太監興安拓地三百畝，甃石作安和橋，築菴橋側，命僧守之以濟眾。於是寒不病涉，暑則供茗飲，人歸德焉。師氣宇弘深，制行潔白，葢湛然淵澄，浩然海蓄，凡諸世緣，無一可以動其意。其為國家祝釐，則洞洞然盡其誠；為諸弟子說法，則懇懇然發其趣。葢忠於事上，勤以接下，一時尊而仰之，如泰山北斗云。所度弟子以萬計，嗣興教事及主名山住大剎者又若干人。生於洪武己巳二月四日，化於正統己巳三月七日，壽六十一，僧臘四十七。卒之時，沐浴更衣而坐，索筆書偈曰：觀世間，六十一，一即是三三即一。團團爍破去來踪，白日虛空轟霹靂。書畢，瞑目而逝，異香滿室者數日。　太上皇聞之，遣太監吳弼賜以白金香幣鈔萬緡，又遣禮部主事林璧賜祭，朝之公卿大夫莫不致祭。茶毗於都城之西山，貴賤耄耋送者萬餘人，得舍利盈掬，藏於功德院。靈骨奏還南京普寧，建大窣堵波藏焉。

真澧傳

真澧，字亨渠，別號一江，江右劉氏子，系出唐中山禹錫之裔。父福端，母湯氏。生時感異夢，有天香芝草之瑞。弘治辛酉閏七月誕，甫脫乳，口絕葷羶，合掌籲佛。十餘齡，姚洞寇肆掠民間，母子相失，師被俘，久而得脫。投鎮守黎公為參隨，守事淳謹，黎公愛重之。及黎公入京，携以偕，道出彭蠡，瞻匡廬天池之勝，遂願出家，叩首請命於馬前。黎公故長者，奇賞其志，許自便。師即投廣化寺，禮旺祖庭為師，落髮受具戒，宿知漸顯。歷游諸席，通圓頓教旨，入耳契心，大為師友賞識，所至人皈從之。師或說佛法，或示詩辭，隨方振鐸，啟迪弘多。時京都招提有變，燈燄微熄，師大感惻，力為掙拄，而事獲寢，不致橫流波及，師功居多。孜孜以弘教護法為心，考見生平，非如此一事一跡而已。歲丁巳，一日忽夢居賢坊水塘之陽，有唐復禮法師舊基，見一僧手持書券一紙相授曰：師有力，宜興此地。即隨僧履土窪，步平臺，覩湖水石壁，獅峙象拱，日光山色，輝煌奪目。忽驚醒，遂偕客踪跡之，得廢地，恍然夢境，遂矢葺搆之願。檀施雲集雨合，不數年而成，金碧交映，宛如化樂天宮。師踞座演迦陵之音，人踵門服甘露之化，京師佛法號為中興云。師韻度清遠，有句云：樹間風正輭，雲際日方遲。論者謂有禪意。萬曆壬午坐化，塔於西山雙槐樹。

莽會首傳

慧定，字無盡，別號南泉，潞安邵氏子。貌奇偉，兩眸如電。性倜儻，不喜俗務。剃髮理會本分事，有省。詣臺山禮大士，遂發願飯僧十萬八千。千日滿願，莖菜粒米必躬親之，人服其誠篤。師力藝絕人，能兼數十人執作，又言行質直無文，以故競呼為莽會首，聲震叢林。所至，人遮留之，答曰：易處不住，住處不易。不顧。行至舊路嶺，結茆聚眾以居。時盜賊蟠聚山半，畫地為界，號南北大王溝，官兵莫敢捕。過客瑟縮相戒，非聚百眾，鳴金持械，莫得前者。及師莅止，盜怯師名，而伺之甚密。一日，師出，菴破。既歸，殘僧三四人持師泣，幸徙菴避之。師奮曰：不可。死生有命，賊何為者？尋且滅之。言已，賊大至。師手無兵器，乃碎水缸擊賊，無所中。賊知師無兵器，乃敢相近。鎗中師左脇，師手接其鎗，踢賊仆地，刺殺之。賊駭退，方入戶，檢視傷處，洞三寸許，脂腸俱出。忍痛縛固，持鎗出戶，厲聲曰：正欲捕滅汝輩，今來送死耶？賊怯不敢前，但持亂石遙擊師，中額顱。會龍泉關兵統鄭某者，與師善，意師創盜，潛以兵護之。兵到，盜散去，遍山覓師不得。逮曉，見深澗中僵臥一血人，細視之，師也。鄭號哭曰：天乎！奈何喪此英雄人耶？舁歸，捫其胸尚溫，喜曰：是不死血，迷心竅耳。抉其齒，灌以藥酒，久之乃甦。調治平復，即辭鄭去，奮欲擊賊。或難之，師曰：大丈夫欲除殘暴，建立佛法，即九死豈敢辭？結同志，得五十二人，俱英奇輕死之輩。諸邊將雅熟師名，至是遍謁之。假兵器，募糧草，投牒師府、督府，期一舉滅盡，咸壯許之。盜渠率百餘曹，師悉知其姓名住處，卒以兵相臨。數日間，無不就擒斬，巢穴遂空。時師二十八歲矣。從此安立叢林，供十方雲水粥飯，以雜華為定課，兼行一切佛事。或修淨業，或習禪觀，或閱藏典，歷五十餘年如一日。一日，謂眾曰：時節清平，吾將順化，速請城上宗主師來。既至，付以住持事。將就化，眾哀號，師曰：無勞悲戀，但念世界空花，苦樂夢幻，即見我已，慎勿作去來想。眾復哀留繪像，師振威喝曰：咄！豎子！此金剛不壞之體，堪充汝輩瞻仰，何用此幻妄為？遂端坐化去。時萬曆二年正月二十三日也。世壽七十六，僧臘五十。瘞全身山之西峰。越兩月，雷轟瘞處，杭僧止堂者，竊窺師相，鬚髮已長寸許，顏色如生。

宗主名某，全與莽師同殲盜賊者也。習講律庭，選為傳戒宗師，住京師明因寺。既承付託，勵精弘闡，從化者眾，貌狀略與莽師同，亦奇偉丈夫也。

寬念小師傳

寬念小師十餘歲，祝髮即有大心，一言一笑不輕發，眉宇清逸端嚴，見者浮氣自斂。京師諸剎凡屬中貴供奉者，即以中貴為主人，僧反客焉。見中貴則膜拜盡禮，小師所居崇因寺亦然，乃祖若師守禮無失。至小師紹位，則曰：沙門不拜王者，豈可自袈裟中失律？見諸中貴，問訊如律，眾稍畔去，香積塵封不問也。而縉紳學士敬而愛之，炷香問者履韋滿。年餘病瘵，肌肉落盡，而起居自若。時方延淨侶禮懺，誦華嚴經，梵音清越。入室中，客問曰：懺宿業耶？延新禧耶？小師曰：宿業一定當還，懺之何益？眼前四大如此作苦，延之何貴？生長閻浮，無補於眾生。幻緣將盡，悉衣鉢之餘燒一炷香，假三寶勝緣，聊報四恩三有耳。行與子辭矣，他時異日當效奔走。言訖，點首數四。客去，呼湯浴罷，合掌念佛而化，時年十九云。

補續高僧傳卷第十八

補續高僧傳卷第十九

吳門華山寺沙門　明河　撰

感通篇

五代　二蕭師傳

蕭公祖師。蜀人，生於殘唐。師雪峰存和尚，行頭陀行。久之得悟，而發通於閩服，大著神異。閩人莫知其名，因稱蕭公祖師。古田有白蛇肆害，師驅之。溪源有毒龍為雉，師降之。至於封山打洞，無妖不剪，無怪不除。合四境之內，地方千餘里，魔氛不作，月皎清光，人無惡夢。有偈曰：剃髮還留髮，居塵不染塵。人稱三教主，了義一歸真。又曰：一相元無相，如來如不來。道全歸四果，顯法救三災。觀師偈意，是菩大菩薩示跡度生，非專羊鹿位中人也。師至宋嘉熙間始入滅，住世三百餘歲。火化於鳳冠巖，祥光燭天，異香普聞。火盡，鄉民刻木肖師形，盛骨於內，請有司立菴奉之。錫胤弭災，隨禱而應。尤効於雨，虔禮則霈焉，隨踵而至。又有蕭禪和者，長沙萊陽人。生後唐，為弓手催稅，夜宿逋負之家。明日，逋家欲烹鵝以待，鵝覺焉，遂作人語，語雌曰：我明日當烹，汝善視諸子。弓手聞之，天未明，謂逋家曰：何以相待？逋家曰：烹鵝矣。曰：何不生與我？遂携鵝而去。因感此出家，遍參知識，修鍊精苦，所至挈鵝以自隨，亦著靈異。一日，遊茶鄉小崗，見老嫗肩水向求飲，嫗進水，遜詞曰：水非泉，恐未潔。禪和憫之，曰：汝願富貴乎？嫗曰：地無泉，歲不熟，食且少，安望富貴？但得水暘時，歲有年足矣。禪和即於近山巖下，以錫杖鑿石孔七，以碗覆之，俾七日後去，碗當有泉。後果然蔭注千頃，後人賴之。入宋，于江西慶雲寺立化，鵝亦長號而死。二師同姓，其脫然不可思議處又同，故合傳。

南唐　木平傳

木平和尚，不知何許人。游戲江浒，語言無度，蹤跡詭異，人不能測識。李後主尊為聖師。嘗掛木瓶杖頭，一日赴內齋，坐頃忽不見。後主問曰：和尚何在？因引瓶自蔽，應曰：某在此澡浴。後主拜之，木平曰：陛下見羣臣，勿言臣在瓶中浴。後主笑曰：和尚見人，亦勿道吾拜汝。嘗出入禁中，他日從登百尺樓，後主問其制度佳否，對曰：尤宜望火。初不諭其意。後數年，木平卒，淮甸大

擾，烽火交馳。後主甞於是登望，以占動靜。後主素愛慶王，問木平壽命，曰：年七十。是歲病亡，年十七，葢反語耳。為建寺宮側居之，奉事隆篤焉。本名木瓶，後訛為木平。或云木平，山名，師居處也。法眼禪師贈詩云：木平山裏人，貌古言復少。相看陌路同，論心秋月皎。壞衲線非蠶，助歌聲有鳥。城闕今日來，一漚曾已曉。為大宗匠所與。木平故箇中人，蓋混跡以警世者也。

言法華傳

言法華者，莫知其所從來。梵相奇古，語言無忌，出沒不測。多行市里，褰裳而趨，或舉指畫空，佇立良久。與屠沽者游，飲啖無所擇，道俗共目為狂僧。時至景德寺七俱胝院，丞相呂許公問佛法大意，答曰：本來無一物，一味總成真。僧問：世有佛否？對曰：寺裏文殊有。問師：凡耶？聖耶？舉手曰：我不在此住。至和三年，仁宗始不豫，國嗣未立，天下寒心。諫官范鎮首發大義，乞擇宗室之賢者，使攝儲貳，以待皇儲之生。并州通判司馬光亦以為言，凡三上疏。上夜焚香默禱曰：翼日化成殿具齋，虔請法華大士，俯臨無却。清旦，上道衣凝立以待，俄馳奏言：法華自右掖門徑趨。將至寢殿，侍衛呵止不可。上笑曰：朕請而來也。輒升御榻，趺坐受供訖，將去。上曰：朕以儲嗣未立，大臣咸以為言，侵尋晚暮，嗣息有無，師其一決之。師索筆引紙連書曰：十三十三。凡數十行，擲筆無他語，皆莫測其意。其後英宗登極，乃濮安懿王第十三子，方驗前言也。呂申公蒙正居政府日，焚疏請師齋。翼旦師至，坐堂上，公將出，念當拜不當拜，師大呼曰：呂老子快出來，拜亦得，不拜亦得。呂大驚，遽出拜之。齋畢，問未來休咎，師索筆書亳州二字。及後罷相，知亳州，始悟。天衣懷公依景德時，與師遇，拊懷背曰：臨濟德山去。懷因奮而游禪，遂大振雲門之道，兒孫珠走而玉躍，師言於是乎驗。慶曆戊子十一月二十三日將化，謂人曰：我從無劫來，成就逝多國土，分身揚化，今南歸矣。言畢，右脇而寂。或作壽春許氏子，弱冠遊東都，得度於俱胝院，留講肆之久。一日讀雲門錄，忽契悟，遂獲感通焉。

河南志曰：志言姓許氏，自壽春來，居東京景德寺。為人卜休咎，書紙揮翰甚疾，字體遒勁，初不可曉，後多驗。有具齋薦鱠者，則并食之，臨流而吐，化為小鮮，羣泳而去。海客遇風且沒，見僧操絙引舶而濟。客至都下，志言謂客曰：非我，汝奈何？客猶記其貌，真引舟者也。後卒，仁宗以真身塑像置寺中，榜曰顯化禪師。

清聳、全了二師傳

清聳，福州人也。初參法眼，眼指雨謂師曰：滴滴落在上座眼中。初不喻，後閱華嚴，了悟其旨，因入山求卓菴之地。至四明，登高四望，投以一石，石所住處，吾其止焉，遂結菴居之。既而錢忠懿王聞其名，命主靈隱，署了悟禪師。摩訶般若，非取非捨，若人不會，風寒雪下，師說法也。一日，王閱華嚴經，知震旦有支提山，為天冠菩薩住處，乃大集諸山耆德問之，無能知者，唯師道所以然甚詳。王曰：非師一往不可。隨遣人偕行，至海濱，踪跡聖境。入深山，行三日，時有鐘聲，白猿相導而前。師至心頂禮，見幽林中有一大剎，扁金書古佛大華嚴之境。既入寺，殿閣崢嶸，眾盈萬指，菩薩千軀，儼然居上，異香襲人，光明射目。師默想運誠，隨喜竟夜。既曙，依然在林莽間，所見乃化剎也。師還報，王即其處建寺，如師所見，鑄天冠千身。航海入山，至中流，颶風大作，舟重欲沒，相視無策，遂沉像之半於水。既濟其半，沉水者已先至其地矣，其異如此。

全了，永嘉人。遊方至荊州，入天竺山，遇一異僧，謂了曰：汝緣在浙東，當得名山居之。爾鄉有諾詎那尊者，道場適當興，興宜自爾，勉成之可也。了詰其處，僧曰：地以花名，山以鳥名，中有龍湫，尊者宴息地也。了歸而遍訪，至海濱，見山水清奧，愛之。問土人，土人曰：此芙蓉村鴈蕩山也。了恍然心悟，遂入山，結茆要會處曰芙蓉菴以居之，即今之能仁也。鴈山之題，實自了發之。其人放曠不羈，時目為了莽蕩。

鰕子和尚傳(附道嵩)

鰕子和尚，名智儼，居華亭靜安寺。七月十五日，村郭設盂蘭盆，寺僧赴請殆盡，惟儼在寺。有胥村人嗣來召僧，而無僧可召，欲拉儼往。儼曰：但歸辦置，吾隨來也。乘小舠而行，見捕鰕者，儼從買一斗，索水噉之，無遺。謂漁者曰：齋回還汝直。且叮嚀舟子勿泄。至村，舟子不能忍。齋家聞此，厭薄之，不請上坐，席地一飯，而無襯以辱焉。師懽然納受，還見漁者曰：何饒舌，今日齋無錢奈何？漁者曰：無錢但還我。鰕曰：此易。復索水飲，隨吐出活鰕盈斗還之。人以為異，因呼名鰕子和尚。儼異迹頗多，海濱人皆能言之。及將滅，斂蒲草為萬餘繩，懸廊廡間，謂人曰：與諸君作緣事。遂坐脫。人爭赴施錢，懸繩皆滿，用建佛閣於寺中，至今寺稱鰕子道場。

道嵩者，伍姓，溫州樂清人。受業於東菴，放蕩不羈，人目為嵩顛。偶二水牯鬬於路，人莫敢近。嵩直前，兩持其角，呼其名諭之，牛解而去。嘗有飯僧者，欲召嵩，潛書其名，焚之中庭。翼旦嵩至，眾咸以其自來主人言，始異之。後亦坐脫。

無門開傳

慧開，字無門，杭之良渚人，俗姓梁。母宋氏，禮天龍肱和尚為受業師。聞月林觀公開法於萬壽，師同石霜印公往謁之。林令看無字話，六年迥無入處，乃奮自尅責，誓云：若去睡眠，爛却我身。每至困劇時，廊下行道，以首觸露柱。一日在法座邊立，忽聞齋鼓聲，有省，成偈云：青天白日一聲雷，大地羣生眼豁開。萬象森羅齊稽首，須彌[跳-兆+孛]跳舞三臺。入室通所得，林叱曰：何得見神見鬼？師便喝，林亦喝，師又喝，自此機語脗合。嘉定間出世，住安吉報國，遷龍興天寧、黃龍翠巖、蘇之開元靈巖、鎮江焦山、金陵保寧。淳祐間還里，于西湖北山林木幽蔭處樂而居之。有石自山趾斗折而上，[石*含]砑不合如礪。師之來，其下劃然出泉，色紺而甘洌，澄若重淵。言者謂師自黃龍移是山，葢龍隨師錫而歸也。遂呼其石處為黃龍洞，而峰為黃龍峰。是凡夏雨初霽，有物蜿蜒松上，氣茀茀而黃其黃龍焉。時境內大旱，少保孟珙、丞相吳潛、鄭清之奏師道行致泉自湧，龍時現，必能為蒼生救枯槁也。有旨召入文德殿演法，師升座無所說，唯嘿坐，雨應時大作，遠近普洽。上喜甚，問：何以致是？師曰：寂然不動，感而遂通。上悅，賜號佛眼禪師，被以金縷伽梨，勑祠黃龍曰靈濟侯，于黃龍峰下建護國仁王寺，撥平江官田三千畝命師開山。師形體矬小，其赴召也，指日觀眾而後踰閾，施重城於座級而升焉，朝士多竊笑之。師誓弘法教，惟自諱報身不偉，洞之顛有玉峰一片，削成插天，瑩如脂肪，高二丈餘，因命工肖己形長丈許，飛雲隱其足，緣背光燄蔚起，鑿龍首蟠繞，右向虐，左竇可俛入，前施案焉，皆就石勢鏤之，幻若從地湧出而登坐於空中者，私祝云：願後有身視此。師遷化之夕，錢塘孫氏婦夢一僧簑燈自稱開道人寄宿，翼日產男子，後為大禪師，即中峰本公也。師法嗣為永嘉見和尚，高峰語石屋云：溫有瞎驢是也。亦為大宗匠，不墜家聲者。

肇公奘公傳

原肇，通州靖海潘氏子。母朱氏，邑之利和寺妙觀，其諸父也。携之出家，事瑜伽教師。六七歲即能詩，脫口可誦，未嘗見其執卷習

學。既為僧，嗜酒肉，無日不醉飽，酣呼叫嘯，嘔噦狼籍，寺眾惡之。後忽顯神異，人莫之測。嘗就江洗酒甕，翻裏作表，甕軟如麪。有時大醉過市，吟云：麥浪青於水浪，梨花白似梅花。詠之不已。一賣淨蛅翁質師曰：醉和尚只好兩句，下韻來不得也。師忽以手約其頸曰：好送醉僧歸寺，一看江月。還家，殿中塑佛，質而未金，寺主儗募之。師曰：無事募我，明日為佛上金，但不欲人見。眾相顧而笑。次日，天未明，宿醒方劇，忽起排闥入殿，攀座而上，脚踏佛肩，手按佛頭，引項而哇之，其物淋然而下。殿主見之，倉皇報寺主，眾集開殿門。師歎曰：來何早也！遂下行，且罵曰：賊！賊！自是不復還寺矣。視之，唾所及處，皆成真金，止於佛胸而已，眾始知師聖人也。後見徑山浙翁琰禪師，以師根器警敏，欲大激發，未容其參堂，見即喝出，且問曰：泗州大聖為甚麼在揚州出現？師曰：今日又在杭州撞着。翁又喝，久之大悟，彈指一下云：吽！吽！遂入室掌書記。翁既寂，師因繼席，值歉餘，逋券山積，僧殘屋老。未幾，樓閣矗霄，雲衲踵至，不減翁全盛時。師自渡江而南，無復故態，實經諸禪老磨琢，故收斂精光，行止謹密，若與前隔世者。其題喝石巖詩云：皓首來迎宴坐師，山靈易地致俱胝。要知弘法回天力，但看精誠裂石時。葢託古以自見耳。將寂，囑其徒曰：為吾附一穴於東磵，見生死不忘奉師之意。東磵，翁葬處也。

元奘，永嘉人，為嘉福院僧。飲酒啖肉，日與兒童嬉戲，市人呼為奘顛。見人即覓酒，努目張拳，為金剛之狀，見者絕倒。雖夜醉，至四鼓，必起誦法華經。天明，復入酒肆。醉時遺溺滿衣，未嘗浣濯，無穢氣。忽一日，遍辭諸酒徒，刻期趺坐而逝。

二顛師傳(附瑪瑙顛)

濟顛者，名道濟；明顛者，名□明。二師示跡同時，而各郡然皆以素風顛，人因稱濟顛、明顛。濟顛之顛為尤甚，飲酒食肉，與市井浮沉。喜打筋斗，不著褌，形媟，露人姍笑，自視夷然。出家靈隱寺，寺僧無不唾罵逐之。居淨慈寺，為人誦經下火，得酒食，不待召而赴。吟詩曰：何須林景勝瀟湘，只願西湖化為酒。和身臥倒西湖邊，一浪來時吞一口。息人之諍，救人之死，皆為之於戲謔談笑間。神出鬼沒，人莫能測。年七十三。示化明顛者，潦倒猖狂，衣不蔽體，大雪中袒膊跣足而行。手弄摩銕釘，遇瓦礫，拾置袖中。人誠語相向，則答以機鋒；或侮之，則酧以狂言。入市，羣兒爭挽袖覓錢，或與之一錢兩錢，或不與，喧叫語笑，衢路闐塞。人或飯之，不問遠近，識不識，皆凌晨而至。或受賜，或不受賜，或反探

袖出錢置几上，不謝而去。一時倭奴見之，羅拜云：曾向海中失風得此僧，幸免於死。且能詩，或持菖蒲索題，隨口云：根下塵泥一點無，性便泉石愛清孤。當時不惹湘江恨，葉葉如何有淚珠。與濟顛實未相識，偶遇於朱涇，目之曰：咦！濟顛贈之詩曰：青箬笠前天地闊，碧蓑衣底水雲寬。不言不語知何事，只把人心不自謾。二顛俱南宋
宋亡，又有瑪瑙寺顛僧，豪飲不羈，往往出憤世語。善畫葡萄，枝蔓虬結，寫詩文於上，寓意深遠。楊總統以名酒啗之，終不濡唇，見輒罵曰：掘墳賊！

通慧傳

通慧，汴人，姓張氏，俗名文。祝髮隸白雲寺，寺主命掌廁。廁有盥盆，有市鮮者沃於盆，慧怒，偶擊之，仆地死。懼，奔華州總持寺。久之，為寺長老，德行有聲。忽曰：三十年前一段公案，今日當了。眾問其故，曰：日午自見。遂趺坐以待。時張魏公浚提兵至關中，一卒持弓矢入法堂，睜目視慧，將射之。慧笑曰：老僧相候久矣。卒曰：一見即欲相害，不知何讐？慧語以故，卒悟曰：冤冤相報何時了，劫劫相纏豈偶然。不若與師俱解釋，如今立地往西天。視之，已立化矣。慧即索筆書偈云：三十年前飄蕩，作下這般模樣。誰知今日相逢，了却向時魔障。書畢，泊然而化。

德聰、法寧二師傳

德聰，姑蘇張潭人，生仰氏。初入杭淨光院，領具戒於梵天寺，參游諸方，得心印。太平興國中，結廬華亭佘山之東峰，有二虎為之衛，名大青、小青，行則隨侍前後。有禪者造焉，見掛一袠梁間，問之曰：此佛經也。問：嘗讀否？師曰：如人看家書，既知之矣，何再讀為？嘗曰：古人貴行，吾何言哉！其他問，皆默不對。嗣住超果慶，依尊者自杭奉觀音像來，師預知之，曰：三日內當有主公至。及期，果然。天禧元年七月，趺坐而逝，閱月貌如生。葬佘山峰，後遷於南嶺。
法寧者，先住沂州馬[山*耆]山淨居寺，人稱曰馬[山*耆]禪師。一日航海抵青龍，有章衮母夫人高氏夢天神告曰：古佛至。翼日如夢候之，師適至，奉迎止錢氏園。其夜地有光，掘之得碑云：大唐禪寺福德橋下。又得金剛佛像，於是建寺崇事焉。後右丞朱諤迎師主佘山昭慶而卒，塔於方丈東偏。師嗣雪竇明，明嗣長蘆和，和嗣法雲，本雲門裔也。

僧伽傳

僧伽姓吳氏，名文祐，宋初信豐人，止於縣明覺院。舉止跌宕，人目為狂。嘗書松柏上曰：趙家天子趙家王。言趙氏方興，如松柏之茂也。縣民曾氏老無嗣，知僧伽有異，設飯禮之。未及召，黎明排闥入，曾氏膳甚豐，僧伽曰：當以珠報。曾果得二子。學佛者孫德，自汀之南安謁定應禪師，曰：雩都有人禮我何為？孫不悟，曰：僧伽，吾法子也。孫告歸，師持一扇付孫，曰：為寄僧伽。舟將抵邑，僧伽候之，邀曰：我師扇安在？孫以扇付之，莫能欺。一日昏暮，詣寺中，闔戶趺坐而化，葢祥符己酉六月日也。

東松僧傳

東松僧，不知何許人，機變莫測。與人語，應答如響，人疑之，後無不驗。岳武穆嘗提兵過，問僧：何處響涓涓？僧遽應接，竹引清泉。岳云：春夏嘗如此，僧應秋冬亦自然。岳心奇之。先是，僧種芋為土墾，砌壁塗之，不使人知。及岳過，請得犒三軍，僧乃挖壁間芋作羹，以給殆遍，岳益奇之。及進岳麪，置醬麪底，待其索而與之，謂曰：好食，攪動有醬。語多隱，岳心解之，不能，題詩於壁而去。後及禍，始悔不從東松僧言。秦檜以為僧嘗教岳使李吉往殺僧，僧先知，題詩云：急忙收拾破袈裟，鐘鼓樓臺莫管他。袖拂白雲歸古洞，杖挑明月到天涯。可憐松頂新巢鶴，猶憶籬邊舊種花。好把犬猫隨帶去，莫教流落野人家。以佛像一軸置菴西橋，復題壁云：李吉從東來，我向西頭走。不是佛力大，幾乎作場醜。乃遁入山中，距其菴不一二里。吉見詩，尚欲追之，及展佛像，始見為一，俄乃成千。吉錯愕不知所為，讚歎而返。後於遁所坐化，所置佛像橋為千佛橋。

照伯傳

炤伯，不知何許人，居台州崇教寺塔下，夏坐則向日，冬臥則擁雪，或引紙縱筆疾書，初若狂言，既無不驗。宣和己亥正旦，忽持一巨軸，與一往還士人緘縢甚密，已乃行哭於市。其中所言，自方寇猖獗，次及遼亡，迄於高宗南渡，按其日時，若合符節。一日，忽辭寺僧去，或問何往，曰：不天台，不五臺，不東去，不西來。沿途誦詠數日，趺坐塔下，視之死矣。眾欲舁入寺，忽躍起狂走，從寺後登山，緣高如猿猱，眾隨即之，望木杪騰踴者數十，莫知所終。

黑漆光菩薩傳

法明，莫詳族氏，示蹟於萊州即墨縣之荊溝村，以試經得度於郡之崇福寺。師以讀誦為行，於讀誦中惟精法華，心念口演，無非是也，時人稱之為明法華。所至利生拔苦，無不獲濟，人仰之如珠王藥樹焉。每游州邑聚落間，遇孕婦垂產，危難莫測之際，師入其家，為講藥草喻品，或安樂行品，即獲無恙，舉之如掇。於無子之家，講普門品，或普賢勸發品，所求即遂，且具德慧之相。又有木客木筏，為風濤所敗，奔命求援於師，師示以觀世音號，俾其至誠急誦，遂獲安流而達其所。如此非一，人心所向，莫不應之如影響，奉之如神明。後值歲大旱，禱籲不應，民憂惶無措矣。師命眾聚柴為棚，曰：為諸君捐身以致雨。眾跪拜哀號，師即登棚，火從頂出，欻然而熾，彈指頃，雨至大霆，三日而止，焰在雨中，亦不息滅，如日之數。既霽觀之，見師真身危坐灰燼中，曾無少損，黑而有光，奇矣。有司以聞於朝，賜號黑漆光菩薩，仍詔漆其身，迎歸京師大慈寺，以永瞻奉云。有贊之者曰：開普濟門，應眾生器。一月眾水，光無不被。覺天之雲，大地甘雨。等慈無緣，均沾苦窳。樹精進幢，火寒冰熱。虛空贊揚，萬象聽說。

印肅傳

印肅，號普菴，袁州宜春余氏子。生六歲，夢一僧點其心曰：他日當自省。既覺，以臆示其母，見當心有一點紅瑩，大如櫻珠。未幾，從壽隆院賢公出家。年二十七，落髮具戒。師容貌魁奇，智性巧慧。賢器之，勉讀法華。師曰：嘗聞諸佛元旨，必貴了悟。數墨巡行，何益於事？遂辭師，游湖湘，謁牧菴忠公於大溈。問：萬法歸一，一歸何處？忠豎起拂子，師遂有省。尋歸受業院。院有鄰寺慈化者，眾請住持，無嘗住。師布衾紙衣調粥，二時禪寂外，唯閱華嚴經論。忽大悟，遍體汗流。喜曰：我今親契華嚴境界。述頌曰：揑不成團撥不開，何須南岳又天台？六根門首無人用，惹得胡僧特地來。自後發為語句，動悟幽顯，有不期然而然者。一日，忽一僧冒雪至。師目之，喜曰：此吾不請友也。拉與寂坐，交相問答，或笑或喝。僧曰：師再來人也，不久當大興吾教。乃指雪書頌而行。自是慕向者眾。師隨宜說法，或書偈與之。有病患者，折草為藥，服之即愈。或有疫毒，人迹不相往來者，與之頌，咸得十全。至於祈禳雨暘，伐怪木，毀淫祠，靈響非一。繇是鼎新梵宇。或問：師修何行而得此？師當空一畫云：會麼？云：不會。師曰：止！止！不須說。將化，書偈於壁，集眾垂示曰：諸佛不出世，亦

無有涅槃。入吾室者，必能玄契矣。善自護持，無令退失。索浴，跏趺而逝。乾道五年七月也。世壽五十五，僧臘二十八。塔全身焉。

從登傳

從登，福州懷安周氏子。母夢僧伽願為己子，十四月乃生。幼穎異，能通經屬文，攻書善草隸，棄儒為釋削染，自號蒲菴。唇舌如風，日集衲子談玄義，接儒生論經史。初至石門，陳聘君易、蔡郎中樞聞其名，邀與同居，答曰：吾欲作海口橋以度眾生，未暇居此。至海數歲，橋成，比還而聘若已亡，遂居石門。時或言人禍福，事多應。里儒陳文虎未弱冠，見之，師謂曰：子至二十九當預薦，至四十二喑呼而止。其後一如所言。每為詩文，初不覃思，援筆立就，氣格雄放。陳西軒、林艾軒、劉著作兄弟皆刮目遇之。晚歲歸寓縣西之清源里，盧尉欲試其才，夜遣人遺以菖蒲石，立索詩，師走筆復之曰：半夜敲門聲剝剝，風擾長空月欲落。九重洋外雷聲號，萬頃浪頭雲色惡。地神失却洞庭山，蒲菴化作蓬萊閣。盧郎寄我意何多，七十二峰添五岳。盧服其敏慧。歸寂之日，火化、烟浮、乳崩，皆為舍利。徒輩立塔於林洋菴。

賴僧傳

僧慧，五六歲時，寡言笑，不茹葷。無何，父母相繼殂逝，慧投羅漢寺，師古空長老為僧，誦金剛經有悟。年二十，辭長老游方外，幾二十餘年。開寶初，來滴水巖，闢石掃土居之。日誦經，端坐蒲團，竟夕不寐，遂得通明，言休咎輒應。鄉人有游巖者，慧曰：好歸，好歸，家中得不醫之疾矣。及歸，妻尚無恙，及夜得暴病卒。有失牛者，覓數日無獲，往叩之，慧曰：在某鄉某山之麓。求之果得，見捧心者，慧曰：汝患心痛乎？削蜂窠石水飲之，即愈矣。既而果然。年九十餘，將入寂，書偈几上曰：生也了，死也了，九十三歲磨多少？而今打破太虛空，一輪明月清皎皎。坐化旬餘，鄉人始知，舁而瘞之，顏色如生，破襖上香氣噴然，乃曰：賴公佛也。像祀之。遇旱，禱其像，立應。因生于歸化賴家山，故人稱為賴僧云。

金　法冲傳

法冲大師，不知何許人。居五臺山，神異莫測。大定中，黃冠蕭守真上奏，請與沙門角力，金主許之。師應召入京，止昊天寺。明日，於殿庭相試，蕭能飲，斗酒自若，謂冲曰：沙門能飲乎？如弗能，則出吾下矣。師曰：吾能一飲十斛，不足為難。但吾佛有戒，沙門不得飲酒，請加砒霜鴆毒於中，我與若飲，庶不為犯。若能飲之乎？蕭曰：請沙門先之。師手持毒酒，口誦呪，飲之如吸水。飲畢，倒器相示，無遺然，涓滴即滿。盛一器與蕭，蕭觳觫不敢受。師曰：汝出吾下矣。蕭猶大言矜高。師於地畫金剛圈呪之，蕭不覺投入圈中，汗如雨下，醜態狼籍，盡力求出而不能。上勸師捨之，師曰：若非帝前，吾以金剛杵碎爾首。金主大加賞歎，賜儀仗送還山，敕建萬歲寺居之。

元　無住傳

無住，不知生緣何所，嘗往來西華縣中，自名無住，人亦呼為無住。嘗居壽聖寺，瞑目獨坐，旬日不食，書門曰：來時不知何處來，去時不知何處去。不復見風道人，髡髮行步，踉蹌不知所從來，茫茫烟水歸何處。至正間，寓提城寺，逢人則指天畫地，言天下當亂。有時倒臥泥潦中如醉人，羣兒逐之，大笑或大哭。人問禍福，輒奇驗。與之錢，不受；與之食，則大嚼數升立盡，或不顧而去。嘗偃臥中庭，夜半雪深三尺，周身無雪，酣睡三日乃起。一日，忽遯去，邑人遇之襄陽城中，托致聲住持某公計之，即去之日也。

志誠傳

志誠，縉山楊氏子。父林，以勇材事太祖，為都元帥。母房氏，生二子，師為長，有出世志。年十六，父母為娶婦，不從。強逼之，剪髮而逃。入京師，禮七代宗師，出家受大戒。師跪而請名，宗師問：爾何志？對曰：誠而已。遂以命之，自號寂菴。志業精勤，風神爽朗。顯密要義，游刃若虛。謹持犯之科，弘慈攝之行。至元丁丑歲，為大都路禪錄。丁亥，主清安寺。明年，得隙地都之靈椿里，建廣化蘭若居之。受徒匡眾，道望益隆。成宗踐位，降璽書，賜號靜炤妙行大禪師，諸路頭陀教門都提點。師平生多異跡，通靈感化，驚耳悸目之事，人莫測是凡是聖。嘗靜居，有異氣縷結，作善財合掌形在師上。夜寢，人見有白光洞胸，經時不散。有時羣雀聚師頭頂上，如立朽株。都人鄒氏女為魑魅所憑且久，師以念珠拂之立止。嘗有所見，宗師遣其徒李純輩四人往江南，踰年不返。師

坐見李至，且問其介及宗教事甚悉。有頃李果至，所言無不合。又一日見許善友從保定來，言寂炤師沒，已而果然。若此甚眾。嘗有盜入室，戒勿捕。或橫逆相加，置弗較。大德乙巳秋將化，手書發菩提心論并金字戒本授弟子法雲，語以宗門事，曰：吾將行矣。然香易服，右脇果足而逝，壽六十五。闍維得五色舍利三十二粒，塔於清安寺傍。自入道至涅槃垂五十年，弊衣粗食，持諸部密呪，仡仡朝夕，未嘗以寒暑暫廢。精專之功自能至靈，是亦澄什之流亞歟。

明　烏斯法王傳(附何清)

葛哩麻，烏斯藏人也。道懷冲漠，神用叵測，聲聞於中國。永樂間，我　太宗文皇帝遣使西土，迎之至金陵，道啟　聖衷，誥封如來大寶法王西天大善自在佛，領天下釋教。師性躭靜隱，不任囂煩，奏辭游五臺。　上眷注殷勤，留之不獲，乃　賜鑾輿旌幢之儀，遣中使衛送於五臺大顯通寺。更　敕內監楊昇重修其寺，兼修育王所置佛舍利塔，以飾法王之居。先是，　上與法王幸靈谷寺，為　皇考妣設薦祀法壇，感塔影金光之瑞。及法王入臺山，　上眷戀不能釋然，因思前瑞，再幸靈谷。　上嘿有所禱，是日覩瑞相倍前。丁亥四月，　上遣使致書於臺山大寶法王大善自在佛，其書略曰：朕四月十五日，與弘濟大師詣靈谷，觀向所見塔影，文彩光明，珍奇妙好，千變萬態，十倍於前。雖極丹青之巧，言論之辯，莫能圖說其萬一(云云)。此皆如來大寶法王大善自在佛，道超無等，德高無比，具足萬行，闡揚六通，化導羣品，實釋迦佛再現世間，而乃顯茲靈應，不可思議。朕心歡喜，難以名言，略此相報，如來亮之。明年，辭　上入滅火化。是年，函谷關吏見法王翩翩西逝，貽　上所賜玉玦。回奏，　上驚歎不已，敕太監楊昇塑像於顯通法堂，以永瞻奉。

何清，雲南人，持明精進。往見法王，法王與授戒法密書，大著靈德。正統中，奉　詔從征麓川，結壇行法有功。天順六年，詔入對，未幾而化。　上遣禮部主事曾卓諭祭。

皇明通紀云：命西僧尚師哈立麻於靈谷寺啟建法壇，薦祀　皇考、　皇妣。尚師率天下僧伽舉揚普度大齋科十有四日，慶雲、天花、甘雨、甘露、舍利、祥光、青鳥、白鶴，連日畢集。一夕，檜柏生金色花，徧於都城。金仙羅漢化現雲表，白象青獅莊嚴妙相，天燈導引，旛蓋旋繞，種種不絕。又聞梵唄空樂自天而降，羣臣上表稱賀，學士胡廣等獻　聖孝瑞應歌頌。自是　上潛心釋典，作為佛曲，使宮中歌舞之。

鏡中、廣能二師傳

鏡中，雲南曲靖人，蠻族也。正統間，住荒落一古寺，習苦行四十餘年，銕板一蒲團，終夜不寢。一夜，數珠散落，暗中探之，仍集成串，汲汲如救頭然。或問師：何苦如是？師曰：不苦不成真，吾煉睡魔耳。人因以真峰長老稱之。一日，謂其徒曰：有客至，須預備齋食。其夕，盜十數人突入，師曰：虛無恐孤來意，奈何？遂手為裝裹，飲食之，盡室以行。盜負所得，竟夜奔趨，自喜離人遠甚。及天明視之，但旋繞兩廊間，尚未出寺門也。盜眾羅拜請死，師慰而遣之。師欲建彌陀大殿，卜 地得一龍潭，祝曰：爾龍須上山，借我此地為伽藍。未幾，水遷於山頂。

廣能，貴州人。正統間，卓錫月潭寺，守戒精謹，嘗誦讀華嚴經，得聞持力。有虎突入寺，僧行驚走，師不為動。虎登堂見師，遂妥尾而去。問曰：師有道乎？師曰：華嚴力也。因戒眾隱其事。歲己巳，苗夷寇興隆箭入寺門，僧眾逃避，請師行。師曰：吾辛勤結搆，安立三寶，誓同存亡，獨守不去。寇既至，欲殺師，師曰：幸戮吾於外，毋污此佛地。賊義而釋之，且戒同暴，毋毀寺，寺賴以全。寇退，眾問之，曰：華嚴力也。

馬跡和尚、裘和尚傳

馬跡和尚，福州懷安人，陳氏子。　洪武初年出家，結茅居皷山之大頂，即岓崱峰也。

裘和尚，台州人，亦　國初僧。時往來天台山，人以裘和尚稱之。不知其姓裘也，名裘也，有異跡。嘗携一小兒出游，途遇虎，妥尾馴伏於側。小兒歸語父母，師摩其首曰：莫說，莫說。兒遂失音。有施師履者，亟穿走泥濘中，施者心悔。師還之，視之曾無纖染。一日訪檀越周氏，遇周婢採桑在野，師遽前擁抱之，引手捋其頸，似解縛狀。婢驚怒告其主，主責之曰：出家人何輕薄如此？師曰：七日後當自知之。主訝其語，至日置婢於室，以人守之。夜分守者假寐，醒視婢已經死矣。問師，師曰：昔見鬼以十索鎖其頸，吾斷之未盡耳。華頂寺設修誦道場，師戒寺主曰：明日有火殃入寺，又明日火必起。次日忽一婦人從轎馬婢僕甚盛，乃預會建齋者。寺眾謂得檀施，心獨喜，謂師曰：火殃安在？師曰：今日齋主是也。汝等惟恐失之數也，奈何？忽火從中發，一寺為墟。師幻跡甚多，山中父老猶能言之。後示化於天台山，化後語虎，小兒始能復言。馬跡之跡，略與師同。凡朔望必還家謁父母，家去鼓山五十里，且石磴崎嶇，鄉人怪其來早後期，先往伺之，固跬步未嘗下山，而仍至

家如甞。福州路總管郭琛異之，舉為僧判，遂逃去，不知所終。二公示現海濵，與天風海濤同時答響，誠不可思議人也。

不二傳

圓信，京兆之房山人。薙髮白雲山，禮大僧德敬為師。往來上方、紅螺之間二十餘年。行脚所至，為武林、淮安、六安、終南，每住輒數載。以嘉靖庚申至太嶽，駐錫虎耳巖穴，而哮者爭避匿去。倚石為屋，稍稍剪夷。其積圜瓢數十餘，踞石沿澗出入。幽花美箭之中者，纍纍如笠。巖上蓮池二，濶可二丈，旱歲不竭。蓬室三，方廣當身。所得一縷一粲，盡以供十方游衲。行之數年，遂成叢林。傾震旦，士女號呼悲啼而至者，不至虎耳巖，猶未躋嶽也。至巖不頭面頂禮者，自以為慳緣，必痛哭去。否則謹伺巖扉外，經數日得一見，則喜過望。以故虎耳巖之名遍天下。計賢士大夫之轍以日至，尚方之賜、掖庭之供以月至。自嘉隆以來，耆宿之著聞，未有若師者也。然師務為密行，不以解顯。應機之言，多依孝敬。撫摩煦煦，猶乳母之於驕子。金錢湧而至，拒不納。有贈縑者，付甞住作供。四十餘年，影不出山。趺坐一龕中，如朽株。雖利根之士，好為奇談詭學者，睹其顏，莫不肅然增敬。師夏臘最高，逆其生，當在宣成間。諸徒屬試以臘叩，不答。甞簡其篋，得舊[糸*罽]衣。忽云：此武皇帝七年王城中施食所得衣也。叩之，復不答。後終於山。　慈聖出藏金，為師治塔焉。嚴蓬頭者，襄人。日誦彌陀佛數萬聲。性高潔，施貲甞累千金，揮之如塵土。踪跡甚異，人不得而凡聖之。亦絕世奇人不二之流也。

明河曰：或云不二姓徐，世為襄善門。徐生長，不二送出家，挈妻入五臺山修行。不二尋覓父母累年，得於冰雪堆中，見不二，大怒曰：不肖子何故遠遠奔來？汝以我為父母，我已出家；以我為知識，我未悟道。大丈夫出世，孤峰絕頂一間草屋了辦自已不暇，尚當為生死愛情所使至於此乎？速去，無落吾事。不二遂南還，居虎耳巖，為世大知識。雖不二靈根夙種固有自來，而開發之助亦繇父母團圞一門，又出襄地，或自龐家人再出，不可知也。

別傳老人傳

慧宗，別傳其字，湖廣雲夢汪氏子。生而凝寂，不樂世相。七歲，投白鶴寺出家。九歲，有王居士者，引之入蜀，至重慶綦江石門寺受具戒。嘉靖甲午，登峨眉顛禮佛次，時雲氣乍斂，杲日當空，見

金色異人，乘小舟歷銅塔崖而沒。述於得法師謙公，公曰：爾大有緣，此菩薩示現也。自是以荷擔山門為事矣。居山四十年，自白水至山顛，樓觀像設之屬，無不鼎新充拓，儼如天宮化城。隆慶己巳，始出山，游京師，渡南海，禮觀音大士，入五臺，有終焉之志。師生平嚴持戒律，不喜作紙墨文字，曰：三藏教典，亦是糟粕，更饒舌何為？先示寂三日，忽云：將西歸。澡浴更衣，結跏澄息，誦佛號不輟。至期，召諸弟子曰：吾素不留文字，今日不能無言。因唱偈曰：生本無所生，死亦何所有？這箇臭皮囊，今朝成腐朽。弟子鳴鐘，鐘止，忽開目續唱(云云)，安然而逝。世壽八十一，僧臘七十五。塔在四會亭下。師生平靈異最多，嘗至新津興化寺鍊排，不勝勞苦，白板首求退，遂往富民某氏之門，趺坐七晝夜，乞若干緡齋僧。主人初不樂施，至夜光明徹屋，驚異跡之，光從師坐處起，始皈敬焉。又往漢州金堂縣擊魚募化，其聲所應不定，東擊西聞，西擊東聞。一夕大雨，師不出戶，魚聲亦遍田野，村民物色之，師但安坐神祠而已。其渡海也，見白衣大士坐金色蓮花，冉冉雲氣中。弟子鎮滄未剃髮時，從師荷擔甚疲，師問曰：耐煩乎？應曰：諾。行一二十里，復問，答如前，不少惰。乃於雙飛橋為滄落髮，憐其愚，令炷香跪大士前，頂水盂，誦祝聰明呪一百遍，歷年至白水猶如此。一日寺災，滄跪請師休去，師數而罵之，滄於是作入水想，祝空曰：殿宇既空，願保庫司無恙。遂歸庫房默坐，頂水宛然，火至自滅。乃知師平生造就弟子，皆此類也。馮司成夢禎謂：別傳老人踐履純白，以莊嚴道場為佛事，其向上一著子，雖不聞其曾見何人，嗣何家宗派，要之乘願輪而來，不可以凡情測者也。

安岳了悟傳(附露源)

了悟，號無際，一號蠶骨，安岳人，生莫氏。幼傭於大竹鴈平里黃友諒家，能辦異他傭。嘗有人代為耕牧者，黃異之，妻以義女。相對疊膝，坐如賓客，未嘗小涉溫煖。與同作語，皆佛法，黃益奇之。因結菴使居，以成其志，如時送飲食衣服無闕。一日，義女私送一輛鞋，師訝曰：此何來也？遂引刀碎之，說偈謝主人而去。削髮於定遠之羅圍寺，師事本真長老。本真為言幽谷和尚為當今善知識，即躡蹻往參，獲證心要。因而發通，大著靈異，四方無賢愚咸歸向之。登座說法，天花如雨。嘗經巴之劉何鄉，鄉人禮之。師說偈曰：天下大旱，此處半收。天下大亂，此處無憂。所言罔弗獲驗。自是從者日眾，所至騰沸。或以妖妄惑眾，拘於按察獄中。晝則端坐，夜則出募錢修獄壞屋，至今獄無鼠虱蚊蚋。師居安岳四十

餘年。永樂中，召詣京師，　命為宗主，登壇說戒，　賜號大善知識。後居南京牛首寺。一日，集眾說偈：我我元無我，光明圓陀陀。蕩蕩任縱橫，處處無拘鎖。端坐而化。　賜祭給傳，還葬木門。所著語錄一卷行世。

師之嗣曰靈源，字不二，鳳陽薛氏子。神采頴秀，謁無際，授以無字話，久之有省。樂廣安山水，結茅扁曰雪骨。方時　太宗遣使纂修天下，及訪仙釋有顯跡者，有司忽而不錄。源作文自上之，中寓規諷。知州朱亨惡其妄，奏之。取至京，下于理問狀。甫及門，泊然脫化。　上聞之，歎曰：失此僧，朕無緣也。賜塔北門。

月天傳

月天，未詳何許人，目雙瞽。天順末年，從一行童游，方至葉縣平頂山西，忽據地坐曰：此可結菴。土人異之，共施材為結一菴居焉。久之，發言輒應，事皆前知，遠近施助無虛日。遂營梵剎，興工得古基，葢前代廢寺也。凡施將至，必預告其徒曰：某人來施某物。已而果然。嘗口占詩句，令僧行書之，讀之甚有理致。年八十餘，預言化期而終。今縣北黃棟村雲潮寺，即月天所建，骨塔在其傍。

補續高僧傳卷第十九

補續高僧傳卷第二十

明吳門華山寺沙門　明河　撰

遺身篇

宋　喻彌陀傳(附淨真)

思淨，錢塘喻氏子。好畫阿彌陀佛，臻其妙。楊無為呼為喻彌陀，世因以稱焉。或者問師：能畫彌陀，何不參禪？師答曰：平生只解念彌陀，不解參禪可奈何。但得五湖風月在，太平何用動干戈。師兒時遊西湖多寶山，輒作念曰：異時當鐫此石為佛。後果為彌勒像。侍郎薛公問：彌勒見在天宮說法，鑿石奚為？師答曰：咄哉頑石頭，全憑巧匠修。只今彌勒佛，莫待下生求。其應對機辯如此。師平生務實，不事虛飾。嘗就北關僦舍飯僧，不二十年及三百萬。移妙行額，廣所居為寺。屬離亂，寺獨不焚。師造賊壘，願以一身代一城之命。賊竦然為之少戢，全活者眾。紹興七年冬，趺坐而逝。侍郎張無垢九成銘其塔。

其後嘉熙中，有曰淨真者，亦捐身益物，有淨師造壘代命之風。真初禮吳松興聖寺若平為師，遊講肆，得賢首宗旨。至錢塘，適江水大溢，塘崩壞，居民相顧倉皇，無所措手足。真以偈呈安撫趙端明曰：海沸江河水接連，居民衝蕩益憂煎。投身直入龍宮去，要止驚濤浪拍天。遂投身於海，三日而返，謂眾曰：我在龍宮說法，龍神聽受，此塘不復崩矣。語訖，復入于海。事聞於朝，敕賜護國法師，立祠於會靈祀焉。

化僧傳(附吉祥、慈濟)

化僧者，初不識其誰何，蒼顱黧面，去來[鄍-卑+((白-日+田) / 廾)]繁間，甚熟市，人蓋多見之，而無相問訊者。崇寧五年十二月二日晨，從外來，乞食城中如故，嘗洋洋也。眡日欲昃，輒囊其衣，若將去者。行次廛東，小息於逆旅馬氏，乞漿焉。斂裓趺坐，漿未饋而告寂。玉骨山峙，不杌不倚，人皆聚觀羅拜，迎歸北溪，龕而奉之，至今真身儼然如生。宋楊天惠作文記之曰：異哉！我昔未之見也。是導師者，不離闤闠喧閧而示靜便，不鄙屠沽垢紛而示精潔，不舍生死濁惡而示究竟，不樂相好設飾而示堅固。其音制和軟，類近里社，而莫知其名氏；其膚臞勁，類七十許人，而莫知其壽臘；其衣履簡野，類空林衲子，而莫知其居止。嗚呼！生吾不知

從師遊，沒吾徒知志其跡，是刻舟之說也。雖然，繇吾之說，瞷師之相，起欣慕想，成淨信行，庶其有從入哉！
又僧曰：吉祥嘗寓東川解魔寺，魁梧多力，一飯五鉢，日夜誦經五函。寺前有池畜魚，祥盡知其數，以名詔之，皆次第出水面，若受祥話言，靡靡而去。
滇有僧曰慈濟，嘗在洱海東北青顛山險石上，禮迦葉佛，日課百拜，人名其石名禮拜石。下臨不測之淵，後即於石立化。今無能躡其石者，示現難思，皆化僧之流亞也。

咸平府大覺寺法慶禪師傳

法慶嗣佛國白禪師，嘗掌書記。初住泗州普炤，後遷嵩少。汴破被虜，收牛于北方，惟一講僧識之。次居東京，因侍者讀洞山錄作愚癡齋，者云：古人甚奇。師云：我化後，汝可喚之。若能復來，是有道力也。後預知時至，乃作頌云：今年五月初五，四大將離本主。白骨當風颺却，免占檀那地土。衣物盡付侍者，飯僧始聞初夜鐘聲，坐逝。侍者如約喚之，師睜眼應曰：爭麼？者曰：和尚何裸跣而去？師曰：來時何有？者欲強穿衣，師曰：休留與後人。者曰：正恁麼時如何？師曰：也只恁麼。復書一偈云：七十三年如掣電，臨行為君通一線。鐵牛[跳-兆+孛]跳過新羅，撞破虛空七八片。壽七十三，皇統三年五月五日也。

元　覺慶、德林二師傳

覺慶，號壽堂，四明毛氏子。弱歲，禮壽梅峰為落髮師。精戒律，遊戲人間，脫然無碍。凡可以澤物利人之事，至於甃衢鑿井、施湯茗、行鍼藥，事無鉅細，靡不鼓勇直前。見人行之，如出乎己，助成益力。至正間，至雲間，隨喜普炤佛會，忻然欲就會入滅，期以正月二十三日。預作書別四明及杭之麴院道友，附偈曰：無量劫來元有我，無有有我我亦無。無我無人無覓處，蕩蕩光明耀太虛。人皆止之，不聽。有陳源堅者，迎歸其家。越二日，師曰：月明立到三更後，徹骨寒來有幾人？既云歸去，胡顏復留？言已寂然，探之已逝矣。大眾奔赴，舁於西延恩。茶毗而遍體汗下，復迎歸。是夕，紅光燭天。停十日，顏貌如生，鬚髮自長。源堅深信，捨所居為菴而祠之，加髹漆焉。
德林者，東甌人也。至正間，挂錫上海之柘澤廢寺，饑寒弗嬰其心。歲夏五，忽語人曰：疇能施我一龕，九月一日焚却此身？人以為欺，不之信。至期，空鉢囊，易薪樵，自環趺坐，合掌云：二十

七年學無為，信手拈來獲得渠(云云)。火從身起，觀者始矍然膜拜，請曰：活燒人地里，不祥。師火中應曰：雨過無妨。

明　落魄僧(附雪梅)

永隆，姑蘇施氏子。在襁褓，即不茹葷血，惟佛法是慕。年逾冠，白父母，求出家。遂舍入尹山崇福寺，落髮為僧，受具戒。志力苦澹，耿耿與嘗人殊。偶夜坐，聞空中天神報曰：此寺創於梁天監，燬於元末，逮今三十年。吾受佛囑，衛此伽藍。師能重建，當陰相之。師乃感天神之言，遂鳴眾檀，即刺指血，書華嚴、法華二大經以立願。書時，筆端出舍利，燁然有光，人罔不駭異敬信。師裒資庀材，先剏大雄殿。舟往三衢，搆大木。過錢塘江，颶風飄筏將入海，舟之眾皆歎泣。師曰：吾之所為，皆神所警發，神寧食言者乎？俄頃風轉，回筏抵江岸。木商黃有亮異之，與同友曰：奇哉！殿成，當為造大佛像以報。以　洪武辛未八月，殿乃成。二十五年壬申，朝廷度僧。師引其徒赴京師，試經請牒。時沙彌三千餘人，其中多有不能記經，欲冒請者。於是　上怒，送錦衣衛，皆籍為軍。師慈憫無可救，遂詣奉天門奏聞，欲焚身以求免。　上允，以二月二十五日，　敕內臣以武士嚴衛其龕。至雨華臺，師出龕望闕拜辭，入龕索楮書偈曰：三十三年一幻身，洞然性火見全真。　大明佛法興隆日，永祝皇圖億萬春。又取香一瓣，書風調雨順四字，語內臣曰：煩奏　上，遇旱以此香祈雨必驗。須臾，秉炬自焚，烟燄凌空，異香撲人，羣鶴飛翔於龕頂。良久火餘，斂舍利無算。於是三千餘人悉宥罪，給牒為僧，皆師賜也。時大旱，　上召僧錄司官，迎師所遺之香到天禧寺，率眾祈雨，以三日為期。至夜，即降大雨。　上喜而謂羣臣曰：此真永隆雨耳。　上親製落魄僧詩以彰之。是年八月，弟子奉骨歸葬於尹山而塔焉。

雪梅，不知何許人。止天禧寺，嘗遊雨華臺。性宕不羈，出言無度。解詩清奇，人爭傳誦之。數年後，行歌於市，命童子圍繞踏歌曰：老雪梅，今日不歸幾時歸？輒自答曰：歸！歸！三答，端坐而逝。

明　祖遇傳

祖遇，不知何許人，自稱慈海舟之徒。自金陵來遠安，縛禪於法琳洞，跏趺而坐，足跡未嘗及山下。又服水齋，不粒食，惟飲水，如此者四十九日，每歲率以為嘗。成化十五年，提學副使薛綱督學至遠安，至洞，見遇癯瘦，若有病者，因謂之曰：巖岡僻寂，非人所

居，何乃自苦如此？遇曰：不如此，不能成正覺。又問曰：人七日不食則死，聞汝水齋四十九日，何術致然耶？遇曰：吾知傳吾師之教，無他術也。但先三五日為饑火所燒，體熱而倦，力不能支。越六七日之後，飲水透徹，覺清爽如嘗。薛歎慕而去。十八年，薛再過洞，遇尚無恙，見菴之西檻為巖之墜石所毀，去禪所僅丈許，薛詰之曰：汝能先知巖石之墜而不懼乎？曰：不知也。薛曰：石無慧眼，汝非金身，若一夕再墜，汝其齏粉矣乎！聖賢有戒，知命者不立乎巖牆之下，汝宜識之慎之。遇微笑而不答。至二十年五月初二夜半，雷雨大作，巖石亂墜，其聲動地，遇壓焉，遂寂，年纔四十。其立志之堅，至死不變如此。

明河曰：無論世出世法，辦志如此，何事不辦。死生浮幻，有道者視之如戲，處之若無。薛告語諄諄，何異對醒人說夢，宜乎遇笑而不答也。

善信、大雲傳

善信，字無疑，蘇州嘉定吳氏子也。年二十九，削染為僧，不識一字，惟事禪那。入玄墓，參萬峰和尚，忽有得，謂眾曰：我自出家以來，脇不至席，今日始了當矣。未幾，示微疾，索浴入龕畢，於彈指間欻然火起，自焚其身。是蓋得道急於入滅者也。或贊之以偈曰：一念纔空萬境忘，更無餘事可商量。翻身永入火光定，驚倒靈山老藥王。出輪迴又入輪迴，究竟何曾有去來。昨夜冰河中發燄，虛空燒作一堆灰。

大雲，襄陽人，初為北京吉祥寺僧大極之弟。性敏重，通內外學，戒律清苦。嘉靖中，住廣德寺，律身事眾，人無間然。偶二僧相鬨不已，雲作齋為之釋憤，因謂曰：昔吾兄大極在京中，一日試合掌自誦云：願生西方淨土中，九品蓮花為父母。即坐化。我今為汝解紛，亦當學吾兄自便耳。因趺坐合掌，誦前二句，言訖化去。

廣玉、寧義傳

廣玉，字無瑕，蜀資中紅蓮池人。在俗為孟居士，因覩世相，無嘗感焉。而出家一衲，入九峰山。山最高處，為雷音寺。玉居寺九年，習枯安靜，霍然有得。萬曆甲申歲，忽告眾曰：三月七日，貧道與諸君別矣。自是水漿不入口者，二十餘日，而神氣益王。膜拜求法語者，日嘗數百人，悉煦婉酬答，如輪轉水注，紊紊不絕口。而聞之者，無弗感激發心。至期，沐浴升座，忽天盡暝，雷大震，檐瓦欲飛。眾皆慄伏，不敢仰視。少選日霽，師乃慈音慰眾，且

云：吾之遺骸，如澄過白蠟，隨汝輩意置之。言訖而化。初厝骸於桶，三期開之，顏貌如生。彭之士民，舉銅萬觔，刱塔殿於峰頂，漆而奉之。

寧義，亦資人。初居三堆山，後雲遊，遇知識命事苦行法門，因茹菜啗豆，兀坐精練。人有致譏者，義曰：我業障深重，非如此不可。久之，有所得。萬曆癸未，積薪自焚，纔舉炬，若朽株斯須而盡，識者謂入火光三昧矣。

夜臺、秋月傳

夜臺者，西蜀人。少習引導辟穀之術，遇大智師於峨眉，薙髮受戒。辭師至終南伏牛，又至五臺，多服水齋。日則靜坐，夜則遊臺，人因呼為夜臺。五臺方圓五百里，暴風怒號，走大石，吹騾馬如掃葉。師棕衣棕帽，手握鐵杖，遇風則止，風止則行。有時昏黑，墮入坑谷中，鐵杖垂卷，而師無恙。遇虎，即投身示之曰：汝噉我，結一小緣。遇鑛賊，振錫環響，賊遙呼曰夜臺，師懾伏不敢動。大雪滿山，眾負鍤迹師雪中，師已僵槁，雪埋腰膝間。眾舁歸，置熱火土銼上，沃以湯，稍久乃甦，復夜行如前矣。師夜中時，見燈光野火，猛獸鬼怪，親見文殊，或為老比丘，或為美好婦女，抱嬰兒赤裸下體，頃刻不見。如是夜遊二十餘年。歲癸卯，入京師，　慈聖太后賜鉢杖及紫襴袈裟一襲。師先于塔院寺設千盤會，于龍泉寺設龍華會，皆四十九日。又于峨眉、五臺，各鑄幽冥鐘一口，重萬三千觔。又于普陀、峨眉，請藏經二部。又于九華，設水陸道場。其餘錙粟，分施靜室及諸貧僧，銖兩尺寸，不入私橐，故久而緇素益信之。師往反四大名山，精神庀頓。緜蜀至廣陵，忽病作，道人某斷指入糜，冀療師疾。師訶曰：出世人豈效兒女子所為？吾期已近矣。是時疾已瘳，買一巨舫，設水陸像，放燄口不絕。庚戌十月，緜通州渡海，過福山，忻然欲留，先遣散諸弟子，獨留老道人自隨。登舟將行，有新安二賈客懇附舟，師曰：此有緣人。許諾，揚帆甚駛。問：日中乎？曰：中矣。命作飯，飯二客，復出襯錢授之。因禮十方諸佛曰：我欲歸海。眾驚曰：今已在海中，復何歸？師曰：我聞解脫菩薩臨命終時，戒其弟子分身為三：一施鳥獸，一施魚鱉，一施螻蟻。我今亦爾。眾哀號牽挽，師出一紙授客，即解脫菩薩語也。眾方哀挽不已，師曰：汝為我禮佛。皆拜，師一躍入海。眾欲收帆援師，師端坐水浪上，搖手曰：帆一下，汝曹皆覆矣。須臾，白黃霧擁師而去，時萬曆庚戌十月二十五日也。老道人歸，言之人，華亭陳眉公作文記其事。

秋月者，蘇州玄墓山老僧也。精戒律，勤禮誦，以茗飲作佛事。過玄墓者，必訪秋月。然非高雅之士，秋月不與之見，見亦不與茗飲。方時禪期講席，四至轟然，師恬如不聞。或勸之一出，隨喜笑而弗答。天啟改元之歲，別山中道侶，朝南海。從蓮華洋忽起，至船頭禮拜，高聲稱佛名，即奮身下水。眾急出扳挽，已無及矣。時風浪大作，師出沒浪間，猶合掌稱佛聲。舟漸遠，乃失。

系曰：夜臺走四大名山，足跡徧海內。秋月靜閉一室，不知戶外事。夜臺廣修福業，秋月一事弗為。二公之平生，判然如此。至末後一著子，則無少異。蓋夜臺藏靜於動，秋月寓動於靜。動靜二公之跡，脫然生死之際，而無絲毫罣閡者。二公之心，實不可得而優劣之也。

補續高僧傳卷第二十

補續高僧傳卷第二十一

明吳門華山寺沙門　明河　撰

讀誦篇

宋　洪準、遇安二師傳

洪準禪師，桂林人，從南禪師遊有年。天資純至，未嘗忤物。聞人之善，如出諸己，喜氣津津生眉宇間。聞人之惡，必合掌扣空，若追悔者。見者莫不笑之，而其真誠如此，終始一如。暮年不領院事，寓跡於寒溪寺，壽已逾八十矣。平生日夕無他營為，眠食之餘，惟吟梵音讚、觀世音而已。臨終時，門人弟子皆赴檀越，惟一僕夫在。師携磬坐土地祠前，誦孔雀經一遍告別，即安坐瞑目，三日不傾。鄉民來觀者堵立，師忽開目而笑，使坐於地。有頃，門弟子還，師呼立其右，握手如炊熟，久寂然，視之去矣。神色不變，頰紅如生，道路塑其像龕之。

前是有破句讀楞嚴得悟曰：遇安者，福州人，居瑞鹿上方。道德著聞，頗為一方宗仰。其死生之際，脫然自在，與師若出一手。一日將示滅，喚弟子蘊仁侍立，停棺於側，說偈曰：不是嶺頭携得去，豈從雞足付將來。逐自入棺，安詳整頓，命蘊仁闔釘。經三日，門人起棺，見師右脇而臥。眾哀慟，師遂起，如夢醒狀。命撾鼓昇堂說法，訶責垂戒曰：此度更起吾棺，非吾徒也。言訖，復入棺而化。

道光傳

道光者，蘄州永樂寺書經僧也。數椽山中，與其兄道舒鄰房。晨香夕燈，以禪誦為佛事。出血和墨，書寫一切經。其衡斜點畫，勻如空中之雨，整如上瀨之魚，皆精進力之所成。且為人純素，忠於事，孝於奉親，為里閈所敬信，法眷所追崇，從之者皆肅如也。寂音尊者嘗過其菴，信宿彌日，盡獲見其所寫之經，無慮十數種，為之頂戴歡喜，稱其為真比丘，為說以贈之。有云：觀其施為，日夕以與佛菩薩語言酬酢，豈復有世間心耶？華嚴曰：念念不與世間心合，是大精進。光其以之。

元　如一菴傳

一菴如公，永嘉人，生玄氏。先誕五日，其父夢一異僧持梵筴至，問：何來？曰：五雲。問：何姓？曰：姓殷。何名？亦曰：姓殷。且云：後五日當復來。視所持梵筴，曰：用是表信。至期而師誕。師頭骨嶄聳，目光射人。年十五，事方山長老，削髮披緇，背誦楞嚴。至第五卷，得嘔血疾，乃輟誦。疾瘳，一夕夢所未誦經，皆金書大字，布列空中，厲聲讀之。既覺猶存，移時始隱，自覺心地清涼。爾後一誦如流，徹後通前，終身不忘矣。復依竺元和尚，究問上事。雖提綱握要，然亦不廢此經。晚年居西澗菴，不事匡徒，來者亦不深拒，翛然有政黃牛之風焉。

性然傳

性然，字寶燈，東阿楊氏子，世為田家。生而多病，年十七棄俗，被服受戒。夙具利根，頓發至願。修淨業，跪誦華嚴經，九年鍵戶不出。後忽出遊諸方，伏牛五臺，南涉吳越，西極秦隴，名山勝剎，皆有足跡。行業精苦，聲聞益彰。旋里居香山寺，寺業一新。太守殷君三禮時為諸生，知師最深，奉之彌謹。師為精舍，立一小閣，棲止其中。復鍵結脩淨，視昔尤勤。誦佛號，飲食寤寐未嘗輟聲，寒暑昏曉未嘗就枕。影不出山，迹不入俗，如是者六十餘年。于公慎行嘗叩之曰：上人口誦彌陀，當生極樂否？師曰：孰為彌陀？孰為極樂？吾心是也。聲聲相續，念念不忘，自然五蘊空，六根淨，而蓮花現矣。西方極樂固在剎那，豈懸遠哉？于服其言，謂其有靈竅，非徒事勤苦者，買田一區為供。師風骨稜稜，眉角巖嶄，年近期頤，行步距躍。造一坐龕，置榻右，時時入中，少坐而笑。忽一日告終，命促，殷公至，囑後事，乃扶服入龕，趺坐而化。生弘治庚申，卒萬曆癸巳，年九十四也。

普明傳

普明，字寂炤，嘉善妙常菴僧也。薙髮受具，日誦法華經不輟，世間萬事，了不經懷。入古杭山中，閉門讀誦，誦畢，靜坐而已。蛇鼠鳥雀，日與明狎，嬉遊於前。偶客至叩門，皆飛走而去，不及去者，輒手取納諸懷，以衣覆之。客去則出，嬉狎如故。有一病者詣之，手摩其頂，夙患頓除，遂委身為弟子。一日，謂弟子曰：我五月十八日逝矣。弟子以五月非吉為對，明曰：然則八月也。既訂，即歸嘉善。屆期，弟子來視，明方掃地，語之曰：汝不來，吾幾忘矣。命聲鐘集眾，書偈曰：這個老漢，全無思算，禪不會參，經不會看。生平百拙無能，晦跡青松岩畔，靜如磐石泰山，動若雷轟掣

電。擲筆端坐而化。茶毗，火光五色燭天，異香經夕不散，舌本不壞，叩之有聲。化後旬餘，人猶見之古杭，靜極光通，去留自在，是亦持誦有得者也。

補續高僧傳卷第二十一

補續高僧傳卷第二十二

明吳門華山寺沙門　明河　撰

興福篇

宋　永公傳

永公者，不知何許人，法雲圓通秀禪師之嗣也。緣契都城，大作佛事，名震四方，賜紫方袍，師號江寧府天禧寺。舊葬釋迦真身舍利，後寺廢，至南唐時為營，宋初營廢。祥符中，僧可政上奏，得請復為寺。政即其光相表見之地建塔，賜號聖感舍利寶塔。寺據山水形勢，坐乙向辛，以越王臺為案。塔之後，地勢傾下，政失於遷就，不能培築相因，姑以北廊造院，為安僧之地。雖規模僅足，而狹小陋劣，事爽緣違，以故寺不復振。元符二年，知府事溫陵呂公升卿曰：是一大叢林，特主者未得其人耳。遂請于朝，延改十方住持，即報可，即迎致永公為開山第一祖。永公入寺，顧瞻歎息曰：真福地也，所以不振者，正坐不正耳。乃於塔後築福增疊，凡下而上，積二丈三尺，深入四十尺，橫亘二十丈，將建法堂，次第以正其位。已而信士南昌魏德寶同其妻王氏見而喜曰：如此更易，方見形勝。顧其妻曰：此地不植福，更將何之？乃獨許作堂，且曰：不計其資，惟成是務。師即鳩材庀工，未幾堂成。高明靜深，萬象俱廢，龐麗雄特，為一方叢林之冠。俯視疇昔，無異發覆破闇，如出雲霄之外。凡甓甃髹繪，總用錢五百萬。永公又建寢堂方丈，盡所增之深，資藉締搆。又建僧堂厨庫，移經藏於故院，隨向展演，各適其正，煥然一新，真一大叢林矣。異時德寶再至，踊躍稱贊曰：非師正眼炤徹，道力超異，則不能有所舉。非我信向經始，則眾緣何從而應？遂請僧眾轉大藏經，修水陸齋，落成其事。又曰：叢林既新，將不下五六百眾，其將何以備齋粥？永公曰：亦在子耳。德寶曰：請為師置田產，買蘆洲，收其所入以繼之。永公曰：子果有是願，則功德圓滿矣。自是眾有恒食，山門賴之。師後不知所終。

明河曰：德寶何人，能倒篋傾囊為佛事？若拔毛遺唾，脫然如與己無與者。雖則見相興心，然亦永公道德，故有以啟之。運虛空心為解脫事，我本無捨，師亦非受，反覺家材沉海者多事也。德寶高風可想而見，而曰永公見圓通，則其天禧一局，乃其逢場作戲。今觀其所為，不見其所說，孤負永心矣。

昭覺延美、永安德元二師傳

延美，陽安郡平泉杜氏子。出家依彥通律師具戒，昭覺師受業處。後以道行，即補住持，視了覺大師為五代祖。了覺號休夢，參石霜、洞山諸老，深得禪旨，即宣宗復教，對御落髮者也。後大闡於昭覺，師為其遠孫，不惟能紹其宗風，且兼弘於福業。寺之殿宇，舊而百間，師廣增至三百間。修唱梵之堂，廣方丈之室，備水陸之儀，及羅漢、六祖、翊善、大悲，各列一堂。又分千部經為東西龕，又建紀天列宿堂，極壯麗。以至安毳侶，供公庖，厨倉寮庫，齋廳浴室等，無不備具。寺之舊址，頹垣茂草百年矣，師一旦竪版築以繩之，興百堵，軫舊封，葺牆五百餘間，周匝園圃。而諸鄰敬師之德，相讓惟恐或後。自是朝飯千眾，累茵敷坐，如升虗邑，未有一物爰假外求者。人謂師開口無機，化不言而鷗狎；虗懷善應，施不求而谷盈。自大中祥符戊申領住持事，迨三十餘年，食不兼味，衣不重繭，自處淡如也。

師同時有德元者，亦精練行業，大興永安禪院，請欽禪師住持，俾揚宗教，與眾共也。誓其徒曰：隆茲寶剎，寔假眾財，宜乎來者緣合即居。況成壞迭臻，泡幻易滅，有為皆忘，浮生幾何？假物強名，曷定嘗主？茲後法屬，當泯異心，無狥私，無差別，但以義聚，勿為爭侵。有渝是盟，必罹陰殛。翰林學士彭乘贊曰：禪師一錫周游，半偈明解，鑑忘拂拭，幡任飄颺。踐鹿苑之康莊，出虎溪之軌躅。道存先覺，依歸者裔雲其臻；言會大乘，參訪者甘露攸飫。向匪行業積著，名德溢聞，則曷以當此乎？

體謙傳

體謙，永嘉人，苦行僧也。外形體，耐饑寒，喜為難事。入廬山住靜，刀耕火種。數年後，下山雲游。至筠州，為眾信擁留，曰：和尚安往？新街大緣，惟師聖人，金口而木舌，眾生之願也。師忻然應命，曰：此吾事耳。自某年始募，至某年工畢，而筠州新街成。運至虗無物之心，行極苦難成之行，德感如呼，緣歸若響。總計募金錢一千萬，召工鑿山陶土，得石與甎若干千萬。砌成大道，北斷於江，其南西繚於闤闠，凡若干萬尺。橫渠暗竇，為橋以通之，凡若干所。喜捨之士，以道計者，自五百尺至百尺，凡若干人。以錢計者，自三十萬至一萬，凡若干人。一萬而下，不可勝計。所得錢，不以纖毫自私，皆寄某氏之帑。朱出墨入，悉某氏主之。麻衣草履，以董重役。暮宿甄舍，饑食於施者家。余襄公南征，見師於馬首，為記其事，曰：彼上人者，弊衣糲食，苦其行而外其利，又能得開信同心，成此利益，使夫趨官曹、游旅肆者，出泥滓、入清淨之境，真奉佛事、勵戒行而好方便者也。誌之無媿詞。

空印軾公傳

軾，字空印，得法於吳江法真，天衣懷四世孫也。說法於廬山之下，學者歸之如雲。溈山密印禪寺，大圓祐祖開法之地，為南國精藍之冠。崇寧三年，厄于火，一夕而燼。寺規模宏大，潭帥曾公孝蘊謀於眾，以為非名世大知識福慧具足者，不能肩此，軾師其人乎？於是盡禮迎致之。師亦慨然以興復為己任，廣其基構而增修之，使其壯麗，稱山雄深。鑄萬斤銅鐘，塗以黃金。立大法寶藏殿，藏諸佛菩薩之言。又明年，增廣善法堂之後為雨花堂，含風而虛明，吐月而宏深。自兩廊之左，繞以復屋，立庫院，建堂司，大修僧堂。曰：增者，人天之福田，佛祖之因地，人所見者也。曠野深山，聖道場地，阿羅漢所住持，人所不能見。既以廣延其所見，則所不見者，敢不敬乎？又刻五百尊者之像，閣而供事之。又明年，得異木於絕壑，大合抱，長倍尋，斷而為三，刻淨土佛菩薩之像，極其妙麗。殿於天供厨之南，又特建閣於寢室之前，奉安神宗皇帝所賜御書。閣成而東南傾，師默計曰：增，萬牛莫能挽，且天章神翰之所在，山君水王之所，宜謹藏而衛護之。今職弗修，是神羞也。言卒而風雨挾屋，山嶽撼動。俄而閣正，萬人權呼。又明年，重修大三門，太師楚國公為填其額。却望形勝，眾峰來朝，有臺自獻其前，以寶積靈牙舍利葬臺之中，而建塔其上，千尺九層，蕩摩雲烟。諸方皆建普同塔，與僧坊相望，遠不過一牛鳴地。獨溈山拘陰陽之說，謂近寺不宜為葬地。自開山迄今三百年，建塔於回心橋之南，其去寺十里，主者以遠故，或不能親臨。師曰：事無大小，而斷於理，從違不可苟也。僧火化，眾俱臨，先聖令不可違也。禍福之來，以智避就之，不可從也。遂建普同塔於寺之西，而屋其上。又修大圓祖塔，而峙立兩亭，以覆古今碑刻。聖谿庄壟畝為比鄰所吞，數世且百年，莫敢誰何。師曰：不直而歸，是陷人入泥犁。遣掌事執券證諸官，竟還二百畝。有玉泉住持僧死於龍牙山，山中人不容其葬，弟子抱骨石涕。師哀之，使於溈山擇地建塚塔，叢林義之。師之潛行密用之懿，時時見於與奪，然皆本於仁我，道俗化其德。政和六年，敕補住鎮軍之焦山。師雅意不欲東解住持事，力辭之，歸菴鸞溪之上。俄詔聽還之溈山。自其始至終而還，八年之間，百廢具興，非乘願力，何以臻此？雪竇天衣之道，至師大振，叢林歸心焉。興修蓋其游戲也。

嶽麓海禪師傳

智海，吉州太和萬氏子。幼靜專，無適俗韻。出家為金公弟子，受具游方，依東林、玉磵二公最久，然無所契悟。晚抵仰山，陸沉於眾，佛印元公獨異之。師方銳於學，喜翰墨，元呵曰：子本行道，反從事語言筆畫。語言筆畫借工，於道何益？矧未工乎？師於是棄去，經行湘南諸山，依止大溈十年。真如門風號稱壁立，學者皆望崖而退，師獨受印可。及真如赴詔，住上都相國寺。師雅志不欲西首眾衲，於衡陽花藥山分座說法。元符己卯，開法於城東之東明，俄遷湘西之嶽麓。無何，麓厄於火，一夕而燼。道俗驚嗟，以死弔。師笑曰：夢幻成壞，蓋皆戲劇。然吾恃願力，宮室未終廢也。於是就林縛屋，單丁而住。雜蒼頭廝養，運瓦礫，收燼餘之材，造牀榻板橛。凡叢林器用所宜有者皆備，曰：棟宇即成，器用未具，是吾憂，故先辦之。聞者竊笑而去，師自若也。未幾月，富者以金帛施，貧者以力施，匠者以巧施。十年之間，廈屋崇成，盤崖萬礎，飛楹層閣，塗金間碧，如化成釋梵龍天之宮。人徒見其經營之功日新，而不知其出於閒暇談笑。宣和己亥七月九日，以平生道具付侍者，使集眾估唱。黎明漱盥罷，坐丈室，聞粥鼓，命門弟子因敘出世本末，囑以行道勿解，說偈為別。有智暹者進曰：師獨不能少留乎？師以手搖去，復周眴左右良久，右脇而逝。閱世六十有二，坐四十二夏，塔於西崦舜塘之陰。

明大禪傳

了明，秀州人。妙喜會中龍象，叢林所謂明大禪也。身長八尺，腹大十圍，所至人必聚觀之。始妙喜謫梅州，州縣防送甚嚴，或以為禍在不測。師為荷枷以行，間關辛苦，未曾少怠。既至貶所，衲子追隨問道者，率不下二三百人。妙喜以齋粥不給，且慮禍，嘗勉之令去。師輒不肯以身任齋粥，每肩栲栳行乞，至晚即數十人為之荷米麪薪疏食用之屬，成列以歸。衲子雖多，無不具足，如是者十七年如一日。妙喜法嗣之盛，在貶所接者居其半，師之力也。妙喜被旨復僧衣自便，繼被旨往育王，師嘗在座下。師為人豪邁，機鋒敏速。妙喜室中不許衲子下喝，師每入室，必振聲一喝而退。妙喜一日榜方丈前云：下喝者罰一貫錢。師見之，乃密具千錢於袖中，至室中先頓於地，高聲一喝便出，如是者數矣。妙喜無如之何，再榜曰：下喝者罰。當日堂供一中，師見之，即驟步往庫司，語曰：和尚要十兩金。主事者不疑，即與之。乃遣行者隨往方丈，師袖之以入，復頓於地，高聲一喝，而妙喜大駭。入室罷，徐問，知其然，為之一笑。每語師云：你這肥漢，如是會禪，驢年也未夢見在。然念其勤劬之久，舉令出住舒州之投子。先是投子諸庄牛遭疾疫，死

斃幾盡，比歲不登。師以大願力化二百隻牛以實之，連歲大稔倍嘗，頗有異迹。遷住長蘆，衲子輻湊，叢林改觀。及妙喜住徑山，師來供施及飯大眾。洎歸長蘆，妙喜送以偈云：人言棒頭出孝子，我道憐兒不覺醜。長蘆長老恁麼來，妙喜空費一張口。從教四海妄流傳，野干能作師子吼。孰云無物贈君行，喝下鐵圍山倒走。後奉詔住徑山，道望愈著。先是，陽和王夢一異僧，長大皤腹，緩行，言欲化蘇州一庄。覺而異之，未言也。翼日，師忽杖履徒步而至，門者呵不止，以白和王。出見之，遙望師奇偉，與夢中見者無異，遽呼其眷屬出觀之，眷屬並炷香作禮。茶罷，師首言：大王庄田至多，可施蘇州一庄，以為徑山供佛齋僧無窮之利。和王未有可否，因令一辦齋。師飯罷便出，更無他語。時內外閧然，傳言和王以蘇州庄施徑山長老，遂達孝宗。會和王入朝，上為言：聞卿捨蘇州一庄施徑山，朕當為蠲免賦稅。和王謝恩歸。次日，以書至徑山，請師入城，而二日前先已遷化矣。自是，和王宴居寤寐之際，或少倦交睫，即見師在前語曰：六度之大，施度為先。善始善終，斯為究竟。和王即以庄隸徑山。此庄歲出十萬犂牛、舟車，解庫應用，百事具足。師於緇素有大因緣，所在施供雲委，衲子臻萃，佛事殊勝，江浙、兩湖皆號之為布袋和尚再出焉。

元　雪庭裕和尚傳

裕和尚，字好問，人以雪庭稱之。生大原文水張氏。九歲，日誦千言。漸長，遭世變，煢絕無依。道逢老比丘，勸以學佛。曰：能誦法華經足矣。師曰：佛法止是乎？老比丘異之，與偕謁仙巖古佛。曰：此龍象種，當為大器。即為祝染受具，與雙溪廣公同執事觀方。至燕，依萬松老人最久，聲光鬱然起，學者歸之。世祖居潛邸，命師入少林作資戒會。尋又被太宗詔，住和林。興國辛亥，憲宗徵至北庭行在所。累月問道，言簡帝心。洎世祖踐祚，命總教門事，賜號光宗正法。為師建精舍於故里，曰報恩。給田產，命僧守之。至元八年春，詔天下釋子大集於京師。師之眾居三之一，濟濟可觀。上喜甚。時少林虛席，萬松海雲為之請。上目師曰：師昔主資戒會，於是有緣，煩領眾一行。屬少林猥燼之餘，師儼臨之。聞而來者如歸，樂而施者如涌。嵩陽諸剎金碧一新，洛陽白馬經筵不輟，皆師力也。師瞑目燕坐，若無與焉。師襟度夷坦，風神閒散。說法三十餘年，如鼓雷霆，揭日月。繼踵前賢，標準後學，綽有古知識之遺風。涸池出泉，古殿生光，屢致祥瑞。師戒人勿言，以某時入滅。仁宗履位之初，贈師司空、開府儀同三司，追封晉國公，仍命詞臣撰文表其塔。下詔曰：皇帝恭惟世祖神武不殺，本仁祖義

以一天下。朕欲昭我祖德，持盈守成，唯爾克紹乃初祖，永孚於仁，以弘濟我兆民。顧先哲其逝，朕弗克見，于茲邈焉。雖去來夢幻，無得而名，而封贈哀榮，豈不在我？其尊爾官，隆爾爵，以寄予思，以迪後人，以永譽於萬世。其為時君追慕永歎之如此。

明　正映傳

正映，號潔菴，撫之金谿洪氏子。幼祝髮，性穎悟，不妄舉動。為大僧，受具足戒於杭之昭慶寺。時巽中禪師唱道於靈谷，師往參之，光掩一眾，遂契合。付法為真子，侍立居上首，處之弗疑。洪武中，奉　詔掌京師天界寺，牀幃不設，寒嘉一衲。　上聞而嘉之，移命掌泉州開元寺。開元舊名蓮華寺，自唐匡護大師開山以來，代不乏人。近以元末擾害，災火迭興，僧徒屋宇，罄殞無遺。有司以聞，故有是命。　高皇帝面諭遣之曰：著爾去作住持。如今作住持難，過善則受欺侮而不振，過嚴則致毀謗而自隳。爾但清心潔己，長久欽此，自能整頹綱，光祖席耳。師奉　旨惟謹，蒞寺宣闡。未幾，玄風大振。首作講堂，額曰清心潔己，示不忘也。次作甘露戒壇於潔己堂前，以為生定起慧，必本於戒，尤為先務也。二作既集，諸仆並舉，皆不煩緣，募眾樂助。不數年，煥然一新，視昔有加焉。永樂二年，奉　詔主雪峰崇聖寺，以開元績成也。崇聖為真覺祖師道場，真覺化時，留讖云：石塔卵爆，杉枝拂地竹笋生，五百年後吾當再來。至師登山，適五百二年，諸讖俱驗，若合符節。況師顏貌又與真覺無異，故人咸以為為祖師再出。師益厲精勇，道德在人，誠有不言而化。當雪峰頹廢之秋，積糧於廩，伐木於山，陶瓦甓而儲器用。佛殿既落，法堂三門諸仆以次而起，皆弘碩壯偉，肖像端嚴，金碧輝映。瞻禮者歡喜讚歎，觀望者瞠目駭心，正如無邊色相。一彈指頃，從地湧出，令人應接不暇。師固視之如無，處之若虛，則其為人可知矣。師戒律精嚴，所視惟首。嘗於建陽鳳皇山休夏，值大水，因說戒，全活男女千餘人。游甌寧，建金山菴，致徒眾五百人。既年迫桑榆，師欲歸老靈谷，遂移檄僧錄。僧錄以聞，許之。其徒遠芷代領雪峰法席。芷號秋崖，師還京數年而寂。所著有潔菴語錄。

徐和尚傳

徐和尚，名愷，樂清蒲岐人。故嘗漁海上，漁舟時有行剽者，或曰愷亦在焉，聞之怒，憤甚，遂祝髮為僧，因姓徐，人以徐和尚呼之。朝夕禮佛，額間隱隱起方寸許，如懸珠，言語煦煦，勸人為

善。當是時，山水為患，開沙角路，平洞橋，以殺水勢，又砌鄧公橋。大役既興，費用不貲，眾情惶惶，相與謀：徐和尚有修行人，所言服，得其出一鳴，事集矣，第恐不肯耳。愷聞曰：但有利益，無不興崇，庸何傷？即為木鐸念佛，行里中數日，人雲赴雨集，富者施財，貧者效力，未閱月而橋成。鄉民又欲起龍宮，顧山高石遠，轉輸不便，又求徐和尚計之，愷亦不辭，為之經營四顧，惟傍有巨巖，師目之而未言。忽有白髮老父前謂曰：鑿此石足了一宮。言畢，于袖出米數升於地，因忽不見，眾異之。愷以米少不足為飯，姑煎粥，遂人人得飽，即施椎鑿，比宮成而石已盡，試鑿他石，則堅不可破矣。繇是人知徐和尚非常人焉。

大智禪師傳

真融，楚之麻城人也。幼有慧性，十五為沙彌，潛心教乘。數年，托鉢行游，涉歷名山，所至隨處結緣。嘉靖丁未，抵建康，入牛首山，修苦行。明年，入燕京，掛搭崇國寺，諷法華經。越數月，至萬壽山，登壇受戒。已，入五臺山，禁步五年，愈益精進。甲寅，往伏牛山龜背石，煉磨三年，持行益苦。丁巳，自伏牛還楚，寓會城龍華寺轉經。明年，入蜀，住峨眉山頂，禁步一十二年。集眾修安養行，立叢林，建藏閣，名淨土菴，接納雲水，孳孳如不及。萬曆二年，出山隨喜，止[鎣-(冗-几)]華山。[鎣-(冗-几)]華與峨眉相拱向，每見朝山人眾，山路八十里，崎嶇嶮峻，風雨不時，措足無地，欲為憩息之所，而難其基。聞山有池曰金蓮，池上平衍，可建道場。師大喜，往視，果然。遂夷石為址，伐木為材，工勤於趨，人樂於助。不一二年，成一大剎，名金蓮菴，寔峨山之化城，雲水賴之。復修千佛閣，為金蓮之鎮。既而復念天下三大道場，五臺、峨眉已獲朝參，獨普陀山乃觀世音示化之地，可弗至乎？以萬曆庚辰渡海，抵小白華，感大士示相，大慰夙願。自謂與此山有緣，餔糜喫菜，了餘生足矣。乃於寶陀寺之左曰千步沙，迤邐而東，沙盡處有山曰光熙峰。師結菴其麓，前為樓，儼然觀滄海。日出後，為大士精舍。其餘方丈、香積，靡不翼翼然飾矣。菴成，命之曰海潮。葢視峨眉[鎣-(冗-几)]華之勝，不相遠也。師為人一味真實，捍忍勤苦，剗滅情識。人無賢愚少長，一以慈眼視之。游泳教海，深入三昧，終不以二門自居。淨業堂一單，終身不與眾異也。嘗謂人曰：某甲苦行六十年，豈敢妄有希圖？但願與三寶結緣，成人天小果，畢吾志耳。師住山，多神異之跡，痛秘之。人有見者，戒勿泄。靜極光通，理固然耳。吾自不惑，焉敢惑人？師之

道岸，無涯涘矣。故朝海者，見大智禪師，以為現在肉身大士。叢林相傳，以為口實云。歲□□□月，坐化於海潮院。

真來佛子傳

福登，別號妙峰，山西平陽人，姓續氏，春秋續鞠居之後也。七歲，父母值凶歲死，無斂具，薦蓆而已。師無依倚，為里中富人牧羊。十二出家，十八携鉢至蒲坂。先是，山陰王建文昌閣於郡之東山，延僧朗公居之。師至，日行乞於市，晚投宿於閣中。適王出游見之，問朗，朗告之故。王曰：當善視此子，他日必成大器。朗遂留為弟子。會地大震，師被壓不死。王聞奇之，謂師曰：子幸免大難，何不痛念生死大事乎？遂入中條山，閉關習華嚴觀。取刺棘貼四壁，不設牀坐，日夜鵠立棘中。如此三年，稍有開發，乃作偈一首呈山陰。山陰歎曰：此子見處早如是，不折之他日或狂。因取宮人敝屣，割其底，洗淨封寄之，附一偈曰：這片臭鞋底，封將寄與你。並不為別事，專打作詩嘴。師見之，即對佛作禮，以線繫於頂上，自此絕無一言矣。三年，破關往見王，則具大人相。王甚喜，乃曰：子雖知自己本分事，但未聞佛法，恐墮邪見。時介休山中有法師講楞嚴，促師往聽受具戒，作務而聽，年二十七也。時王深敬三寶，居嘗自恨不能瓢笠遠游。一日，謂師：為僧不游方，如井蛙耳。南方多知識，子宜往參，歸來可當老夫行脚也。師遂行，遍歷叢席，至南京天界，于無極老人座下作淨頭，打掃糞穢，洗滌籌杖。眾怪其處潔淨異嘗，知淨頭有道者，莫知為誰。憨師時為副講，偵之累日，始得之，與納交，且期同行參訪。不旬日覓之，已潛行矣。師歸見王，王喜，問所參何人，師具述之。師意在居山，復入中條最深處，誅茆弔影，辟穀飲水者三年，大有開悟。王日重三寶，南山建大梵剎成，強出師居之，且欲求北藏經，欲師親往。師住山日久，髮長未剪，乃俗扮入京，藏板貯大內，非奉　旨不可得，且久閉不發，師得之如掇焉。時憨師先已至都下，聽忠法師講，法師於馬上識之，下馬相勞苦，笑謂憨曰：視我何如？憨曰：本來面目自在。因拉憨隨藏出京，曰：子之宿願耳。遂入五臺龍翻石冰雪堆中，得老屋數椽，共棲之。師夜游五頂，遣昏散日，刺舌血書華嚴經。經完，起無遮大會，結文殊萬聖緣於塔院寺，凡一百二十日。九邊八省緇白赴會者，路踵相繼，法筵之盛，前所未有也。　兩宮賢師德，　溫旨屢降，私念大名之下難久居，因入蘆芽結菴，將終身焉。　聖母求師得之，為建大華嚴寺於蘆芽絕頂，命師居之。更造萬佛鐵塔七成，紫柏尊者手書法華經一部，安奉其中。尋奉　慈聖懿旨，送藏雲雞足山。道出峨眉，禮銀色光密，矢

銅殿之願，人弗知也。自滇還山陰，請修萬固寺大殿。殿高十三丈，闊九丈。渭河病涉，行者苦之。大中丞李公，請建橋其上。師住二年，修橋十三孔。復受請，建宣府大河。橋兩重，重三十二孔。大河自胡地入中國，水勢洶涌，最難為力。師竟成之，有若神助焉。二橋與殿，所費數百萬金。師寔空手，無一文信施。雲集雨合，莫知所從來。福緣成就，殆不可思議也。既還蘆芽，開石窟於寧化所。窟深廣高下，各三丈五尺。鐫華嚴世界十方佛剎，圖萬佛菩薩像。精巧細密，遂成一大道場。瀋藩見而喜曰：勝因成就，好息心住山矣。師白峨眉未了之願。王乃[田/廾]萬金於師，取棧道入蜀。適王中丞象乾，總制其地，迎師問心要。因笑謂師曰：三大士，兄弟行也。師於普賢，如此不慮。觀自在文殊，謂師不平等耶。師曰：貧道不過空拳效奔走耳。若如所云，自有公等有力大人在。王曰：唯唯。師一言，而三銅殿巋然矣。隨殿各有滲金諸像，峨眉五臺各一。普陀者不果行，安置南京之華山。　兩宮頒旨，為三山護持。復舉七處九會道場於臺山永明寺慶讚之。嗣後建太原之塔，修阜平之橋。又闢茶藥菴於龍龍關　上，親書其額。又修滹沱河大橋，長五里。又修省城大塔寺。尋還臺山，料理所建上下道場，立為十方叢林，不留法屬一人。萬曆庚申八月，　賜金佛繡冠，千佛磨衲紫衣，并真來佛子之號。是冬十二月示微疾，羣鳥悲鳴，異光匝地。師乃集眾開示畢，端坐而逝。年七十三，臘五十一。訃聞，　兩宮遣中官侍致祭，　賜葬於永明之西岡，立塔焉。　慈宮別賜舉葬之費。師貌不勝衣，語不出口。始以小王助道，終致　聖天子聖母諸王為檀越。凡所營建，應念雲湧。投足所至，遂成寶坊。動費輒累鉅萬，悉聽能事有實行者主之。師蕭遠自如，一衲之外無長物。飄然若浮雲之聚散，孤鶴之往來。苟非深證唯心，遇緣即宗，其能爾耶？侍御蘇雲浦嘗問道於師，深有契於心。乃曰：人以妙師為福田善知識，而實不知其超悟處也。大司馬汪伯玉嘗謂憨師：方今無可為公師者，唯妙峰耳。故憨師傾心服之，嚴事之，亦無兩人也。

無邊傳

無邊，代州曹氏子。稺齡志慕出家，初叩無相，無相不許，曰：第能悟道，家何繁汝？乃謁無礙原公，落髮見汾州空安老人，安令參萬法歸一。一日，舉波斯匿王觀河語問師，師不能酬，懇求指示。安曰：我不辭向汝說，汝須自悟始得。遂屹立不臥。又入牛山火場，歷謁諸老，罔所入。復歸侍安，力提一字，至寢食俱忘。一日，掃地次，聞人誦彌陀經，至其土，有佛號阿彌陀，今現在說

法。師忽失聲，見安曰：我識得一也。安問：在何處？曰：今現在說法。安詰之，茫然。安遽掌曰：學語之流。師退，泣曰：我固分明，奈對境復迷何？復謁玉峰、寶山二公，後參龍樹、楚峰。因聞樵者曰：人苦不歇心。師聞，脫然曰：萬法本閒，惟人自鬧。呈楚峰一偈，峰可之。自是韜光晦跡，人莫窺其涯涘。久之，徒侶奔湊，爭為結菴，即今五臺之大博菴是也。師住山，以枯淡自持，食作必與大眾同，有古人風，三十年如一日，遠近爭頌之。萬曆戊子，密藏、幻予二上人入臺，卜 居藏方冊藏經。師聞曰：僧菴乃十方嘗住，今之人悉私之，吾素以為恥。今幸際此勝因，吾盡將此菴及所有施之藏公，使方冊大藏早行，閻浮提一日是吾法輪一日轉也。於是悉召山中耆宿為證，且立約云：徒屬以一盂一筋自私者，即擯出。藏公初尚猶豫未敢承，既見師意懇至，因聽焉。既而師示疾，又三月而化。其在病苦中，日夕與藏公徵決第一義諦，絕不以病苦少蹙額云。或謂師真有志於破有者，簞食豆羹人不能無恡色，師舉生平所蓄一朝而授之人，固已行人所難矣。四大欲離，風火相逼，人所叫號惶怖不暇為理時，而師諄諄惟以第一義相決擇，不尤難哉？是能遺身矣。夫惟能遺身，故能遺此菴如敝屣也，不可為末法之光明幢耶？師非嘗情所測識，具眼者自能別之。
補續高僧傳卷第二十二

補續高僧傳卷第二十三

明吳門華山寺沙門　明河　撰

雜科篇

後周　慧瑱傳

慧瑱，上黨開元寺大德也。通經奉律，於世漠然。顯德中，世宗行會昌之政，嚴緇度滅空門，瑱抱持經像，徙居巖谷間。盜謀往劫，瑱未之覺也。忽一丈夫乘馬自山頂下，謂曰：夜有寇，宜急避。瑱知其為神，合掌告曰：國滅，吾教孤窮，故來投檀越，仰祈庇覆。否則守死而已，更何竄！是夜大雪，賊不得進。及霽，盜復謀往，若有人禦之者，終不得而犯，瑱繇是得全。近山之人，多供養之。後莫知所終。

宋　善慧傳

善慧，嶧邑霍氏子。兒時聰慧有神彩，好弄泥土作浮屠，採花獻供為戲。父見而歎曰：此兒釋家子，吾失望矣。既長，恐其逸，強婚之。居三載，無觸染也。父母叱之，師歎曰：生死業輪，欲為其本。三界勞生，愛為其根。無始汩沒，吾安能復襲斯愆耶？父母知其志不可奪，聽其出家，禮清涼寺成大德為師。成曰：吾家麒麟兒也。教以經典，過目成誦，孜孜為學無或怠。久之，成以三門土木事命諸徒，師曰：幻影浮光，須臾交謝。己躬下事未辦，吾安能為他閒事長無明耶？幸師置我度外可也。乾德間，有司以德行聞，賜號宣秘大師，視篆掌教門事。命下不可辭，勉而就職。僧庶懷來，法林穆肅。臨終謂弟子曰：昔伯夷、叔齊餓死於首陽之墟，非輕生樂死，知義有所重於身也。吾二十年來，己事未純，為僧務累，殉輕而遺重，其德虧矣。爾曹勉之，勿踵吾陋跡也。言訖而逝。

麻衣和尚傳

麻衣和尚者，不知何許人也。當五季之際，方服而衣麻，往來澤、潞、關、陝間，妙達易道。發河圖之秘，以授華山處士陳摶。摶得之，始著訣以傳种放，放傳李溉，溉傳許堅，堅傳范諤昌，昌傳劉牧，始為鉤隱圖以述之，實本於師也。稱者謂師發易妙於二千年之後，殆天授耳。錢若水未第時，訪摶於山中，見老僧擁衲附火，若

水揖之，僧開目而已。坐久，摶問：何如？曰：無仙骨。若水退，摶戒之曰：三日後可復來。如期而往，摶曰：始吾見子神觀清粹，謂可以學仙，故請決於老僧。老僧言：子無仙骨，但可作賢公卿，急流勇退耳。問：向僧何人？摶曰：吾師麻衣道者也。太祖仕周時，嘗訪師，問曰：今上毀佛法，大非社稷靈長之福。師曰：三武所以無令終也。又問：天下何時定？師曰：赤氣已兆，辰申間當有真主出，佛法亦大興。及受禪，果應所言。開寶四年，親征太原，道絲潞州，遇師之院，躬禱於佛曰：此行以弔伐為事，誓不濫殺一人。蓋不忘龍潛時師所囑也。

惠泉傳

惠泉，彭城人，住南臺閣子院。性孤潔，不妄與人交，知名士多就見之。與之語，落落可喜；數親之，則拒而弗應。且義學超洽，能詩，清永有世外趣。大平興國末年，曹彬緣弭德超之譖，出領節制，閉閣謝客。孫何自京師來，久不得見，以詩自誚云：欲謁元戎無介紹，薛能詩版在鵰堂。異日登南臺，聞泉高槩，扣其門，一見如舊相識，館于其廬，饋勞加厚。將歸，贐以裘馬。後二年，何為進士舉首，同年路振官彭門，何盛稱泉好義甚篤，不求人知。振下車，携僚客詣焉，其徒曰：吾師聞公來，已去浙矣。振歎慕，留詩壁間曰：漢公嘗說惠泉師，解講楞嚴解賦詩。今日我來師已去，草堂風雨立多時。若泉之志，可謂善行，其所學無忝吾宗矣。

杭州興教小壽禪師傳

小壽禪師，不知何許人，誰氏子也。以同時有永明壽，故稱小壽以別之。二壽皆天台韶國師真子。師聞墮薪而悟，作偈曰：撲落非他物，縱橫不是塵。山河及大地，全露法王身。國師頷之。及開法，衲子爭師尊之。天禧中，御史中丞王公隨出鎮錢塘，往候師。至湖上，去騶從，獨步登寢室。師方負暄，毳衣自若。忽見之，問曰：官人何姓？王公曰：名隨，姓王。即拜之。師推蒲團藉地坐，語笑終日而去。門人讓之曰：彼王臣來，奈何不為禮？此一眾所係，非細事也。師唯唯。他日，王公復至，眾橫撞大鐘，傾寺出迎。而師前趨，立於松下。王公望見，出輿握其手曰：何不如前日相見，而遽為此禮數耶？師顧左右，且行且言曰：中丞即得，奈知事嗔何？其天資粹美如此。

惟中、文英傳

惟中字慧雅，蓬州開元寺僧也。游成都，不復歸其鄉者凡四十年。性孤潔，不妄與人合。精禪律之學，善吟詩，氣格清謹，與可朋相上下，時稱之曰詩伯。且通儒書，學者從質其義，日滿座下。羸形垢面，破衣敗履，見者莫測其中之所有。慶曆五年五月，示寂于大慈甘露道場，年六十九也。前時盡傾其橐中，得八萬錢，委其所嘗往來者楞嚴道人繼舒曰：我將去矣，生平之餘止此。爾其為我命奇工繪六祖像於爾院之釋迦殿，用此被唾罵，我不敢辭，且欲使來者見是相，知是心。以是知見，故能祓除諸妄而泯相亡心，我為是功德之意也。舒諾之，命名手劉允文圖之。梓潼文同嘗問道於師，為記其事。

文英者，姓蘇氏，泉州人。往來商成都，富鉅萬，留意禪悅。忽若有悟，盡捐貲，移書別妻子，祝髮於嘉祐院。妻子萬里入蜀訪之，師絕不復見。堅坐一室，歷三日，寂無人聲。妻子知師志不可奪，棄去，以故聲望愈高。凡四坐道場，住超悟最久。超悟者，大慈三大院之一也，實承灰燼之餘。師鳩工庀徒，創建禪宇，凡為屋千楹，闡龍宮，藏貝葉，規模恢敞，氣象雄特。始成，而旁院復火，勢且延及。師亟白府，毀正寺之三門以絕之，請後自建，火乃止。而三門復新，院始無田。師合施者金錢，且請廢寺之產於官，成三百畝，以備香積。故超悟耽耽為大叢林，皆師力也。

楞嚴道人名繼殊，有高行，賜號覺濟大師。與文與可為方外友，相得甚驩，有詩贈焉。覺濟大師且贊其像，極其稱歎云。

二，寶月大師傳

寶月大師惟簡，字宗古，蘇氏，眉山人。於東坡為無服兄。九歲出家，十九得度，二十九賜紫，三十六賜號。師清亮敏達，綜練萬事，端身以律物，勞己以裕人，人皆高其才，服其心。凡所欲為，趨成之。更新其精舍之在成都與[鄟-卑+((白-日+田) /廾)]者，凡一百七十三間，經藏一，盧舍那、阿彌陀、彌勒、大悲像四，塼橋二十七，皆談笑而成，其堅緻可支一世。師於佛事雖若有為，譬之農夫畦而種之，待其自成，不數數然也。喜施藥，所活不可勝數。蜀守制使皆一時名公卿，人人與師善，然師罕見寡言，務自却遠，蓋不可得而親疎焉。少與蜀人張隱少愚善，老泉深器之，曰：此子才用不減澄觀，若仕當有立於世，為僧亦無出其右者。已而果然。紹聖二年六月九日，始得微疾，即以書告於往來者，敕其子孫皆佛法大事，無一語私其身。至二十二日，集其徒問日早暮，及辰，曰：吾行矣。遂化，年八十四。是月二十六日，歸骨於城東智福院之壽塔。

又，寶月大師修廣，字叔微，姓王氏，杭州錢塘人。九歲出家，十一得度。景祐二年，賜紫。寶元元年，賜號寶月大師。治平中，州請為管內僧正。師為人樂易慈祥，有智識度量，不見其喜怒。讀五經，知大義，頗喜為詩。少羸多病，始學為醫，既成，而有疾者多歸之，無貴賤貧富，皆為之盡其術，未嘗有所厚薄。尤貧者，或資之衣食。以其故，自京師至於四方，自公卿至於學士大夫，多知其名，既見，皆樂從之遊。而鄉邑之人，至於羈旅游客，其歸之者，無不厭其意。師於接之，雖勞，未嘗有懈倦不欲之色；於資之藥物衣食，雖窮，無未嘗有所計惜。其應外者如此。及退而處夫貧富死生之際，又有所不累其心，故至於不能自給而未嘗動意，至於且死而未嘗變容改色。熙寧元年十月，感疾，會門人與嘗所往來學佛之人，告以將終，從容就坐而逝。

崇壽傳

大邑縣崇壽禪師，邛州蒲頓人，仇氏子也。自毀齒，趣尚便高遠。家嘗作佛事，則汛洒供獻，恭勤精愿，不敕之而自率，嘗恐若不能如法者。父母異之，乃俾隸大邑靜林僧籍，以仁普為師。年十六落髮，二十受具戒，來成都大慈聽講大乘諸經，盡通曉奧義。後七年，還舊居，其所止悉流落不治，但腐椽破壁，欹斜罅漏，陳屋數間而已。師恬然安一榻，處其中無厭色。禪悟之暇，間亦作詩句，度夷淡清粹。與人語，和輭未嘗迕物，心無愛惡，色無喜慍。且堅強少疾，狀貌修偉，慈恕溫裕，人無少長，咸願見之，見必拜伏欣喜，留連不忍去。一日，忽召其弟子慕安等前曰：人既生，理必有死，死嘗事，非異事。且吾無死生久矣，汝等當體吾之所以無死生者，慎勿戚戚如眾人，乃不累吾付囑。吾神光一道，留此無數刻，汝當奉吾所戒，惡不宜為，善不宜失。語已，攝足趺坐，疊手瞑目而逝，搖挽不動，嶷如塑刻。世壽八十有六，時治平元年十月二十三日也。師之真身不壞，風神凝然，不異平日，徒眾因為窣堵藏之。文與可居郡幕，時時相過從。嗣後來權州事，師已化矣，枉道過邑，詣師塔下，旋遶瞻禮，悲悼歎息曰：師之面目如生，而師之語音已不聞矣。因為銘其塔。

可久傳(附清順)

可久字逸老，錢塘人。天聖初得度，習教於淨覺，無出世志。喜為古律詩，所居西湖祥符，蕭然一室，清介守貧，未嘗有憂色。東坡守錢塘，當元夕九曲觀燈去，從者獨行入師室，了無燈火，但聞瞻

蔔餘香，歎仰留詩，有不把琉璃閒炤佛，始知無盡本非燈之句。蒲宗孟集錢塘古今詩求藁於師，師曰：隨得隨去，未始留也。聞者高之。晚年杜門送客不踰閾，辟穀安坐，觀練熏修，如此十餘年，牕外唯紅蕉數本，翠竹百箇，淡如也。一日謂人曰：吾死，蕉竹亦死，擇瑛公亦死。未幾皆驗，人嗟異之。

師友清順，亦錢塘人，字怡然，詩與師齊名，而操行亦同。石林葉夢得曰：熙寧間有清順、可久二人，其所居皆湖山勝處，而清約介靜，不妄與人交，無大故不至城，士大夫多往就見。時有餽之米者，所取不過數升，以瓶貯几上，日取二三合食之，雖蔬茹亦不嘗有，故人尤重之。

惟迪禪師傳

惟迪，不知何許人。法傳雲門，啟道明切。嘗答問佛者曰：日出東方卯，再乞指道。師曰：三日後看。富嫌千口少，貧恨一身多。皆師對機語。又作賓主語曰：賓中賓，日月無故新。賓中主，杖長三五尺。主中賓，問答是何人？主中主，正眼誰敢覷？說示大略如此。熙寧中，蜀普通山院僧自列於府，願延道行耆老闡揚宗風，追復青州之前躅。知府大資政南陽公是之，命有司精擇其人，以師充選。師之來也，都人激踴感勸，繇是大闡道猷。師平生枯淡自處，前後三坐道場，丈室蕭然。一笠掛壁，行則擔之，怡怡如也。最可異者，所至皆伴古德真身。始居馬溪，則有水觀和尚；次無為，則有惠寬和尚；及住普通，又為青州和尚。真身皆結膝趺坐，儀相儼然。豈人事之適然乎？或有所來也。(在王蜀時，有洪杲禪師至自青州，棲於東禪。方是時，二眾錯居。蜀主仰重師德，命二宮奚曰道真、道粉者為之侍使。後有娼道玉府，娼之尤者，聞師說法，言下有省，遂祝髮事師。於是物論喧然。蜀主怒，命鞫之。知師純固精確，愈加禮重。師因以所居畀貫休，而卜 居于府郊之東南普通山。後入滅於此，故真身存焉。蜀人號鶺鴒為連點七。華陽隱士田逍遙訪師山中而見之，問師曰：如何是連點七？師曰：屈指數不及，地上無踪跡。迪公嘗拈此示眾。或疑迪為師後身，業理循環，亦不可知也。)

智林傳

智林，姓阮氏，上世番禺人。既受具，禮慶閣黎為師，傳秘密教，正勤四十年不虛一日。仁宗樂宗佛事，擇開寶寺西北隅增葺精舍，祓除淨場，親篆殿額，像設莊嚴皆自內出，賜名寶生院。屬師住持，命主教門事，賜號宣教大師，天下僧籍為之統首。師於陀羅尼門受持精密，國有祈禱罔不獲應，內繇宮省以至宗室貴戚莫不厚為

之禮，道俗傾向，搢紳景重。張文定公安道潛心內典，嘗從師問梵學，師為啟發隱奧，科指條暢，張於言下了然，益深敬事。張又問曰：羂索諸部壇場軌儀，種種莊嚴不離世諦，無上正等諸佛心印，其用如何？師云：壇有多名，空智為上。一念淨圓同法界性，住無所住如空無依。彼誠之至者，猶可以動天地而感鬼神，妙湛總持一相三昧，具足神力豈思議所及。佛以大事因緣故出現於世，無有二法惟一乘道，至於隨緣立教應物利生，百千法門等為妙用。空智云者，第一義諦也。張致歎曰：醍醐甘露聞所未聞，吾固知師深得般若究竟法空相，非但嚴淨毗尼專精觀行而已。熙寧四年四月十二日，起居如平嘗，忽作而曰：吾報盡今夕耶。暮而歸寂，徒眾葬於開封縣東原，張公銘其石。

石塔長老傳

石塔戒長老，住揚州石塔院。東坡赴登州，師往迎之。坡曰：吾欲一見石塔，以行速不及也。師起立曰：只這是甎浮圖耶？坡曰：有縫奈何？師曰：若無縫，爭解容得法界螻蟻？及坡鎮維揚，師遣侍者投牒解院。坡問：長老欲何往？以歸西湖舊隱為對。坡與僚佐同至石塔，擊鼓集眾，袖中出疏，使晁無咎讀之。其詞曰：戒公長老，開不二門，施無盡藏。念西湖之久別，亦是偶然；為東坡而少留，無不可者。一時稽首，重聽白椎。渡口船回，依舊雲山之色；秋來雨過，一新鐘鼓之音。其為時賢注戀如此。長老必為時名德，惜不得詳其始末耳。

志添、元普傳

志添，生泉州陳氏，故通直瑊伯兄也。初住南安雲華巖，後游京師，道聲籍甚。元祐元年，詔入內為遂寧王祝壽，賜號真覺大師，并磨衲衣、金環絛錫哲宗，親書敕與之，許逐歲度僧，天下名山福地任性居住。初在福禪，次住秀州福巖。著作佐郎黃庭堅嘗贈之詩云：蒲團木榻付禪翁，茶鼎薰鑪與客同。萬戶參差寫明月，一家寥落共清風。又贊云：石出山而韻自笙簧，松不枯而骨立冰霜。今得雲門掛板，打破鬼窟靈牀。其石也，將能萬里出雲雨；其松也，故與三界作陰凉。此似昔人非昔人，山中故友任商量。侍郎陳軒亦贈之詩云：車輪馬足走塵烟，競看成都萬炬然。獨我踏開亭下雪，伴師同坐一菴禪。

元普，不知見何人。得法住樂山，名其菴海湖，閉門危坐二十年。司諫江公望作歌以招致之，設三問，皆不答。公望坐邑治平遠臺，

每遙拜其菴，其為時賢敬重如此。普既去，公望懷之以詩，又作多暇亭記，稱西蜀隱者，葢謂普。普，蜀人故也。二公皆為泉名僧，人至今稱之。

白雲孔清覺傳

清覺，號本然，洛京登封孔氏子，宣尼五十三世孫也。父訢，舉進士，有隱德。母崔氏。師幼而穎悟，習儒業。熙寧二年，閱法華經有省，求出家，父母許之。依汝州龍門海慧大師剃染，海會器之，囑其南詢。初參峨眉千歲和尚，蒙指訣。抵舒州浮山，結菴於太守巖，宴坐二十年，似有省發。元祐八年至杭，入靈隱寺，隨眾居止。有汪、羅二行人求師心要，一言而中，千里響應，參叩之士風雨而至。寺主以寺後白雲山菴俾居之闡化。覺自立宗旨，著證宗論、三教編、十地歌，皆依倣佛經而設，人稱為白雲宗。大觀元年，卓菴湖州千金市。復至烏程菁山，卓錫得泉，結菴而居，名曰出塵。徒眾復邀歸正濟寺。正濟，覺舊講華嚴經處也。覺立說專斥禪宗，覺海愚禪師力論其非，坐流恩州。宣和二年，弟子政布等陳狀，被旨放還。次年八月，作偈投太守游公，請以九月二十六日為別，至期而化。靈骨舍利歸葬餘杭之南山。

白雲之道不淳，譏議歸之，宜矣。至詆與白蓮相混，特以無妻子為異，則亦太甚。然其持守精謹，於患難生死之際，脫然無礙，去常人亦遠。予故取其行已，而恨其為言也。

銓公傳

銓公賜號文炤大師，華亭人。體清弱，以閉門習靜為事，不泛交，惟主簿劉發常詣之。善鼓琴，有美琴曰響泉，好風良月則清香，撫之云以供佛。鄰貴慕之，隔垣起亭，宵頃以聽，知之，徙北牖。發恃師所知，間邀一客同見銓，銓方操絃為泛聲，客遽稱善，銓即止，客不懌而去。銓顧發曰：何得引俗人入我座耶？發媿謝。師所居曰妙音閣，發為記，且贈以詩曰：寶琴何所得？所得甚幽微。聊借絲桐韻，還超智惠機。霜風悲玉軫，江月入珠徽。向此諸緣盡，人間孰是非？銓、發皆元祐間人也。

潛澗闍黎傳

處嚴，字伯威，溫州樂清賈氏子。母萬方娠，一夕夢黑龍自天躍而下，俄化為道人，入其家。及產，有異相，警悟不凡，經史過目輒

成誦。少長，不茹葷，母強之，卒不從。一日游精舍，歸白其母曰：兒蔬食居俗，非所宜，願出家學佛。落髮於明慶院。初習講教義，發明師說，了無疑滯。同輩尚編錄，務相詰難，師心非之，遂棄教而崇禪。歷訪先輩老宿，叩擊玄旨，多所契會。有以座首命之者，師弗顧而去。師於己事外，博學能詩文，醇重典雅，且工書，有晉宋法。時道潛、思聰二公與東坡游，聲名籍甚。或勸以所作謁縉紳，求知己，師笑曰：古之桑門與士大夫游，非求之也，道自合焉爾。故終身不以一字干謁，識者高之。元祐間，還永嘉，寓淨光、大雲、開元諸剎，其徒翕然宗之，扣門請益者，履相躡也。師訓以本業外，復以詩書子史導之，凡經指授者，咸見頭角。元符初，歸故山，誅茆結廬，循除蓄流，自號潛澗，賦詩鼓琴以自娛，有古人林下風。師有辭辯，長於講釋，鄉里巨室欲屈師講經，莫能致。因具法筵，集廣眾，預設巍座，俟師至，與眾迫之。師匆遽就席，闡揚奧旨，緣飾以文，音吐鴻亮，聽者驚悅。郡守張公平從師受楞嚴大義，初以僧正命師，又命主禪席，皆力辭弗受。每詣府，手提一笠，又以師為府座所尊，因囑以事，師正色峻拒。府政有不便於民者，委曲以告，守改容聽之。瑞安令呂 公勤邂逅師，喜甚，與俱還邑，築菴於廳治後園，命師居之，為留三宿而去。晚景絕人事，精修淨業，諷誦楞嚴、圓覺、維摩、光明、法華等經，精熟如流。靜夜孤坐，焚香暗誦，琅琅之聲，出於林表。嘗手書法華、光明二經報母德，又書華嚴經八十卷，首末不懈，字法益工。以政和壬辰正月二十日示寂，年五十四，僧臘三十九。闍維得舍利數百顆，明瑩如珠，植塔於故廬之後，以遺骨并舍利葬焉。師於佛學無不通曉，尤深於禪，而接物以教，故以闍黎著名。平生製述甚多，稿隨毀失。圓寂後，弟子收拾遺文，編成二卷，曰潛澗集。人有得其片紙隻字，皆寶藏之，其文翰見重於人如此。(王梅溪十朋之母有娠，產之日，夢師來，惠以金環。夢覺時，傳師適坐化。翌日，梅溪生，人皆謂為師後身，故其為師作銘序有云：師歿之歲，而某始生。師舊書石橋寺碑，梅溪僉判紹興道經寺，寺僧先夢迓嚴闍黎。次日，梅溪至，僧以夢告，有詩云：人喚我為嚴首座，前身曾寫石橋碑。甄龍友和公雙峰詩云：詩老前身法號嚴。正用此事。)

參寥子傳(附定諸)

道潛，字參寥，杭於潛何氏子。幼試法華得度，於書無所弗窺。能文章，尤喜為詩。與秦太虛、蘇長公為方外交，蘇甚重之。以書告文與可，謂其詩句清絕，與林逋相上下，而通了大義，見之令人肅然。蘇謫居齊安，師不遠二千里相訪。留期年，移汝海，同游廬山，復歸於潛山中。及蘇守錢塘，卜 兆山智果精舍，率賓客十六

人，各賦一詩送入院。後南遷，師欲轉海訪之，蘇以書固止之。當路亦捃師詩語，謂有譏刺，得罪返初服。建中靖國初，曾肇在翰院，言其非辜，詔復為僧，賜號妙總大師。崇寧末，歸老於潛山。有參寥子集行世。人謂師之詩雅淡真率，上欲窺陶白，而下有鴈行蘇黃句，即未脫子瞻烟火，雅不樂與宋人同。烟火如參寥，自有為參寥，非第以子瞻重也。斯言得之。

定諸，晉江人，能詩調，清遠無塵俗氣。與曾會諸公游，談者謂諸詩與參寥同調。其題畫水幛云：無波浪處生波浪，愁殺孤飄渡海人。有去華集，大約如此。

宋景濂作育王山寺碑，謂大覺璉日與九峰韶公、佛國白公、參寥潛公講道一室，扁曰蒙堂，叢林取則焉(可入傳記之)。

惠淵首座傳

惠淵首座，向北人。孤硬自立，參晦堂真淨，實有契悟處。泯泯與眾作息，人無知者。洪州奉新慧安院，門臨道左，衲子往還黃龍、泐潭、洞山、黃檗，無不經繇。偶法席久虛，太守移書真淨，命擇人主之。頭首、知事、耆宿輩皆憚其行。師聞之，白真淨曰：惠淵去得否？淨曰：汝去得。遂復書舉師。師得公文，即辭去。時湛堂為座元，問師曰：公去如何住持？師曰：某無福，當與一切人結緣，自負栲栳打街供眾。堂曰：須是老兄始得。作頌餞之。師住慧安，逐日打供。遇暫到，即請歸院中歇泊，曰：容某歸來修供。如此三十年，風雨不易。鼎新刱佛殿、輪藏羅漢堂，凡叢林所宜有者，咸修備焉。黃龍死心禪師訪之，師曰：新長老，汝嘗愛使沒意智一著子該抹人，今夜且留此，待與公理會些細大法門。新憚之，謂侍者曰：這漢真箇會底，不能與他勞牙劈齒得，不若去休。不宿而行。師終於慧安。闍維，六根不壞者三，獲舍利無數，異香滿室，累月不絕。奉新兵火殘破，無子遺，獨慧安諸殿嶷然獨存。豈非願力成就，神物護持耶？

覺心傳(智永、祖紹附)

覺心，字虛靜，嘉州夾江農家子，甚富。少好游獵，一旦縱鷹犬，棄妻子，出家學道，周歷雲水，似有得者。性喜畫，善作草蟲，人稱為心草蟲。游中原，作從犢圖詩，名動一時，諸學士大夫翕然宗之。孔南明、崔德符招致臨汝，住葉縣、東禪及州之天寧、香山三大剎。後因兵亂還蜀，邵澤民、劉中遠兩侍郎善之，請住毗盧陳

澗。上稱之曰：虛靜師所造者，道也。放乎詩，游戲乎畫，如烟雲水月，出沒太虛，所謂風行水上，自成文理者耶！後終於所居。

又有智永、祖紹者，皆以詩畫寓意。永嘗作瀟湘夜雨圖呈邵西山，邵題云：嘗儗扁舟湘水西，蓬牕剪燭數歸期。揮因勝士揮毫處，却憶當年夜雨時。既疑之，問永曰：前輩曾有此詩否？永因誦義山問歸篇，西山矍然，遂為改之。永性孝，宇文季蒙龍圖，以永精禪理，善談論，請其住院。永辭曰：親在，未能也。於是售己所長為親養。祖詩畫俱倣周忘機，而氣韻殊絕。政和間，改僧為德士，詔下，祖歎曰：我生不背佛而從外道耶！取祠部牒焚之，乃冠巾反俗，齋戒以終身。

潛菴源師傳

清源，號潛菴，洪州新建鄧氏子，世力田。幼超卓，短小精悍，去依洪崖法智為童子。年二十一，落髮受具戒。時武泉嘗、寶峰月、雲居舜道價壓叢林，師游三老間，皆蒙器許，而疑終未決。後親見黃龍南公，凡入室，令坐於傍，與雲菴同造積翠，師為侍者。七年，南公歿，隱蹟西山。西山有慧嚴院，僧死，屋無像，設露坐。師見而歎曰：古人斫山開基，致無為有，忍懷不舉哉？乃求居以修完之。不五年，而殿閣崇成，百具鼎新。即棄去，游廬山。南康太守徐公聞師名，延居南山清隱寺。寺在大江之北，面揖廬山。師門風孤峻，學者皆望崖而退。以故單丁住山十有八年，晨香夕燈，升堂說法，如臨千眾。而叢林所服玩者，莫不具，時時鑊地處置。嘗云：先師初事棲賢諶、泐潭澄，更二十年，宗門奇奧，經論要妙，莫不貫穿。及因文悅以見慈明，則一字無用。設三關以驗天下禪者，而禪者如葉公畫龍，龍見即怖眾生，為解礙菩薩，未離覺大智。如文殊師利，欲問空王佛義，即遭擯出。以其墮艱難，故起現行耳。有僧依師住十二年，學令住淨眾寺，辭行，師謂曰：汝雖在此費歲月，實不識吾家事，倘嗣法，當不以世俗欺誑為心。其人乃嗣翠巖機焉。南昌隱君子潘延之與為方外友，迎師歸西山，而州郡文爭命居天寧，衲子方雲趨座下，一時名士摳衣問道。師以目疾隱居龍興寺，房戶外之履亦滿上。藍忠公，法姪也，延師居寺之東堂，事之如其師。師年八十而喪明，學者益親附之，有欲板其語要流通，師投拒曰：若吾語深契佛祖，從今百日間復明，則副汝請。如期果愈。先是覺範洪公證獄太原，拴縛在旅邸，人諱見之，師獨冒雨步至，撫慰為死訣。明年南歸，復見師，師軒渠笑曰：吾不意乃復見子。故覺範序之曰：嗚呼！佛法寖遠，壞衣瓦器之人亦有侈欲，為人師者爭慕華構便軟煖，公獨舉頹壞而新之；爭欲致弟子不

問智愚，欲出門下而公獨精粗之；爭欲坐八達衢頭以自賣其道，而公獨居荒遠以自珍之；爭好勢利惡醜，而公獨犯眾惡自信而力行之。每謂弟子曰：無事外之理，理外之事。觀其措置，豈其真然之者耶？師終時幾百歲也。

空禪師傳

崇覺空禪師，姑孰人也。為人強項，久侍死心。一日辭去，心曰：汝福鮮，宜自養。草堂清公偈送之曰：十年聚首龍峰寺，一悟真空萬境閒。此去隨緣且高隱，莫將名字落人間。後受請出世杭之南蕩，不幾月而一火無遺。因歎息曰：吾違先師之言，故有今日之患。有富人發意營建，欲師一至其家以受供。師辭曰：公施財求福，非長老受賜。若教我背眾而食，素不願也。力行其道，竟不役於土木以終身。師頌野狐話曰：含血噀人，先污其口。百丈野狐，失頭狂走。驀地喚回，打箇筋斗。
補續高僧傳卷第二十三

補續高僧傳卷第二十四

明吳門華山寺沙門　明河　撰

雜科篇

宋　圓覺演公傳

宗演，河北恩州人，姓崔氏，元豐滿禪師弟子，唱雲門之道者也。法貌脩整，持守嚴密。宣和中，徽宗詔入內庭說法，賜紫方袍。當時有大因緣，前後凡住十三院，度弟子一千二百餘人。住永福能仁寺時，先是寺僧有生縛獼猴，以泥裹塑，謂之猴王者。歲月滋久，遂為居民妖祟。遭之者初作大寒熱，漸病狂不食，緣籬升木，自投於地，往往致死，小兒被害尤甚。於是祠者益眾，祭之不痊，則召巫覡，垂夜至寺前，鳴金吹角，目曰取搆。寺眾亦撞鐘擊鼓，與之相應，言助神。日甚月盛，莫或之改。適師移住是寺，聞而歎曰：汝可謂至苦，其殺汝者既受報，而汝淫及乎人，積業轉深，何時可脫？為誦大悲呪資度之。是夜師坐，見婦人人身猴足，血污左腋下，旁一小猴，腰間鐵索縶兩手，抱穉女再拜於前曰：弟子猴王也，久抱沉冤之痛，賴法力得解脫上升，故來致謝。復乞解小猴索，師從之，且說偈曰：猴王久受幽沉苦，法力冥資得上天。須信自心原是佛，靈光洞耀沒中邊。聽偈已，再拜而去。明日啟其堂，施鎖三重，蓋頃年曾為巫者射中左腋，以是嘗深閉。猴負小女如所覩，乃碎之，并部從三十餘軀，亦皆烏鳶鴟梟之類所為也。投之溪流，其怪遂絕。師後歸雪峰終焉。

宋　真寶、慶預傳

真寶，五臺山僧也。學道能外死生。靖康之擾，與其徒習武事於山中。欽宗召對便殿，寶感激還山，益聚眾習武。州不守，敵眾大至，寶悉力拒之，不敵，寺舍焚毀，僧徒逃散。酋下令生致真寶，寶至，抗辭無撓。使郡守劉騆誘勸百方，終不顧，且曰：吾佛制戒吾，既許宋皇帝以死，豈以力屈食吾言也？但速殺我！遂怡然受戮。北人聞者，無不歎異。

慶預，湖南京山胡氏子。問道芙蓉楷公，得要領，住大洪山。靖康盜起，遠近震蕩。預日頤指閒暇，外飭固守，內事靜專，謹禪誦以定眾志。若是者數年，所活萬餘人，士大夫家賴以生者十七八。事稍定，徙水南興國寺。隨守以聞，賜號慧炤。紹興中，下匡阜，入

八閩。愛雪峰深秀，閉關十餘年。將化，別眾書偈曰：末後一句最難明，轉步回頭千萬程。除却我家親的子，更誰敢向裏頭行。擲筆含笑而寂。

宋　老牛智融傳

智融，俗姓邢，初名澄，世居京師，以醫入仕。南渡，居臨安萬松嶺，號草菴邢郎中，官至成和郎。出入禁延，賞賚殊渥。年五十，棄官謝妻子，祝髮入靈隱寺。諸公貴人挽之不可，於以去塵俗弗遠。肆游諸方，徑山匡廬，經行殆遍。聞雪竇之勝，遂投跡為終焉計。深坐一室，土木形骸，泊然如偶人。或曳杖以出，有欲相隨，則謝遣之。山中幽僻勝絕之地，意行獨坐，或至移晷，人莫窺其際。善畫，而絕不以與人。山深多蛇，忽作二奇鬼於壁，一吹火向空，一躍蛇而掣其尾，蛇患遂除。而時有火警，又於火端作土梟之聲，為之革。嘗畫龍首半體，禱旱輒應，頗近靈怪，師亦不以自矜也。或問畫次及人物，師曰：老不復能作，蓋目昏不能下兩筆也。曰：兩筆豈非阿堵中耶？師曰：此雖古語，近之而非也。吾所云兩筆者，蓋欲作人物，須先畫目之上瞼，此兩筆如人意，則餘皆隨筆而成，精神遂足，所以難也。或加以勢利，則避之愈深，意苟相契，亦輒與不吝。樓攻媿求之，久不與，催以古風，有曰：古人惜墨如惜金，老融惜墨如惜命。作詩不多語，字畫亦無俗韻。初自言：若得為僧三十秋，瞑目無言萬事休。紹熙四年五月卒，壽八十，僧臘如師言。尤好作牛，自號老牛智融云。

明河曰：旨哉，融牛之論畫也。吾聞庖丁之言，得養生焉。

宋　淳藏主傳

景淳藏主，撫州化度受業。久參寶峰祥和尚，傑出參徒。其為人瀟洒高尚，備見於自述山居詩。祥見之，諭淳曰：此詩不減灌溪，恐世以伎取子，而道不信於人也。詩凡數十解，今記十章，以備傳云：拙直自知趨世遠，疎愚贏得住山深。現成活計無他物，只有鱗皴杖一尋。屋架數椽臨水石，門通一徑掛藤蘿。自緣此處宜投老，饒得溪雲早晚過。自笑疎狂同拾得，誰知癡鈍若南泉。幾回食飽游山倦，只麼和衣到處眠。瓦鐺爇處清烟靄，鐵磬敲時曉韻寒。一串數珠麤又重，拈來百八不相謾。一瓢顏子非為樂，四壁相如未是高。爭似山家真活計，屋頭松韻響秋濤。數行大字貝多葉，一炷麤香古柏根。石室靜延春晝永，杖鴣啼破落花村。漁父子歌甘露曲，儗寒山詠法燈詩。深雲勿謂無人聽，萬象森羅歷歷知。坐石已知毛

骨冷，漱泉嘗覺齒牙清。箇中有味忘歸念，身世無餘合此情。幽巖靜坐來馴虎，古澗經行自狎鷗。不是忘機能絕念，大都投老得心休。怕寒懶剃鬋鬆髮，愛煖頻添椈柮柴。栗色伽梨撩亂掛，誰能勞苦強安排。其詠閒適情，可謂得之至矣。倘非中有所養，孰能爾耶？惜乎法道不扼，悠悠以終老。卒中祥公之言，虗諸方之望云。

宋　北磵簡禪師傳

居簡，字敬叟，潼川王氏子。資質穎異，初見佛書，必端坐默觀如宿習。依邑之廣福院圖澄得度，參別峰塗毒於徑山，沉默自究。一日，閱萬菴語有省，遽往育王見佛照，機相契。自是往來其門十五年，一時社中耆碩無不忘年與交。走江西，訪諸祖遺蹟。瑩仲溫嘗掌大慧之記，菴於羅湖纂所聞成書，發揮祖道，與師議論，大奇之。以大慧居洋嶼菴竹篦付之，師巽焉。久之，出住台之般若，遷報恩，英衲爭附。鴻儒竹巖錢公、水心葉公，皆折節問道於足下。大參真西山，時為江東部使者。虗東林命之，以疾辭。乃於飛來峰北磵掃一室，居十年，人不敢以字稱，因以北磵稱之。起應雪之鐵佛、西佘，常之顯慶、碧雲，蘇之慧日，湖之道場。奉旨移淨慈，所至道化大行。師出佛炤之門，在諸法彥中為神駒香象，機格超逸，最難攀仰。其頌世尊初生話云：一聲囫地便吒哩，突出如斯大闡提。此土西天起殃害，堂堂洗土不成泥。又頌楞嚴六解一亡云：六用無功信不通，一時分付與春風。篆烟一縷閒清晝，百鳥不來花自紅。闢一室以居，名曰薙室。作賦以自見，其略曰：進則面牆，退則坐井。柱忽不支，壁將就殞。豁然而虗，漠然而冏。如蒙之擊，如震而警。如無盡藏，如大圓鏡。前山送青，若壯士之排闥；後山回闖，擬良工之御駿。撫鴻鵠而晚眺，入冥冥而遠引。笑雲烟之輕去，漫悠悠而無定。駐落日于西崦，延初蟾於東嶺。是皆中所得也。有北磵集十九卷，張公誠子序之曰：讀其文，宗密未知其伯仲；誦其詩，合參寥、覺範為一人，不能當也。北磵於人不苟合，合亦不苟睽，取舍去就之際，潔如也。葉水心詩曰：簡公詩語特驚人，六反掀騰不動身。說與東家小兒女，塗青染綠未禁春。師居天台委羽，有二姓爭竹山，竭產不肯已。仙居丞王君懌請於師，師作種竹賦一首示二姓，而訟遂止。其德音感化如此。靈隱虗席，趙節齋奏師補其處，師笑曰：吾日迫矣。乃舉天童癡絕冲。淳祐丙午春三月二十八日，索紙書偈，於紙尾復書曰：四月一日珍重六字。呼諸徒誡之曰：時不待人，以吾自勵，吾世緣餘兩日耳。至期昧爽索浴，浴罷假寐，然視之已逝矣。壽八十三，臘六十二。葬全身於月堂昌禪師塔側，遵治命也。

鼓山堅、凝二師傳

彌堅，號石室，閩清陳氏子。根性敏利，歷諸蔡席，最後見孤峰秀公，函蓋相合，遂傳東山之衣。

正凝，舒州太湖李氏，與堅同門，並得秀公之道，法林倚以為重。凝儀相豐腴，所至人聚觀之，檀委山積。嘉熙初入閩，閩帥請住鼓嶠，風猷弘振，四眾欽慕若現在。如來信施以巨萬計，悉充嘗住三十餘年，布衣紙衾，終其身不一染捐於世好，則其所存槩可知矣。

咸淳中示寂，闍維數珠不壞，齒牙中舍利如砌。堅則繼凝住持，而清氣逼人，雖福緣少遜於凝，而慧門開受則過之。日衣東山之衣說法，法音遐被，置衣處嘗有光，夜白如晝。有二偷兒入室盜之，為神所縛，臥地視不得起，堅為懺謝，始甦而去。德祐中，朝廷欲南遷，被旨增廣城堞，請堅為東門提督，乃忻然奔命曰：何往而非佛事耶？手版築六十丈，次年告成，遂示寂焉，囑留衣鎮山門。未幾，二王奔廣，軍次山麓，人情洶洶，咸思劫奪，衣時現異，寺賴以全。噫！傳持法人，如來所遣，行如來事，願力弘固，寓之而然，即一色一香，皆能通靈顯妙，況金襴乎？入元，衣尚無恙，至正間忽失所在。

宋　斯受傳

斯受，字用堂，台黃巖楊氏子。年十四，入三童山香積寺，依存方上人為師受具。游歷諸方，咨叩耆宿，得心學要領。自靈隱病歸三童，日行首楞嚴三昧，於不離見聞緣、超然入佛地語致疑，力究無入。忽聞舂碓聲，恍然自省，偈曰：六祖當年不誦經，肩柴放下便傳燈。誰知千載今猶在，秋月長廊搗碓聲。自是行業日進。善書，以黃金為泥，書法華、華嚴、楞嚴、圓覺、般若及方等諸經。又於帛上金書法華塔一座，極其精妙，當時稱希有。將終，坐牀上誦法華經，不輒卷畢而逝。

太癯傳

太癯，蜀僧也。居眾時，嘗歎佛法混濫，異見蠭起，乃曰：我參禪若得真正知見，當不惜口業。遂發願禮馬祖塔，長年不輟。忽一日，塔放白光，感而有悟。後所至蔡林勘驗，老宿過雪竇山前云：這老漢口裏水漉漉地。雪竇聞其語，意似不平。及來見，雪竇云：你不肯老僧耶？師云：這老漢果然口裏水漉漉地。摵一坐具便出。直歲不甘，中路令人毆之，損師一足。師曰：此是雪竇老使之，他

日須折一足償我。後果如其言。師後至都下，放意市肆中。有宮人請歸家供養，師屢告辭，官人確留之，愈加敬禮，每使侍妾饋食。其前一日，官人至，師故意挑其妾，官人以此改禮，遂得辭去。不數日，鬧市中端坐而化。師名太，因頸有癭，故人以太瘤呼之。

宋　有南傳

有南，閩人，性慧達，以詩自娛，世味淡然。游泉之開元、承天，每所過闠闤市易之家，獲息嘗倍，人始異之。至，從市者爭徑，惟恐其不至。至則人爭遺之錢，納諸懷袖中，至數百，則拋撒於地，兒童競取拾，因大笑為樂，以為嘗。江給事某極重之，一日，忽語其徒曰：予翌日當與眾別矣。眾以為戲言。詰旦，果趺坐，奄然而化。或以告給事，給事來訊之，乃於座上微開目睫，呼江君，授以偈曰：東省書問頻續，佛日衣鉢相傳。試問來去何事，一輪江月橫天。舉手而寂。經十載，真身不壞，其徒就身為塔藏之。

宋　自永傳

自永，閩人，結茅麥斜巖，宴坐修靜。忽有龍現木杪，恬然誦經不顧。久之，龍復出山，爪甲著石有聲。永語其徒曰：龍又至矣。視之果然。一日，荷汲而歸，有虎躡其後，就飲其水。永回顧徐云：適從何來？其渴至此。又嘗夜過諸偷者於菴外，笑謂曰：若欲罄我囊橐耶？得升米傾甕與之，曰：愧不腆耳。諸偷謝而去。年八十餘而逝，體不壞，顏色如生。噫，永其有道者，不然何與物相忘至此。登高不慄，入水不驚，萬變陳乎前而莫動，始可與言生死出生死。捨此而云學道，不知其可也。故予深以不能詳永為恨，贅數言以待後賢續之。

宋　法慈

法慈，上虞長慶寺大德也。平日深居簡出，洒掃一室，宴坐其中。庭具花竹泉石，有幽意，士大夫多往游焉。慈頗能棋，又善譚論名理，焚香瀹茗，延納無倦。嘉泰初，忽謝客閉門，雖年高而神觀精爽，略無他故，人初不以為異。會其童行辭往行在所，請給僧牒，慈語之曰：汝去宜速回。久之無耗，日以為問。既還，慈喜曰：得汝歸甚好。時方盛暑，即令左右具湯沐，澡畢，易潔衣端坐，將瞑目就寂。其徒亟呼之云：和尚幸自得恁好，何不留一頌示後？曰：

汝不早道，我今寫不得也，汝代筆則可。乃云：無始劫來不曾生，今日當場又誰滅？又誰滅，萬里炎天覓點雪。語僅脫口而逝。

宋　清音子傳

清音子，不知何許人，自言姓楊名道亨。宋末，引一猱自金陵來淞，處茅椒於府城北。猱大如人，能主給使。清音子夜坐有光，淞人爭飯之，豐薄不謝，第言分定云。由是人益異之，施與日多，因搆菴以居，名曰大古，以延佇四方雲水之客。嘗赤脚行市中，乞齋糧供眾，復自號赤脚道人。久之，有軍士戲烹其猱食之，清音子嗟歎，即與眾訣別，手書一偈云：八十一年饒舌，終日化緣不歇。重陽時節歸家，一路清風明月。遂趺疊而化。

金　大漢僧錄

大漢僧錄，姓聶氏，身長九尺，膂力絕人，削髮從佛，持律誦經，有解性，發言不測，若深有得於中者，且能誦呪驅邪，又名破魔和尚。熙宗聞之，召見賜食，授殿中將軍，固辭曰：臣願始終事佛，不願為官。不拜，命為交城縣僧錄，領袖一方，賜龍鳳山河衣，衣宮中所製，命僧錄披以化人，因又稱大衣禪伯，名振一時，服化者眾。後示寂，闍維有舍利紅光之異，至今交城人能言之，惜無詳可考，致大行寥寥云。

金　洪炤傳

洪照，字玄明，其先華州下邽人。世業耕桑，年十八入道，脩頭陀行，夙夜匪懈，研精修多羅教。落髮後，益勵奮求解脫，受大名憑空禪師印可。雲游河內，得古廢寺基，翠壁斜倚，秀木傍鬱，清泉流其下。照顧瞻喜曰：此正道人安隱處。詢土人，知其為唐覺林禪剎也。照結草廬，被麤茹糲以居之。久之，四眾嚮應，鳩集興工開鑿，得遺碑銅像及然燈淨盞百餘隻。叢席既成，世宗嘉照行，錫圓通禪師之號，賜院額曰香嚴。照行高識遠，超穎辯達。自初從道入法藏，依言而探義，因義而明理，運有為洪濟之慈，入無證真得之妙。弛張用舍，開闔語默，於覺炤中恒得自在，提振宗風，開覺後學。凡祖師之旨在章句者，必引而申之。學人或探其涯涘，或接其波瀾，莫不游焉息焉，隨其分量，俱得受用，故一時佛法以照為司南。居山三十年，未嘗過檀門。日所資用，皆宰官居士領施奉給，樂而不厭，雖金帛填委，而囊無一錢。大定二十六年將逝，沐浴易

衣，問時早晚，對曰：日晡矣。說偈，怡然就寂，春秋七十有二，葬於院西之玉峰。

元　筠高安圓至傳

圓至，字天隱，高安姚氏子。季父勉，父文叔，兄雲，皆中顯科，為宋名臣。師按窺世相，深有所感悟於中。以咸淳甲戌出家，依仰山慧朗禪師欽公脫髮，時年十九。務靜退，寡交識，怡然以道味自尚。喜為文章，志弘護，非衒飾知見以自售也，故其文日益進。其曰：吾聖人自稱文佛，蓋以存其道於無窮，非文莫能。曰經，曰論，皆是物也。惟震旦諸師，欲撫中下之質，乃皆以天縱上智，示為椎朴少文，與愚者同事，乃聖人冥權，非真然也。愚者誘於其迹，直謂聖人道妙，可以鄙俚凡近，躐至薄經論為淺教，斥文字為異端，豈不惑哉！其論吾宗文，獨許嵩明教一人，其融會超了知見，扶宗匡道之心，居然可思矣。至元、元貞間，住建昌能仁寺，說法一稟於欽，不兩年棄去。師行止不恒，所居斯其最久耳。大德二年戊戌，卒於廬山，年四十三。惜無修期，以究其道之所歸，化之所及，為可哀耳。有文集一卷，吳門磧砂魁上人所藏，以示紫陽方虛谷，讀而醉心，敘其首刻焉。

得喜、無照、無碍傳

得喜，錢氏子。童丱時，依興聖權公薙染。及長，慕禪宗，登天目山，叩幻住老人，有契。旋歸里，清信士有以花園地施者，師受而結菴，鑿基得古石，刻錢喜二字，眾異之。菴成，禪錫紛委，幻住為大書喜見二字顏其戶，從是鄉人稱師為喜菩薩。師以學佛須以解脫為心，慈普為行，道風所感，一鉢無盡。四事供眾之外，濟益深廣，衣寒藥病，赴者如歸。生而饑者，養之如人父；死而暴者，葬之如人子。一以誠信真實為之，弗勘也。嘗演法於吳江程林仲家，有神人白帽金甲，合掌聽其後，舉眾見之，凡諸大家禳祈，惟師一至為幸。至順中，移錫盤龍塘，未幾成巨剎。化後，舍利纍纍，火處穿斷，求之皆得，鑑無照，鑑無碍。二公皆嘗事幻住。
無照，南詔人。初習教，辨博英發，每曰：吾聞中國有禪宗，使審是耶，吾將從其學；使或未當，吾將易其宗旨。由其國萬里來，一言而悟徹法源。方圖歸以倡道，而殞於中吳，春秋僅三十有七也。幻住祭而哭之以文曰：謂無照於吾道有所悟兮，真機歷掌，其誰敢欺？謂無照於吾道無所悟兮，大方極目，云胡不迷？笑德山之焚疏鈔兮，何取舍之紛馳？鄙良遂之歸罷講兮，徒此是而彼非。惟吾無

照總不然兮，即名言與實相互融交涉而無虧。出入兩宗大匠之門兮，孰不歎美而稱奇？屈指八載之相從兮，靡有間其毫釐。我閱人之既多兮，求如無照者，非惟今少，於古亦稀。我不哀無炤之亡兮，哀祖道之既隳，而今而後孰與扶顛而持危？對爐熏於今夕兮，與山川草木同懷絕世之悲。讀此文酸鼻，苟其人非真有大過人者，不足致老子惜之至是也。然南詔之有禪宗，實自無炤始。

無礙，永嘉人。參幻住，久之無省。幻住指見龍淵，一日聞蓮香得入，有偈曰：箇中消息本尋常，幾度無端謾度量。今日疑團百雜碎，西風一陣白蓮香。不知其所終。

妙恩傳(附大圭、契祖、杰道者)

妙恩生，倪氏，泉人也。持律精苦，脇不沾席者四十餘年。遍參名宿，旋入雪峰謁湘和尚，蒙印可，聲價日騰起。至元中，僧錄鑑義白行省，請合開元百二十院為一大剎，請師為第一世。師慧解圓融，不以禪廢教，嘗註釋彌勒上生經以見意焉。武林南山羅漢殿災，師夢五百僧求依止。未幾，傳聞至，乃即夢夜也。因建羅漢殿於寺東廂，如數像之恢煥，一倣武林舊時。是以虛空心為福德相，益見其慧門無量也。

其法嗣大圭。頌曰：碧眼龐眉解魘人，容求單位笑欣欣。一朝添五百閒漢，大屋潑天開紫雲。師將示寂，偈曰：不用剃頭，不須澡浴。一堆紅燄，千足萬足。既火，舍利如雨而下。圭亦有行解，博極儒書。嘗曰：不讀東魯論，不知西來意。為文簡嚴古雅，詩尤有風致。自號夢觀道人，著夢觀集及紫雲開士傳，紙貴一時。

契祖同安張氏，生亦師付法子，使嗣位行湘師事者。善說法要，渾然天成，賜號佛心正悟禪師。

有杰道者，清狂無度，恒掃除街市，所至相與譁笑之。所服衣垢甚，忽取澣之，言：明日行矣。至明日，求僧粥，不與。杰曰：求之不再，幸與我得粥。還置几上，危坐而化。祖為舉火曰：一生杰斗，打硬參禪。街頭巷尾，掣風掣顛。若無末上，不值半錢。杰道者，誰信寒灰有煖烟。

元　若芬傳

若芬，字仲石，婺州曹氏子。落髮進具後，歷游講肆，頗得師說。同輩推挽之，欲其弘闡，芬曰：吾不能也。芬為人清退，善文筆。為上竺書記，讚揚佛事，游戲墨花，極一時之譽。又善畫，往往寫雲山以寓意。有求者，初不甚靳，雖寥寥數筆應之，人寶之如連

城。後求者不勝其多，芬笑而謝之曰：錢塘八月潮、西湖雪後諸峰，極天下偉觀。二三子當面蹉過，却求玩道人數點殘墨，何邪？自是謝事歸深山，即古澗蒼壁間結菴，顏曰玉澗，因以為號。又建閣對芙蓉峰，自稱芙蓉峰主。嘗自題畫竹曰：不是老僧親寫，曉來誰報平安？其意趣可想也。如芬者，尚存本色，非盡為末技所掩。視今之圓顱習筆墨，沾沾自喜者，豈啻天淵哉！

月江淨公傳

宗淨，字月江，婺人也，正菴闇公法子。頎身偉貌，德本夙植，覺繇性稟。每以佛乘印參儒典，默而能融，辯而不肆。所著詩文皆有足觀，尤以接物利生為己任。行持無怠，雖小戒律，如踐青折萌、盥手泛席之數，未嘗放心。翰院侍講王公時彥在秘閣纂修，少師姚公實總其事。二公論及東南名僧，而師居其一。總司聞其賢，舉授徑山住持。一時名公鉅卿皆樂然出疏，勸請嚮振山靈。師之住是山也，不大設門逕，不廣聚徒眾，抑渾而務實。嘗示人曰：身是一卷活經，無時不轉；口是兩片死皮，有說便動。真知實謬，不在言也。師之為文字，用濟佛事，過則揮去，如塵垢粃糠，了無留意。至於整頓山門，事無巨細，宜為必行，可以立住，皆決於俄頃，無顧慮徬徨之滯，亦法門英傑也。或贊其像曰：神定氣冲，言雄貌偉。擊拂一下，大海絕流；咳唾一聲，須彌粉碎。衲子師模，佛祖骨髓。夫是之謂正菴和尚之的傳，妙喜七葉之華裔也。後念佛而逝，塔於本山。

元　慧明傳

慧明，蔚州靈丘人。其母夢異人乘白馬素衣，借宿而娠，生異恒。童習詩書，傍通百家之言，棄之。謁海雲簡禪師，言下知歸，海雲美之以頌。還住靈丘曲迴寺。適西京大華嚴虛席，請海雲，海雲舉師為代。華嚴前住者失綱，頹圮荒涼，久不成叢林矣。師御下寬明，持身謹肅，道聲高振。凡殿廊、方丈、厨庫、堂寮、叢席所宜有者，莫不化朽為新，起廢為興，即壞為成。壬子，世祖在潛，享師名德，奉師陞堂說法，錫以徽號。既而遷慶壽，燕京府僚致請。及海雲也，世祖與太子屢臨法筵，出內帑作大施。會師倦於化道，告退曲迴。閒庭淨几，翛然靜適者數年，而華嚴之命復下矣。師賦性淳謹，器宇恬愉，臨事不回，與人謙穆。每陞堂演法，萬指圍繞，師憑陵數言，使聞者人人得意於言象之外，有古尊宿之風。雖日接貴顯，一之以坦，未嘗枉道以從物。以至元七年二月示微恙，

謂門人曰：日色晚矣。索筆書一偈，復云：驀直去。擲筆而臥，若熟睡然，撼之以逝矣。俗壽七十二，坐夏四十五。茶毗，舍利五色燦然。分葬華嚴、曲迴二剎，表之以石。

元　祖英

祖英，號石室，吳江陳氏子。齠年出俗，即策杖游諸方。初從虛谷陵公於仰山，聞徑山晦機道化，亟來投之。一見契合，留掌記室，自是聲聞日新。出世明之隆教、杭之萬壽、明之雪竇育王。會有恙，天童砥平石問之，答以偈曰：是身無我病根深，慚愧文殊遠訪臨。自有巖花譚不二，青燈相對笑吟吟。後造一龕曰木裓，日坐其中，不涉世事。至正癸未三月，見一衰婦人叩頭，請師應身為國王。師曰：吾不願生天王家。逾十七日，趺坐而化。

元　如玉

如玉自匡廬至徑山雙溪，見陸羽泉上山麓森秀，遂結茅息影，持鉢乞食，隨緣化導，自號雙溪布衲。久之，扶策登凌霄，依麓搆室，三年不下山。一日，遙睇吉祥峰五色瑞雲，曰：此中必有靈氣。遂尋至峰陰之坡，建寺成叢林焉。後敕賜大安。一日，妙嵩禪師戲以詩悼之曰：繼祖當吾代，生緣行可規。終身嘗在道，識病懶尋醫。貌古筆難寫，情高世莫知。慈雲布何處，孤月自相宜。師讀畢，舉筆答曰：道契平生更有誰，閒鄉於我最心知。當初未欲成相別，恐誤同參一首詩。投筆坐去。六十年後，塔戶自啟，真容儼然。

元　拗撓傳

拗撓，錢塘人，賣菜傭也。每侵晨，擔菜入市。一日，往太早，暫歸少憩，覺室中有異，潛壁間聽之，乃妻與人私語。人曰：彼較我何如？妻曰：彼拗撓，爾平穩。即吟詩曰：[打-丁+聳]竹烏鴉叫，錢塘門未開。拗撓纔出去，平穩便入來。遂棄家往蕭山越王臺栖焉。從此潛心禪悅，深有契證。後坐脫去，面貌如生，舉身輕輭。每月髮長，姊為剃之。數年，姊曰：我老矣，此後可無長也。又數年，而以泥塑其身，特露其面。好事者每於春時迎像入城，以種因果，至今絡繹云。
補續高僧傳卷第二十四

補續高僧傳卷第二十五

明吳門華山寺沙門　明河　撰

雜科篇

明　玄中猷法師傳

玄中猷法師，別號復闇，杭海昌某氏子。依愚翁長老祝髮，研精教義，更知有宗門向上事。其為文如春花秋月，艷無待飾，清不加寒。筆花之妙，照映今古。假斯文以闡吾道，或以是譽師如受唾。　洪武中，主席於錢唐吳山大乘寺，道風大振。永樂庚子，繼主嘉禾東塔寺。寺為漢朱買臣之故宅，宋孝宗嘗龍游於此。屢經兵燹，殿宇傾廢。若前住山滄海深、雲谷祥諸公，皆志於興復，不果。師至，憮然有感。遂罄衣囊鉢底及鳴合施者，簡材鳩工，薙荊榛，畚瓦礫。始是年，訖於宣德戊申冬。殫精十禩，而百仆俱起。四方緇素，皆視師為景星慶雲。望而歸之者，不可勝計。師煩之，力辭，退居別室。至正統戊午，杭之南山慧因講寺，久虛其席。諸山僉謂慧因冠華嚴之首剎，非碩德不足以當之，唯師其人。辭再四，不克。時慧因亦圮。師至，興廢起弊之功，不減在東塔時。況二山俱華嚴講寺。夫華嚴一宗，始於賢首，成於清涼，定於圭峰，皆盛弘於北。傳至晉水，則入杭矣。杭而宗華嚴，大難為力。師兩興巨剎，一振頹宗。晉水而後，槩不多見。孤力獨運，良可嘉偉。筆其略為傳，以示來者。

南洲溥洽法師傳

師諱溥洽，字南洲，晚號迂叟，又稱一雨翁，姓陸氏。宋寶章閣待制游之後，世居會稽之山陰。祖某，為饒州餘干縣尹。父仁甫，因家焉。母周氏。師生於至正丙戌，自幼闓爽穎異。父教之詩書，悟解日益進。未齠，已志慕出世法。有老長戲之曰：仙人本是山人作。師應聲對曰：鳳鳥終非凡鳥為。眾驚異之。每入招提瞻佛像，輒敬禮膜拜。父母知不可遏，命於郡之普濟寺禮雪庭祥公為師。受具上天竺，謁東明日。公一見器重之，命典賓客。其儀矩從容秩然，蔡林老宿多推服，以為難能。而博究教典，雖寒暑夙夜不懈。已而從具菴玘公於普福，講求旨要。凡諸經籍精粗小大之義，靡不貫串。而旁通儒書，間以餘力為詩文，多有造詣。玘公命首懺事，行三昧法。自是進於止觀明靜之道。　洪武辛亥出世，住孤山瑪瑙

講寺，又住蘇州北禪。學徒雲集，師為開演五時八教如來一代施化之儀。無智愚高下，人人滿所欲而退。一時宗門耆碩如九皐聲公、啟宗佑公，咸共嗟賞，謂吳中法席第一。又六年，至杭之下天竺，乃循慈雲故事，建金光明護國期懺七晝夜，為眾講貫無虛日。　太宗皇帝聞其賢，召為僧錄司右講經。　玉音褒諭，有通東魯書，博西來意之語。居長干西丈室三年，時夢觀主天禧，其徒由高者，夜夢詣師室，及門，有二神人，兜鍪金甲，衛護甚嚴，叱止高曰：寺主在是。既覺，詣師告所夢，且曰：公其代吾師乎？踰月，夢觀卒，有旨命師主天禧。又三年，陞左善世。　太宗皇帝舉靖難師道衍公有輔翼居守功，及即位，　召衍至自北京，　命主教事。師以左善世遜衍，而己居右，　上嘉從之。永樂四年，　詔修天禧寺浮圖，落成之日，　車駕臨幸，　命師慶讚，祥光燁煜，萬眾聚觀，天顏愉懌。時有任覺義者，忌師之寵，搆詞間之，左遷右。覺義疏斥，師不辯，自處裕如。既而　上察其心，復右善世。　仁宗皇帝臨御，以老宿數被　召問，禮遇特厚，　命居慶壽寺松陰精舍以自佚。而　上御便殿，　召師入見，慰勞甚至，遂奏乞還南京大報恩寺以終老，從之。　賜佛像經鈔若干緡，給驛舟，　命中官護逃。既至，明年為宣德元年，七月二十八日，微疾，呼寺之住持惟寔付後事，留偈訣別其徒云：清淨自在住。遂化，春秋八十有一，僧臘六十有九。塔全身於鳳嶺，送者萬餘人。訃聞，　上遣行人王麟蒞祭焉。師歷事列聖，一以至誠，而言動必祇禮度，處物和，馭眾寬，解逅逢掖士，喜商論文事，三四十年間，鉅緇老衲有文聲者，惟師與衍公耳。師所著有金剛注解附錄二卷，應制及與名人唱和詩若干卷。　國家建法會，一切科儀文字，皆師所定，以貽範於後。所度弟子慈霪、圓悟、大霑等若干人，得法弟子圓瀞、鴻義、惠朗等若干人。宣德元年秋，示寂於南京。弟子奉龕建塔於長干西南鳳嶺之陽，復於塔前搆精廬以居。工部右侍郎廬陵周忱為之記曰：公戒行之精，才望之高，既已詳見少傅楊公塔銘矣，今之記似可略也。然予於茲寺之建，獨有感焉。昔者孔子沒，弟子皆冢於墓，服心喪之禮。三年喪畢，治任將歸，入揖於子貢，相嚮而哭，皆失聲。子貢反廬於墓上，又三年而後去。蓋師之與弟子，所以傳其道，授其業，有父子之恩焉。後世此道不明，當其師之生存，反其道，背之而去者有矣，能服乎心喪之禮者，幾何人哉？心喪之禮且不能服，況望其廬墓至於三年六年之久者乎？予聞洽公當永樂間，嘗為同列所間，　太宗皇帝欲試其戒行，繫之於錦衣獄。一時門弟子多雲鳥散去，獨霪公焦心苦骨，從其師於患難，服薪水之勞，未嘗一日去左右。卒使其獲全行業，蒙被　國恩，大昌其教於晚節。觀其盡心所事，不以死生窮達而有所改易，此蓋士大夫之所難能，

而霆公能之。予於是重有感也，是用書以為記，使後之觀於此者，或因霆公而有所激勸焉。

（有言靖難兵起，師為建文君設藥師燈，懺詛　長陵。金川門開，又為建文君削髮。　長陵即位，微聞其事，囚師十餘年。榮國公疾革，　長陵遣人問所欲言，言願釋溥洽，　長陵從之。釋其獄時，白髮長數寸，覆額矣。）

木巖植公傳

木巖植禪師，婺人也。得法於虛谷陵公。三坐道場，皆有語錄。王文忠公禕為之序曰：當宋季年，宗門耆宿相繼淪謝，欽公獨毅然自任，以斯道重得其傳者，是為虛谷陵公。公遭逢聖時，蒙被帝眷，其道尤為光顯。而其上首弟子，則吾木巖植禪師是已。師之入其室也，非唯參決其心要，而且兼傳其文印。故其為道，無所不同於公焉。初，師出世於寧之西峰，既至袁之仰山，而今遷居杭之慧雲。門人集其三會所說日用動作之語，用故事次第而錄之。謂師之道，雖不專任乎言語之間，而因其言語之所及，亦可以知其道之所存也。竊觀師之言，機鋒峻峭，誠足以啟學人之略解。至其敷演之切，告戒之嚴，則所謂教律者，其道亦不外是焉。夫何近時禪學之弊，其徒唯口耳之是務，襲取昔人之言語，迭相師用，誣已而罔人，脫略方便，顛倒真實，而莫之或省。然則於一大事，果何相與乎？學者於師之言語，苟能以筌蹄視之，庶幾目擊而道存矣。陵公與師，皆予同里人。予生也後，不及登公之門，而於師幸有游從之雅。姑述淵源之所自，以序其語錄焉。夫忠文公文章勳業，表率一時，為開國第一流人。即一字一言，將取信天下後世，豈妄許可人者，而獨私鄉曲耶？吾是以知木巖之人之德，定大有可觀，當于忠文。故忠文雖欲避鄉曲，不言木菴，不可得也。惜其行跡泯沒，姑拈序略代小傳，以見木巖云。

曉山亮傳

元亮，字曉山，河南信陽蕭氏子。誕夕，室有光如晝。甫長，茹素誦佛，不為俗營。父携之宦游，棠遂家焉。棠，寶林寺僧。至福，道高一時，師禮而祝髮。福示以禪要，有省，且指參古渝幽谷禪師。纔入室，契如鍼芥，塵勞迸於一見，疑滯銷於片言。　洪武壬子，歸棠，建寶頂，大弘道化。時方選名德高流，有司以師聞，被　詔住報恩，遷大慈。　宸章屢降，有幽蘭久隱棠林下，不覺微香泄九天之句。師力求退院，久之，乃　賜還山。初，蜀藩請師入內庭說法，贈以金襴衣、錫鉢諸物，併　上所錫賚。師受之，存為

十方招提，始終不御也。嘗有示徒頌曰：甕裏何曾走却鱉，蝦跳元來不出斗。出世若無堅固心，六道輪迴空自走。庚辰十月十三日，忽索浴，更衣危坐。時天淨無雲，日輪亭午，但聞轟雷三陣，圓光現於空際，其數如之，遂化去。荼毗，舍利如注。

德昂傳

德昂，別號伏菴，會稽吳守正子也。元季兵起，守正避地石門鎮。苗兵亂，母禹氏投水死。昂年十二，從守正歸越。未幾，守正亦死於兵。昂無所依，去金華山中，削染為僧，修攝精厲，居然耆宿，人望而敬之。及干戈甫定，渡錢塘省親墓，宋學士濂序以送之，稱其至孝有儒行。會修元史，昂入京，以母死事告於史氏，遂得列傳。歸治母墓，榜其居曰白雲先隴鎮，人表為真母軒。昂後不知所終。

形非親不生，性非形莫寄。凡見性明心之士，篤報本反始之誠，外此而求，離道逾遠。昂之見性明心，吾不知何如也。只哀哀一念，至懃至懇，亦足為吾道解嘲。雖大慧禪師為父母立後，亦不過推廣此心，豈有一毫加於昂哉？

天淵濬、季芳聯二公傳

清濬，字天淵，台之黃巖人。具戒游參，見古鼎銘。公有所入，命司內記，說法於四明之萬壽。未幾，棄眾歸隱清雷峰中，薦紳先生挽留不可得。宋公濂作文送之，其略曰：余初未能識天淵，見其所裁輿地圖，縱橫僅尺有咫，而山川州郡彪然在列。余固已奇其為人，而未知其能詩也。已而有傳之者，味冲澹而氣豐腴，得昔人句外之趣。余固已知其能詩，而猶未知其能文也。今年春，偶與天淵會於建業，因相與論文。其辯博而明捷，寶藏啟而琛貝焜煌也，雲漢成章而日星昭煥也。長江萬里，風利水駛，龍驤之舟藉之以馳也。因徵其近製數篇，讀之皆珠圓玉潔，而法度謹嚴。余益奇其為人，傳之禁林。禁林諸公多歎賞之。余竊以為天淵之才，未必下於秘演、浩初。其隱伏東海之濱，而未能大顯者，以世無儀曹與少師也。人恒言文辭之美者蓋鮮。嗚呼！其果鮮乎哉？方今四海混同，文治聿興，將有如二公者出，荷斯文之任。倘見天淵所作，必亟稱之。浩初、秘演，當不專美於前矣。或者則曰：天淵，浮圖氏也。浮圖之法，以天地萬物為幻化，況所謂詩若文乎？是同然矣。一性之中，無一物不該，無一事不統。其大無外，其小無內，誠不可離而為二。苟如所言，則性外有餘物矣。人以天淵為象為龍，此非所

以言之也。天淵將東還，士大夫多留之。留之不得，咏歌以別之。以予與天淵相知尤深也，請序而送之。

道聯，字季芳，鄞人也。幼讀儒書，窮理命之學。長依薦嚴羲公，修沙門行。尋嘗內記於大天界寺，遂嗣法於淨覺禪師。矩度雍容，進退咸有恒則，蓋溫然如玉者也。蔟林之中，咸器重之。或挽其為住持事，則謙然不敢當，且曰：我心學未能盡明也，三乘十二分之說亦未能盡通也。我歸四明山中，求諸己而已矣。宋公亦作序送之。二公皆於道有聞，而退然不居，有高尚之風焉，宜乎見稱於長者也。

示應傳

示應，寶曇其別號也。其先世自汴入吳，宋丞相王文穆公之後，有居吳興者。祖父皆隱德弗耀，唯信慕出世法。母朱氏，奉佛尤謹。一夕，夢僧踵門而娠。既而有僧自天目來，知斷崖禪師謝世，正夢時也。自是人皆謂師為斷崖再世。在襁褓中，遇僧輒喜而笑，解禮佛，疊足而坐。所至緇白景從，莫不皆以和尚稱之。雖老師宿德致敬，坦不為讓。人爭施金帛得之，隨方立僧伽藍，造佛像，餘則給施貧乏。　高皇即位，訪求山林遺逸，及有道行之士。師被徵，應對稱　旨，賜饎慰勞。久之，令居龍河天界寺。　洪武十一年，上以峨眉乃普賢應化之地，久乏唱導之師，曰：無如應者。召見，慰而遣之。居八年，蜀人咸被其化。時諸　藩邸王侯士庶，施者日至。乃於絕頂光相寺，範銅鑄大士像，構重板屋以覆之。二十四年，分僧清理釋教，　上諭僧錄司官寶曇居蜀，人服其化，就委區理，訖事來朝。以次年六月，復命京師，處置如式，深得　上心，天顏大悅。因奏先所居吳門集雲、妙隱、大雲三阿練若，同一根蒂，今離而為三，乞合為一。　上是其言，　敕賜南禪集雲之額，期十月陛辭而還，而疾作矣。以六月初九日，瞑目跏趺而逝。時隆暑，顏色不變，芳香襲人，得壽五十有九，僧臘如之。　上聞，為之傷悼，尋遣官諭祭，飯僧三千員，茶毗會者以萬計。其徒分遺骨歸姑蘇、峨眉，各建塔奉之。信士李正因，親侍日久，凡出處不約而先，至後事尤盡心焉。師平生不作表襮之行，而世共尊之；不為溢美之言，而人益信之。屢營梵剎，不居其功，云之若遺焉。非其了達生死皆如幻夢者，能若是乎？

守仁、德祥二公傳

守仁，字一初，富春妙智寺閣黎也。詩文友德祥，字止菴，仁和人。二公當元末，有志於行道，因時危亂，鬱鬱不自得，遂肆力於詩，並有聲於時。一初嘗云：我輩從事文墨，非以廢道沽名，蓋有不得已也。止菴云：詩豈吾事耶？資黼黻焉耳。觀此可知二公之心矣。一初詩清簡有遠致，楊廉夫極稱賞之。又善書，筆法遒勁。入我　朝，被徵為僧錄右善世。時南粵貢翡翠，一初題詩云：見說炎州進翠衣，網羅一日遍東西。羽毛亦足為身累，那得秋林靜處飛。　太祖見之，怒曰：汝不欲仕我，謂我法網密耶？止菴住徑山，唱道為禪者所宗，風化翕然，亦以西園詩忤　上。二公皆以詩賈禍，幾於不免。然止菴律己甚嚴，臨眾有法，氣象巍然。一初日暮無聊，頗涉不羈，不得蒙法門矣。從是見二公之優劣，故止菴得稍酬初志，而一初則終於不振。至止菴就化，倚座示眾，若無經意，於死生脫然無繫，景光尤可想而見也。

明河曰：非莊老不行，六朝教也。非詩文不大，宋元禪也。去古漸遠，餘波末流，自應至是。然道之真偽，與夫說之是非，吾猶得即其言而觀之。至於今則大不然，椎魯不文之人，胥棒喝為禪，以指經問字為諱，何暇於詩文。輕浮躁進之士，執門戶為教，方入室操戈是圖，何有於莊老。愈趣而愈下，覺六朝宋元間，法道雖變古，猶為可觀。因記二師數語，感時之歎，莫如今也。

雪菴和尚傳

雪菴和尚，名暨，不知其姓。當變時，　文皇入京，和尚方壯年，披剃走西南重慶府之大竹善慶里。山水奇絕，和尚欲止之。其里隱士杜景賢知和尚非嘗人，遂與之游。往來白龍諸山，見山旁松柏灘，灘水清駛，蘿篁森蔚，和尚欲寺焉。景賢豪有力，亟為之寺。和尚率徒數人入居之，听夕誦易乾卦。山中人固謂佛經，景賢知之，不忍問，懼不能安和尚。和尚亦知景賢意，改誦觀音經，寺因名觀音寺。和尚好讀楚辭，時時買一冊，袖之登小舟，急棹進中流，朗誦一葉，輒投一葉於水，投已輒哭，哭已又讀，葉盡乃返，眾莫之知。景賢益憐敬之，終不問和尚。和尚好飲，不戒，日注酒一壺俟客，客至輒飲，不則拉樵牧豎入，飲半酡，呼豎兒和歌，歌竟，瞑焉而寐。和尚頎而秀爽，指柔白翦翦，落筆成章，不甚工，然意氣渙發，又能感愴人。或曰：和尚為建文時御史，死之日，其徒問：師即死，宜銘何許人？和尚張目曰：松陽。問姓名，不答，有詩若干篇。

當雪菴痛哭時，若遇善知識一點，吾見其渙然冰釋矣。用志不分，乃凝於神，回此以學道，何道之不克？故曰：德山、臨濟若不出家學佛，定為曹孟德、孫仲謀無疑。世出世法一揆，惜哉！雪菴之不遇如臨濟、德山者一點化也。

大善國師傳

實哩沙哩卜 得囉，東印土拶葛麻國王之第二子也。父母感奇夢而生，在童真位，聰敏不凡，而百無所欲，唯見佛法僧，則深起敬信。年十六，請命出家，遣禮孤捺囉納麻曷薩彌為師，薙落受具，資受學業，習通五明。闔國臣庶，以師戒行精嚴，智慧明了，尊稱為五明板的達。師足跡周遍五天，從化得度者甚眾。凡過道場塔廟，必躬伸盡敬，至地湧塔，修敬卓錫。而禪塔以久圮，勸國王修治，脫管心木木下紀師名號，眾咸異之。永樂甲午，入中國，謁文皇帝於奉天殿，應對稱　旨，命居海印寺。丁酉，奉　命游清涼山，還都，召見武英殿，天語溫慰，寵賚隆厚，授僧錄闡教，命居能仁寺。歲甲辰，　仁宗昭皇帝舉薦揚大典，師掌行，特授師號圓覺妙應慈慧普濟輔國光範弘教灌頂大善大國師，賜金印寶冠，供具儀仗。乙巳，　宣宗章皇帝舉薦，亦命師掌行。師平生不矜名，不崇利，外示聲聞，內修大行，遇　恩寵而志意愈謙，涉諸緣而戒行彌確。在京師，受度弟子數千輩，各隨器宇誘掖之，漸引次升，不立遏捺難行蹊徑，使人望崖而不敢前。將化，謂弟子不囉加實哩等曰：吾自西天行化至此，今化緣已周，行將逝矣。汝等各當善護如來大法，毋少懈怠。言訖，儼然而寂，實宣德丙午正月十三日也。訃聞，　上悼歎之，命有司具葬儀。闍維，收舍利於香山鄉，塔而藏之，遺命分藏清涼山圓照寺，亦建塔焉。

德琮傳

德琮，姓杜氏，唐拾遺子美之後也。出家崇山，自食其力，水耕火種，兩股皆有日炙痕。博通內外典，素不出山教化，人罕知之。成祖使中官至汴，廉得其名，還奏於朝。適西番進一僧至，言三教九流，無不通徹，堪為中國王者師。　上不悅曰：堂堂天朝，豈無一人可當之。詔徵德琮至，賜金襴袈裟、銀鉢盂。明旦，普召眾僧，各坐高几辯對。其僧談吐出入，九經滔滔如注水。琮訥於應對，眾初疑之。有頃，忽問西僧諦字何義，西信應稍遲。琮乃大聲訓解，鳩大藏，探儒書，歷示以字學之義，曰：此而不知，焉用稱學。西僧羞恚，頂禮歎服辭去。　上喜，召入賜坐，即日授左善

世，為作室雞鳴山，以為修藏之所。年五十七，說偈示寂。　詔起塔於山之陰，賜御祭者三。

息菴觀公傳

慧觀，別號息菴，胡忠簡公銓之後也。依青原虛白鏡公為沙彌。青原深山中，鄉先生陳宗舜時來寓靜，師事之甚謹，日暮受教，繇是博通文學。既長，剃落游方，從名德啟發，沛然有所悟入，拄杖之跡幾遍寰中。居蜀最久，蜀獻王供養之，嘗曰：此真道人也。府寮多老成名士，皆下禮於師。正統改元初，至北京，尊信者合力建一剎於城之東北隅居之，參謁問道者履滿戶外。一日，楊東里造其室，見函香施供相繼踵，因戲之之云：如日中一食，樹下一宿何？師徐曰：學人假是致其誠，吾不可却，公何異焉。及入視之，蕭然無長物，惟忠簡公及楊忠襄、楊文節、胡剛簡四公遺像在焉。東里又云：不猶滯於相乎？師曰：之數公名德相高，皆山川之毓靈，國家之元氣。且胡、楊世好，是四紙吾先人所寶，吾敢忽諸。東里歎曰：師好賢重德如此，豈尋嘗離倫絕類，自詭欺世，以為高者之倫哉。未幾，坐脫去，善信塔而祀之以屋。有語錄一帙，東里為書其首行之。

德然傳(附道安)

德然，號唯菴，華亭張氏子。生具異相，左足下有一痣，口能容拳，舌能舐鼻。七歲誦法華經於杭之天龍寺，慨然有游方之志。初見石屋珙公，後參千巖長禪師，大有契證。珙囑以緣在吳松，為書松隱二字與之。素首座以福薄不可出世為人，爾其步素公之後塵乎？遂歸里，於城南結菴以居，揭珙書為額，足不越閫者數年。嘗劖指血，命高行僧道謙書華嚴經八十一卷。　洪武初，以有道徵。未幾，以病還。嘗曰：學佛法人，無徒恃見地，一知半解，濟得何事？顧力行何如耳。繇是愈益精勵，間亦為韻語，不與人倡和，自適而已。有船居詩十首，清絕可誦。又建七級塔，奉藏血書法寶。二十一年四月十四日辭眾，泊然而逝，塔全身於松。隱菴法子曰道安，矢節礪行，有乃父風，常行般舟三昧。永樂丙申，年七十七化去。遺偈云：不會掘地計天，也解虛空打楔。驚起須彌倒舞，海底蝦蟆吞月。踏翻生死大洋，說甚漚生漚滅。

妙智、明瑄二師傳

妙智，號白猷，浙東楊氏子。孺時哺以葷腥輒吐，自是素食。楊氏固世信佛乘，一日隨父誦法華經，至火宅求解，父異之。十四出家，依靈鷲寺東林長老。林目其穎秀，欲試之。適月出，林出對曰：日暝來看天際月，何患無明。師指佛龕燈，應聲云：燭殘剔起佛前燈，管教續燄。林喜曰：此子再來人也，吾所有不足以待之。因勉令遍參。由是南造雪峰，西抵峨嵋，躡天台鴈宕，叩參諸識，深得言外之旨。嘗歎曰：佛法無深淺，但在力行。苟無得掠虛，雖望隆佛祖，於己何益。後入廬山，於天池舊址葺茅居焉。母陳氏，年七十餘，一日暴卒而甦，語家人曰：昨至一處，見宮室嚴邃，叩其門，門者不許入，指我歸路。仍與偈云：八十四年獅子母，偶因風燭悟無常。好個愚溪勤念佛，天風吹送藕花香。時師在廬山，自號感溪云。後母果八十四歲卒。永樂戊子秋夜，師與靜主數輩向月，忽吟汪鼎新詩：菴無人守庚申夜，池有荷開子午花。眾問何意，笑而不答。浹旬晨起，沐浴端坐，謂眾曰：今日庚午矣。偈曰：內無內，外無外，七十二年，隨方不碍。撇下臭皮袋，良久曰：自在。遂寂。

明瑄，蜀江津人。有戒行，性至孝，嘗夜臥心動，曰：是必吾親之故也。遂夜馳二百里至家，母果病，刲股以進，母尋愈。感異雲：籠室之瑞。里有盜者，夢師領一將軍持斧將斬之，祈哀得免。明日詣師求解，師曰：吾夢亦然，可速悔改，不然禍及無救。後盜迷如故。一日暴疾，連呼瑄師：救我，救我。無幾何死矣。師年八十而化，山下人見五色雲中持錫飄然而去。

啟東白傳

善啟，字東白，曉菴其號，姓楊氏，蘇之長洲人。楊故簪組累世，家吳之支硎山，值兵，徙北郭。父永年，母陸氏。師甫能言，通佛典，父母異之，命入無量壽院，禮永茂為落髮。師既長，屏跡龍山，窮日夜力於經史百氏不輟，聲譽隱然起。少師姚公廣孝、善世洽公南洲，皆器重之，而典記於洽公者甚久。永樂元年，主蘇之永定。六年，主松之延慶。逾年，擢本府副都綱，住南禪寺。尋應召纂修永樂大典，預校大藏經，　賜金縷袈裟一襲。時三殿災，詔求直言，師上疏陳利病，不報。一時名人如沈民望、王希範、王汝玉、陳嗣初、錢溥、趙宗文，皆與師為方外交。嘗遇牡丹盛開，邀集題賞。錢塘瞿宗吉雄於詞賦，師與對壘，常用一韻，往復百首，詞鋒益銳，海內傳焉。此師之緒餘也。正統八年十一月八日卒，距　洪武三年十一月十五日，世壽七十五，僧臘六十，即示寂之歲。弟子等奉柩歸葬於舊隱龍山，遵治命也。錢文通公溥銘其

塔，敘曰：夫以交之深者，知必至也；言之夥者，情必厚也。昔宣德間，大理卿胡公槩巡撫東吳，威聲大振，於師獨加敬禮。時溥方冠，欲應鄉舉謁公，師忽見而喜之，遂入白於公，得預鄉舉。然溥亦始聆論議，察其動止，毅然一儒者。繇是往還[款-士+止]洽，數日不見，必折簡招之。簡類歐語，作字有帖意，見必肅衣焚香啜茗，坐語移時。去則且談且送，或閉戶發篋，出古人真蹟對閱。評品詩文，皆不務蹈襲以為奇。至論儒釋之辯，曰：且各為其教。又曰：東魯垂道，西竺見性，皆莫先於厚本。故雖離父母，養生送死，一務從厚。與兄弟極友愛，撫諸姪教養兼至，交四方宿儒名緇必以誠，未嘗見惰容。然非其人，亦未嘗與交。此韓子謂墨名而儒行者也。溥也荷師期待既久，倘以餘齒無負於斯世，則亦無負於所知矣。

（何氏叢說云：錢文通小時，即有文譽。郡中有一僧，名善啟，號曉菴，有詩名，能書，乃十大高僧之流亞也。永樂中，　召至京師，修大典。後為僧官，住南禪。周文襄公為巡撫，甚重之。每公事稍暇，即徃南禪，與啟公談語。時錢文通為秀才，亦與啟公交欵。一日，學中散堂過謁，啟公以藍衫置欄枸上。繼而文襄適至，屏當不及。文襄問之，啟公因稱文通之才。文襄即請相見，索其舊作觀之，大加賞識，遂為相知。〇何氏言：巡撫是周，錢自云是胡。當是兩時，胡前而周後。）

啟原傳

啟原姓張氏，太初其字，日本人也。九歲祝髮，習教乘，精戒律，喜觀中國文字，能指斥利病。又心慕中國名山禪老之盛，觀光之志益決。以吳元年航海而來，足跡幾遍寰宇。叩諸禪，蒙印可。　洪武丙寅，入安固梅公洞，見四山環翠，兩石相沓，中虛若禪龕相對。悵然曰：禪客相逢只彈指，此心能有幾人知？此地可息，吾足矣。是山久為虎蟒之窟，樵斧不入，荊棘彌天。自師居之，諸孽屏息。山下居民時見峰頂有光，稍來親近。不數年，遂成叢席。聞風訪道者，嘗數百人。永樂丙戌，立生塔於院南，以為退修待寂之所。曰：吾老矣，自為之，無累後人。明年三月一日清晨，禮佛畢，入塔端坐。眾奔視，已逝矣。宣德間開塔，見頭髮披垂，指甲曲繞，聞風雷震，仍閉之。師有語錄三卷，會通儒釋，言道無滯也。

復見心傳（如筏）

來復，字見心，豫章豐城王氏子。以日南至生，故取易卦語識之。有志行清淨行，欲絕塵獨立，遂歸釋氏。與同袍恭肅翁誓屏諸緣，直明涅槃妙旨。久之，窺見全體無礙，然未以為至。走雙徑，謁南楚悅禪師，自陳厥故。當機交觸，如鶻落兔走，不間一髮。悅深然之，留司內記。越三載，復約標士瞻修西方淨土於吳天平山，刻期破障，比禪觀尤力。浙省右丞相達公九成慕師精進，起住蘇之虎丘，辭不赴。會兵起，避地會稽山中。慈溪與會稽鄰壤，中有定水院，直東海之濱，幽閒遼夐，可以縛禪。復延師出主之，師為起其廢。禪門典禮，依次舉行。瓶錫翩翩來萃，乞食養之，共激揚第一義諦。尋以干戈載途，不能見母。作室寺東澗，取陳尊宿故事，名為蒲菴，示思親也。自時厥後，鄞人士請師居天寧寺。時寺為戍軍營，子女[狂-王+(廿/(土*自*土)/夕)]雜，其褻樓尤甚。師言於帥閫，移其屯，斥羣奴汛掃建治，其弊壞一還舊貫。師望日以重，大夫士交疏勸主杭之靈隱。適有　詔徵高行僧，師兩至南京，　賜食內廷，慰勞優渥。洎建普薦，會師奉　勑陞座說法，辭意剴切，聞者咸有警云。師敏朗淵毅，非惟克修內學，形於詩文，氣魄雄而辭調古，有識之儒多自以為不及。其推師者，李諭德好文則曰：任道德為住持，假文字為游戲。陳狀元祖仁則曰：禪源妙悟，教部精探，內充外肆，僧中指南。至於楚國歐陽文公玄、潞國張公翥，見諸觚翰間者，獎予為尤至。學士宋公濂至稱其文如木難珊瑚之貴，公卿大夫交譽其賢。　皇上詔侍臣取而覽之，褒美弗置。當今方袍之士與逢掖之流，鮮有過之者焉。　洪武二十四年，遂罹於難。噫！是亦數也已。(時山西太原捕得胡黨僧智聰，供稱胡惟庸謀舉事時，隨泐季潭、復見心等往來胡府。二公繇是得罪，泐責服役造寺，師遂不免焉。)師在定水時，手度弟子曰如筏者，戒行端謹，通內外典，善書能吟，雅為緇林白眉。永樂中，兩膺　召命，嘗住奉化之嶽林及撫州之翠雲，有翠雲稿。年八十五，歸永明終焉。

如[丞/巴]傳

如[丞/巴]，號蓯菴，嘉禾姜氏子。母殷氏，感吉夢而娠。師生而秀異，不樂處俗，依真如衡宗繼公為師。繼故義苑白眉師，深造堂奧，徐知文字非究竟法。以景泰庚午至杭，參空谷隆公於修吉山，問露柱因緣。谷良久曰：此是說不得底，自會去。久之，谷亡。自惟失怙，始專心淨土法門，自利利人，一歸乎是。以至勸人念佛，數以米一粒一聲，積二百斛，炊飯以供眾，散施佛圖若干萬，如此多歷年所。師嘗以五燈會元篇帙浩重，未攝略機，遂銳意抄簡以為務，使攬要知歸，不在繁文也。書成，目曰禪宗正脉，學者便之。

閱覽之次，至杜鴻漸謁無住禪師庭樹鵓鳴處，似有省，曰：果然是說不得底。師素有琢磨靜行，無浮濫之習，雖年老而進道益力，不以略有所見便自休歇。道無盡，吾不可有盡求也。晚年罄衣鉢，刻緇門警訓，與年相若者共之，意可見矣。後終於本山。

天印持公傳

能持，閩之延平人。出家於天寧光孝寺，習經目過成誦。天寧非禪者居，所事闢茸，師棄去，而游方殆遍名山，親近諸名宿。後於海舟慈公言下有省，無出世意。尋歸故里，結松關自休，造進日深，人無從津測。後學眾四集，師亦不能終靳其說。小師隨說而錄，目曰天印語錄。天印，師號也。又有徹空內集、洞雲外集，皆直透玄微，不露蹊徑。人謂師善為鳴道，師如不聞。年八十一，集眾告寂，曰：父子上山，各自努力，箇事如何？天雨地濕，且云：吾死且無葬，三年後某日，有大星自東過西，葬吾時也。既寂，徒眾安其蛻，草堂竹轎中，矻坐如生人，雖盛夏，蠅蚋不侵，無穢氣。至其時，眾曰：曩所言，幻語也。言未畢，有星大如斗，從東入西，聲轟然而沒。眾大驚，遂葬之，署曰天印禪師。

了用、德潮、無礙三師傳

了用，號雪機，姓張，遂寧人。初為應教，偶出遇天淵和尚，謂之曰：觀子氣韻堪出家。師曰：吾猶為俗人耶？淵曰：行俗事，為俗人，詎在髮之有無？遂感悟，棄所業一衲，從淵學禪。久之，有得人欲挽師出世，師搖手曰：不入這[衲-由+呆]社。因結菴而隱，賦詩云：傍樹修菴倚翠岑，烟霞繚繞白雲深。愚癡祇合栖泉壑，潦倒何妨論古今。怪石溪邊塗去跡，浮嵐岩下絕來音。太平世界元無事，空自勞勞向外尋。七十二歲卒於山菴。

德潮，號普光，姓陳。其先浙人，　國初從父廉宦游，遂家於蜀。師生多異徵，出俗從珠玉山無際禪師游三年，得際首一肯。乃入永興山，卓菴居靜，草衣木食，造詣難量。山高峻，苦無水。師入定，覺石中泠泠聲，隨以杖點之，泉湧出，今耳泉是也。且預知未來事，奇蹟頗多。師固自秘之，人不得而傳。八十九而寂。

無礙，信陽人。有至行，持一鉢入南岳天柱峰獅子崖。崖中僅容木榻，無礙坐木榻，啖野菜，不穀食者七年。邑人聞而造焉，見之為之吐舌。乃謀所居，共力新南臺寺以處之。弘治間，太崖李公游衡山，所稱有僧崖居，食生菜，衣百結如粟穗，見人嘿嘿者，即無礙也。野雲孤鶴，飄飄然無與於斯世，一時名公多重之。瘳道南太守

喬瑛、御史劉暘等諸公，皆有詩贈脊梁直，脚跟穩。三師高風，居然可想而見也。

宗林傳(附智淳)

宗林，字大風，朽菴其號，杭人也。幼孤，母憂其不能自立，捨送普寧菴，事某師為童子，誦經執務，能得師歡心。及長，精戒行，起息必慎，不妄與人交，交必以道。能詩文，不漫作，作必驚人。性至孝，雖出家，孜孜以母為念，曰：戒不忘親也。自是流譽，遂達　宸聽。弘治中，被徵入京，　命為登壇大戒主，為學佛者師。又　敕提督五臺山，校正清涼通傳入藏。正德改元，　賜紫衣玉帶大宗師之號，西直門外大香山寺立宗師府居之。雖際榮盛，處之若無，淡如也。有詩云：天命傳來墨未乾，櫛風沐雨上長安。低頭嬾進三公位，洗足羞登萬壽壇。聞戒故多持戒少，承　恩雖易報　恩難。何如只向山中住，松竹蕭蕭共歲寒。師倦於津梁，　奏乞南還，得請，喜而有詩云：再拜下　丹宸，衣香　御路新。九門三月雨，千里一歸人。馬踏殘花路，鶯啼細柳春。因思頭白母，心火熱如焚。二詩可以想見林為人矣。

前是，杭有智淳者，亦以戒行著聲。嘗於靈芝寺說戒，受從頗眾。正統間，被徵為登壇大宗師。至景泰六年，沐浴坐化。　上遣禮部趙勗　諭祭。碑石現存靈芝寺中。

補續高僧傳卷第二十五

補續高僧傳卷第二十六

明吳門華山寺沙門　明河　撰

雜科篇

明　德山傳

德山，寧波人。少航海，為捕者所誣，以盜繫獄者十七年，得白，遂為僧。遇天眼師授法，頗有得。為雲水游，至毗陵城南龍舌尖止焉。日以飯僧修福為事，孳孳無倦。自練甚苦，日惟一飡，唯食糠粃。冬夏唯服獄中衣，破則補綴，不更易也。然精神煥發，機鋒敏捷。唐中丞順之重之，交契甚密。每云：滾湯鍋裏撈明月，百尺竿頭打筋斗。唐稱歎之。嘗範銅為佛，送普陀山。又於山造無梁殿，未成而化去。弟子龕葬於寺中，因貌奇古，人呼為喇麻僧云。

大安傳

大安，襄陽郝氏子也。幼禮古宗禪伯，祝髮於梅林。古宗知其具宿智，遣之就古巖參學。二古同出天奇之門，而巖為上首。居終南山，龍象景附。師至，一語投機，輒授衣鉢禪。栖廬岳三十年，楚人嚴事之。新都汪公伯玉嘗從師質疑，多有開發。嘗謂：聞大安和尚所云見性，冥合孔子所謂體仁，非惟世儒未之或知，雖大安亦不自知也。葢師嘗與汪論見性也。某年五月朏，示寂。先是，預示諸弟子以行期：若等無以衰麻哭泣為喪，毋背吾家法。諸弟子問故，則以一偈示之。既及期，沐浴端坐，諸弟子請遺令，則又以一偈示之。距生丁卯，行年七十有三。弟子就故廬傍築浮屠，以藏舍利。

大闡禪師傳

大闡者，東和名家子。明達物理，早悟空花。依玉溪和尚祝髮，力究出世之道。禪林講席，靡弗參叩。無所入，遂創菴於巖頭。楗關十年，於指胸點額之際，忽然摸著，快癢不可言。直造和之天界岑中和尚處，求決擇，相見一笑而已。於是朝參夕見，機緣有契，弦筈相含。既蒙印記，挈杖出閩關，履浙過淮，多逢哲匠。至金臺，憩大寶禪寺，道風翕然。司禮黃、高二公聞師名，袖香見之，言機期合，恨參承之晚，欲聞於　上，師固辭乃已。自是問謁者踵接戶外，師隨緣開示，務使人人發心歡喜而去，則吾說為不徒。日復一

日，頗覺煩撓。一日，偶閱歸去來詞，憮然曰：陶淵明不以五斗米折腰棄官而去，沙門釋子反以一鉢飯繫足息影地。蒲團大一塊耳，得青山幾何？以成化戊戌八月飄然南還。次年，寓金陵報恩，寄書謝二司禮，司禮歎之而已。後邵郡清信士創寺，延師居之。二十餘年，清遠之風從化者眾。於辛酉春二月十七日斂衣而化。其徒淨淵集其機緣語句為上下卷梓行。師喜作山居詩，唱道鳴懷，悠然可誦。過金山有句：月現潛龍影，雲籠老鶴聲。尤見禪意云。

宗道者傳

宗道者，觀城人，人以悟空呼之。土木形骸，不識一字，僅能口誦金剛心經，而淳謹敦信，其中莫能測也。事鐵佛元明上人為弟子，供薪水之役，惟誦金剛心經，琅琅不輟。二十六七，別元明游方，遍歷晉、宋、荊、楚、關、陝、河、洛之間，尋師擇友，汲汲如渴。中止考城，一住十年。正德辛未，有流寇之變，南北騷然。道者還里，居圓覺寺。既而寓依城北馬氏，又徙張太常南園。不住則已，住必十餘年始行，人敬之如佛。在張園時，年已一百有八歲矣。其健旺異常，望之如古松怪石。行止不携杖，耳目聰明如少壯人。初騃鈍，後頗諳事了了。居恒無所為，唯冥然兀坐而已。有叩以所養者，無一言相證，但道不知有人欲事。或譏之曰：此渴睡僧，何足重？北山野史解嘲曰：冥然兀坐，不知人欲，此外更有何法門也？後不知所終。

枯木倚寒巖，三冬無煖氣，信是死漢機軸。若遇明眼，定遭擯出燒菴。大都道在用處，用處在死處。今之學道者，曾不求死，何處有活？必至自誑自誤。若遇明眼，又不知作何遣發？然則死漢亦大費一番工夫，但心光不發，受人簡點，須是婁兒，始能勘驗爾我，抹殺他不得。

了然關主傳

能弘，號了然關主，以生平多病，所至輒掩關，故得是稱，實密藏開公之落髮師也。師雅與紫柏尊者善，開公以師故，得事紫柏尊者。萬曆癸未，師掩關東塔，紫柏時栖止焉，相與體究向上事，開發良久。無何，紫柏北行，師命開公追隨焉，囑曰：善事此翁，倘得囚地一聲，幸相聞以為吾門慶。會楞嚴新復，迎師關於東靜室，紫柏故居也。師體貌清羸，神氣和粹，最喜誘接人。少年研精教義，久之棄去，參雲谷和尚，看無字話，間有發明而不自肯，然從此教義益徹。每拈經論旨趣示人，直截明快，聞者無不擊節。其後

理會德山托鉢因緣，紫柏示以偈曰：托鉢因緣不甚難，耳邊密啟即幽關。師疑益甚。至是，開公禁足臺山龍翻石，一夕夢五齒落掌上，血跡宛然。閱數日，得師書，備相誨切，中及前話，通所得，且請紫柏印訣。開公以師所見，頭過尾不過，不相肯也。報書既達，師遂遷化。開公聞訃於東昌，時紫柏結夏靈巖，夢雙幢一倒於南、一倒於北。次日，開公至，以師訃及臺山無邊老宿之訃告。師之化也，合掌呼達，觀師垂光攝我至於二四，無邊亦然。一念感通，萬里不隔，水月交光，針石相引，寧為異哉？師姓某氏，嘉興王店人，生嘉靖癸卯，化萬曆戊子，世壽四十六，僧臘三十。晚蒙　聖母千佛袈裟之賜，開公奉靈骨塔楞嚴方丈，後

逆川禪師傳（附慧心）

智順，字逆川，永嘉陳氏子。其母奉佛甚謹，夢一僧佩圓光如滿月形，泝江流而上，謂：吾當為爾子。寤而有娠。既生，美質夙成。自少不喜畜髮，隨長隨剪。父母了其宿，因聽出家，受具戒於天寧院。誦法華經，與按句以講，深得經旨。既而曰：學尚多聞，焉了生死？遂更衣入禪，走閩之天寶山，參銕關樞公，欲依公而住。公叱曰：丈夫於世，不於大叢林與人相頡頏，局此蠢殼中耶？拂袖而入。師下旦過寮，潸然而泣。公聞之，歡曰：吾知其為法器，姑相試耳。乃延入僧堂中。師壁立萬仞，無所回撓，雖晝夜明暗亦不能辯。踰月，因如廁，旋覩中園瓠瓜觸發妙機，四體輕清，知新浴出室，一一毛孔皆出光明，目前大地倏爾平沉，喜幸之極，亟上方丈求證。適公入府城，師不往見，水濵林下放曠自如。已而歷抵諸師，皆不合。又謁千巖長禪師，見其所應酬者皆涉理路，飄然東歸。然指作發願文，必欲見道乃已。復自念非公不足依，洊走閩中見焉。值公出游，遙見師，喜曰：吾子今來也。勉師棄前解，務寔參。厲精五月而大悟，公始與印可，令掌藏室，尋命分座說法。及公去世，師嗣主院事。師握祖佛心印，既已升座說法度人，而往往出餘力莊嚴塔廟，使人為遠罪遷善之歸。浙福二地，師所興建大道場凡十餘處，其餘葺宗補舊，葢不可枚舉。師有才，為一事則揮金如土，竟不知其所從來。其為溫城淨光塔也，方參政初甞戍其地，欲賦民錢葺之，命師蒞其事。師曰：民力凋弊，火燄炎炎，而復加薪，吾安忍為之？必欲見用，官中勿擾吾事，若無所聞之可也。方諾之。師乃定計，城中之戶餘二萬戶，捐米月一升，月獲米二百石。陶甓掄材，若神運鬼輸，紛然四集。鎮心之木以尺計者，其長一百五十，最難致之。師談笑趣辦七成，既粗完，其下仍築塔殿，宏敞壯麗，九斗之勢益雄。一旦颶風作，其上一成挾之以入海濤，

眾咸傷之。師曰：塔終不可以就乎？持心益固。遣其徒如閩，鑄露盤輪相及燄珠之類。未幾，一一就緒，金碧鮮明，猶天降而地湧。辨章。燕只不花鎮閩，欲閱大藏尊經於家，或以几席什器難具為辭。師令浮屠一百七十人為什，分辦於各剎，表以題號，一時畢集。仍畫為圖，使按圖序次列之。給役於飲饌間者，亦更番而進。每以鐘鼓為節，後先不紊。辨章悅曰：使吾師總戎，則無敗北之患矣。時東海有警，元帥達忠介公帥師鎮台，遣使聘師入行府。師以達公方有事干戈，絕之弗見。達公慕咏弗置，篆逆川二字遺之。師因飯囚，戒其勿萌遁逃心，即重見日月。不久而赦書至，周、吳二囚以師為神。其後山寇竊發，所經之處焚毀欲盡，歸原、報恩二剎以師故獨存。　朝廷為降院額，　賜師號佛性圓辯及金襴法衣。師曾不以為悅，悉散其衣盂所畜。退居一室，掘地為爐，折竹為箸，意淡如也。後與鐘山之選，　大駕臨幸，慰問備至。竣事，還錢塘。清遠渭公方主淨慈，舉師以為代。淨慈當兵後，凋落殊甚。師召匠計傭，竭其筐篋，欲大有設施。而諸僧負官逋者係累滿庭，師為之出涕，悉代償之。會　中朝徵有道浮屠以備顧問，眾咸推師。師至南京僅四閱月，沐浴書偈而逝。闍維，於聚寶山獲舍利無算。師有五會語及善財五十三參偈，皆傳於世。
慧心者，嘗問道於師，後亦就徵入文淵閣，與修　大典。歿後茶毗，亦得五色舍利無數。心號鑑空，出樂清方氏。

吉祥師傳

吉祥，姓周氏，　孝肅皇后弟也。為兒時，好出游。嘗出，不復歸家，家亦不知其所在。　后自未入宮，師已與其家不相聞矣。久之，祝髮於大覺寺。然嘗游行市中，夜即來報國寺伽藍殿中宿，后意亦若忘之。忽夜夢伽藍神來言：　后弟今在我所。　英廟亦同時夢，言相符。詰旦，遣小黃門如所夢求之。至寺，見師在伽藍殿中，遂擁以行。引見，問所以出游及為僧時，　帝　后皆泣下，因曰：何如今日為　皇親耶？師搖首，不願復還寺。　后不能奪，厚賜之。　英廟晏駕，　后為太后出內藏，建大慈仁寺居之。　孝宗時，　太后為太皇太后，為立護　敕碑，碑載　賜田無慮數百頃。師以左善世示滅，　帝遣官致祭。師住寺，眾嘗數百人，禪誦濟濟。迨後慶壽寺燬，僧亦來居於此，新舊眾皆仰食　賜田，二時無闕。言者謂師脫屣　皇舅之貴，而樂世外之閒。方　孝肅在慈宮，　二聖隆孝養，　恩賜何所不至，而師澹寂自若。　英廟以來，外戚　恩澤侯者不能數世，師之　賜莊猶存，衣食寺中數百人。此有以見一時富貴之不能久，夜澹寂者之長存也。

滿起、真參傳

滿起，時稱白雲上人。安州牛氏子，落髮於永安寺。正德間，南游伏牛諸山，遇西宗和尚，授以禪旨。隱界嶺禪林，用全護珠之志。又入伏牛之茅坪，方來四集，師捨之去。游五臺，入　神京，居天慶寺。中貴姜、賈二君為供養主。師嚴戒律，苦修持，喜營福業。印造龍藏十三部，安置名山大剎。其餘飯僧造像，隨緣之舉，繫其小者耳。一日，謂其屬曰：吾有命，債欲還，須靜攝數日。今閉戶，非呼喚切勿入。眾從隙中窺之，見師面裏臥，背上肉紫黑色，墳起甚鉅，經七日始消。師興，召眾入曰：吾適還，命已畢，今無苦矣。師有眾緣，凡所寓歷，從徒嘗至五百。京城內外，爭趨供奉。祇園物色，日甚絢灼。因喟然歎曰：　輦轂之下，固宜若此乎！遂挈鉢返伏牛，謝絕人事，不復出山。嘉靖壬戌九月，坐脫。真參，號無為，楚之江陵人，姓劉氏。幼聰慧，樂善好施，與物無忤。攻舉子業，蜚聲文林。經史之暇，喜談佛書。後遇老衲，奇之曰：子真大乘法器，世途軒冕，一夢幻耳。於是幡然改悟。甫弱冠，辭親出家。父母欲奪其志，弗得。乃詣玉泉山，師事無邊長老，祝髮受具，矢心究道。前後凡三然指，誓信不退。久而有入，所至道俗歸之。後游京師，四眾斯觀音寺奉師居之，道聲翕然。內庭聞之，頒賜齋供無虛日。後以厭煩歸隱，伏牛將化，謂弟子：塵世真夢境，吾將行矣。汝曹勉力，無於袈裟下墮落也。言訖而逝。陝西觀察使王元春為撰其行，立石焉。

忠敬堂傳

法忠，號敬堂，新安曹氏子。齠年喜端坐。年十九，游錢塘靈隱寺，遇雲水僧激發，遂落髮受具，依講庠數年。行脚入少林，見大千潤公。走長安，參遍融、笑巖二老，指示心要，稍有啟悟。尋入牛山火場，調鍊三業。後歸匡廬，愛仰天坪高勝，單丁居之，手植松十餘萬本。久之，衲子來集仰天坪，遂成叢林。師為人夷坦無緣飾，御眾不立規矩，甘苦必同，雖粒米莖菜，必隨眾乃食，勞務必身先之。不開禪講門戶，一以真實示人，依之者無論愚智，浸久嘿化而不自知，故來者如歸家侍父母也。且訓人有方，用人有度，出語慨切痛至，聽者悚然，無不心領而神會。一眾森嚴，儼然一大爐鞴，以身為教，不用言說，真本色住山人也。劉雲嶠太史訪師，一見心契，乃為顏其寺曰雲中，憨老人為之記。張洪陽太史書廬山高三字贈之，旌其志。庚申秋，示微疾，謂其徒曰：吾見紅日當空，金蓮遍地，吾其行矣。言訖，寂然而逝。憨老人復為銘其塔曰：師

住雲中二十餘年如一日，視十方衲子如一己，精心為眾，未嘗以無有異志物我介懷。數語蓋實錄，師當之無媿也。

明龍傳

明龍，淮南宿遷姚氏子，俗名東陽，嘗為其縣諸生。居嘗好修，歷二十年所，不問家人生業，雅從善知識游。隆慶改元，落髮居羊山秀峰菴，名德日起。即　諸陵中貴人多檀施，師藍縷自如，一衲不啻懸鶉，不褫不襦不履。顧就羊山安七十二眾，為千日期場。師日為大眾說經，大眾亦樂為之聽眾也。時　神宗皇帝初即位，行邊使道昆汪公道出　諸陵，詣師問道，意獨多之。因問曰：千日期畢，羊山能作嘗住乎？師曰：無嘗無住。後旬有五日，太史當謁立冬，其日羊山放光。又越七日，歲將除，師集大眾語曰：元年元日吾當行，公等居此，識字者用心念佛，不識字者用心念佛，務智慧、務普心，即此是佛，公等勉之。歲除，夜既半，命弟子視中星，曰：夜午乎？曰：午矣。師曰：未也。日午乃行。元日，日幾中，羊山放光如嚮者，頃之坐化，葢日中云。越七日，舉焚，日中復放光如嚮者。　諸陵中貴人咸在，率大眾羅拜，治浮屠藏舍利。

南嶽豆兒佛傳

法祥，字瑞光，越州嵊縣周氏子，有出世志。隨季父宦游入京，見笑巖於柳巷。巖觀其根，示以念佛法門，師頷之。居頃南還，棄妻子，薙髮入棲霞，謁素菴法師。雖居講肆，而念佛無間。又參遍融，融所示與笑巖同。繇五臺入伏牛，契機於柏松和尚，留住石室中，弔影木食者三年。一日趺坐，雪積滿林，火絕衣濕。松往視，擊磬出其定，因示之曰：輕安小寂，非是歇場。若躭着此境，即墮偏空。且行脚去，逢南即止矣。遂飄然而行，遍歷楚蜀之境，鏟落知見，獨存孤明。後遊南嶽，忽憶柏松別時之語，有終焉之志。適僧以側刀峰靜室相讓，自是放下身心，一志念佛，募豆四十八石。一豆一佛，淨念相繼，以至終身，不知其過幾四十八石矣。繇是諸方稱為豆兒佛云。十方衲子爭歸之，側刀峰遂成海內名叢席。居恒誡諸弟子曰：汝剃除鬚髮，不知有生死事大。但倚牆靠壁，業識茫茫，喚作甚麼？豈非吾佛所呵？衲衣在空閒，假名阿練。若不專心淨業，大限到來，將何抵對閻老子乎？聞者無不感泣。師雖絕意人世，而當世諸君子聞其風者，莫不景仰。如方伯劉公、直指史公、學憲伍公、儀部曾公、冏卿蔡公、少保郭公、大行宋公，皆傾心皈向，就師問道。招致之，則不往也。郡丞盧公祀廟，點失期者，罰

米三十餘石送師。師曰：老僧豈以一鉢飯斂眾怨耶？竟不受。聞者歎服。師接納往來，不擇臧否，一味平等慈悲。荊襄大盜賈二、唐九等七人捕急，投師求活。師憐其誠，納之，冠以道巾，令隨眾作務。及捕官至，雖識其為盜，第見師慈心藹然，又聞念佛感動，乃解腰纏三金，設供而去。其盜亦化為苦行僧。師住側刀峰三十餘年，不發化主，不結外援，不設方丈，不用侍者，一龕於佛殿左，危坐念佛。其中不安庫房，笥無長物。滅之日，簡之，惟胡椒一餅、舊布數片而已。嘗以糠餅充飡，或有投之地者，師拾取煨而啖之。行必荷鋤，見遺穢必以土掩之。將化，命首座領眾念佛，趺坐誡眾曰：無得虛張揑怪，誑惑世人，獨一味老實念佛。言訖，合掌而逝。時萬曆庚戌二月六日也。閱世七十有九，僧臘四十有三。停龕七日，顏色不變。弟子奉全身塔於峰之右。

三藏師傳

本融，陝西鄜縣人。薙染，參懷慶松谷和尚，又參隱菴於大佛山。大千主少林，師預其眾，一鉢隨身，不擾嘗住。千異之，付以帕，不受。住達磨洞四十餘年。萬曆丁亥，抵京師，住龍華寺，山門風雨，炎寒自若。又居積善寺，廊房長老見師勤苦，蚤夜不息，特為造一龕，請居之。繼開十方院，奉師接雲水。凡十有三年，信施雲委，而因果之間，毫無差錯。最後住世剎海，隨緣接眾，持妙法華經為嘗課，密行甚至。生平脇不至席，食不過午，不飯於嘗住。持鉢行乞村市間，如已得食，則鉢內向；未得食，鉢外向。人以是覘知師食否而分衛之。每飯食訖，即嚼楊枝，掩關趺坐。或未受齋，亦從汲處乞一杯滌齒。入戶坐，必不破午食。檀越或設供施金，必一眾均被乃許，否即堅拒弗受。人請誦經，師曰：吾堂中大德，不諳諷誦。有就寺飯僧者，付貲過，即日營辦米鹽蔬果。設不移時作務，以身先眾。食飲旨菲，隨其所有，不強為。生平絕不以修造煩人，曰：勞生旅泊，住則隨緣，去則忘矣。何事華美，以累身心耶。　慈聖嘗為諸大僧設齋，每僧襯五金一疋，絹旃檀滿觔。師堅不肯赴，中貴人不得已，舁至院。師乃與眾同飡。萬曆壬寅初臘，師示微疾。侍御蕭公問之，師豎一指，即日午端坐而逝。荼毗，頂骨如熒實大，烟入地處，掘之皆得舍利。初張劉二內監，共捨住宅，為世剎海。師住此，食指嘗逾千。當是時，曹郎郭家珍、王玄謨、蕭丁泰、鮑應鰲、給舍段然，俱欽師道風，敬仰尊重。段公嘗詣師，師曰：居士坐久饑，當煑麪作供。段曰：久嚮老師，大麪特來，嘗嘗滋味。師厲聲曰：麪許你喫，却恐你吞吐不下。段為之吐舌。其門風高峻如此。京師人稱師三藏，師多應是其號也。

青牛傳

青牛者，不知何許人。幼祝髮為僧，居廬山最高處靜室中，晝課誦經呪，夜則繞山唱佛號。鶉納百結屐一鞴，重可十觔，以黃蠟白油鍊其齒如生鐵，鑄就靜室寒衲，夜聞屐聲，爭出松汁供之，呼曰青牛祖師。山有虎見其來，伏道傍以竢，如是者五十臘。壬寅春，胡給舍徵吉以使事道匡廬，愛其眉宇，凡五宿其室。癸卯，袁儀部石公訪之，但見紫松枝為窠，一水甕、一罏、一杖，游客好事者間施以綿線米粟，歲僅一二至，則露置地中，出游亦無門可扃，然亦無盜者。客至，不問姓名，不拜不供，了不知人間禮。公奇而叩之，亦無語，公為施一詩贊歎之。或問：師夜游遇虎，頗心動否？曰：人嘗思害虎，虎無害人意也。訊其修持，但云念佛。己酉之秋，入長安，神情骨相無一不生人敬仰者。未幾，事聞　慈聖，賜號曰青融，出金錢香果供之永安寺中。中貴學佛者將為請師號，紫衣師聞而惡之，避匿城東隆安寺。一夕，坐化去，　慈聖出帑金為之禮懺津送焉。

孤月傳

孤月，北人也，未詳邑里姓氏。因參訪南游，入終南山，望山勢逶迤崔巍，意山中必有至人。藏修曰：予得歸，依承密諦，幸矣。遂裹糧行，日行百餘里，所至皆披茅蹂石，足為之龜。行已十日，遇獵者臂鷹逐犬，一俠少年也。問月何以至此，答曰：尋師訪道，不遠千里，不識此中有高僧可依否？獵者曰：封豕、長蛇、熊羆、山鬼于焉窟宅，更何處覓僧耶？子休矣，前有石洞，白熊踞視眈眈，過者蔑不齏粉，子無以身試嘗也。月心弗恐，起謝獵者。又行數十里，日入細柳矣，見一巖洞，心頗怪之。甫窺洞，白熊蹲踞，目光如電，張目視月。月曰：萬里參尋，冀得人聞道，乃今遇子，子能相容乎？不然，亦天也。不怖而立。熊視良久，掉尾而去。月遂入洞宿。越三日，獵者至，驚曰：子真神人也，而脫熊口。月曰：幸免熊口，惟夜有二偉丈夫，黑幘長脛，立予傍，此何妖也。獵者曰：巖前古樹二章，曩伐為薪，毋乃是為祟乎。請夷其根。月不忍絕樹生理，止勿夷。是夜二丈夫不現，月慈悲動草木矣。獵者止月，月復謝去。至山椒，一僧結草廬栖焉。月色喜，行入草廬。僧瞑目趺坐，五體如山，望之如木雞。啟視其釜，釜皆青苔也。向僧膜拜三日，竟屹然不動。乃從僧腰後扶之，始覺。月曰：願受教。僧不應，第曰：汝於終南無緣。月苦求教，僧曰：逢山則止，遇廬則藏。語畢，以杖指歸路示月。月遙見一青鳥翩躚而來，若相導

者。行數日，踰終南而西，忽見城市，乃蜀中也。問蜀人，乃知有廬山在江西。從荊州棹而南，卓錫五老峰，越四十年而化。

孤月胃險探奇，冀有所見，而所見如此，能高抗熊口而無懾怖，下禮定僧而致哀懇，雖所聞未得要領，要亦不失為有道心人也。所恨定僧姓字，不落人間。嗟乎！彼固視人間如幻也，而焉用名？

寶藏禪師傳

能蠲，字寶藏，河間獻縣人，姓劉氏。少孤，詣戒壇，從大千震公圓具。有僧自伏牛山來請戒，語及煉魔事，蠲躍然，即裹足往。遇大川，授以念佛法門，遂立期修般舟三昧，歷七夏。既而過乾河溝，謁通天老人，留度歲。一夜，獨立至旦，如彈指頃，聞板聲，心意豁然，成一偈上通天。通天亟止之曰：毋為狂魔攝也。後聞楞嚴於徵心處有解，復入煉魔場九旬，行坐間得定相宛然。又走終南山，依孤月禪師四年。偶山行，得一小室，因留止，日掘山蔬充腹，極意禪寂。孤月勸令質於遺教，曰：毋為三昧酒所醉，此深坑不可墮也。隨入燕，參龍華通講主、崇壽秀法師，多所開解。乃嘆曰：孤月為我何深至也？雖然，躭寂非矣，趨喧寧是哉？古人得旨之後，巖邊樹下甘澹受辛，安有如今日易蓬戶於朱門、守淨檀為世業者？余有愧道德，未能垂手入廛，葢頭一把茆，終當塵不到耳。乃四眾堅請住廣濟寺，不獲已，許之。而繩衲糲餐，視山居不異也。報緣欲謝，先三日集諸方。至日，稱佛名三千聲，跏趺而逝。世壽八十四，坐夏七十三。塔於德勝門外觀音菴之後。

天長僧武林比丘傳

天長僧少鬻於徽賈，為塾舍爨兒。性愿慤，事同舍生如其主也。居嘗寂嘿，莫測所為。忽一日心開，言論有異，舍生皆駭之。或叩以經書疑義，隨意解釋，遠出情表。好事者因就之問佛法大旨，所對皆與冥合，實未嘗識一字也。問：何謂道？曰：一心為道。問：何謂心？曰：一人為心。或聞而徵之，曰：吾昨所言，止得一橛耳，可再申問。遂問：何謂道？曰：無心為道。問：何謂心？曰：無人為心。聞者益溟涬之，皆歎曰：我輩多時所謂使他肉身菩薩也。因請為剃染，辭曰：吾身有屬，那得自便耶？願給役如故。請以義錢贖之，曰：可。於是率錢歸於主人，乃辭去為僧。後不知所終。

武林比丘，未詳所出何地。游武林，嘗混跡市廛，好與文墨士游，飲啖靡擇，人謂之狂易。忽謂所游者曰：某日吾當行，幸來相送。

至期眾集，比丘出迎，客笑謔如故，曰：煩諸君雲來，何為以餞我？咸曰：誦佛號可乎？曰：勿煩爾，但為歌一篇好詩。問：何詩佳？曰：崔題黃鶴樓詩最佳也。客乃抗聲歌之，比丘拍掌而和，至第三句，拍未合而化。

月潭和尚傳

月潭和尚，不知何許人，自言姓楊氏。生於成化甲午，從師圓省，祝髮五臺山。嘉靖戊寅，始受具足戒，周行天下殆半，於蜀邛[(束*束)/火]山中最久。隆慶辛未，杖錫來江南，至婁東，王鳳洲、麟洲二先生築室以居之，凡七十年。以萬曆丙戌冬告寂，俗壽一百一十三，僧臘九十八。王銘其塔而敘之曰：和尚以不欺為本，以無住為宗，以彌陀為父，以釋迦為師，以淨土為歸地，以無為為法事。不談禪，不竪義，不沾講席。無寒而已，不備三衣；無饑而已，不強中食。既得疾，水飲者五日，絕水者二日。至夜分，乃呼浴。浴畢，使僧雛誦無量壽佛經，傾聽既終，奄然而化。噫！果如所云，雖欲莫謂之高僧，不可得也。故次王語以備傳。

五日頭陀傳(附定林)

五日。頭陀者，為僧僅五而亡，事跡頗異。南海比丘巢林文公為之記曰：頭陀姓徐氏，諱性容，某縣人。生而簡默淳厚，無他行能，每有青山白雲之想。家貧無以自給，總角依陸司空為童子，見沙門輒致敬，司空獨異之，人莫識者。今年春幾月，染嘔血病，口氣甞臭。謝司空，寄跡報本塔院，從諸耆宿修淨業，即孱弱難支，念佛不輟。或謂：病亟何自苦如此？曰：生死事大，無甞迅速。而病益沉綿。一日，願禮僧伽求薙度，被袈裟端坐五晝夜，水漿不入口。有弟侍左右，問：欲何食？曰：欲得果食。弟以果進，噉青梅四，而謝其弟曰：吾今日歸矣，爾善事二親，若古之某某者。其婦惑於巫言，曰：歸太早耶？尚須三日。曰：去住繇我，繇巫言乎？婦人安有不祥之言哉！一日，緇素聞頭陀狀，爭先問道，但曰：戒殺，專持佛號而已。其口氣所觸，有花草香。言畢入龕，結金剛印，敷坐而化。其母摩頂至足，遍身皆冷，獨頂熱，兩足底似水墨雲霞色。司空為眾倡作禮，一眾皆拜，閉龕至某所。先是，霪雨為災，是日雨甚，俄而開霽。將舉火焚，而龕門忽開，頭陀屹然如故，從火燄若鎔金而盡，遂塔於小瀛洲。是夜，里中人素持齊者，咸夢頭陀示以戒殺念佛，如生時語，何其異歟！距生於嘉靖戊午，死於萬曆丁亥，閱世三十年，為僧僅五日。馮司成夢禎贊曰：金剛般若有

云：以今世人輕賤故，先世罪業即為消滅。而況聖賢出沒於生死海中，不可以跡計而情量。五日非速，萬劫非長，放刀獻珠，無轉變相。爾等眾生，其亟念佛戒殺，勉遵五日頭陀之教，以相見於極樂之鄉。

定林者，當時所謂周安者是也。自幼不茹葷血，又不娶，日隨周生赴講學會場，執巾履之任，供茶設饌，時時竊聽。或獨立簷端，或拱身柱側，不欹不倚，不退不倦。周生病故，楊道南，東南名士，終歲讀書破寺中。周安復以事周生者事道南，行止一如周生。時李翰峰、李如真、焦弱侯諸公無不歎羨信愛。李卓吾入京，二李謂之曰：周安知學，子欲學，幸無下視周安也。未幾，道南又死，周安因白弱侯：吾欲為僧，夫吾迄歲山寺只多此數莖髮耳，不剃何為？弱侯無以應，遂約卓吾、管東溟諸公送周安於雲松禪師處，披剃為弟子，改法名曰定林。弱侯又於館側別為菴院，命卓吾書定林菴三字為匾以奉之。定林菴居未久，即舍去牛首，創大華嚴閣。閣成，又舍去之楚天中山，遂化塔骨於山中焉。伯時隱此山時，特置山居一所，度一僧，使專守其塔。弱侯思定林不已，命卓吾作定林菴記，立石以志不忘云。

明河曰：五日頭陀與定林，皆以卑賤出家，其一段卓然自立之風，自不落皮相，故致司空膜拜，羣公傾倒。道之所在，貴賤可忘耳。今有出家，反恃族姓，且昂然視同輩，頭陀、定林見之，不呼奴子幸矣，尚敢望人尊敬哉。罪云拜優波，地為之震動者，我山摧，慢山倒耳。法門下衰，人不尊道至此，不無三歎。

玉芝聚公傳

法聚，字月泉，嘉禾富氏子。始去俗，從師於海鹽資聖寺，矢志參學。初見吉菴法舟，二宿未甚啟發。聞王陽明倡良知之指於稽山，同董從吾往謁之，言相契。陽明答以詩，然猶未脫然也。後於夢居禪師一掌下洞徹源底，即入武康天池山搆精舍，顏曰玉芝。二十餘年說法其中，繇是諸方稱玉芝和尚。唐一菴、王龍溪諸公嘗往來山中，證會儒釋大同之秘。師其為人也，峻結圓轉，舉止瀟然。王公貴人見其人，至不敢屈。庸夫豎子一聞其教，輒興起自愧，反其所為。曲儒小士多詆釋，遇師與立談，顧趨而事之，捨所學而從彼。其為文也，無短長易難，皆據案落筆，應手而成，奧旨猜辭，一時而徹。或以此詆之，謂師苦於文而疎於道。文如此，未嘗苦也。疎於道，又可信乎？師生於弘治壬子，示寂於嘉靖癸亥，春秋七十有二。立塔藏骨於本山。少司馬蔡公汝楠與師有支許之契，為銘曰：聲之為詩，齊之為儒。詩其無上呪耶？儒其無上法耶？

圓魁傳

圓魁，應天溧陽人，袁應魁也。有妻子兄弟，田宅頗饒。一日，棄之出游，至鴈宕靈巖谷，遂投師落髮，更名圓魁。然不甚禮誦解，嘗掩室靜坐，手甲長二寸餘，冬夏一衲，無增減。萬曆丙戌，四明戴祭酒洵至露巖，與語，魁默默，似無知者。明忽造戴，謀建寺。又明年，寺成，且曰：有佛無經，佛法何明？凡愚何覺？吾將造京師，請藏經歸寺，以畢吾志。未行，乃留寓塔亭山，實戴留之也。戴日嘵嘵佛法，深開示魁，魁唯嘿然而已。魁有日席地仰天，戴曰：雲行鳥飛，佛體也。魁笑，從容曰：自古只有僧為儒說法，今公反以儒為僧說法，亦異事。良久，忽起，附戴耳，自指其鼻尖，低聲曰：我雖不解文義，然嘗炤管主人公，時刻不忘者二十餘年矣。戴異之，前席欲與深言，竟無語。次年，始北上，至京，憩錫玄真觀，即坐化焉。其化日，如嘗時，但獨語曰：印藏經自有時，今亦已矣。遂瞑目，猶謂其晏坐，不知已化也。化之日，面色微青，明日，轉紅潤如生，七日而鬚髮漸長。都人瞻禮紛沓，觀主懼多事，陳於禮部，請從茶毗。宗伯王公具龕，薪火之烟皆西向，時壬辰歲二月二日也，年五十六。遺一偈蓐間曰：自古原無死，無死亦無生。是夢還非夢，亘古又亘今。其徒明海負其骨南歸。戴聞之，歎曰：退之之大顛，示以形骸可外；子瞻之了元，使知性命所歸。吾是以深信魁之以覺，覺吾夢也；又深媿吾之方夢，夢未覺也。遂為銘其塔。

圓果傳

圓果上人，號香林，京口丁氏子。厭俗出家，勤讀誦，於圓覺幻滅滅，故非幻不滅處有省。自是參方，機鋒穎捷。年三十四，游武林，日行分衛，夜宿仙林寺，檐廡衣不掩形。時嚴冬，或獻新衣美食，却不御，人奇之，致供日繁。師遁至北高峰絕頂，假一席地，縛草為團瓢，冥寂其中，不出營食，主僧以時閔而給焉。一坐六載，每風雨晦冥，猛虎毒蛇蹲繞左右，師不為動。其後冬雪浹辰，平地積至丈許，陟者跬步壓覆，隤然而返。主僧曰：果公縱學僵臥袁安，不能作啖氈蘇子，凍餒既久，恐無生理。俄而城中素心道眾不期而會於靈隱者三十餘曹，相勞苦，各述所夢相同，謂見神人執刀厲聲告曰：北高峰古佛困雪中，盍往視之？陳敘如出一口，曰：事急矣。即相率打雪披寒而上，叩團瓢，見師趺坐，恬然無憊容。眾獻供，師作唄受之，相與繞視，不忍捨去。師曰：諸君休矣，晡時恐為虎驚，毋過念貧道。乃送之下山而返。一日至湖上，偶見一

長僧繇六橋度嶺而北，師覺其有異，尾之至黃龍祠，因忽不見。仰視林樾清楚，愛之，遂憩焉如仙林。時適有樵牧數輩，戲拾瓦礫累塔礬石間，忽罅中閃爍有光，微露石稜，去礫而頂相現。旋得滿月，容游人以畚鍤助之，須臾周身盡露。又得斷碑讀之，始知文公所鏤像也，乃霣泣下拜曰：圓果與和尚同出南岳，不意顯示幻身，敢不捐軀為報。繇是山靈之一新，清規之再整，師之力也。汪開府伯玉覲師於黃龍，戲問曰：公年幾何？曰：八十有五。又問：到家乎？曰：苦海孤航，兩不着岸。汪聞聳然增敬。師素貫禪律，凝神冥寂，每清晨背誦金剛經一卷，過午不食檀施，悉營福業。遇遺骼輒收掩之，積如漏澤者數處。凡開示四眾，切近簡要，使聞者生信，恍然自得於語言文字之外也。萬曆元年癸酉四月示寂，年九十矣，塔於石像左脊。
補續高僧傳卷第二十六(終)

No. 1524-E 補續高僧傳跋

補續高僧傳者，道開扃公成其師未成之書也。其師華山河公，號汰如。貫通內外之典，領袖龍象之林。念歷代高僧傳搜討未該，事跡湮沒，擔囊負笈，遍游山岳。剔荒碑於蘚逕，洗殘碣於松巖。嘉言懿矩，會萃良多。因補前人之所未備，續前人之所未完。紙皮墨骨，未酬宿世之緣；獅吼潮音，驟示雙林之疾。囑付扃公，補綴成編。扃公以鶖子之多聞，兼茂先之博物。既銜師命，遂畢前功。捧瓊函以示余，翻貝葉而眩目。余也踴躍讚歎，得未曾有。亟鳩剞劂之工，遂付棗梨之刻。使湧幢現塔，不墮荒榛；寶炬華燈，長然慧命。石門文字之禪，淨土虛玄之體，相需而著，用垂千古。庶蓮花峰下，師徒之志昭然；教海藏中，今昔之踪宛左。
隱湖毛晉謹識

No. 1524-F

嗟乎！吾先高松，弱冠未迨，蚤事參請，知命甫踰，旋示泥洹，屈指流光，僅浮生之三十耳。電光駒隙，壽量幾何？迺講論疏解，著述觀心，繇因地至於果，覺孜孜矻矻，不知作幾許事業，自非願力宏高，載來示現，其孰能與于此？即斯僧傳一書之成也，年未強仕，慨然以僧史有闕為心，遂南走閩越，北陟燕臺，若雁宕、石梁、匡廬、衡岳，絕壑窮嵓，荒林廢剎，碑版所在，蒐討忘疲，摹勒抄寫，彙集成編，而後竭思覃精，筆削成傳。蓋僧史者，左史記事，右史記言，如俗之史書也。凡所集者，不越言之與事，自宋文

宣王記室王簡栖所集百卷，又會稽嘉祥皎法師所集梁高僧傳十三卷，唐南山律師所集續高僧傳□卷，又贊寧國師所集有宋高僧傳□卷，降斯已還，宋明相望，以六百餘禩之遼夐，邈然罕聞，先師之作，其可緩哉？第是書也，無既不既，無成不成，適是而止，為全部矣。補摭捃拾，若有所遺，在先師則曉夜皇皇，尚以未備為憾焉。師門墻既廣，桃李成蹊，翹楚僧英，不無其類，不肖以椎魯無文，確懷固守，當紛紛轉徙之時，予惟脚跟牢跕，故蒙先師嘉愍厥志，別貽青盼，山齋寂閒，手授淨瓶，摩頂至三，記莂亦再，曰轉相傳授，流注不絕，儼如黃梅半夜，信衣初付，非任力鬬智所可力攘者也。其次不肖住山，則曰不獨山門有幸，實喜法脉得人，詩篇志喜，啟札相延，手蹟猶存，墨痕未燥，此闔郡護法所共同心，不能偏廢者也。至若拈華微笑，末後機緣，則簡端六字，擲筆神遊，曰高僧傳托道開是也。若不肖果有一念參商，其能蒙始終護念如此乎？孰謂□寂之後，異議紛然，變端遽起，所以退讓名山，躬先剞劂，負書行耳，遑及戈矛。扃抱書之白門，饑荒兩值，變亂相仍，海宇更張，人心鼎沸，遂不能卒業殺青，徬徨無措，歸而謀諸隱湖居士，樂成先志，助襄厥功，始克告竣。其艱難困苦之狀，未易以一言遍告也，幸有濟上平章臨安司馬為之弁序。此二公者，表表人杰，殉難捐軀，足徵先師德業所致，黼黻典彝，並垂不朽。於戲！名山，師一時應迹之區也，使師而有年，今且敷玄豎妙於此，非師之千古也。即予膺先師之命，辛勤拮据，尚居此山，亦未為報先師也。惟此數編，廼師之千古，今幸不負所囑，得壽諸梓，實所以報先師於千古也。先師以寸管發揚六百年來之碩德耆英，其功於法門不淺，扃以寸心報師三十年來之苦辛，實不敢負遺命而已，敢謂有功于先師哉？至若山之住與不住，命之遵與不遵，予且付之一笑，常寂光中，尚肯攢眉蹙頞耶？所願祖祖相傳，燈燈相照，不冷風規，常存模範，師念無違，扃心曷已，他何計哉？因筆偶書，非敢揚飛塵以眯觀者之目也。彊圉大淵獻之歲重陽日，嗣法弟子自扃。和南謹跋

No. 1524-G 補續高僧傳跋

自佛法東漸，名僧間出，其宗風道行，神足辨才，莫不彪炳一時，輝鑑宇內。若無紀述，曷詔後來？是以代有作者，為之立傳，列以十科。綜其行實，自中唐五季，迄宋元入　大明，歷千穰。其間神龍繡虎，闡教揚宗，而傳持法海者，不讓前人。乃徒寄傳聞，闕乎筆載。于是華山河公起而憂之，自墮僧數，即以續傳高僧為任。思欲該悉遺踪，莫如取信於金石。乃不憚千里雲山，單瓢椰栗，每逢

殘碑斷碣，臥煙委莽者，必躬自刷摸，考核遺事，窮搜幽討。載罹寒暑，沐雨櫛風，顧所不惜。噫！其用心亦苦矣。積有年歲，彙而成帙。因於禪觀之暇，次序編年，臚陳行略，人各為傳，以紀化事。凡數易稿而成，共得若干人，合為若干卷，名之曰補續高僧傳。用傳將燼之明鐙，以續未斷之慧命，厥功[樊-大+女]焉。乃功未告成，而化緣已畢，思委托得人，而其難其慎。金河顧命東日之照，實注於上座扃公，乃出全編，委其卒業，香爐如意之贈，方此更有加焉。扃公諾此遺言，仔肩鉅任，冀挹檀波，用填願海。不意時值迍邅，兵荒洊至，迄皆未定之驚氪，徒重繭四方，毫無克濟，憂心如焚，懼無以報命，因賫稿至虞山，就汲古主人謀焉。子晉本因深遠，乘願現身，契合夙緣，慨然心許。余眚在座，亦隨喜贊成，即付梓人，尅期奏績。是舉也，歷朝龍象，藉以出興，非河公莫傳其神，非扃公孰繼其志，而非子晉疇與告其成耶？是三人也，應響佛事，迭為主賓，功成鼎足，藏海流通，信足不歿矣。予因是役，得預流校訂，遹觀厥成，大喜徧身，莫可云喻。遂于卷末，聊識緣起，以記歲月云爾。

重光作噩夏孟佛日退山弟子馬弘道謹譔

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6